

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 598 集

さんみやくち

山脈地遺跡発掘調査報告書

一般県道釜石住田線金ノ倉地区道路改良事業関連遺跡発掘調査

2012

岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター

(公財)岩手県文化振興事業団

山脈地遺跡発掘調査報告書

一般県道釜石住田線金ノ倉地区道路改良事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センターが整備を進めている一般県道釜石住田線金ノ倉地区道路改良事業に関連して平成22年度に実施した住田町山脈地遺跡の調査成果をまとめたものです。

本調査では縄文時代早期から前期、及び晩期の遺物、遺構が多数検出されました。中でも、縄文時代早期の貝殻・沈線文土器は、岩手県内でも資料が少ない時期のものであり、当該期の歴史を考える上で、貴重な資料を提供することができました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター、住田町教育委員会をはじめとする関係各位に対して、深く感謝の意を表します。

平成24年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 池田克典

例 言

- 1 本報告書は、岩手県気仙郡住田町上有住字山脈地7-7ほかに所在する山脈地遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 本報告書掲載の遺跡の調査は、一般県道釜石住田線金ノ倉地区道路改良事業に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センターと岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（当時。平成23年4月1日より公益財団法人）が委託を受け、受諾事業として実施した。
- 3 本遺跡の岩手県遺跡台帳の遺跡番号はMF 96 - 2116、遺跡略号はSMT - 10である。
- 4 野外調査面積及び調査期間、室内整理期間、調査担当者は以下の通りである。

| | | |
|------|-------|-----------------------|
| 野外調査 | 調査期間 | 平成22年7月1日～11月15日 |
| | 調査面積 | 2,827㎡ |
| | 調査担当者 | 羽柴直人・福島正和 |
| 室内整理 | 整理期間 | 平成22年11月1日～平成23年3月31日 |
| | 整理担当者 | 羽柴直人・福島正和 |
| | 整理期間 | 平成23年6月20日～平成23年8月19日 |
| | 整理担当者 | 福島正和 |
- 5 各種鑑定・分析等は以下の機関に委託した。

| | |
|-----------|----------------|
| 石質鑑定 | 花崗岩研究会 |
| 航空写真撮影 | 東邦航空株式会社 |
| 放射性炭素年代測定 | 株式会社 加速器分析研究所 |
| 火山灰分析 | 株式会社 火山灰考古学研究所 |
| 石器実測・トレース | 株式会社 アルカ |
| 基準点測量 | 釜石測量設計株式会社 |
- 6 本報告書の執筆は第I章1節を沿岸広域振興局土木部大船渡土木センターが、それ以外を羽柴と福島が各担当部分を分担して執筆した。
- 7 発掘調査及び報告書作成にあたり以下の方々にご教示とご協力をいただいた（順不同、敬称略）。
名久井文明（一芦舎）、小向裕明・黒田篤史・澤田恭平・村田匠（遠野市教育委員会）、熊谷賢（陸前高田市海と貝のミュージアム）、杉野森淳子（青森県埋蔵文化財センター）
- 8 本遺跡から出土した遺物及び調査に関わる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 9 本報告書発行以前に現地説明会資料、平成22年度発掘調査概報等で調査成果を公表したが、本報告書を正とする。

目 次

I 経緯と経過

| | |
|--------------|---|
| 1 調査経緯 | 1 |
| 2 調査経過 | 1 |

II 遺跡の位置と環境

| | |
|------------------|---|
| 1 遺跡の位置と立地 | 3 |
| 2 周辺の遺跡 | 3 |

III 調査方法

| | |
|-----------------|----|
| 1 発掘調査の方法 | 9 |
| 2 整理作業の方法 | 9 |
| 3 記載方法 | 10 |

IV 調査成果

| | |
|-------------------|----|
| 1 調査概要と基本層序 | 11 |
| 2 検出遺構 | 13 |
| 3 出土遺物 | 25 |

V 科学的分析と測定

| | |
|---------------|-----|
| 1 目的と方法 | 191 |
| 2 火山灰分析 | 192 |
| 3 年代測定 | 196 |
| 4 意義と課題 | 200 |

VI 総 括

| | |
|---------------------|-----|
| 1 縄文時代の遺構 | 203 |
| 2 縄文時代の遺物 | |
| (1) 貝殻・沈線文土器 | 203 |
| (2) 縄文時代前期の土器 | 208 |

| | |
|---------------|-----|
| 3 ま と め | 208 |
| 報告書抄録 | 327 |

図版目次

| | | | |
|--------------------------|----|--------------------------|----|
| 第1図 遺跡の位置..... | 4 | 第40図 土器 (314 ~ 323)..... | 56 |
| 第2図 遺跡範囲と調査区位置..... | 5 | 第41図 土器 (324 ~ 334)..... | 57 |
| 第3図 周辺の地形..... | 6 | 第42図 土器 (335 ~ 341)..... | 58 |
| 第4図 周辺の遺跡..... | 8 | 第43図 土器 (342 ~ 348)..... | 59 |
| 第5図 グリッド..... | 10 | 第44図 土器 (349 ~ 365)..... | 60 |
| 第6図 遺構配置・基本層序..... | 12 | 第45図 土器 (366 ~ 377)..... | 61 |
| 第7図 NR 01..... | 14 | 第46図 土器 (378 ~ 388)..... | 62 |
| 第8図 S I 01..... | 16 | 第47図 土器 (389 ~ 395)..... | 63 |
| 第9図 S I 01 断面・付属遺構..... | 17 | 第48図 土器 (396 ~ 401)..... | 64 |
| 第10図 S I 02..... | 18 | 第49図 土器 (402 ~ 408)..... | 65 |
| 第11図 S I 03..... | 20 | 第50図 土器 (409 ~ 416)..... | 66 |
| 第12図 S I 04..... | 20 | 第51図 土器 (417 ~ 427)..... | 67 |
| 第13図 S K 01 ~ 03・05..... | 22 | 第52図 土器 (428・429)..... | 68 |
| 第14図 S K 04・06 ~ 08..... | 23 | 第53図 土器 (430 ~ 433)..... | 69 |
| 第15図 土器 (1 ~ 5)..... | 29 | 第54図 土器 (434・435)..... | 70 |
| 第16図 土器 (6 ~ 9)..... | 30 | 第55図 土器 (436 ~ 438)..... | 71 |
| 第17図 土器 (10 ~ 16)..... | 31 | 第56図 土器 (439 ~ 442)..... | 72 |
| 第18図 土器 (17 ~ 24)..... | 32 | 第57図 土器 (443 ~ 447)..... | 73 |
| 第19図 土器 (25 ~ 30)..... | 33 | 第58図 土器 (448 ~ 450)..... | 74 |
| 第20図 土器 (31 ~ 34)..... | 34 | 第59図 土器 (451・452)..... | 75 |
| 第21図 土器 (35 ~ 39)..... | 35 | 第60図 土器 (453 ~ 455)..... | 76 |
| 第22図 土器 (40 ~ 42)..... | 36 | 第61図 土器 (456)..... | 77 |
| 第23図 土器 (43 ~ 45)..... | 37 | 第62図 土器 (457 ~ 460)..... | 78 |
| 第24図 土器 (46 ~ 51)..... | 38 | 第63図 土器 (461 ~ 464)..... | 79 |
| 第25図 土器 (52 ~ 57)..... | 39 | 第64図 土器 (465 ~ 468)..... | 80 |
| 第26図 土器 (58 ~ 63)..... | 40 | 第65図 土器 (469 ~ 472)..... | 81 |
| 第27図 土器 (64 ~ 71)..... | 41 | 第66図 土器 (473 ~ 476)..... | 82 |
| 第28図 土器 (72 ~ 79)..... | 42 | 第67図 土器 (477 ~ 480)..... | 83 |
| 第29図 土器 (80 ~ 93)..... | 43 | 第68図 土器 (481 ~ 484)..... | 84 |
| 第30図 土器 (94 ~ 121)..... | 44 | 第69図 土器 (485 ~ 488)..... | 85 |
| 第31図 土器 (122 ~ 149)..... | 45 | 第70図 土器 (489 ~ 492)..... | 86 |
| 第32図 土器 (150 ~ 171)..... | 46 | 第71図 土器 (493 ~ 495)..... | 87 |
| 第33図 土器 (172 ~ 200)..... | 47 | 第72図 土器 (496 ~ 500)..... | 88 |
| 第34図 土器 (201 ~ 238)..... | 48 | 第73図 土器 (501 ~ 510)..... | 89 |
| 第35図 土器 (239 ~ 272)..... | 49 | 第74図 土器 (511 ~ 524)..... | 90 |
| 第36図 土器 (273 ~ 287)..... | 52 | 第75図 土器 (525 ~ 535)..... | 91 |
| 第37図 土器 (288 ~ 296)..... | 53 | 第76図 土器 (536 ~ 538)..... | 92 |
| 第38図 土器 (297 ~ 305)..... | 54 | 第77図 土器 (539)..... | 93 |
| 第39図 土器 (306 ~ 313)..... | 55 | 第78図 石器 (540 ~ 587)..... | 94 |

| | | | | | |
|-------|---|-----|-------|---|-----|
| 第79図 | 石器 (588 ~ 632)..... | 95 | 第114図 | 出土地点別土器 (5 Q · 5 S · 6 J · 6 M · 6 N)..... | 130 |
| 第80図 | 石器 (633 ~ 674)..... | 96 | 第115図 | 出土地点別土器 (6 O · 6 P · 7 J)..... | 131 |
| 第81図 | 石器 (675 ~ 711)..... | 97 | 第116図 | 出土地点別土器 (7 K · 7 L)..... | 132 |
| 第82図 | 石器 (712 ~ 730)..... | 98 | 第117図 | 出土地点別土器 (7 M · 7 N)..... | 133 |
| 第83図 | 石器 (731 ~ 751)..... | 99 | 第118図 | 出土地点別土器 (7 P · 8 G · 8 I)..... | 134 |
| 第84図 | 石器 (752 ~ 767)..... | 100 | 第119図 | 出土地点別土器 (8 J)..... | 135 |
| 第85図 | 石器 (768 ~ 788)..... | 101 | 第120図 | 出土地点別土器 (8 K)..... | 136 |
| 第86図 | 石器 (789 ~ 804)..... | 102 | 第121図 | 出土地点別土器 (8 L · 8 M · 9 C)..... | 137 |
| 第87図 | 石器 (805 ~ 821)..... | 103 | 第122図 | 出土地点別土器 (9 F · 9 G)..... | 138 |
| 第88図 | 石器 (822 ~ 834)..... | 104 | 第123図 | 出土地点別土器 (9 H · 9 I)..... | 139 |
| 第89図 | 石器 (835 ~ 848)..... | 105 | 第124図 | 出土地点別土器 (9 J · 9 K)..... | 140 |
| 第90図 | 石器 (849 ~ 857)..... | 106 | 第125図 | 出土地点別土器 (10 C · 10 F)..... | 141 |
| 第91図 | 石器 (858 ~ 867)..... | 107 | 第126図 | 出土地点別土器 (11 F)..... | 142 |
| 第92図 | 石器 (868 ~ 871) · 土製品 (880 ~ 883)..... | 108 | 第127図 | 出土地点別土器 (11 G · トレンチ 1 ~ 3 · 5)..... | 143 |
| 第93図 | 石器 (872) · 土製品 (884 ~ 888)..... | 109 | 第128図 | 出土地点別石器 · 石製品 (S I 01)..... | 144 |
| 第94図 | 石製品 (873 ~ 879)..... | 110 | 第129図 | 出土地点別石器 · 石製品 (S I 01 ~ 04 · S K 05)..... | 145 |
| 第95図 | 石器 (889 ~ 912)..... | 111 | 第130図 | 出土地点別石器 · 石製品 · 土製品 (2 T ~ 4 T)..... | 146 |
| 第96図 | 石器 (913 ~ 936)..... | 112 | 第131図 | 出土地点別石器 · 石製品 · 土製品 (5 F ~ 7 M)..... | 147 |
| 第97図 | 石器 (937 ~ 956)..... | 113 | 第132図 | 出土地点別石器 · 石製品 · 土製品 (7 N ~ 8 K)..... | 148 |
| 第98図 | 石器 (957 ~ 977)..... | 114 | 第133図 | 出土地点別石器 · 石製品 · 土製品 (8 L ~ 9 K)..... | 149 |
| 第99図 | 石器 (978 ~ 997)..... | 115 | 第134図 | 出土地点別石器 · 石製品 · 土製品 (9 K ~ その他)..... | 150 |
| 第100図 | 石器 (998 ~ 1017)..... | 116 | 第135図 | 山脈地遺跡のテフラ組成ダイヤグラム..... | 195 |
| 第101図 | 石器 (1018 ~ 1033)..... | 117 | 第136図 | 暦年較正年代グラフ..... | 199 |
| 第102図 | 石器 (1034 ~ 1049)..... | 118 | 第137図 | 火山灰試料採取状況..... | 200 |
| 第103図 | 石器 (1050 ~ 1066)..... | 119 | 第138図 | A M S 測定試料..... | 202 |
| 第104図 | 石器 (1067 ~ 1084)..... | 120 | 第139図 | 貝殻文 · 沈線文土器分類図 (括れ無し)..... | 204 |
| 第105図 | 石器 (1085 ~ 1103)..... | 121 | 第140図 | 貝殻文 · 沈線文土器分類図 (括れ有り)..... | 205 |
| 第106図 | 石器 (1104 ~ 1123)..... | 122 | 第141図 | 前期土器分類図 (1)..... | 206 |
| 第107図 | 石器 (1124 ~ 1134)..... | 123 | 第142図 | 前期土器分類図 (2)..... | 207 |
| 第108図 | 出土地点別土器 (2 T ~ 3 S)..... | 124 | | | |
| 第109図 | 出土地点別土器 (2 U)..... | 125 | | | |
| 第110図 | 出土地点別土器 (2 V)..... | 126 | | | |
| 第111図 | 出土地点別土器 (3 T)..... | 127 | | | |
| 第112図 | 出土地点別土器 (3 U · 3 V · 4 Q)..... | 128 | | | |
| 第113図 | 出土地点別土器 (4 R · 4 S · 5 J · 5 O)..... | 129 | | | |

表 目 次

| | | | | | |
|-----|-----------------------|----|-----|------------------------|-----|
| 第1表 | 山脈地遺跡周辺の遺跡 (調査済)..... | 3 | 第4表 | 掲載遺物一覧 (土器)..... | 151 |
| 第2表 | 周辺の遺跡一覧..... | 7 | 第5表 | 掲載遺物一覧 (石器 · 石製品)..... | 179 |
| 第3表 | 基本層序..... | 11 | 第6表 | 掲載遺物一覧 (土製品)..... | 190 |

写真図版目次

| | | | |
|--------|---|--------|-----------------------------|
| 写真図版1 | 航空写真(遠景)……………211 | 写真図版36 | 土器(33・36)……………246 |
| 写真図版2 | 航空写真(近景)……………212 | 写真図版37 | 土器(35・37・39)……………247 |
| 写真図版3 | 調査前現況……………213 | 写真図版38 | 土器(38・40・41)……………248 |
| 写真図版4 | 縄文時代早期自然流路(1)……………214 | 写真図版39 | 土器(42～44)……………249 |
| 写真図版5 | 縄文時代早期自然流路(2)……………215 | 写真図版40 | 土器(45～49)……………250 |
| 写真図版6 | 調査区西端……………216 | 写真図版41 | 土器(50～53)……………251 |
| 写真図版7 | 調査区西側基本層序断面……………217 | 写真図版42 | 土器(54～58)……………252 |
| 写真図版8 | 調査区中央基本層序断面(1)……………218 | 写真図版43 | 土器(59～65)……………253 |
| 写真図版9 | 調査区中央基本層序断面(2)……………219 | 写真図版44 | 土器(66～75)……………254 |
| 写真図版10 | 基本層序断面(IV層以下)……………220 | 写真図版45 | 土器(76～89)……………255 |
| 写真図版11 | 縄文時代早期遺物出土状況(F・G)……………221 | 写真図版46 | 土器(90～119)……………256 |
| 写真図版12 | 縄文時代早期遺物出土状況(I・J)……………222 | 写真図版47 | 土器(120～153)……………257 |
| 写真図版13 | 縄文時代早期遺物出土状況(K～O)……………223 | 写真図版48 | 土器(154～177)……………258 |
| 写真図版14 | 縄文時代早期遺物出土状況(P～S)……………224 | 写真図版49 | 土器(178～211)……………259 |
| 写真図版15 | 縄文時代早期遺物出土状況(T～V)、 遺物検出作業(グリット3U)……………225 | 写真図版50 | 土器(212～242)……………260 |
| 写真図版16 | 縄文時代前期竪穴住居(S I 01) 全景……………226 | 写真図版51 | 土器(243～263)……………261 |
| 写真図版17 | 縄文時代前期竪穴住居(S I 01) 短軸断面……………227 | 写真図版52 | 土器(264～279)……………262 |
| 写真図版18 | 縄文時代前期竪穴住居(S I 01) 長軸・短軸断面……………228 | 写真図版53 | 土器(280～288)……………263 |
| 写真図版19 | 縄文時代前期竪穴住居(S I 01) 内部施設……………229 | 写真図版54 | 土器(289～298)……………264 |
| 写真図版20 | 縄文時代前期竪穴住居(S I 01) 埋土上層遺物出土状況……………230 | 写真図版55 | 土器(299～305)……………265 |
| 写真図版21 | 縄文時代前期竪穴住居(S I 02)……………231 | 写真図版56 | 土器(306～312・316～318)……………266 |
| 写真図版22 | 縄文時代前期竪穴住居(S I 03)……………232 | 写真図版57 | 土器(313～315・319～322)……………267 |
| 写真図版23 | 縄文時代晩期竪穴住居(S I 04)……………233 | 写真図版58 | 土器(323～333)……………268 |
| 写真図版24 | 縄文時代土坑(S K 01～03・05)……………234 | 写真図版59 | 土器(334～336)……………269 |
| 写真図版25 | 縄文時代土坑(S K 06・07)、 縄文時代晩期土壙(S K 04・08)……………235 | 写真図版60 | 土器(337～343)……………270 |
| 写真図版26 | 主要土器(貝殻・沈線文土器)……………236 | 写真図版61 | 土器(344～348)……………271 |
| 写真図版27 | 主要土器(縄文時代前期)……………237 | 写真図版62 | 土器(349～362)……………272 |
| 写真図版28 | 土器(1～4)……………238 | 写真図版63 | 土器(363～375)……………273 |
| 写真図版29 | 土器(4～6)……………239 | 写真図版64 | 土器(376～383)……………274 |
| 写真図版30 | 土器(7～10)……………240 | 写真図版65 | 土器(384～392)……………275 |
| 写真図版31 | 土器(11～16)……………241 | 写真図版66 | 土器(393～399)……………276 |
| 写真図版32 | 土器(17～22)……………242 | 写真図版67 | 土器(400～404)……………277 |
| 写真図版33 | 土器(23・25～29)……………243 | 写真図版68 | 土器(405～410)……………278 |
| 写真図版34 | 土器(24)……………244 | 写真図版69 | 土器(411～423)……………279 |
| 写真図版35 | 土器(30～32・34)……………245 | 写真図版70 | 土器(424～428)……………280 |
| | | 写真図版71 | 土器(429～434)……………281 |
| | | 写真図版72 | 土器(435～437)……………282 |
| | | 写真図版73 | 土器(438～441)……………283 |
| | | 写真図版74 | 土器(442～445)……………284 |
| | | 写真図版75 | 土器(446～450)……………285 |
| | | 写真図版76 | 土器(451～454・458)……………286 |
| | | 写真図版77 | 土器(455～457・459)……………287 |

| | | | | | |
|--------|---|-----|---------|-------------------------|-----|
| 写真図版78 | 土器 (460 ~ 463)..... | 288 | 写真図版97 | 石器 (773 ~ 799)..... | 307 |
| 写真図版79 | 土器 (464 ~ 467)..... | 289 | 写真図版98 | 石器 (800 ~ 821)..... | 308 |
| 写真図版80 | 土器 (468 ~ 471)..... | 290 | 写真図版99 | 石器 (822 ~ 838)..... | 309 |
| 写真図版81 | 土器 (472 ~ 476)..... | 291 | 写真図版100 | 石器 (839 ~ 851)..... | 310 |
| 写真図版82 | 土器 (477 ~ 480)..... | 292 | 写真図版101 | 石器 (852 ~ 861)..... | 311 |
| 写真図版83 | 土器 (481 ~ 484)..... | 293 | 写真図版102 | 石器 (862 ~ 868)..... | 312 |
| 写真図版84 | 土器 (485 ~ 488)..... | 294 | 写真図版103 | 石器 (869 ~ 872)..... | 313 |
| 写真図版85 | 土器 (489 ~ 492)..... | 295 | 写真図版104 | 石器・石製品 (873 ~ 879)..... | 314 |
| 写真図版86 | 土器 (493 ~ 496)..... | 296 | 写真図版105 | 石器 (889 ~ 915)..... | 315 |
| 写真図版87 | 土器 (497 ~ 501)..... | 297 | 写真図版106 | 石器 (916 ~ 941)..... | 316 |
| 写真図版88 | 土器 (502 ~ 517)..... | 298 | 写真図版107 | 石器 (942 ~ 963)..... | 317 |
| 写真図版89 | 土器 (518 ~ 526)..... | 299 | 写真図版108 | 石器 (964 ~ 985)..... | 318 |
| 写真図版90 | 土器 (527 ~ 535)..... | 300 | 写真図版109 | 石器 (986 ~ 1007)..... | 319 |
| 写真図版91 | 土器 (536 ~ 539)、 土製品 (880 ~ 888)..... | 301 | 写真図版110 | 石器 (1008 ~ 1026)..... | 320 |
| 写真図版92 | 石器 (540 ~ 605)..... | 302 | 写真図版111 | 石器 (1027 ~ 1143)..... | 321 |
| 写真図版93 | 石器 (606 ~ 664)..... | 303 | 写真図版112 | 石器 (1044 ~ 1063)..... | 322 |
| 写真図版94 | 石器 (665 ~ 718)..... | 304 | 写真図版113 | 石器 (1064 ~ 1084)..... | 323 |
| 写真図版95 | 石器 (719 ~ 749)..... | 305 | 写真図版114 | 石器 (1085 ~ 1106)..... | 324 |
| 写真図版96 | 石器 (750 ~ 772)..... | 306 | 写真図版115 | 石器 (1107 ~ 1128)..... | 325 |
| | | | 写真図版116 | 石器 (1129 ~ 1134)..... | 326 |

I 経緯と経過

1 調査経緯

山脈地遺跡は、「一般県道釜石住田線金ノ倉～山脈地地区道路改良事業」に伴い、その事業区域内に埋蔵文化財が存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

本地区は、住田町役場の北約 6.3 km に位置し、気仙川右岸沿いの狭小な平野部で標高は約 170 m 前後に立地する。

事業区間は幅員が狭い上、クランクとなっている箇所があるため、車両交通の走行速度低下を招いており、幹線道路としての機能が十分に確保されていないため、道路線形の改良、拡幅を行い、利便性の向上や道路交通の安全確保を図るために事業着手したものである。

当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、大船渡地方振興局土木部から平成 21 年 10 月 8 日付け大地土第 403 号「一般県道釜石住田線金ノ倉～山脈地地区道路改良事業実施計画における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成 21 年 11 月 12 日と 12 月 3 日に試掘調査を実施し、工事に着手するには当該遺跡の発掘調査が必要となる旨を、平成 21 年 12 月 22 日付け教生第 1171 号「一般県道釜石住田線金ノ倉～山脈地地区道路改良事業計画における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により回答がなされた。

この回答を受け、当土木部は平成 22 年 2 月 18 日付け大地土第 626 号「埋蔵文化財試掘調査結果による工法協議について」により、発掘調査による記録保存について協議を行った。

その結果を踏まえて当土木部は、岩手県教育委員会の調整を受け、平成 22 年 6 月 30 日付けで財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター)

2 調査経過

山脈地遺跡の発掘調査は、前節の通り岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター（以下、大船渡土木センター）との委託契約に基づき、岩手県教育委員会生涯学習文化課（以下、県教委生文課）による調整を経て、平成 22 年 7 月 1 日より（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）が実施した。

地元の住田町教育委員会より発掘現場に近い有住公民館の敷地の一部を借り受け、発掘調査事務所を設営し、7 月 1 日より調査に着手した。

発掘調査では当初の予想を上回る縄文時代前期の遺物が出土し、調査期間の延長を余儀なくされ、その上、より下層に縄文時代早期の遺物が多く含まれていることが明らかになり、さらなる調査期間の延長となった。その間、県教委生文課を交え、大船渡土木センターと協議を重ねた。

調査に際しては、平面直角座標に則った基準点の打設、調査区を上空から撮影する航空写真撮影などを外部業者へ委託し、それぞれ実施した。また、周辺が水田地帯のため、用水路の保護や確認を行い、調査区内およびその周辺に対して、近隣住人や作業従事者の安全を保つための安全対策も適宜実施した。

2 調査経過

10月には、大船渡土木センターと県教委生文課による終了確認が現地にて行われた。調査区南東端まで遺構が及んでいることから調査区外へも遺構および遺物が存在する可能性が想定され、調査区から連続する南東外区については、工事の際に県教委生文課の立会によって対処することとなった。また、調査終了後には、埋め戻し作業を行うことも確認された。

10月9日には、現地説明会を催し、広く一般への公開を行った。この現地説明会には、周辺住民を中心に、多数の参加があった。

11月15日にすべての作業を終え、調査現場を撤収した。その後、引き続き調査区の埋め戻し作業も行った。

整理作業は、平成22年11月1日より埋文センター内で行い、平成23年3月31日で平成22年度分の基礎的整理作業を終えた。この基礎的整理作業は、おもに遺物の水洗、土器接合、遺物の仕分け等が中心であった。

平成23年度分の整理作業は、当初4月から開始される予定であったが、年度末の3月11日に起きた震災の影響で契約の凍結により先送りされ、6月20日より本格的な整理作業を再開した。作業は、8月19日をもって終了した。この間、本書の執筆作業も行っている。

(福島)

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置と立地

山脈地遺跡は岩手県気仙郡住田町上有住字山脈7-7他に所在する。国土地理院発行2,5000分の1地形図「陸前八日町」の図幅に含まれ、北緯39度11分50秒、東経141度35分25秒に位置する。遺跡は住田町役場から北に約6.5kmに位置し、気仙川北岸の砂礫段丘に立地する。標高は168～169m、調査前は水田として土地利用がなされていた。遺跡の南西約200mには、気仙川とその支流の坂本川の合流点となっている。

住田町は昭和30年に世田米町、下有住村、上有住村の一町二カ村の合併により誕生した自治体である。遺跡の所在する字山脈地は、この中の旧上有住村に含まれる地域で、藩政時代には仙台藩上有住村に属していた。上有住村は、盛岡藩領からの通称「南部街道」(遠野—赤羽峠—上有住八日町)が、「高田」方面と「盛」方面へ分岐する地点に位置し、上有住の中心地「八日町」は街道の要衝に形成された宿場である。現在でもこの街道の分岐点は国道340号線と県道釜石住田線の分岐点に踏襲されているが、山脈地地区は、まさにこの街道の分岐点に位置している。

2 周辺の遺跡

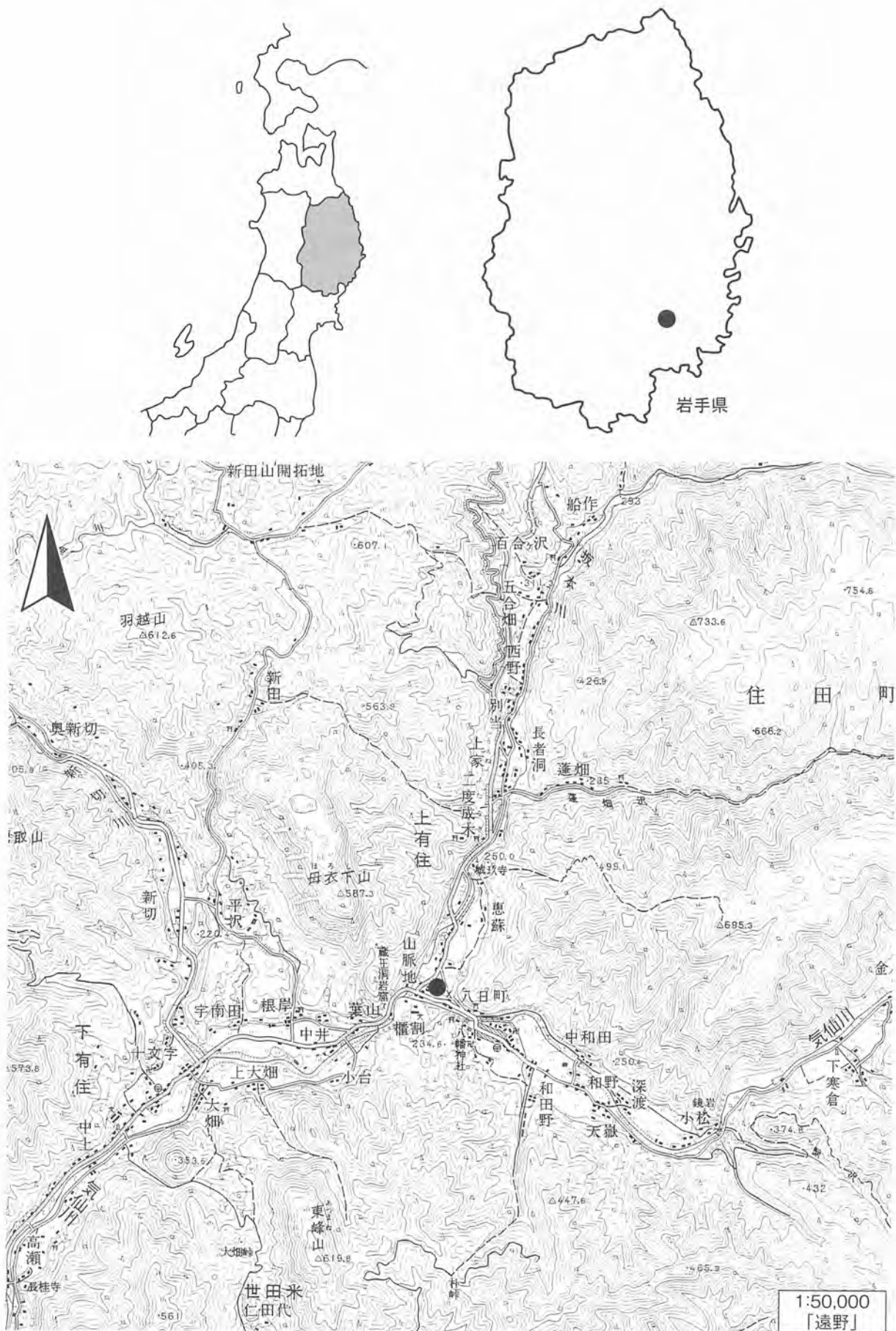
岩手県教育委員会遺跡情報システムによると住田町内には126カ所の遺跡が登録されている(平成21年3月現在)。この内、山脈地遺跡の所在する上有住地区には54カ所の遺跡が登録されている。この中で発掘調査がおこなわれ、報告がなされているのは以下の遺跡である。

第1表 山脈地遺跡周辺の遺跡(調査済)

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 調査年度 | 時代 | 報告書 |
|----|----------------|------|----------------|-----------------------------|--|
| 2 | 蛇王洞穴 (蔵王洞穴) | 字葉山 | 1922年 | 縄文時代早期人骨 獣骨 | 松本彦七郎1922「陸前国気仙郡蛇王洞窟の石器時代遺跡」『人類学雑誌』第42巻第2号 |
| | | | 1964年 | 縄文時代早期 | 芹沢長介・林謙作1967「6 岩手県蛇王洞窟」『日本の洞穴遺跡』平凡社 |
| 3 | 小松洞窟 | 字小松 | 1995～ 1999年 | 縄文時代早期前期～晩期 | 岩手県立博物館2000「気仙郡住田町小松洞窟発掘調査報告書」第16冊 |
| 4 | 中和田 | 字中和田 | 1999年 | 縄文時代早期末～前期前葉 後期前～中葉 弥生時代 | (財)岩手県文化振興事業団2001「中和田遺跡発掘調査報告書」第355集 |
| 5 | 小松Ⅱ | 字小松 | 2000年 | 縄文時代早期末葉～弥生時代 | (財)岩手県文化振興事業団2002「小松Ⅱ遺跡発掘調査報告書」第392集 |
| 6 | 小松Ⅰ | 字小松 | 2000～ 2003年 | 縄文時代早期中葉～前期前葉 縄文 後期～弥生時代 | (財)岩手県文化振興事業団2004「小松Ⅰ遺跡発掘調査報告書」第433集 |

これらの遺跡はいずれも気仙川の河岸に立地し、距離的にも近い位置関係にある。(山脈地遺跡から最遠の小松Ⅱ遺跡で約3km)。そして、いずれも山脈地遺跡と共通する時期の遺物が出土しており、相互の関係が指摘できる。

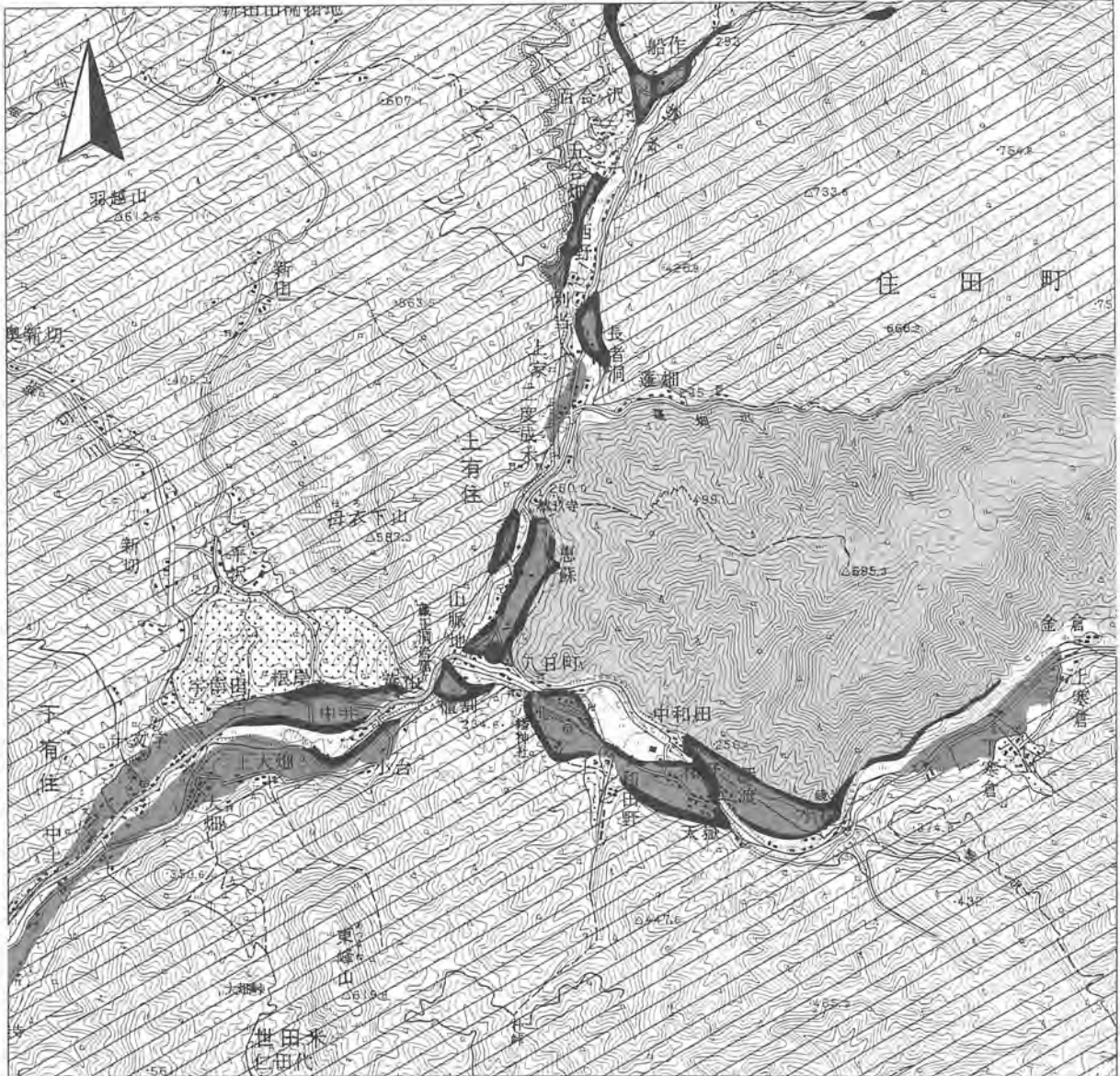
また、埋蔵文化財登録遺跡の他に、字二度成木(ふたなぎ)に、藩政時代の仙台藩の境目番所「二度成木番所」が所在した。境目番所は他領への物資や人の出入りを監視する施設で、「二度成木番所」は赤羽峠を往還の南部藩領への出入りを監視するものであった。元禄年間に原本が著わされたと推測される「気仙郡古記」では「二度成木番所」について以下のように記す。



第1図 遺跡の位置



第2図 遺跡範囲と調査区位置



第3図 周辺の地形

一、南部御境目御番所 六間二三間御役人二人九十日代り

梵字岩は字山脈地内の道路（現国道 340 号線）が八日町方面へカーブする付近の道路北西傍らに所在したものである。昭和 48 年に道路改修工事の際に取り除かれ、現在は住田町民俗資料館前に置かれている。立方体に近い形状の自然の岩塊で、梵字ア（胎藏界大日如来）が、正面中央にとその右上の 2 箇所刻まれ、中央の梵字の下に「嘉暦元年大才十二月」と刻まれている。嘉暦元年は西暦 1326 年である。相原友直が宝暦十一年（1761 年）に著した気仙郡の地誌「気仙風土草」には以下のように記される。

梵字岩 右の処（熊野神社）より七八町川上の路傍に岩あり 梵字を七箇所彫付たり 嘉暦元年と彫付ありしよし 苔むして今年号はみえずなりぬ 俗誤て義家の彫付しと云う

また、「8 熊野山常光寺」は中世の寺院跡ともされる遺跡であるが、その周辺には中世の板碑、または板碑類似した形状の石が分布している。これらについては、「梵字岩」も含め、別稿（羽柴直人 2011「住田町の板碑」『岩手考古』第 22 号岩手考古学会）にまとめている。

（羽柴）

第 2 表 周辺の遺跡一覧

| No. | 遺跡コード | 遺跡名 | よみがな | 種別 | 時代 | 遺構・遺物 | 所在地 |
|-----|-----------|----------------|----------------|-----|----|--------------|----------|
| 1 | MF96-2116 | 山脈地 | さんみやくち | 散布地 | 縄文 | 縄文土器 | 上有住字山脈地 |
| 2 | MF96-2121 | 蔵王洞穴 | ざおうどうけつ | 洞穴 | 縄文 | 縄文土器（前～晩期） | 上有住字葉山 |
| 3 | NF07-0032 | 小松洞穴 | こまつどうけつ | 洞穴 | 縄文 | 縄文土器（中～晩期） | 上有住字小松 |
| 4 | MF96-2268 | 中和田 | なかわだ | 散布地 | 縄文 | 縄文土器 | 上有住字中和田 |
| 5 | NF07-0023 | 小松Ⅱ | こまつⅡ | 散布地 | 縄文 | 縄文土器 | 上有住字小松 |
| 6 | NF07-0030 | 小松Ⅰ | こまつⅠ | 散布地 | 縄文 | 縄文土器 | 上有住字小松 |
| 7 | MF96-2055 | 中井 | なかい | 散布地 | 縄文 | 縄文土器 | 上有住字中井 |
| 8 | MF96-2024 | 熊野山常光寺 | くまのさんじょうこうじ | 散布地 | 縄文 | 縄文土器（後期） | 上有住字中井 |
| 9 | MF96-2110 | 御殿平 | ごてんひら | 散布地 | | | 上有住字葉山 |
| 10 | MF96-2147 | 上有住城（八日町城・八幡館） | かみありすじょう | 城館跡 | 中世 | 郭、腰郭、堀 | 上有住字八日町 |
| 11 | MF96-2158 | 八日町 | ようかまち | 散布地 | 縄文 | 縄文土器（後期） | 上有住字八日町 |
| 12 | MF96-2231 | 八日町裏 | ようかまちうら | 散布地 | 縄文 | 縄文土器（後・晩期） | 上有住字八日町 |
| 13 | MF96-1220 | 恵蘇 | えぞ | 散布地 | 縄文 | 縄文土器 | 上有住字恵蘇 |
| 14 | MF96-0290 | 樋ノ口城（恵蘇館） | といのくちじょう（えぞだて） | 城館跡 | 中世 | 腰郭 | 上有住字恵蘇 |
| 15 | MF96-0272 | 滝野 | たきの | 散布地 | 縄文 | 縄文土器 | 上有住字二度成木 |
| 16 | MF96-0275 | 狐石城 | きつねいしじょう | 城館跡 | 中世 | 円形平場 | 上有住字蓬畑 |
| 17 | MF96-0123 | 二度成木 | ふたなぎ | 散布地 | 縄文 | 縄文土器（晩期） | 上有住字二度成木 |
| 18 | MF96-0213 | 上家 | うえね | 散布地 | 縄文 | 縄文土器（晩期） | 上有住字上家 |
| 19 | MF96-0218 | 蓬畑 | よもぎはた | 散布地 | 縄文 | 縄文土器（後期） | 上有住字蓬畑 |
| 20 | MF86-2263 | 長者洞 | ちやうじゃほら | 散布地 | 縄文 | 縄文土器（中・後・晩期） | 上有住字長者洞 |
| 21 | MF86-2363 | 田山 | たやま | 散布地 | | | 上有住字坂本 |

岩手県遺跡検索システムの表を引用・改編した。

Ⅲ 調査方法

1 発掘調査の方法

人力でのトレンチの掘削により表土の層厚や遺物包含層の広がり等を確認後、表土除去作業を重機によって行った。現況がいくつかの水田に該当するため用水路を維持しながら掘削を行った。

表土除去の後、人力による遺物包含層の掘削と遺構検出作業を行った。遺物包含層の掘削は出土遺物に留意し、層位とグリッドによる取り上げを行った。遺構検出作業で平面的な検出が困難な地点および遺構については、適宜人力によってトレンチを掘削し、断面による土層の把握を行いながら進めた。

検出した遺構の掘削は、竪穴住居については4分法または6分法、その他の遺構については規模・形状に則して4分法、2分法など適宜選択して行った。また、遺構埋土の掘削に際しては層位毎に遺物を取り上げるよう努めた。また、縄文時代早期の自然流路内遺物については1点毎の出土地点を測った。

また、調査中は遺跡名を略号（STM-10）によって記録し、遺構名も略号を用いた（略号に関しては3節を参照）。

遺構平面図および断面図は、おもに発掘調査用電子平板測量によって実測および作図を行った。また、必要に応じて微細図などは電子平板と通常の手描き実測を併用して行った。

遺構の写真撮影は、デジタル一眼レフ（35mm）・6×7モノクロによる撮影を基本とした。デジタル一眼レフカメラの撮影は、RAWモードとJPEGモードで撮影保存した。また、撮影に際しては、撮影カードを作成し、これの記入および写し込みを行い、撮影写真の整理に活用した。

2 整理作業の方法

発掘調査終了後の整理作業は、当センターの室内にて行った。

発掘調査時に作成した図は、パソコン上でデータの整理、点検、修正、編集作業を行い、図版として体裁を整えた。また、遺構等発掘調査時に撮影した写真はそれぞれパソコン上で整理を行った。本書に掲載する遺構写真は選択した後、JPEGデータのものを原稿データとした。

洗浄および注記を行った遺物は、接合作業を行った。これらのうち、本書に掲載する遺物を選択し、実測と写真撮影を行った。選択基準は、実測可能な残存状況のものを原則とし、土器類の破片については特徴から時期や土器型式を特定できるもの、口縁部の残存するものを中心とした。遺物の実測作業は、原寸での実測を基本とした。実測を行った遺物は、トレースし浄書した。これをもとに図版用の版下を作成した。また、縄文土器器表面は湿拓により採拓した。遺物の写真撮影は、デジタル一眼レフカメラを用いて当センター内で行った。これら撮影した遺物は、JPEGデータを編集し写真図版として掲載した。なお、これら遺物写真データはJPEG形式にて保管している。すべての処理が終了した遺物は、本書掲載遺物と不掲載遺物とに分けて岩手県立埋蔵文化財センター内にある所定の場所へ収納した。

本書の原稿執筆は各担当者が分担して行い、表現方法や名称などは担当者間で協議を行い、統一事項を定め全体の中で可能な限り統一を図った。統一事項の詳細については次節で述べることとする。

3 記載方法

(1) 遺構

遺構名および遺構番号は略号を用いて表現した。遺構略号は遺構種別によって分け、煩雑にならないよう努めた。遺構略号は以下の通りである。

SI・・・竪穴住居、SK・・・土坑（土壙墓も含む）、NR・・・自然流路。それ以外に、遺構に付属する施設についても略号を用い、この略号は以下の通りである。

SI〇〇-F・・・竪穴住居内の炉、SI〇〇-P・・・竪穴住居内の柱穴および掘立柱建物の柱穴。

遺構番号は遺構種別毎、検出した順に通し番号を付与した。遺構に関する記述は、以下の通り統一して行った。平面規模は「m」単位で、深さは「cm」単位で表現した。遺構平面図における平面位置を示す方法として、グリッドは設けず、国土座標による表記を行った。平面図上に付した座標の表記は、国土座標X系のもので、「X」・「Y」の順で連記している。遺構断面図に示した基準高は、すべて海拔標高値とした。

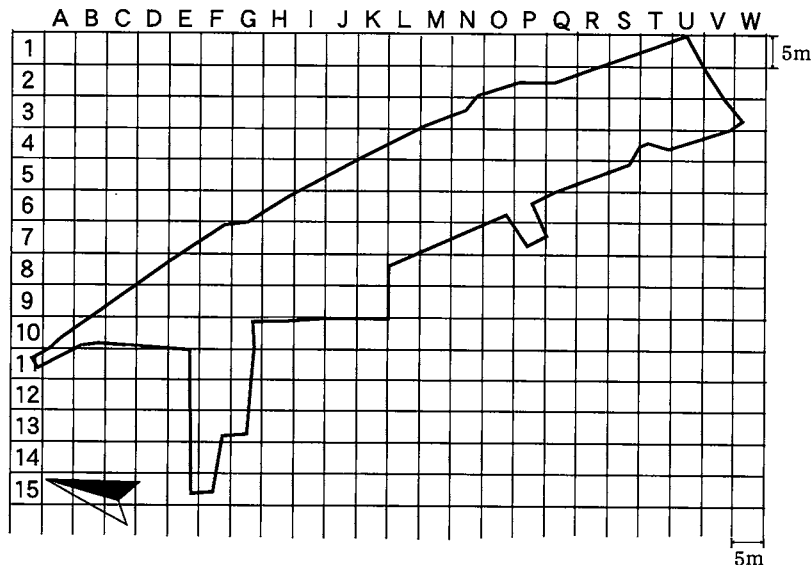
(2) 遺物

遺物の掲載番号は通し番号を付与し、本文・観察表・実測図・写真図版にそれぞれ同一の番号を表記した。同一個体であることがほぼ確実な複数の破片は枝番を与えた。

遺物実測図は、縄文土器を3分の1、石器・石製品・土製品を3分の2でそれぞれ統一し掲載した。本書に掲載した遺物は「掲載遺物一覧」に一覧表として掲げた。この表中で示される遺物固有の番号は、先述した種別毎の番号である。遺物写真図版に掲載した遺物の縮尺は不定としたが、遺物種類毎の縮尺はおおむね統一した。

(3) グリッド

グリッドは調査区の形状に則し任意の傾きで5×5mを1単位とし設定した。おおむねX軸方向に近似するラインをA～Wのアルファベット、おおむねY軸方向に近似するラインを1～15とした。それぞれのラインが交わる区画点（グリッド名）とし、この点をおおむね北東隅に持つ方形区画をグリッド名とする。グリッドは遺物包含層出土の遺物を取り上げることに用いた。



第5図 グリッド

IV 調査成果

1 調査概要と基本層序

今回の発掘調査区は、おおむね南北方向に延びる形状である。今回の調査では西側の飛び地はトレンチを掘削したが、表土直下で無遺物の砂礫層が2 m以上堆積していることが判明したため数本のトレンチで土層を確認したのみで調査を終えた。この砂礫層は、IX層に相当すると考えられる。

一方で、東側調査区ではこの遺跡の主たる遺構を検出し、遺物も多く出土した。検出遺構は、時代の古い順に縄文時代早期～前期にかけて埋没していったと思われる自然流路、縄文時代前期の竪穴住居や土坑、縄文時代晩期の竪穴住居や墓墳などである。出土遺物は、縄文時代早期末～晩期にかけての土器や石器が多量に出土した。なお、今回出土した土器の総量は約80コンテナに及んだ。

基本層序は調査区の大半が自然流路（NR01）の範囲であるため、調査においてはこの流路を中心に区分している。詳細は第3表の通りであるが、遺跡を理解するうえで鍵層となるのはV層の十和田中振火山灰層である。火山灰の同定についてはV章に記載した。

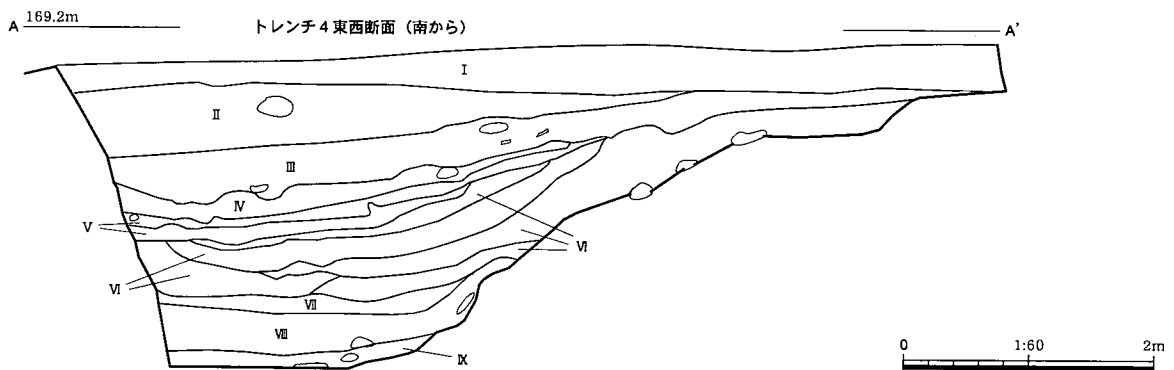
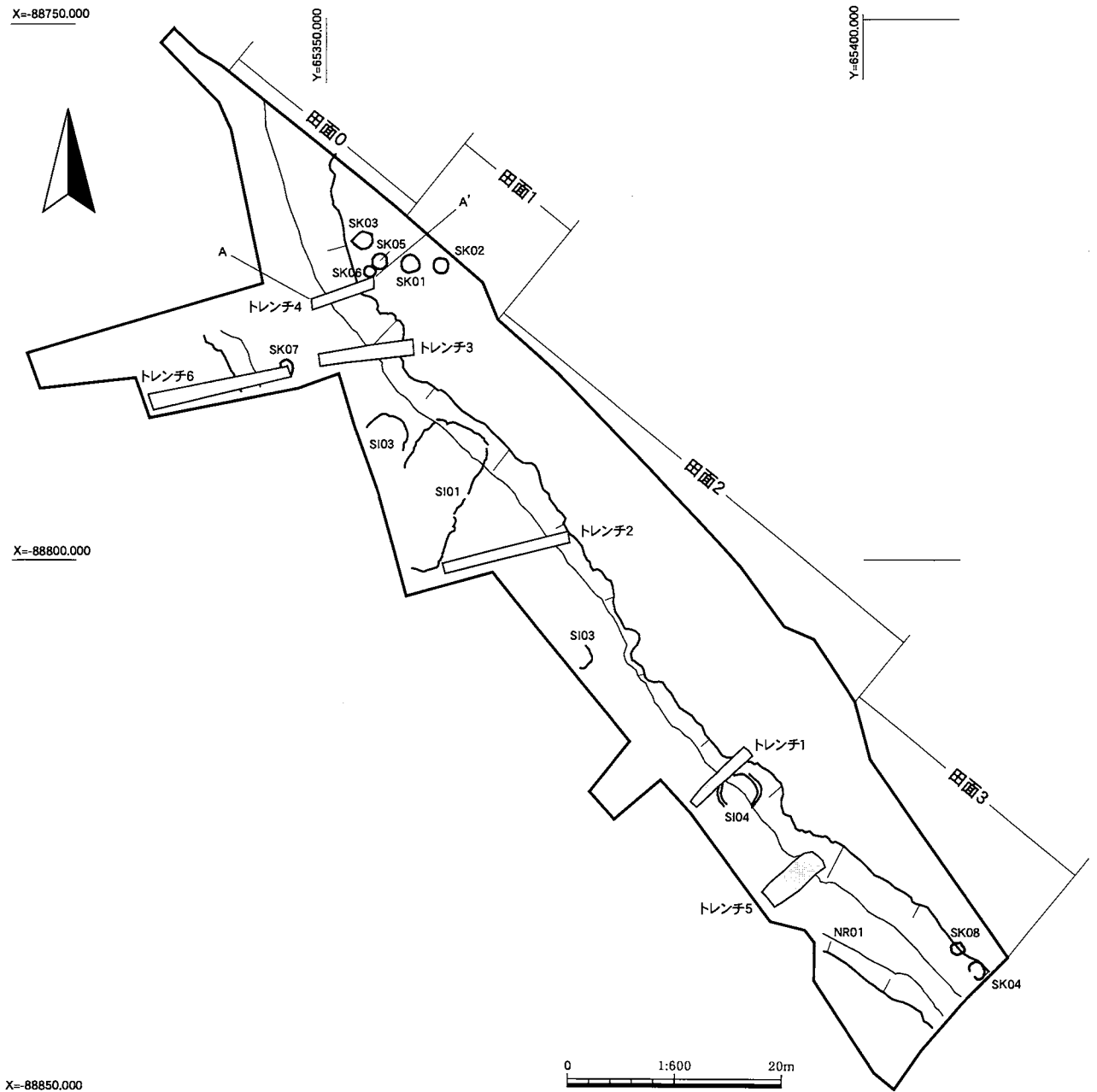
第3表 基本層序

| 層名 | 色調 | 質 | 含有物・混入物 | 層厚 | 時代と性格 | 遺物 | 遺構 |
|--------|--|---------------|--------------------|----------|--------------------------|-----------------|-----------------------------------|
| I層 | 10YR 3/1 黒褐色 | シルト | 小礫 | 約10～40cm | 表土・現代の耕作土・水田造成時盛土 | 縄文土器～近・現代遺物 | |
| II層 | 10YR 2/1 黒色 | シルト | 粗粒砂～小礫 | 約5～40cm | 縄文時代晩期以降の古土壤 | 縄文土器（前期～晩期） | |
| III a層 | 10YR 1.7/1 黒色 | シルト（やや粘質） | 小礫（少量） | 0～約20cm | 縄文時代晩期の古土壤（包含層） | 縄文土器（前期～晩期） | |
| III b層 | 10YR 3/2 黒褐色 | 粘質シルト | 小礫（少量） | 0～約30cm | 縄文時代前期後葉の古土壤（包含層） | 縄文土器（早期～晩期） | SI04・SK04・08 |
| IV層 | 10YR 3/2 黒褐色 | シルト（やや粘質） | 細粒砂 | 0～約10cm | 縄文時代前期後葉の古土壤（包含層）漸移層 | 縄文土器（早期～前期） | SI01・02・03 SK01・02・03・05・06・07 |
| V層 | 5Y 3/2 オリーブ黒色 | シルト（火山灰） | 上位に火山灰ブロック下位は火山灰純層 | 0～約40cm | 縄文時代前期前期の火山灰層〔To-Cu〕 | 縄文土器（早期～前期） | |
| VI層 | 10YR 3/4 暗褐色 | シルト質極細粒砂～シルト | 小礫（少量） | 0～約20cm | 縄文時代早期後葉～前期前期の古土壤（包含層） | 縄文土器（早期中葉～前期初頭） | |
| VII層 | 2.5Y 4/2 暗灰黄色 | 細粒砂（部分的にシルト質） | 炭化物（微量） | 0～約30cm | 縄文時代早期中葉の河川堆積物と古土壤（包含層） | 縄文土器（早期中葉～後葉） | |
| VIII層 | 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色 | 極細粒砂～粗粒砂 | 土器・石器以外の含有物・混入物なし | 0～約20cm | 縄文時代早期中葉の河川堆積物（包含層） | 縄文土器（早期中葉） | NR01埋没開始 |
| IX層 | 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色～10YR 4/3 にぶい黄褐色 | 小礫～巨礫 | シルト・粗粒砂（隙間を充填） | 不明 | 洪積段丘の構成礫層および河川河床（考古学的地山） | 無遺物 | |

縄文晩期遺構面

縄文前期遺構面

1 調査概要と基本層序



第6図 遺構配置・基本層序

2 検出遺構

(1) 自然流路

NR 01 (第7図、写真図版4・5・11～15)

北西から南東方向に長く延びる調査区とはほぼ同じ方向に貫通する自然流路である。

流路の最大幅は17.7m、深さは最深部で1.45mである。ただし、この最深部もⅧ層の砂層が厚く堆積しており、底面標高は不明である。総延長は今回の調査区内で99.8mである。

表土除去作業中より東側の肩部のラインを認識していた。これは調査区に沿って伸びるラインで、検出当初は地形の変化点あるいは水田造成によって切土された部分と盛土された部分の境界が見えているものと考えていた。結果的にどちらもその通りであったが、表土や盛土中から多くの前期と考えられる縄文土器が出土する。このことから西側に向け傾斜する緩斜面に形成された縄文時代前期を中心とする遺物包含層が横たわっていることが推測された。

肩部では、地山である砂礫層が認められ、この砂礫層が大きく落ち込み、その落ち込み中にはⅢ層～Ⅶ層が堆積、充填している状況である。Ⅲ層の堆積時点でこの流路は、完全に埋没し周辺との比高差も目立たなくなったものと考えられる。

Ⅲ層はやや軟質の黒色土層で層中には多くの遺物が含まれる。出土する遺物は、縄文時代前期後葉の土器や石器が主体を占める。層中には土器や石器以外のものは認められず、人為的な作用で堆積した状況ではない。出土する遺物は周辺域、特に流路内より高位である北東より集まったものあるいは投げ込まれたものと考えられる。後者の場合、焼土や炭化物とともにブロック土が認められないことから遺物のみを廃棄したものと推測される。

Ⅲ層の堆積以前には、縄文時代前期の竪穴住居(S I 01～03)が掘り込まれ、さらにⅢ層堆積以後に縄文時代晩期の竪穴住居(S I 04)も掘り込まれている。

Ⅳ層でも遺物は認められ、主に縄文時代前期前葉の土器が主体である。層厚も遺物出土量もⅢ層には及ばない。

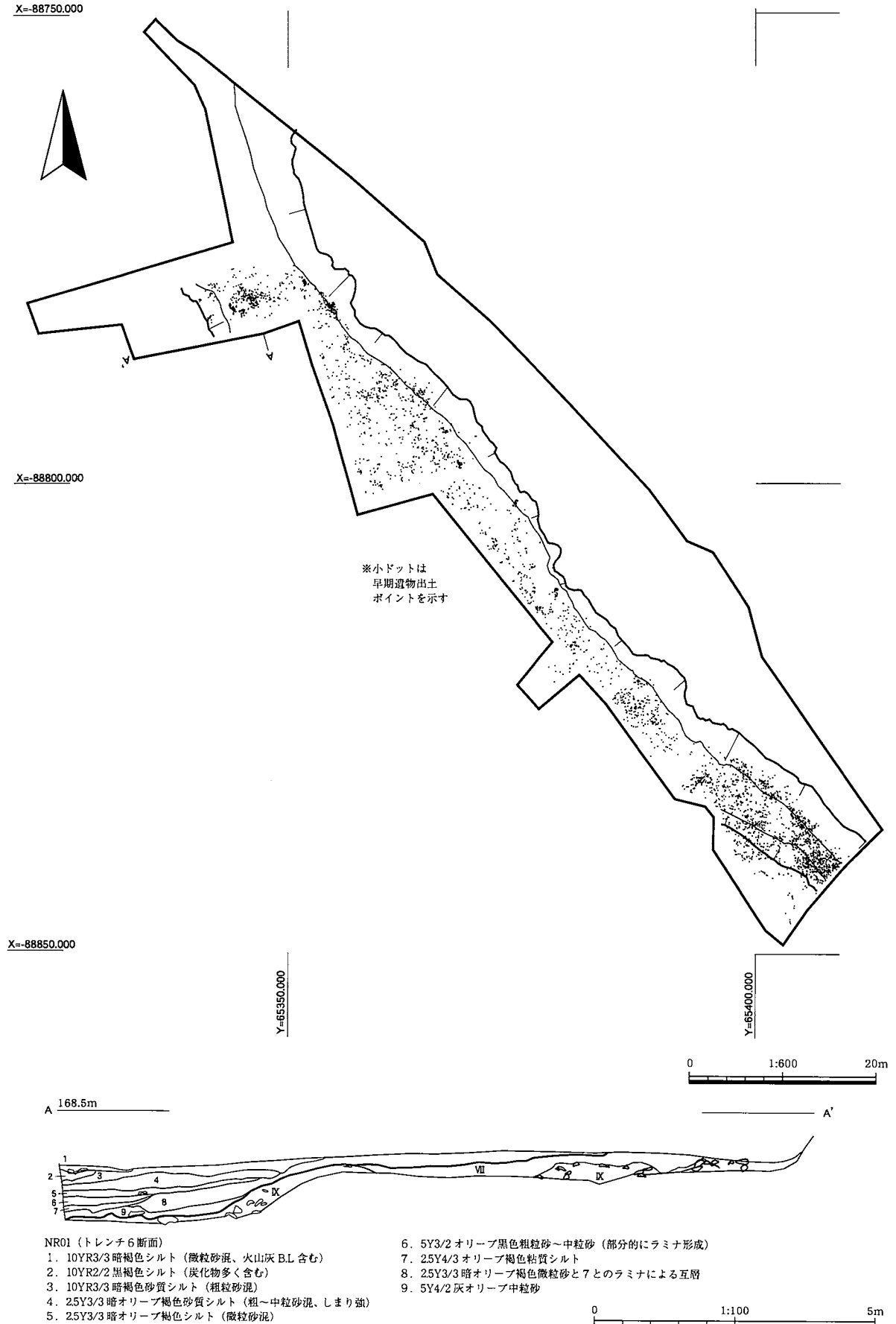
V層である十和田中振火山灰層は、この流路内のみで顕著に認められ、おもに西側での堆積が顕著である。この堆積層の検出標高も北西側が低い。火山灰降下後、流路内のより低位面に流れ集まったものと推定される。この層中ではほとんど遺物は確認されないが、縄文時代早期末～前期初頭のものが少量含まれる。

Ⅵ層はわずかに遺物が含まれるが、微細な破片のみである。火山灰降下以前の自然堆積層である。層厚は西側の厚い部分で約40cmである。部分的にラミナが形成されていることを考えると、水流の影響も考えられる。

Ⅶ層は砂やシルトが入り交じった自然堆積層であるが、層中では縄文時代早期中葉の土器片が多く出土した。堆積層には流水の作用も認められるが、出土する土器片には摩滅した状況がみられるものが少なく、堆積途中に何らかの理由で遺棄されたものである可能性が考えられる。Ⅶ層より出土した遺物は、1点毎出土地点を押さえた。平面的な分布はいくらか粗密がみられ、特に、南東側で出土密度が高くなっているが、これは南東側の堆積層の状況に関係があり、Ⅵ層とⅦ層との区分が非常に曖昧であったため、両層位の遺物が混在している。これは出土遺物においても早期中葉～末葉のものが点取りで取り上げられている状況があり、その点を加味する必要がある。

流路の肩から底面にかけては、細かなものから巨大な礫までが多く認められる。礫はいずれも円礫であり、自然流路における流水の様子を伝えている。

2 検出遺構



第7図 NR 01

埋土最下層の出土遺物が縄文時代早期中葉であることから、縄文時代早期中葉より水量や水流が減少し、堆積へと転じたものと考えられる。その過程で早期中葉の貝殻・沈線文土器が遺棄されたものと考えられるが、その意図や営みに関しては不明である。その後、縄文時代早期末～前期初頭頃にはほとんど水流はなく、堆積はより一層加速したものと考えられ、そのような状況下で十和田中樞火山灰の降下を迎えるものとみられる。それ以降は、帯状の低地部分と化し、周辺との段差や高低差が解消されるのは、縄文時代晩期頃であると考えられる。

この自然流路の方向は遺跡の南を流れている気仙川と並行ではないものの大局的には同じ方向性を有しているとみられ、最終的には坂本川へ合流するような流れであったと考えられる。

(2) 竪穴住居

S I 01 竪穴住居 (第 8・9 図、写真図版 16～20)

東側調査区の北東側に位置する。自然流路上に立地しており、流路に堆積しているⅢ層の遺物包含層から連続する堆積層がこの遺構埋土最上層となっている。切り込み面はⅣ層上面である可能性が高い。

遺構南東側は調査区外へ延びているため全体の様相は不明であるが、平面形態は長方形になるものと考えられる。

規模は、調査区内で確認できる長軸 12.7 m、短軸 6.7 m、深さは 45 cm である。

住居埋土はおおむね上下 2 層からなり、上層は黒色、下層は黄橙色をそれぞれ基調とするシルトである。いずれも締まりが無い。先述した通り、上層はⅢ層から連続して入り込んでおり、住居内では周辺よりもより多くの土器が出土し、より形を残す状況であった。この状況から、竪穴住居範囲がⅢ層堆積時点で、周辺よりも窪地となっていたものと考えられる。埋土上層と下層の層界には、炭化物や焼土が層を成して数 cm 堆積しており、周辺とは大きく異なる堆積状況である。次に、埋土下層には上層ほど遺物は含まれない。また層中には部分的に火山灰がブロック状に認められる。

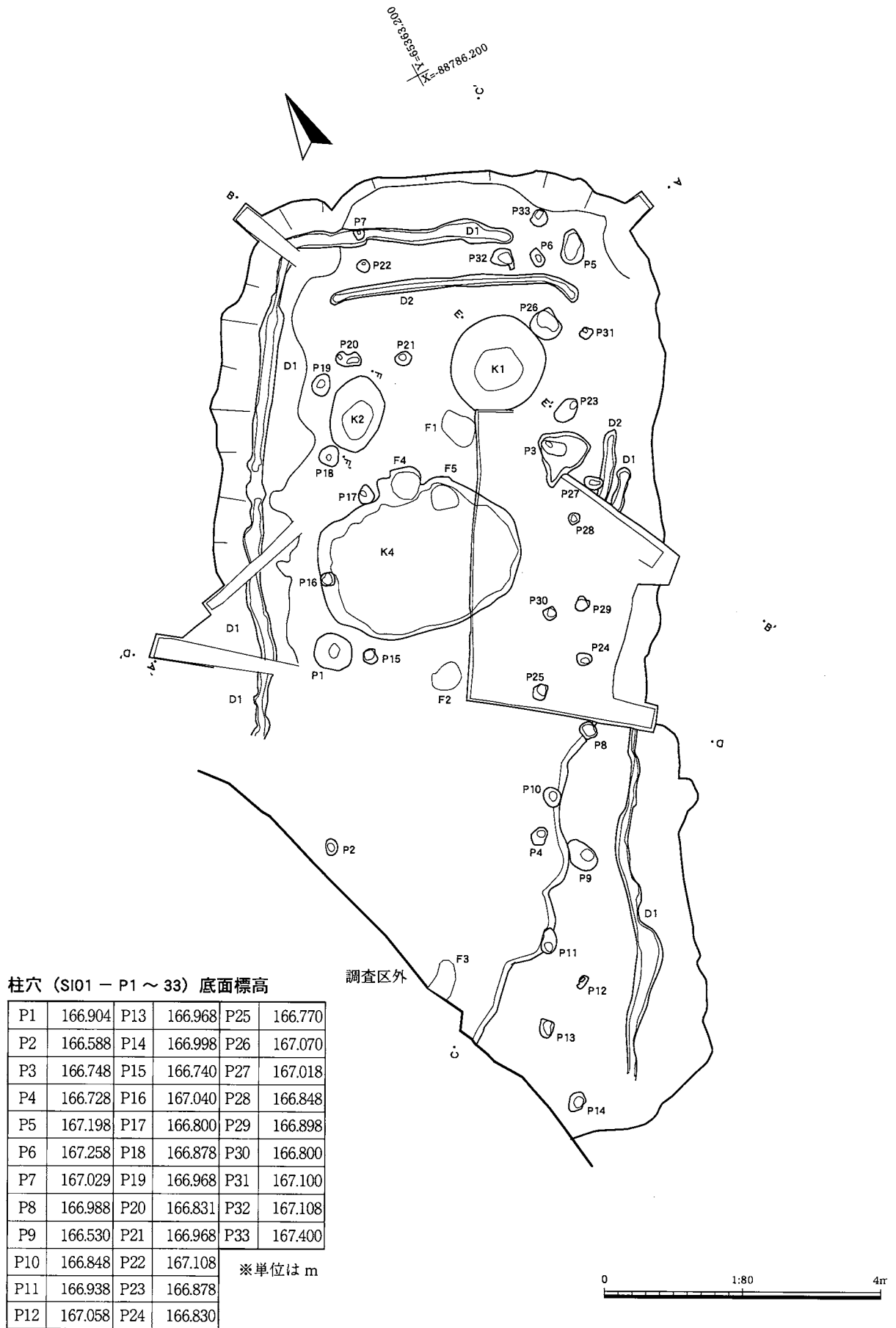
床面は多少凹凸がある締まったシルト面である。床面では焼土 5 基、周溝 2 条、柱穴を 33 個検出した。また、竪穴住居西側にはステップ状の段差が認められる。最大幅は約 50 cm であり、平面的に広がる火山灰が顕著である。

焼土は 5 基のうち住居北側の焼土 (S I 01-F 1) が、楕円形を指向するものとみられる。燃焼部はほぼ全面的に被熱しており、明瞭な赤褐色である。一方、南側調査区境に位置する焼土 (S I 02-F 3) は大半が調査区外へ及んでいると考えられる。

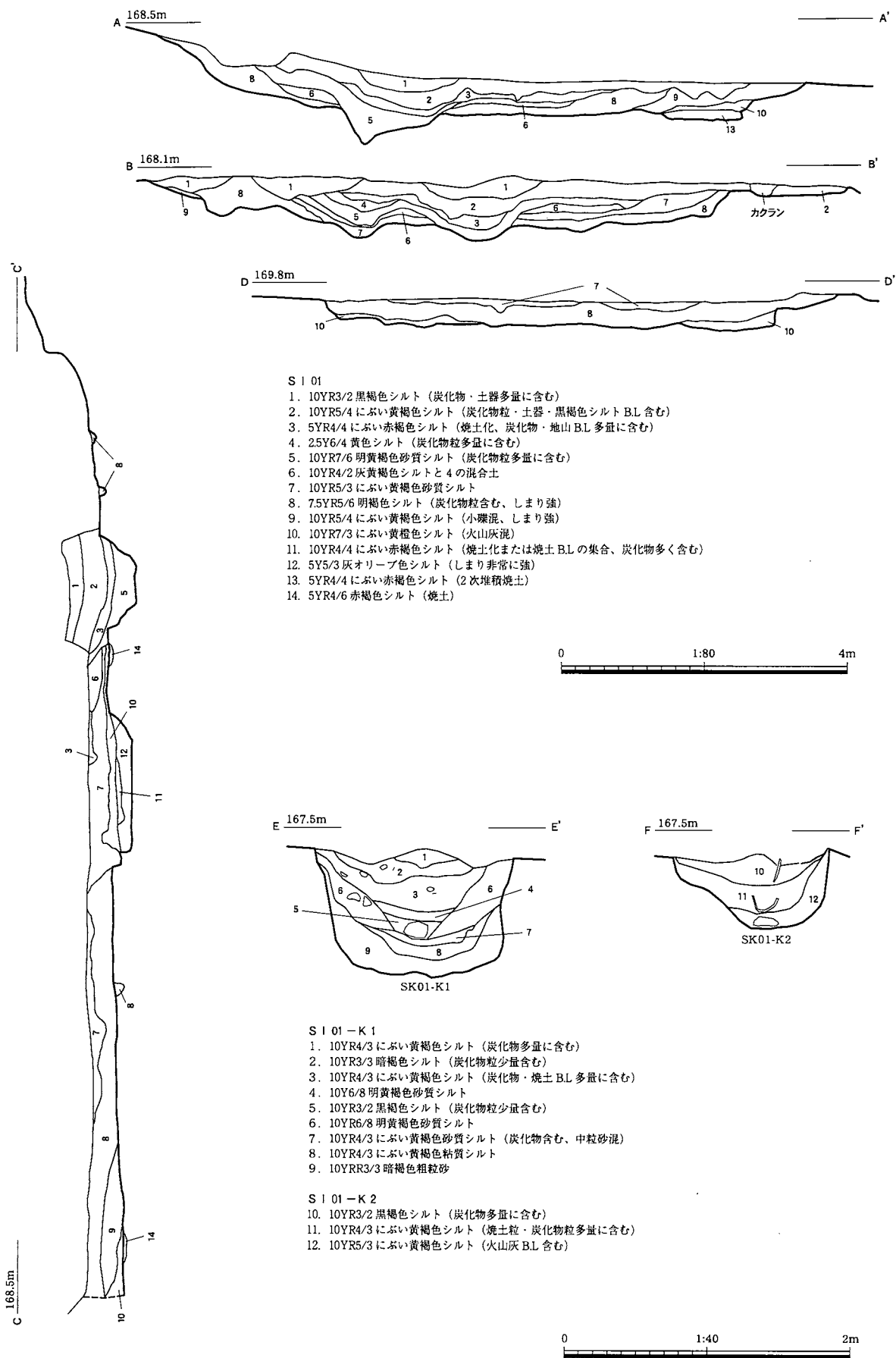
柱穴は 33 個を検出したが、床面と大きく隔たりのない淡い色調であるため、すべてを良好に検出できたわけではないが、東側ではおおむね 2 列に並んでいる。

なお、住居北西側で検出した 3 基の土坑 (S I 01-K 1・2・4) は、床面付近で検出されたが、この住居機能時に伴うものではないと考えられる。少なくとも K 1 は、埋土下層を切って作られており、さらにそれを埋土上層が覆っている状況が断面で観察できた。したがって、これら土坑群はこの竪穴住居よりも新しいものと推測される。

出土遺物は住居埋土上層から多くの縄文土器が出土した。出土した土器は縄文時代前期 (大木 4～5 式) である。最終的に埋没するのがこの時期であると考えられるが、竪穴住居機能時はそれ以前、Ⅳ層堆積以降であると考えられる。



第8図 S101平面



第9図 S I 01 断面・付属遺構

2 検出遺構

S I 02 竪穴住居 (第 10 図、写真図版 21)

東側調査区のはほぼ中央に位置する。他の竪穴住居同様、自然流路の上面に立地しており、Ⅲ層の遺物包含層の掘削途中に平面プランを検出した。

遺構北側の大半は調査区外へ延びていることと、包含層掘削により西側を掘り下げてしまったため全体の様相は不明である。

平面形態は調査区内で扇形を呈している。竪穴住居は大半が調査区外であるが円形あるいは長方形である可能性が考えられる。

規模は調査区境で 4.3 m の長さ、深さは最深で 40 cm である。

埋土は上下 2 層からなり、上層はⅢ層から連続する黒色土の自然堆積層である。一方下層は、Ⅵ～Ⅶ層に近似する灰黄褐色シルトである。この埋土下層には、土器や石器以外の不純物は含まれていない。

床面は周辺の堆積層よりも比較的締まっている。床面では、土坑状の落ち込みを確認した。

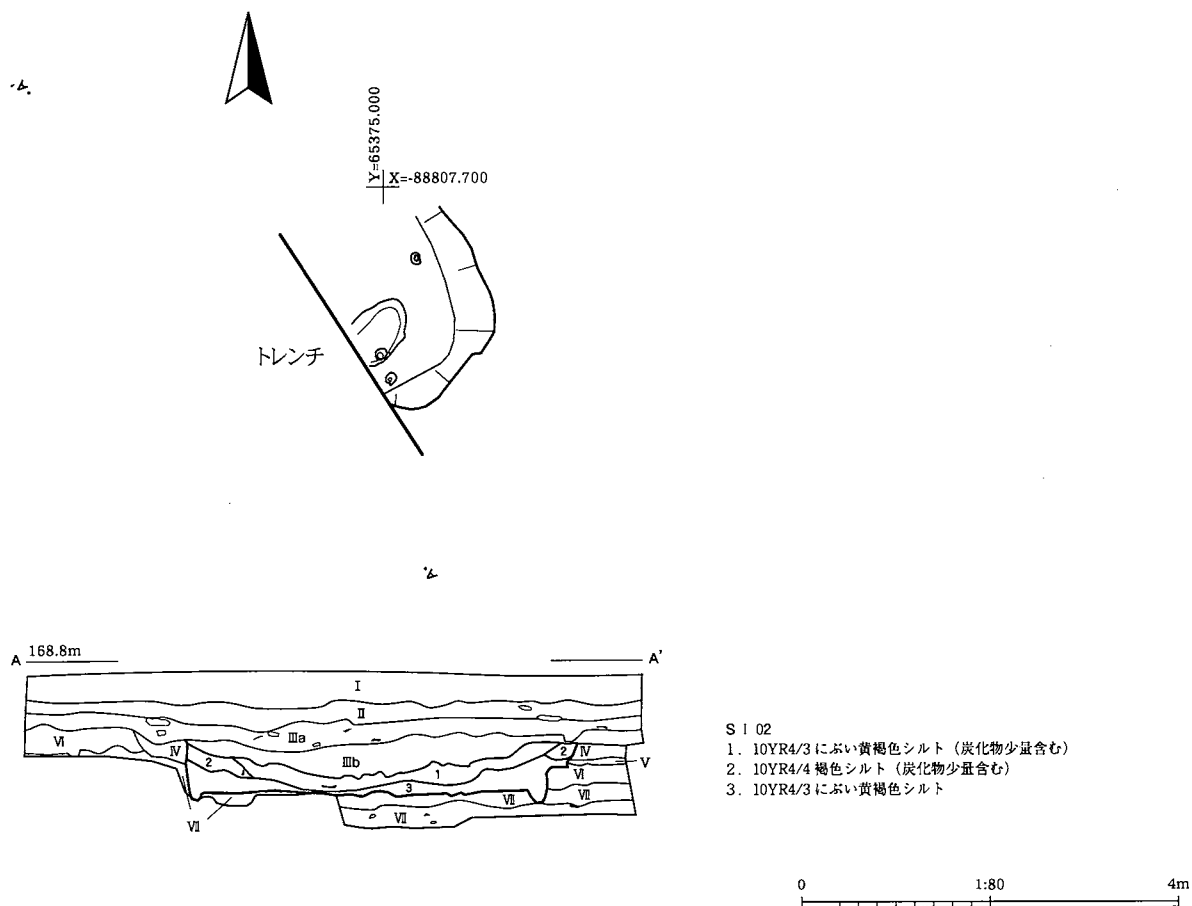
出土遺物は縄文時代前期の土器片が出土した。出土遺物によって時期を特定することは困難であるが、周辺の状況から考えて他の竪穴住居と同じ縄文時代前期の竪穴住居である可能性が高い。

S I 03 竪穴住居 (第 11 図、写真図版 22)

東側調査区の西側に位置する。S I 01 と近接するが直接的な重複関係は認められない。

S I 01 同様、自然流路上に立地しており、流路に堆積しているⅢ層の遺物包含層から連続する堆積層がこの遺構埋土最上層となっている。切り込み面はⅣ層上面である可能性が高い。

遺構南東側は調査区外へ延びているため全体の様相は不明であるが、平面形態は円形になるものと



第 10 図 S I 02

考えられる。

規模は残存する長軸 3.6m、短軸 3.5m、深さは 34 cmである。

埋土は上下 2 層からなり、上層はⅢ層から連続する黒色土の自然堆積層である。一方下層は、Ⅵ～Ⅶ層に近似する灰黄褐色シルトである。この埋土下層には、土器や石器以外の不純物は含まれていない。

床面は周辺の堆積層よりも比較的締まっているが、固く踏み締まった様子はない。床面では、焼土と周溝を確認した。

焼土は北側に不定形の形状で広がっている。焼土の 2 次的な部分を除去すると、淡い色調の焼土範囲が現れる。

周溝は、細く浅い規模で、床面北側において 1～2 条弧状に巡る。

出土遺物は縄文時代前期の土器片が出土した。出土遺物によって時期を特定することは困難であるが、周辺の状況から考えて他の竪穴住居と同じ縄文時代前期の竪穴住居である可能性が高い。

S I 04 竪穴住居（第 12 図、写真図版 23）

東側調査区の中央より東に位置する。他の竪穴住居よりも上位の層位であるⅢ層中に存在する遺構である。

平面形態はほぼ正円形である。これは壁の立ち上がりはほとんど確認できなかったため、全周するとみられる周溝の形態から推定されるものである。

規模は南北方向 3.72 m の長さであり、深さは 5 cm である。

床面中央には石囲炉が 1 基存在し、炉の中心には土器が据えられている。この炉に設置されている土器は、深鉢の体部を用いたものであり、体部上半および体部下半から底部にかけても欠落している。また、体部は全周するが、割れたものを組み合わせて据えていたようである。土器の内部には焼土面が広がっているが、土器の外部では焼土が認められない。そのため燃焼は埋設された土器内部のみでおこなわれたようである。

なお、床面には周溝以外に柱穴は認められなかった。

出土遺物から縄文時代晩期の竪穴住居であると考えられる。

（3）土 坑

S K 01 土坑（第 13 図、写真図版 24）

調査区北側の土坑が集中する地点に位置する。

I 層直下のⅧ層上面において褐色の円形プランを検出した。

他の遺構とは重複していないが、S K 02 および S K 03 が比較的近在する。

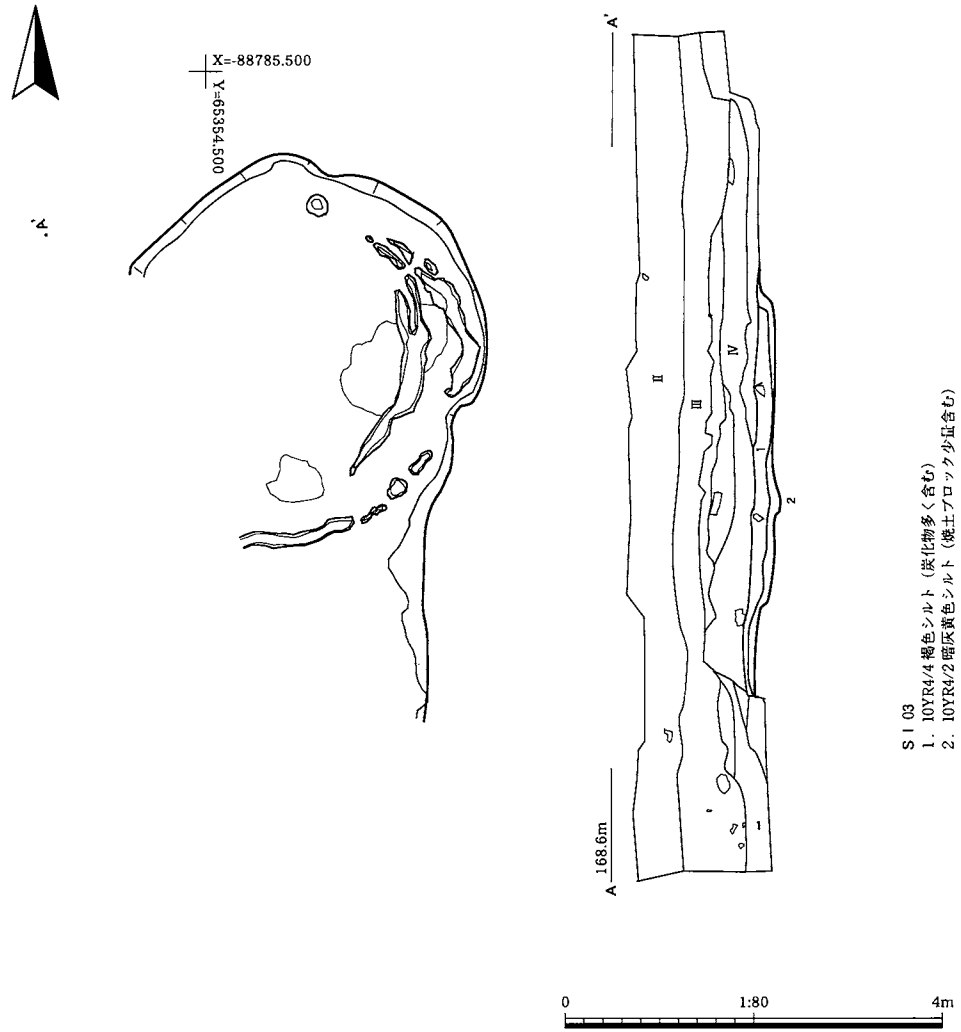
規模は東西長 1.58m、深さは 32.5 cm である。

埋土最上層は暗褐色砂質シルトであり、十和田中掬火山灰と考えられる微細な火山灰ブロックがわずかに認められる。最下層は地山に酷似しており、遺構上壁の崩落土が埋没最初期に堆積したものと考えられる。

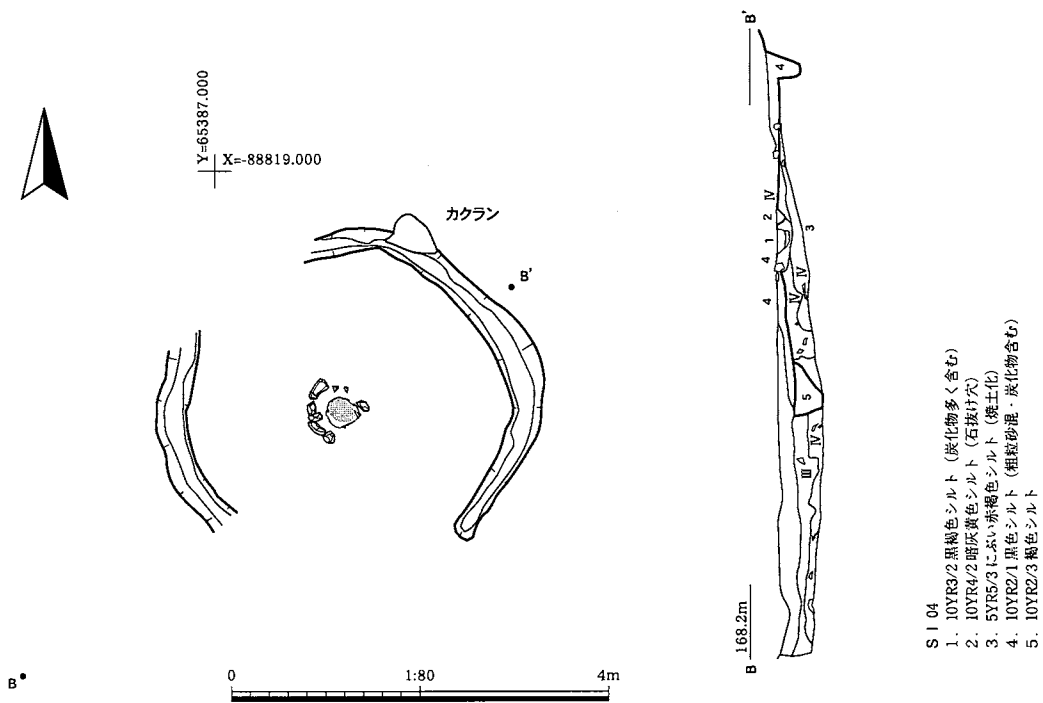
底面はほぼ平滑であるが、ほぼ中央に直径 15 cm の副穴が存在する。また、壁はややオーバーハンク気味に立ち上がっている。

埋土上層から縄文土器片が出土した。

出土遺物が少ないため詳細な時期を特定することは困難であるが、縄文時代前期の土坑であると考



第11図 S I 03



第12図 S I 04

えられ、規模や形態も加味すると貯蔵穴である可能性が高い。

S K 02 土坑（第 13 図、写真図版 24）

調査区北側の土坑が集中する地点に位置する。

I 層直下のⅧ層上面において褐色の円形プランを検出した。

他の遺構とは重複していないが、S K 02 および S K 03 が比較的近在する。

規模は東西長 1.58 m、深さは 32.5 cm である。

埋土最上層は褐色シルトであり、十和田中振火山灰と考えられる微細な火山灰ブロックがわずかに認められる。最下層は地山に酷似しており、遺構上壁の崩落土が埋没最初期に堆積したものと考えられる。

底面はほぼ平滑であるが、ほぼ中央に直径 52 cm の副穴が存在する。また、壁はややオーバーハング気味に立ち上がっている。

埋土上層から遺物は縄文土器片が出土した。

出土遺物が少ないため詳細な時期を特定することは困難であるが、縄文時代前期の土坑であると考えられ、規模や形態も加味すると貯蔵穴である可能性が高い。

S K 03 土坑（第 13 図、写真図版 24）

調査区北側の土坑が集中する地点に位置する。

I 層直下のⅧ層上面において褐色の円形プランを検出した。

他の遺構とは重複していないが、S K 01 および S K 03 が比較的近在する。

規模は南北長 1.29 m、深さは 29.3 cm である。

埋土は大きく上下に 2 分される。埋土最上層は暗褐色シルトであり、土器や石器などの遺物を一定量含む。下層はⅦ層に酷似しているが、それよりもシルト質が強い。

底面はほぼ平滑であるが、中央よりやや南寄りに直径約 48 cm の副穴が存在する。また、壁は部分的にオーバーハングする箇所が存在する。

埋土上層から遺物は縄文土器片が出土した。

出土遺物が少ないため詳細な時期を特定することは困難であるが、縄文時代前期の土坑であると考えられ、規模や形態も加味すると貯蔵穴である可能性が高い。

S K 04 土坑（第 14 図、写真図版 25）

調査区北東隅に位置する。

I 層直下のⅧ層上面において黒色の楕円形プランを検出した。

他の遺構とは重複していないが、S K 08 と比較的近接する。

規模は長軸 1.66 m、短軸 1.12 m、深さは 21.5 cm である。

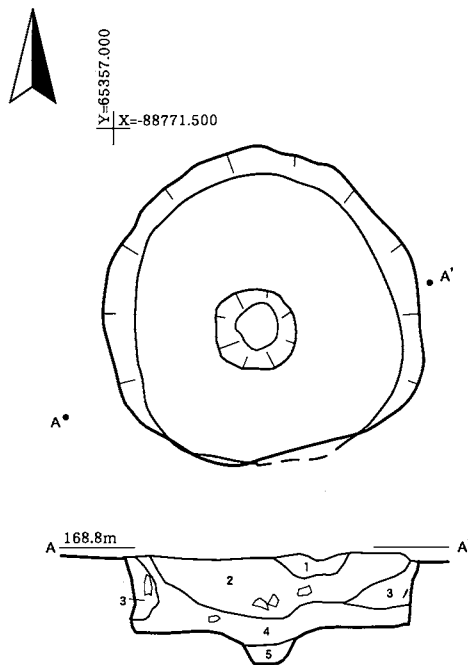
埋土はほぼ単層の黒色シルトであり、少量のブロック土が混在する。

底面はほぼ平坦であるが、礫層基盤であるため礫の凹凸が存在する。

北東側では埋土下位から底面にかけて赤色顔料が面的に認められ、直径 20 cm の範囲で赤く染まっている。

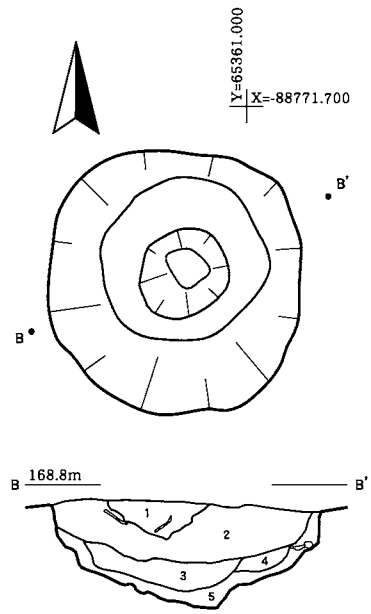
出土遺物が少ないため詳細な時期を特定することは困難であるが、縄文時代晩期の土坑であると考えられ、規模や形態、顔料の存在も加味すると墓壇である可能性が高い。

2 検出遺構



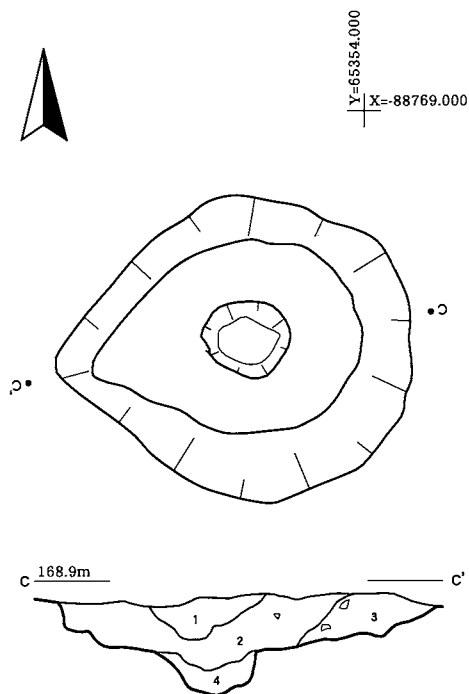
S K 01

1. 10YR3/3 暗褐色シルト (炭化物少量含む)
2. 10YR3/4 暗褐色シルト (炭化物、砂粒少量含む)
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (炭化物、細骨片含む)
4. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト
5. 10YR4/4 褐色シルト質砂



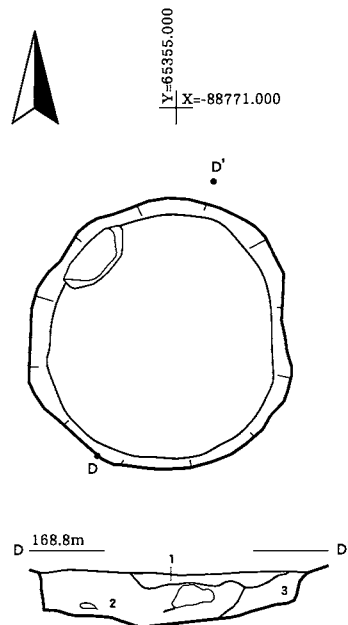
S K 02

1. 10YR3/3 暗褐色シルト (炭化物少量含む)
2. 10YR3/4 暗褐色シルト (炭化物、砂粒少量含む)
3. 10YR2/2 黒褐色シルト (炭化物、細骨片含む)
4. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト (微量の炭化物含む)
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト (やや粘質)



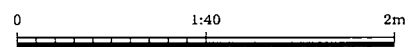
S K 03

1. 10YR3/3 暗褐色シルト (炭化物少量含む)
2. 10YR3/4 暗褐色シルト (砂粒少量含む)
3. 10YR2/2 黒褐色シルト
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト

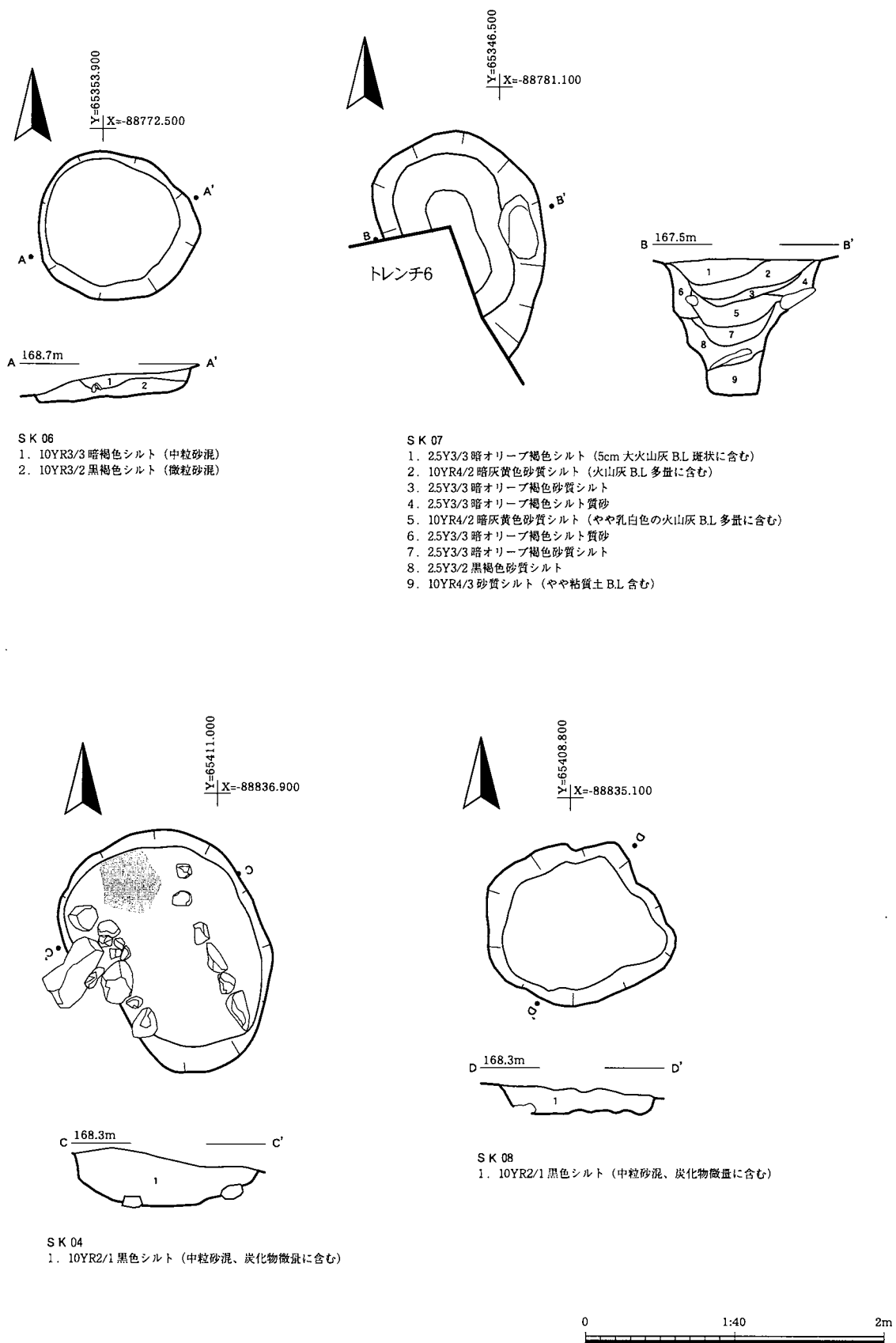


S K 05

1. 10YR3/2 黒褐色シルト (粗粒砂少量混)
2. 10YR2/2 黒褐色シルト (粗粒砂、小礫少量含む)
3. 10YR2/3 黒褐色シルト (微粒砂混)



第 13 図 S K 01 ~ 03・05



第 14 図 SK 04・06～08

S K 05 土坑 (第 13 図、写真図版 24)

調査区北側の土坑が集中する地点に位置する。

I 層直下のⅧ層上面において褐色の円形プランを検出した。

他の遺構とは重複していないが、S K 06 が比較的近在する。

規模は東西長 1.46 m、深さは 44.1 cm である。

埋土は上下 2 層からなる。埋土上層は褐色シルトであり、焼土や炭化物がわずかに含まれる。下層はⅧ層に酷似するシルトである。

底面はほぼ平滑である。また、南壁はやや垂直またはオーバーハング気味に立ち上がっている。

埋土上層から下層にかけて縄文土器片が多く出土した。

出土遺物は埋没過程で混入したものである可能性が高く、詳細な時期を特定することは困難であるが、縄文時代前期の土坑であると考えられる。規模や形態も加味すると貯蔵穴である可能性が高い。

S K 06 土坑 (第 14 図、写真図版 25)

調査区北側の土坑が集中する地点に位置する。

I 層直下のⅧ層上面において褐色の円形プランを検出した。

他の遺構とは重複していないが、S K 05 が比較的近在する。

規模は東西長 0.94 m、深さは 14.5 cm である。

埋土は褐色シルトであり、わずかに縄文土器片を含む。

底面は平坦であるが、遺構上半部は削平によって失われているとみられる。

出土遺物が少ないため詳細な時期を特定することは困難であるが、縄文時代前期の土坑であると考えられ、規模や形態も加味すると貯蔵穴である可能性が高い。

S K 07 土坑 (第 14 図、写真図版 25)

調査区北側の調査区境に位置する。自然流路内に立地しており、自然流内に堆積するⅣ層を切って構築されている。

規模は調査区内存在する長軸 1.33 m、短軸 0.98 m、深さ 82 cm である。

埋土中には部分的に火山灰ブロックが混入するが、遺物は確認されなかった。

検出層位から考えて縄文時代前期頃に作られた遺構であるとみられ、その規模や形態から陥し穴である可能性が高い。

S K 08 土坑 (第 14 図、写真図版 25)

調査区北東隅に位置する。

I 層直下のⅧ層上面において黒色の楕円形プランを検出した。

他の遺構とは重複していないが、S K 04 と比較的近接する。

規模は長軸 1.32 m、短軸 0.89 m、深さは 15.2 cm である。

埋土はほぼ単層の黒色シルトであり、少量のブロック土が混在する。

底面はほぼ平坦であるが、礫層基盤であるため礫の凹凸が存在する。

出土遺物が少ないため詳細な時期を特定することは困難であるが、近在する S K 04 同様縄文時代晩期の土坑であると考えられ、規模や形態を加味すると墓壙である可能性が高い。

3 出土遺物

(1) 土器

貝殻・沈線文土器（第15～35図、写真図版28～52）

1～272は縄文時代早期中葉の貝殻・沈線文土器である。東北地方北部の物見台式～鳥木沢式に該当するものである。大半は、破片資料であるが全体形が判明するものも多数存在する。

1は尖底を有する深鉢である。器形は括れを持たない砲弾形であると考えられる。文様は、横方向を主体とした連続する直線と曲線が乱雑に配置されている。この文様は、いわゆる押し引き沈線文であり、施文工具を細かな単位で連続して押し当てて施文されている。しかし、押し引きの名称通り、施文工具を押し当て、引いて施文していないようである。肉眼観察からは、施文工具先端を押し当てる行為を断続的に前進させているようにみられる。施文工具の先端部の痕跡一つ一つは「く」の字形を呈し、先端部側がより深めに押し込まれている。全体的な文様構成に統一感や規格性は看取されない。また、文様は体部下半にも及んでいる。

2は尖底を有する深鉢であると考えられる。ほぼ水平な口縁部に数箇所突出部が作り出されているものと推測される。体部には上半部と下半部を分かち括れが存在し、括れは大きく屈曲する形状である。上半部はわずかに傾きながら口縁部へと続き、口縁端部は微かに内彎傾向である。文様は体部上半に沈線と貝殻腹縁文によって構成される幾何学的な文様が展開する。

3は体部上半が残存する深鉢である。文様は口縁部に沿うように波状沈線が1条巡っている。口縁部内面には、貝殻腹縁文が断続的に施されている。この口縁部内面に認められる個々の貝殻腹縁文に対応するように爪の圧痕が認められる。この爪の圧痕は比較的明瞭であるが、文様を構成するものではなく、貝殻腹縁文施文時に器壁との支点となった指先、おそらくは貝殻を持った手の中指が薬指の爪の痕跡であるものと推測される。体部の文様は、沈線と貝殻腹縁文によって構成される幾何学的な文様が展開する。

4は口縁部の破片（4-1）と体部の破片（4-2）とに分かれている深鉢である。4-1の口縁部は全周の約4分の1が残存する。器壁の傾きは少なくほぼ直立し、口縁端部がやや肥厚しながら内彎傾向である。口縁部は波状で、突出部が作り出されている。文様は口唇部内面に貝殻腹縁文が連続して押圧施文されている。一方、突出部の口唇には頂点部分に貝殻腹縁文が施されている。口縁部外面には、端部と平行するように沈線が施されており、これより下部は沈線と貝殻腹縁文によって構成される幾何学的な文様が展開する。

5は体部上半の破片（5-1）と（5-2）とに分かれている深鉢である。いずれも器壁は垂直あるいは、やや内彎気味である。口縁部には突出部が作り出されており、突出部は指先で大きくつまみ出された1個の突出の両側に小さな突出が1個ずつ存在する。また、体部上半と下半を分かち括れが5-2で認められる。文様は口唇部内面に貝殻腹縁文が連続して押圧施文されている。口縁部外面には、端部と平行するように2条の並行する沈線が施されており、これより下部は沈線と貝殻腹縁文によって構成される幾何学的な文様が展開する。これらは2条の並行する沈線と1条の沈線が存在する。沈線には貝殻文と結合するものと、沈線のみものに分けられ、前者の支配率が圧倒的に高く、沈線のみものはいずれも短く鋸歯状である。文様構成から考えると、一定のアクセントとしての効果を付加する目的で施されたものと考えられる。また、沈線と貝殻文の結合は、沈線の片側縁に貝殻の背を押しつけるようにして結合されている。沈線文同士の結節点や文様の変化点の一部には刺突文が認められる。刺突の中には小盛りを作り、その頂点に刺突が施されているものがみられる。これも一種のアク

セントであるとみられる。体部上半と下半を区別する括れ部分には2条1単位の並行する沈線が巡っていると考えられ、両者の間には貝殻の背を押圧した貝殻文が施されている。

6は底部が欠損するが、口縁部から体部下半まで残存する深鉢である。口縁部はやや内彎傾向であり、口縁端部で肥厚する。口縁部は波状を呈し、突出部が作り出されている。突出部は主となる突出の両側に小突起が配されている。体部には上半と下半を区分する括れが明瞭に認められる。文様は口唇端部に貝殻腹縁文が連続して施文されており、この文様は突出部にも施されている。口縁部直下には口縁部と並行する沈線が1条みられ、これには部分的に貝殻文が伴う。体部上半は沈線とそれに結合する貝殻文によって直線と曲線の幾何学文様が展開する。沈線は非常に鋭利な工具の先端によって施されたと考えられ、細い幅で深く施されている。そのためか曲線は細かな曲線が存在せず、曲線すべてが緩いカーブを描いている。これら文様には刺突文は存在しないが、要所で隆起している部分も少なからず認められる。括れ部には、2条の横走する沈線が巡っており、2条間に貝殻の背を押圧して施された文様が充填されている。体部下半には文様はなく、全体的にミガキが施されている。

7は底部が欠損するが、その他は良好に残存し、ほぼ完形の深鉢である。口縁部は水平であり、突出部は設けられていない。体部上半は緩やかに立ち上がり、括れを有する。文様は沈線と貝殻文によって構成されている。口縁端部には貝殻腹縁文が連続して施されており、体部上半はそれぞれ入り組んだN字形の無文帯が設けられている。無文帯は沈線によって縁取られ、この沈線は貝殻文と結合する箇所と結合しない箇所が混在する。この縁取りの沈線の直線部分は定規を用いて描いたように整然とした直線であり、フリーハンドで描かれたものではないと考えられる。無文帯によって仕切られた三角形部分には貝殻腹縁文が密に施され、これを充填している。また、これら沈線文の変化点や結節点には刺突文が施されている。体部括れ付近には4条の横走する沈線が巡っている。これらのうち上から2条目は波状になっており、部分によっては鋸歯状である。体部下半は無文だが、全体的にミガキ調整が施されている。

8は口縁部から体部下半が残存する深鉢である。口縁部はやや内彎傾向であるが、口縁端部は肥厚しない。口縁部は波状を呈し、突出部が作り出されている。突出部は主となる突出の両側に小突起が配されている。この突出部はその他の口縁部と同様肥厚していない。体部には上半と下半を区分する括れが明瞭に認められる。文様は口唇部内面に貝殻腹縁文が連続して施文されている。

9は口縁部から底部にかけて残存する深鉢である。口縁部はやや内彎傾向であるが、口縁端部は肥厚しない。口縁部は波状を呈し、突出部が作り出されている。突出部は主となる突出の両側に小突起が配されている。この突出部はその他の口縁部と同様肥厚していない。体部には上半と下半を区分する括れが明瞭に認められる。全体的に器高が低い器形で、体部上半と下半では下半の方が短い。底部は小さい乳頭状に突出するが、土器中心よりいくらかずれている。文様は口縁部内面に貝殻腹縁文が連続して施文されている。口縁部外面には、端部と平行するような沈線は認められない。体部上半は沈線と貝殻腹縁文によって構成される幾何学的な文様が展開する。

10は口縁部から体部下半にかけて残存する浅鉢である。今回の調査で出土した全体形が判別できる貝殻・沈線文土器はこれが唯一の浅鉢である。器形の判別できる程度の破片を総覧してもこのような器形はみられないことから、かなり希少な器形であることは間違いない。しかし、微細な破片の場合、深鉢形態のものと区別することができない可能性が高いのも事実である。この特異な形態は、浅いボウル状で外形線は緩やかな曲線を描き、口縁部は数単位の波状を呈する。波状の頂点の突出部のみがやや肥厚するが、その他の口縁端部は肥厚しない。また、頂点突出部の両側には小突起が1つずつ配されている。文様は口縁部内面に貝殻腹縁文が連続して施文されている。口縁部外面には口縁部と平

行するように沈線が施されている。この口縁を縁取る沈線には、大半の部分で貝殻文が施されていないが、一部分のみで貝殻腹縁文が認められ、やや統一性に欠けている。しかし、体部に展開する沈線には、ほぼ全てにおいて貝殻腹縁文が伴っていることを考えると、口縁部を縁取る沈線は体部の文様構成とは異なる効果を意図している可能性が高い。体部の文様構成は直線と曲線や弧線を組み合わせた幾何学的な文様である。直線部分は、定規を用いて描かれたような正確な直線である。沈線は直線、弧線に関わらず、いずれも貝殻腹縁文を伴う沈線によって描かれており、これらによって生じる三角形の小区画は連続する貝殻腹縁文によって充填されている。同時に、結節点や変化点の一部には刺突文もみられ、中には小隆起を伴う刺突文も存在する。体部下半には括れが存在しないものの、並行して横走る2条の沈線によって上半と下半とが区分されている。なお、体部下半にはミガキ調整のみで文様はみられない。

11は体部中位から底部まで残存する深鉢である。砲弾形を呈し、底部は尖底で先端がやや突出している。残存部分は無文で、外面は丁寧ミガキ調整が認められる。また、外面には、土器使用時に付着したものと考えられる吹きこぼれの痕跡が認められる。

14は体部上半から底部にかけて残存する小形の深鉢である。体部上半と下半は緩やかに屈曲する括れを有する。底部形態は完存していないため不明であるが、残存部位から微かに突出する傾向が認められる。どのような突出か判断できないが、少なくとも最底面で突出すると考えられる。口縁部が残存していないが、体部下半が比較的短い形態であると考えられる。

文様は体部上半に沈線と貝殻文で幾何学的な文様が展開している。残存する範囲では、比較的縦方向の文様が主流となっている。また、体部の括れ部には横方向の沈線が施されている。また、刺突文も数箇所みられるが、その配置に規則性は認められない。

15は体部下半が残存する小形の深鉢である。底部は欠損しているため、突出等の形態は不明であるが尖底ではなく丸底傾向である。体部を上半と下半に区分する括れは、残存部分からは不明瞭と言わざるを得ない。しかし、上部にわずかな曲線がみられ、これが括れへと続く可能性も考えられる。文様は沈線と貝殻文が弧を描くように連続して施されている。沈線と貝殻文は完全な結合ではなく、貝殻文は沈線の上や下に沿うように施されている。貝殻文は沈線に対して平行に施されているのではなく、直交する方向で施されている点で非常に特徴的である。

16は口縁部から底部にかけて残存する小形の深鉢である。口縁部は波状であると考えられ、頂点部分には突出部が作り出されている。突出部以外の口縁端部は端面を持つ。括れはみられない砲弾形の全体形に、底部には乳頭状の突出が作り出されている。文様は口縁部内面に貝殻腹縁文が連続して施文されている。体部の文様は半裁竹管の沈線による直線と弧線がみられ、これら大半が貝殻文を伴うが、最上部の2条と最下部の1条には貝殻文は施されていない。この最上部の竹管沈線の端部には刺突文が施され、最下部の竹管沈線は体部を上半と下半に分かつ役割を担っているものと考えられる。内外面ともに滑らかな器表面で、大粒の砂粒をほとんど含まない細かな胎土が特徴的である。

17は口縁部から底部にかけて残存する小形の深鉢である。口縁部は緩やかに立ち上がり、口縁端部は肥厚しない。口縁部の大半は残存していないため、突出部が作り出されているかどうか判断できない。体部には上半と下半を区分する括れが認められるが、その屈曲は緩やかである。全体的に器高が低い器形で、体部上半と下半では下半の方が短い。文様は口縁部内面に貝殻腹縁文が連続して施文されている。口縁部外面には、端部と平行するよう沈線が残存部では認められるが、連続して巡るかどうか不明である。しかし、この沈線はこれより下の文様構成に連続している可能性が高く、独立して口縁部を縁取る沈線とは趣を異にしていると考えられる。体部上半は沈線と貝殻腹縁文によって構

成される幾何学的な文様が展開する。沈線は大半が1条からなるが、部分的に2条1単位となっている箇所も存在する。これら沈線はいずれも貝殻文と結合し、それぞれが平行しながら三角形の最小区画を作り出している。この三角形の最小区画には貝殻腹縁文が連続して施され、これを充填している。体部の括れ部には、2条1単位の沈線が貝殻文を伴って横方向に施されているが、水平ではなく、連弧状を呈する。この弧と弧を結びつける結節点には小隆起と刺突文が伴う傾向である。体部上半の文様にも刺突文は施されているが、小隆起と併用されるものはわずかである。

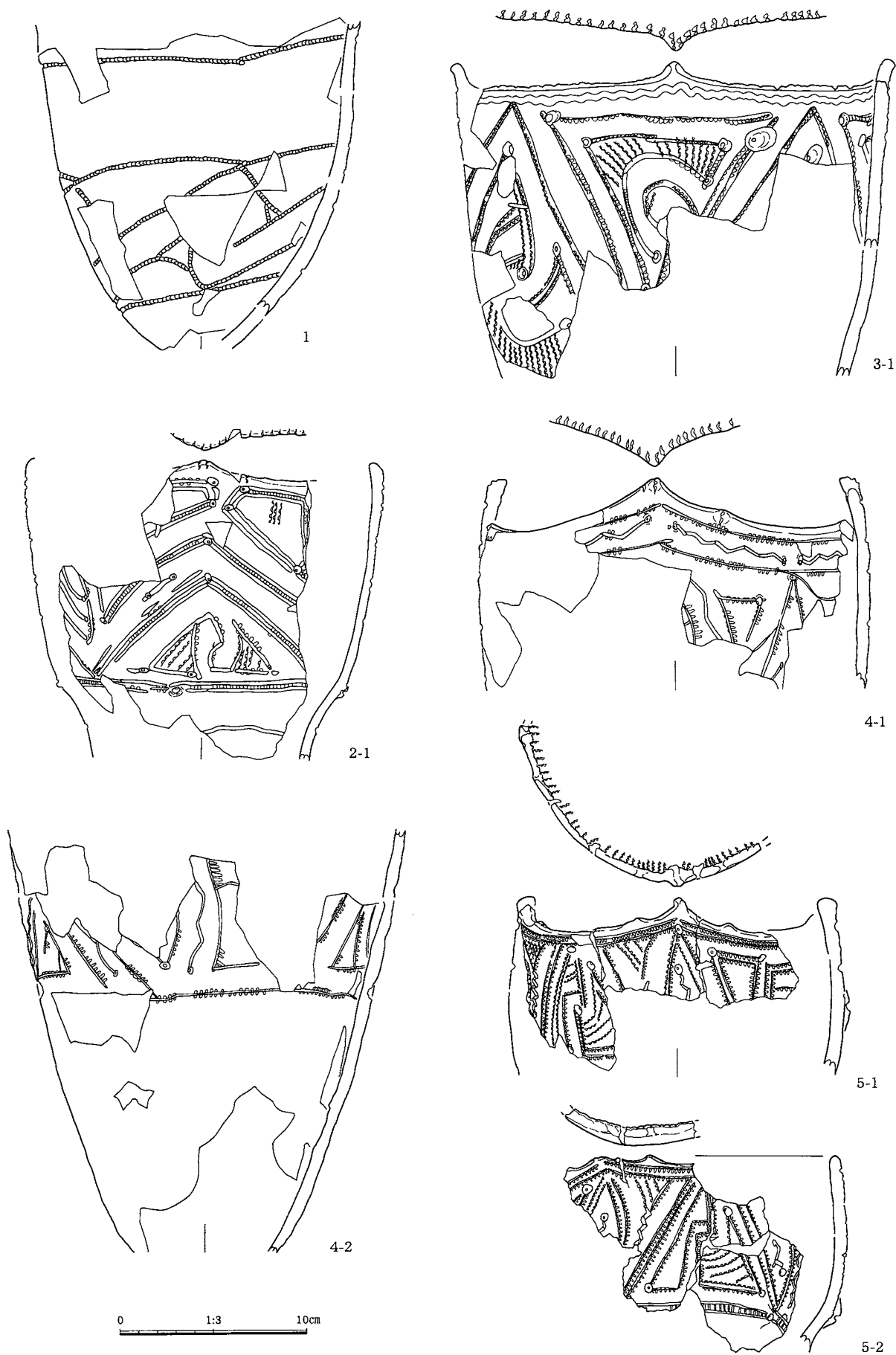
20は体部下半から底部にかけて残存する小形の深鉢である。体部の括れは顕著に屈曲し、体部下半はほぼ垂直に立ち上がる。一方、底部と体部は明瞭な稜線が存在し、底部最底面はわずかに突出が認められる。底部では突出部を中心に周囲を調整した痕跡が認められる。文様は残存するわずかな括れ部分に平行する3条の沈線が認められる。これらは断面方形で比較的深く施されている。この沈線凹部には赤色顔料がみられ、体部にも一部同色の部分があることから器表面に赤彩が施されているものと考えられる。

21は底部のみ残存する小形深鉢である。底部形態は尖底で、先端部は微かに突出を意識して作り出されている。胎土には砂粒を多く含むが、器表面は滑らかである。これは丁寧な調整がおこなわれているためであると考えられる。文様は5重の押し引き沈線が水平方向に全周するように施されている。これら押し引き沈線はいずれも同一の工具で施されているが、残存部最上段に配置されているもののみ工具先端部を上下交互に動かして施文されている。これにより、細かな鋸歯状となって表現されているようである。いずれの押し引き沈線も「く」の字形の工具先端部が明瞭に認められる。

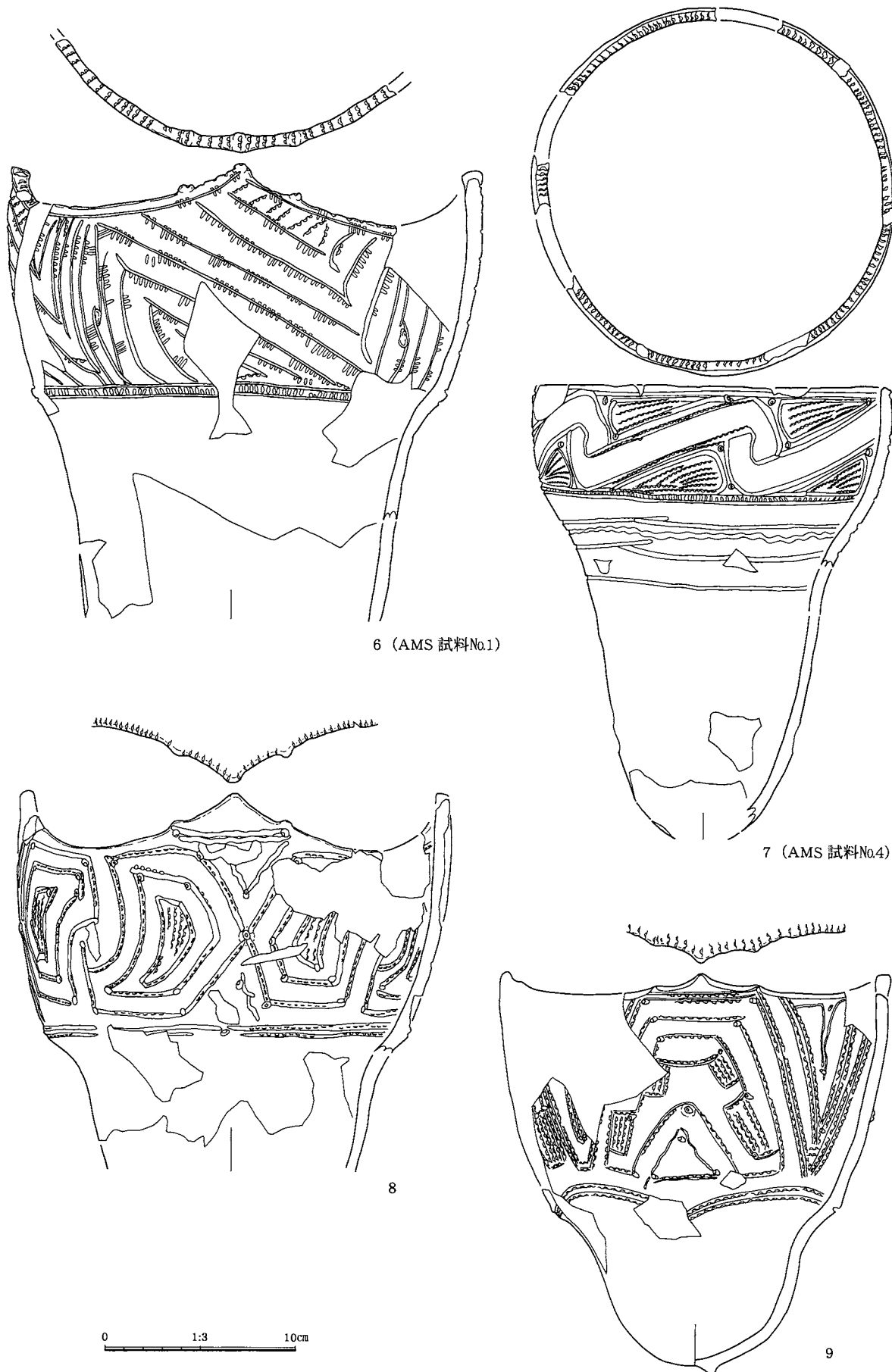
22は体部下半から底部にかけての破片である。底部は丸底で顕著な突出部は設けられていない。器壁は大きく開かず、直線的に立ち上がる。文様は全体的に沈線によって直線と曲線が認められるのみである。

23は口縁部から体部下半にかけて残存する深鉢である。口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、体部下半まではほぼ均一の厚みである。口縁部は波状を呈し、4単位の突出部が作り出されている。突出部は主となる突出の両側に小突起が配されている。体部には上半と下半を区分する屈曲が認められるが、大きな段差とはなっていない。文様は口縁部内面に貝殻腹縁文が連続して施文されている。外面は口縁部直下から沈線と貝殻文による幾何学的な文様が展開する。沈線は1条を1単位として直線と曲線が複雑に入り交じっている。これらほぼすべての沈線に貝殻文が結合しており、沈線の変化点や結節点には刺突文も認められる。刺突文は比較的多くみられ、小隆起を伴うものも存在する。また、沈線によって生じた三角形の小区画には貝殻腹縁文が連続して施されている。

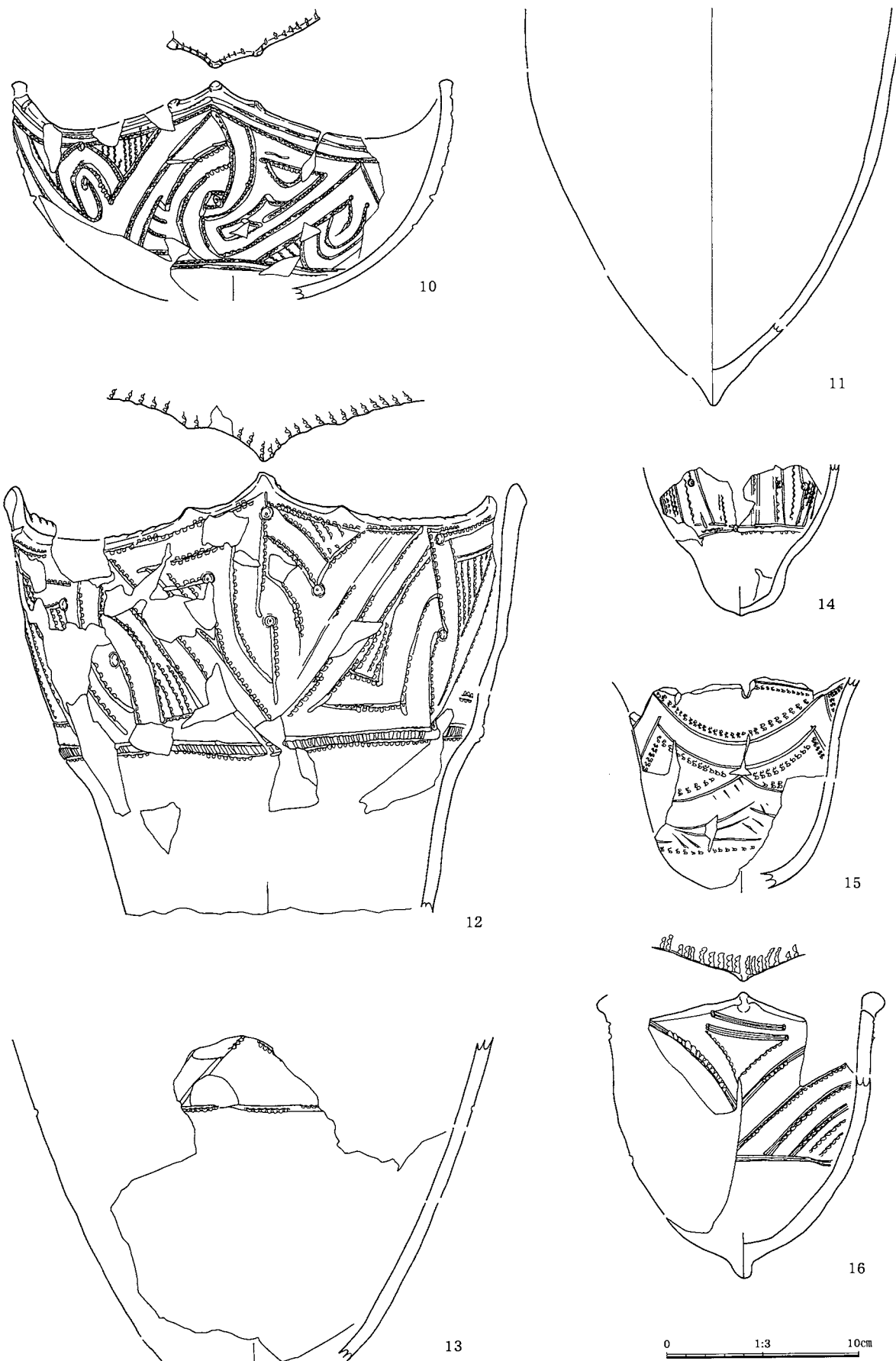
24は口縁部から体部下半にかけて残存する大形の深鉢である。口縁部は体部の括れ部から徐々に肥厚しながらやや内彎気味に立ち上がる。体部の括れは明瞭で、体部下半から緩やかに外方へ開きながら括れ部で大きく屈曲する。体部の括れ部は全体形不明ながらもやや上方に位置している。口縁部は大きく緩やかな波状を呈し、6単位の頂部を有している。文様は口縁部内面に貝殻腹縁文が連続して施されている。外面の文様は体部上半に押し引き沈線を基本とする直線と曲線で幾何学的な文様が展開する。この押し引き沈線による文様は、口縁部の形状と関係性を有しており、口縁部直下は口縁を縁取るように、文様帯中央部はこれを下方へ反転するように組み込まれている。比較的整然と計画的に配置され、大きな不均衡はみられない。丁寧な割付案やレイアウトが考慮されているものと考えられる。これら押し引き沈線の変化点に貝殻腹縁文が所々施されているが、充填されるよりも平行、連続して押し引き沈線を縁取るように施される方が優勢である。また、部分的に小隆起が認められるが、明瞭な刺突文は伴わず、押し引き沈線と同様の工具で微かに刺突がなされている。体部括れ部付



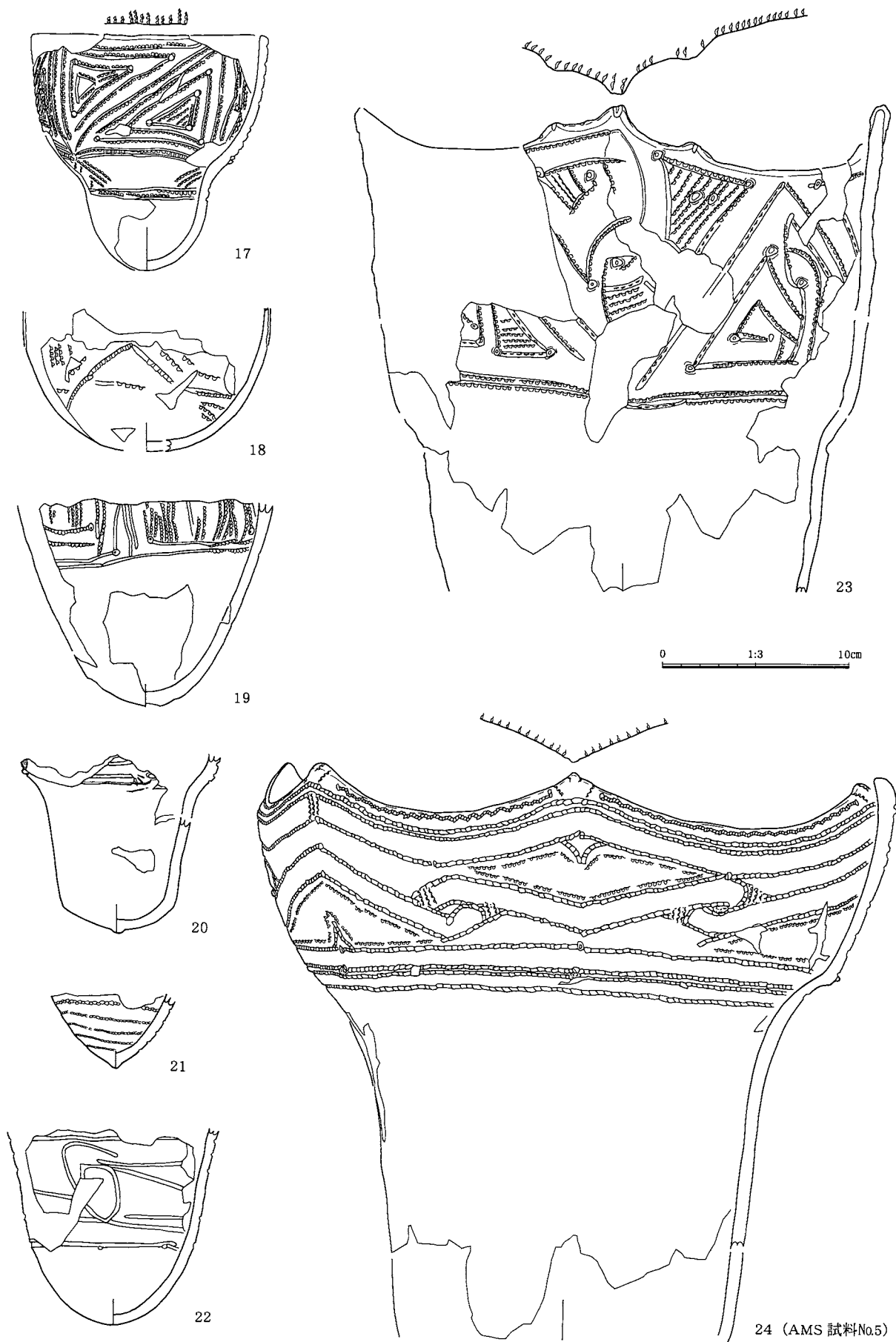
第15図 土器(1~5)



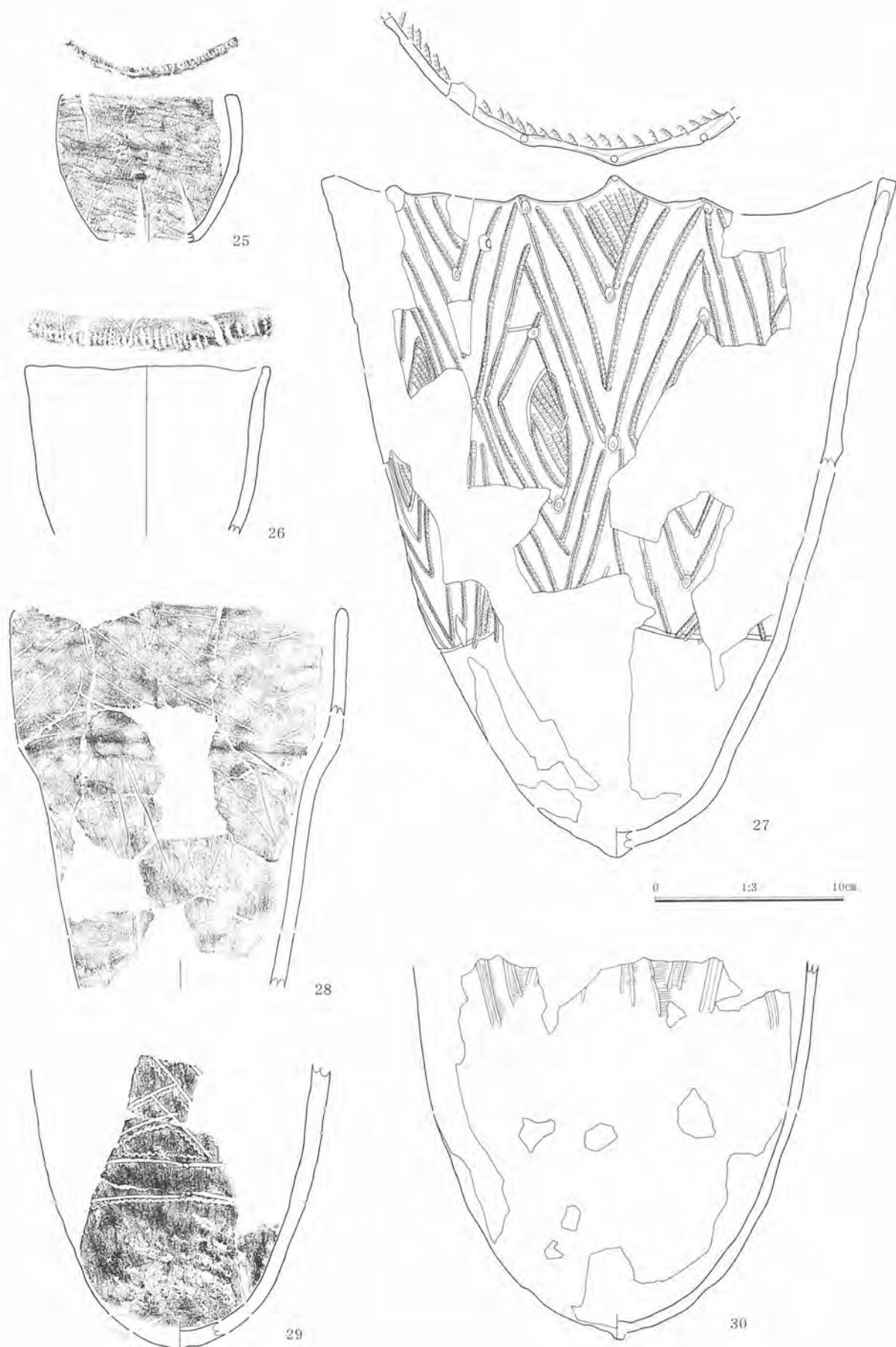
第16図 土器 (6~9)



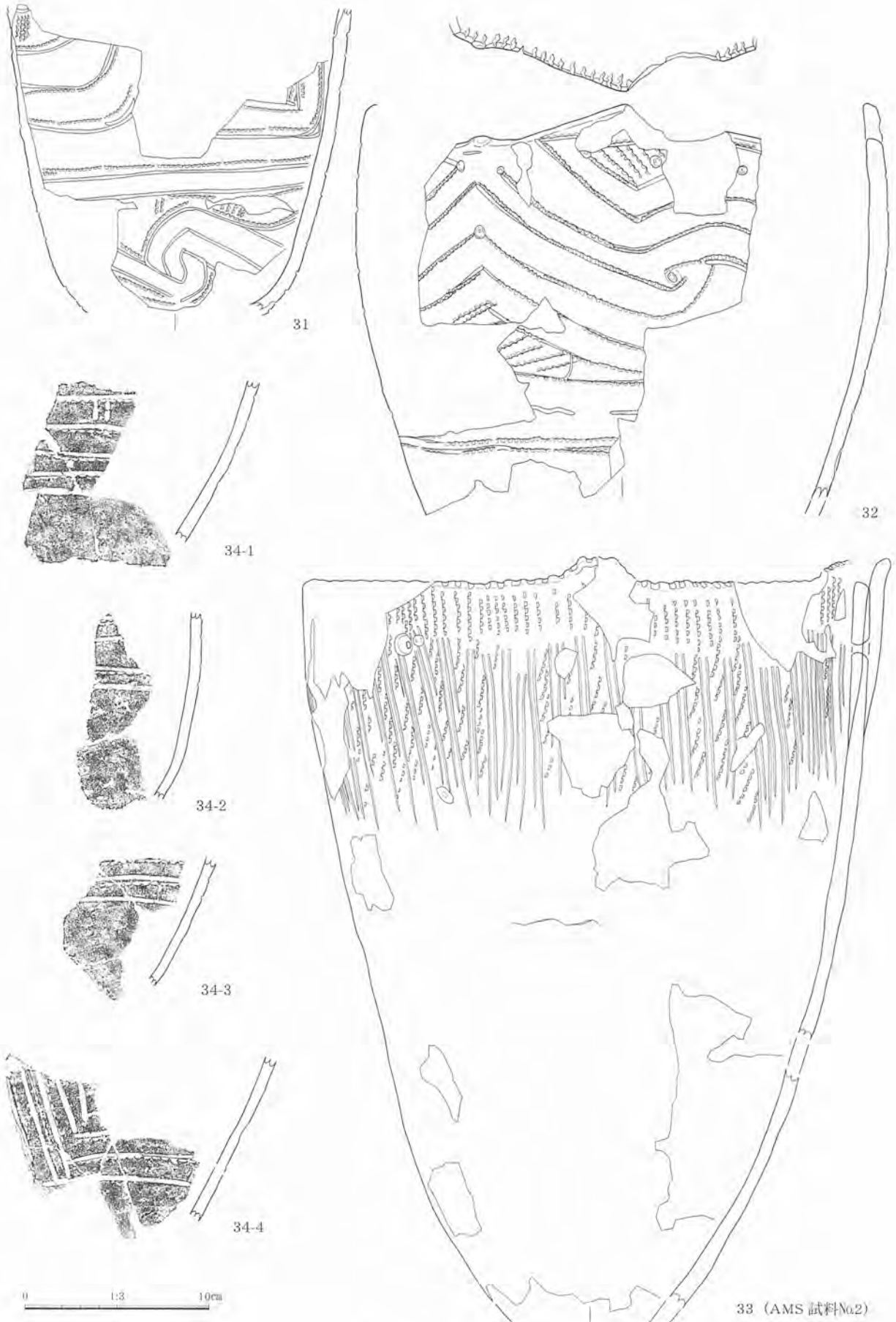
第17図 土器 (10~16)



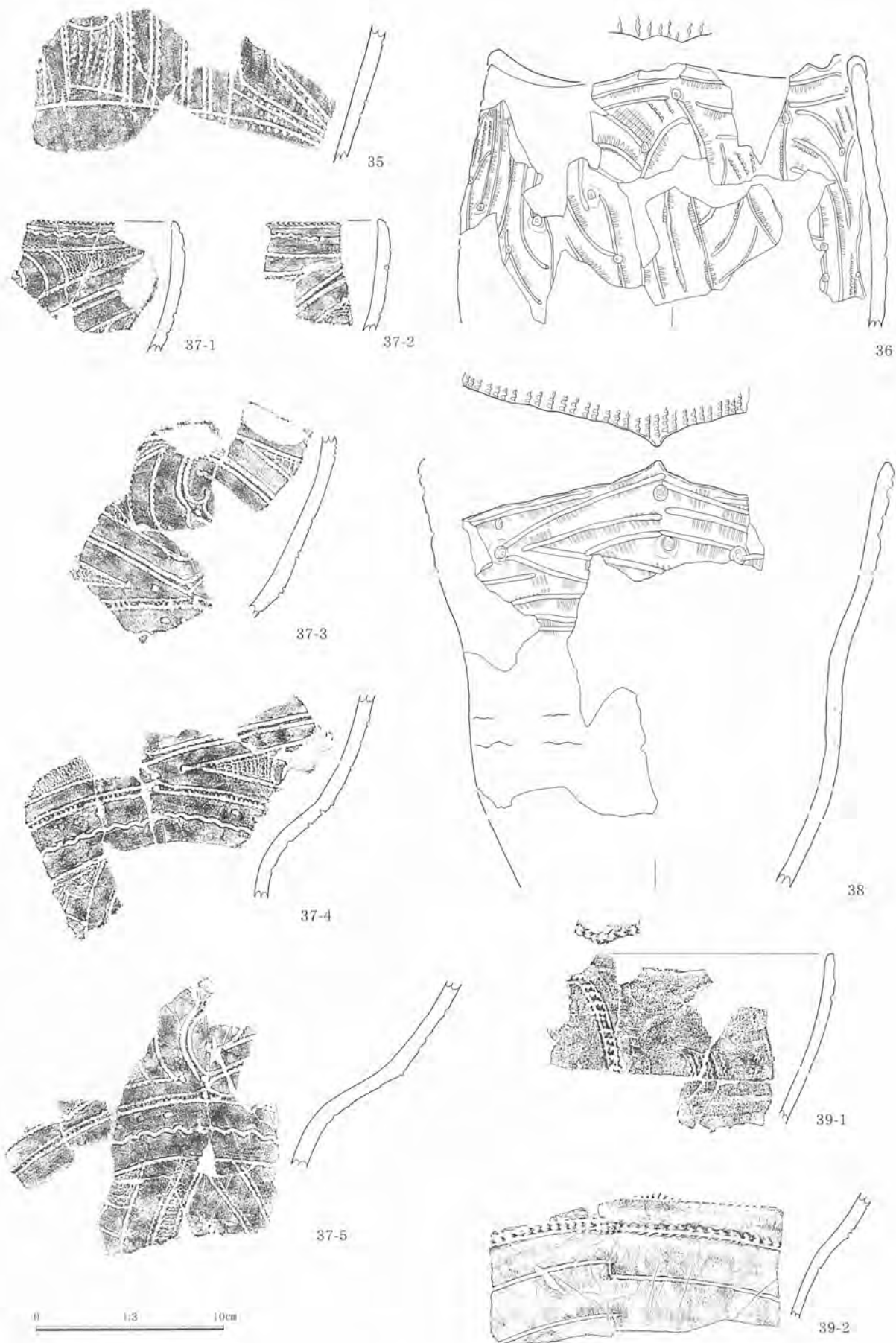
第18図 土器 (17~24)



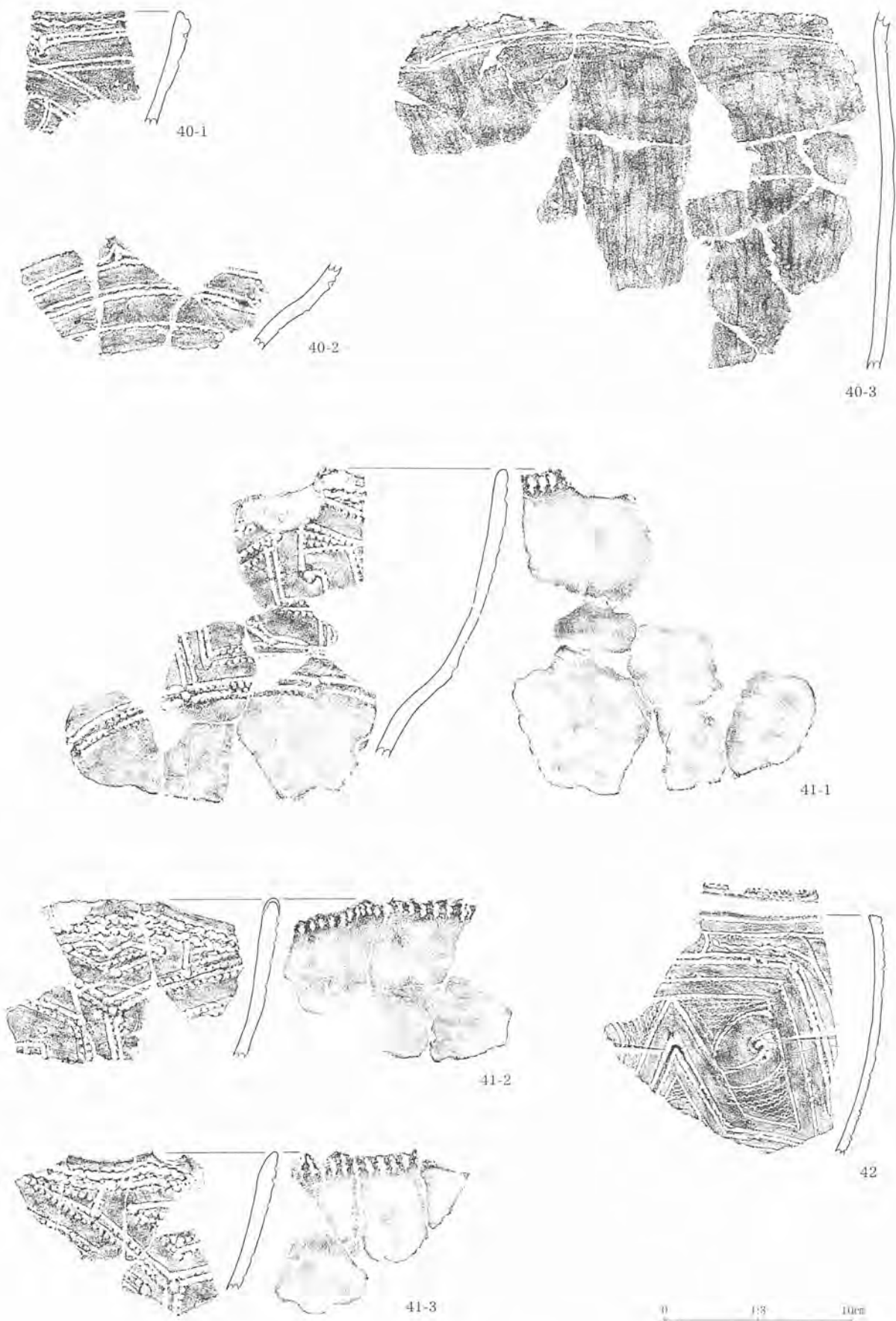
第19図 土器 (25~30)



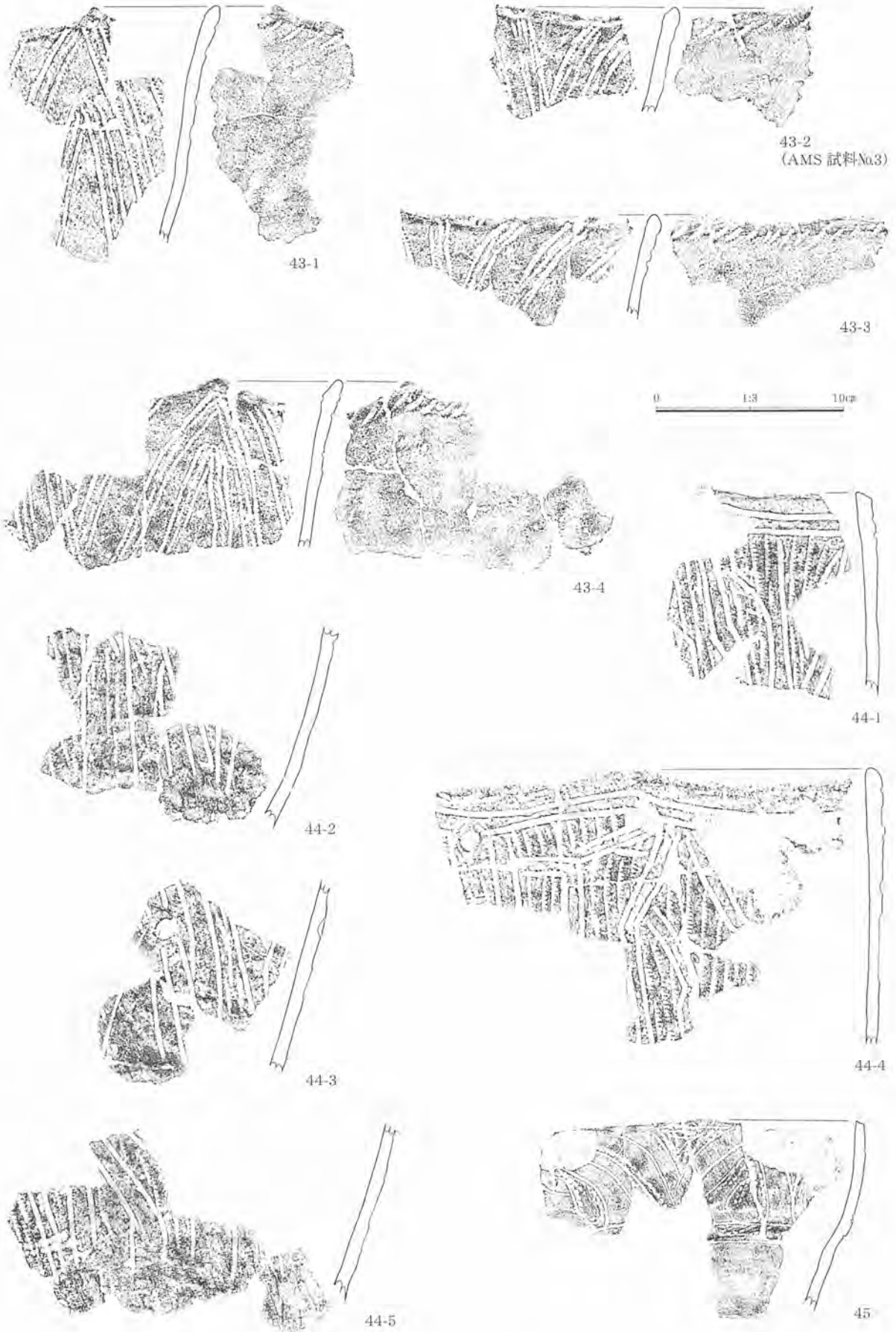
第20図 土器 (31 ~ 34)



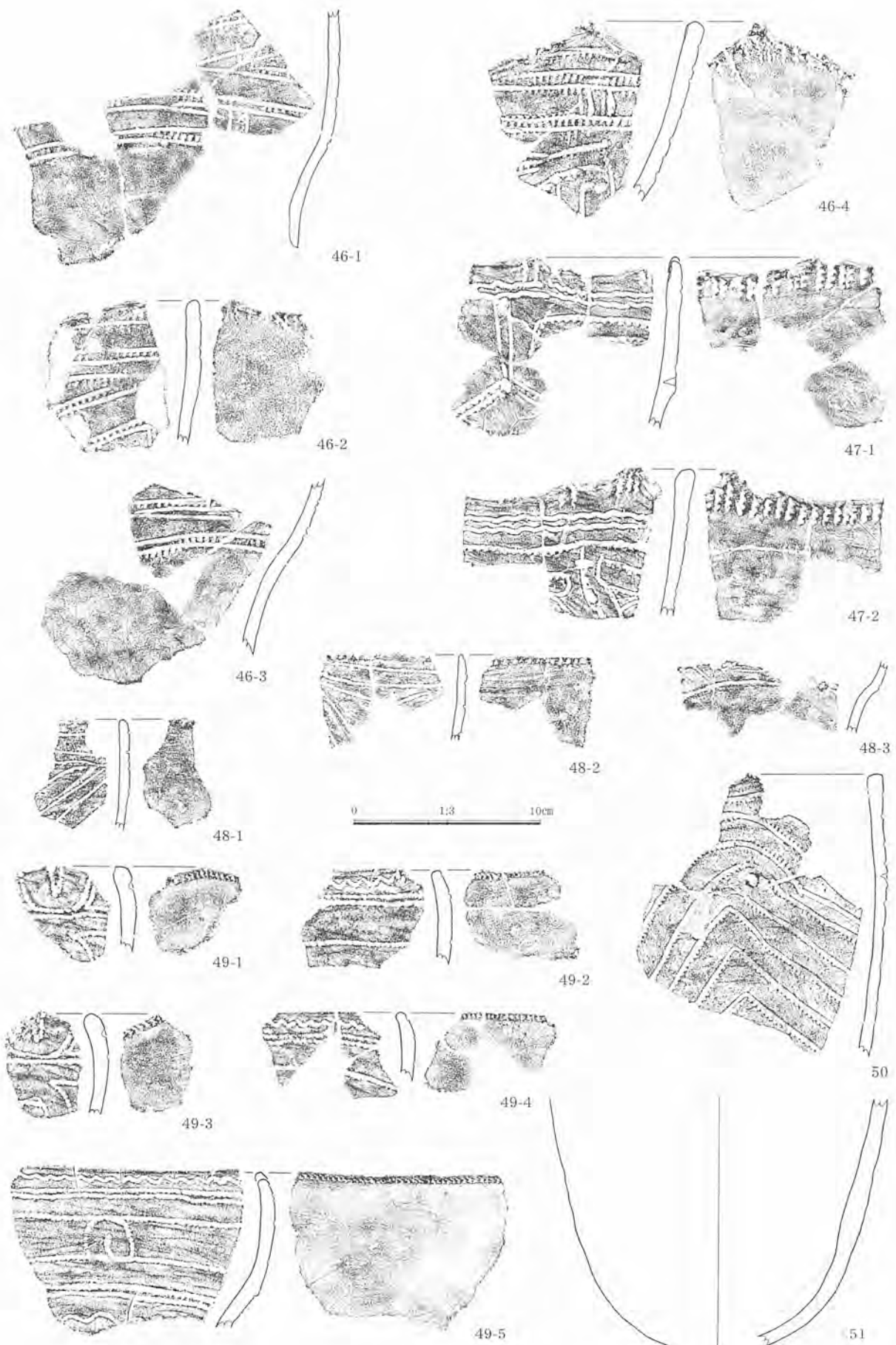
第21図 土器 (35 ~ 39)



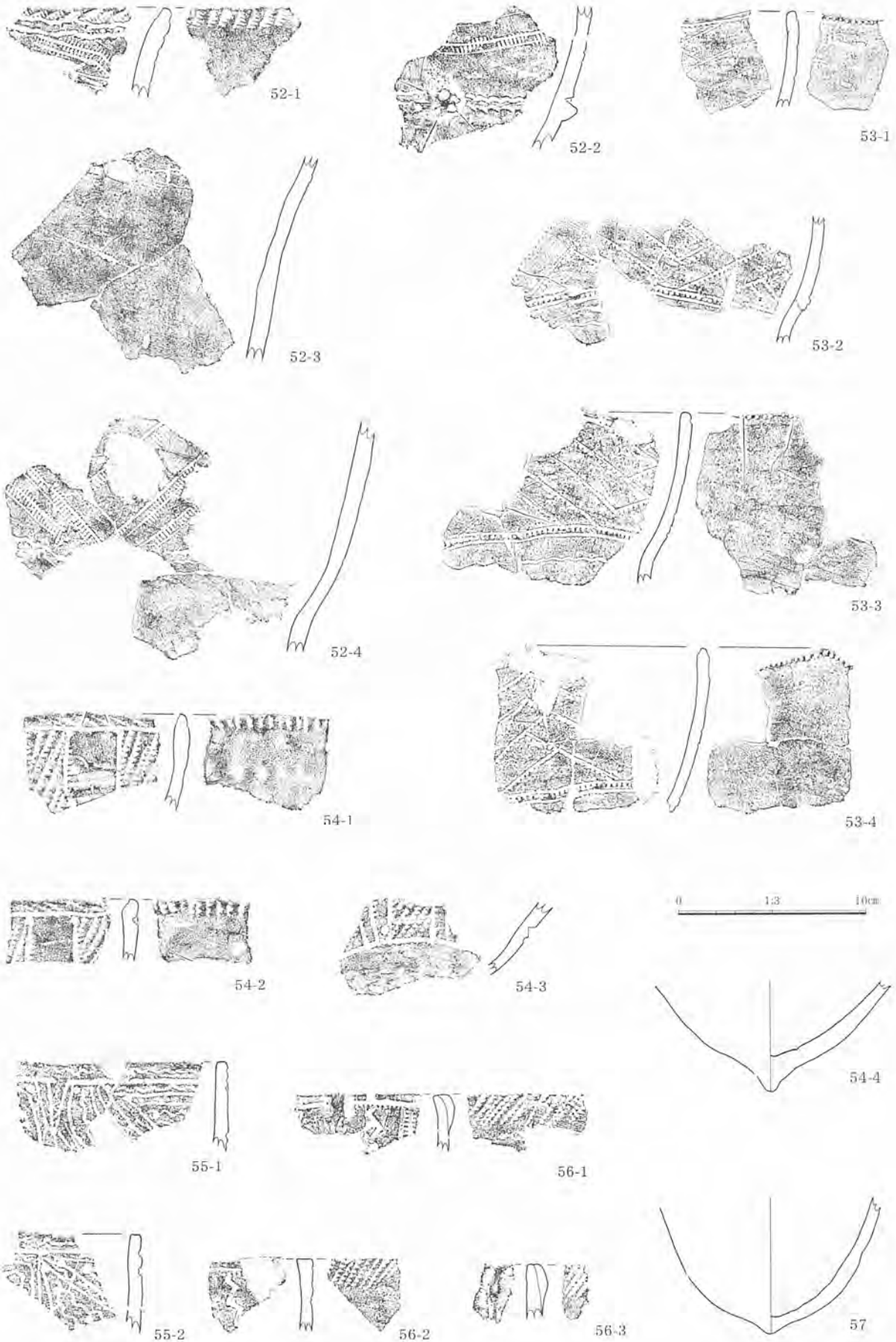
第22図 土器 (40～42)



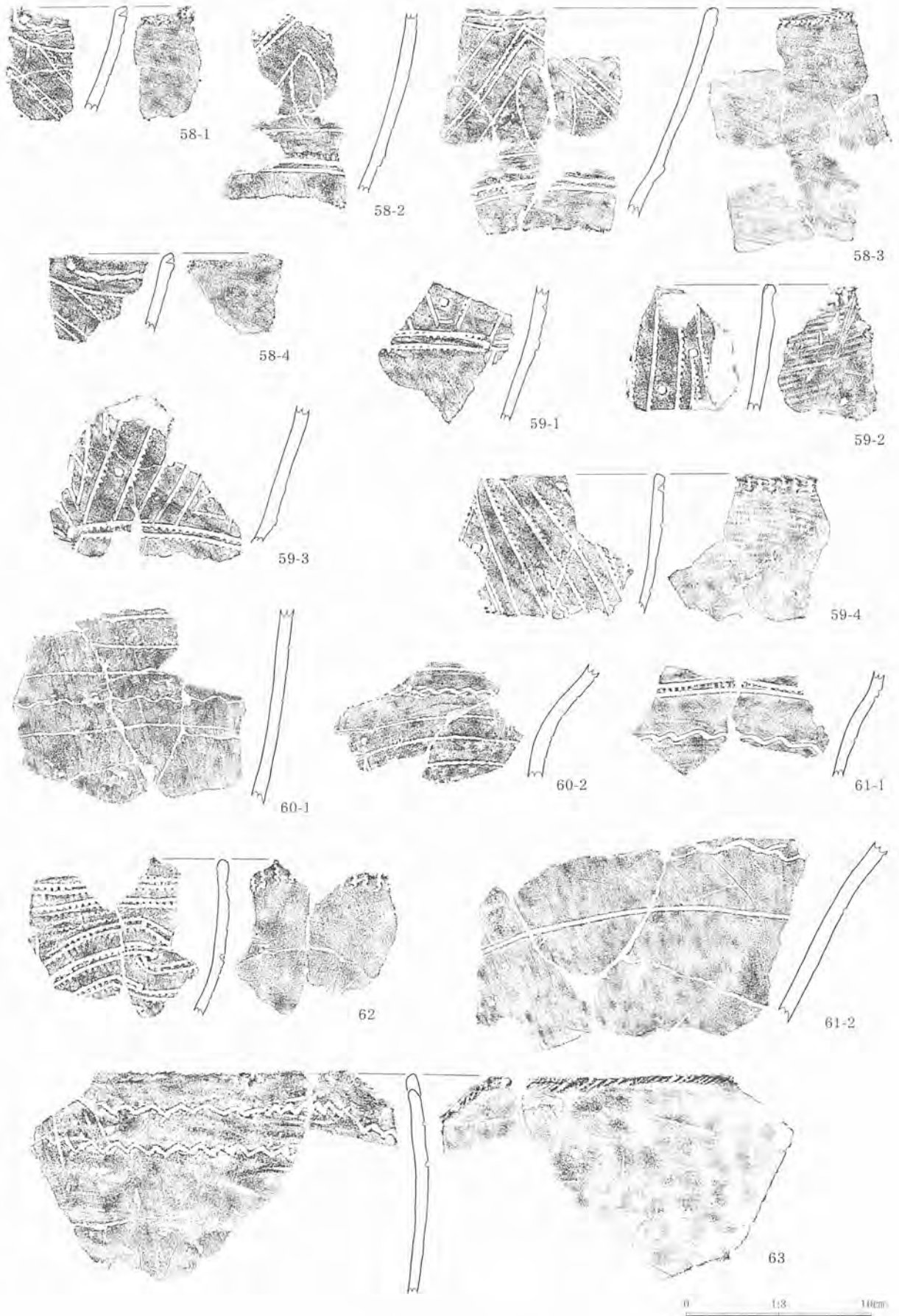
第23図 土器 (43～45)



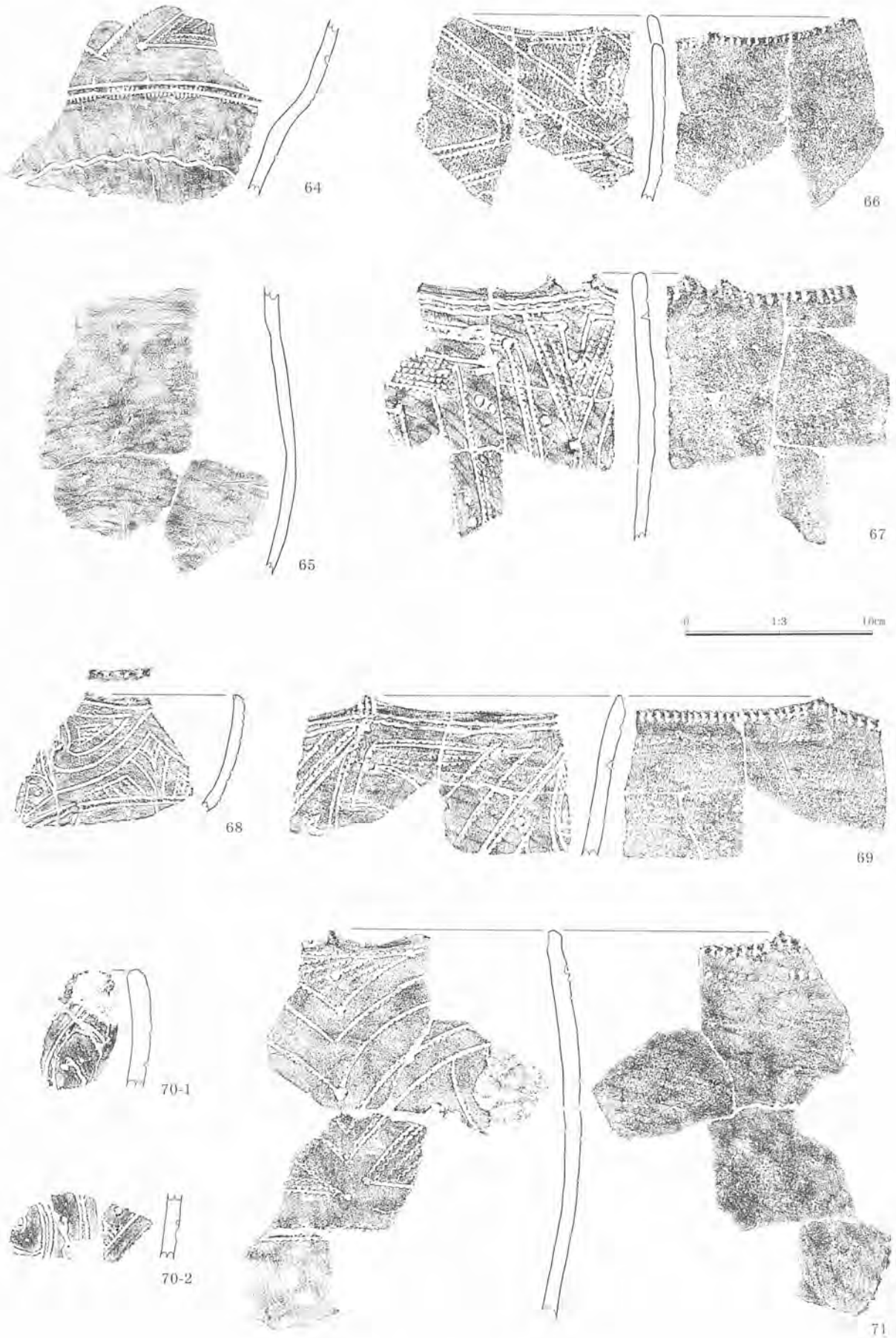
第24図 土器 (46~51)



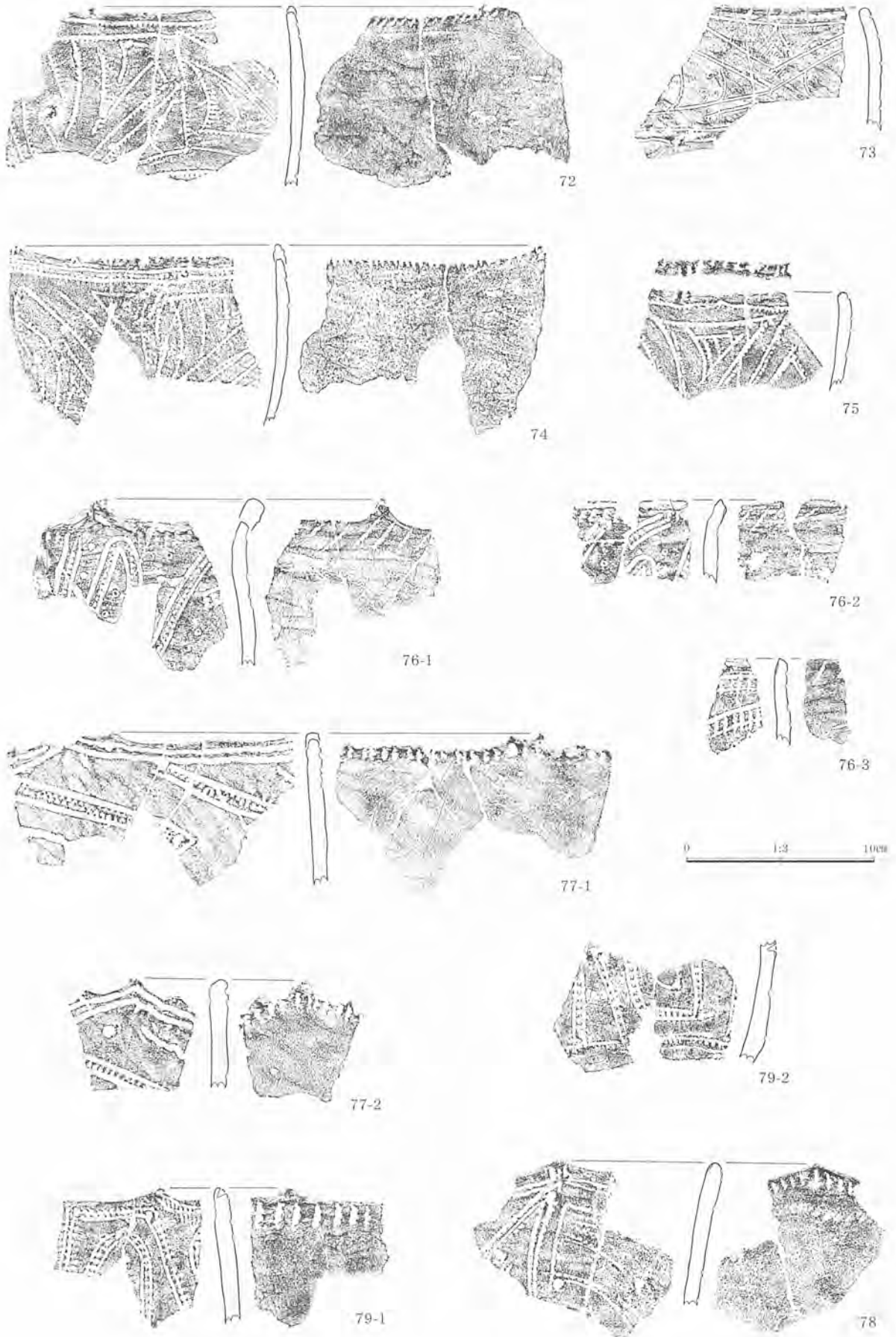
第25図 土器 (52~57)



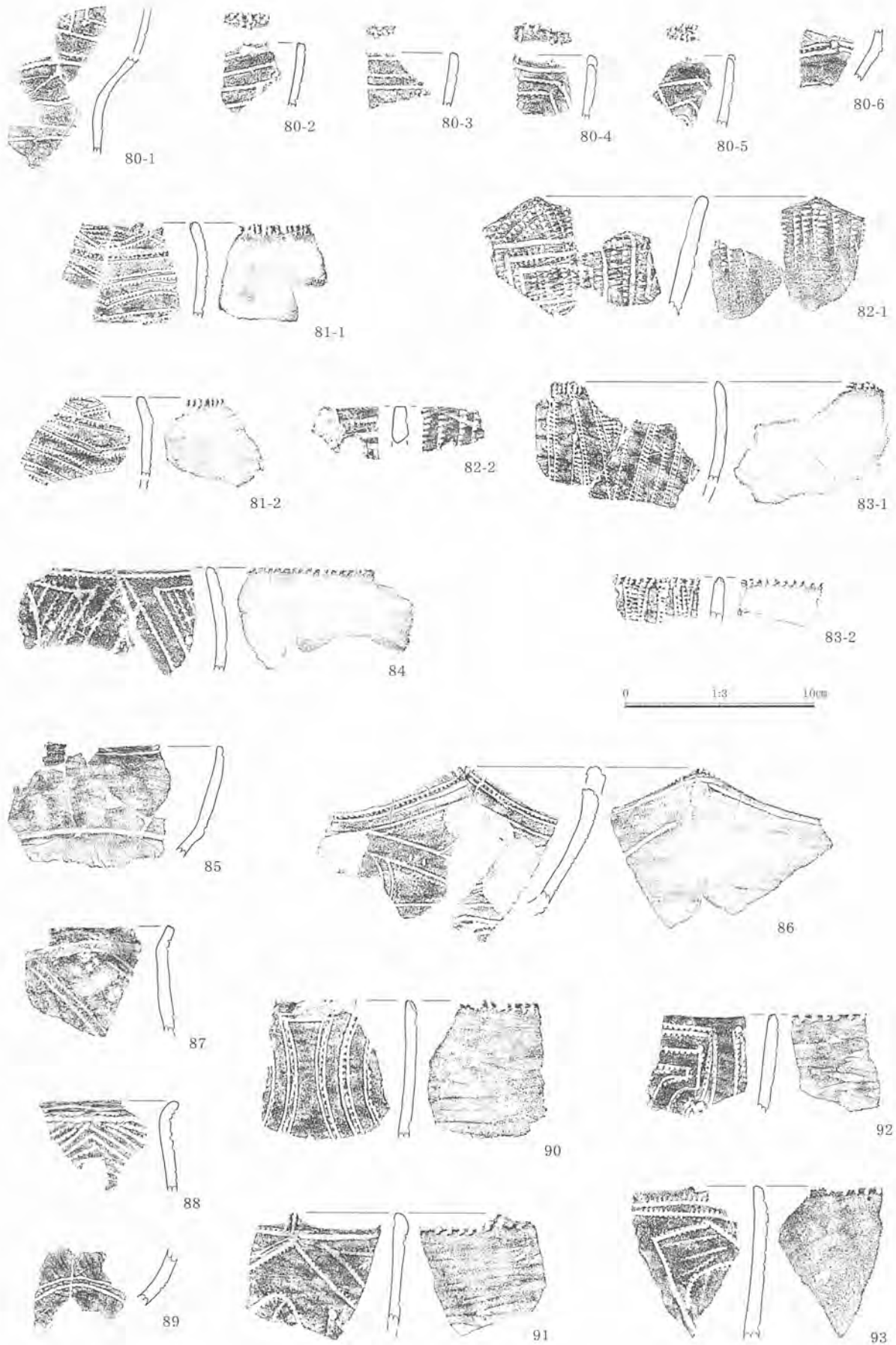
第26図 土器 (58～63)



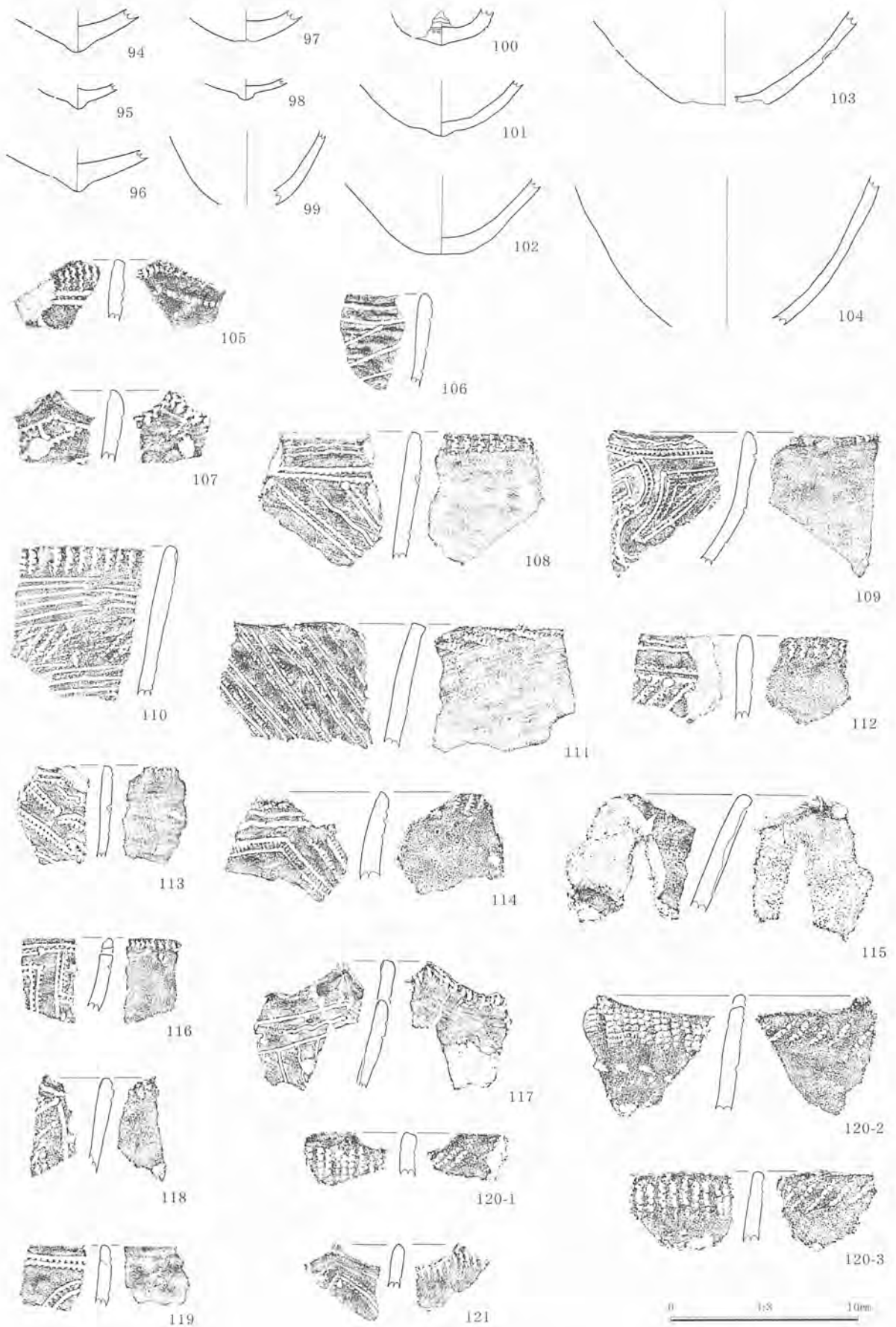
第27図 土器 (64～71)



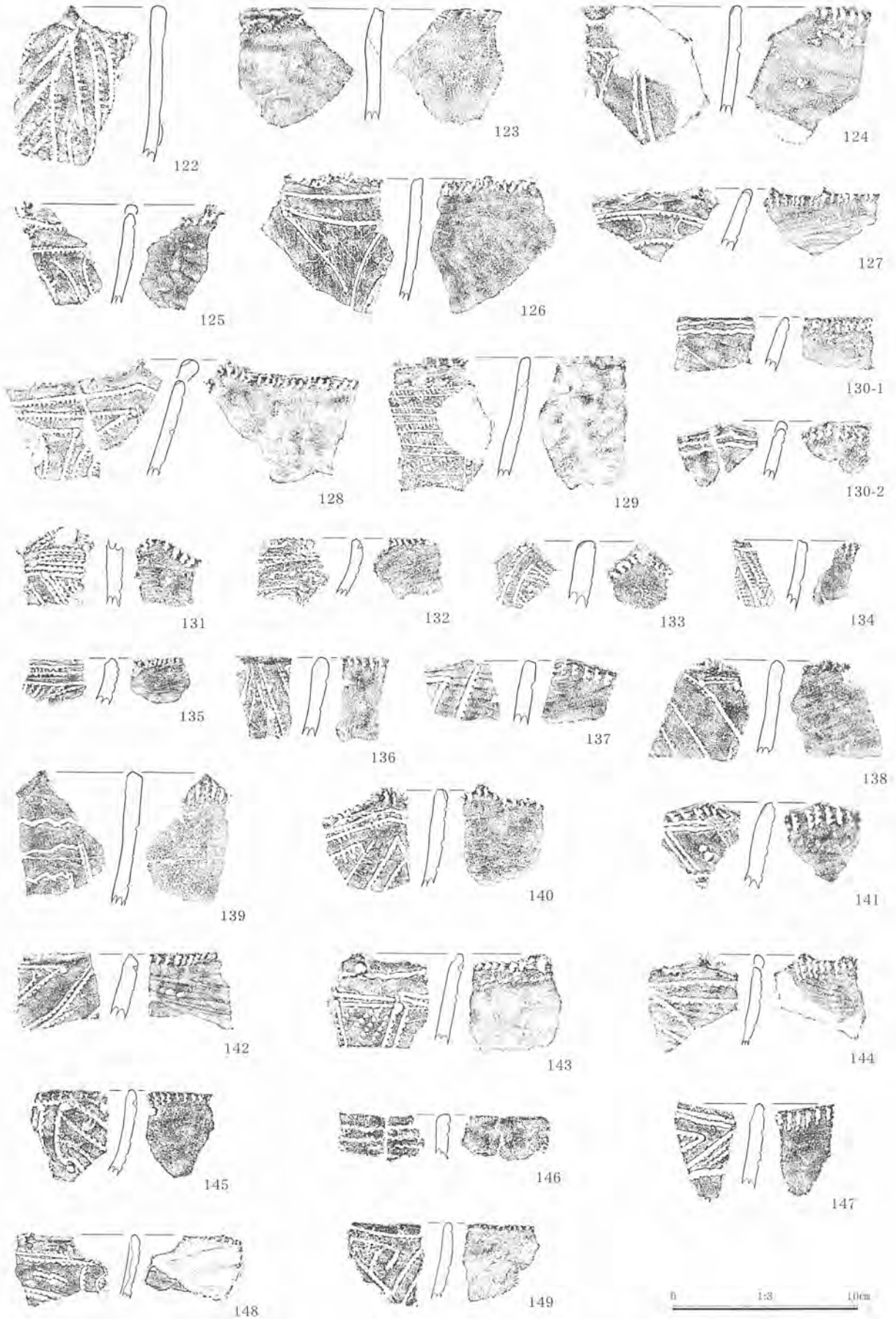
第28圖 土器 (72~79)



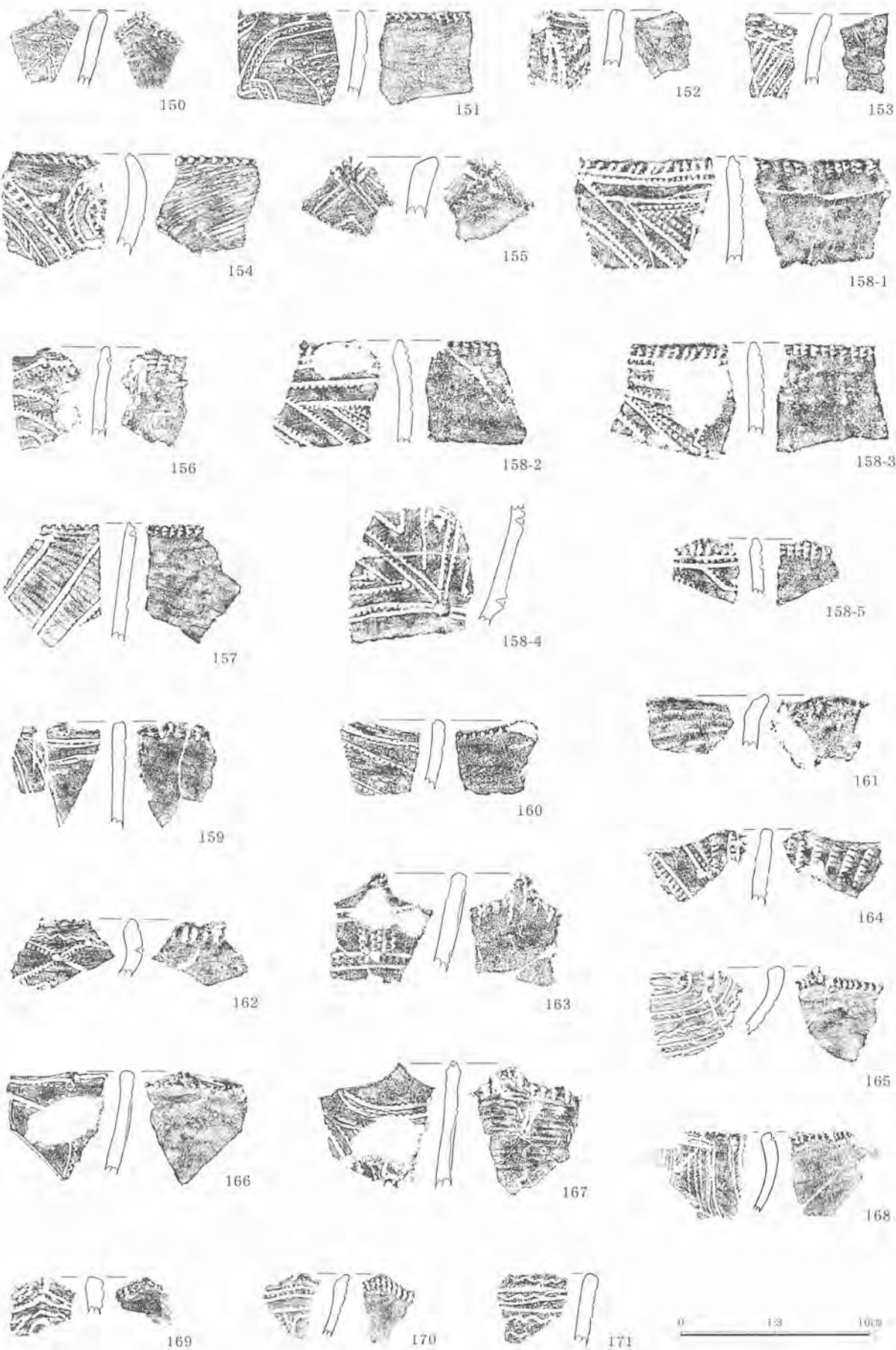
第29図 土器 (80~93)



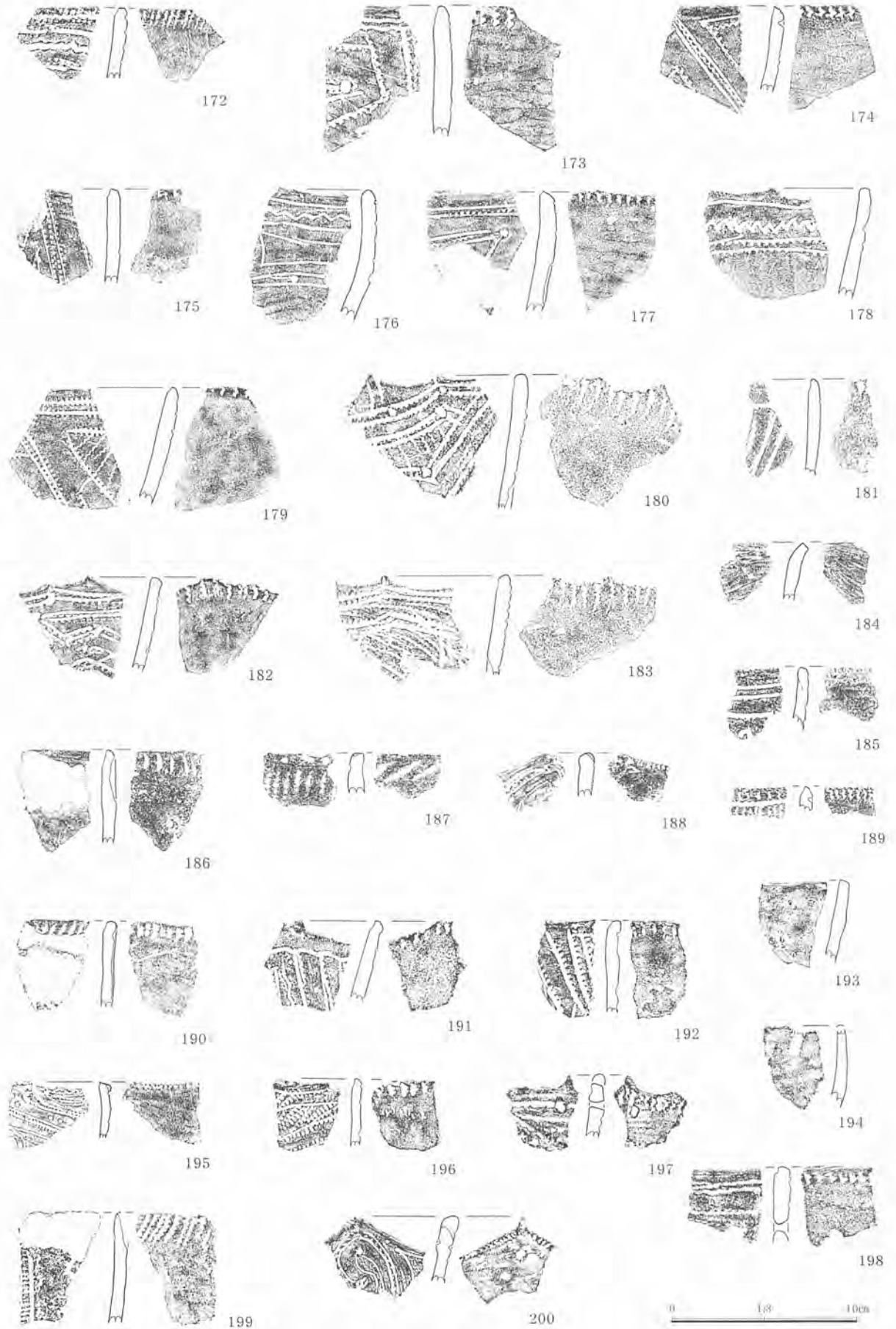
第30図 土器 (94~121)



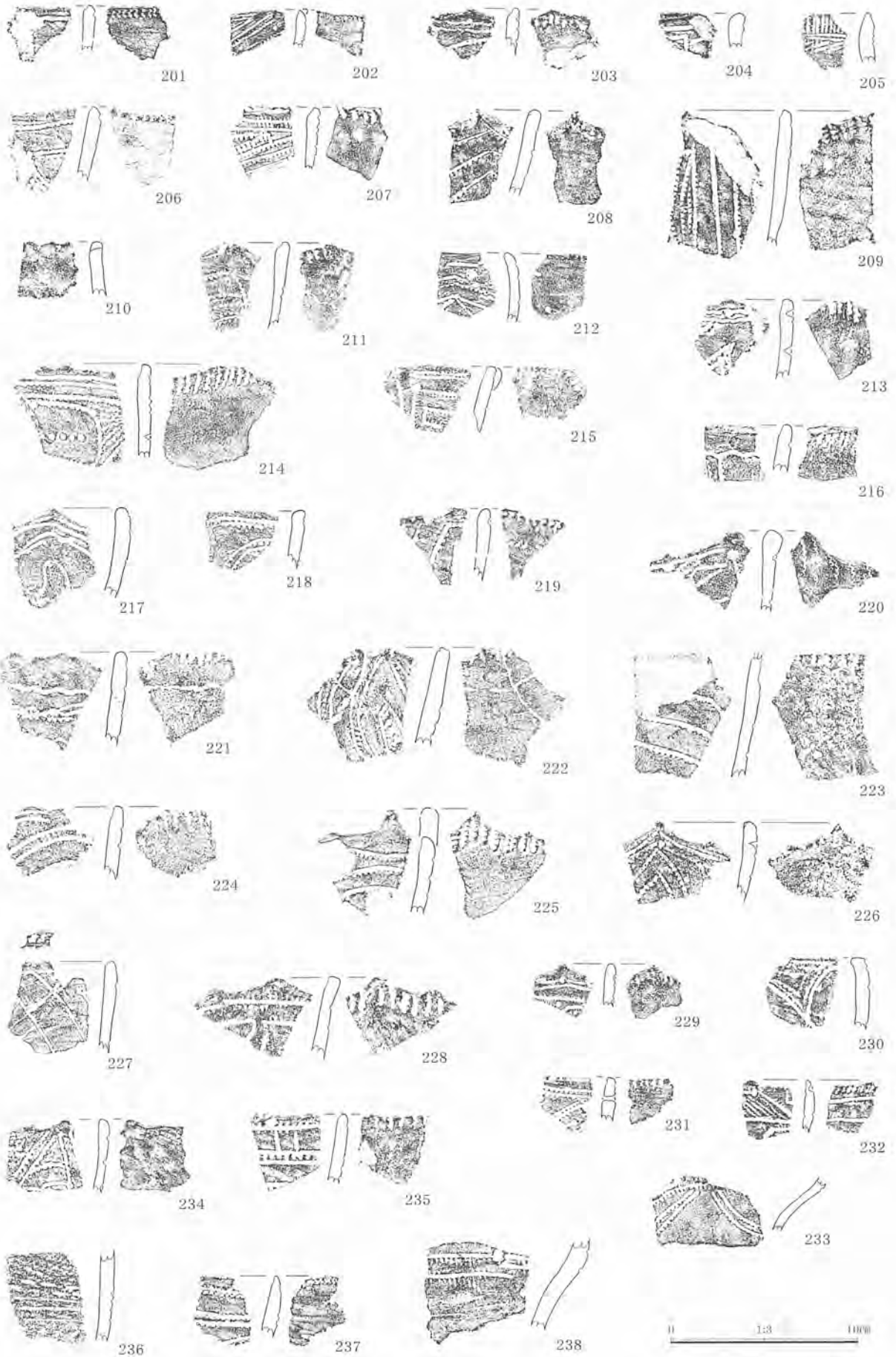
第31図 土器 (122 ~ 149)



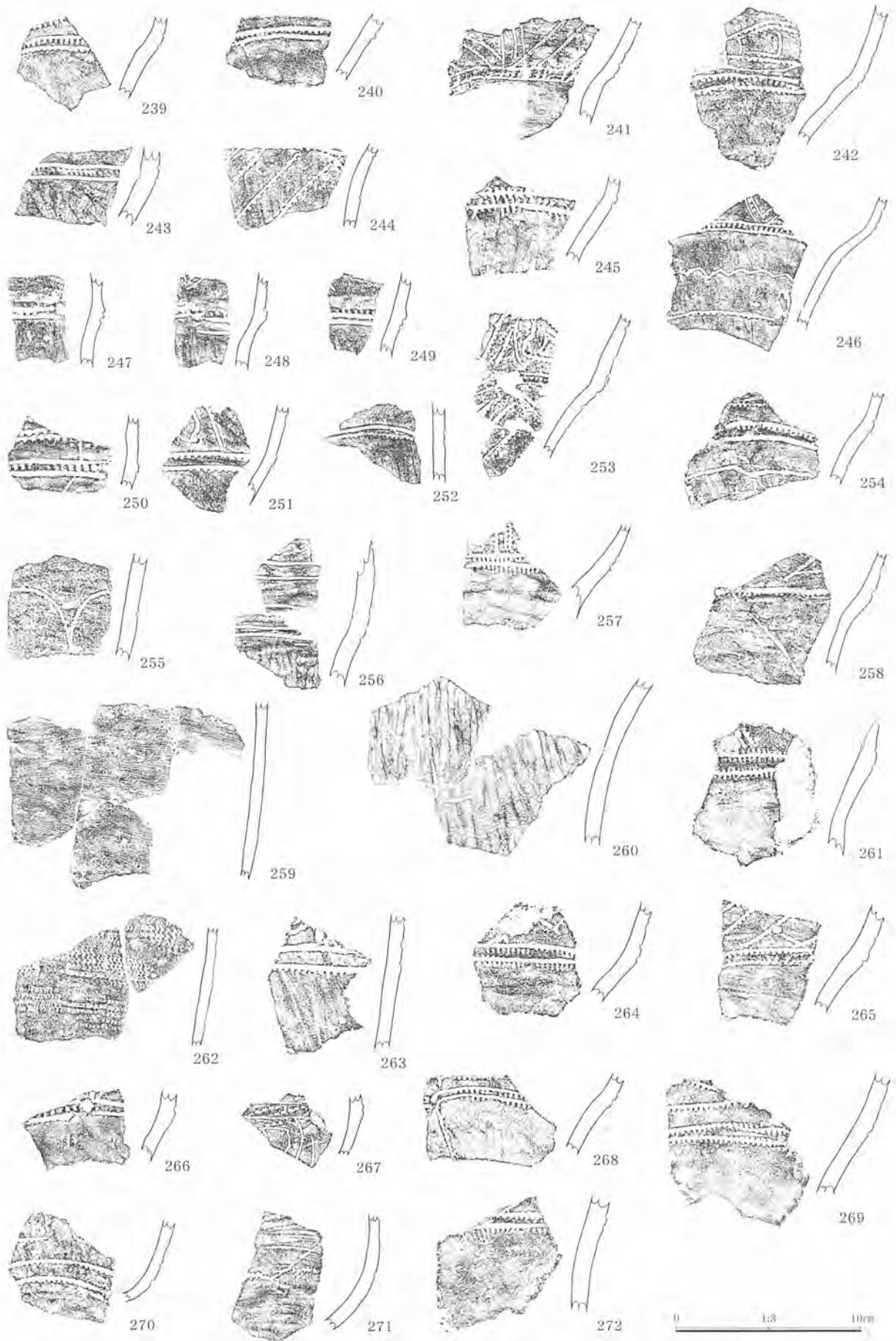
第32圖 土器 (150 ~ 171)



第33図 土器 (172~200)



第 34 図 土器 (201 ~ 238)



第35図 土器 (239~272)

近は、水平な括れに平行するように押し引き沈線が全周する。この水平方向の押し引き沈線は括れ部の屈曲地点で近接する2条があり、その上下に1条ずつ配されている。押し引き沈線は施文具の先端部の痕跡一つ一つが「く」の字形を呈し、先端部側がより深めに押し込まれている。体部下半は無文で、全体的にミガキ調整が施されている。25は口縁部から体部にかけて残存する小形の深鉢である。全体形は不明ながら、やや丸みのある器形である。文様は口唇部に貝殻腹縁文が連続して施されている以外は無文である。体部は全体的にミガキ調整のみで仕上げられている。破片の下端部にわずかな屈曲点が見られるが、体部中位の括れ部に該当するものかどうか判断できない。しかし、何らかの器形変化点であると考えられる。

27は口縁部から底部まで残存する深鉢である。残存する部分では、口縁部に突出部が設けられているが、その他の口縁部が欠損しているため単位は不明である。全体の器形は、口縁部分がかもとも開いた砲弾形を呈し、体部を上半と下半に分かつ括れや屈曲は認められない。底部はわずかに先端の突出があり、乳頭状となっている。器壁の厚みは口縁部から底部にかけてほぼ一定である。文様は口縁部内面に貝殻腹縁文が連続して施されている。外面の文様は文様最下端を1条の沈線によって、下半の無文部分と境界が設けられている。体部の文様構成は、口縁部から展開しており、多重の沈線による直線によって菱形や三角形が連続してみられる。これら沈線には貝殻文が結合されており、区画された最小区画の菱形や三角形の区画は連続する貝殻腹縁文によって充填されている。この沈線の結節点の一部には小隆起を伴った刺突文が配され、文様のアクセントとなっている。

30は体部から底部にかけて残存する深鉢である。体部は丸みのある砲弾形で、底部は乳頭状の突出が作り出されている。器壁の厚みはほぼ一定である。文様は残存する部分の大半が無文であるが、最上部には、半裁竹管による2筋の沈線が縦方向に施されている。これら沈線には乱雑に貝殻文が施されている。

31は体部が残存する深鉢である。この残存部が体部のどの部位に該当するか判断は難しいが、最下部に丸みを持つ大きなカーブが認められることから、丸底の底部へと続く可能性が考えられる。外面に展開する文様は、直線と曲線からなる沈線によって幾何学的に構成されている。残存部中位には2条の平行する沈線が巡っているため、これらが体部上半と下半とを区分している可能性が高く、想定される器形とも矛盾しない。したがって、この深鉢は本来、体部上半はもとより底部に近い体部下半にまで幾何学文様が配されているものと推測される。特に体部下半の文様は、直線と曲線で作られた鈎形の文様が入り組む文様帯を形成しており、体部下半に無文帯が展開する多くの出土土器と趣を異にしている。また、大半の沈線に沿うように貝殻腹縁文が施されている。

32は口縁部から体部にかけて残存する深鉢片である。口縁部は突出部を有すると考えられる。口縁部から体部へ向け緩やかに窄まる形態であると考えられる。体部下半が欠損しており、全体形は不明であるが、文様構成から体部に括れや屈曲はみられない器形であると考えられる。

33は口縁部から体部下半にかけて残存する大形の深鉢である。口縁部は水平を基本とするが突出部が少なくとも対面する2箇所を確認できる。この口縁の突出部は外反傾向であるが、その他は直立気味である。全体形は砲弾形を呈し、屈曲や括れは存在しない。底部は欠損しているため、形態は不明であるが、尖底か丸底になるものと考えられる。器壁の厚みはほぼ一定である。口縁端部には連続する圧痕文が施されている。竹管のような工具側面を押しつけたような痕跡であると考えられる。外面の文様は、口縁部直下に貝殻腹縁文が縦方向に連続して施され、それより下では半裁竹管による沈線が縦方向にみられる。この半裁竹管の隙間には貝殻腹縁文が斜め方向に施されている。体部にみられる半裁竹管文と口縁端部にみられる凹凸は同一の工具である可能性が高い。体部下半は無文である

が、全面的にミガキ調整が認められる。内面には帯状にコゲが付着しており、煮沸容器として使用されたものと考えられる。

36 は口縁部から体部上半にかけて残存する深鉢である。口縁部は波状であり、低い突出部が認められる。ほぼ均一な厚みを維持しながら、やや内傾気味に立ち上がる。体部括れの有無は不明である。

文様は口縁部内面に貝殻腹縁文が連続して施されている。体部外面は沈線に貝殻文が伴い、これら多くの曲線によって幾何学的な文様が展開する。沈線の結節点や変化点の一部には刺突文が施されており、それらのいくつかは小隆起を伴って施されている。

38 は口縁部から体部にかけて残存する深鉢である。残存する口縁部に突出部が認められることから、波状口縁であると考えられる。口縁部は外傾し、体部中位に緩やかな曲線の括れが認められる。口縁端部は丸く収められ、突出部は肥厚しない。

文様は口縁部内面に貝殻腹縁文が連続して施されている。外面は体部上半のみ文様が展開しており、文様はやや幅広の沈線に貝殻文が沿うように施されている。沈線の結節点や変化点の一部には刺突文がみられ、いくつかは小隆起を伴うものである。

縄文土器（第 36～77 図、写真図版 52～91）

縄文時代早期後葉の土器内面に条痕が認められ、縄文早期後葉の条痕文土器に属する資料である(273～279)。土器の器厚は全般に薄く、3～5mmの範疇に収まる。細隆起線文の施文の有無などで2種類に大別した。内外面ともに条痕文のみを施文する土器類である。胎土中には、石英と推定されるガラス質の鉱物が顕著に認められる。出土層位はⅦ層から主体的に出土している。関東の子母口式並行期と推定される。

288・289 は、外面に細隆起線文を施文する土器群で、槻木1式と推定される。細隆起線文は、基本的に粘土紐貼り付けによる手法と判断されるものが多いが、チューブデコレーション手法による施文の可能性を指摘する識者もある。出土層位はⅥ層を中心とすることから、Ⅶ層を主体とする条痕文のみを施文する土器類より古期である可能性も窺える。細隆起線による文様施文手法は、いわゆる充填区画内手法が用いられている。この細隆起線文の様相から関東地方との並行関係を模索すると、野島1式に並行する可能性がある。

土器内外面に縄文の施文が観られる土器群で、縄文時代早期末葉の表裏縄文土器に属する資料を集めた。出土層位はⅥ層及びⅦ層である。特徴としては以下の3点を挙げておきたい。①施文される原体は全てLRである。②口唇部には縄文原体の側面圧痕文が施文される。③胎土中には繊維を含む。これらの土器群は、赤御堂式の新段階に相当する可能性がある。

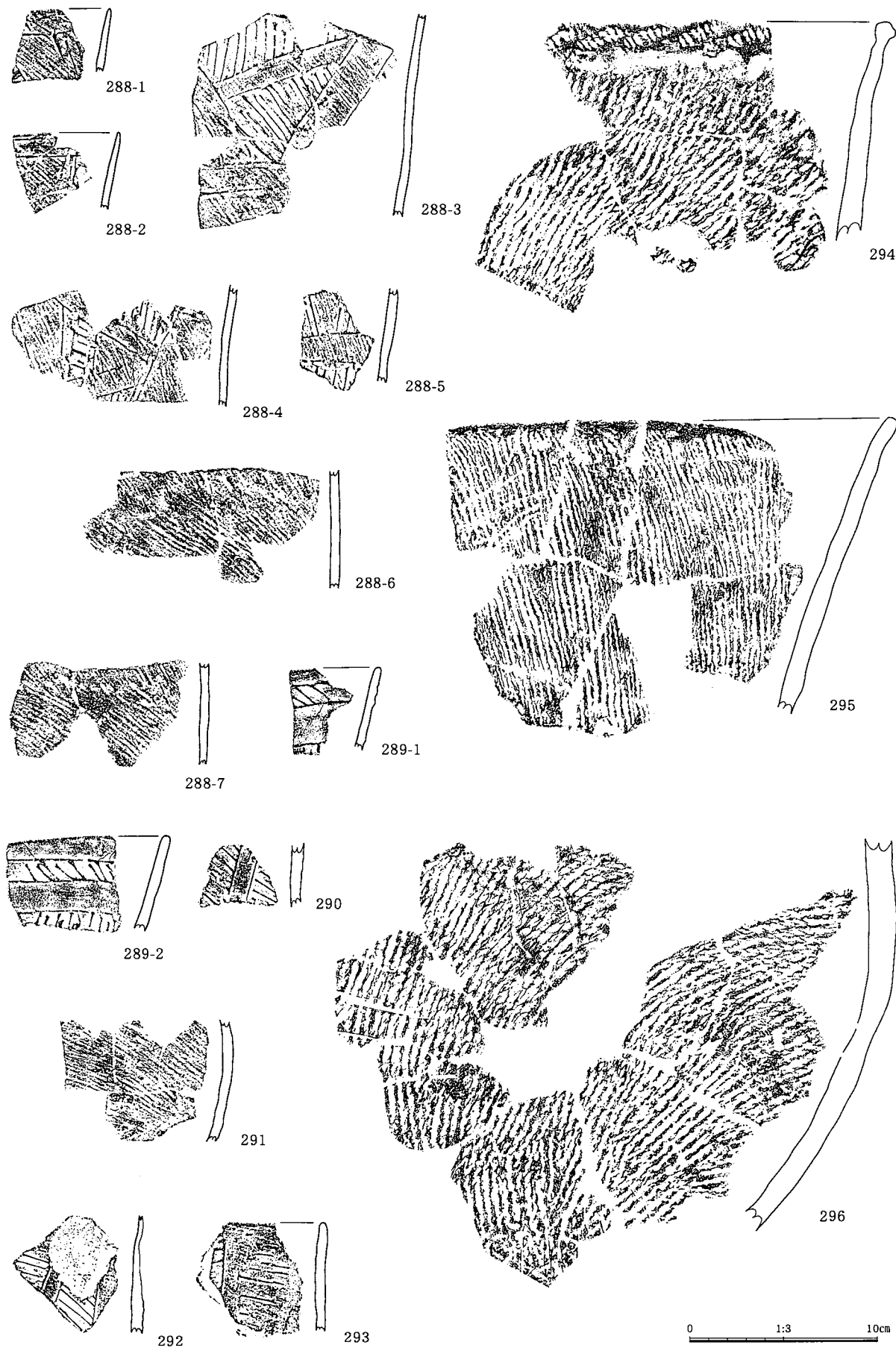
297～314 は胎土への繊維混入が顕著で（多量に含む）、土器の器厚も厚い特徴を持ち、地文に0段多条が用いられている土器群である。出土層位はⅥ層で、To-Cuより古期の土器群と判断される。地文は、LR・RL非結束羽状縄文、LR単節斜行縄文、L無節の3種類が認められる。早期末葉～前期初頭の上川名2式や宮古市千鷲遺跡報告書中で千鷲2式とされているものに相当すると推定される。

前期前葉～中葉と推定される資料を集めた。土器型式に比定すると、大木1～2a式、大木2a式、大木2b式、大木3式と推定される。また一部白座式に相当する可能性がある。

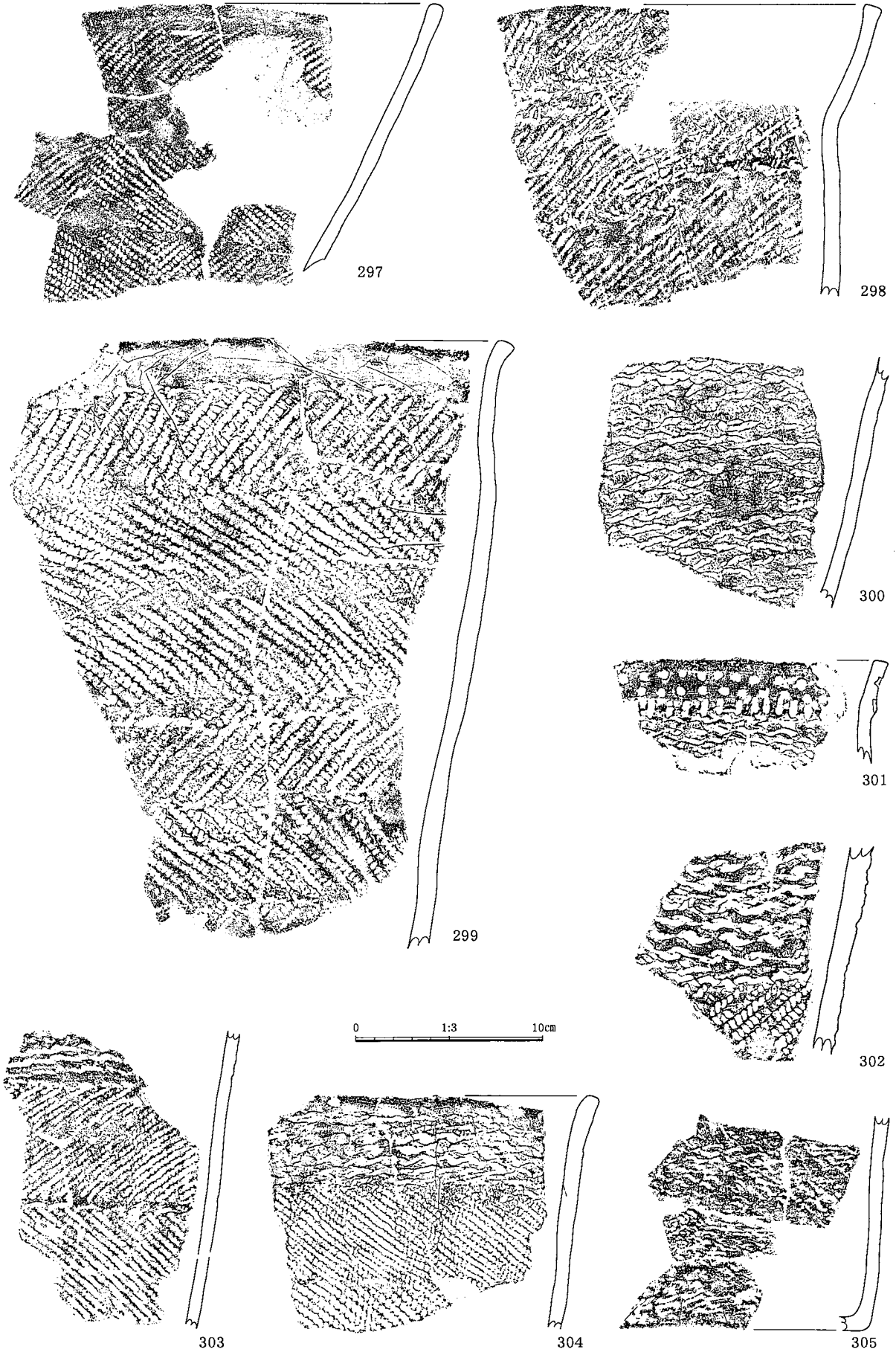
297・298・306 は大木1式と特定できる可能性が考えられる。大木2a式との分離が明確にはできなかったが、非結束の羽状縄文を施文するものや、胎土中への繊維混入量がやや多いと思われる資料に、大木1式の可能性を求めた。出土層位はⅤ層とⅥ層である。297は、平縁で口唇部は面取りが施



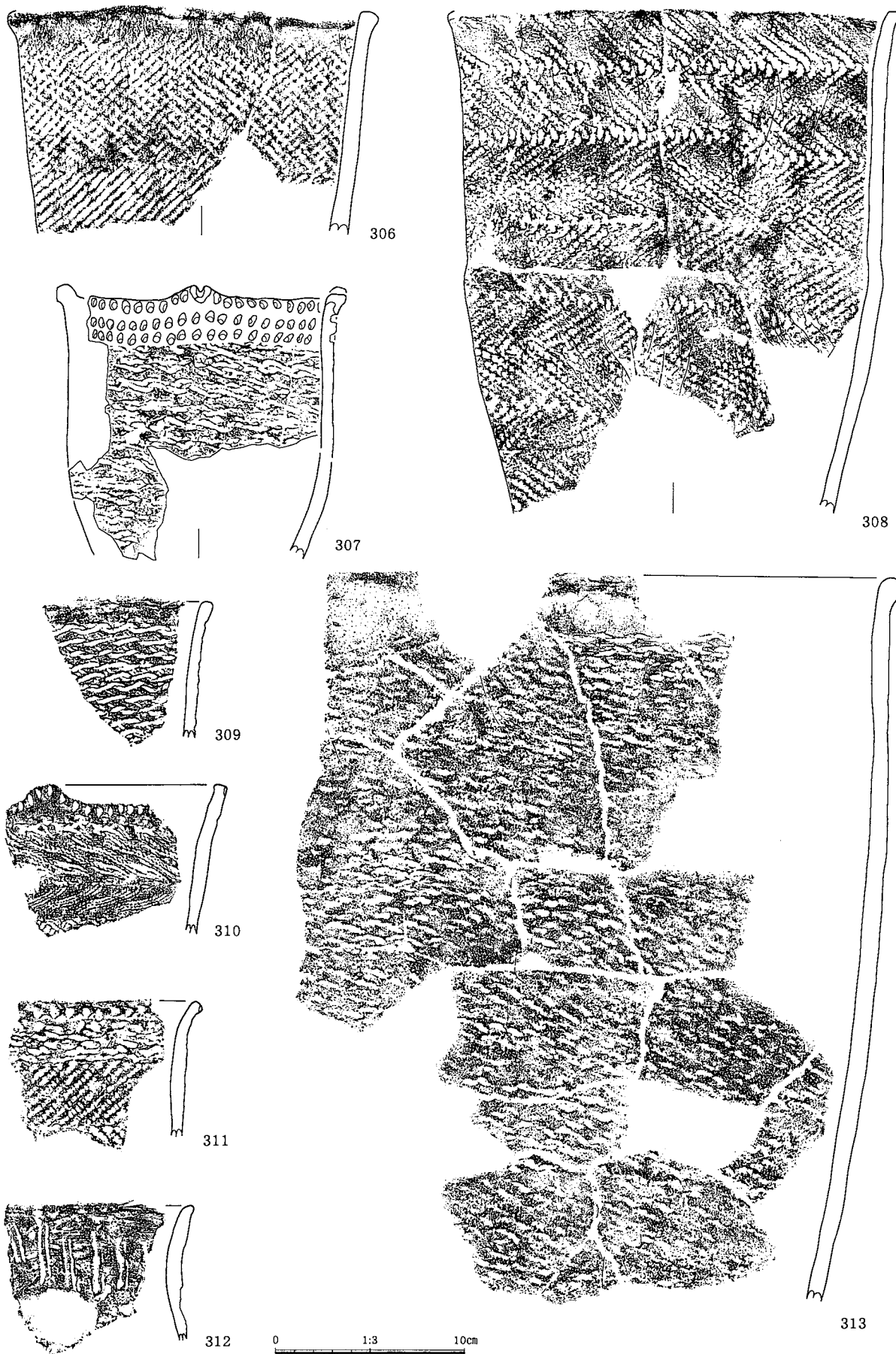
第36図 土器 (273~287)



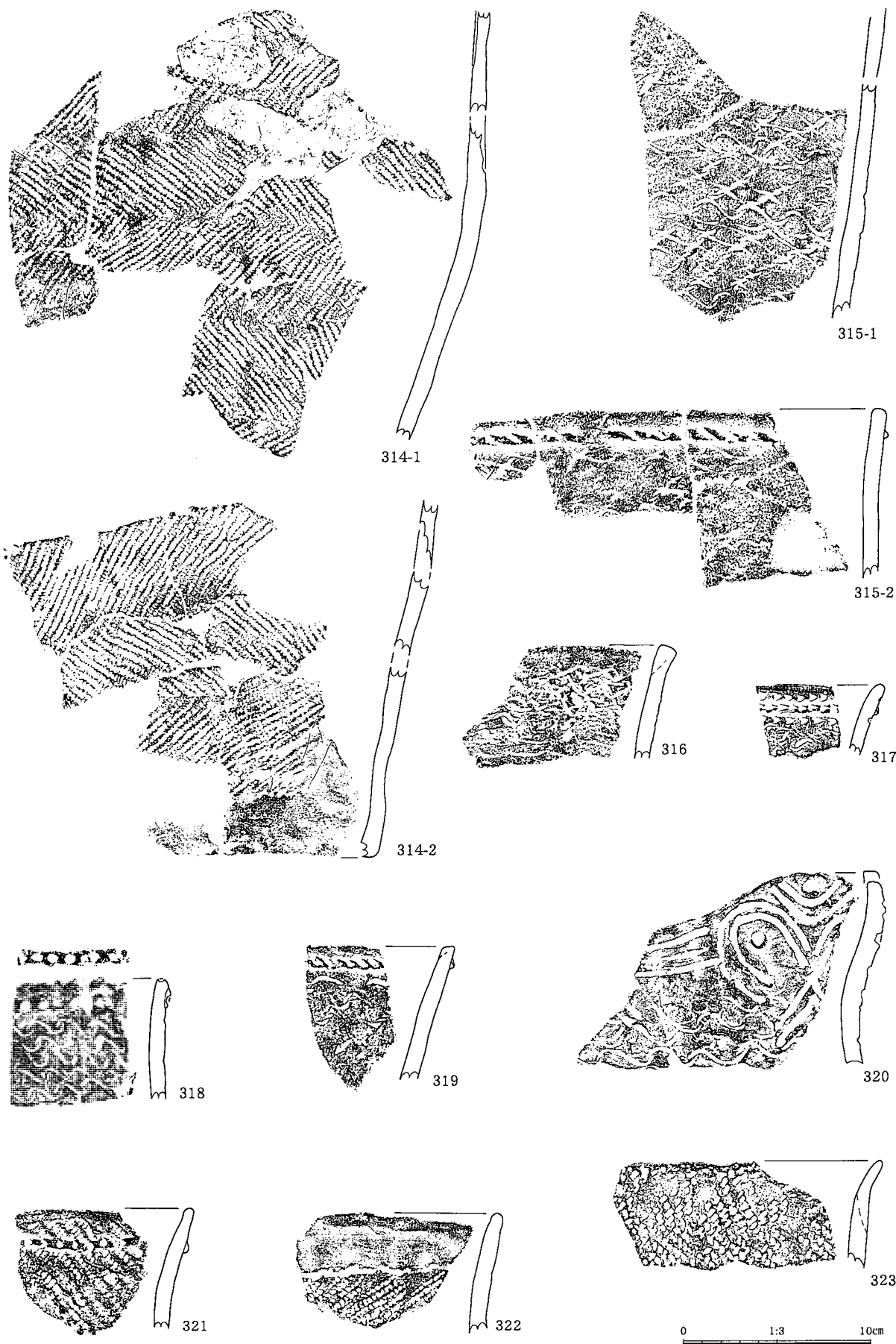
第37図 土器 (288 ~ 296)



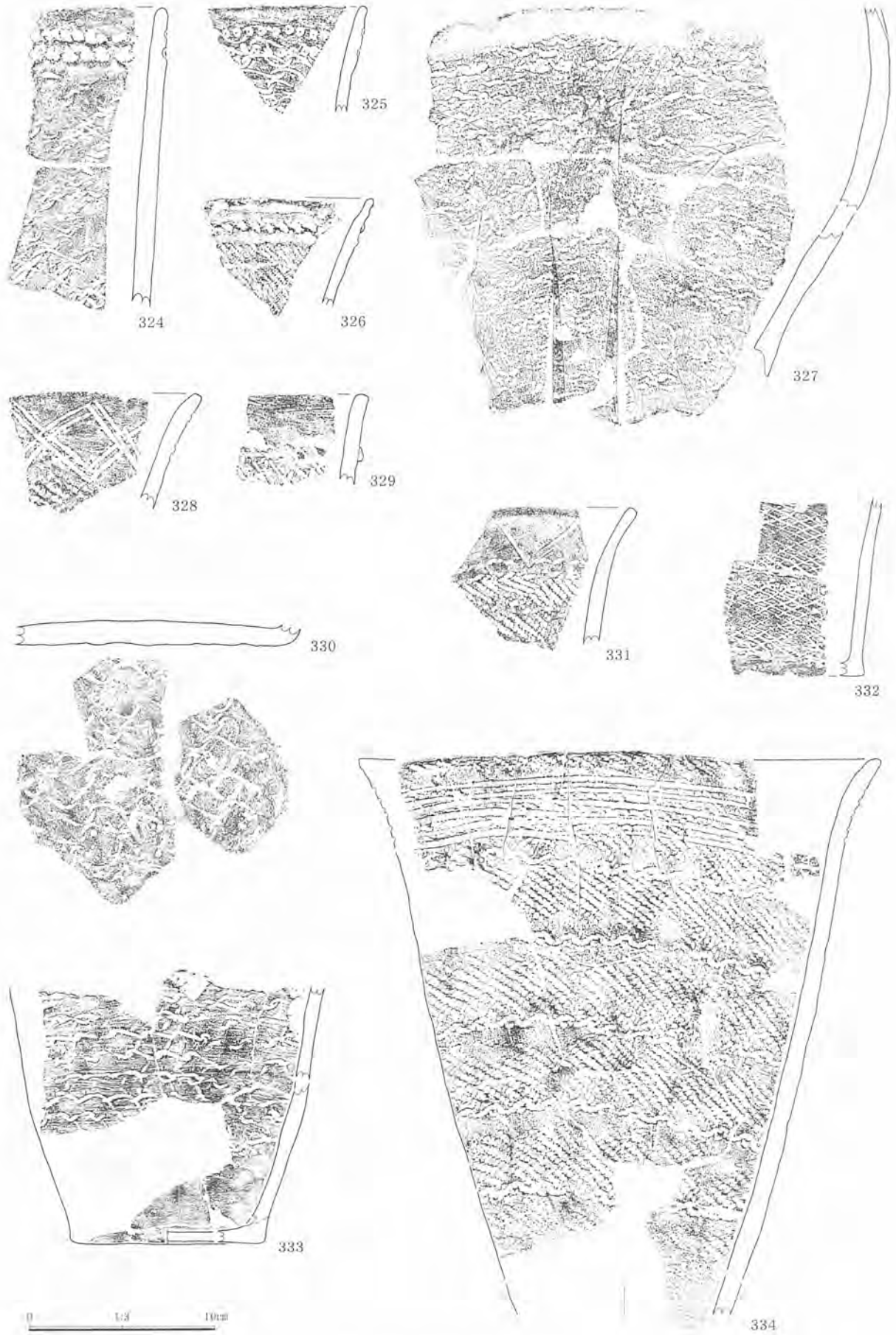
第38圖 土器 (297 ~ 305)



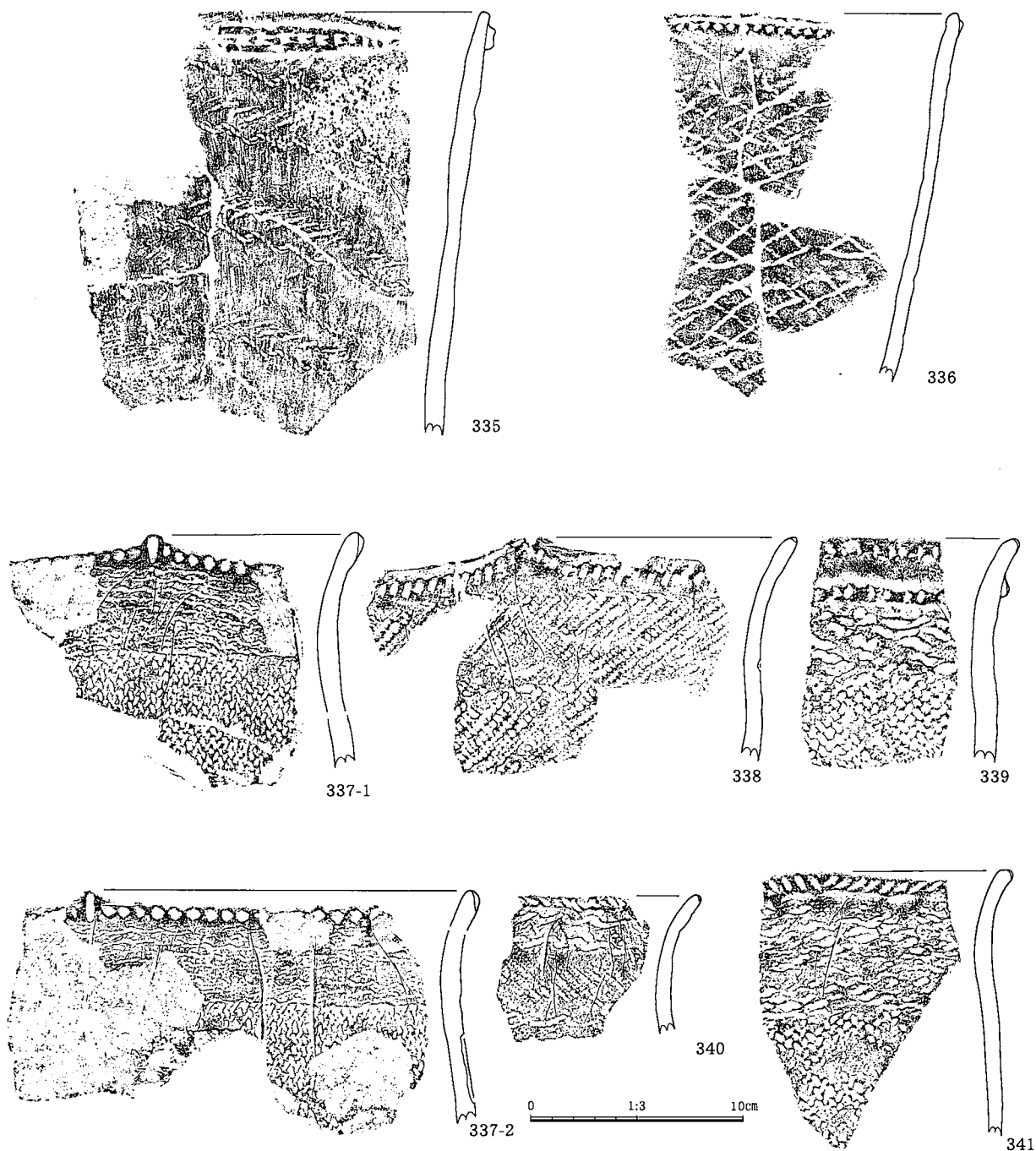
第39図 土器 (306～313)



第40圖 土器 (314 ~ 323)



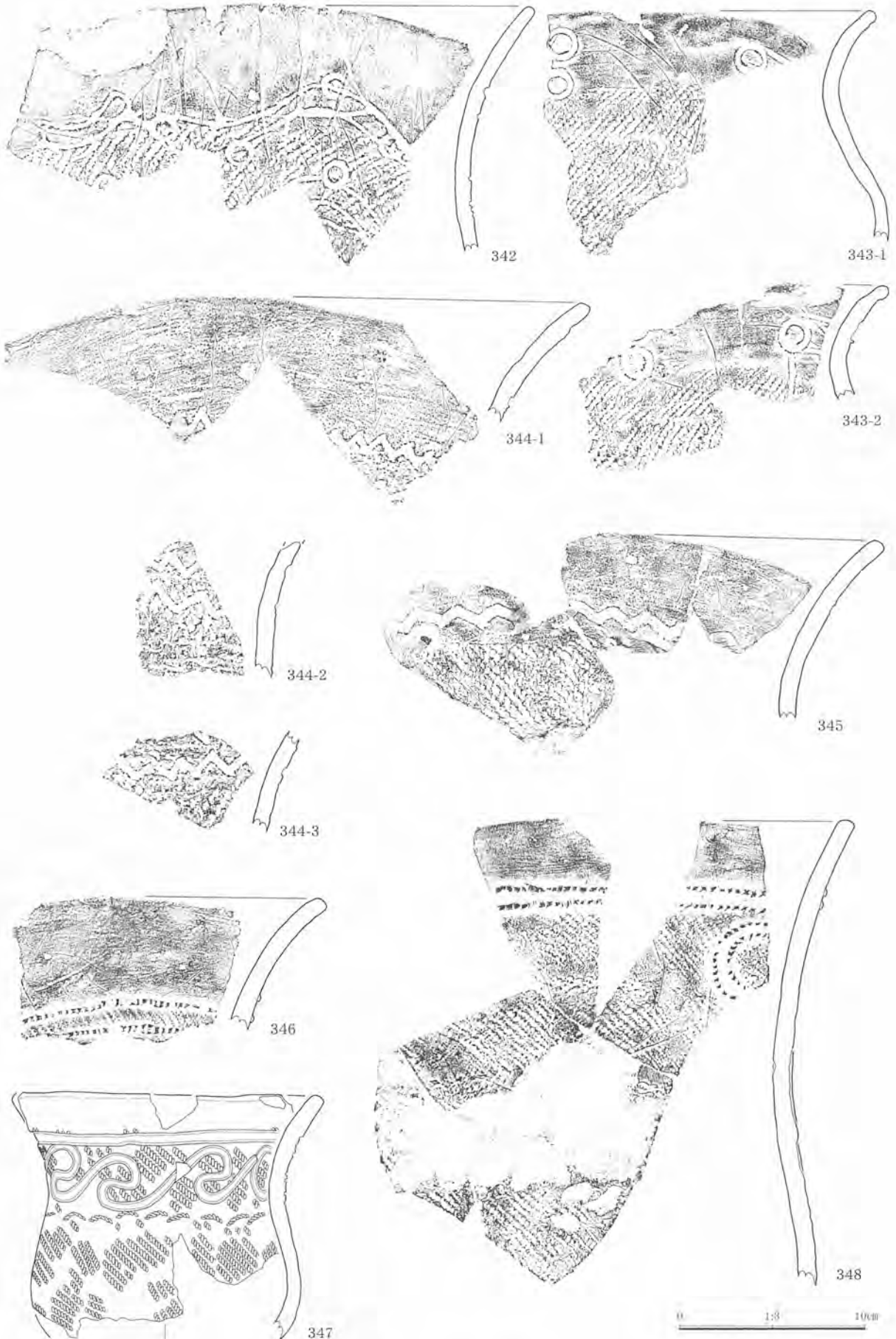
第41図 土器 (324 ~ 334)



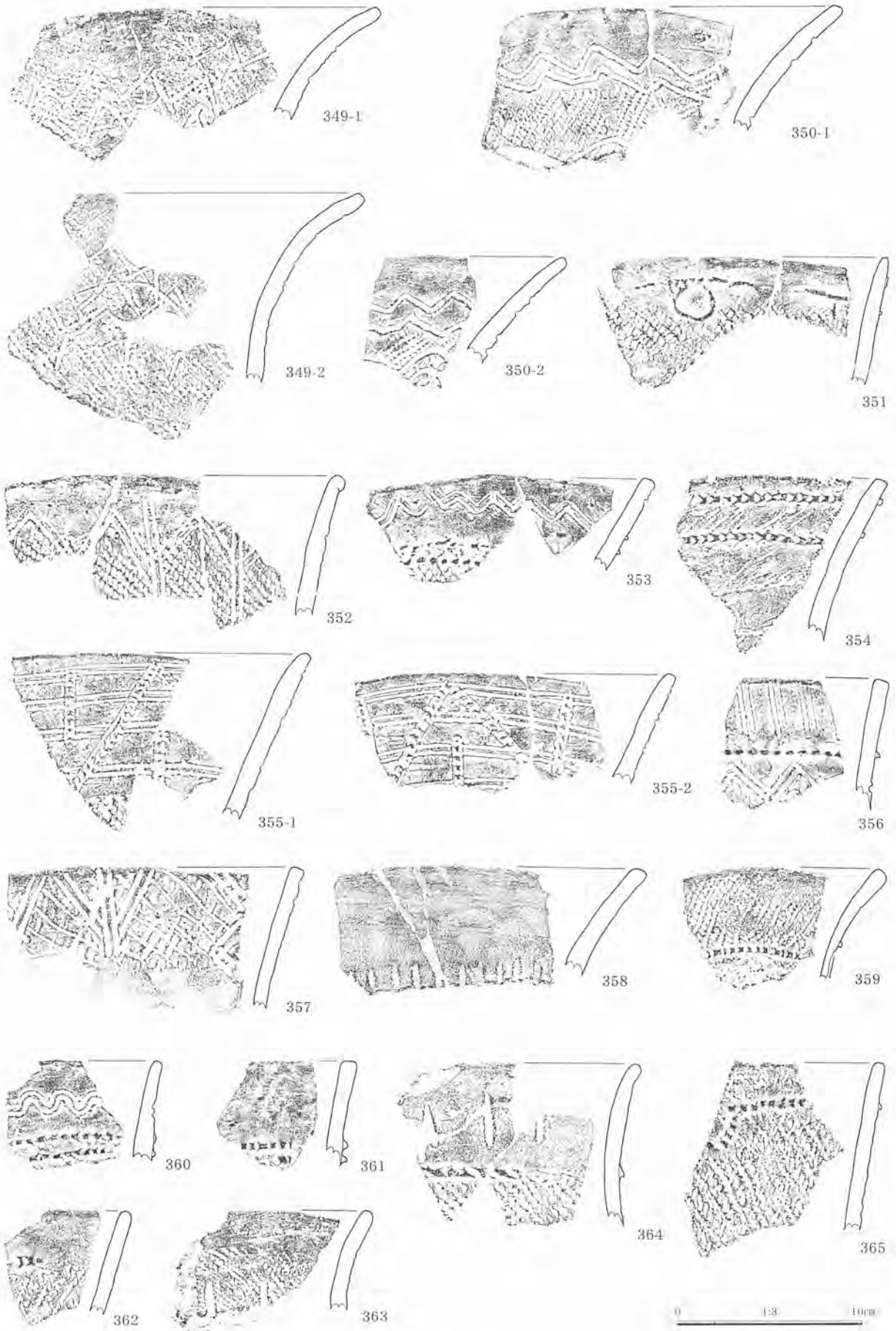
第42図 土器 (335～341)

され平坦にあり、LR・RLによる非結束羽状縄文が菱形に施文されている。298は、無節Lに結節を施し横回転で施文される。306は、LR・RLによる非結束羽状縄文を施文するが、口縁部のみ重層に施文される。

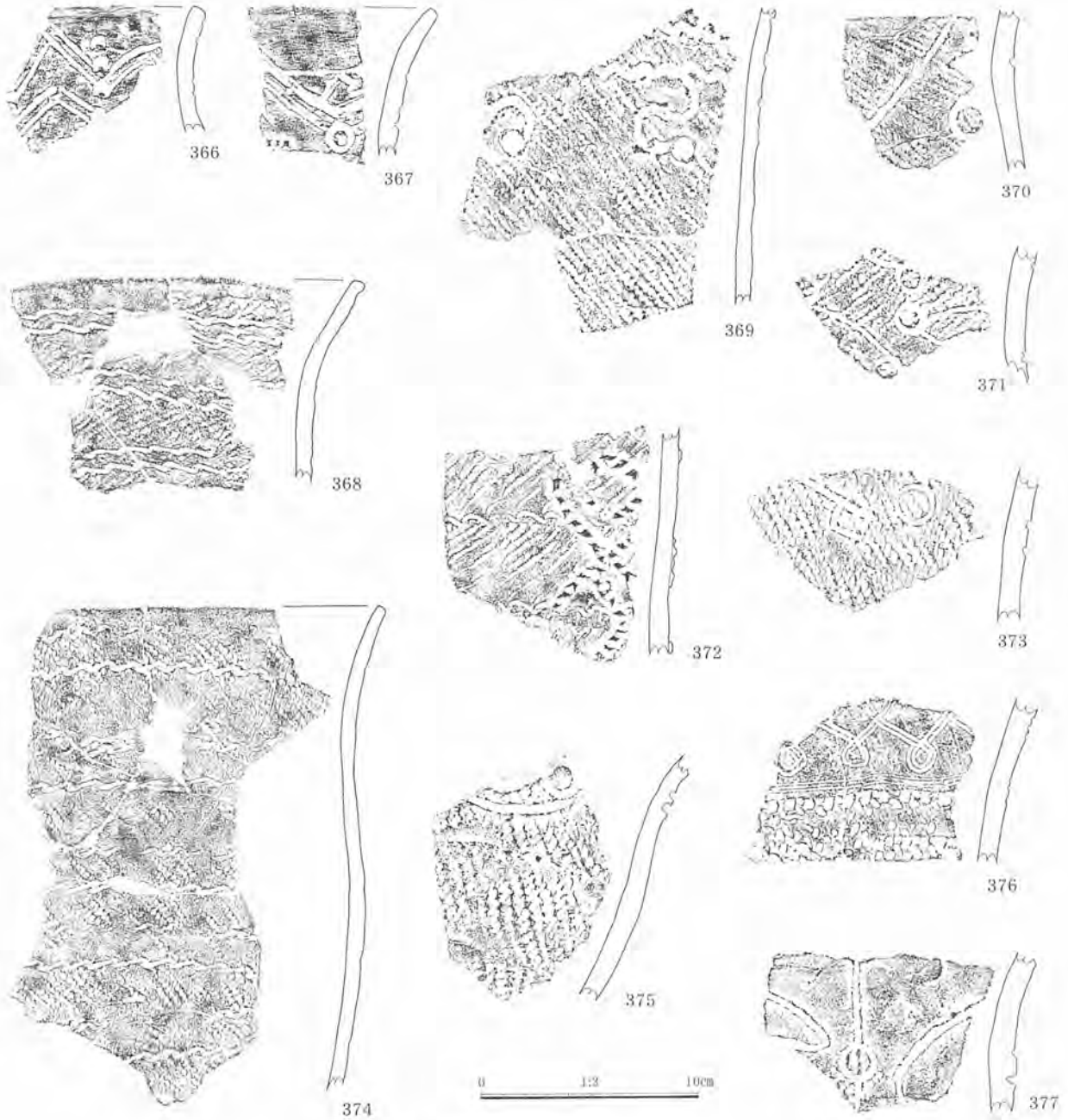
大木2a式の特定に際しては、不整撚糸文や結束羽状縄文が施文されるものを判断基準とした。出土層位はVI層主体にV層から出土している。不整撚糸文を施文するものをみると、口縁部のみ不整撚糸文、胴部に羽状縄文のもの(303・304・302・311など)、不整撚糸文が口縁部～体部全体に亘るもの(300・305)、刺突文とセットのもの(301・307・313など)などのバリエーションが看取される。また、口縁部～体部全体に羽状縄文のみが施文されるもの(299・308など)もある。また、特異な



第43図 土器 (342 ~ 348)



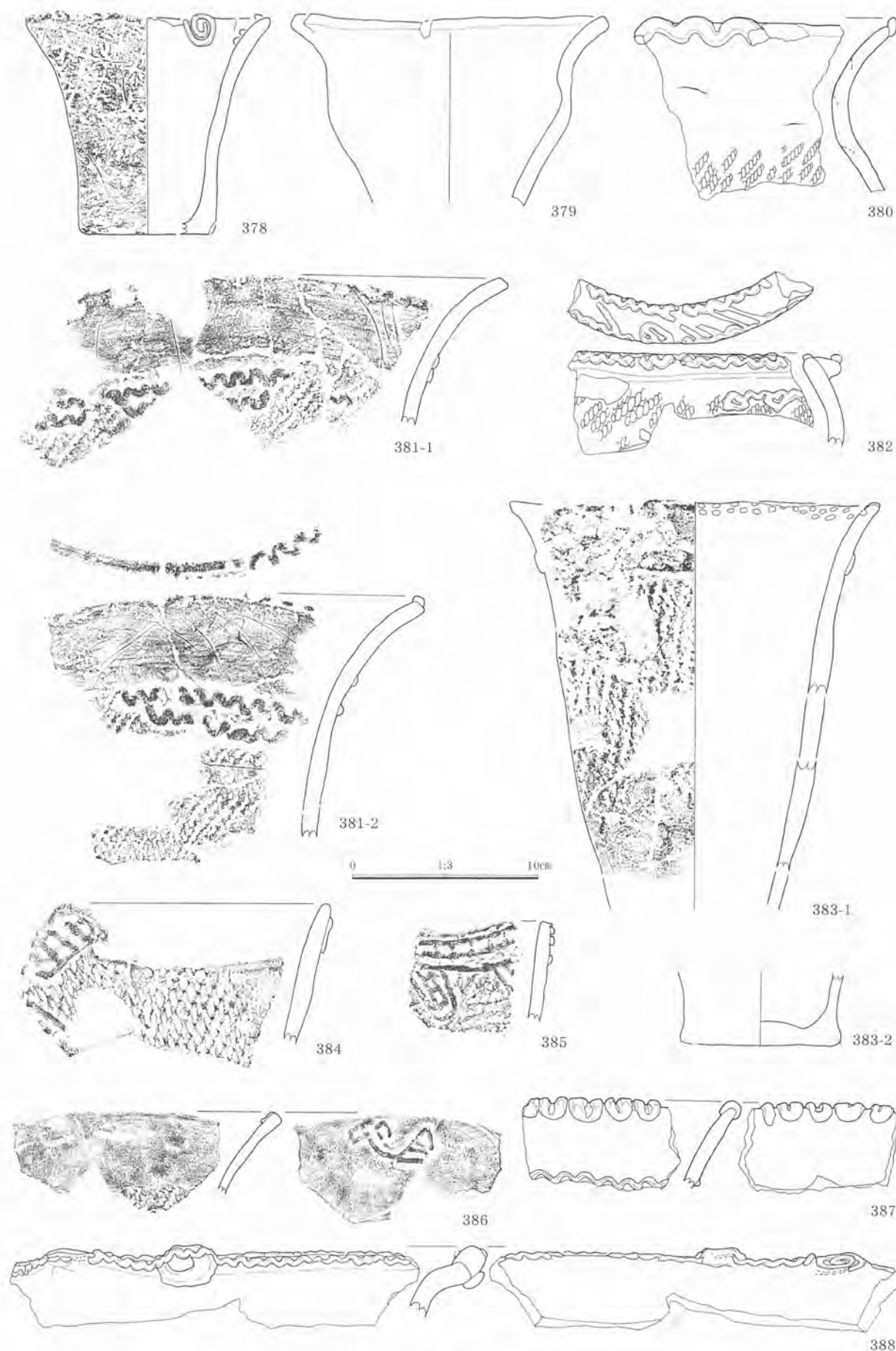
第44図 土器 (349 ~ 365)



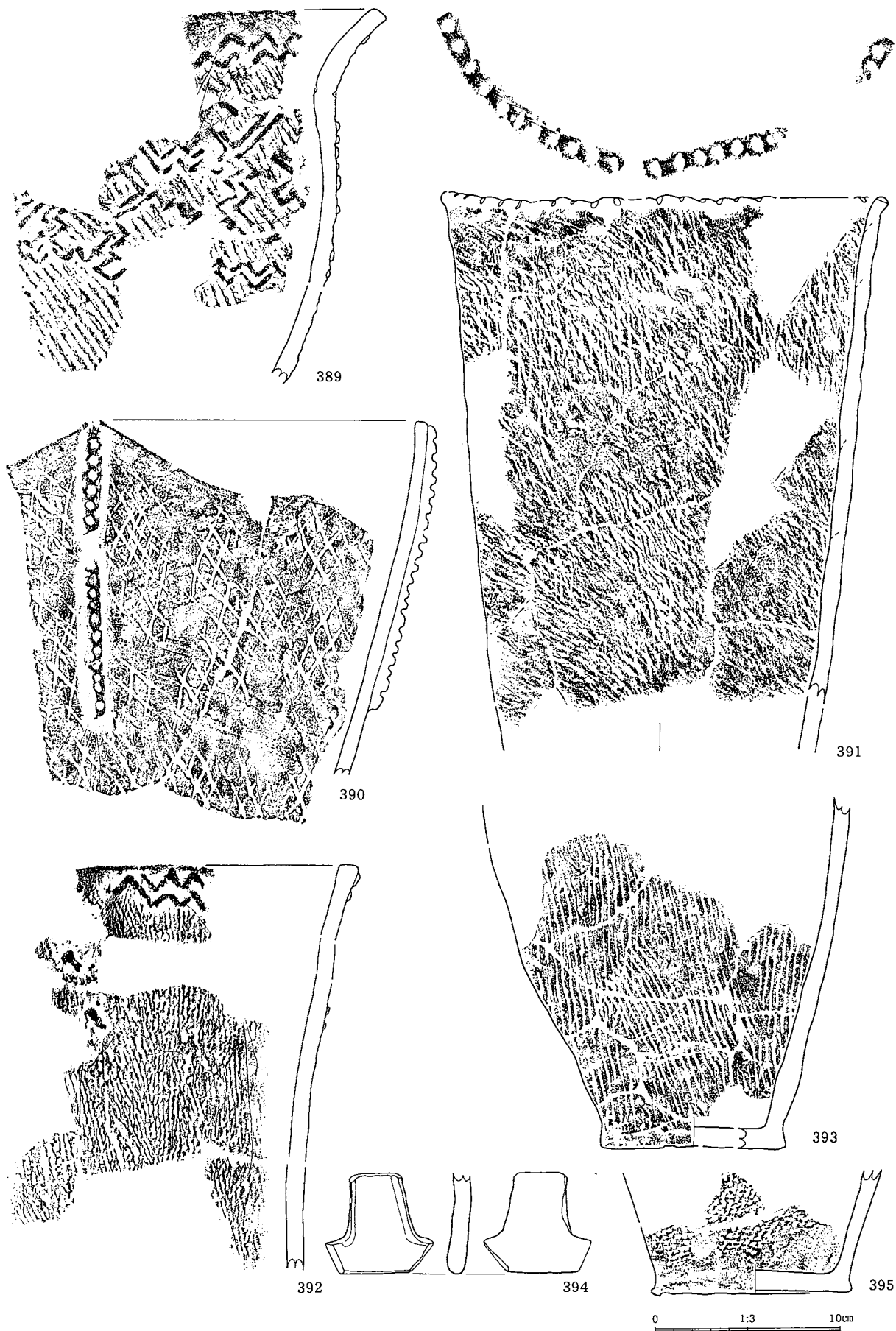
第45図 土器 (366～377)

ものとして、312のように縦に長く浅い沈線文を数条持つものや、口縁端部に斜位の刻み目を持つもの(310・311)を挙げておきたい。312は、厳密には大木2 a式に含まれるものかどうか不明であるが、胎土中への繊維の混入具合から、大木2 a式期と推定しておきたい。口縁端部に斜位の刻みを持つものについては、310は横走る木目状撚糸文を施文するもので大木2 a式とした307などと口縁形状が類似する。311は口縁部に不整撚糸文、胴部に結束羽状縄文を施文する。これらの土器は、後述する白座式と、大木2 a式の両型式の特徴を有すると捉えられようか。

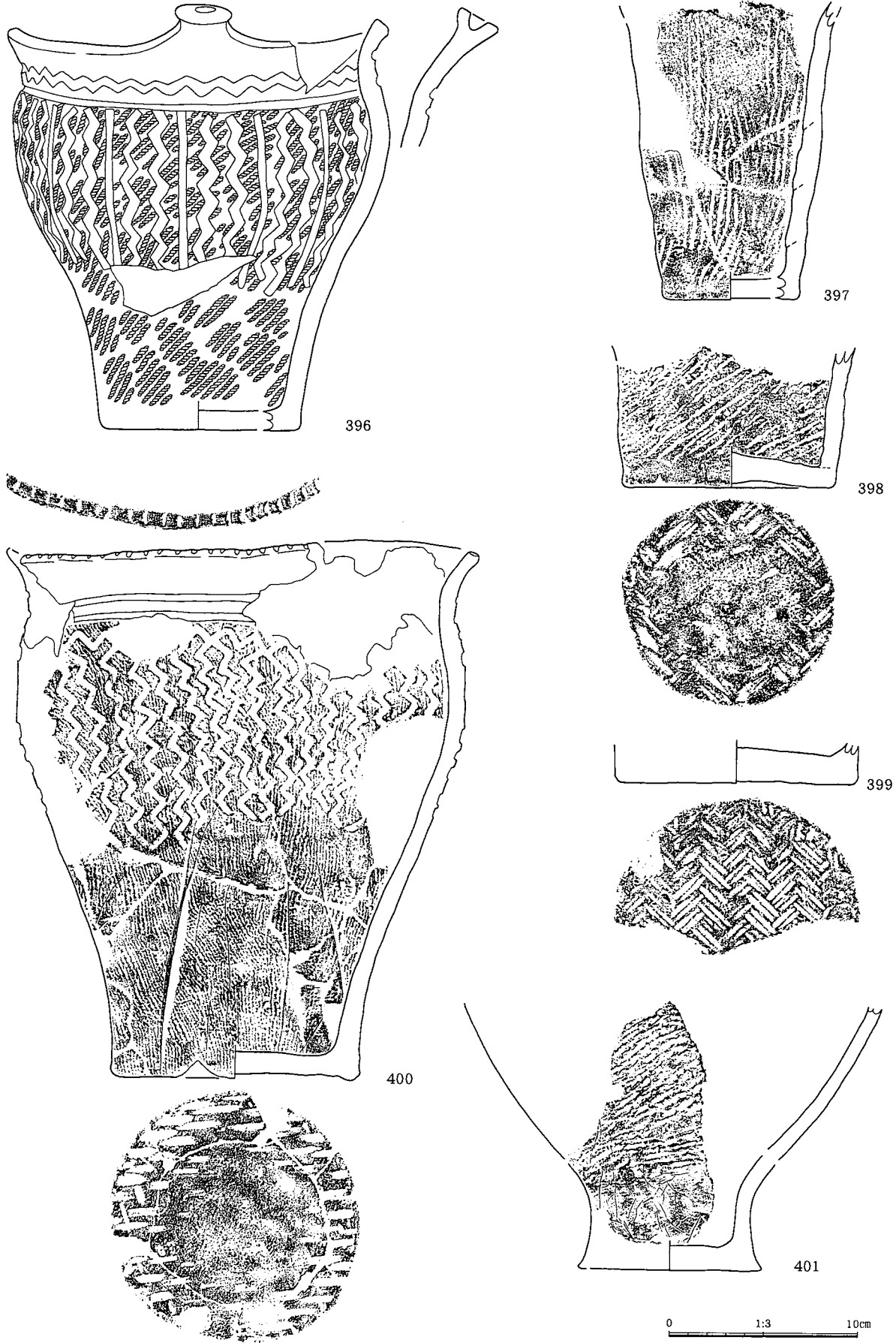
大木2 b式は、S字状連鎖沈文を施文するものを中心に型式判断した。刻みや刺突を伴う隆帯を持つものが含まれる。胎土中への繊維の混入は、基本的には看取されない。従って、本遺跡資料においては、胎土中への繊維混入の有無によって、大木2 a式との分離に際して一つの目安に昇華できるか



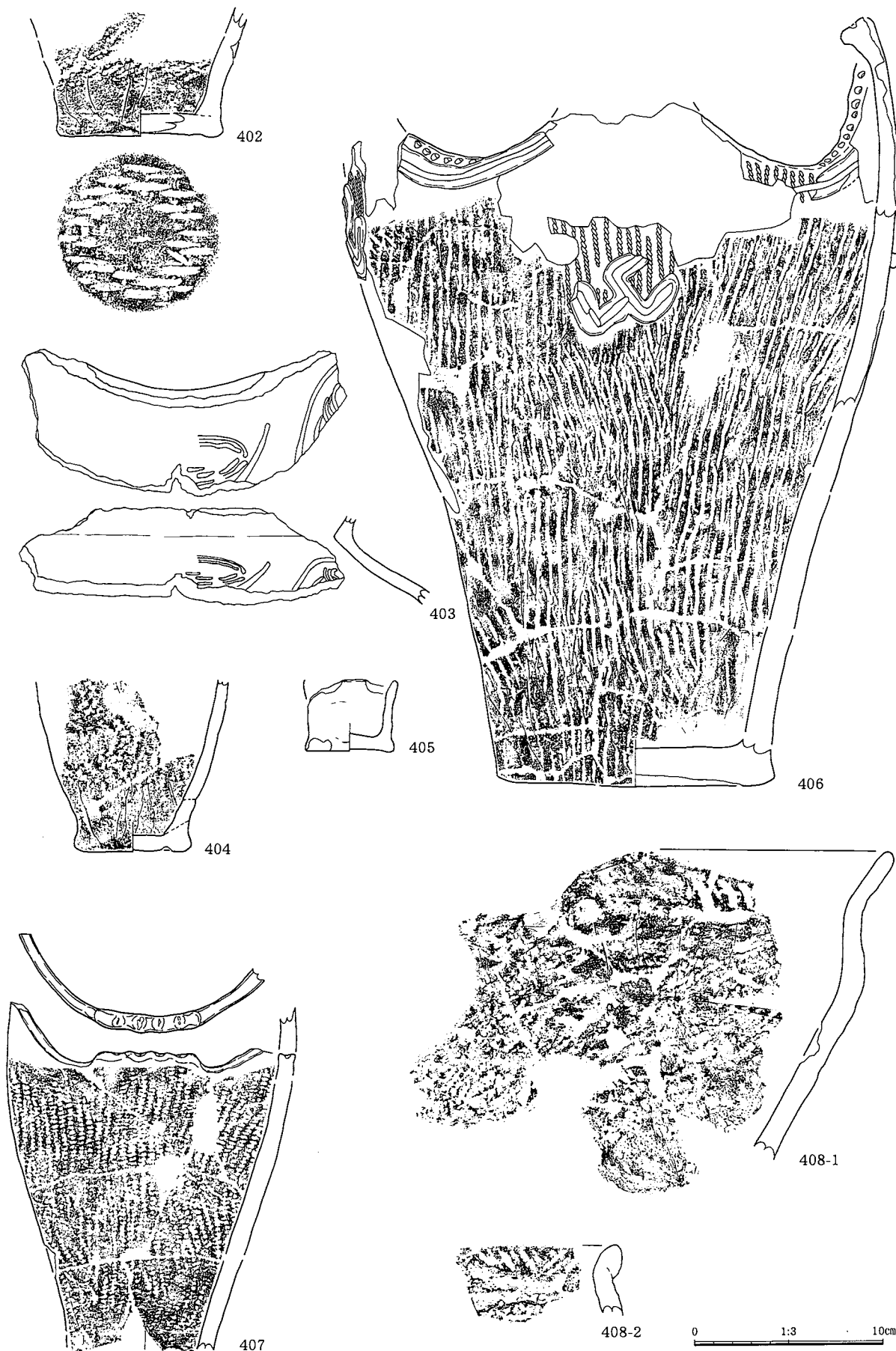
第46図 土器 (378~388)



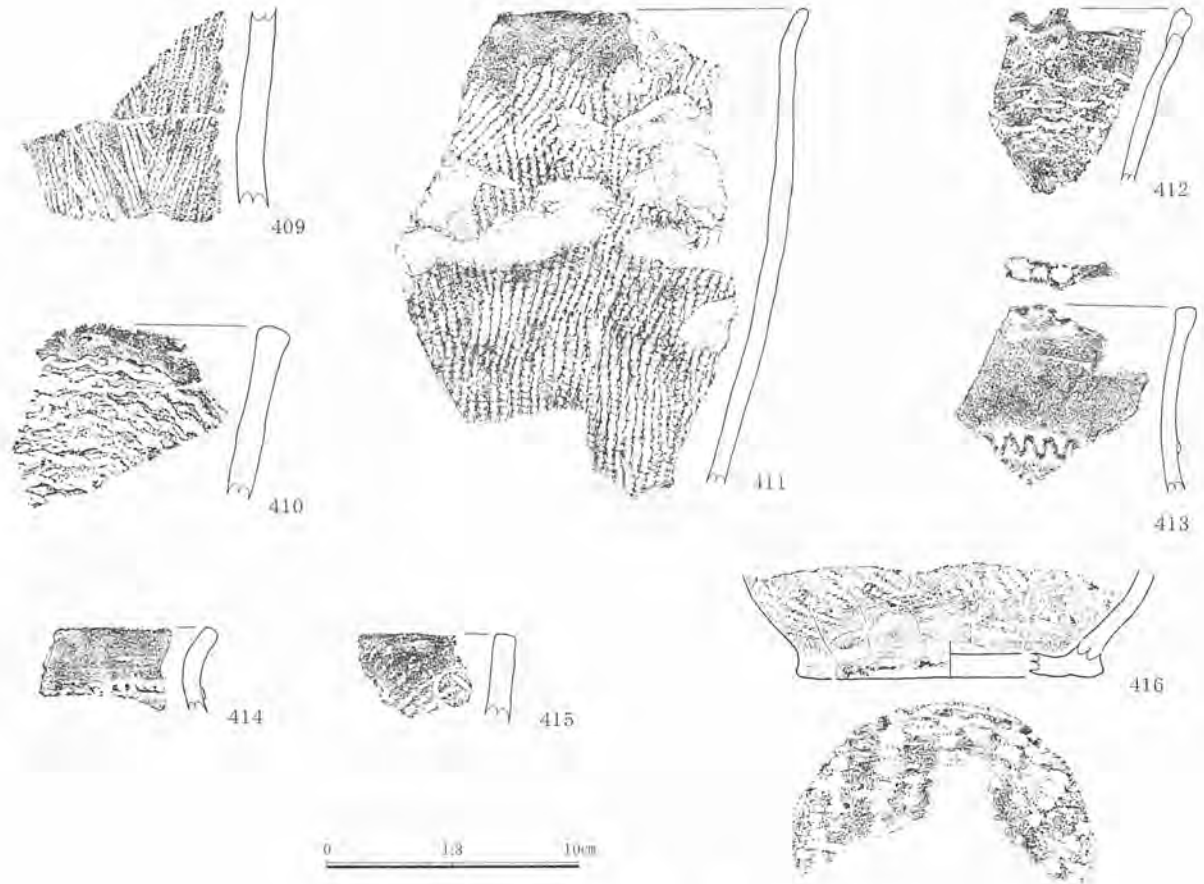
第47図 土器 (389 ~ 395)



第48図 土器 (396～401)



第49図 土器 (402 ~ 408)

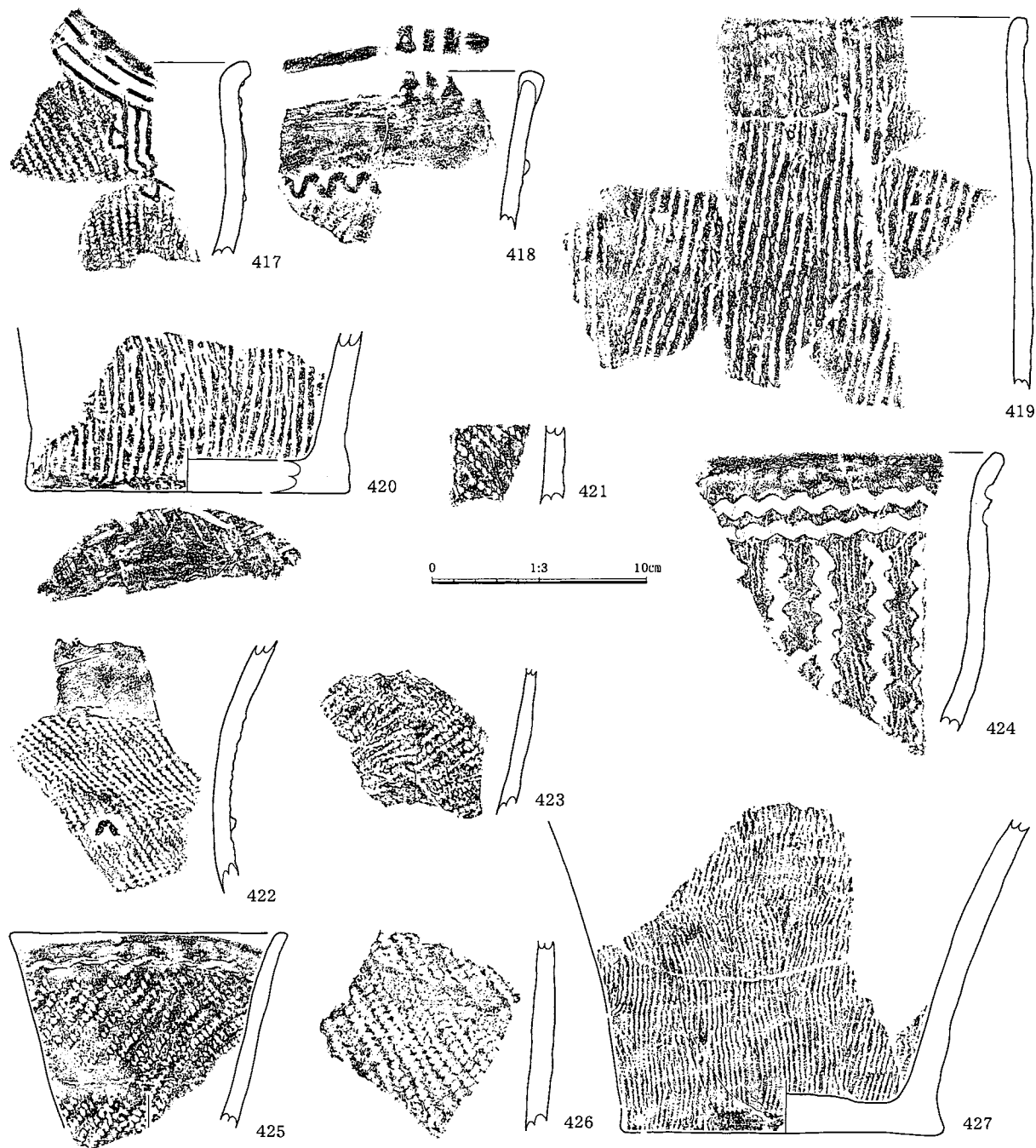


第50図 土器 (409～416)

もしれない。出土層位は、Ⅳ～Ⅵ層まで出土していることから、T_o-C_uを挟み、上下両方から出土していると捉えられる。大きめの破片資料である324や327及び体部下半～底部が残存する333などからは、口縁部～胴部下半までの全面にS字状連鎖沈文が施文されている。S字状連鎖沈文は、単軸絡条体第3類と推定される。また、地文に組紐や網目状燃糸文が用いられているものが幾つか散見されたが、それらの中で胎土中に繊維の混入が看取できないものは、上述のとおり大木2a式より新しい時期と推定したものがあ。ただし、組紐を施文するものについては、白座式などとの関連も想起されることから、検討を要する。そして、328や334など口縁部に沈線文を施文するものについても、同様に胎土中に繊維の混入が看取できないことから、大木2b式と捉えたが、明確には不明にある。

大木3式は、円文、鋸歯状文、弧状文、刻みのある細い隆線（粘土紐貼り付け）などを中心に、バラエティーに富む文様構成がみられる。今回掲載したものでは342～377が該当する。出土層位はⅢ層とⅣ層を主体とする。従って、T_o-C_uより上位から出土している。Ⅴ層（T_o-C_u層）から363と376などが出土しているが、量的には非常に少ない。特徴としては、文様が口縁部若しくは体部上半に集約し、体部は地文のみのものが多い。地文の種類は、付加条縄文、単節LR、組紐の順に多い。原体の回転方向は横回転が主体である。

白座式について、口縁端部に斜位の刻み目を持つ一群に対して、本稿では大木諸型式と分離させ白座式として明示することとした。今回掲載したものでは337～341が該当する。出土層位はⅢ～Ⅳ層で、Ⅳ層からの出土が多い。このことから、T_o-C_uより上位から出土していることが窺える。口縁部に結節回転文（単軸絡条体第3類）を有し、体部の地文は組紐若しくは単節の横回転を基調とす



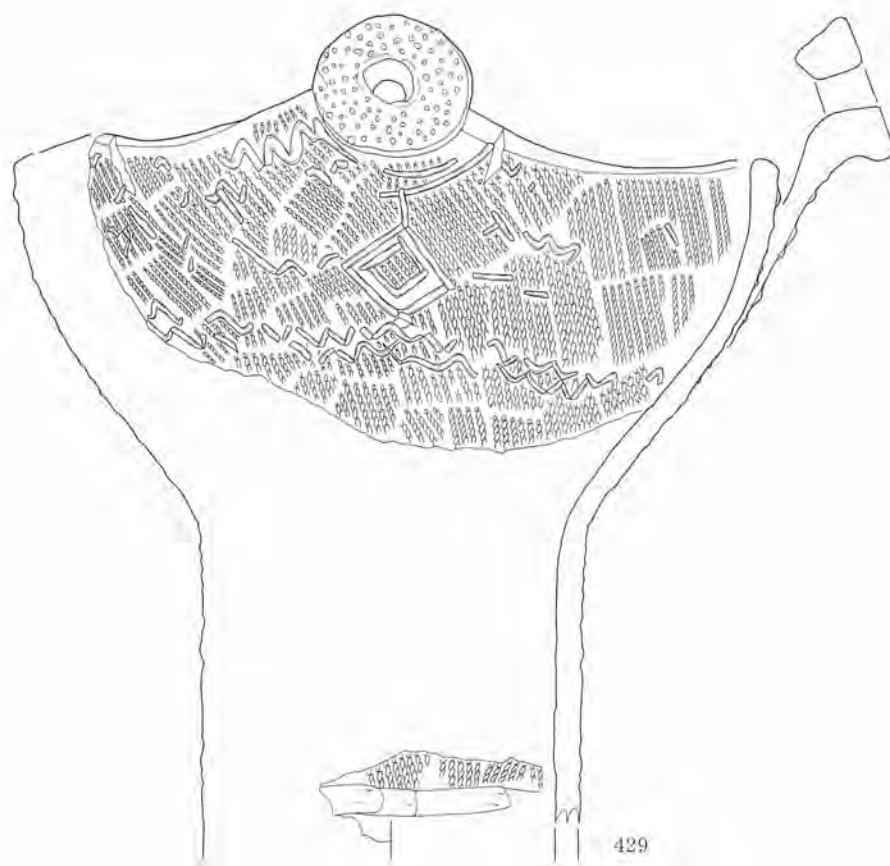
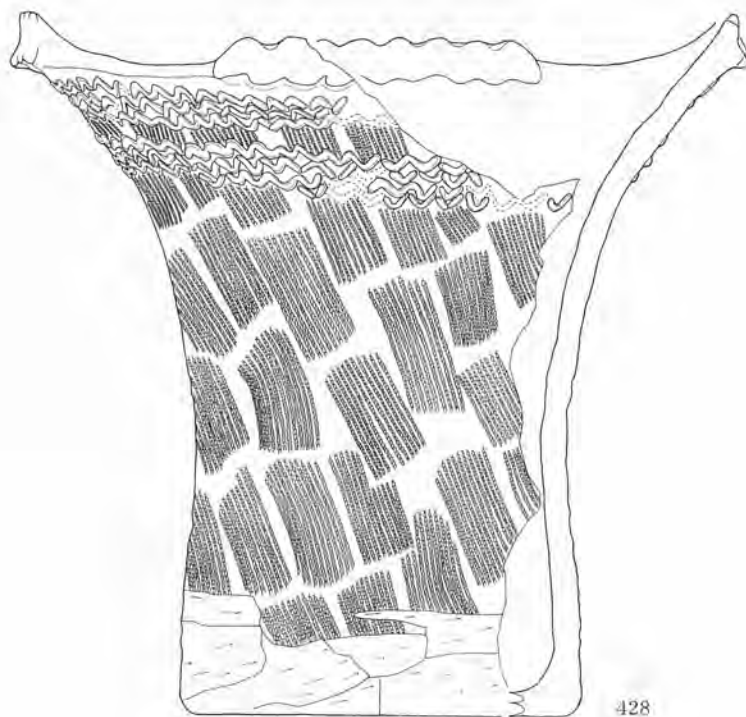
第51図 土器 (417～427)

る。胎土中には繊維を含まない。また、所見的内容になるが、胎土の焼成具合が良好である観点などからは、大木3式に近似するように思われる。白座式は、近年小笠原雅行氏などにより再検討されている（小笠原：2000）。

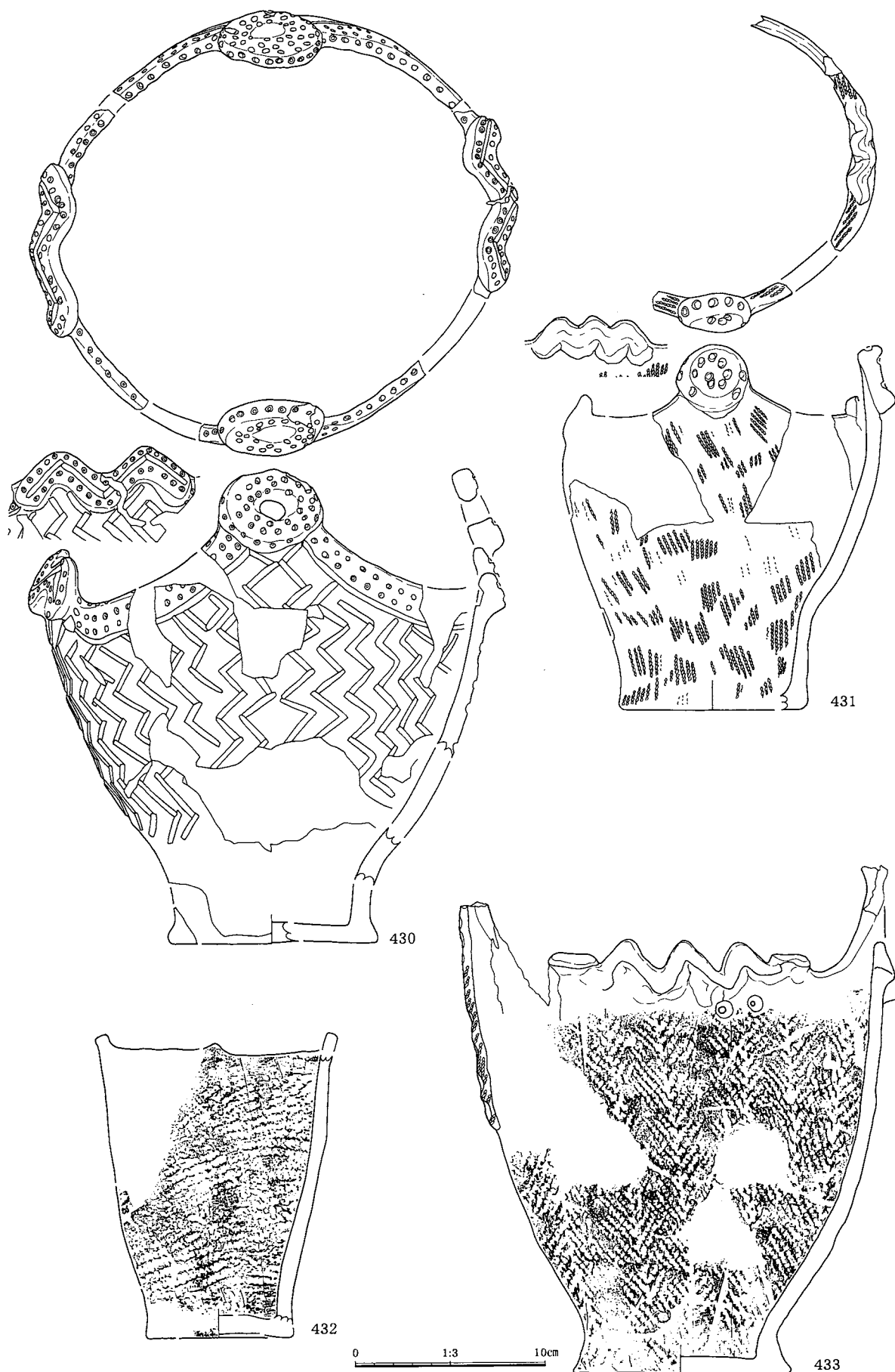
417～500はいずれも大木4～5式に該当する土器である。

428は口縁が著しく外反し、体部が直立する形態で貼り付けによる小波状の文様が全周する。底部付近は顕著なケズリ調整が認められる。

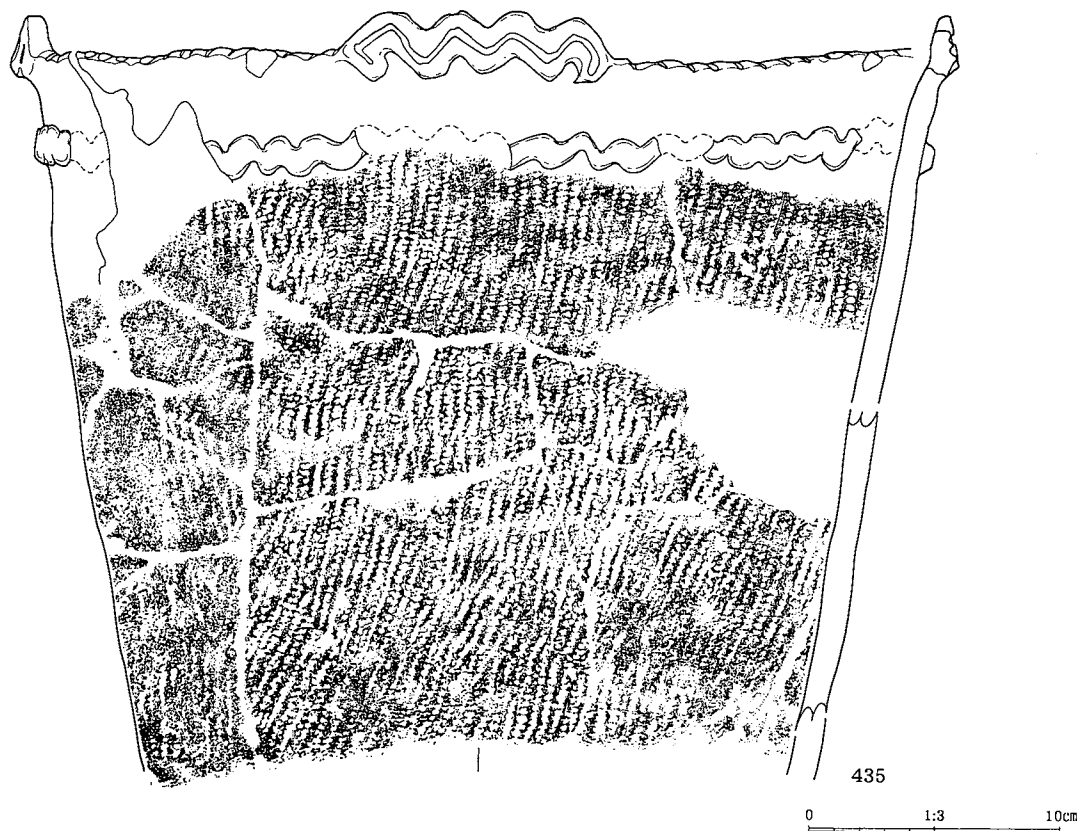
429は同様に直立する体部だが、口縁部は丸みを持ち緩やかに立ち上がる。口縁部には円形の飾り突起が認められる。



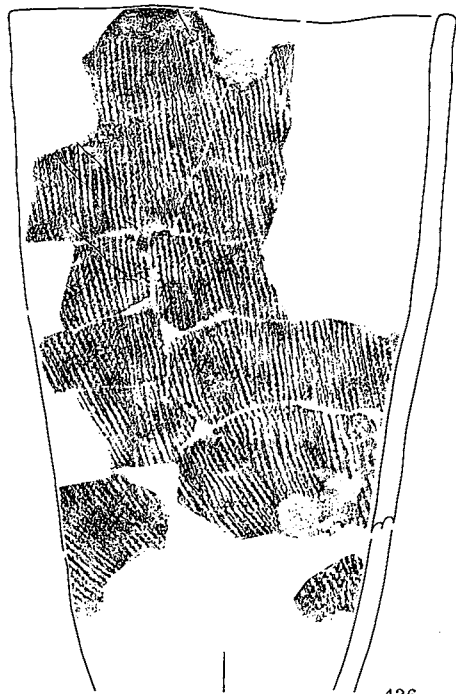
第52図 土器 (428・429)



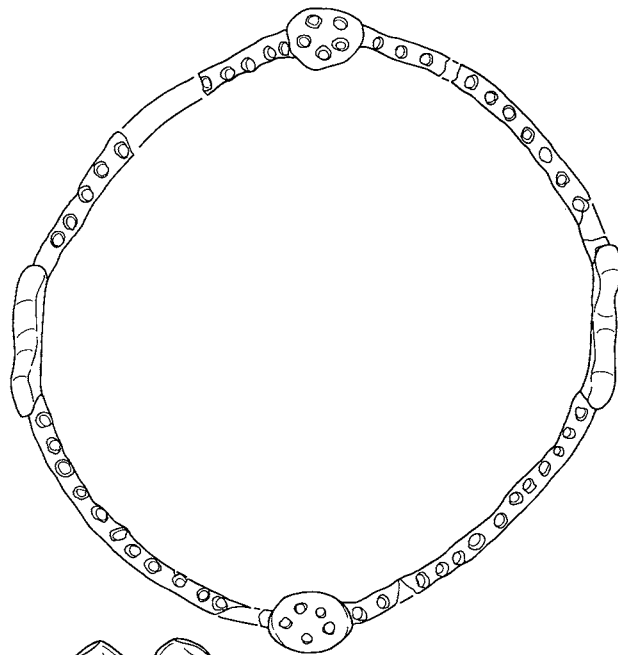
第53図 土器 (430~433)



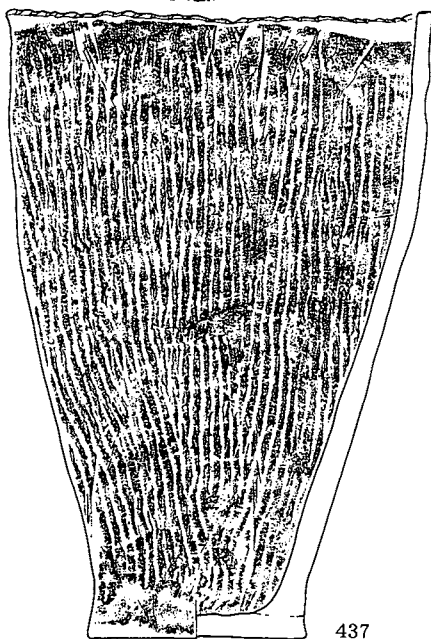
第54図 土器 (434・435)



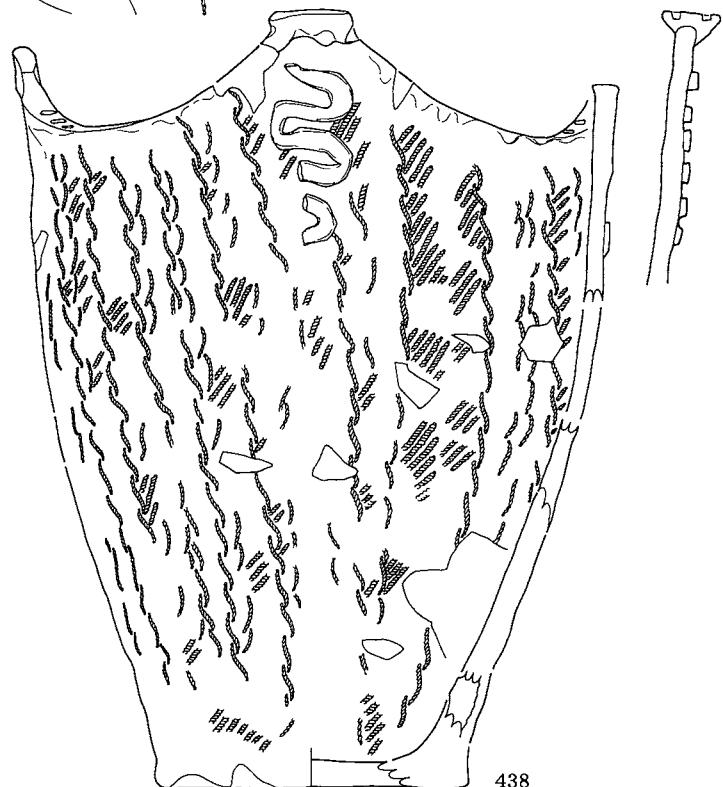
436



0 1:3 10cm

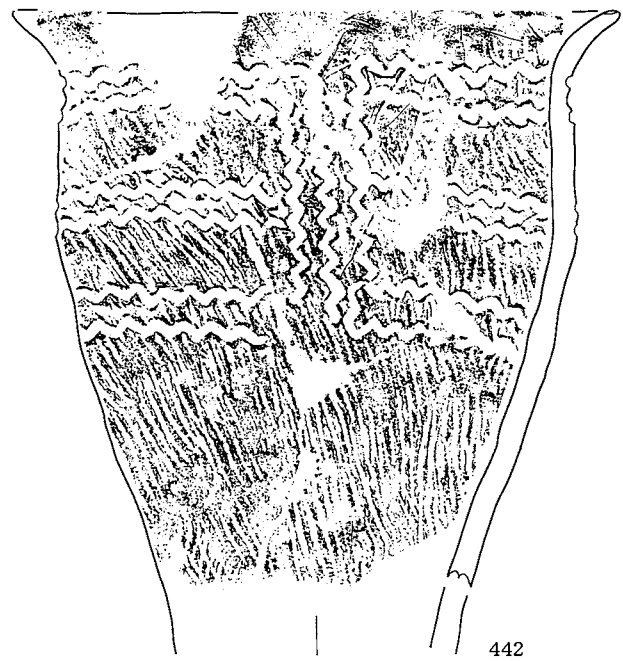
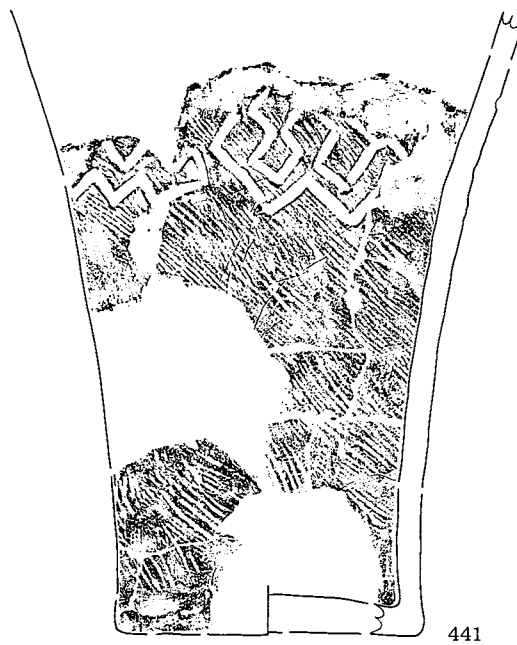
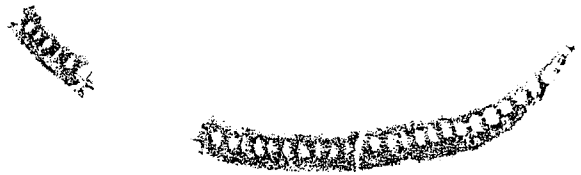
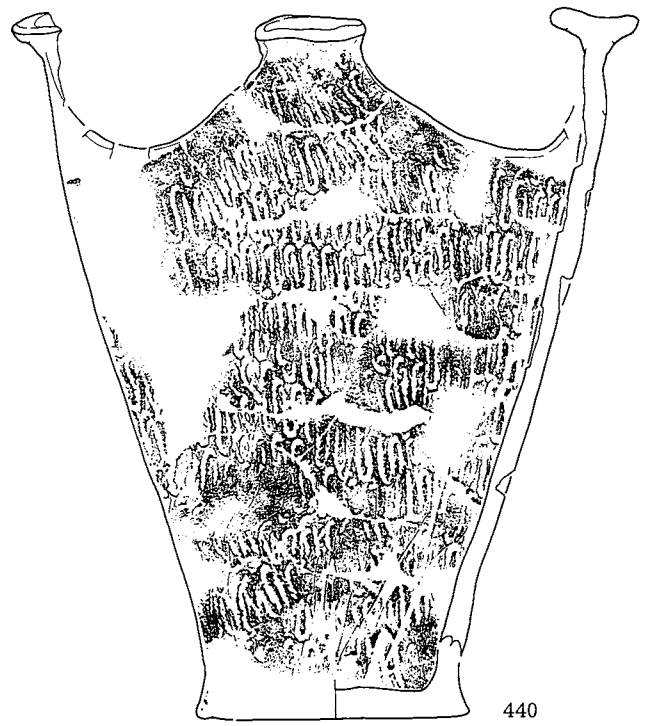
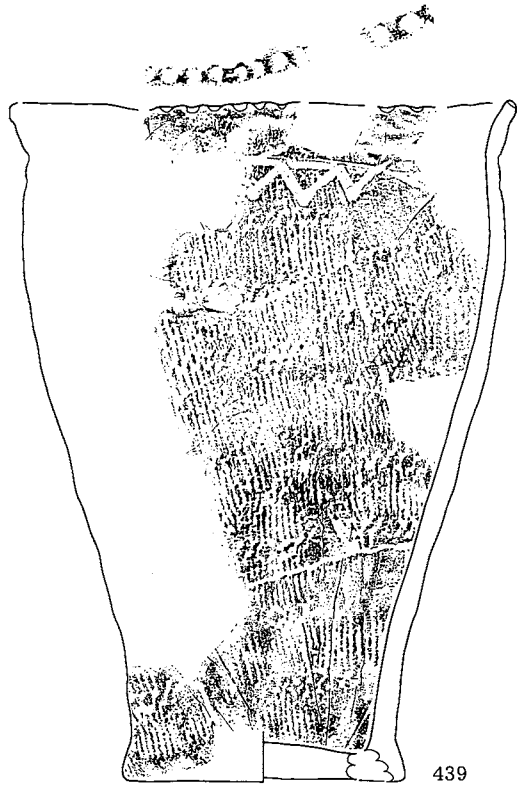


437



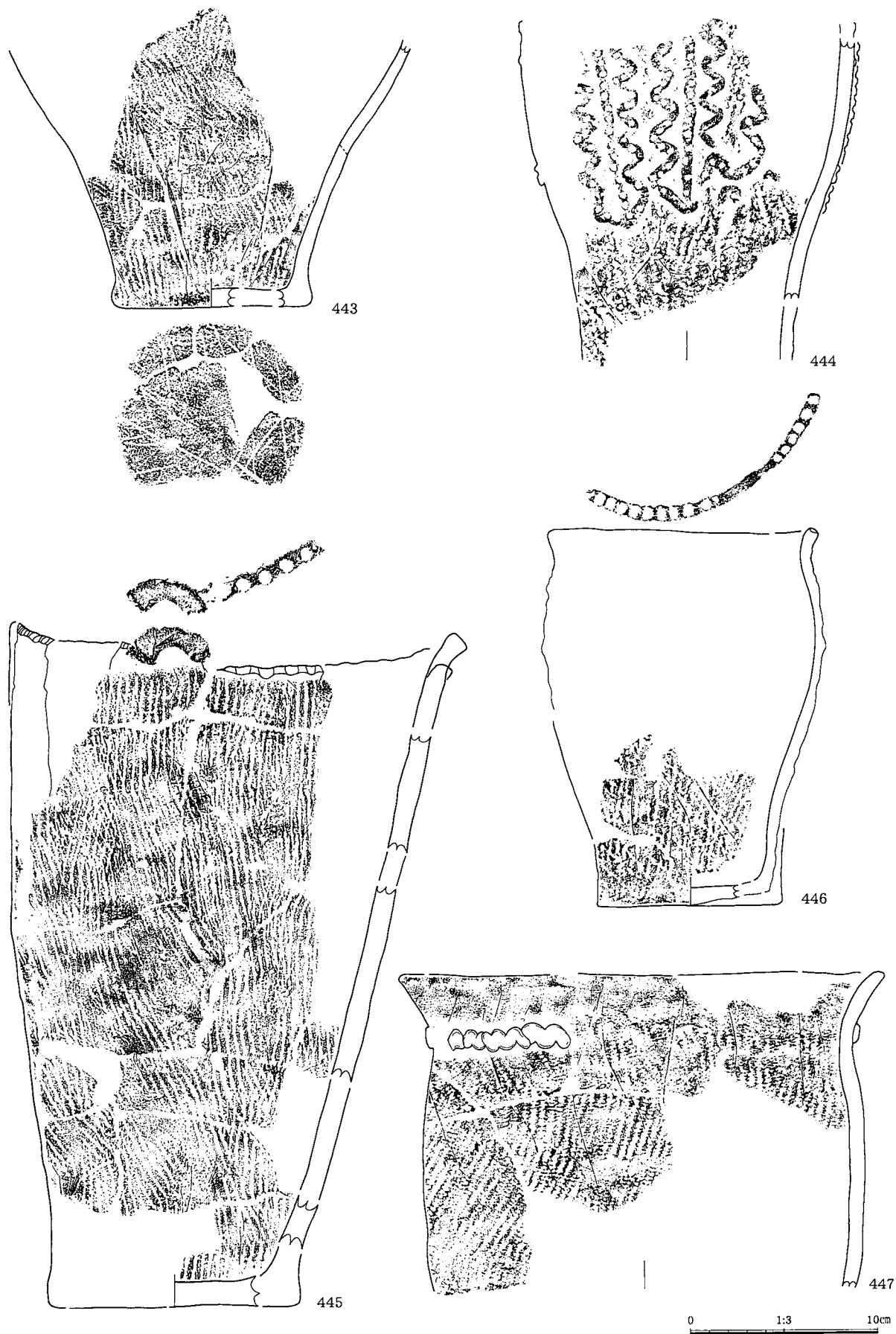
438

第55図 土器 (436 ~ 438)

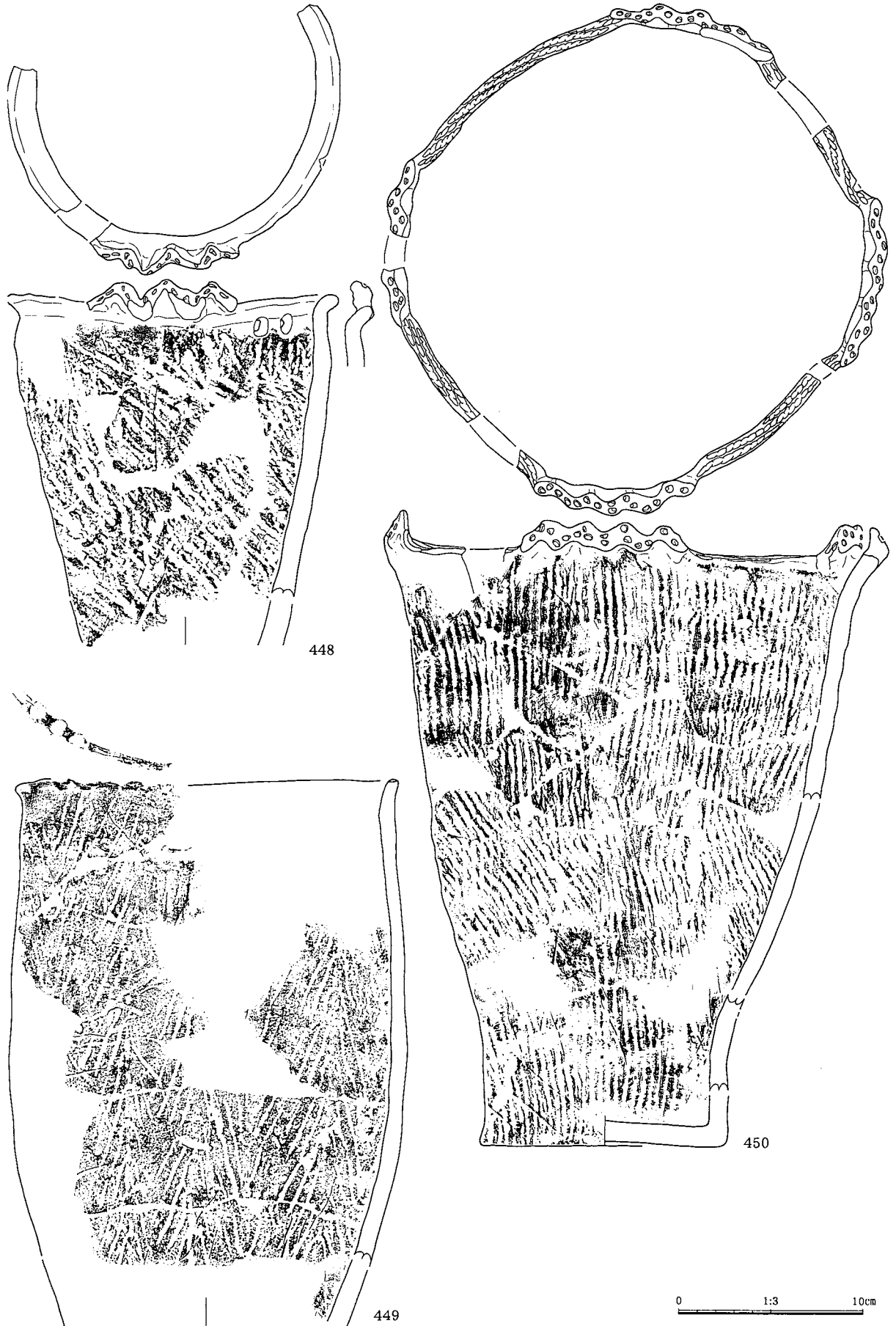


0 1:3 10cm

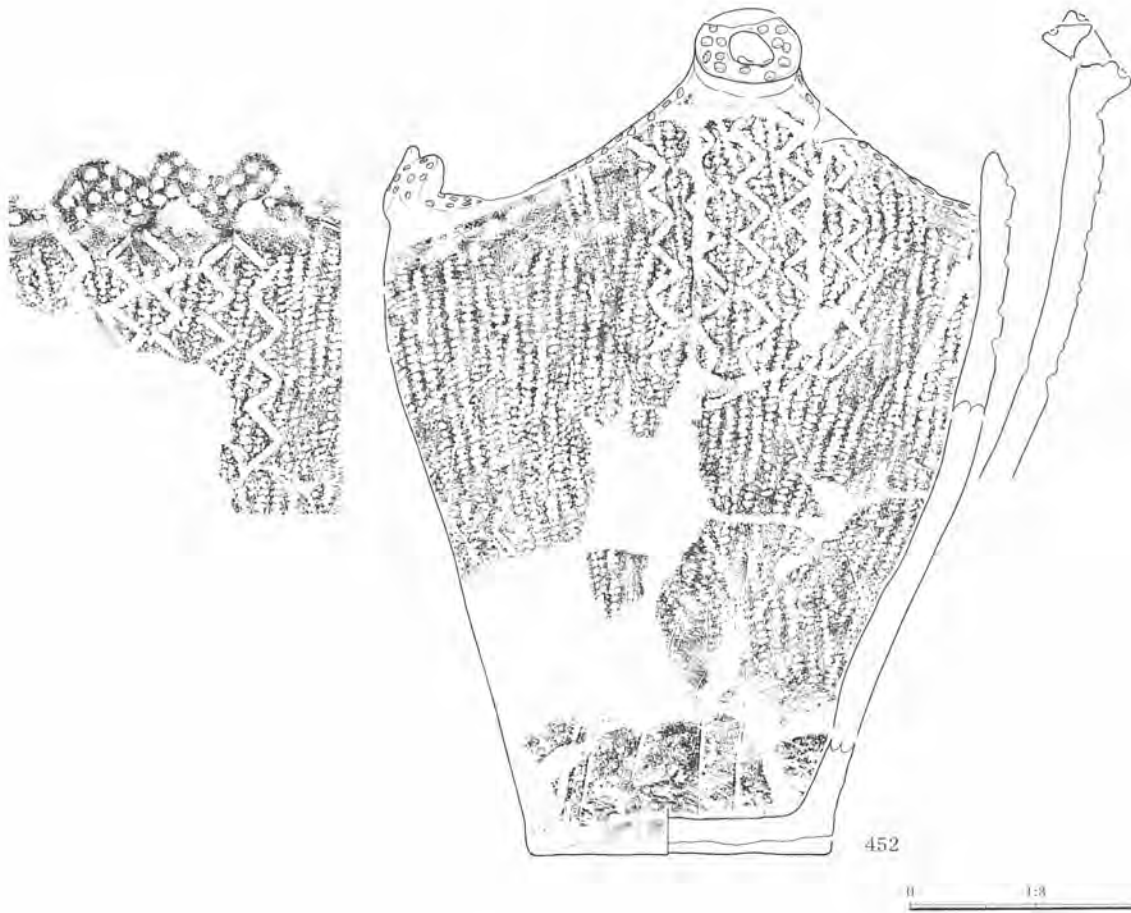
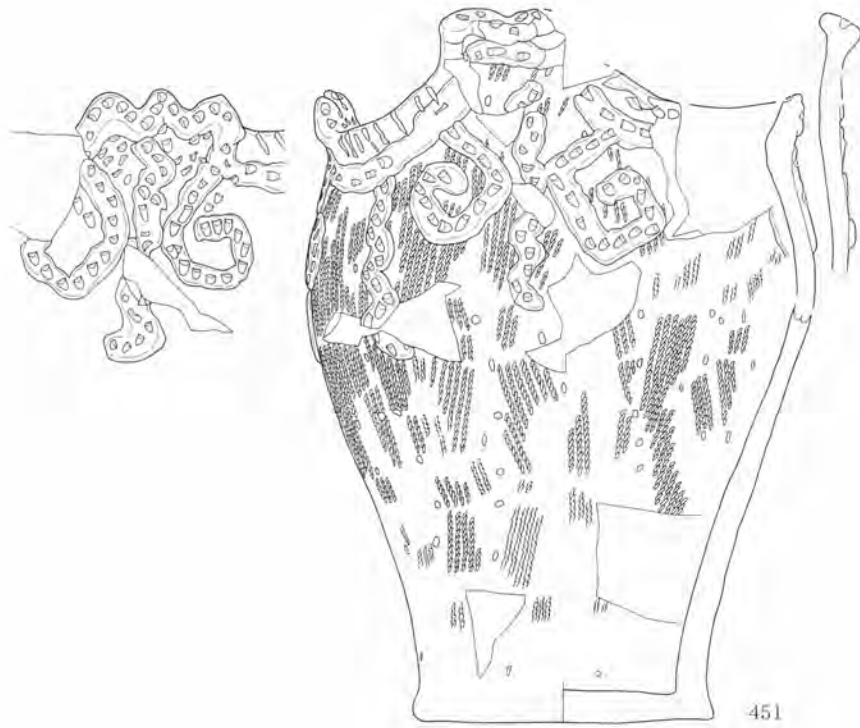
第56図 土器 (439 ~ 442)



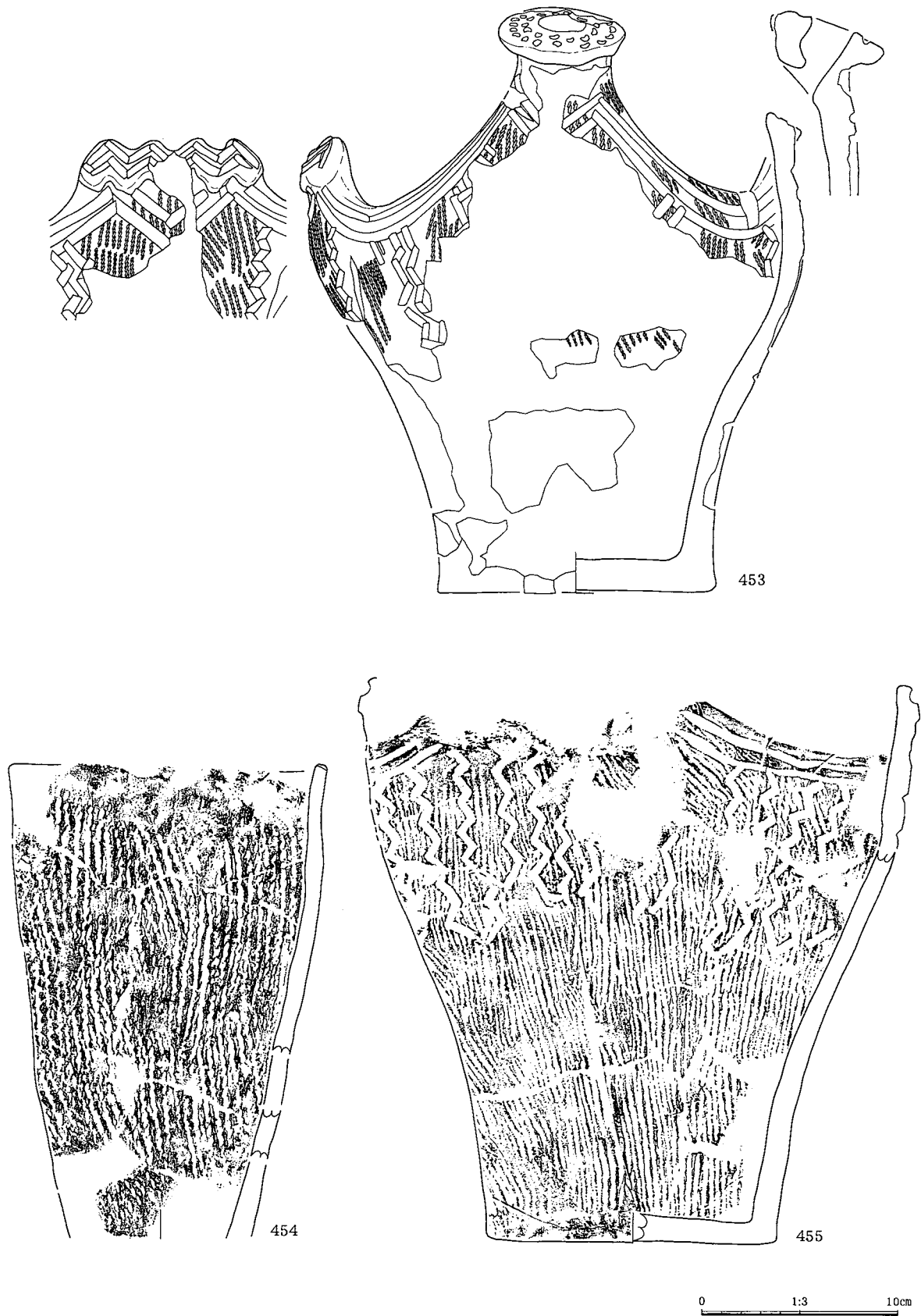
第57図 土器 (443~447)



第 58 図 土器 (448 ~ 450)



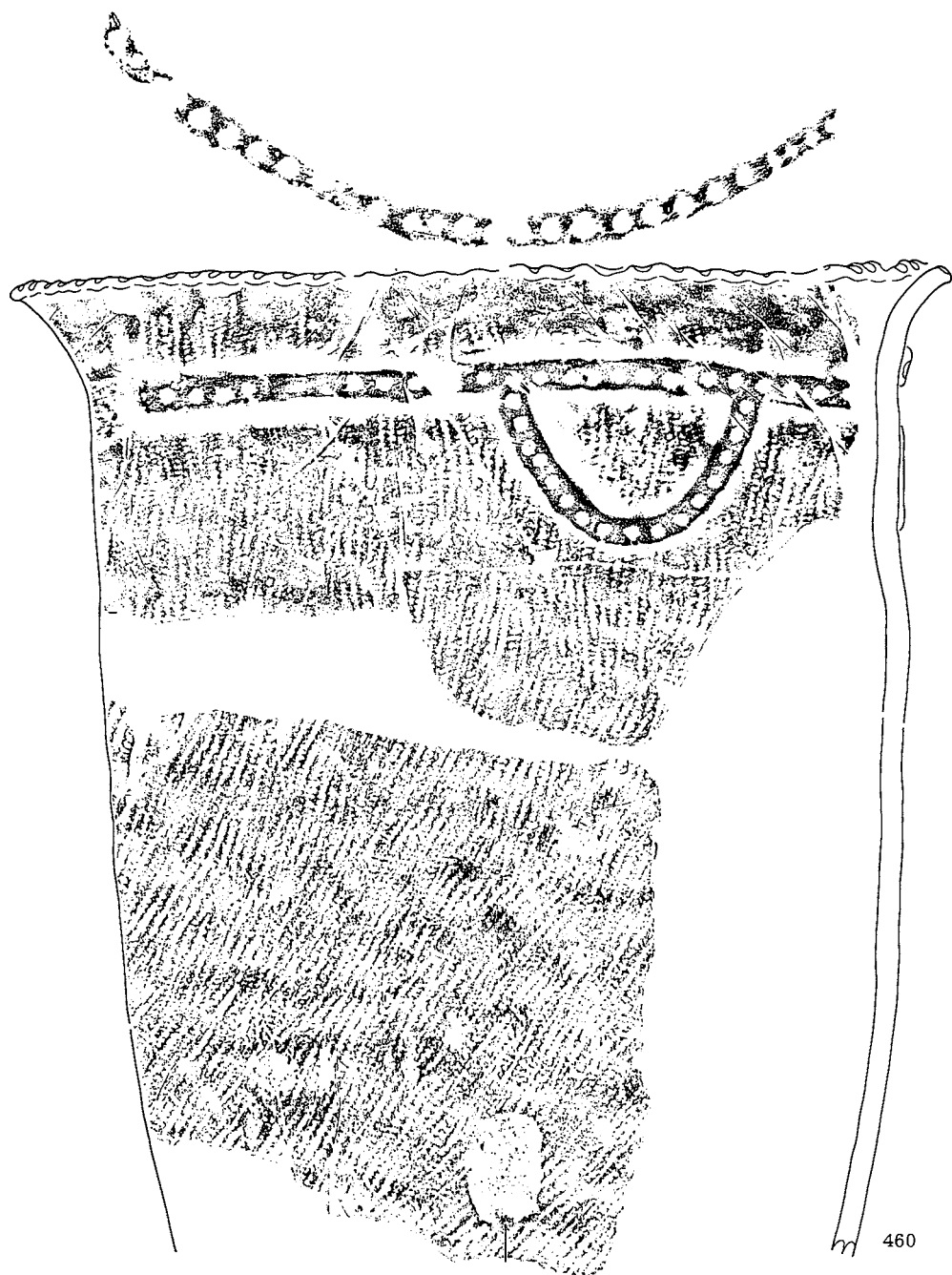
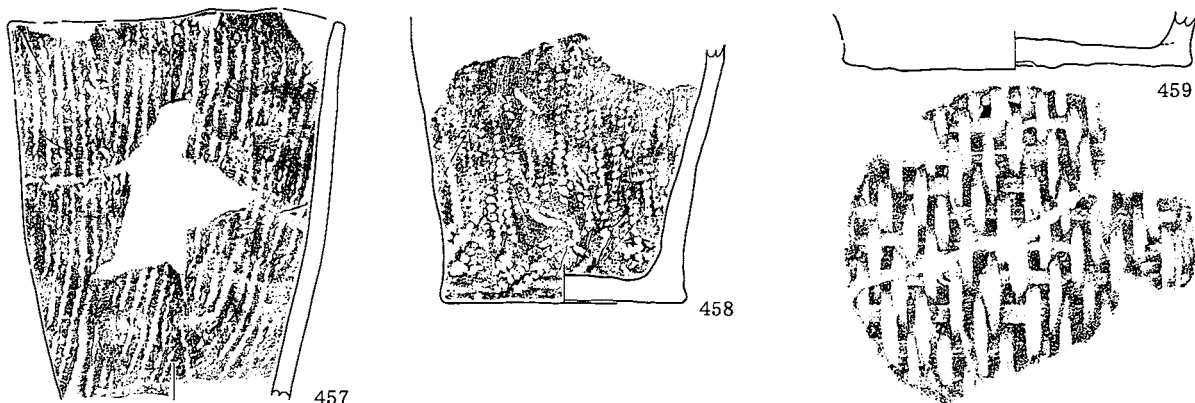
第59図 土器 (451・452)



第60図 土器 (453 ~ 455)

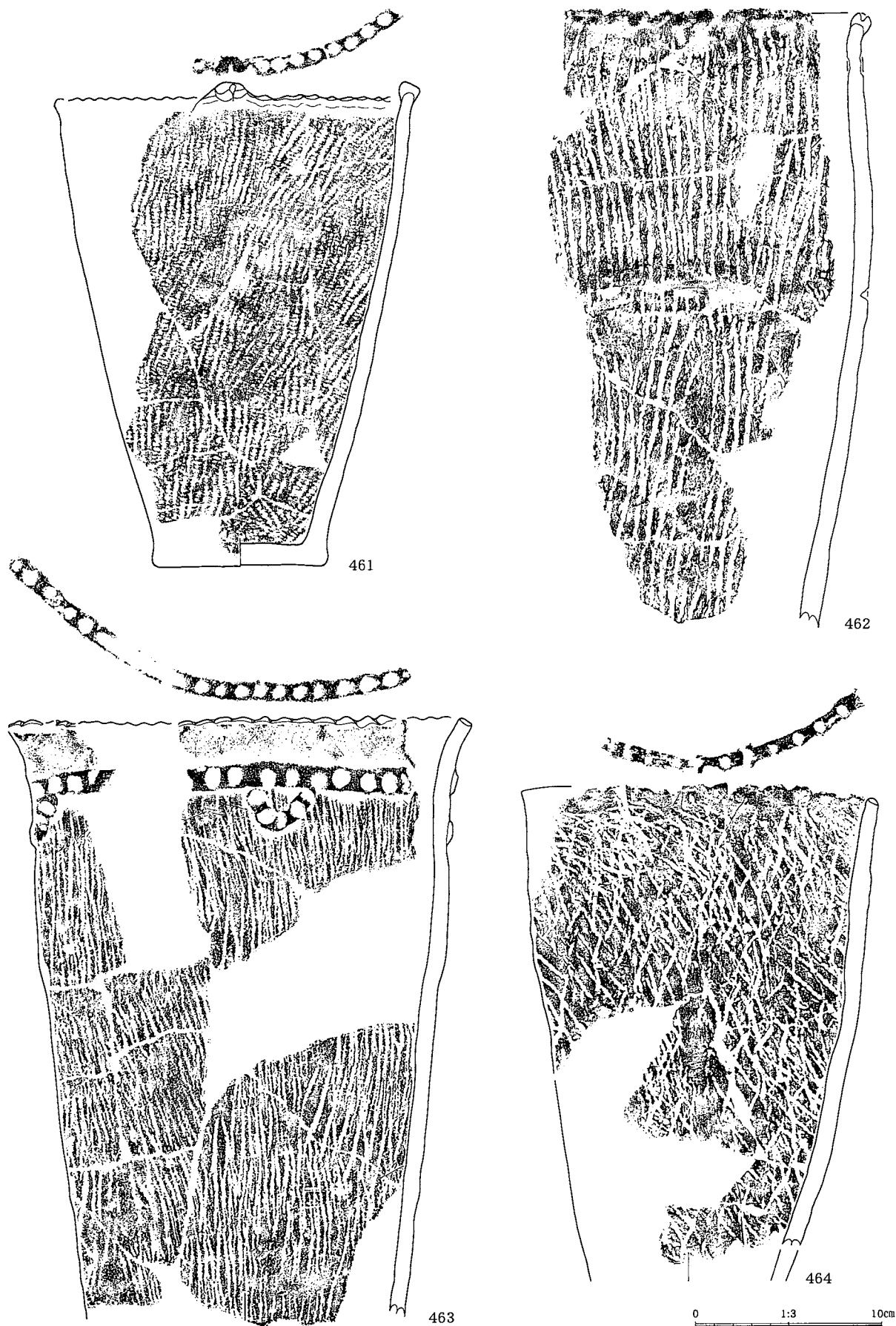


第 61 図 土器 (456)

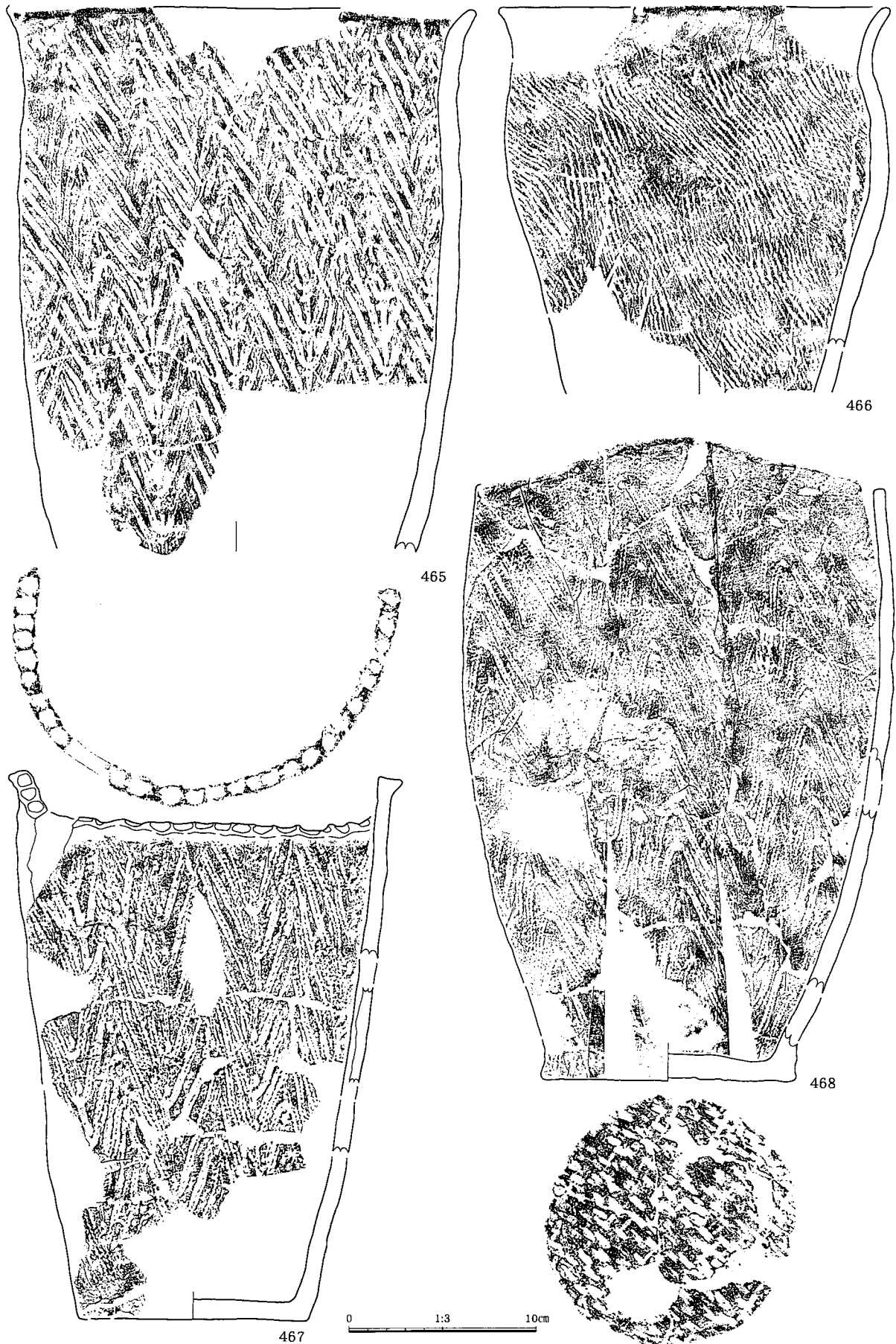


0 1:3 10cm

第 62 図 土器 (457 ~ 460)



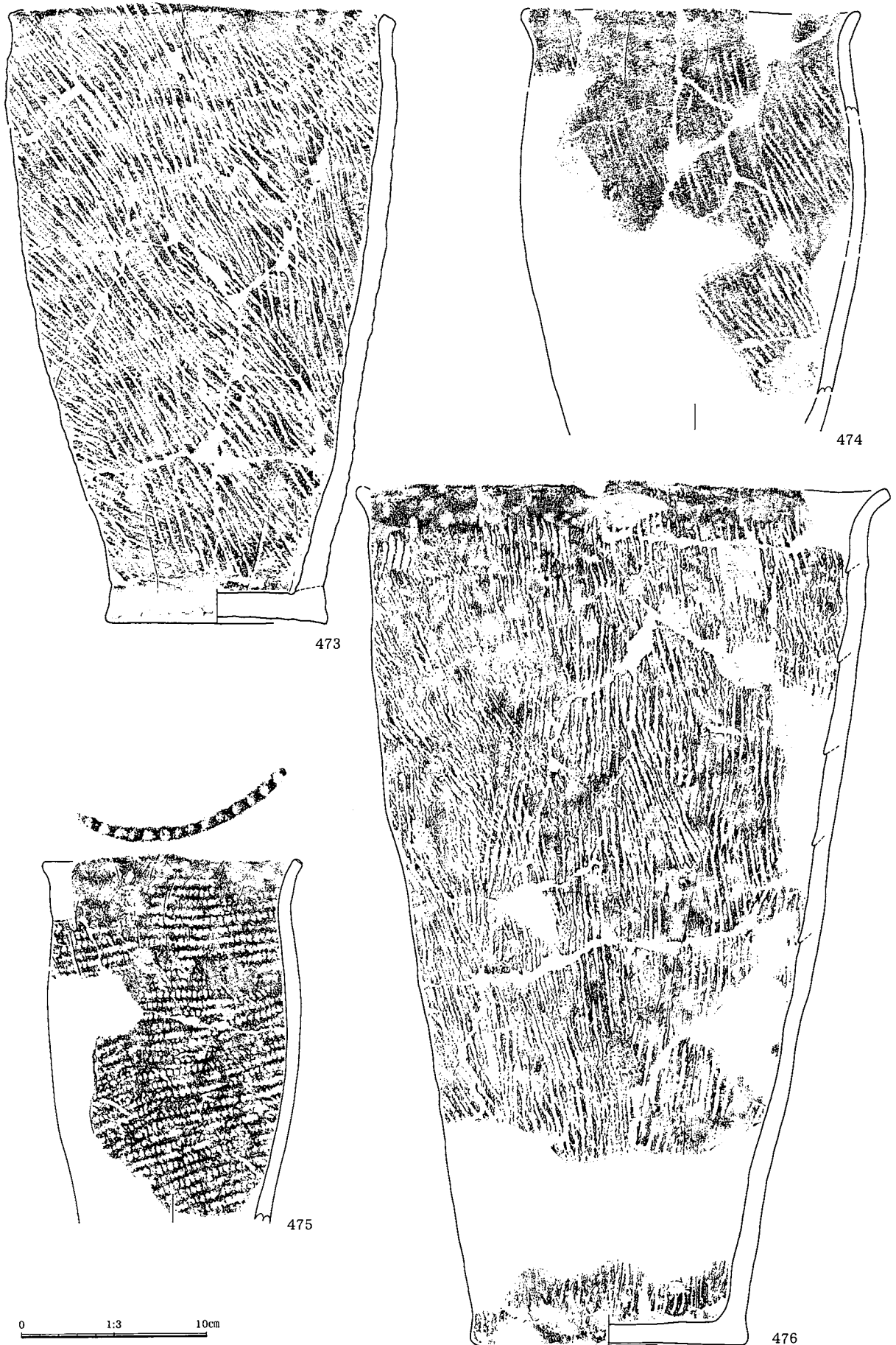
第63図 土器 (461 ~ 464)



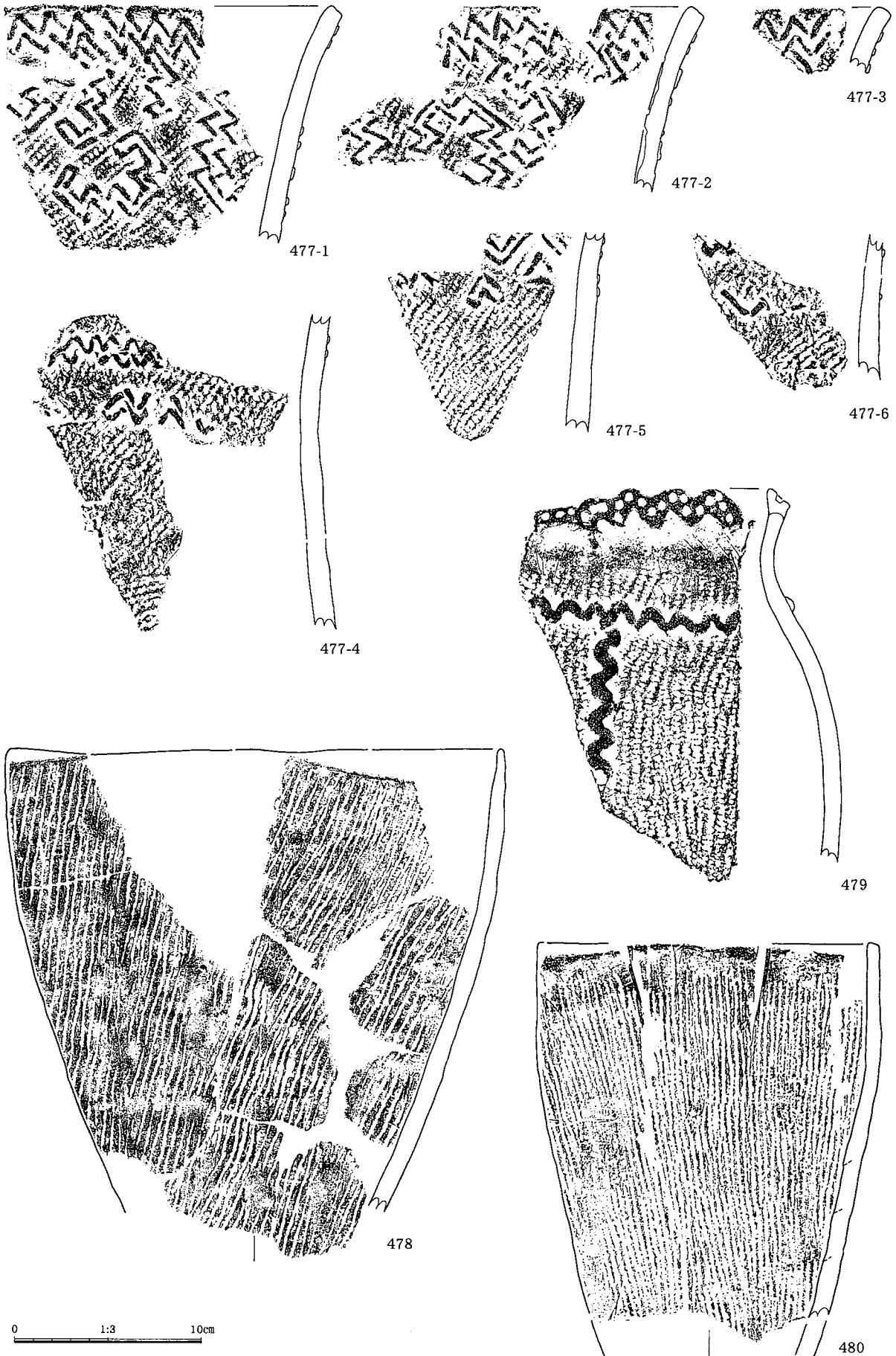
第64図 土器 (465 ~ 468)



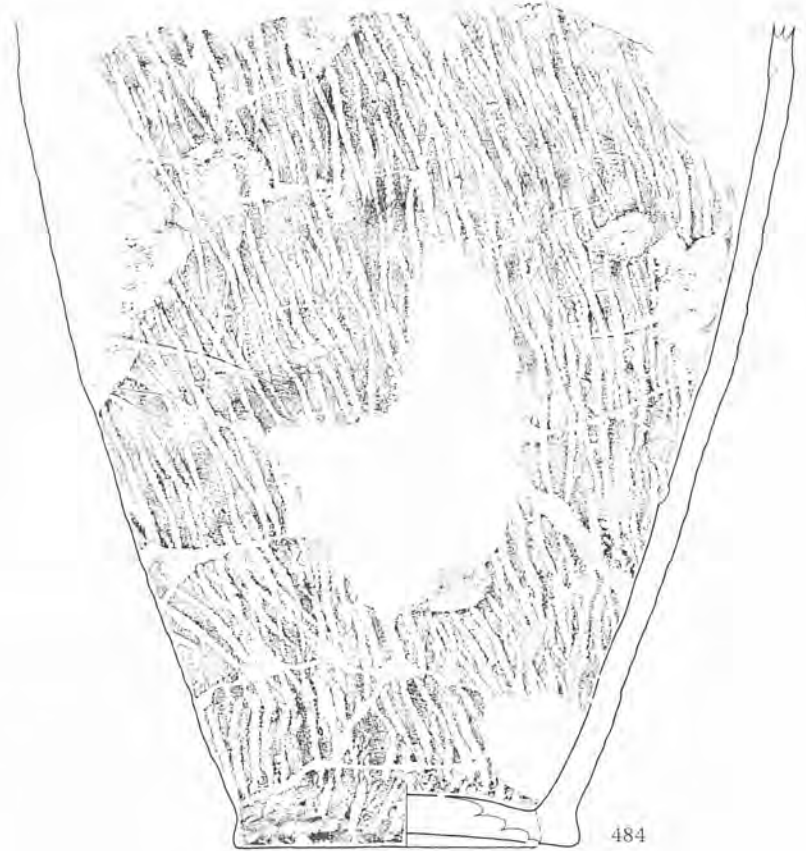
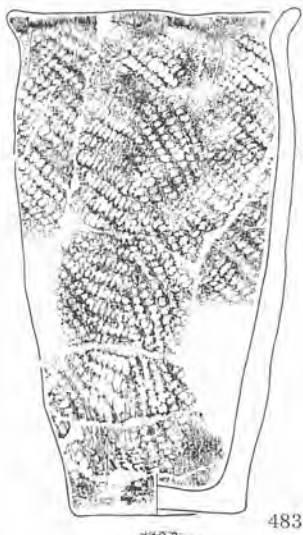
第65図 土器 (469 ~ 472)



第 66 図 土器 (473 ~ 476)

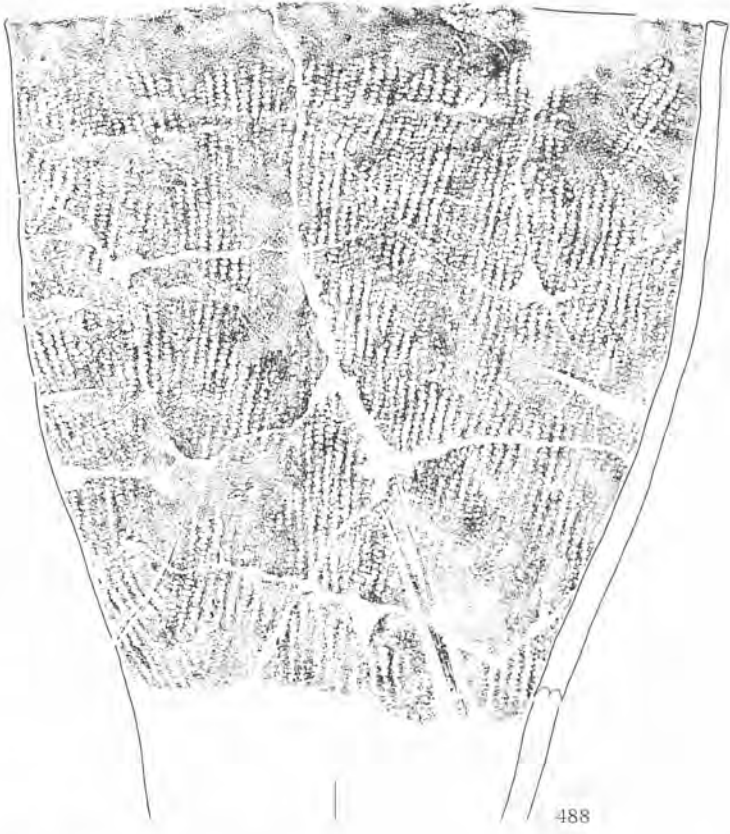
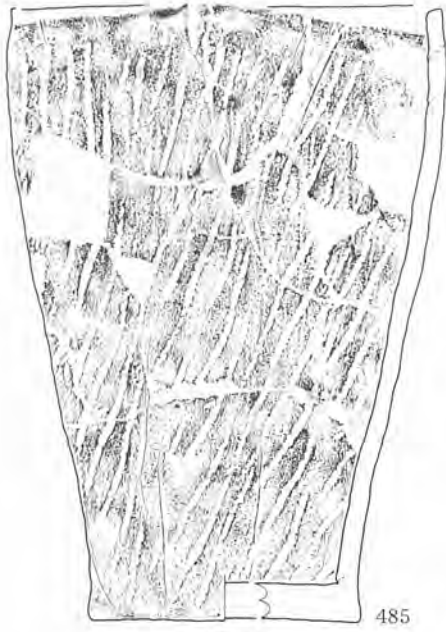


第 67 図 土器 (477 ~ 480)

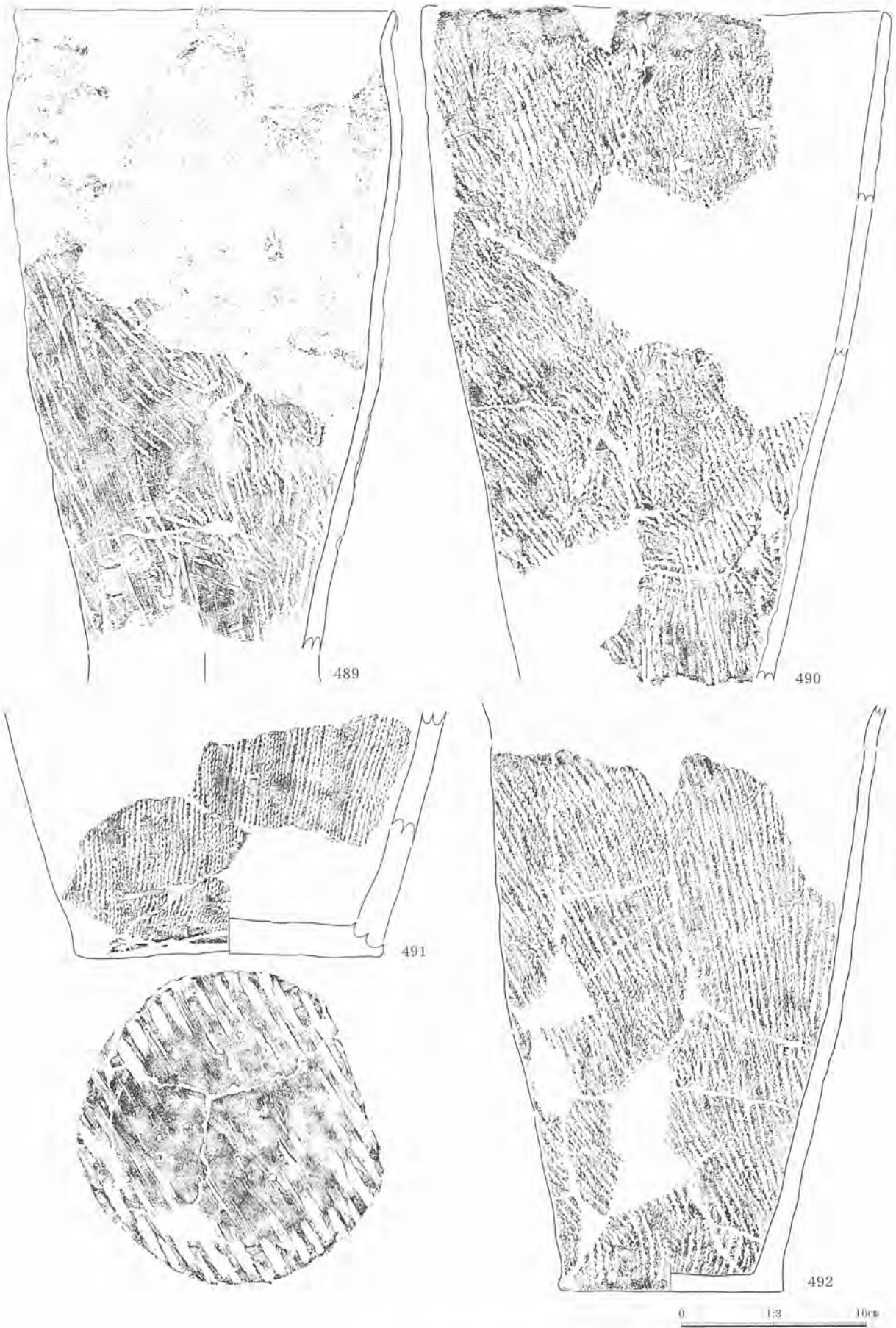


0 1:3 10cm

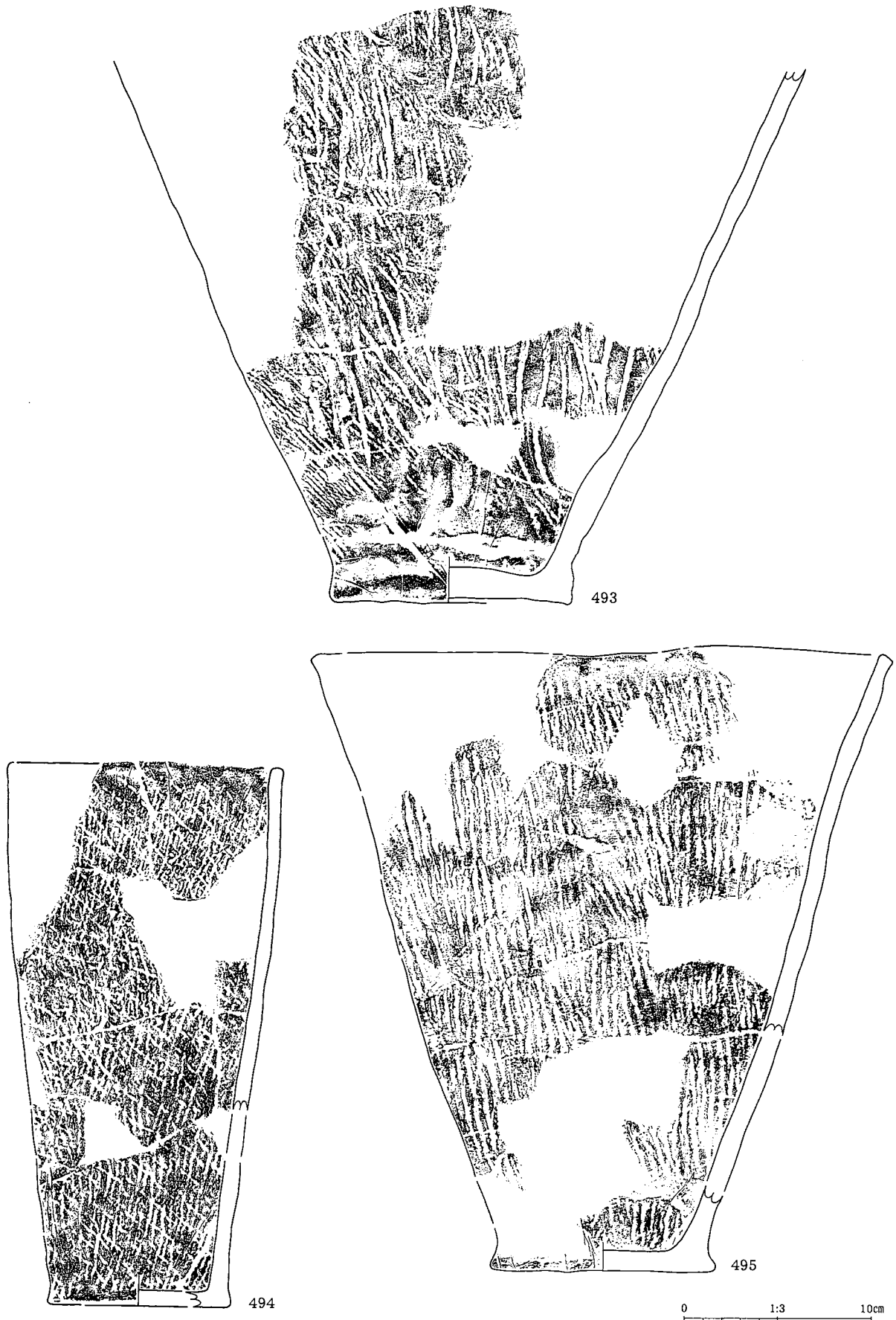
第 68 図 土器 (481 ~ 484)



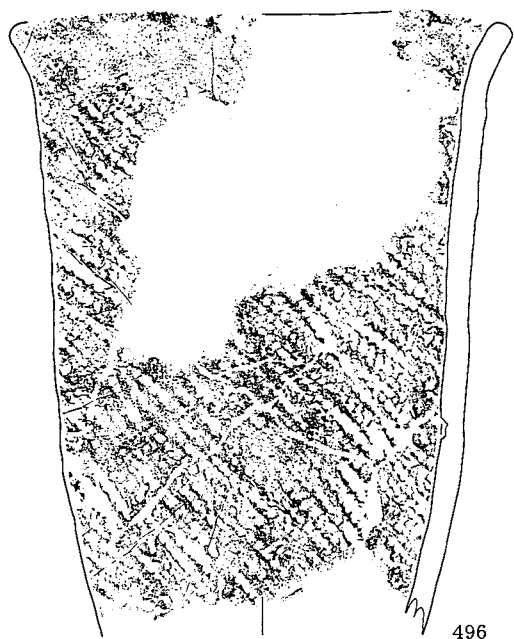
第 69 図 土器 (485 ~ 488)



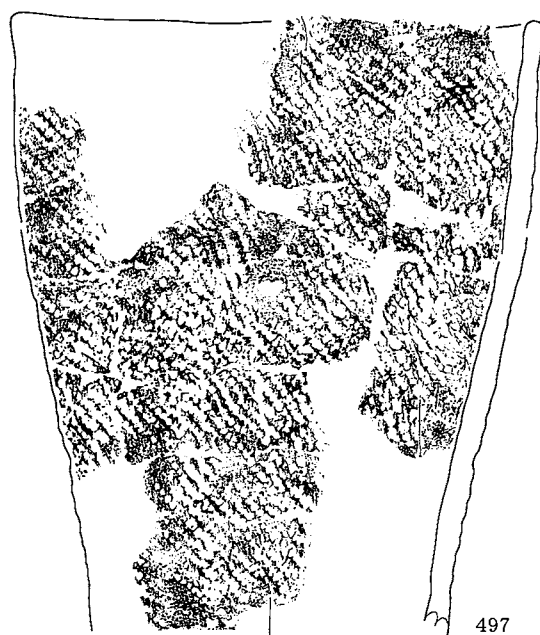
第70図 土器 (489～492)



第71図 土器 (493～495)



496



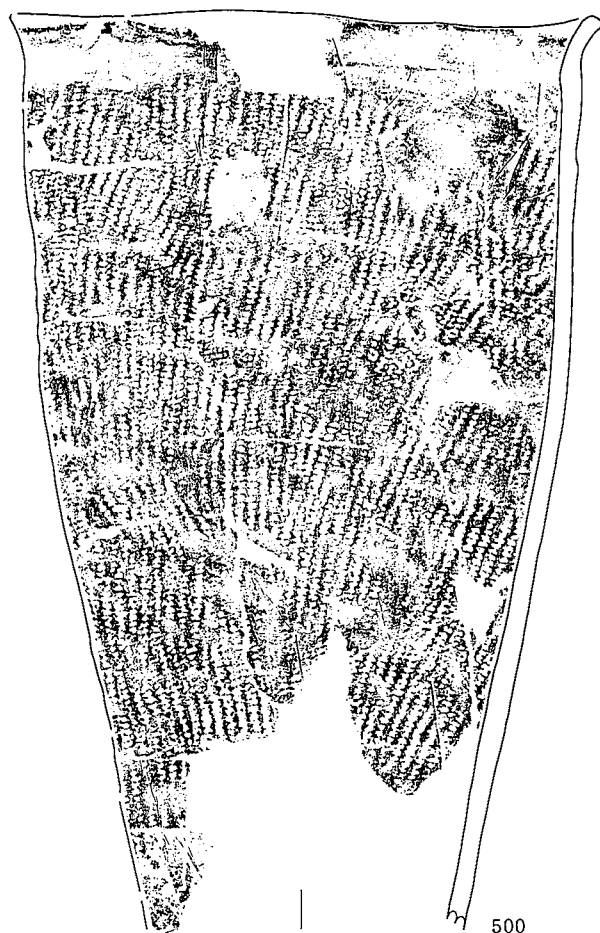
497



498



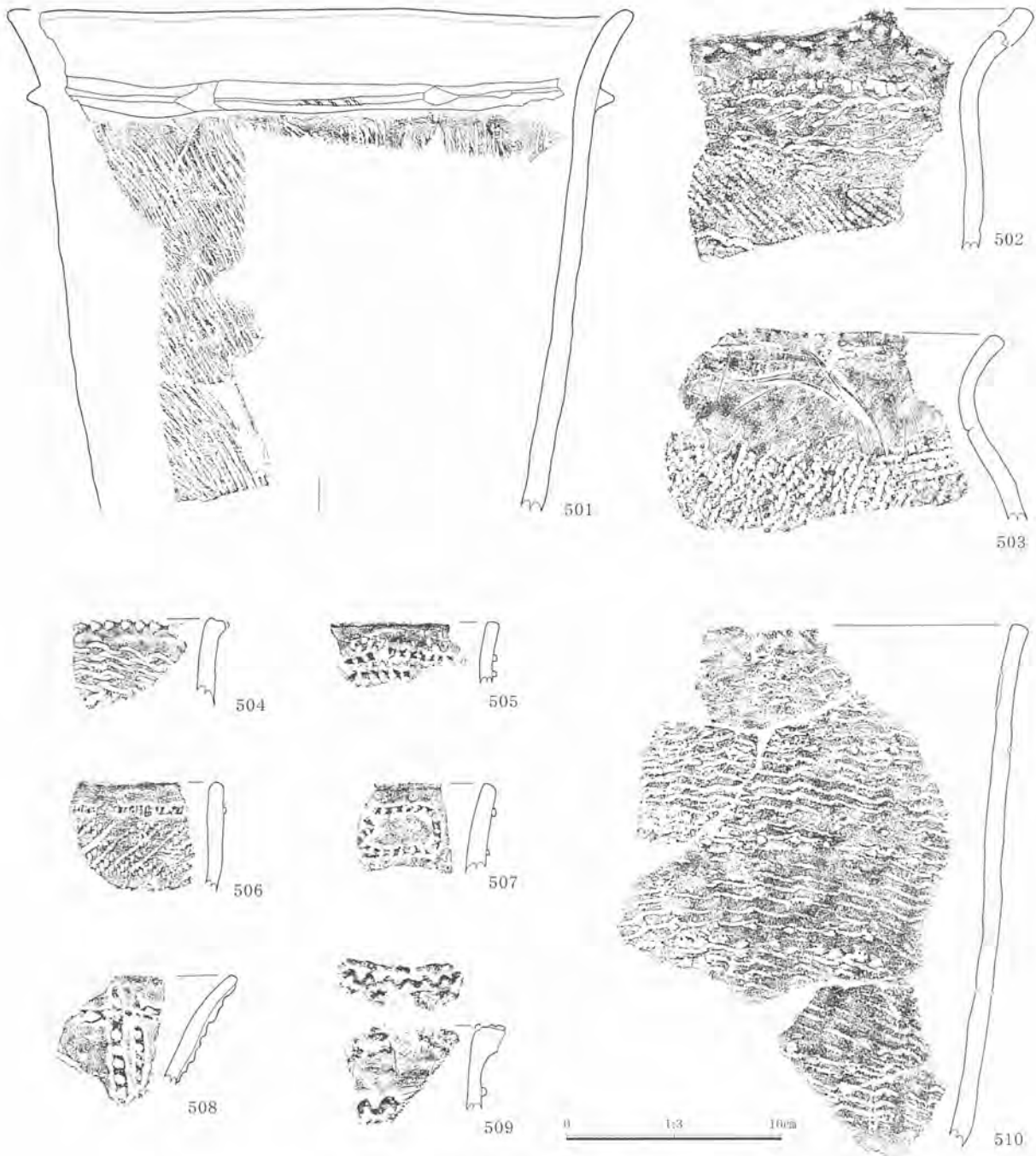
499



500

0 1:3 10cm

第72図 土器 (496 ~ 500)



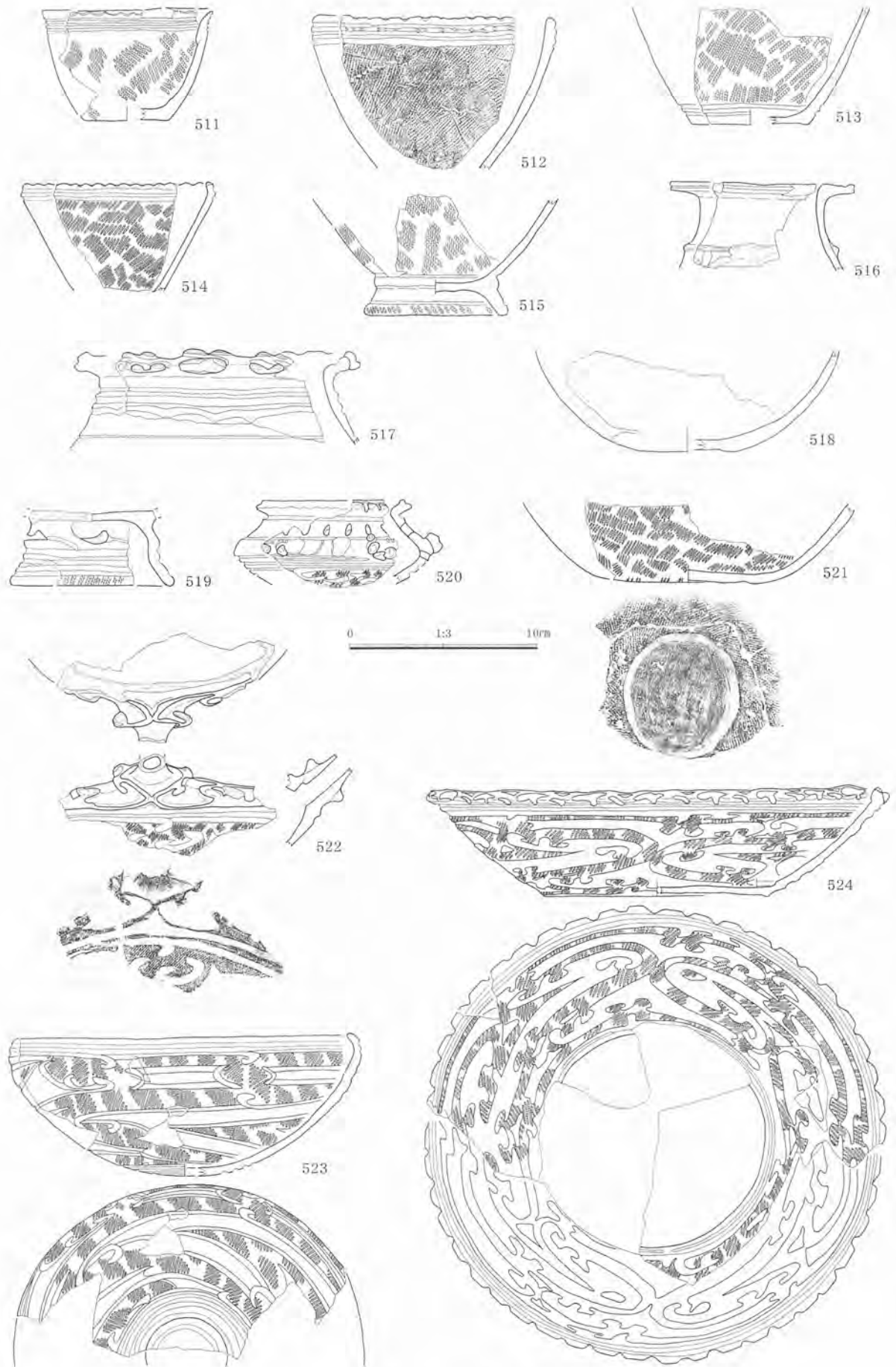
第73図 土器 (501～510)

455は大形の深鉢であるが、外傾する直線的な体部に、口縁部付近が波状の貼り付け文によって装飾されている。口縁部にも波形モチーフの突起がみられる。

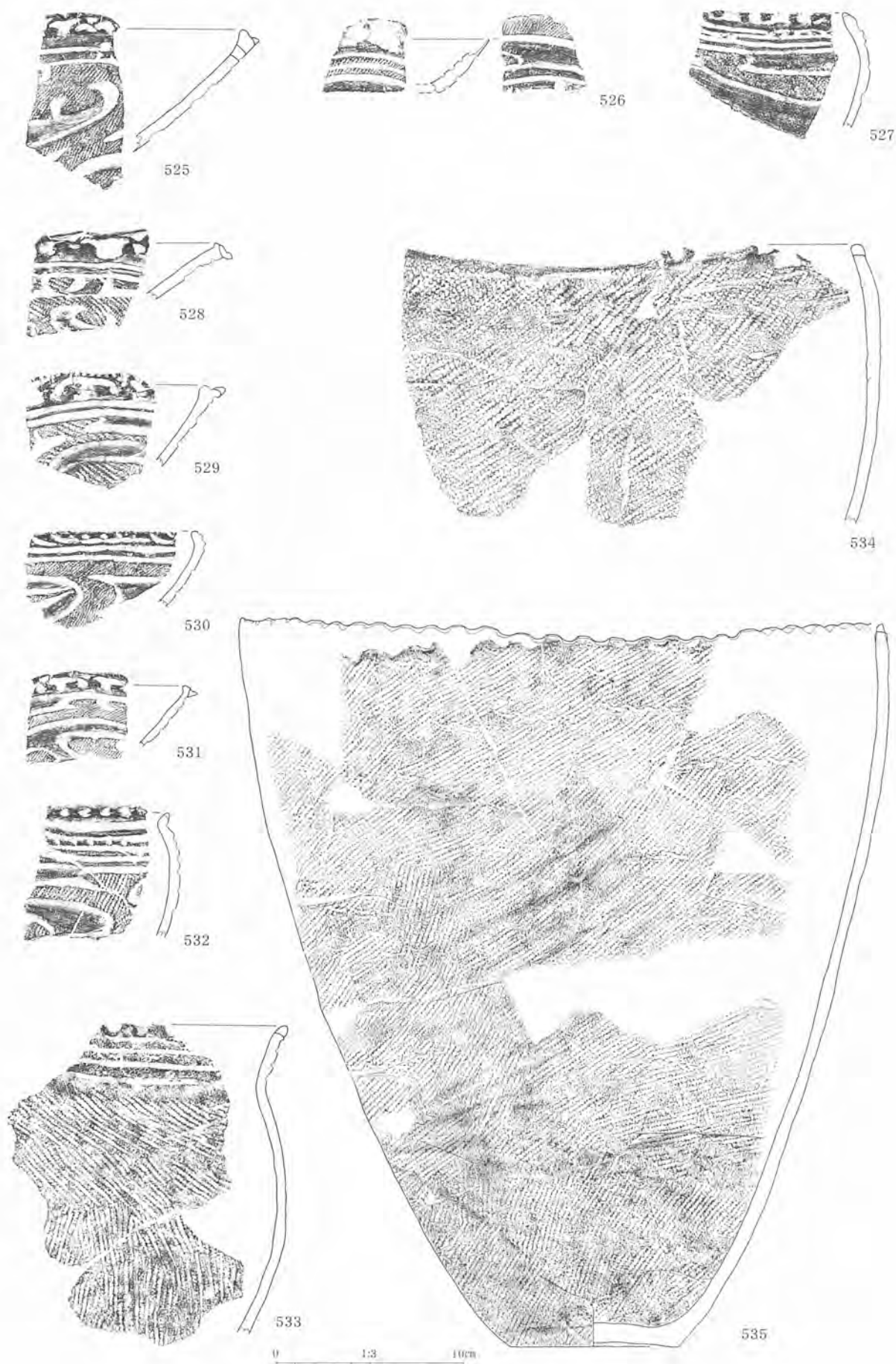
その他、掲載した大半の土器が地文のみの個体である。これらはいずれも底部が小さく窄まり、わずかに外傾する直線的な体部を有する。また、口縁部は一部で加飾される個体も存在するが、大半は水平で無加飾の口縁である。

511～539は縄文時代晩期の土器である。器種のバラエティーが豊富で、精製の浅鉢・粗製の深鉢に加え、注口土器(522)も存在する。

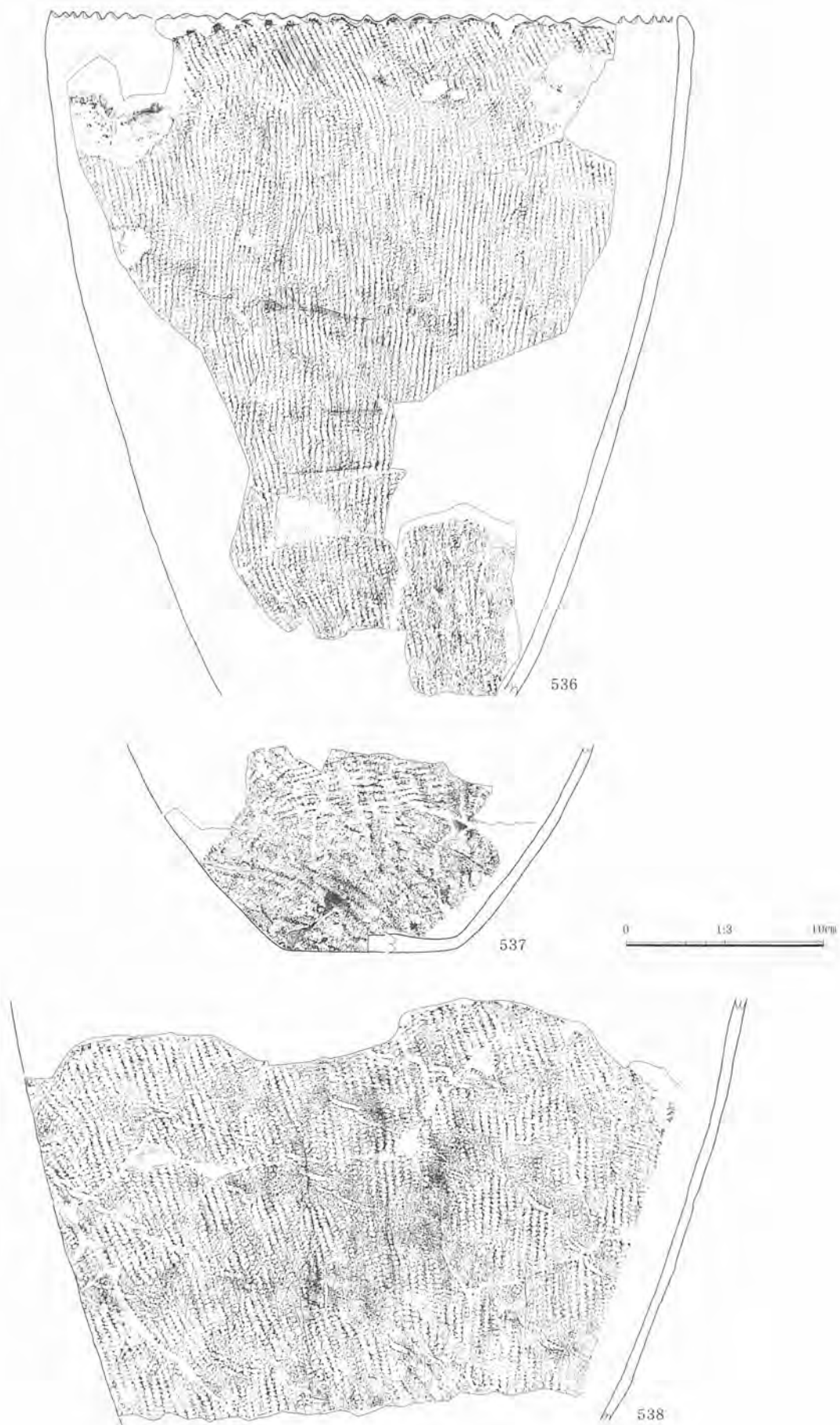
538はSI04の炉に埋設されていた深鉢である。



第74圖 土器 (511 ~ 524)



第75図 土器 (525 ~ 535)



第76図 土器 (536 ~ 538)



第77図 土器 (539)

石器・石製品 (第78～107図、写真図版92～116)

540～699は石鏃である。有茎であると断定できるものは皆無で、無茎の石鏃のみである。石材はほとんどすべてが頁岩製であり、北上山地を起源とするものが圧倒的に主体を占めるものと考えられる。

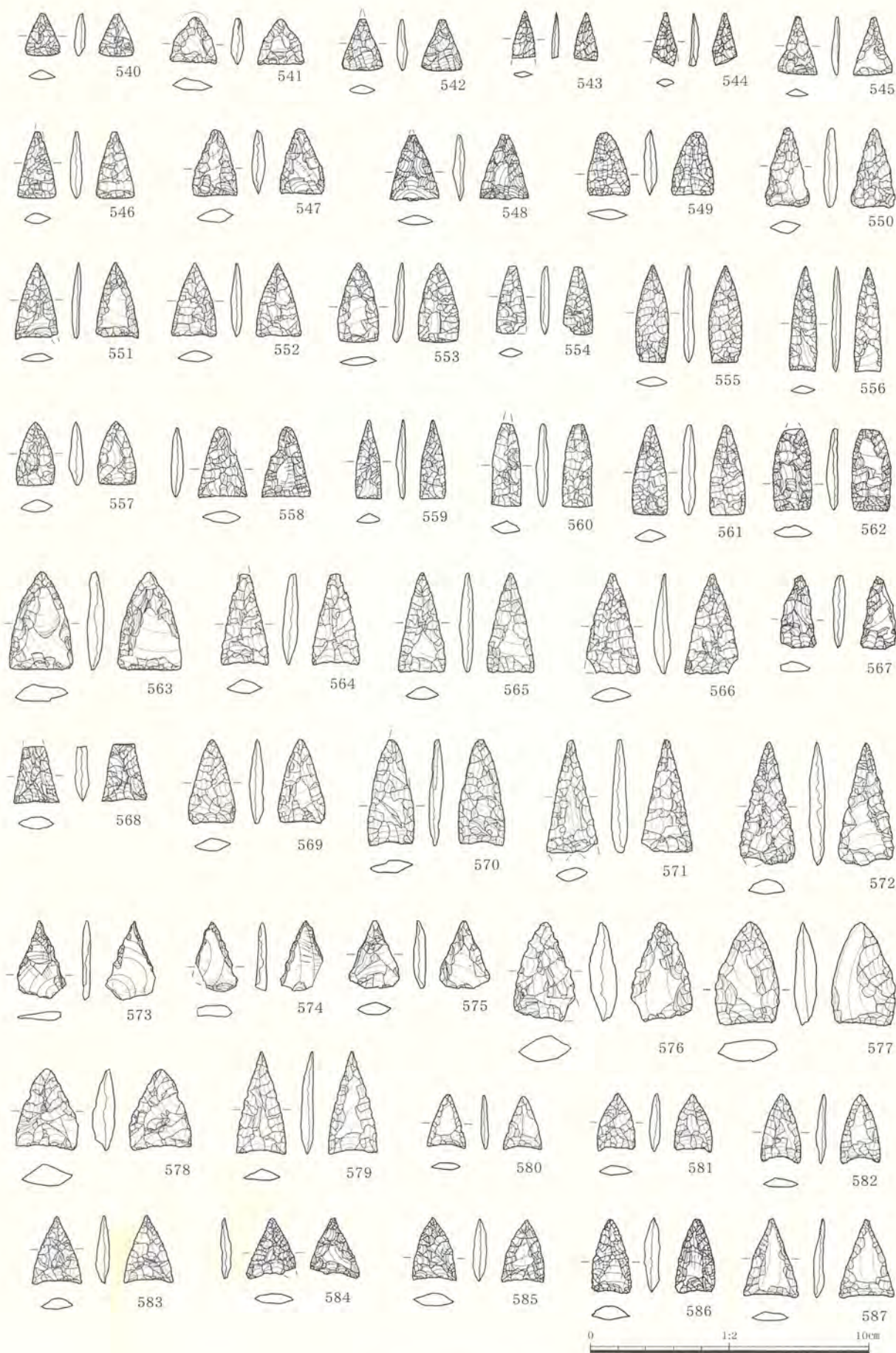
700は石鏃を転用した他の器種である可能性が考えられるが、部が欠損しており詳細は不明である。

701～773は石匙である。いずれも北上山地の頁岩製であり、757・761・764・766などが横長形態である以外はすべて縦長形態である。

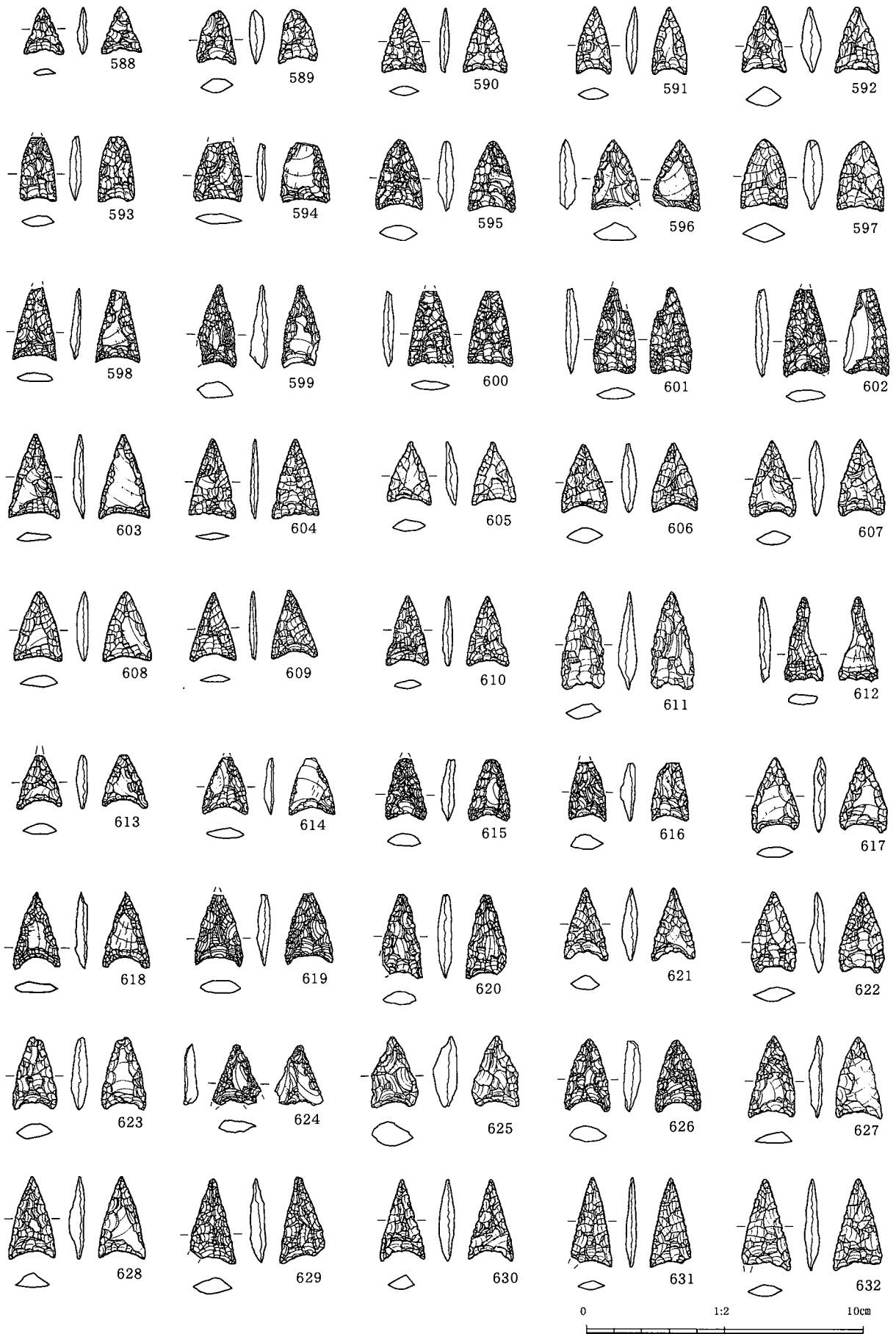
774～804は尖頭器である。いずれも基部が作り出してあり、先端が尖った形態である。一部石匙と判別しづらいものも存在するが、おおむね直線的、左右対称で基部の微細な調整が尖頭器らしいものをこの種に分類した。

841～845は磨製石斧である。いずれも欠損部分があり、全体形は不明である。

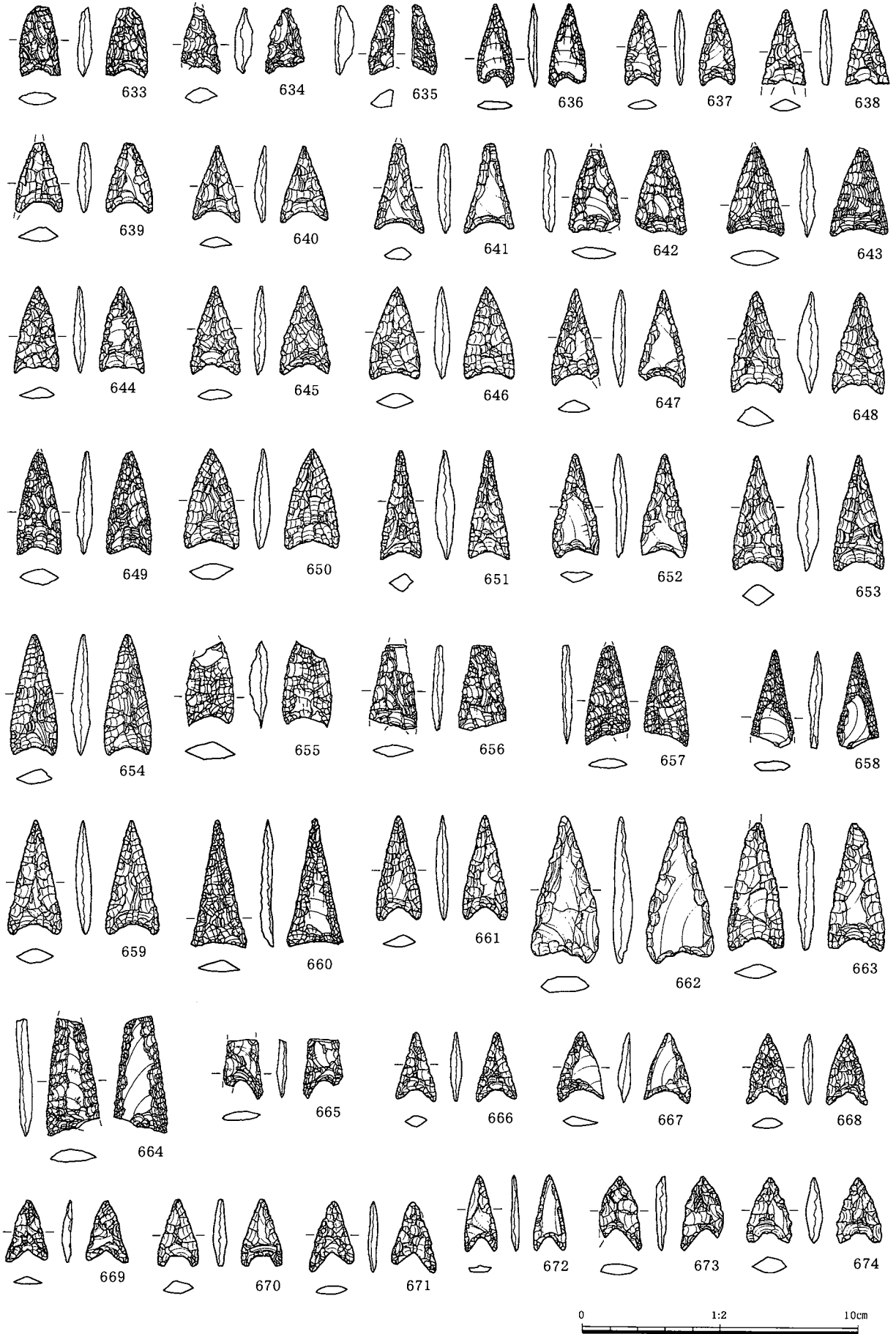
873～879は石製品である。877は滑石製の塊状耳飾りであり、878は陽物である可能性が考えられる線刻が施された石製品である。879は2箇所穿孔と多数の半穿孔が施された用途不明石製品で



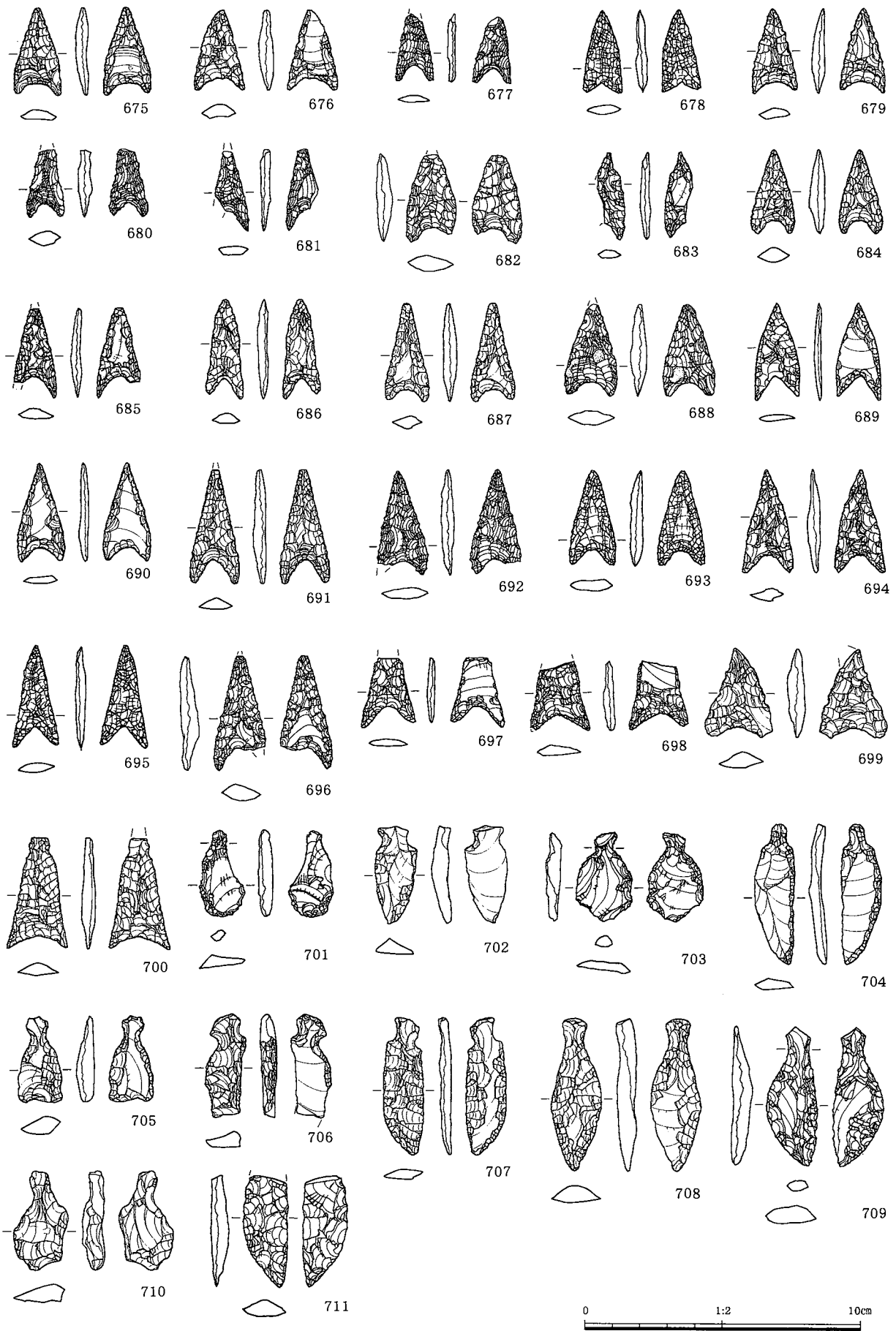
第78図 石器 (540~587)



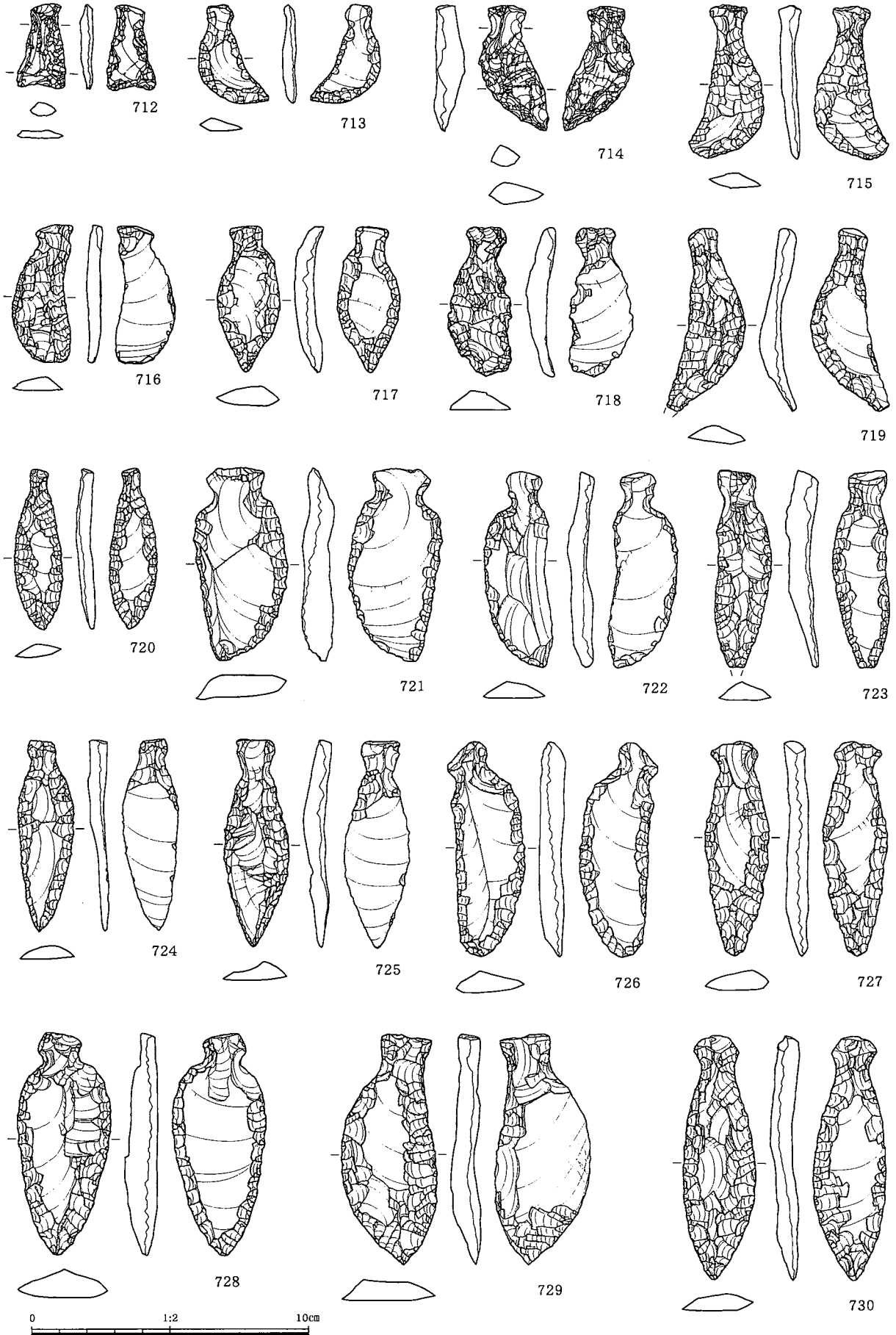
第79図 石器 (588 ~ 632)



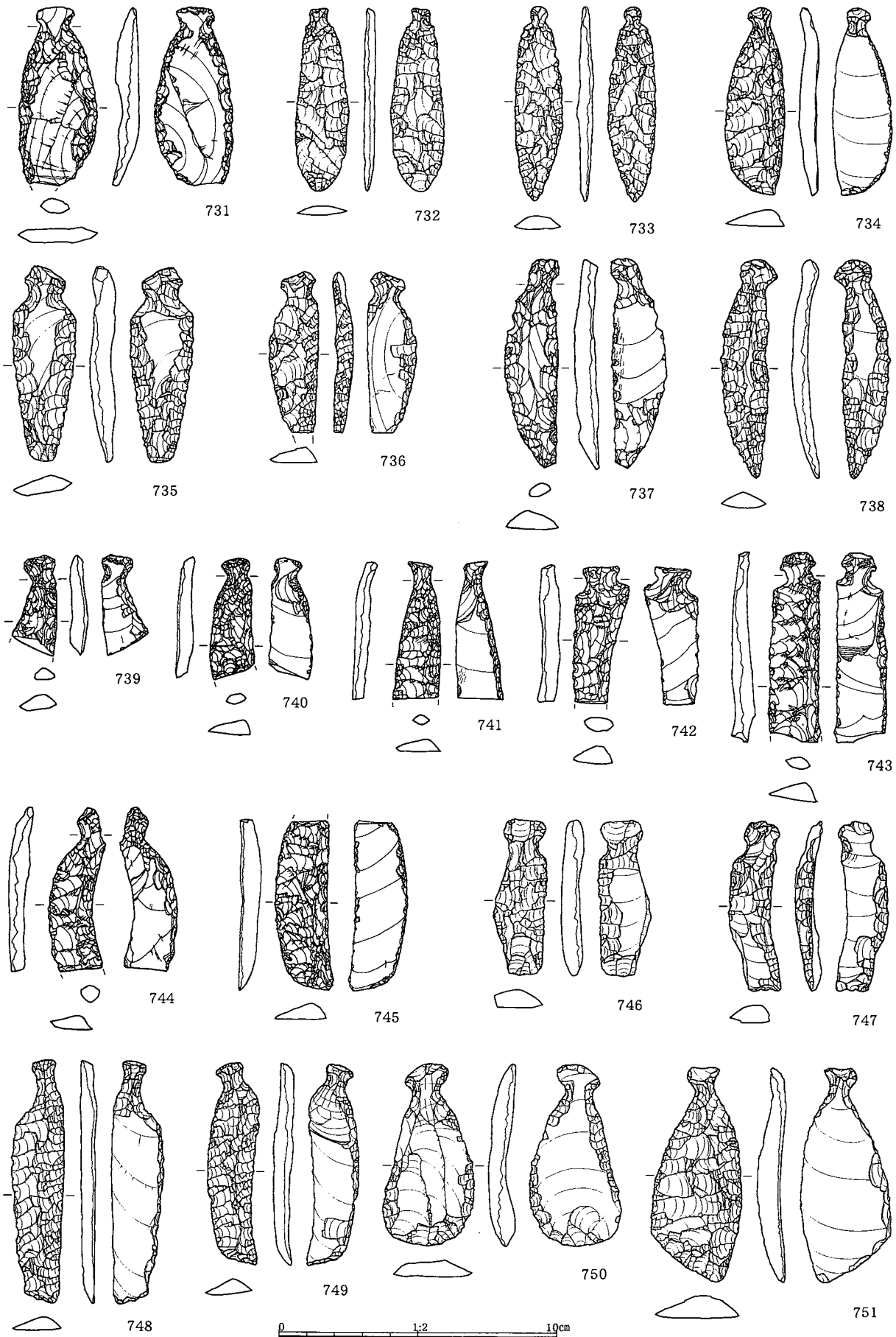
第80圖 石器 (633~674)



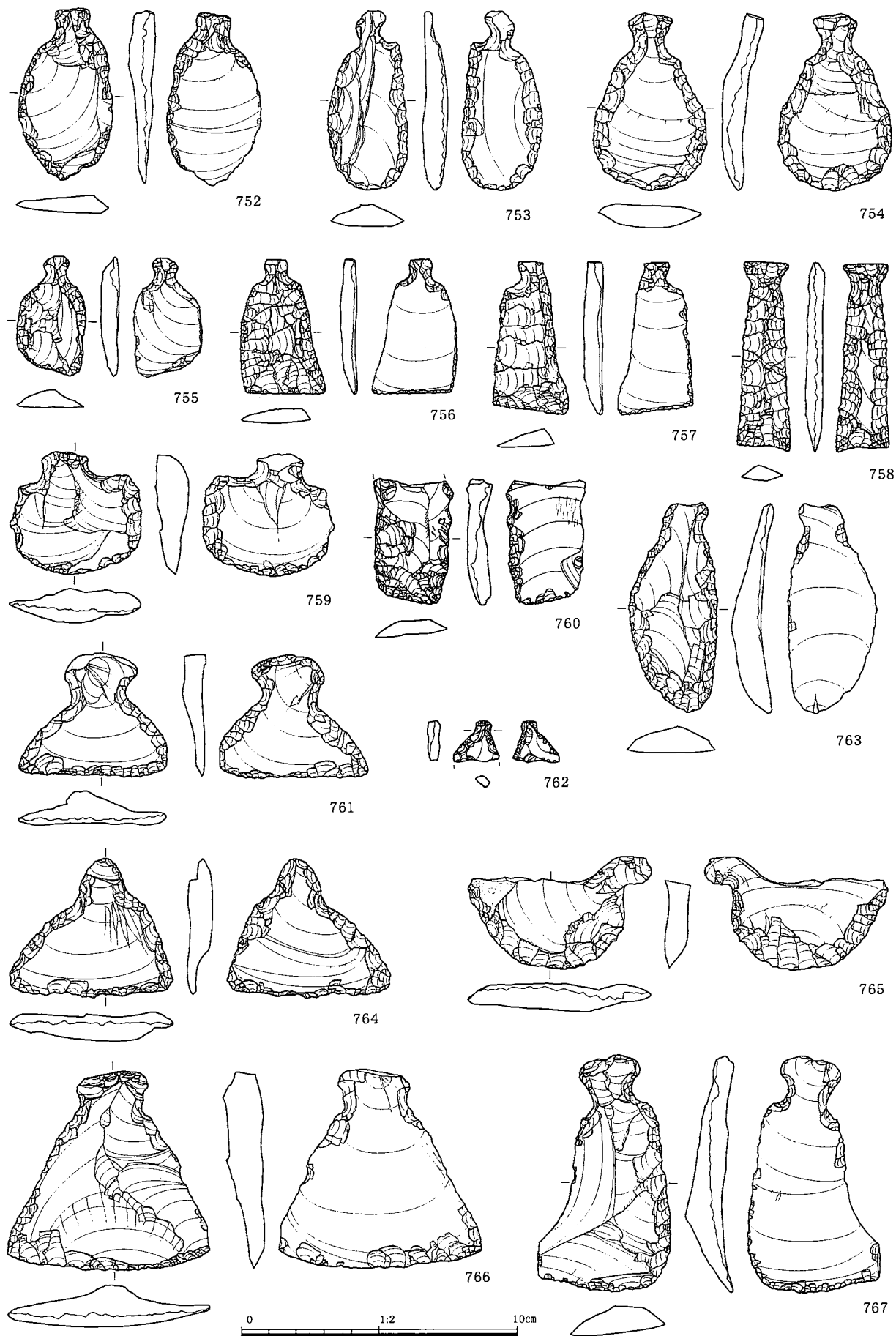
第81図 石器 (675～711)



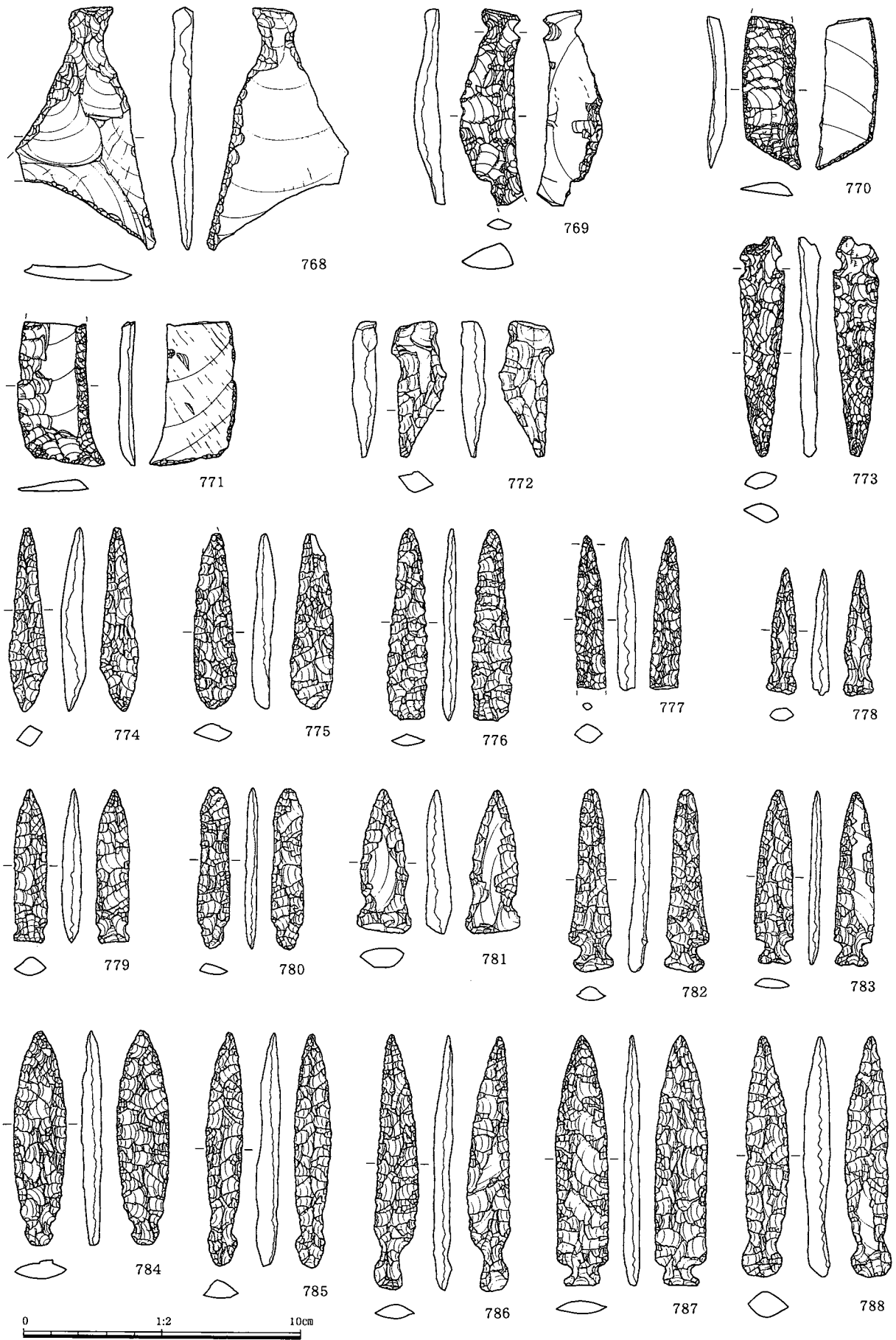
第82圖 石器 (712~730)



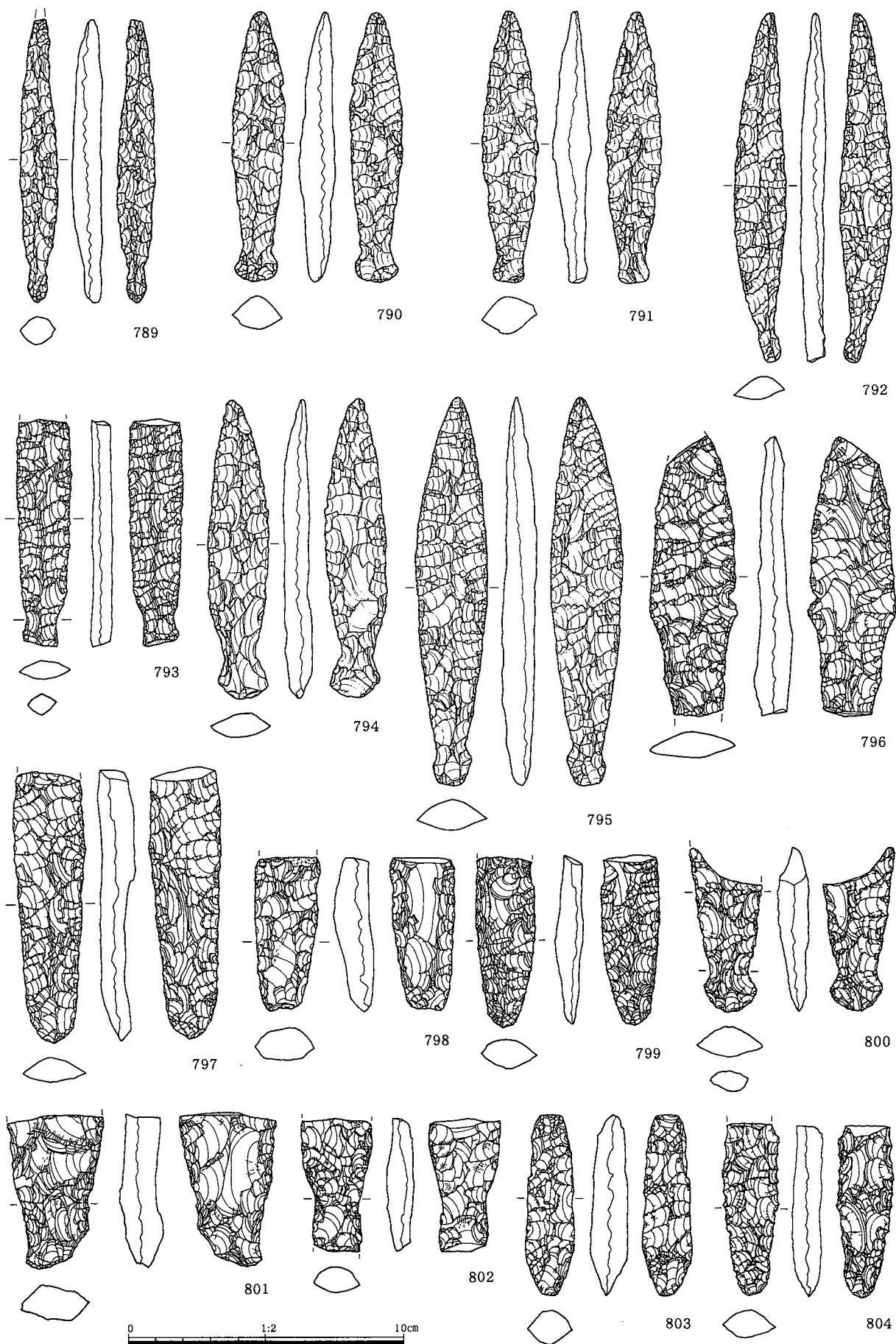
第83図 石器 (731~751)



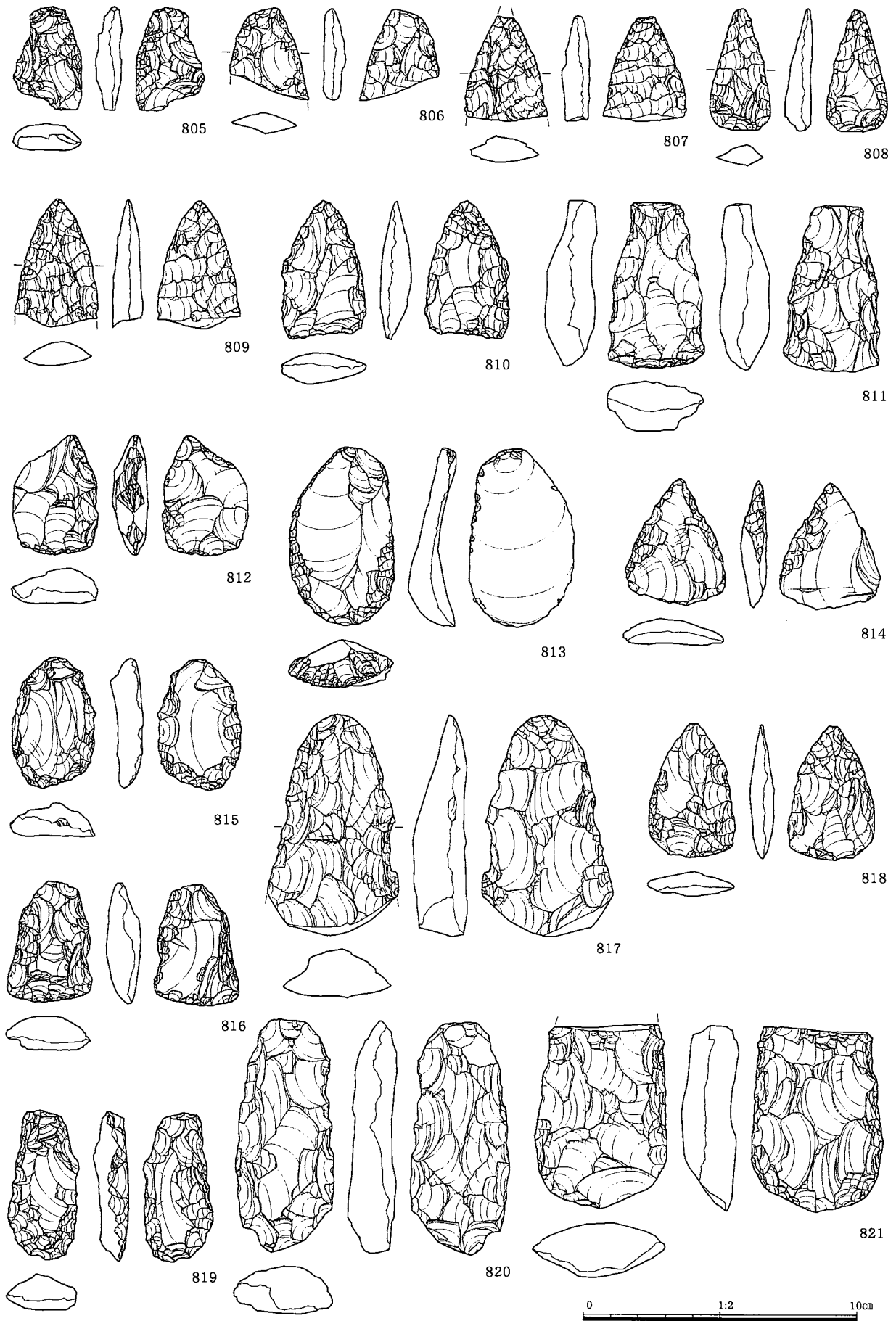
第 84 圖 石器 (752 ~ 767)



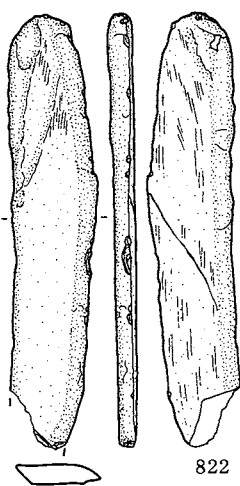
第 85 図 石器 (768 ~ 788)



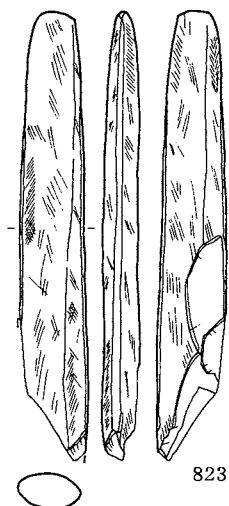
第 86 図 石器 (789 ~ 804)



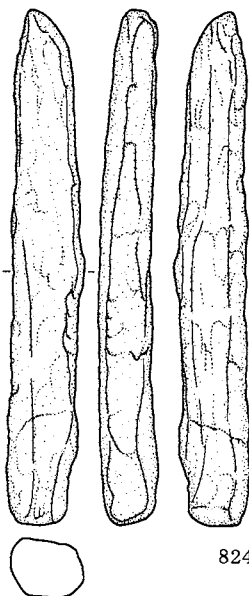
第 87 図 石器 (805 ~ 821)



822



823



824



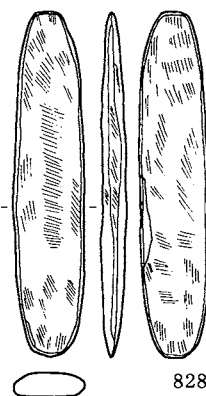
825



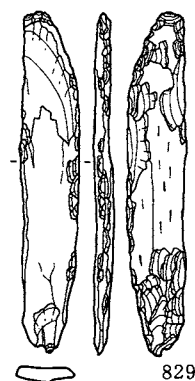
826



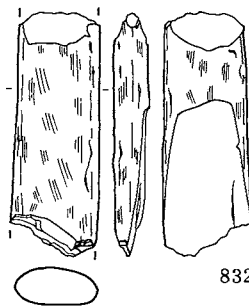
827



828



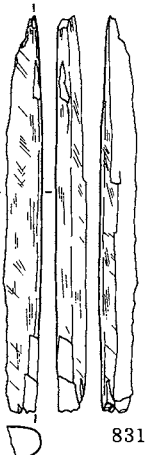
829



832



830



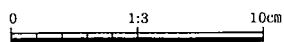
831



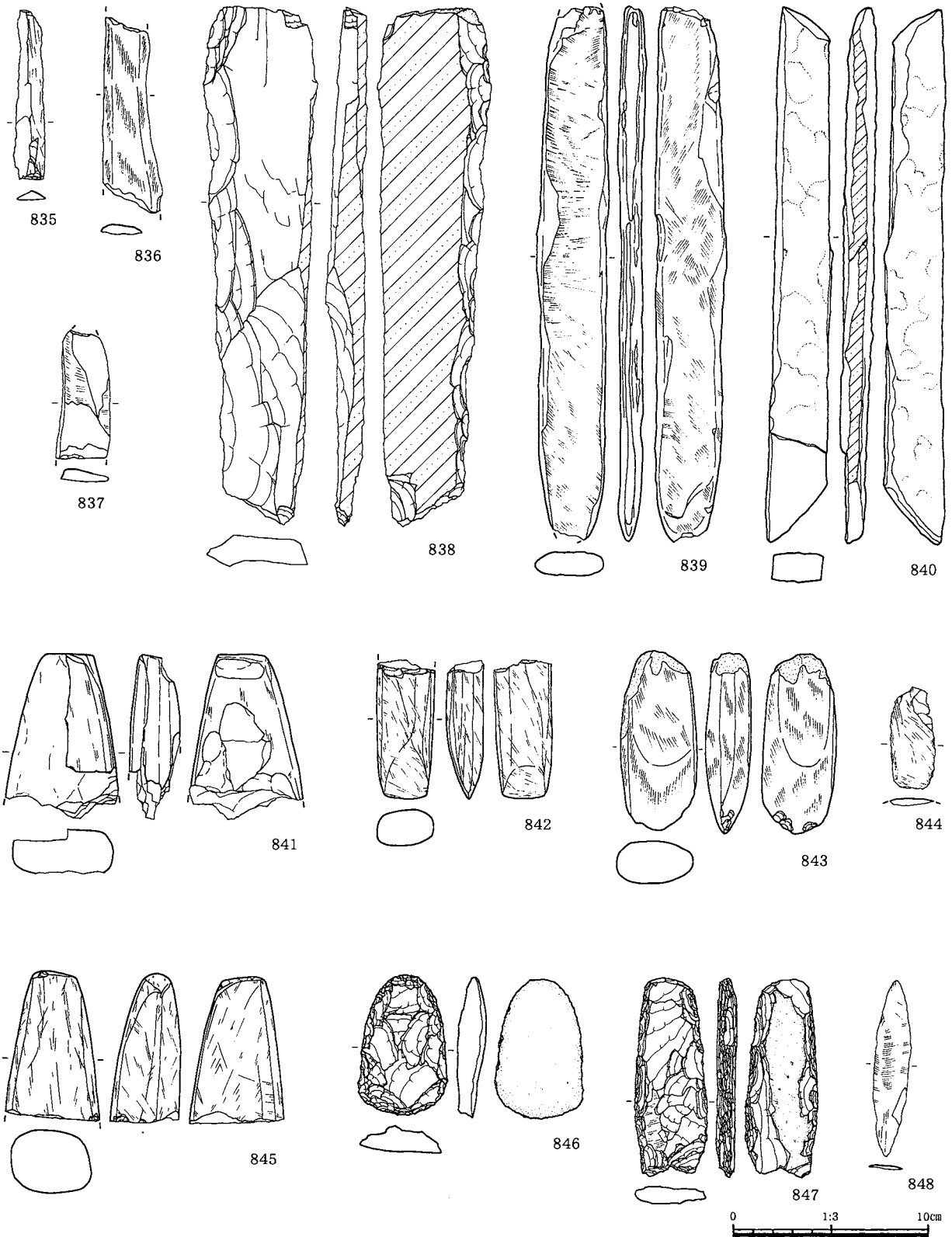
833



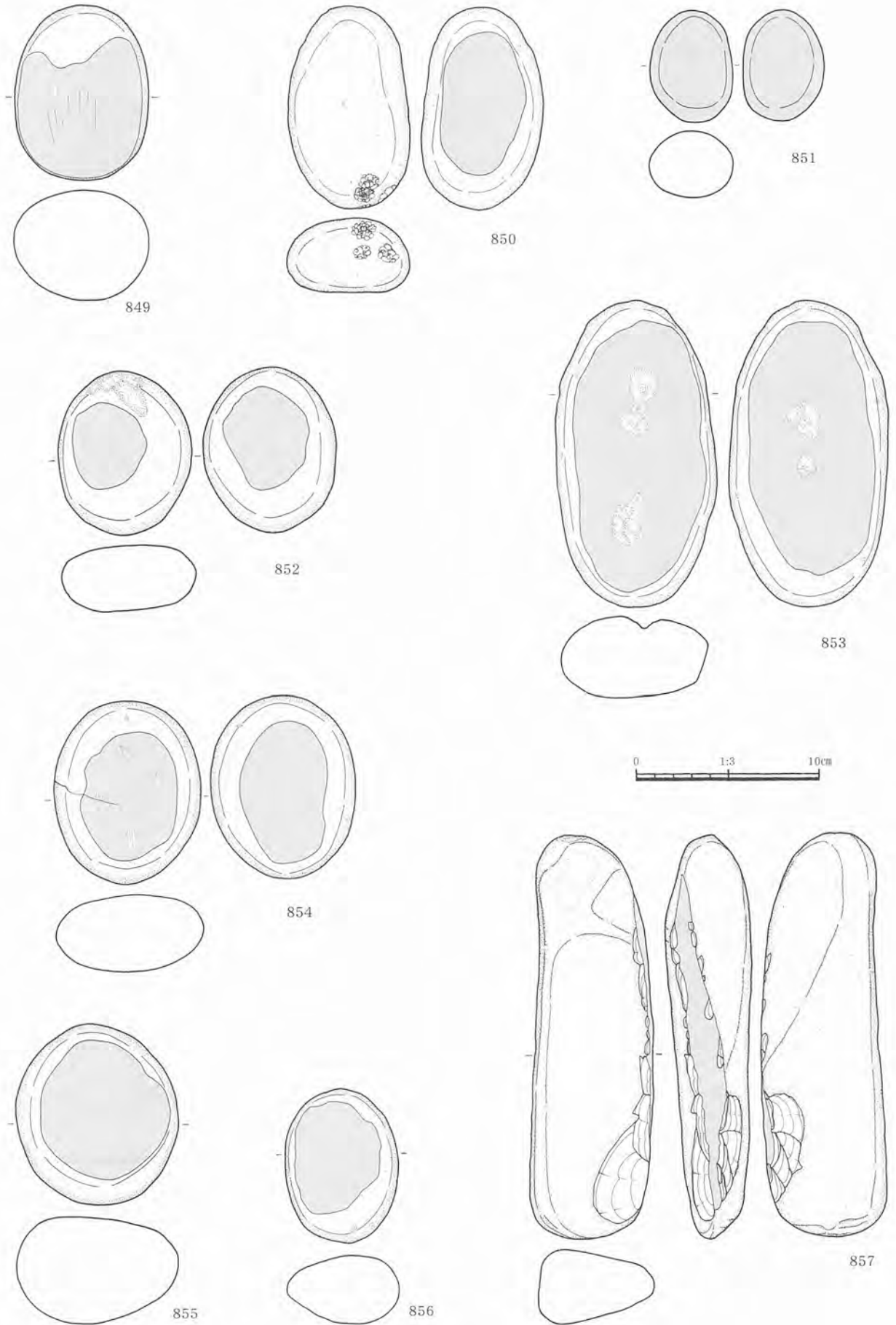
834



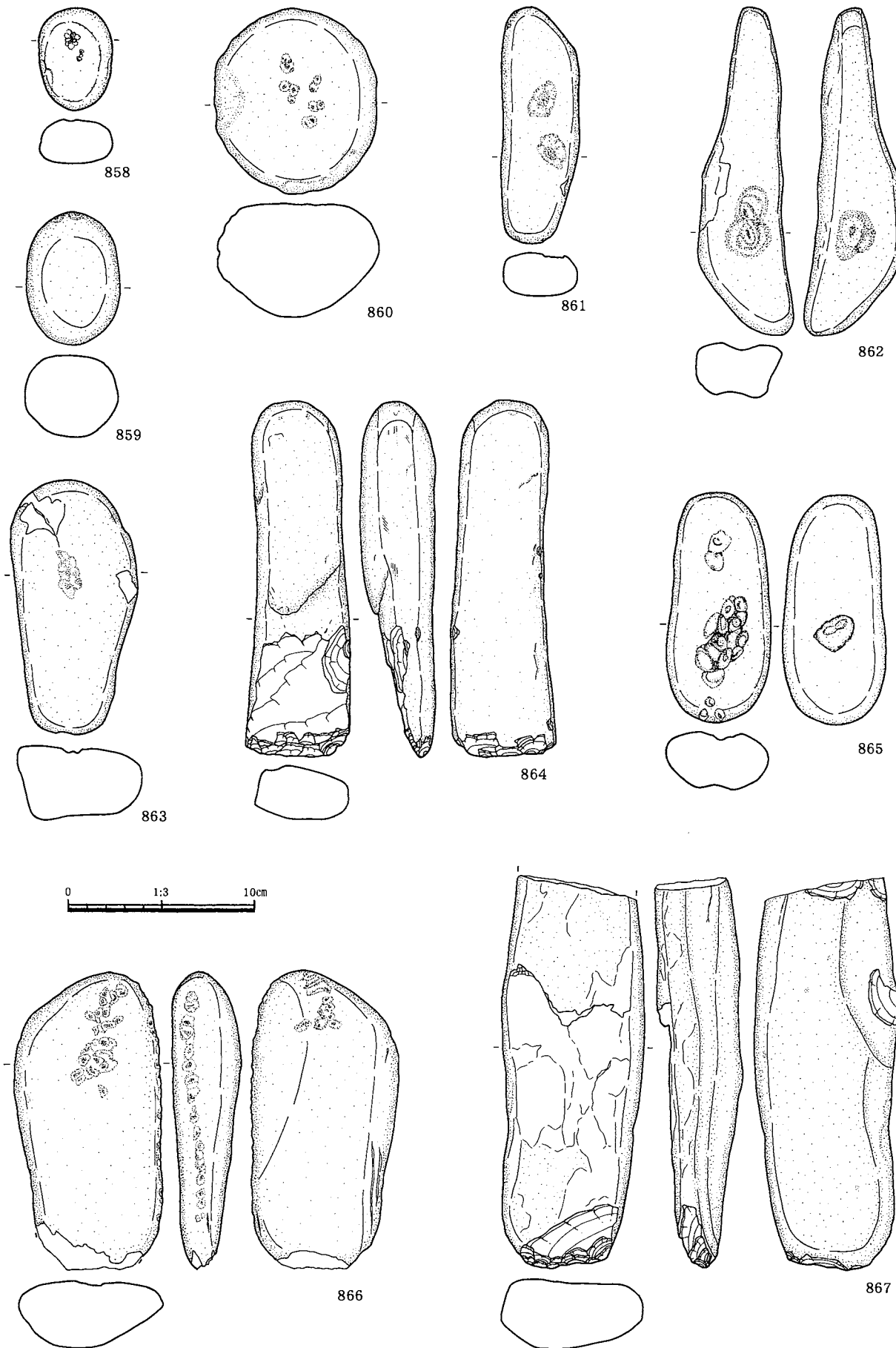
第88図 石器 (822~834)



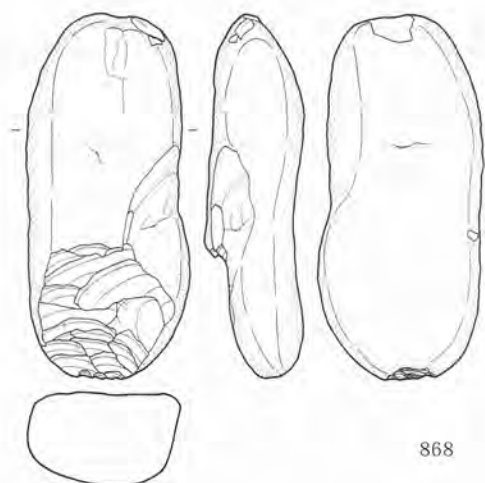
第 89 図 石器 (835 ~ 848)



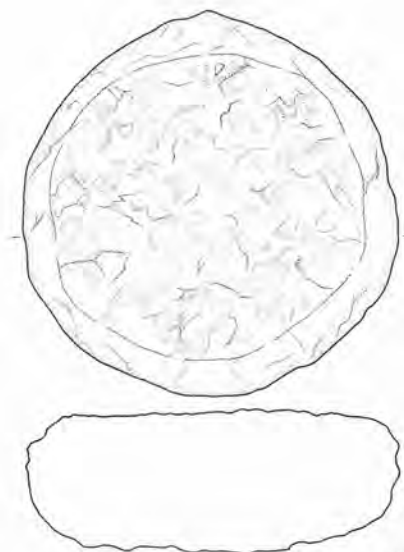
第90図 石器 (849～857)



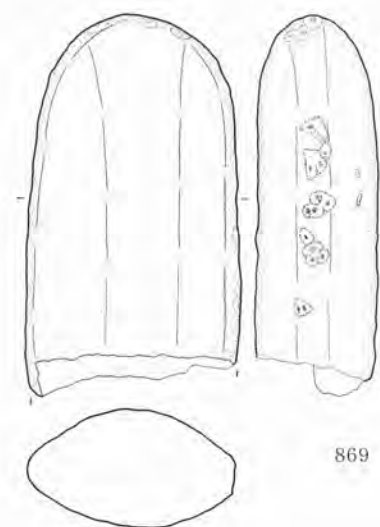
第91図 石器 (858 ~ 867)



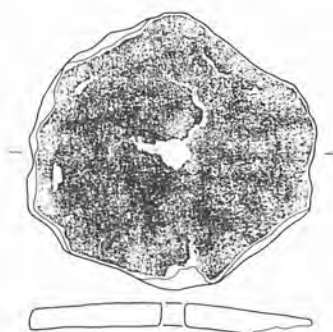
868



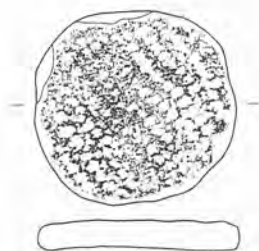
871



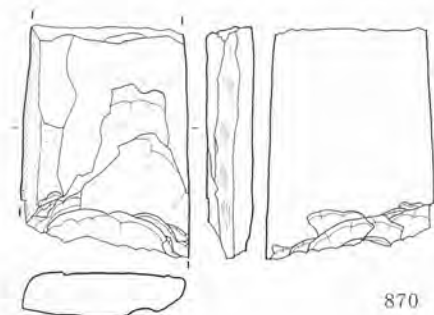
869



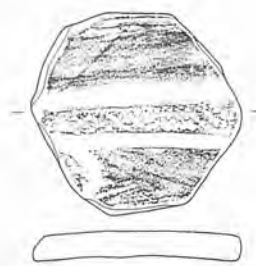
880



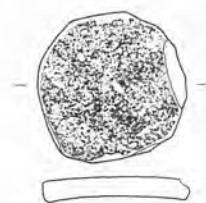
881



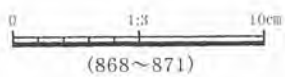
870



882



883

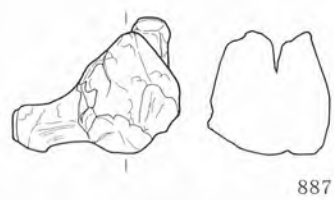
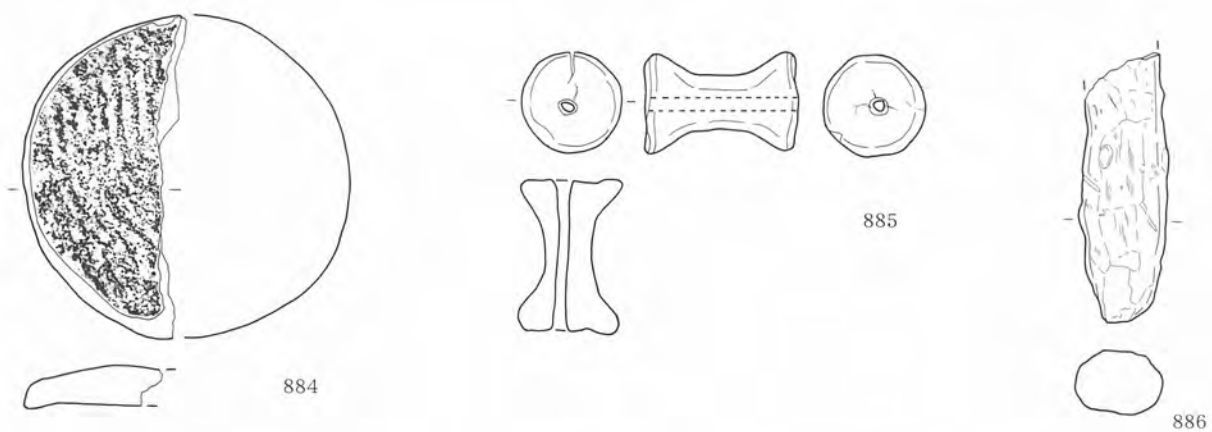
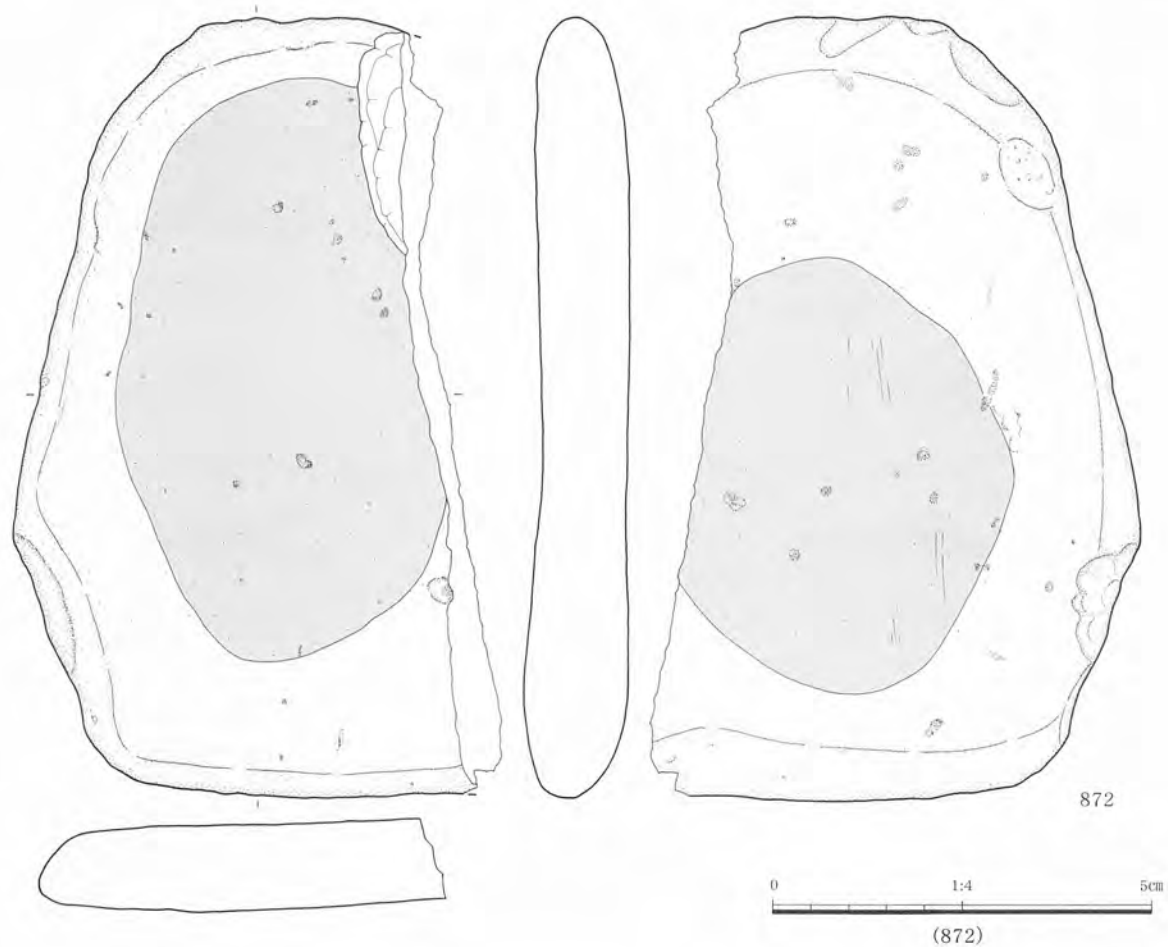


(868~871)

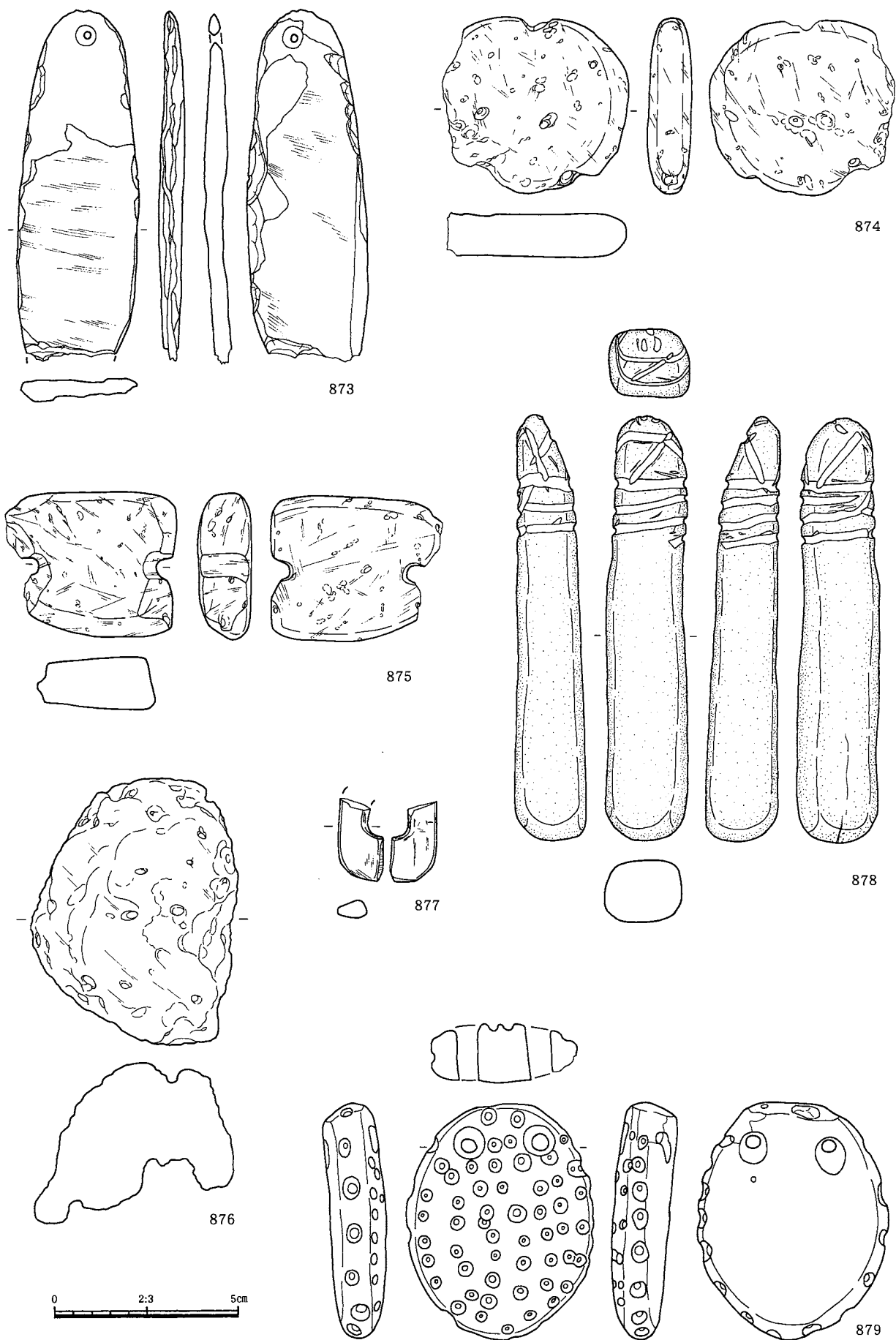


(880~883)

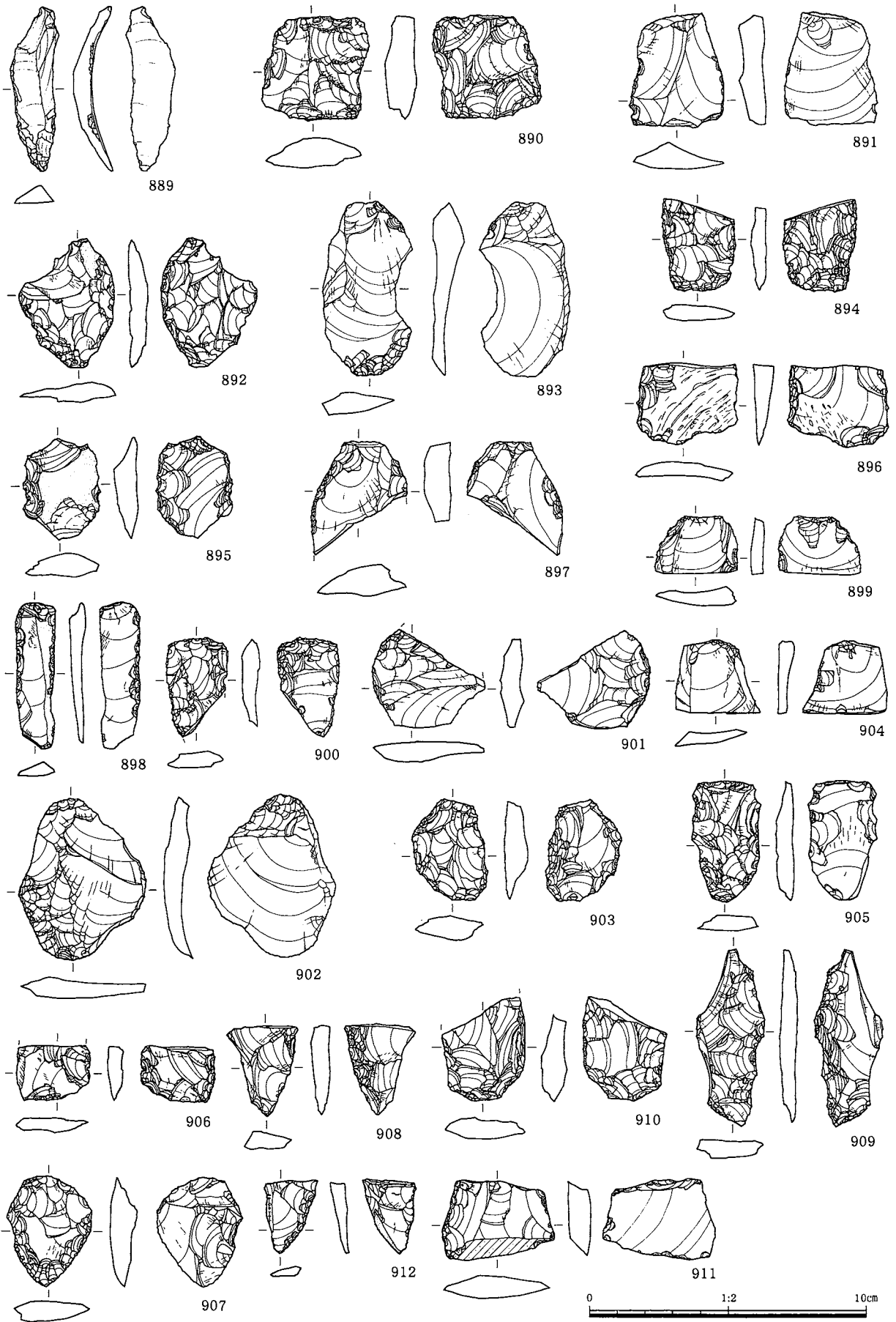
第92図 石器(868~871)・土製品(880~883)



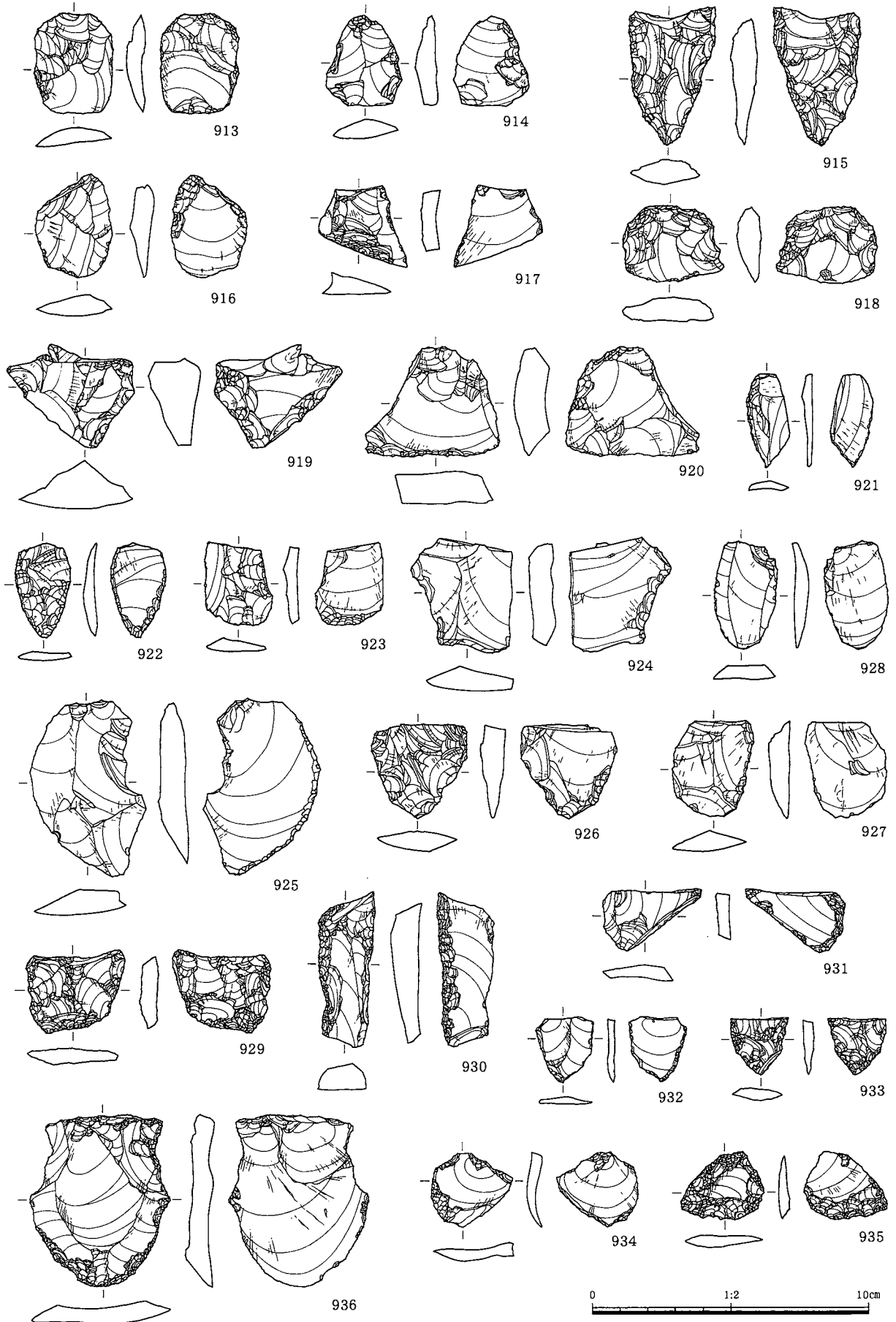
第93図 石器 (872)・土製品 (884~888)



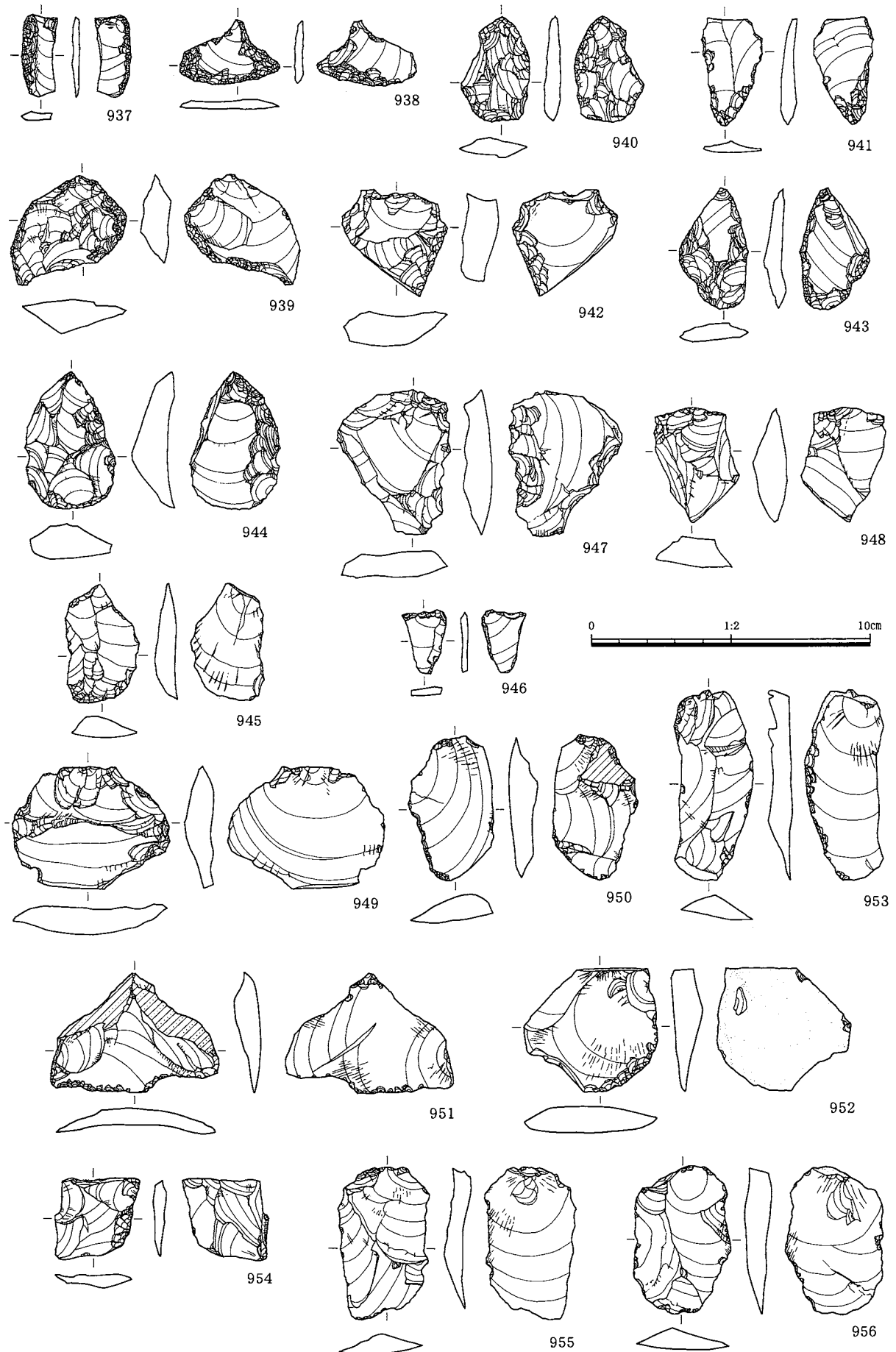
第94図 石製品 (873～879)



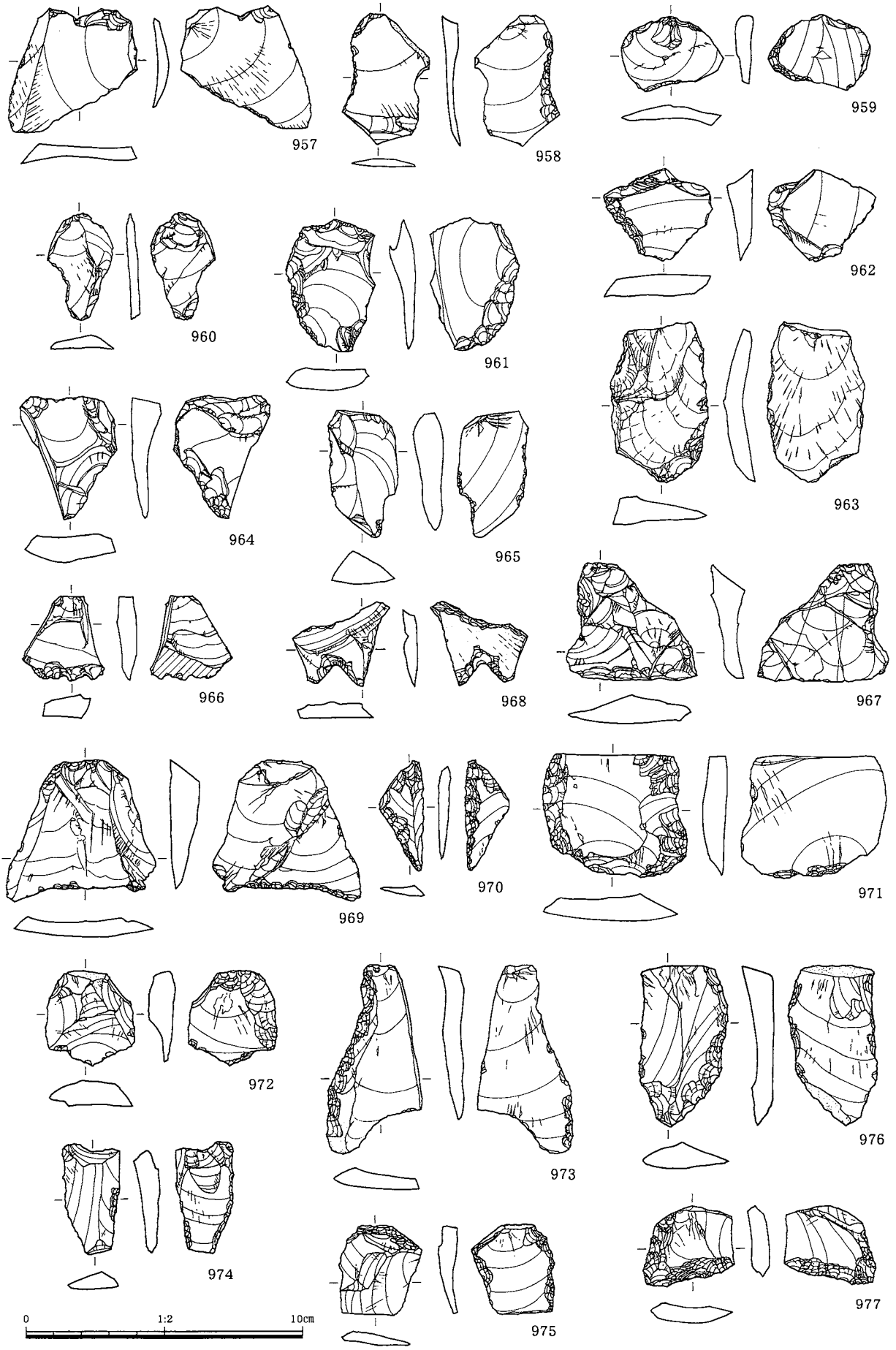
第95図 石器 (889~912)



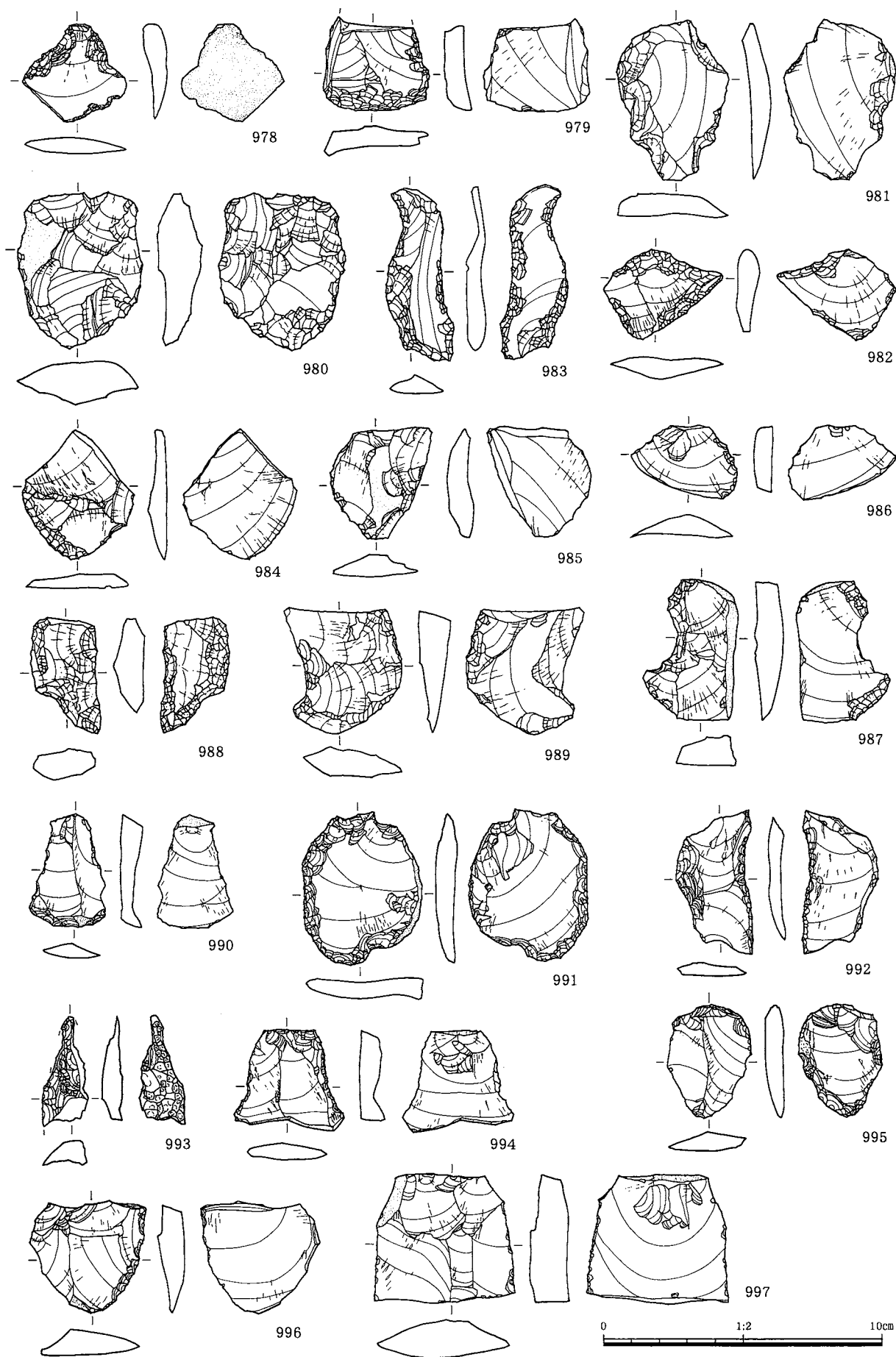
第96図 石器 (913~936)



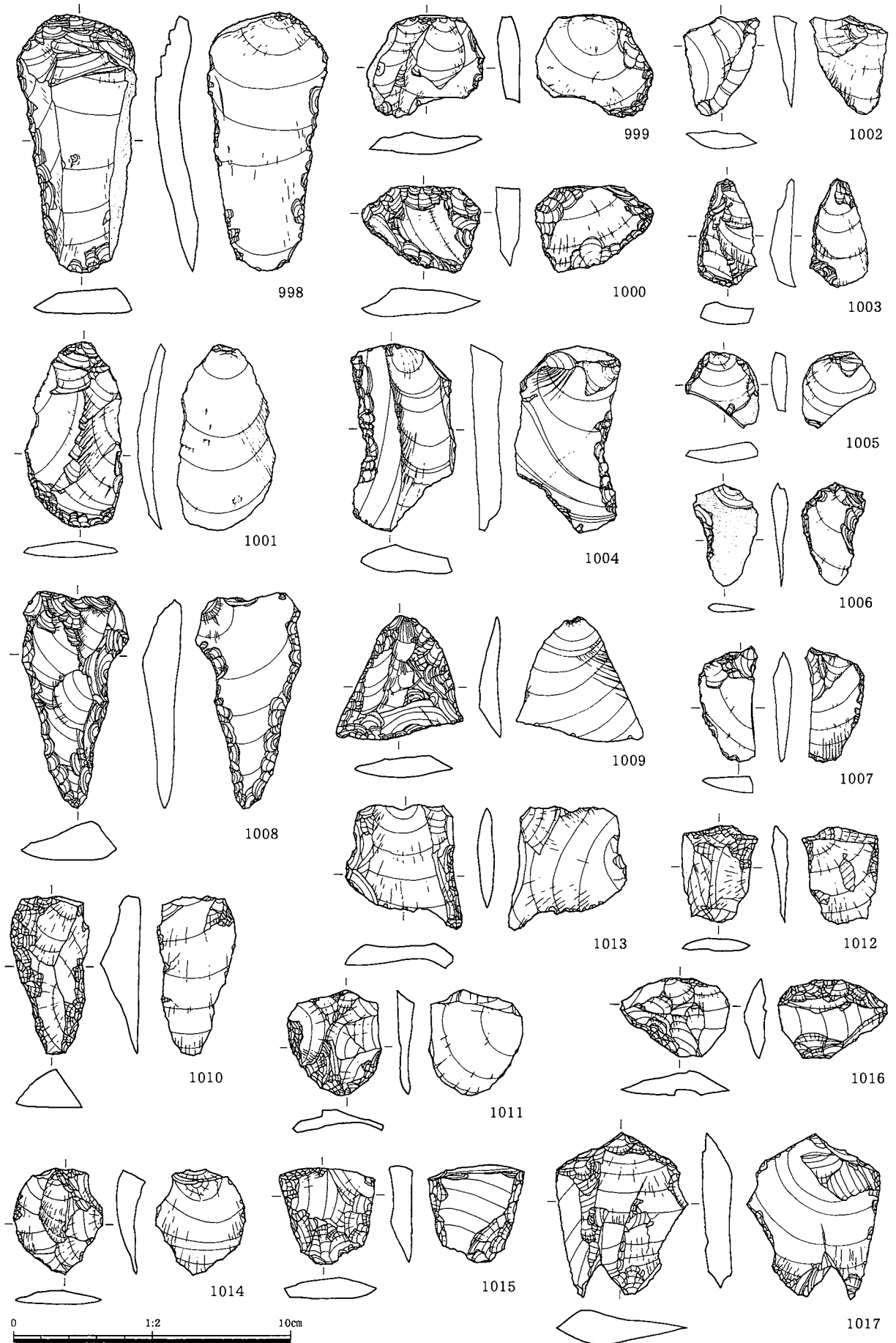
第97図 石器 (937 ~ 956)



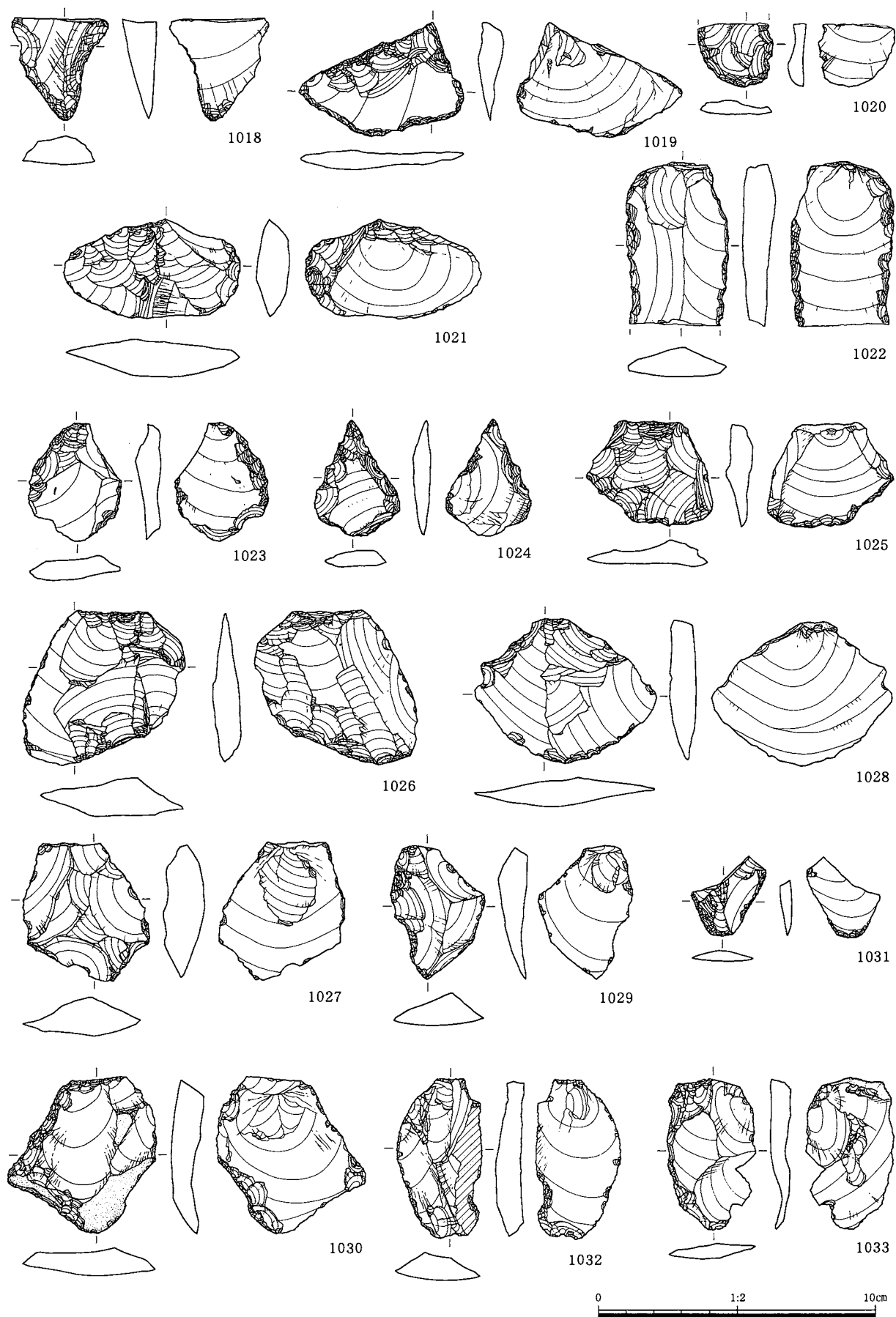
第98図 石器 (957~977)



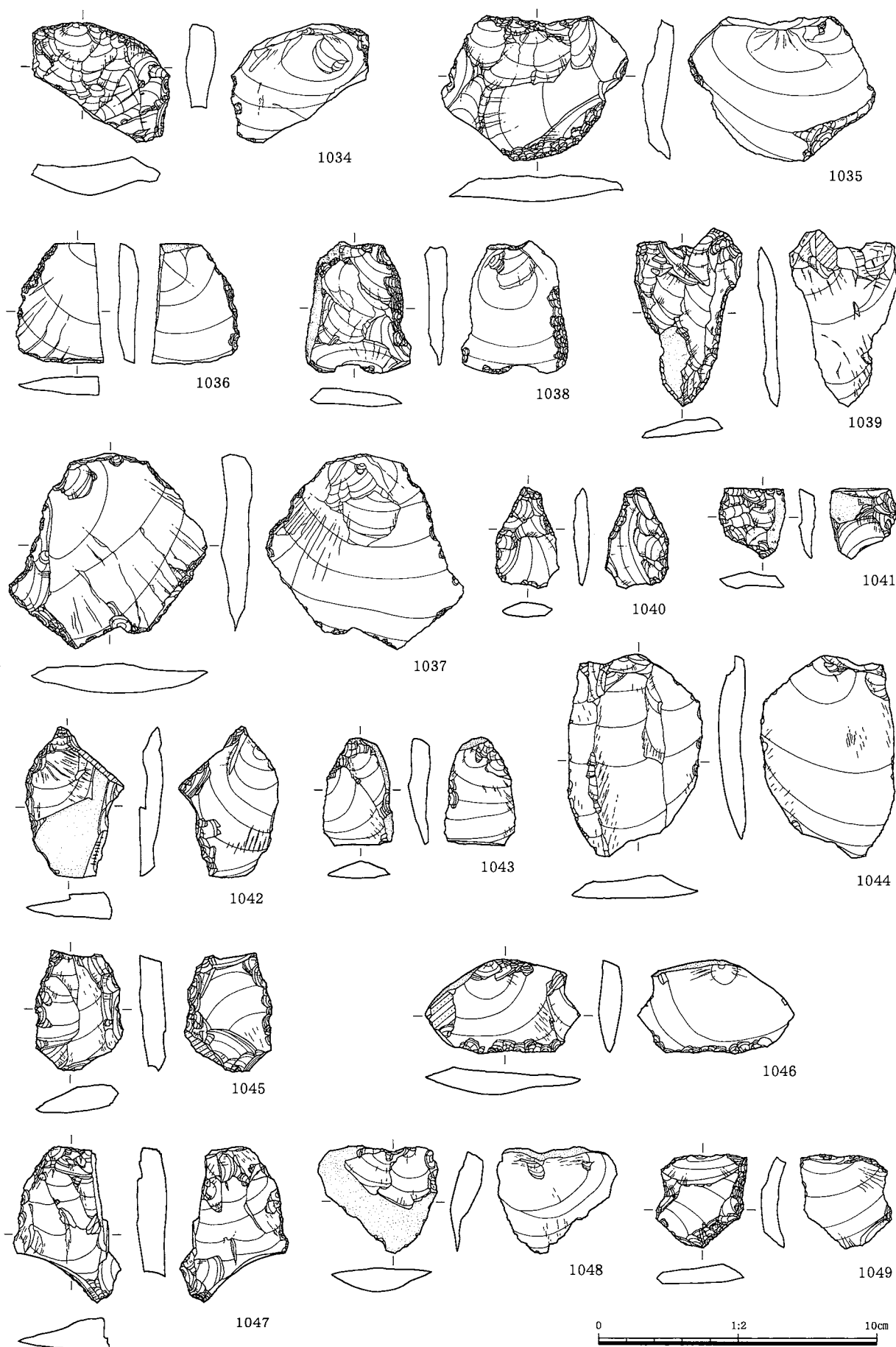
第99図 石器 (978 ~ 997)



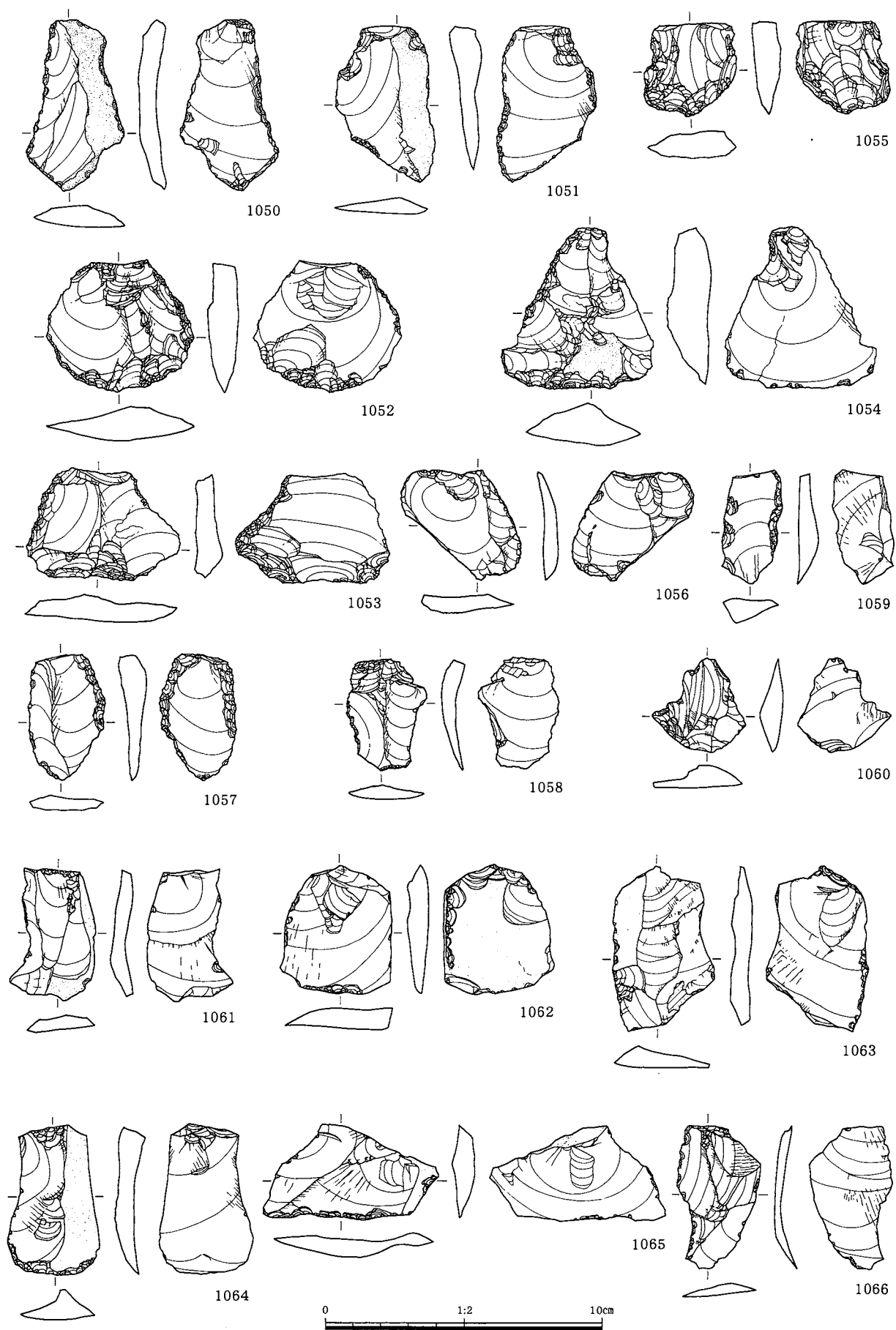
第100図 石器 (998~1017)



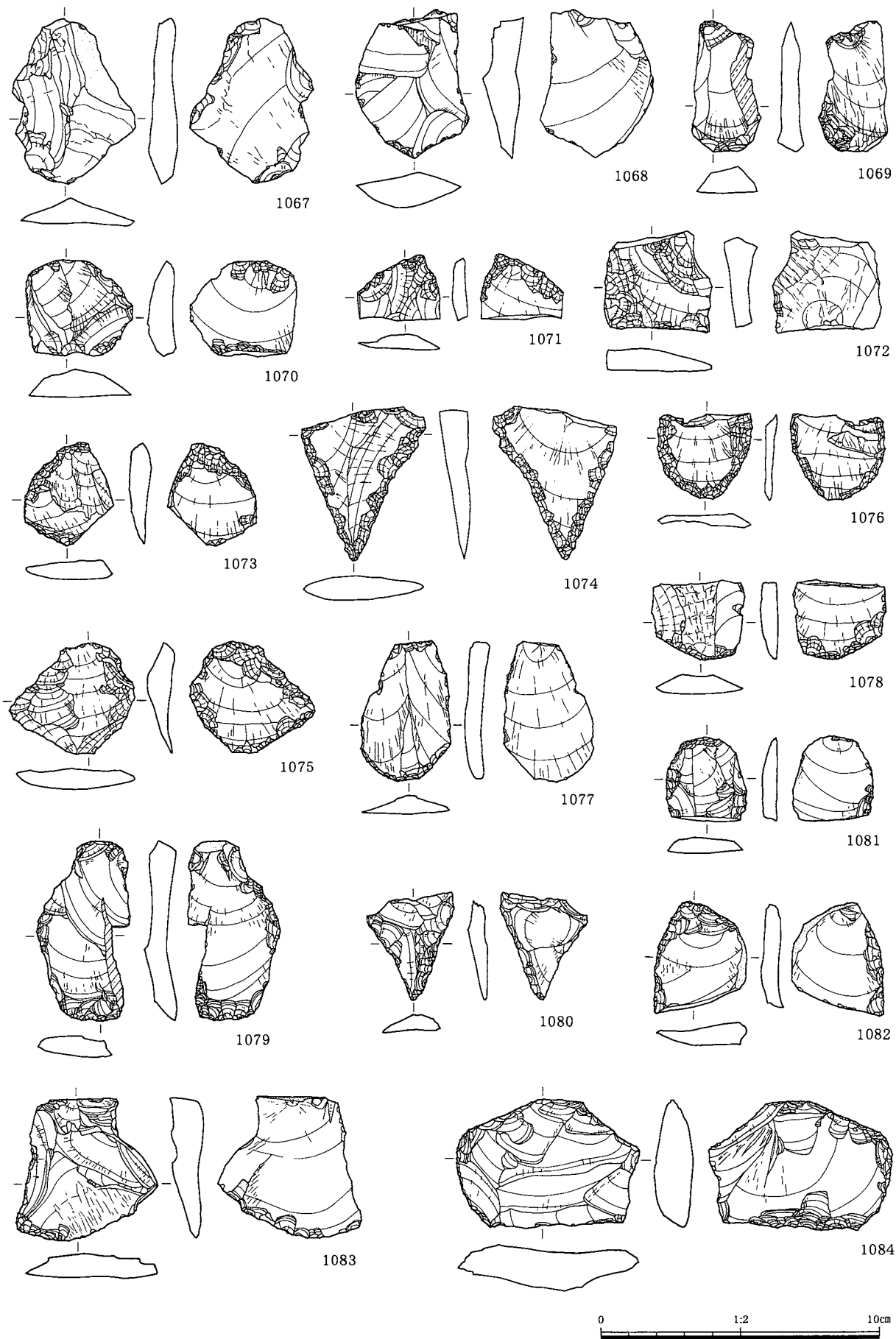
第101図 石器 (1018 ~ 1033)



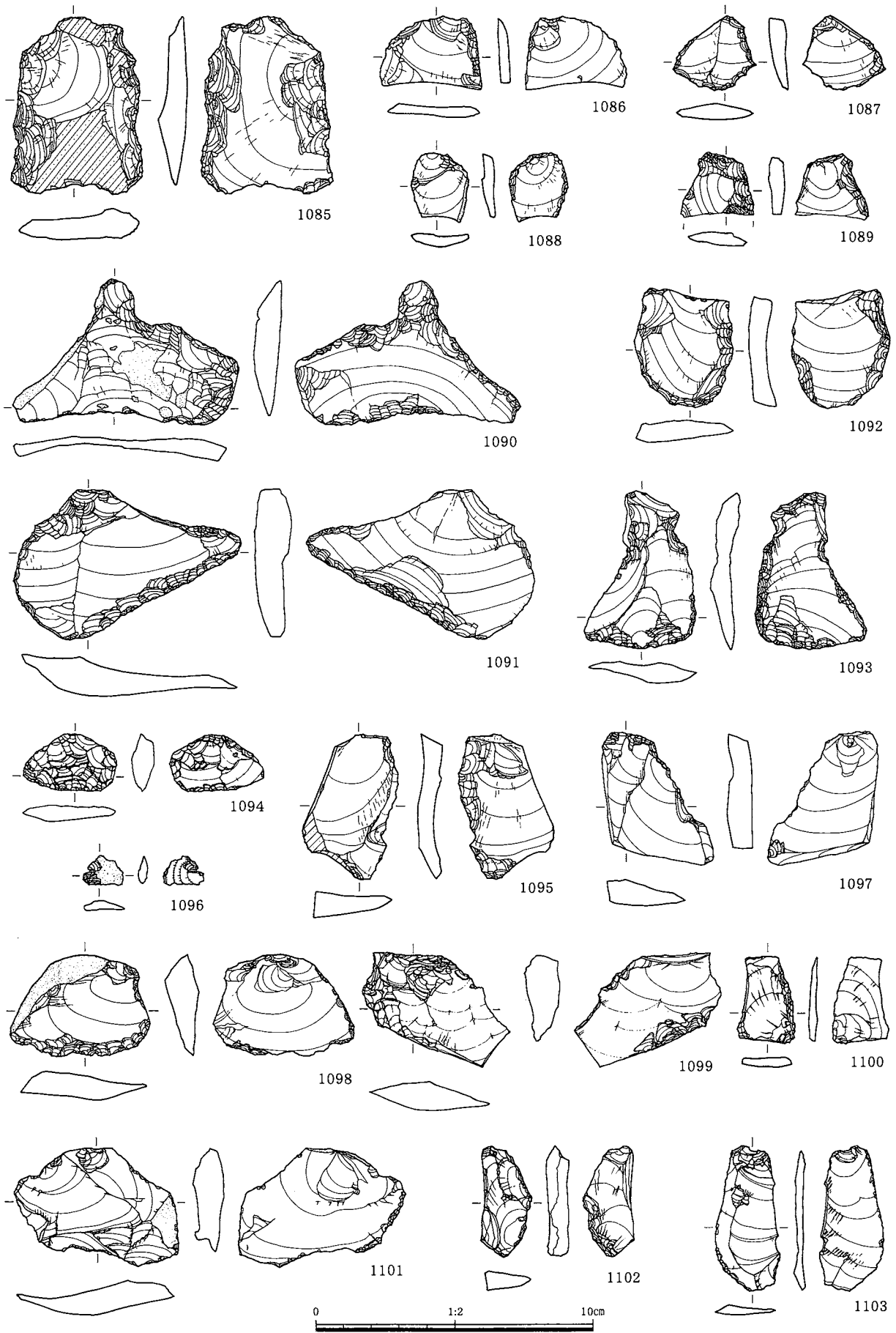
第102図 石器 (1034 ~ 1049)



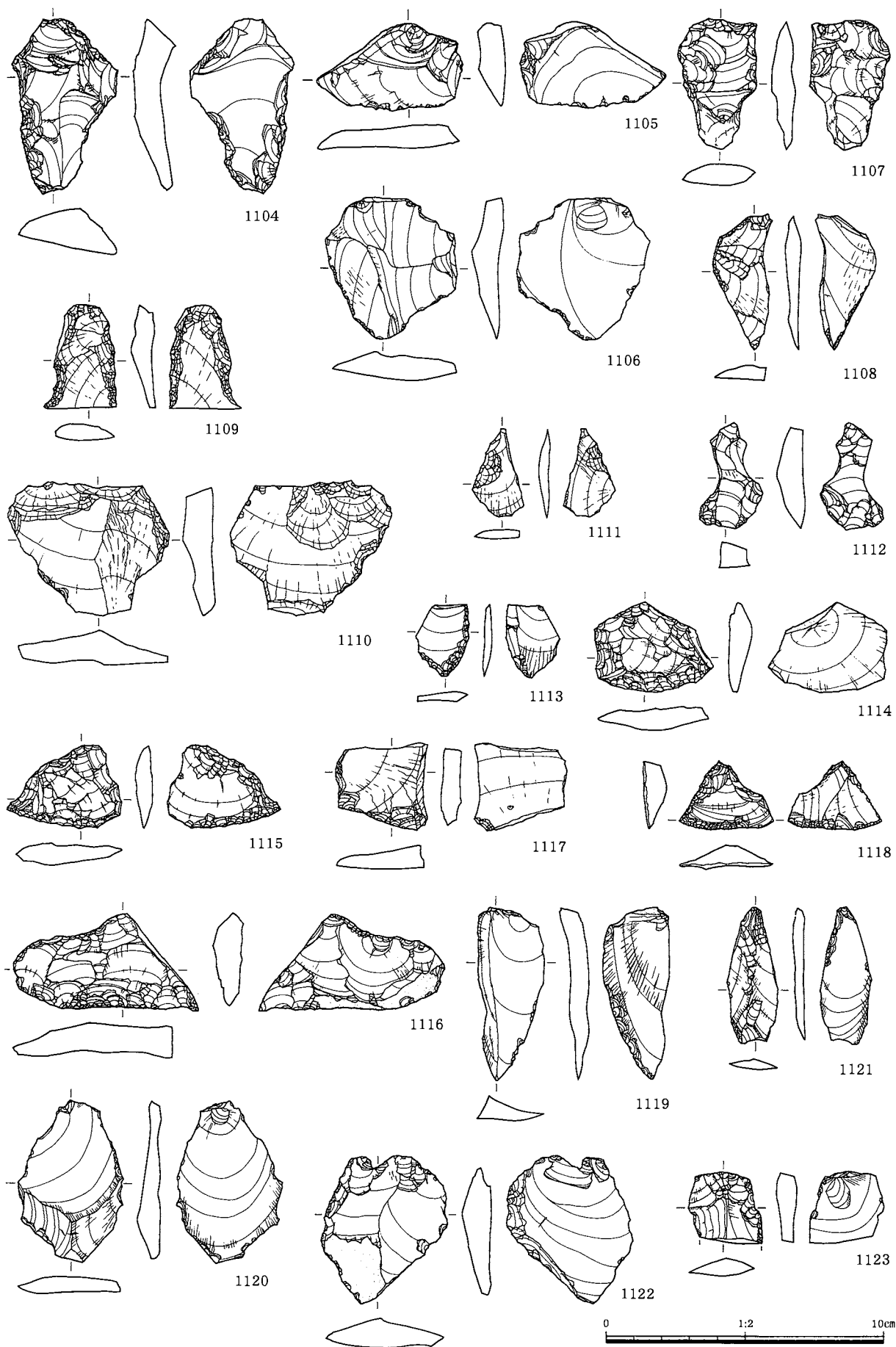
第103図 石器 (1050～1066)



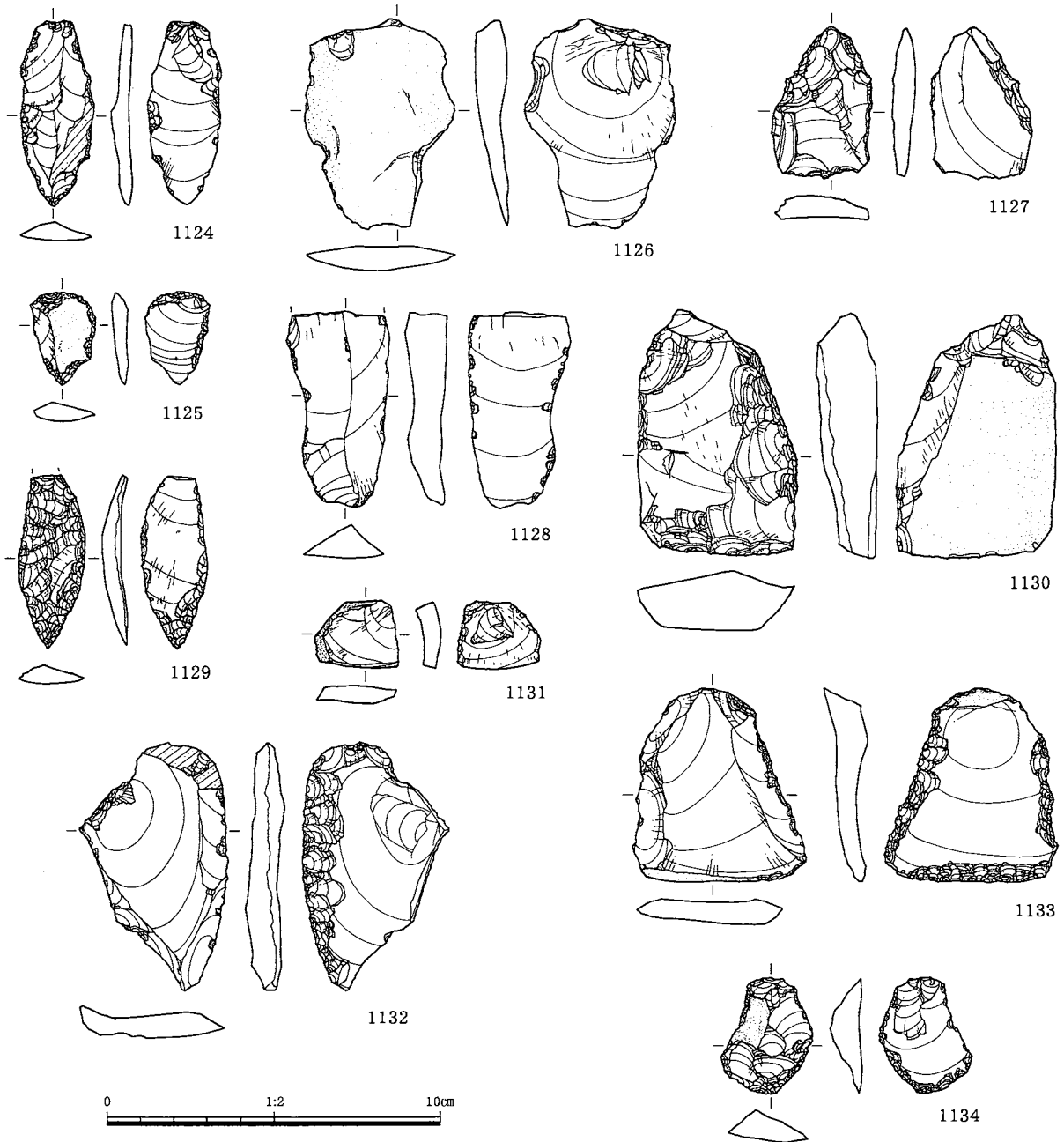
第104図 石器 (1067~1084)



第 105 図 石器 (1085 ~ 1103)



第 106 图 石器 (1104 ~ 1123)



第107図 石器 (1124～1134)

ある。多数存在するくぼみは、片面と側面に認められる。

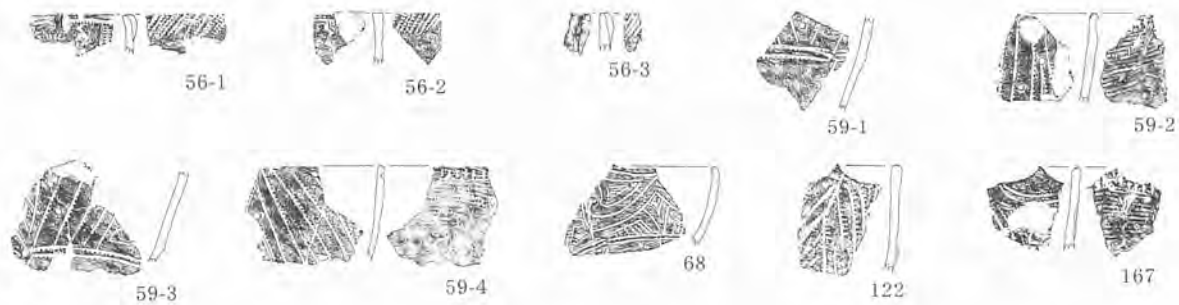
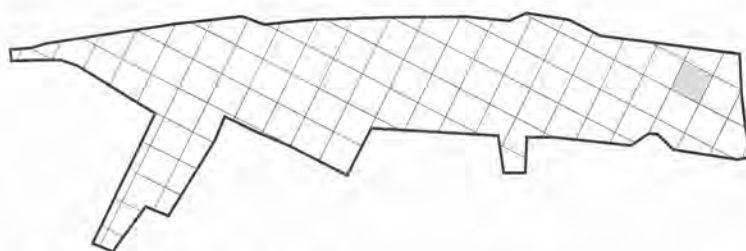
土製品 (第92・93図、写真図版91)

880～888はいずれも土製品である。880～884は土器片を転用した円盤である。885は鼓形を呈する土製品である。穿孔が施されており、耳飾りである可能性が考えられる。886～888は、いずれも用途不明である。粘土塊のようなものである。

3 出土遺物

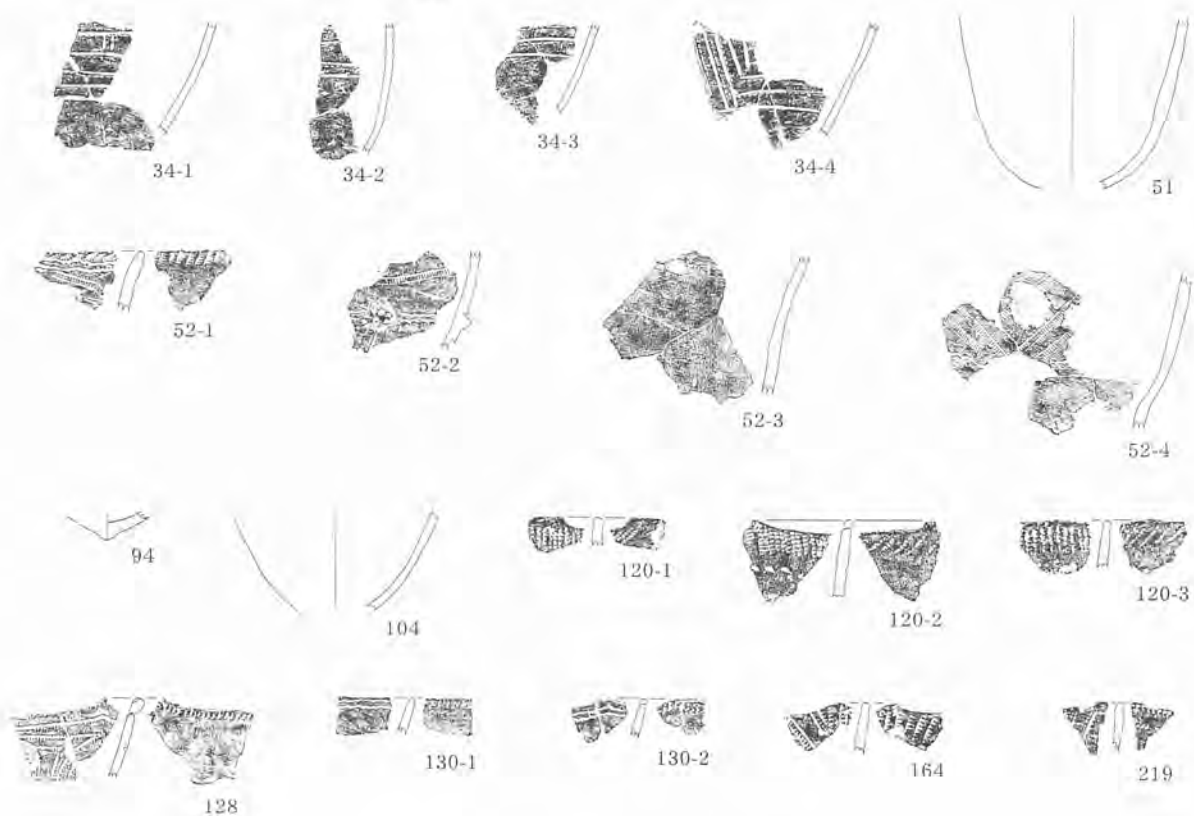
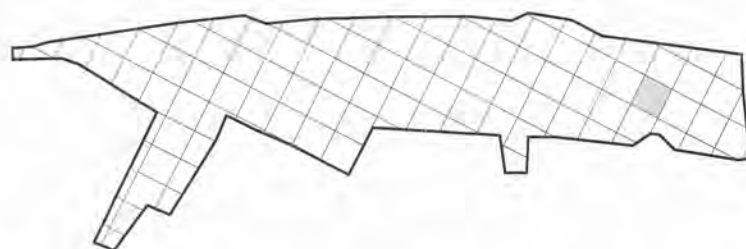
2T

56-(1-3)・59-(1-4)・
68・122・167



3S

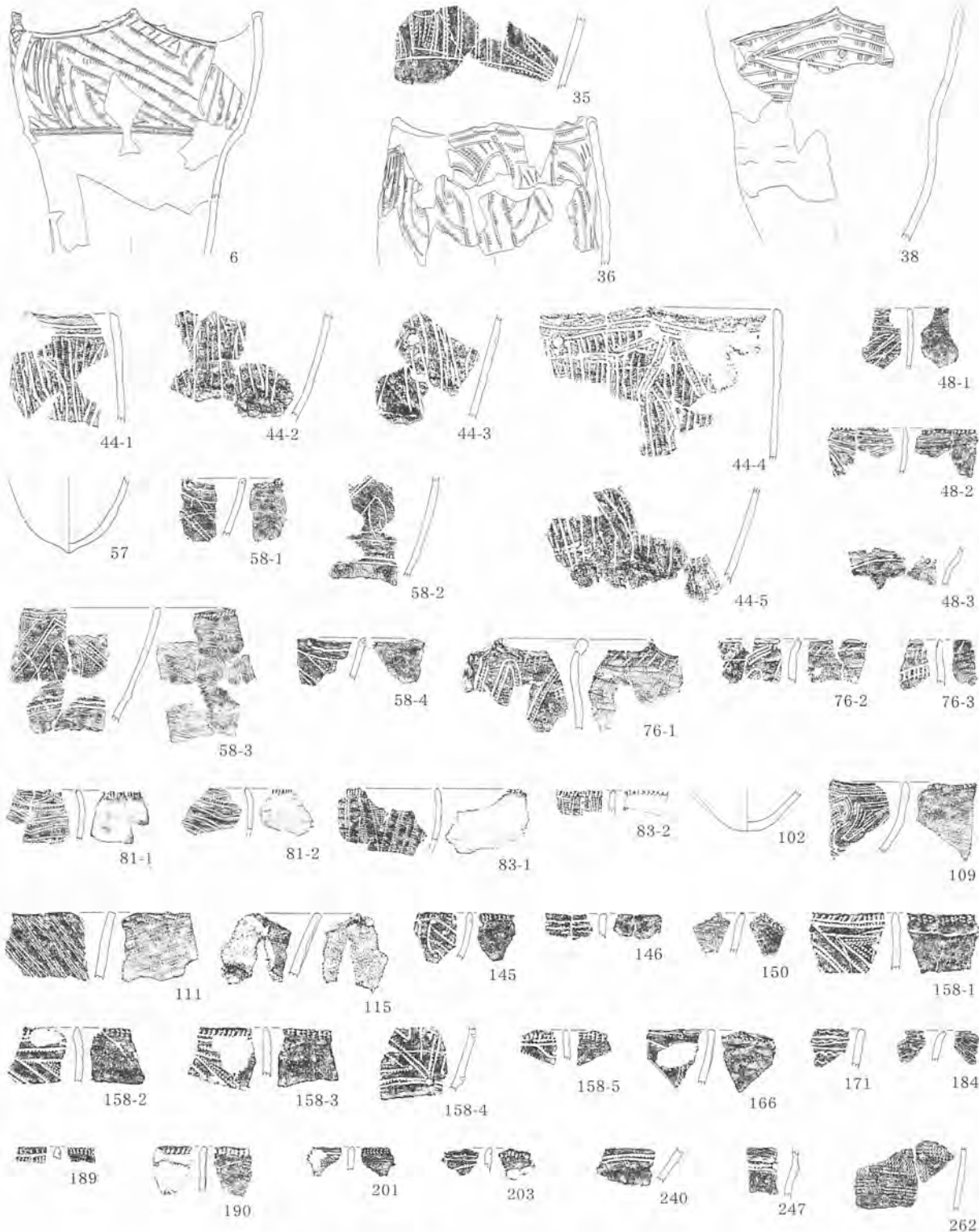
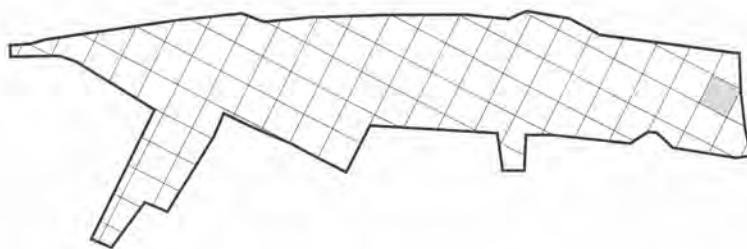
34-(1-4)・51・52-(1-4)・
94・104・120-(1-3)・
128・130-(1-2)・164
219



第108圖 出土地点別土器（2T～3S）

2U

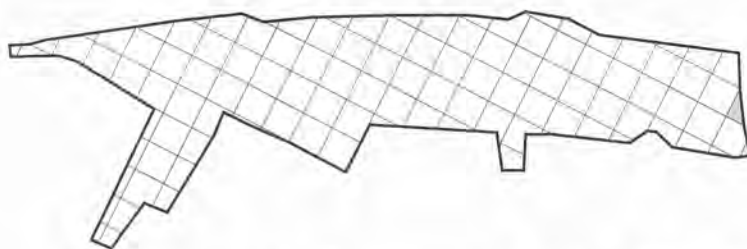
6・35・36・38・44-(1~5)
 48-(1~3)・57・58-(1~4)
 76-(1~3)・81-(1~2)
 83-(1~2)・102・109・111
 115・145・146・150・
 158-(1~5)・166・171・184
 189・190・201・203・240
 247・262



第109図 出土地点別土器(2U)

2V

16·43-(1-4)·44-(1-5)
 55-(1-2)·67·69·76 (1-3)
 77-(1-2)·82-(1-2)
 83-(1-2)·87-88
 97·103·133·134·161
 172·178·198·205·209
 210·245·257·262



16



43-1



43-2



43-3



43-4



44-1



44-2



44-3



44-4



44-5



55-1



55-2



67



69



76-1



76-2



76-3



77-1



77-2



82-1



82-2



83-1



83-2



87



88



97



103



133



134



161



172



178



198



205



209



210



245



257

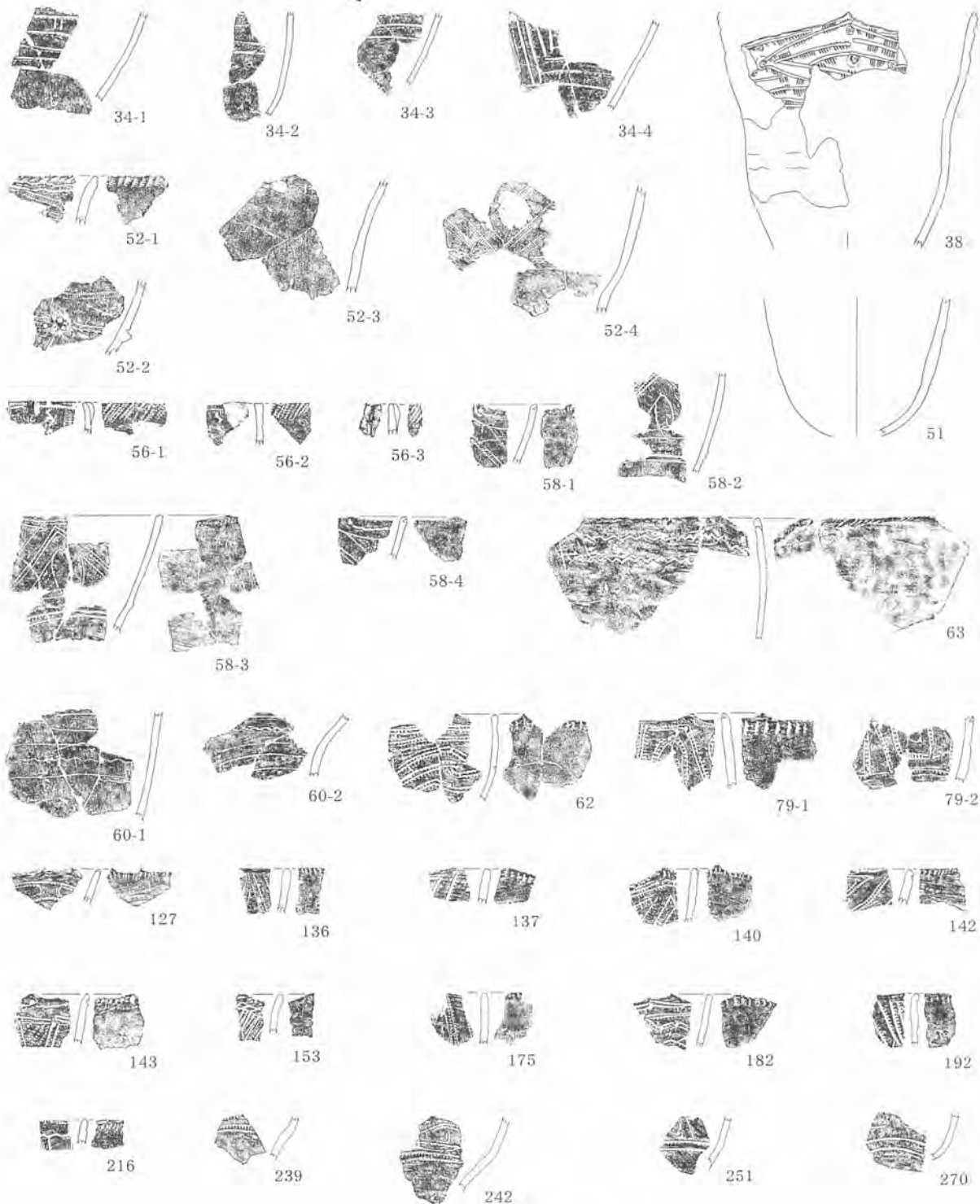
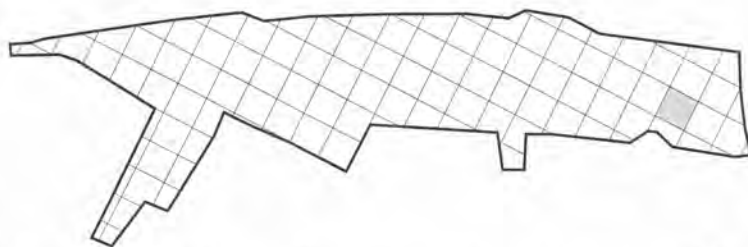


262

第110圖 出土地點別土器(2V)

3T

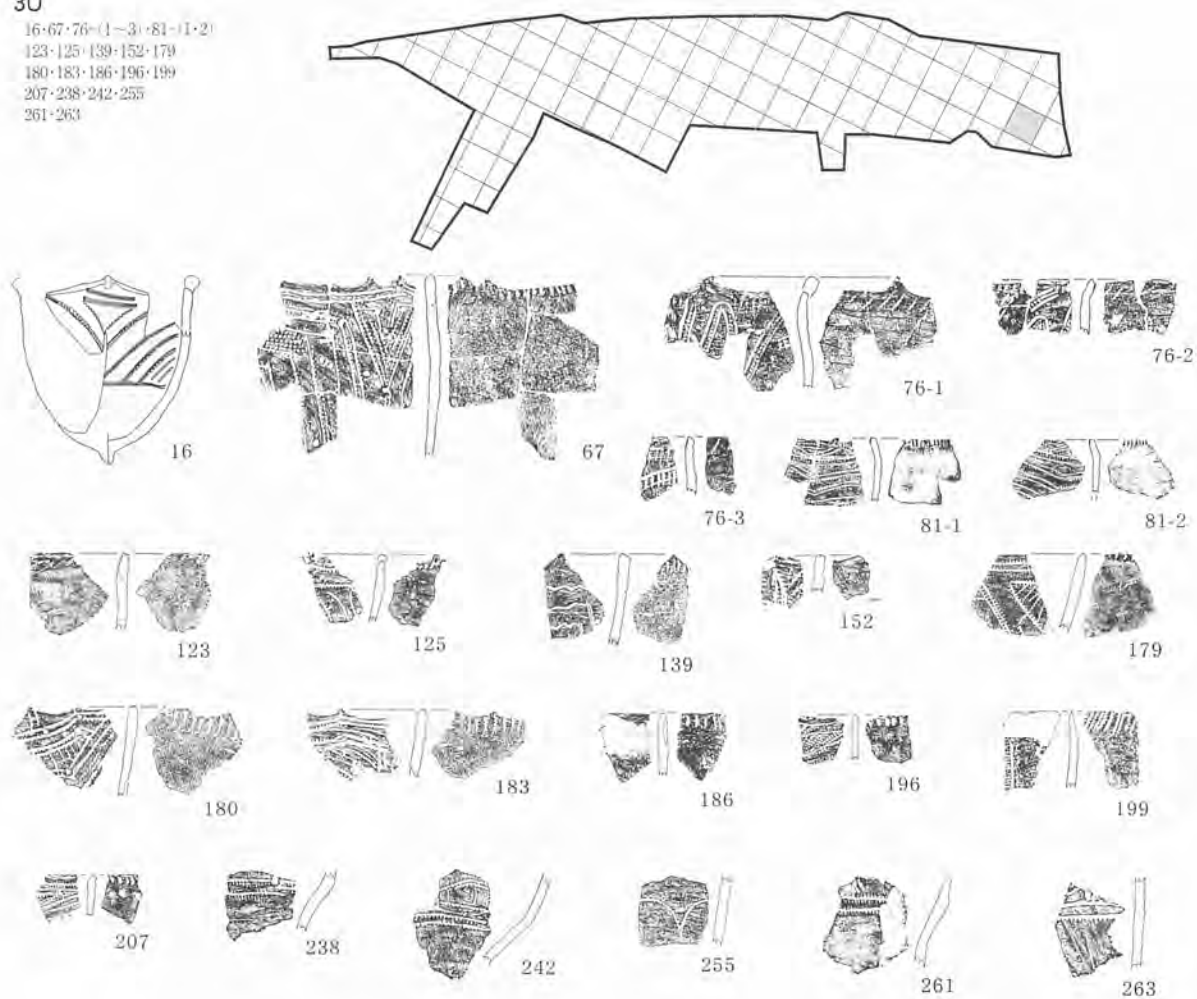
34-(1-4)・38・51
 52-(1-4)・56-(1-3)
 58-(1-4)・60-(1・2)
 62・63・79-(1・2)
 127・136・137・140
 142・143・153・175
 182・192・216・239
 242・251・270



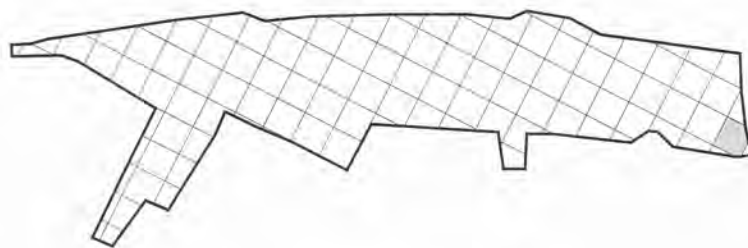
第111図 出土地点別土器(3T)

3U

16·67·76-(1-3)·81-1·2
123·125·139·152·179
180·183·186·196·199
207·238·242·255
261·263

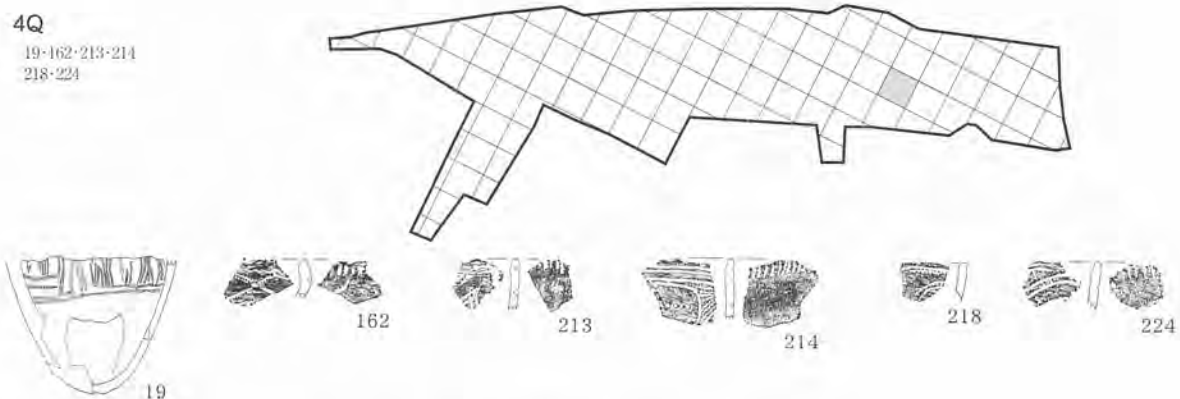


3V



4Q

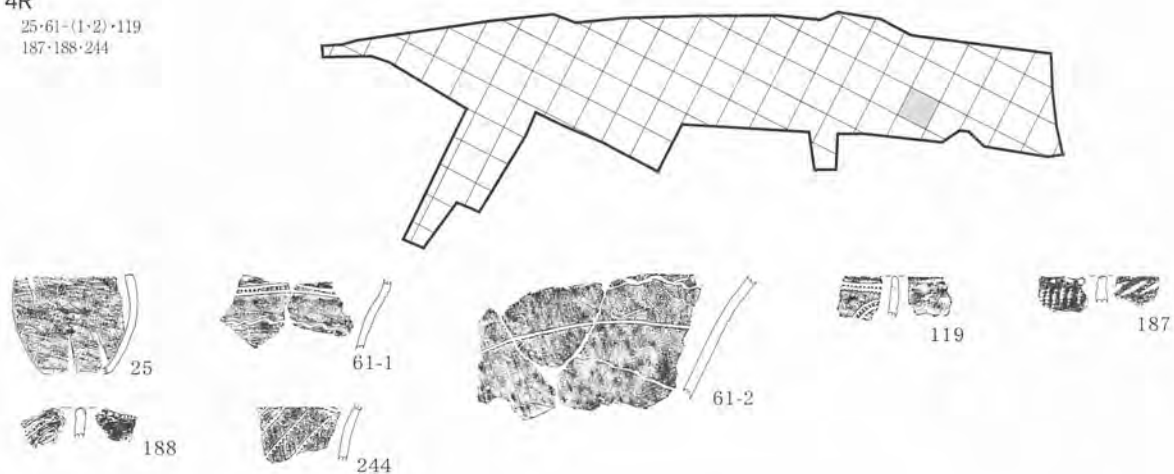
19·162·213·214
218·224



第 112 図 出土地点別土器 (3U・3V・4Q)

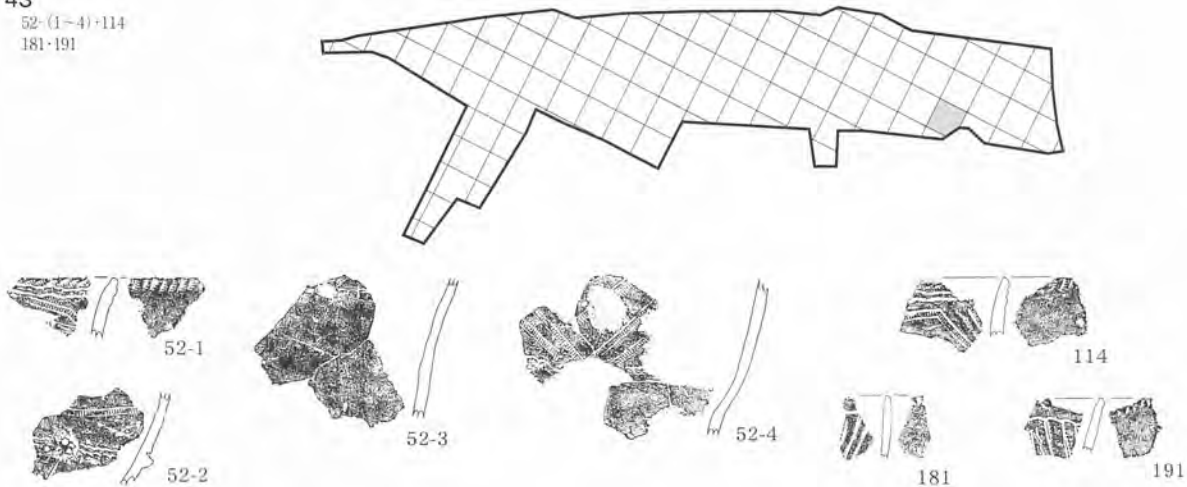
4R

25・61-(1・2)・119
187・188・244

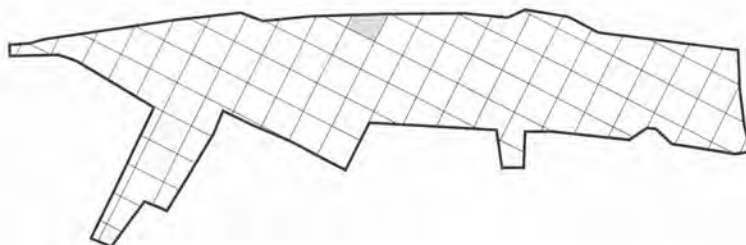


4S

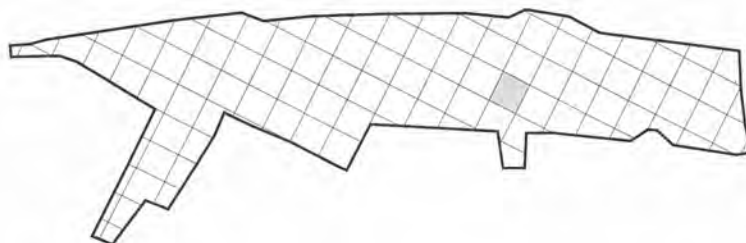
52-(1-4)・114
181・191



5J



5O

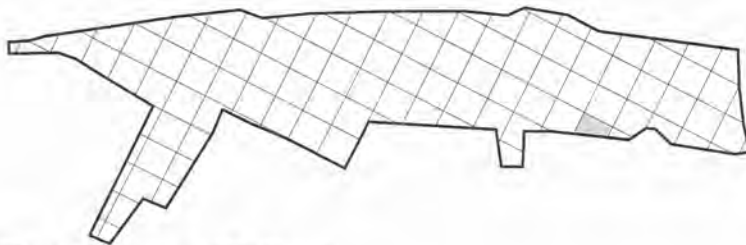


第113図 出土地点別土器(4R・4S・5J・5O)

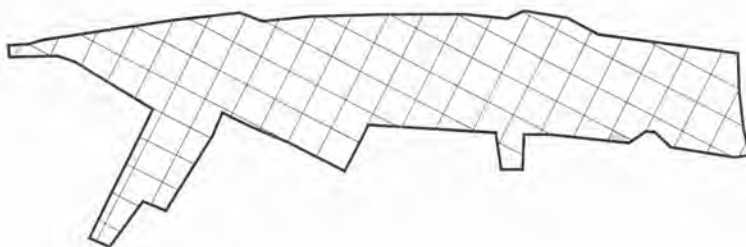
3 出土遺物

5Q

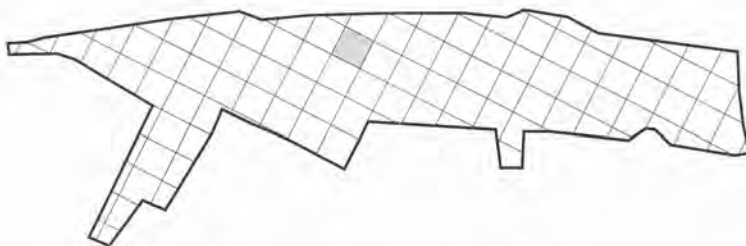
215・241・259



5S

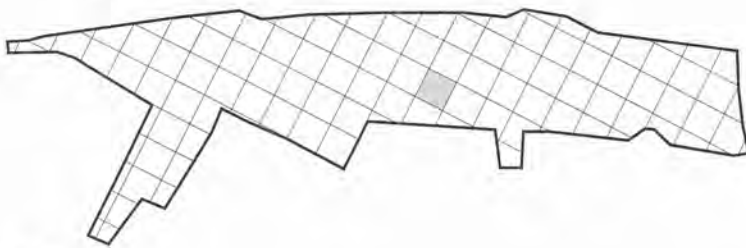


6J



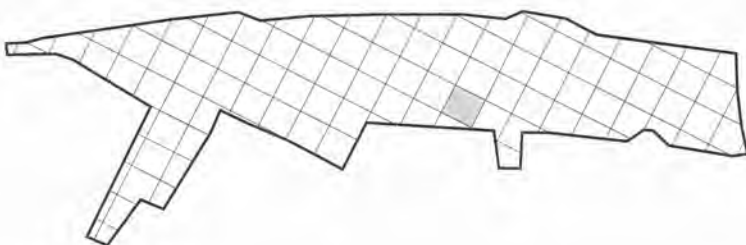
6M

73・138



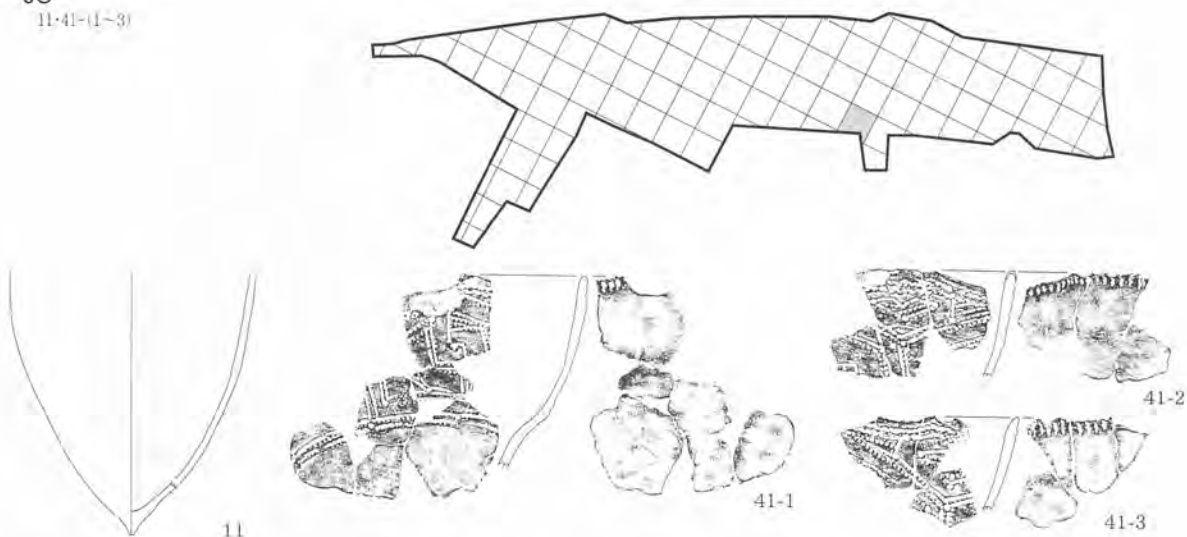
6N

106・107・154

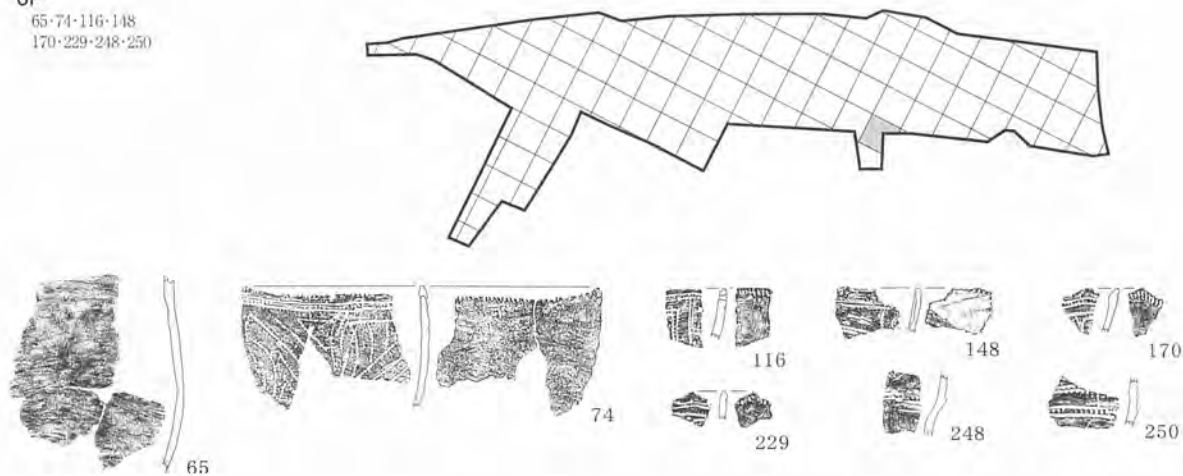


第114図 出土地点別土器 (5Q・5S・6J・6M・6N)

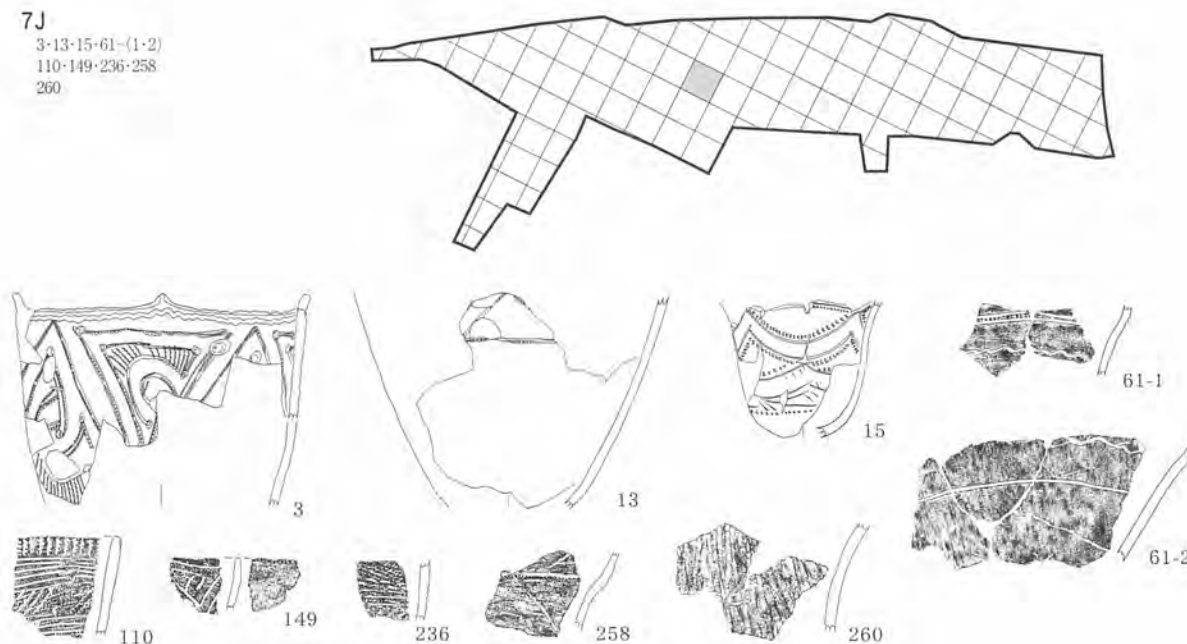
6O
11・41-(1-3)



6P
65・74・116・148
170・229・248・250



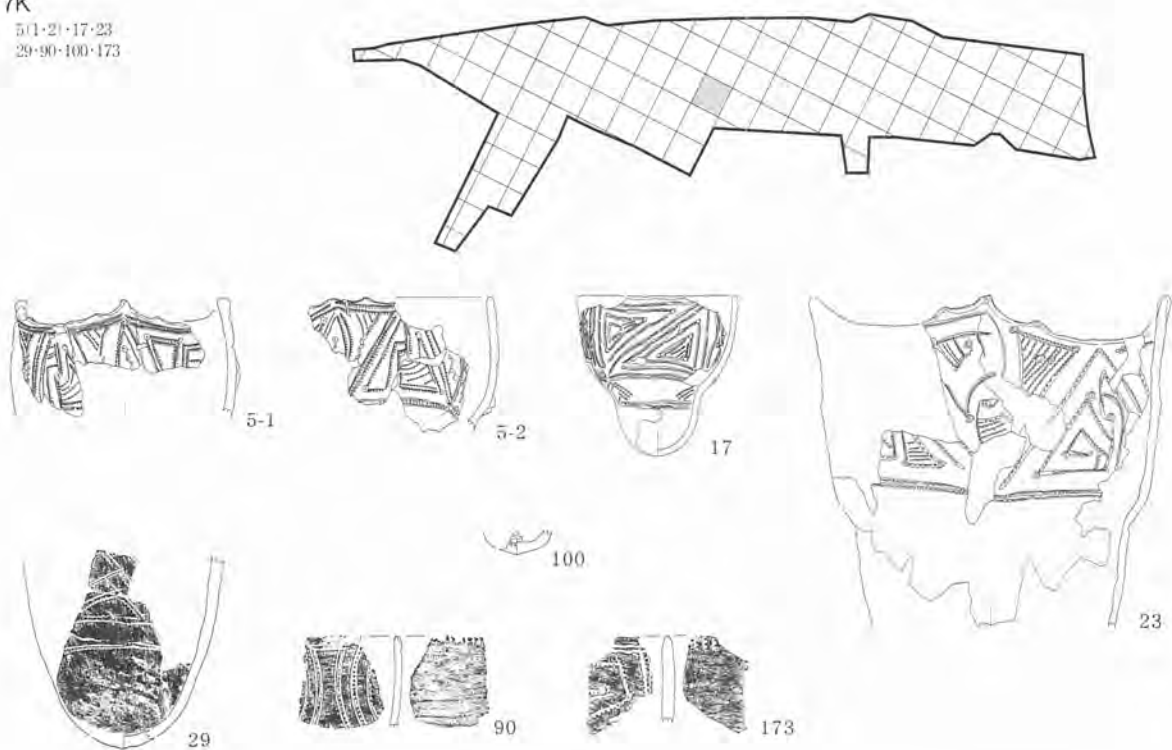
7J
3・13・15・61-(1・2)
110・149・236・258
260



第115図 出土地点別土器 (6O・6P・7J)

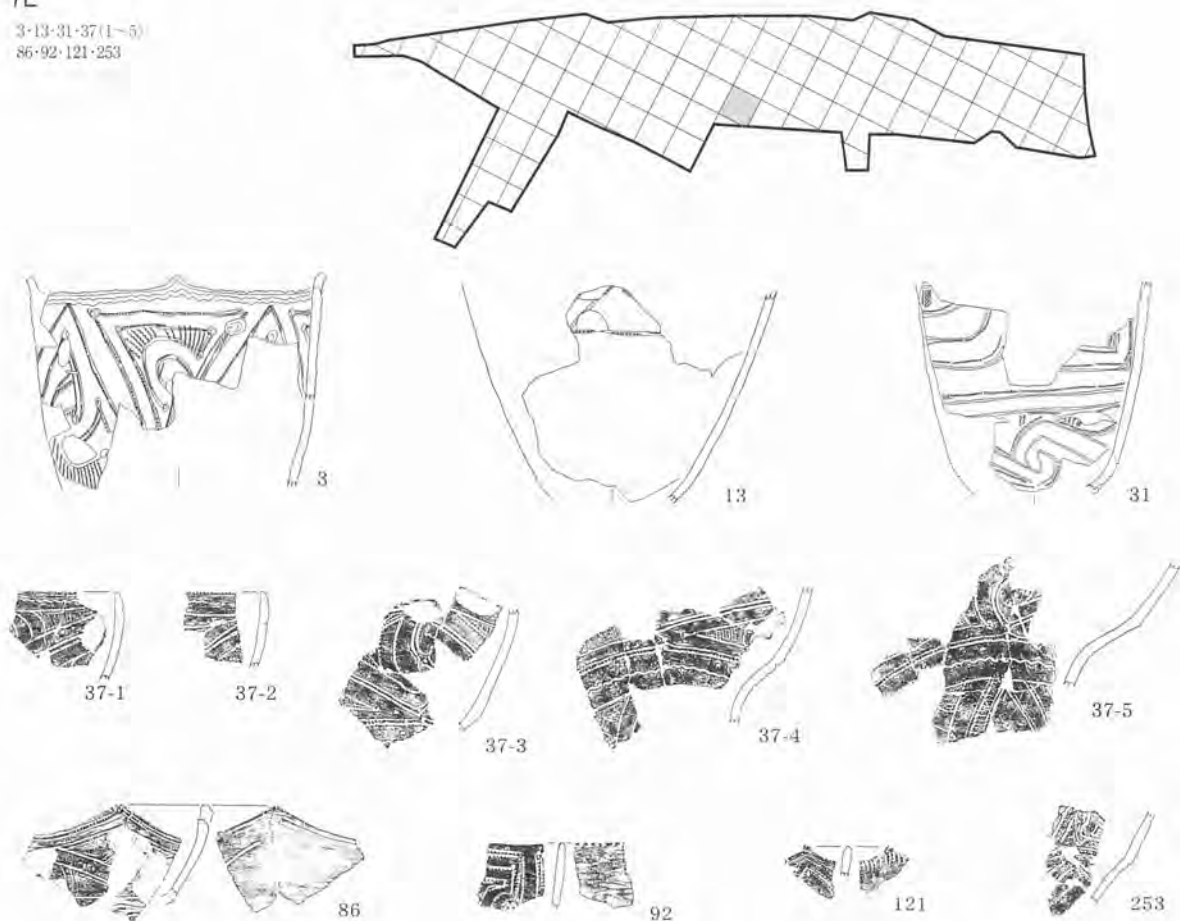
7K

51・21・17・23
29・90・100・173



7L

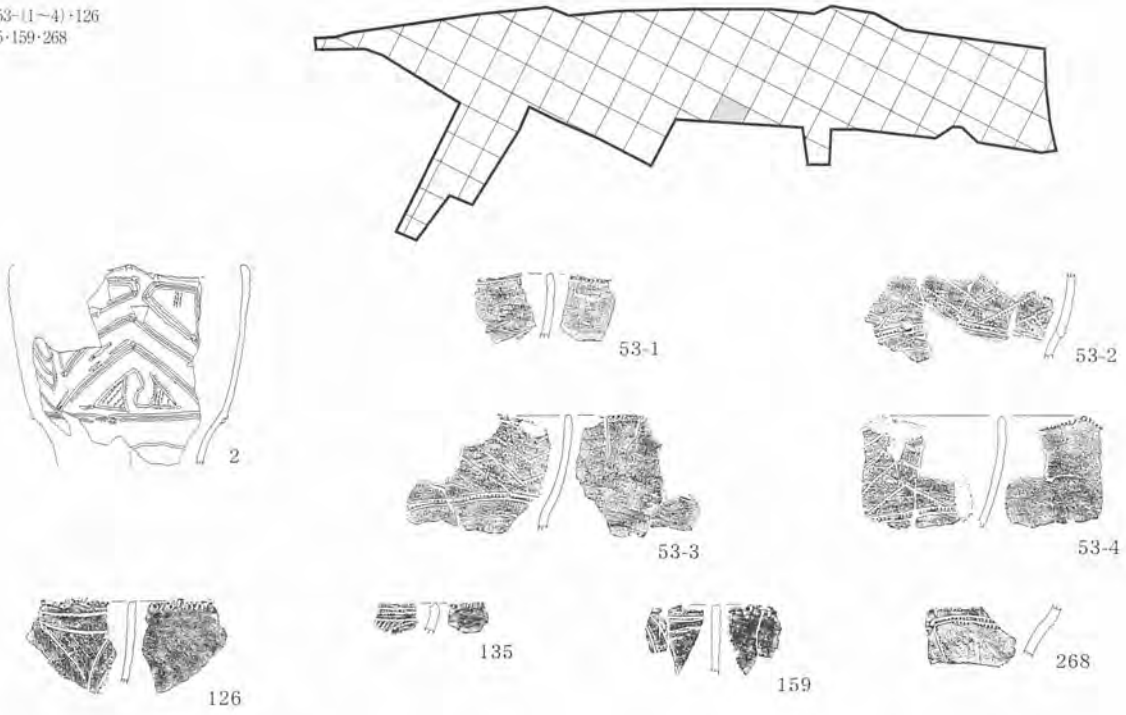
3・13・31・37(1~5)
86・92・121・253



第 116 図 出土地点別土器 (7 K・7 L)

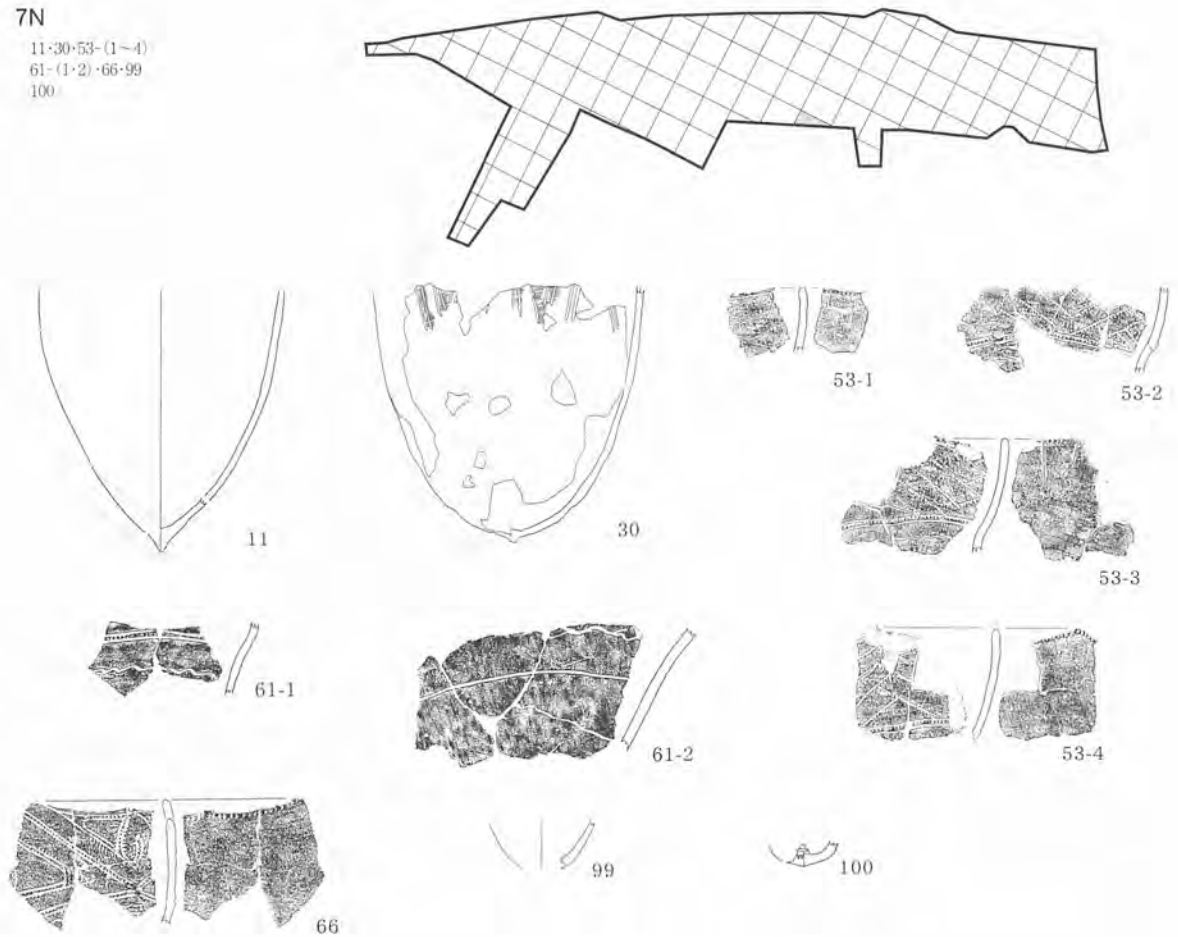
7M

2・53-(1~4)・126
135・159・268



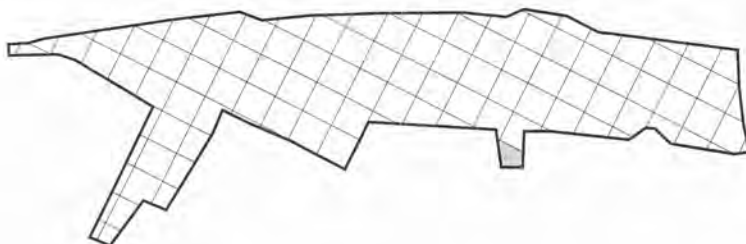
7N

11・30・53-(1~4)
61-(1・2)・66・99
100

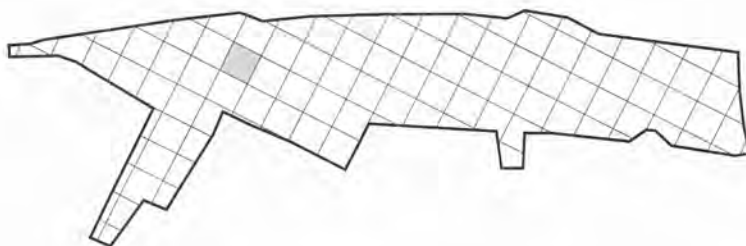


第 117 図 出土地点別土器 (7M・7N)

7P

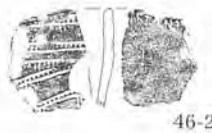
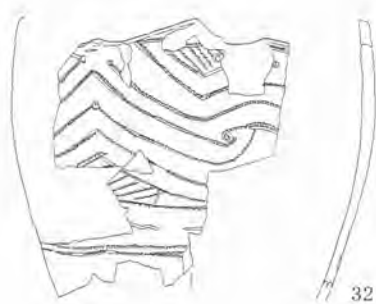
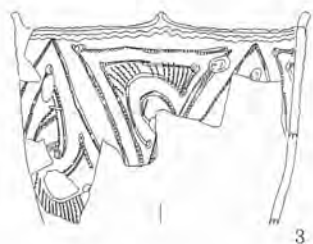
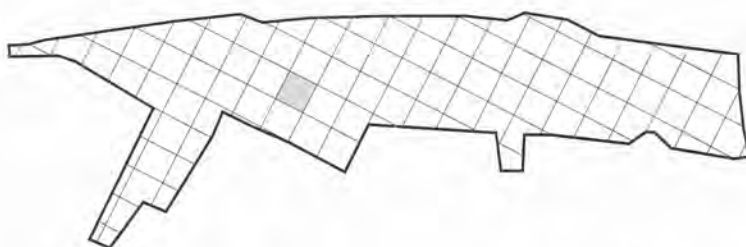


8G



8I

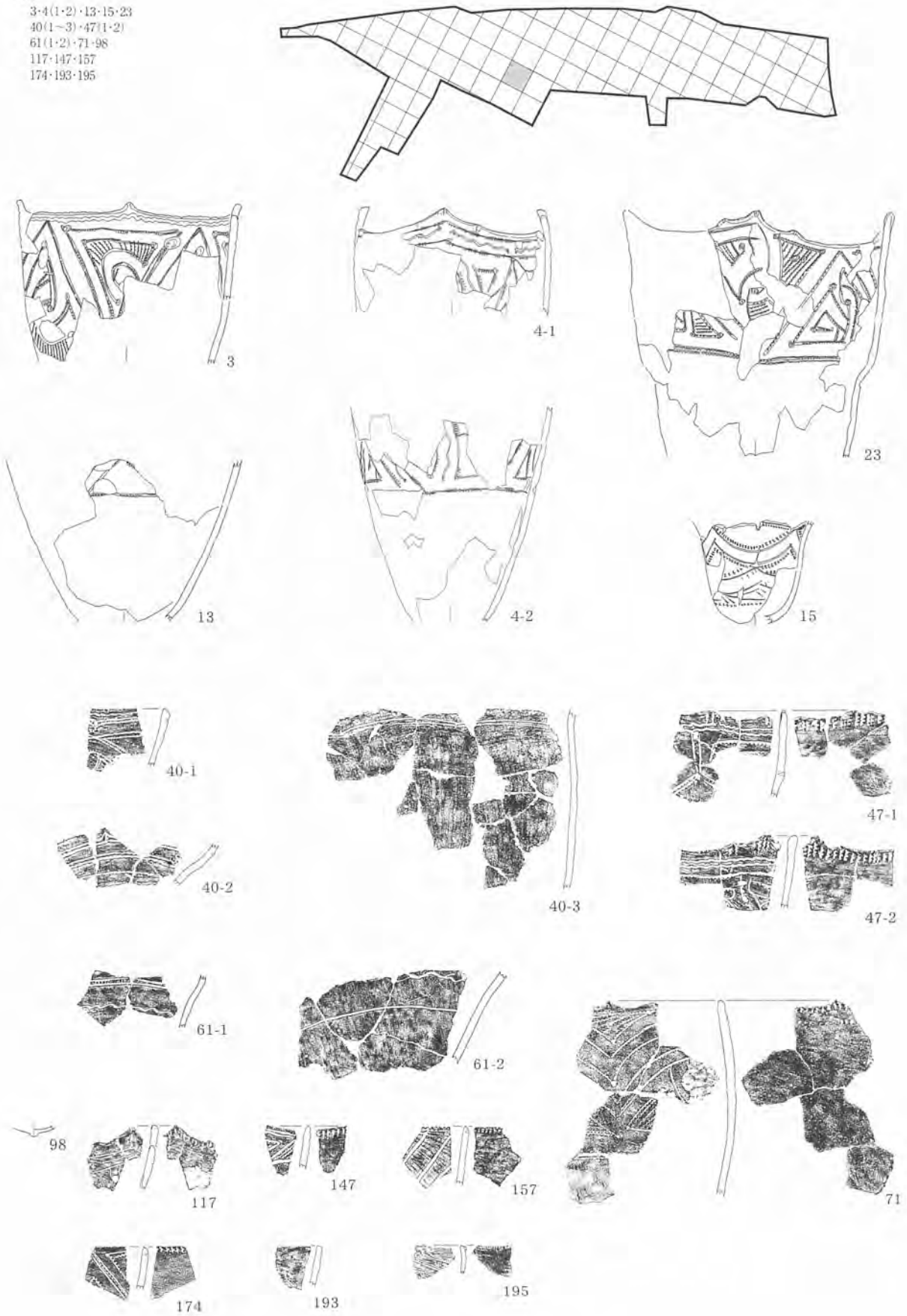
3・13・22・32・45
46(1~4)・70(1・2)
89・91・220・131
243



第118図 出土地点別土器 (7P・8G・8I)

8J

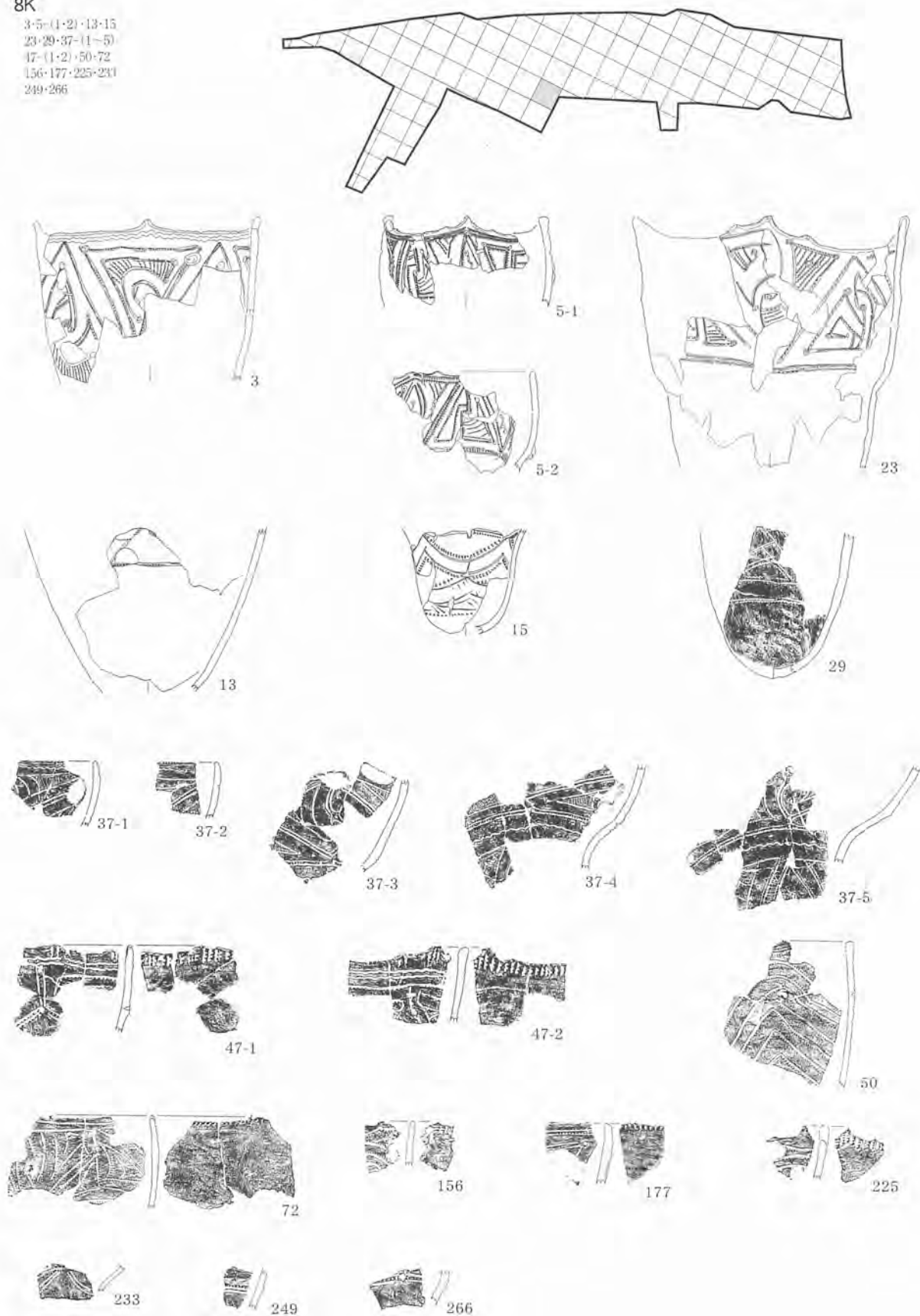
3・4(1・2)・13・15・23
40(1-3)・47(1・2)
61(1・2)・71・98
117・147・157
174・193・195



第119図 出土地点別土器(8J)

8K

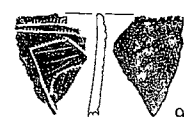
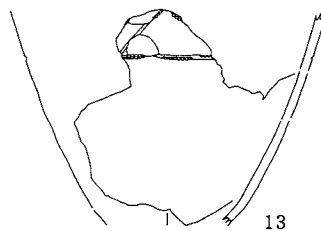
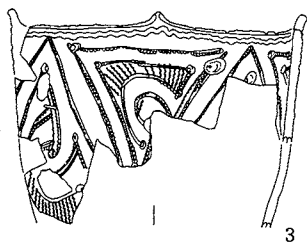
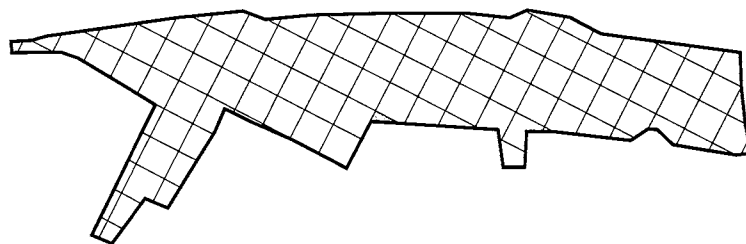
3・5-(1・2)・13・15
 23・29・37-(1-5)
 47-(1・2)・50・72
 156・177・225・231
 249・266



第120図 出土地点別土器(8K)

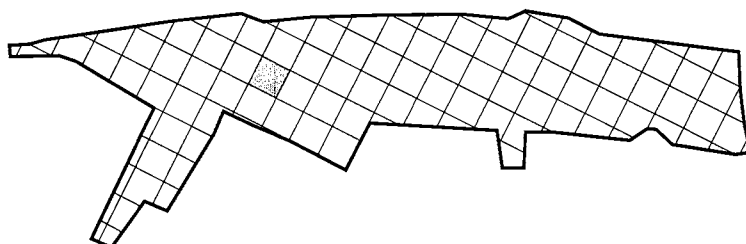
8L

3・13・54-(1~4)・93



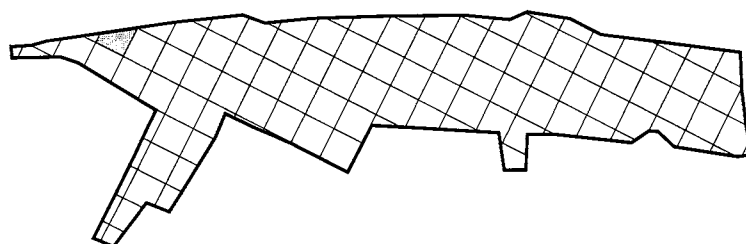
8H

108



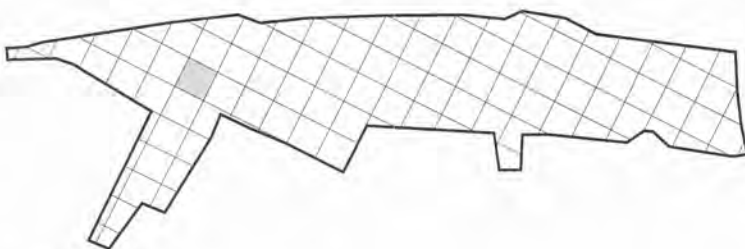
9C

222

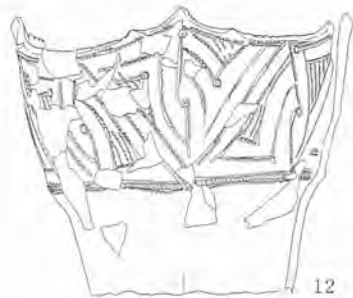
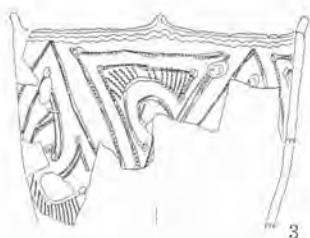
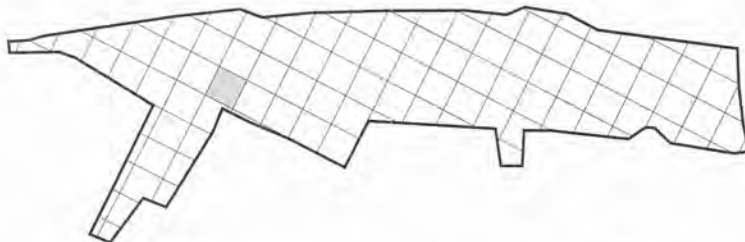


第121図 出土地点別土器(8L・8M・9C)

9F
7-228



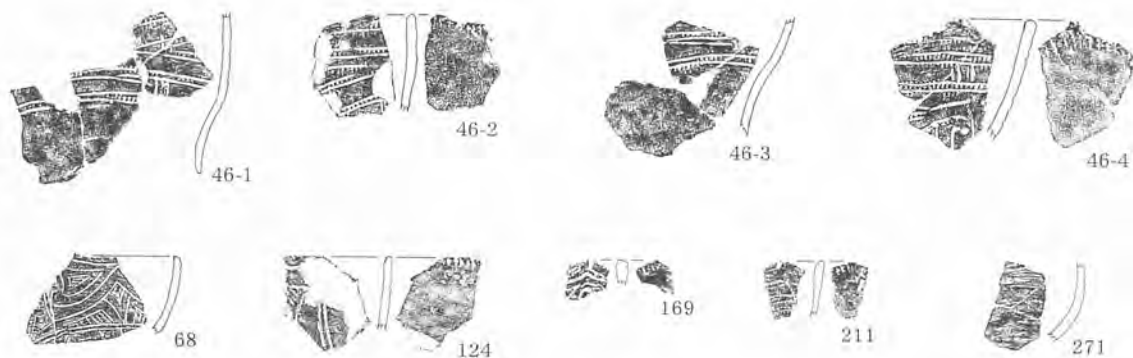
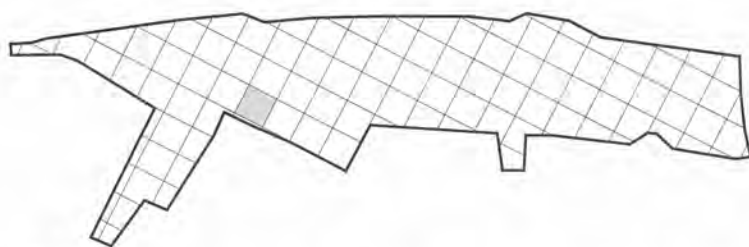
9G
3-7·12·13·33
40-(1~3)·85·112
118·256



第122圖 出土地点別土器(9F・9G)

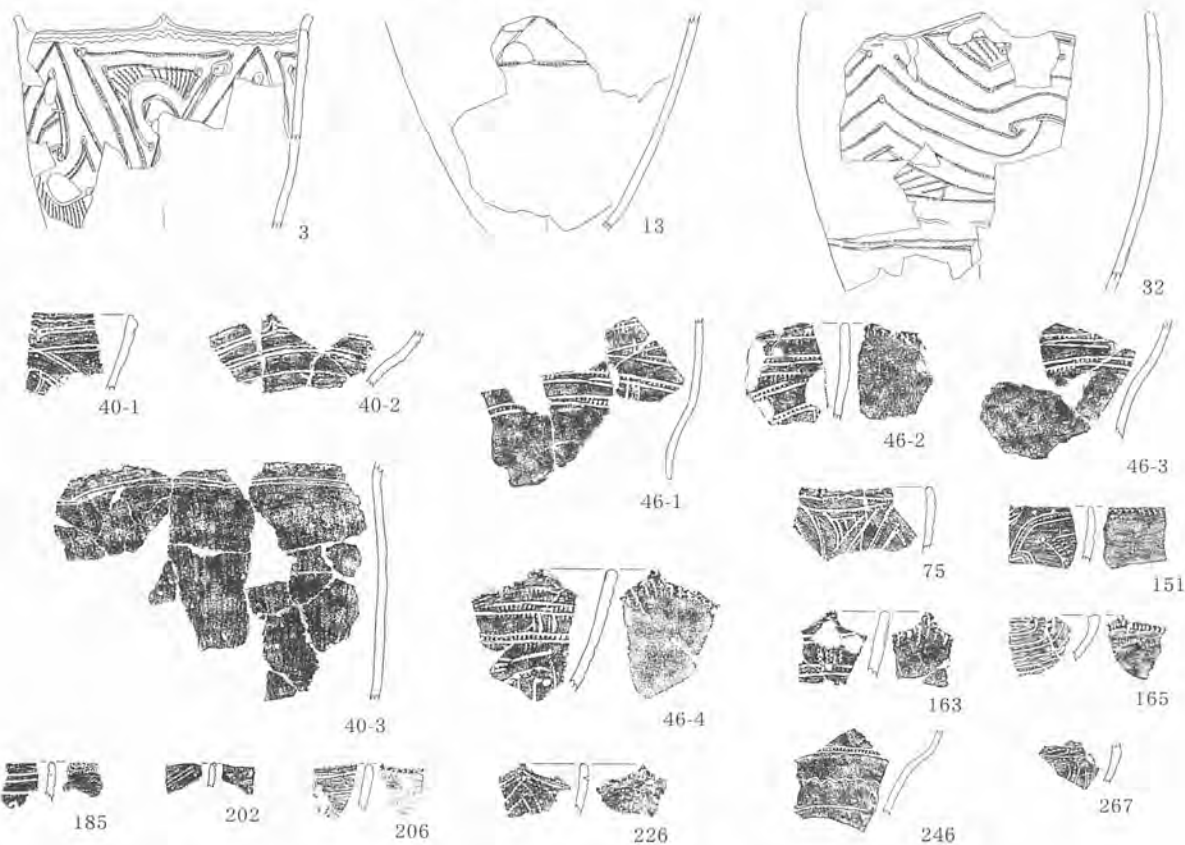
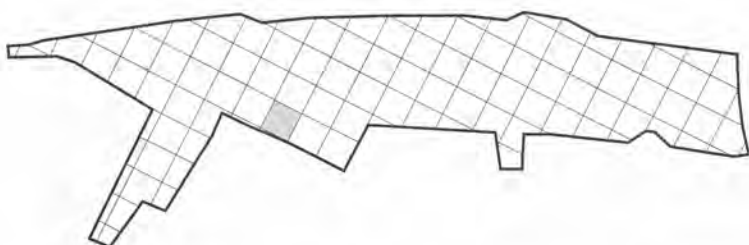
9H

46(1~4)・68
124・169・211
271



9I

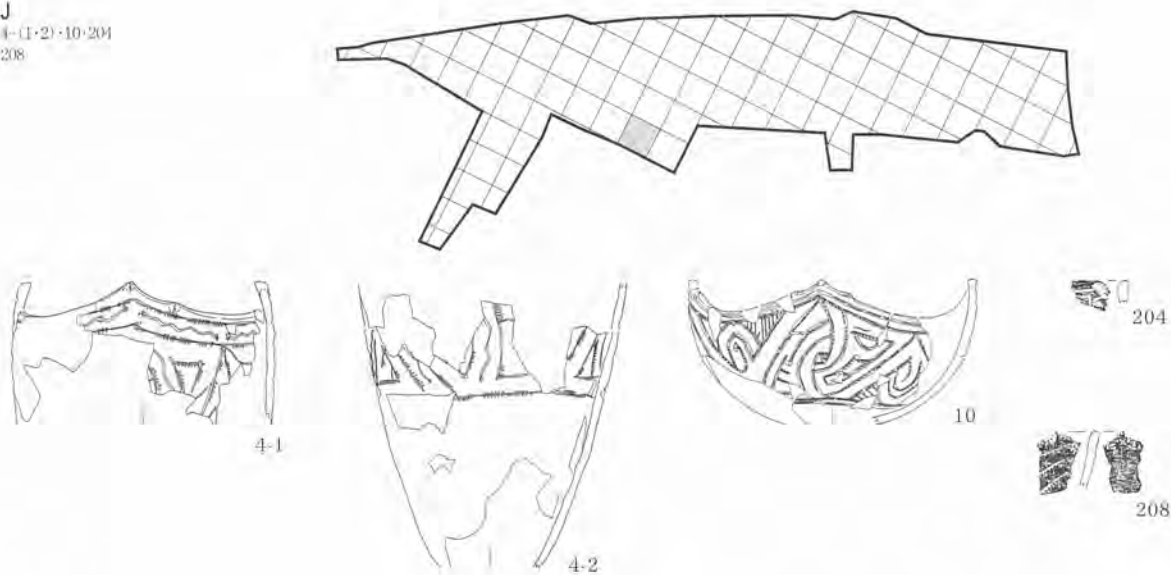
3・13・32
40(1~3)・46(1~4)
75・151・163・165
185・202・206
226・246・267



第 123 図 出土地点別土器 (9H・9I)

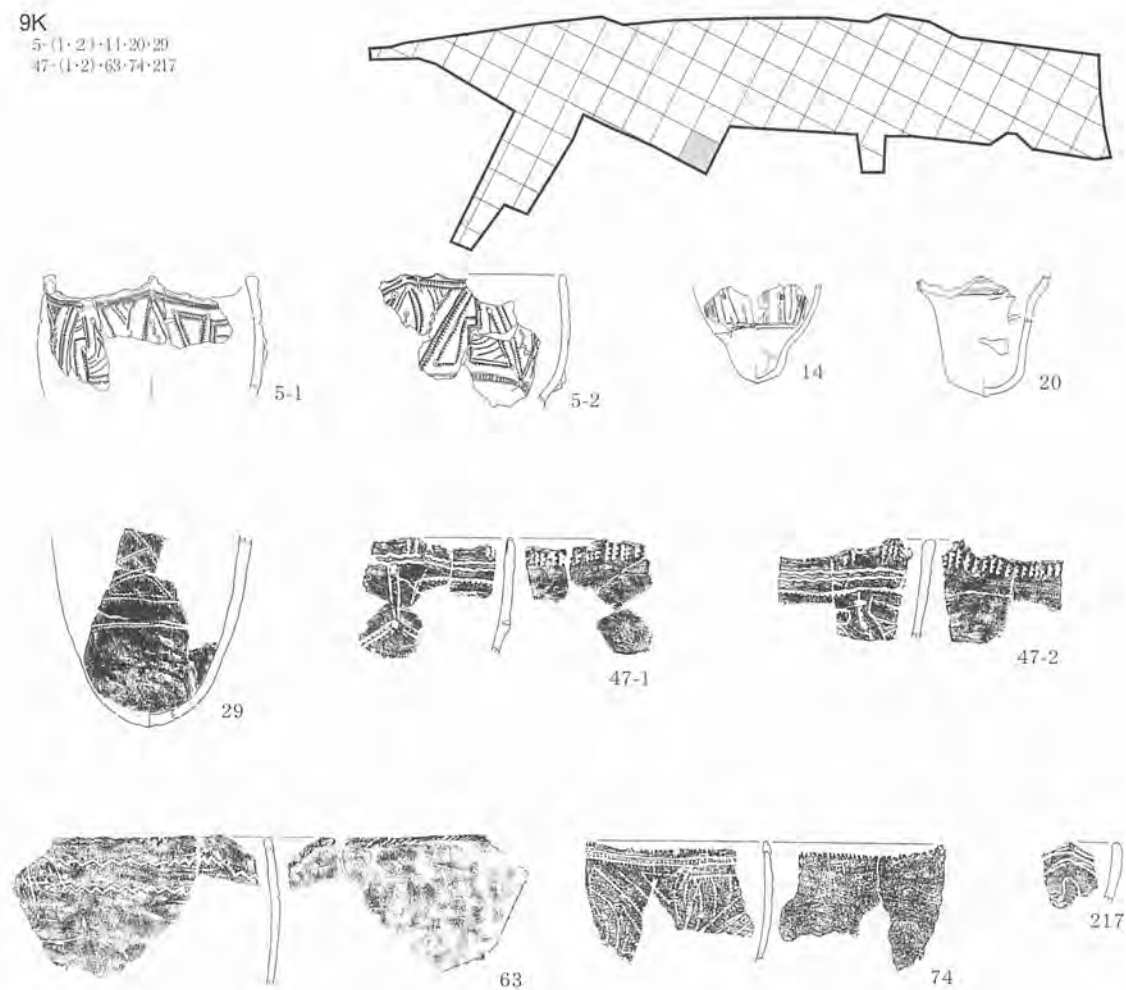
9J

4-(1)・2)・10・204
208



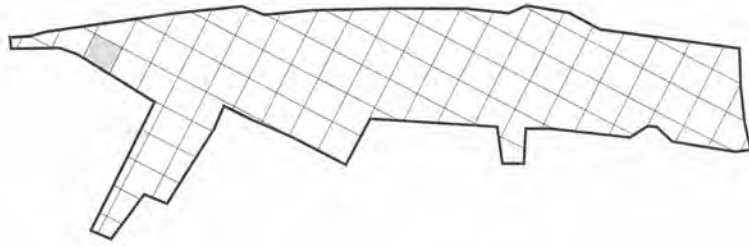
9K

5-(1)・2)・11・20・29
47-(1)・2)・63・74・217



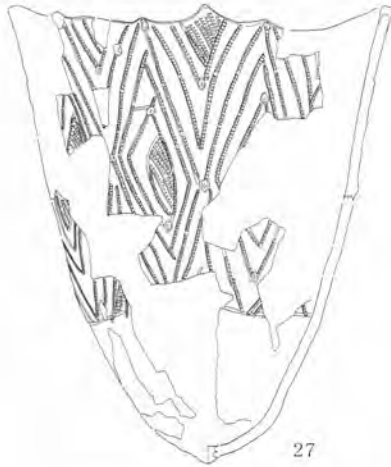
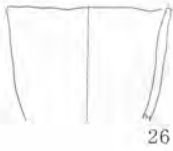
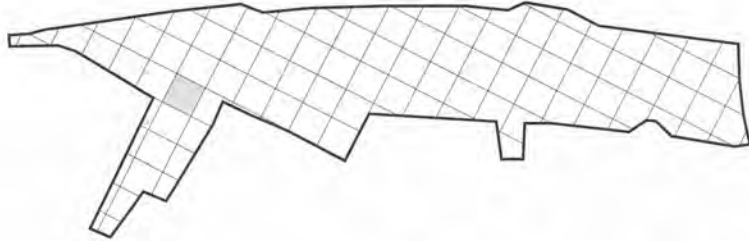
第124図 出土地点別土器(9J・9K)

10C



10F

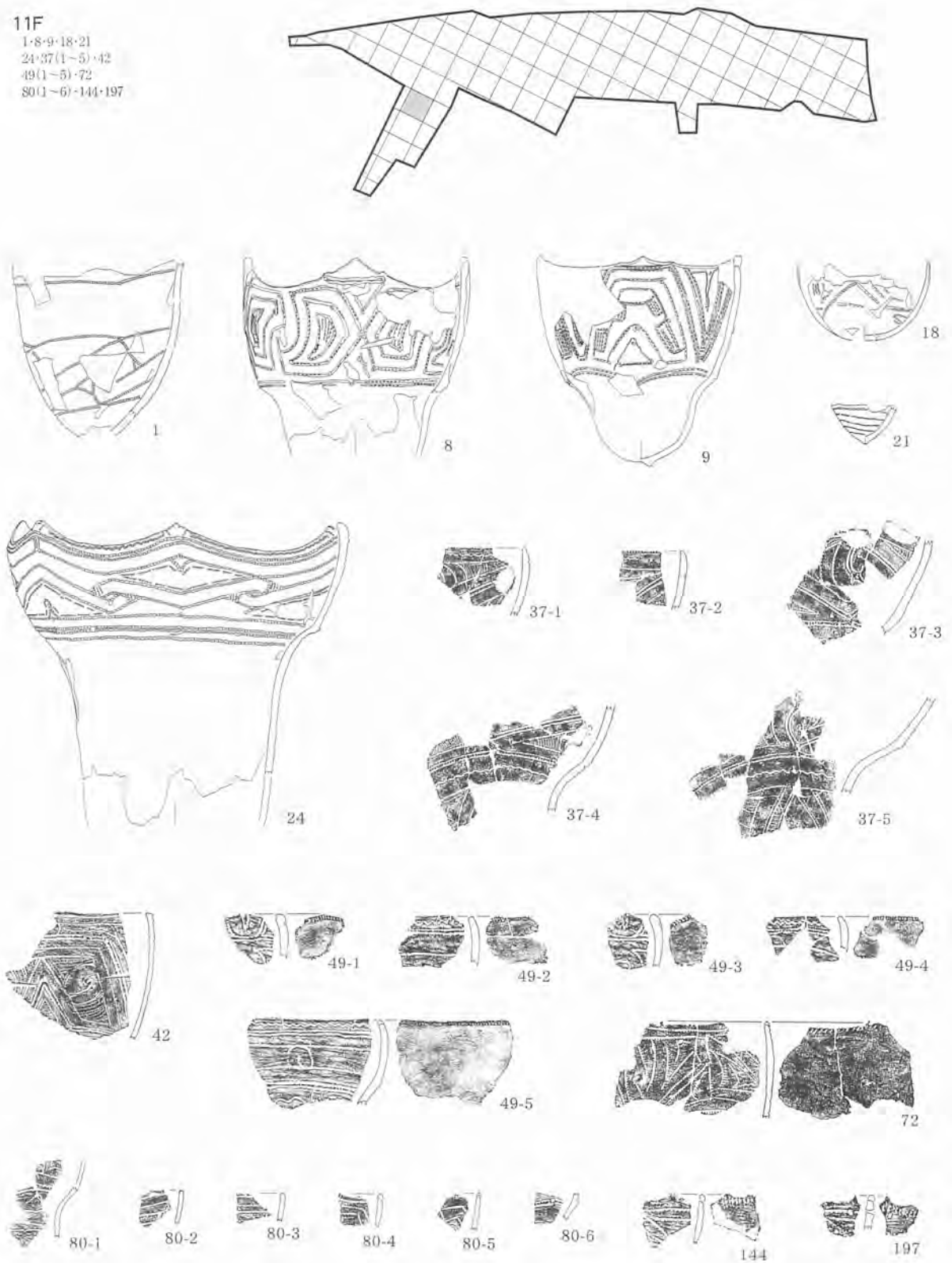
26・27・40(1~3)
47(1・2)・168
176・194・212



第 125 図 出土地点別土器 (10 C・10 F)

11F

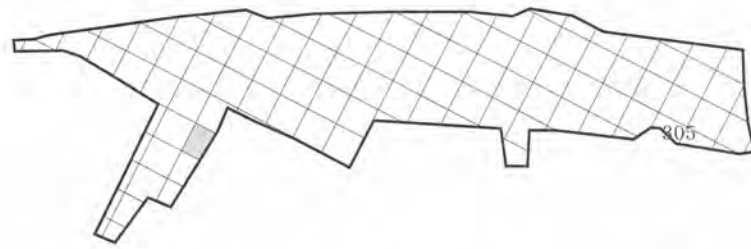
1・8・9・18・21
 24・37(1~5)・42
 49(1~5)・72
 80(1~6)・144・197



第126図 出土地点別土器(11F)

11G

24・28・64
252・254



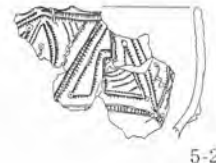
トレンチ 1

155・227・231



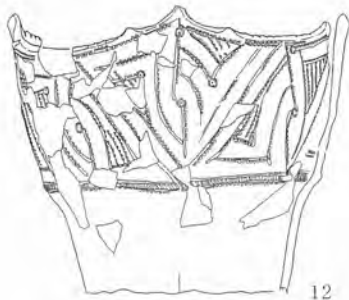
トレンチ 2

5(1-2)



トレンチ 3

12・33・84・141

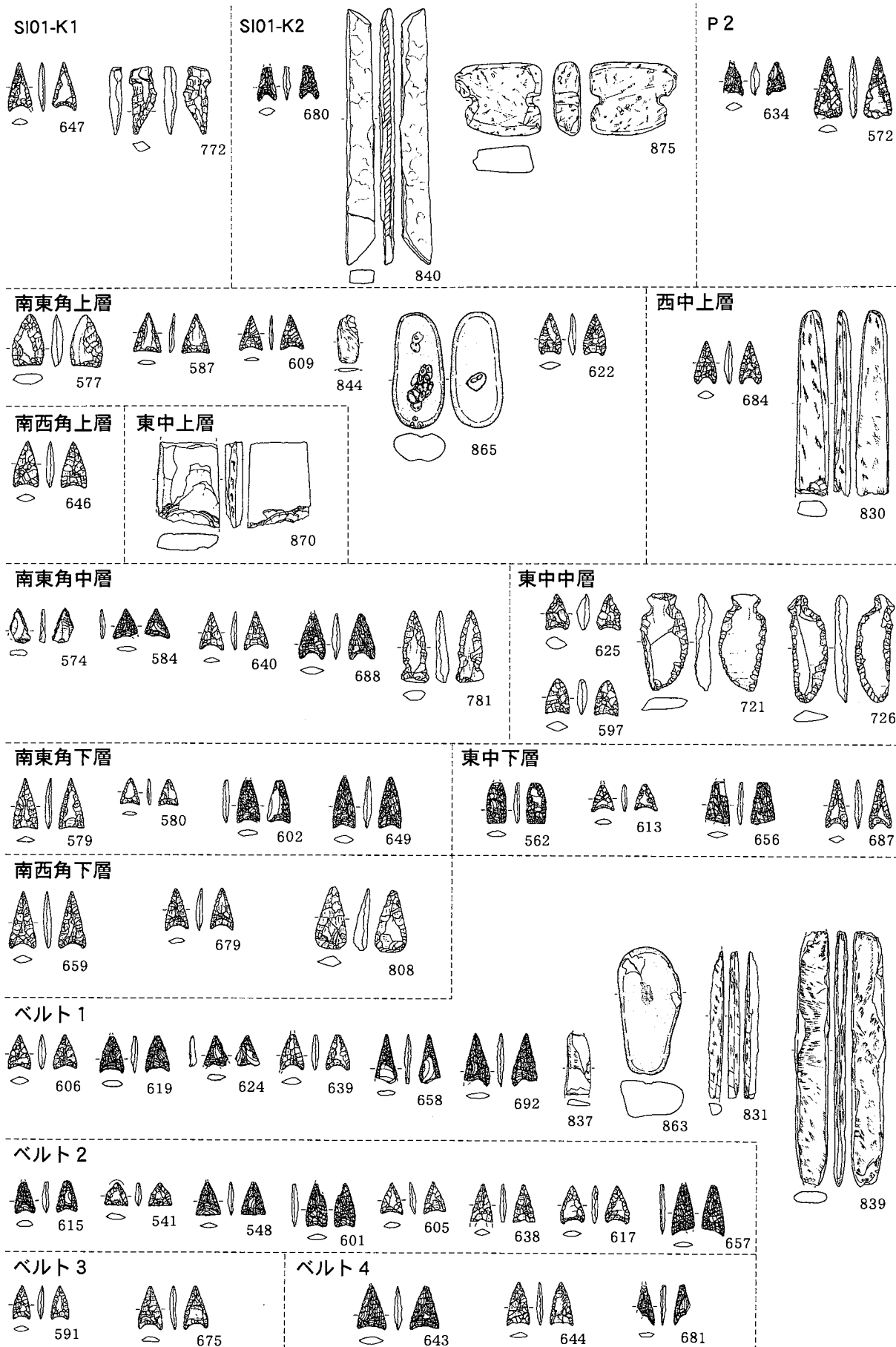


トレンチ 5

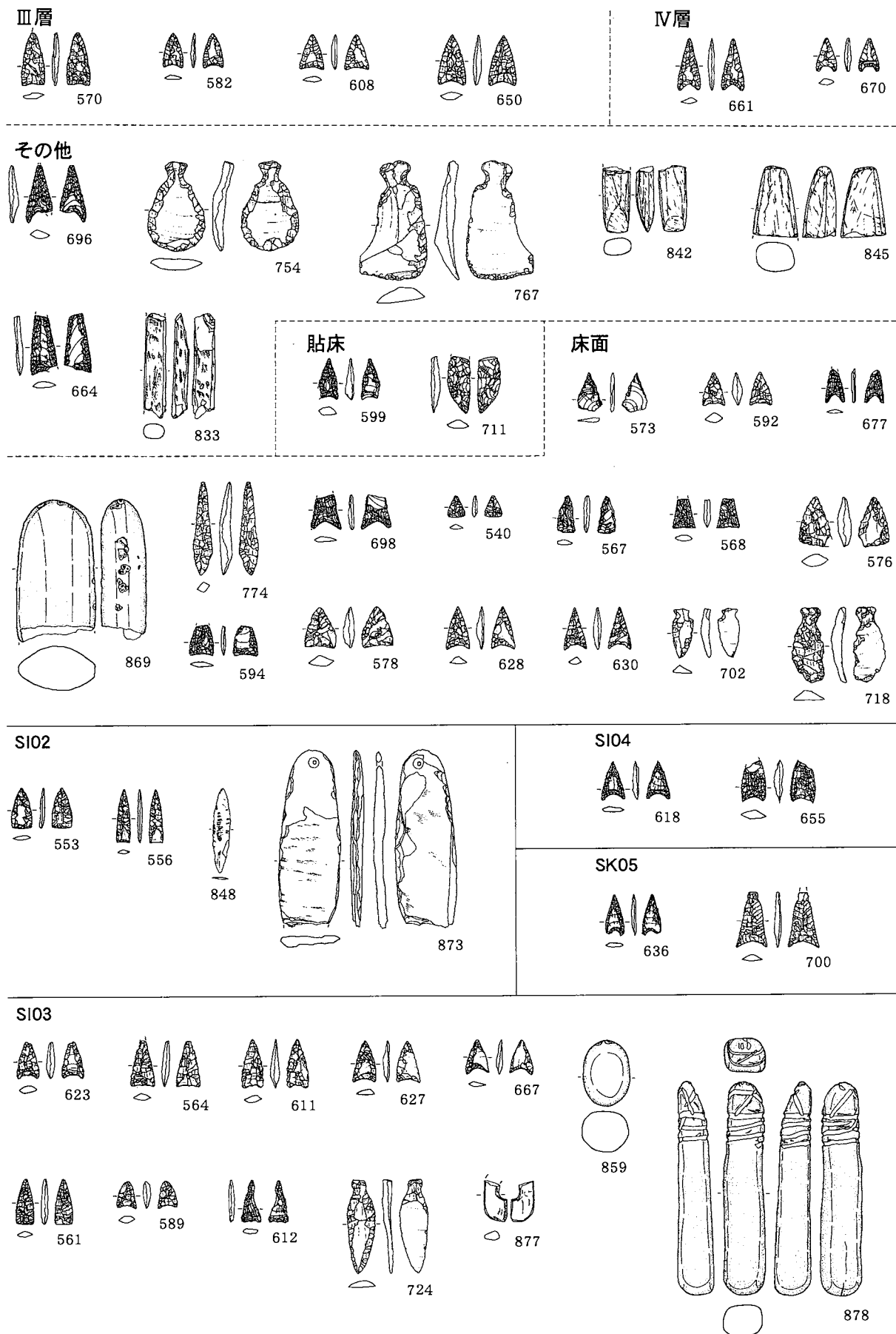
101



第 127 図 出土地点別土器 (11 G・トレンチ 1~3・5)

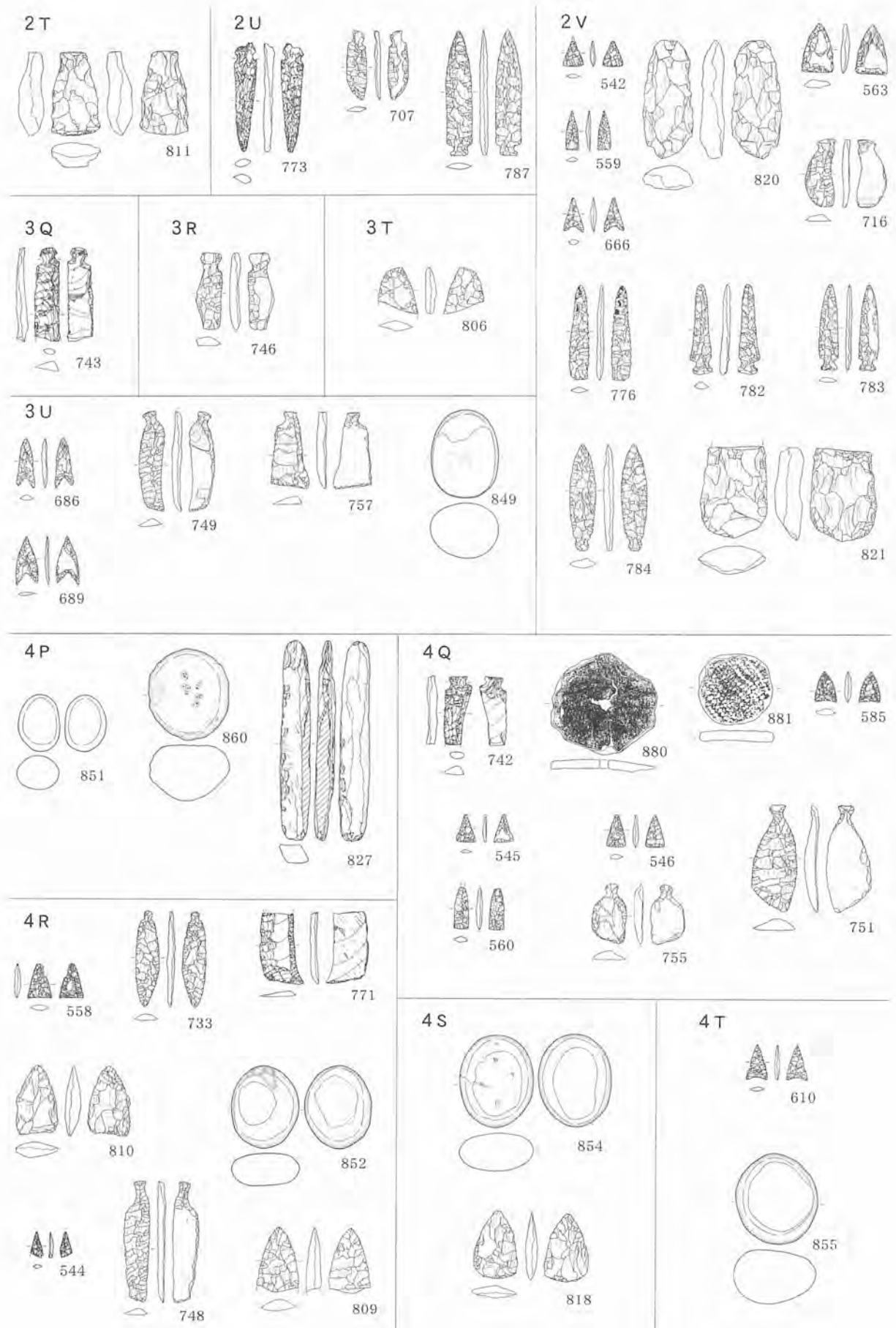


第128図 出土地点別石器・石製品 (S I 01)

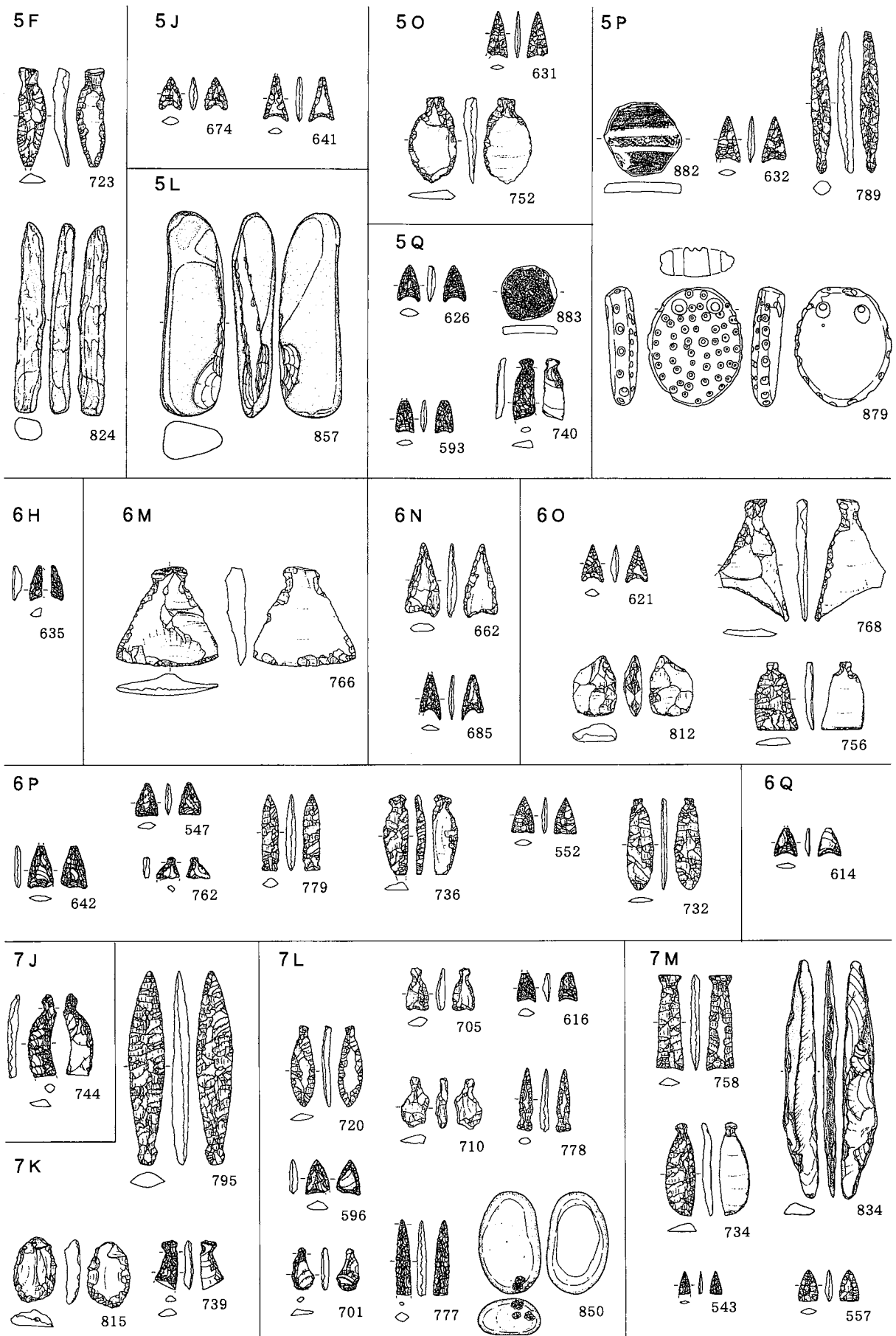


第129図 出土地点別石器・石製品 (S I 01 ~ 04・S K 05)

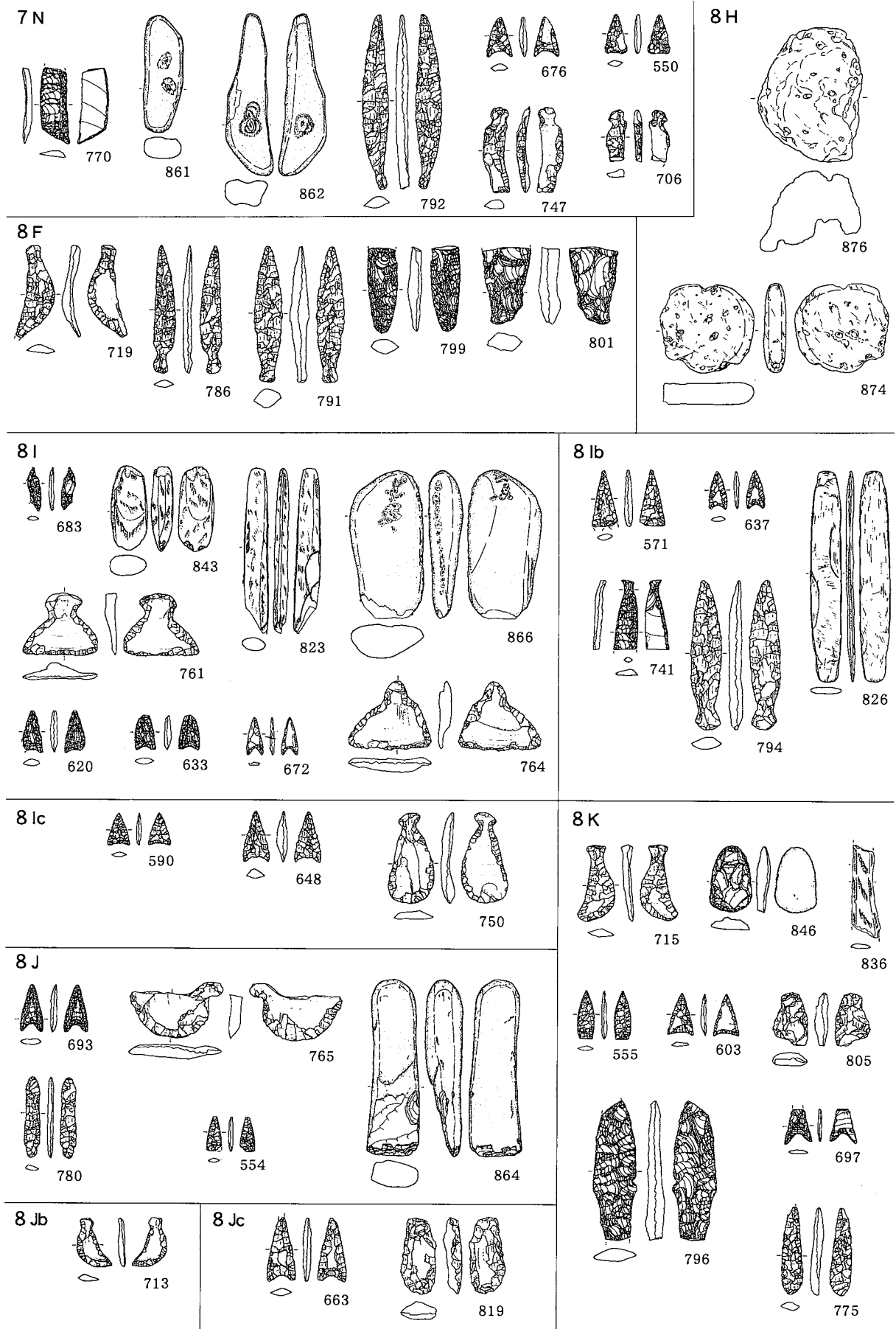
3 出土遺物



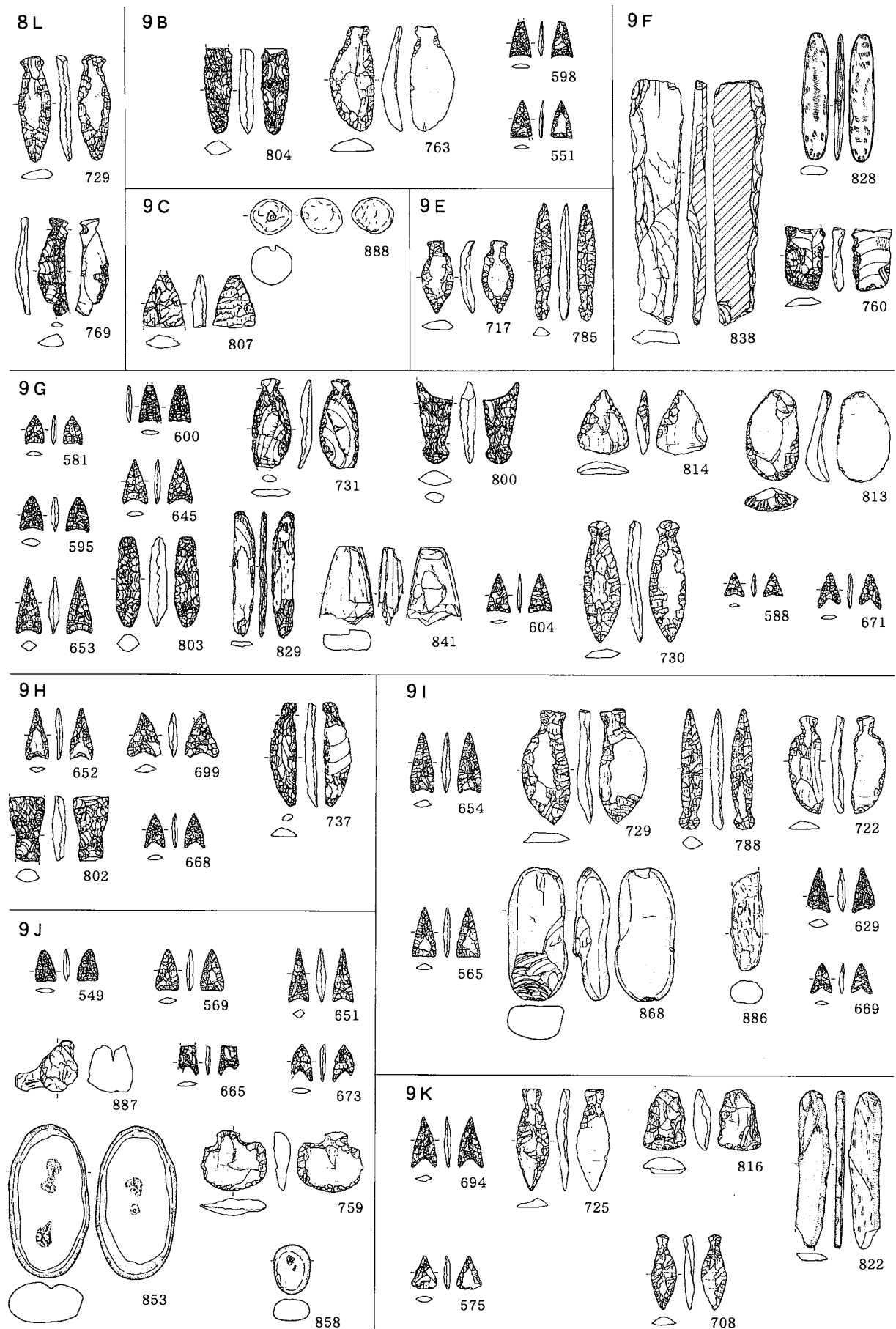
第 130 図 出土地点別石器・石製品・土製品 (2 T ~ 4 T)



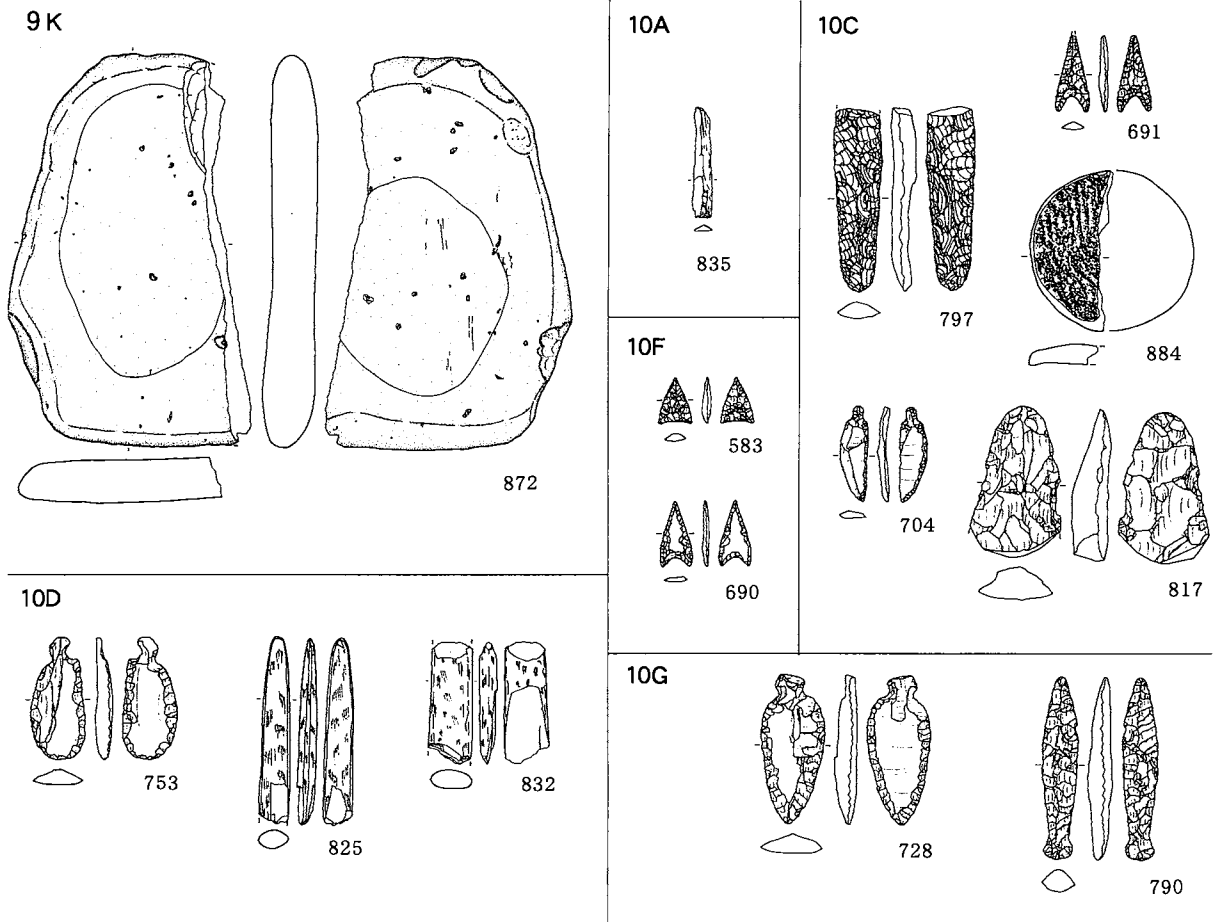
第131図 出土地点別石器・石製品・土製品 (5F~7M)



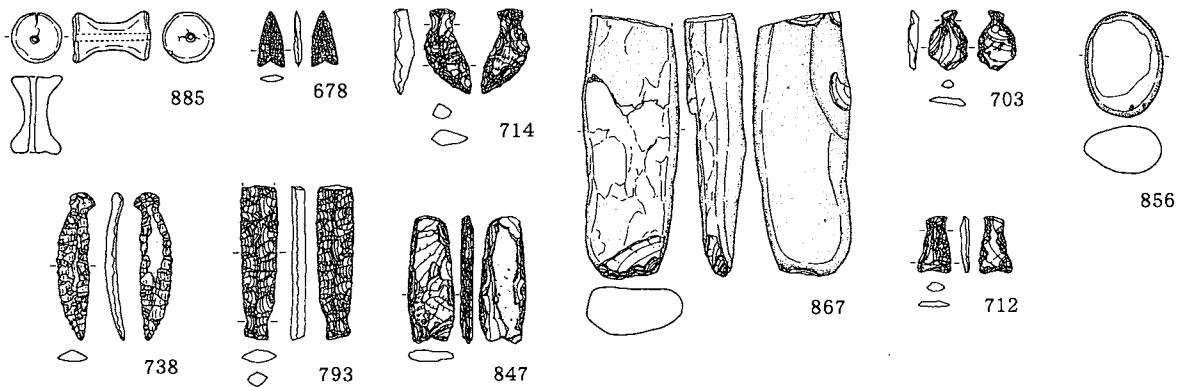
第 132 図 出土地点別石器・石製品・土製品 (7N~8K)



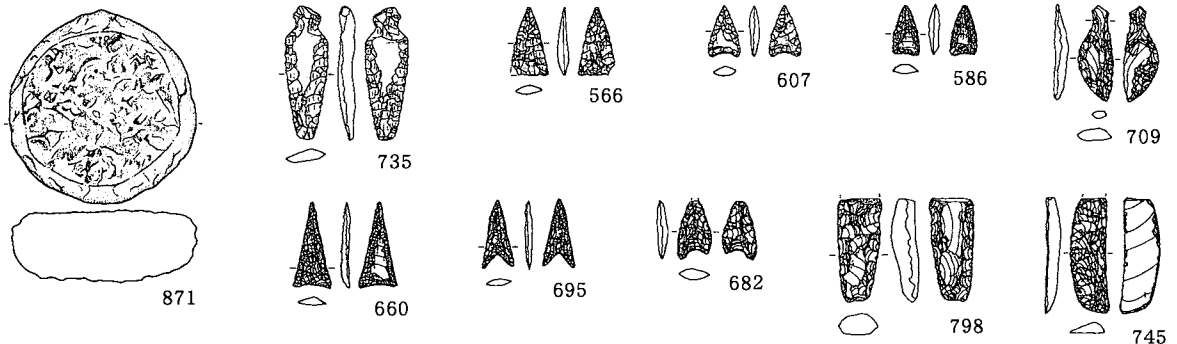
第133図 出土地点別石器・石製品・土製品 (8L ~ 9K)



田面 0・1・3



その他



第 134 図 出土地点別石器・石製品・土製品 (9 K~その他)

第4表 掲載遺物一覧(土器)

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|----|-----------------------------------|------------|---------|----|--------------------|-------------|--|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 1 | 早期 土器 | Ⅶ | 11 F | (16.9) | - | - | 沈線 | 浅黄橙色 | 下半部まで施文 |
| 2-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 7M | (18.2) | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 浅黄橙色 | |
| 2-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 7M | - | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 浅黄橙色 | |
| 3-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 7J. 7L.8I.8J. 8K. 8L. 9G.9I | (16.6) | (23.0) | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 浅黄橙色 | くびれ無し 下半部ミガキ |
| 3-2 | 早期 土器 | Ⅶ | SI01.9I.8I.9G | - | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 浅黄橙色 | くびれ無し 下半部ミガキ |
| 4-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 8J. 8J | (11.1) | (18.5) | | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 浅黄橙色 | 内面、下半部ミガキ顕著 |
| 4-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 8J | <22.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 浅黄橙色 | 内面、下半部ミガキ顕著 |
| 4-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 8J.9J | - | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 浅黄橙色 | 内面、下半部ミガキ顕著 |
| 5-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 7K.8K.9K. トレンチ2 | <9.4> | (17.05) | | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 浅黄橙色 | 口縁部内面連続腹縁文 下半部ミガキ |
| 5-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 9K. | <10.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 浅黄橙色 | 口縁部内面連続腹縁文 下半部ミガキ |
| 6 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <23.6> | 24.5 | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 黒褐色～ 黄褐色 | 内面、下半部ミガキ 口唇部連続復縁文 AMS 試料No.1 |
| 7 | 早期 土器 | Ⅶ | 9F.9G | (23.5) | 18.4 | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 赤色 | 補修孔あり AMS 試料No.4 |
| 8 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <19.7> | (22.4) | | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | 口縁部内面に連続腹縁文あり |
| 9 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | 21.0 | (20.3) | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 明黄褐色 | 底部乳頭状 口縁部内面連続腹縁文あり |
| 10 | 早期 土器 | Ⅶ | 9I | <11.3> | (22.0) | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | 浅鉢 刺突が貫通しているものあり 内外面ミガキ |
| 11 | 早期 土器 | Ⅶ | 6O. 7N | <20.5> | - | - | 残存部に文様なし | にぶい黄 橙色 | 底部鋭角的な乳頭 外面ミガキ 油煙状のもの顕著に付着 |
| 12-1 | 早期 土器 | Ⅶ | トレンチ 3.9G | <22.8> | (27.0) | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 明赤褐～ 黒褐色 | 内面、下半部ミガキ口縁部内面連続腹縁文 |
| 12-2 | 早期 土器 | Ⅶ | トレンチ3 | - | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 明赤褐～ 黒褐色 | 内面、下半部ミガキ口縁部内面連続腹縁文 |
| 13 | 早期 土器 | Ⅶ | 7J.8J.8K | <16.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 浅黄橙色 | くびれ無し 下半部ミガキ |
| 14 | 早期 土器 | Ⅶ | 9K | <7.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明赤褐色 | 内面、下半部ミガキ 底部やや乳頭状に突出。 |
| 15 | 早期 土器 | Ⅶ | 7J.8J.8K | <11.1> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙～ 黒褐色 | 内面外面ミガキ 割れた後に被熱している。 |
| 16-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V. 3U | 14.8 | (14.8) | - | 貝殻腹縁 沈線(竹管) | にぶい黄 褐色 | 内面ハケメ状の調整 底部乳頭状 外面下半ミガキ 口縁部内面連続腹縁文割れた後に被熱 補修 孔あり |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|----|-----------------|------------|--------|----|---------------------|-------------|---|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 16-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | - | - | - | 貝殻腹縁 沈線(竹管) | にぶい黄褐色 | 内面ハケメ状の調整 底部乳頭状 外面下半ミガキ 口縁部内面連続腹縁文割れた後に被熱 補修孔あり |
| 16-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 3U | - | - | - | 貝殻腹縁 沈線(竹管) | にぶい黄褐色 | 内面ハケメ状の調整 底部乳頭状 外面下半ミガキ 口縁部内面連続腹縁文割れた後に被熱 補修孔あり |
| 17 | 早期 土器 | Ⅶ | 7K2 | 12.5 | (12.6) | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 橙～ 明黄褐色 | 内面、下半部ミガキ 口縁部内面連続腹縁文 |
| 18 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <7.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい黄 橙色 | 乳頭状突起の有無不明 |
| 19 | 早期 土器 | Ⅶ | 4Q | <11.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明褐色 | 内外面ミガキ 乳頭状突起の有無剥離のため不明 |
| 20 | 早期 土器 | Ⅶ | 9K | <9.5> | - | - | 沈線 | 明黄褐色 | 底部乳頭状 沈線内に赤彩 下半部ミガキ |
| 21 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <3.0> | (6.6) | - | 押引沈線 | 黄橙～ 黒褐色 | 沈線内に赤彩 底部鋭角的に尖る。 |
| 22 | 早期 土器 | Ⅶ | 8I | <10.5> | - | - | 沈線 | 明褐色 | 内外面ミガキ 乳頭状突起なし |
| 23 | 早期 土器 | Ⅶ | 7K.8J.8K | <25.8> | (28.0) | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 褐～ 明赤褐色 | 下半部、内面ミガキ 口縁部内面に連続腹縁文 |
| 24 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F.11G | <30.5> | (34.0) | - | 貝殻腹縁 押引沈線 刺突 | 黒褐～ 明黄褐色 | AMS 試料No5 |
| 25 | 早期 土器 | Ⅶ | 4R | 7.8 | (9.2) | - | 貝殻腹縁 | 明黄褐色 | 外面文様なし 口唇部連続腹縁文 内外面ミガキ 底部形態不明 |
| 26 | 早期 土器 | Ⅶ | 10F | <8.9> | (13.0) | - | 貝殻腹縁 | 橙色 | 外面文様なし 口縁部内面連続腹縁文 |
| 27 | 早期 土器 | Ⅶ | 10F. 10G.11G | 36.0 | (29.0) | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 赤褐色 | 底部乳頭状 補修孔あり 口縁部内面連続腹縁文あり |
| 28 | 早期 土器 | Ⅶ | 11G | <20.1> | (17.4) | - | 沈線 | 橙～ 黒褐色 | 貝殻腹縁施されず |
| 29 | 早期 土器 | Ⅶ | 7K. 8K | <15.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 明黄褐色 | 下半部片か 底部に乳頭状突起なし |
| 30 | 早期 土器 | Ⅶ | 7N | <20.5> | - | - | 貝殻腹縁押引 沈線 | 橙色 | 底部乳頭状 内外面ミガキ |
| 31 | 早期 土器 | Ⅶ | 7L | <16.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 明赤褐色 | 下半部内面ミガキ顕著 |
| 32 | 早期 土器 | Ⅶ | 8I. 9I | <22.0> | (26.3) | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上り刺突 | 明赤褐～ 黒褐色 | 口縁部内面連続腹縁文 下半部内面ミガキ 体部にくびれ無し |
| 33 | 早期 土器 | Ⅶ | 9G | <41.4> | (30.6) | - | 貝殻腹縁 沈線(半裁竹管) | 明黄褐色 | 補修孔あり |
| 34-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 3S. 3T | <8.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 明赤褐色 | 下半部片 内外面ミガキ |
| 34-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 3S | <8.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 明赤褐色 | 下半部片 内外面ミガキ |
| 34-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 3S | <6.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 明赤褐色 | 下半部片 内外面ミガキ |
| 34-4 | 早期 土器 | Ⅶ | 3S | <9.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 明赤褐色 | 下半部片 内外面ミガキ |

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|----|--------------------|------------|--------|----|-----------------------------|------------|--------------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 35 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <7.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい黄 褐色 | 内面ミガキなし |
| 36 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <14.5> | (19.0) | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上り刺突 | 黒褐色 | 補修孔あり 口縁内面に連続腹縁文あり |
| 37-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 8K. 8L. 7L. 11F | <9.7> | - | - | 貝殻腹縁 押引沈線 刺突 盛上り刺突 | 明赤褐色 | 内外面ミガキ |
| 37-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 7L | <10.5> | - | - | 貝殻腹縁 押引沈線 刺突 盛上り刺突 | 明赤褐色 | 内外面ミガキ |
| 37-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 7L.8L | <9.6> | - | - | 貝殻腹縁 押引沈線 刺突 盛上り刺突 | 明赤褐色 | 内外面ミガキ |
| 37-4 | 早期 土器 | Ⅶ | 7L | <7.0> | - | - | 貝殻腹縁 押引沈線 刺突 盛上り刺突 | 明赤褐色 | 内外面ミガキ |
| 37-5 | 早期 土器 | Ⅶ | 7L.8K | <5.9> | - | - | 貝殻腹縁 押引沈線 刺突 盛上り刺突 | 明赤褐色 | 内外面ミガキ |
| 38-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U.3T | <22.8> | (25.0) | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上り刺突 | 赤褐色 | くびれ不明瞭 内面、下半部ミガキ |
| 38-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | - | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上り刺突 | 赤褐色 | くびれ不明瞭 内面、下半部ミガキ |
| 38-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | - | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上り刺突 | 赤褐色 | くびれ不明瞭 内面、下半部ミガキ |
| 39-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 7M | <9.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 盛上 | にぶい橙 色 | 沈線部に赤彩 内外面ミガキ |
| 39-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 7M | <6.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 盛上 | にぶい橙 色 | 沈線部に赤彩 内外面ミガキ |
| 40-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 9G. 8J. 9L.10F | <18.7> | - | - | 貝殻腹縁 押し引き沈線 刺突 | 灰褐色 | 下半部内面ミガキ |
| 40-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 9G | <4.6> | - | - | 貝殻腹縁 押し引き沈線 刺突 | 灰褐色 | 下半部内面ミガキ |
| 40-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 9G | <5.95> | - | - | 貝殻腹縁 押し引き沈線 刺突 | 灰褐色 | 下半部内面ミガキ |
| 41-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 6O | <15.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 押引沈線 刺突 盛上り刺突 | 橙色 | 下半部ミガキ? |
| 41-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 6O | <8.35> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 押引沈線 刺突 盛上り刺突 | 橙色 | 下半部ミガキ? |
| 41-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 6O | <7.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 押引沈線 刺突 盛上り刺突 | 橙色 | 下半部ミガキ? |
| 42 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <12.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 褐色 | 口唇部に連続腹縁文 体部のくびれの有無不明 |
| 43-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <8.7> | - | - | 貝殻腹縁 半裁竹管 | 黒褐色 | 口縁部内面連続腹縁文有り |
| 43-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <5.55> | - | - | 貝殻腹縁 半裁竹管 | 黒褐色 | 口縁部内面連続腹縁文有り AMS 試料No.3 |
| 43-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <13.0> | - | - | 貝殻腹縁 半裁竹管 | 黒褐色 | 口縁部内面連続腹縁文有り |
| 43-4 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <6.1> | - | - | 貝殻腹縁 半裁竹管 | 黒褐色 | 口縁部内面連続腹縁文有り |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|----|-------------------|------------|----|----|--------------------|-----------|-------------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 44-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U. 2V | <14.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | 体部にくびれなし |
| 44-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <11.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | 体部にくびれなし |
| 44-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <11.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | 体部にくびれなし |
| 44-4 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <10.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | 体部にくびれなし |
| 44-5 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <9.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | 体部にくびれなし |
| 45 | 早期 土器 | Ⅶ | 8I | <10.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 褐色 | 口縁部突起なし |
| 46-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 8I. 9H | <12.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 橙色 | 下半部外面ミガキ |
| 46-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 9I | <7.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 橙色 | 下半部外面ミガキ |
| 46-3 | 早期 土器 | Ⅶ | SI01.8I | <9.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 橙色 | 下半部外面ミガキ |
| 46-4 | 早期 土器 | Ⅶ | SI01 | <9.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 橙色 | 下半部外面ミガキ |
| 47-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 8K. 9K.10F. 8J | <7.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | にぶい橙 色 | 口縁部内面に連続腹縁文 内面ミガキ |
| 47-2 | 早期 土器 | Ⅶ | SI01.9K | <9.1> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | にぶい橙 色 | 口縁部内面に連続腹縁文 内面ミガキ |
| 48-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <4.5> | - | - | 沈線 盛上刺突 | 赤褐色 | 口唇部に連続刻み (腹縁ではないと思われる。) |
| 48-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <3.8> | - | - | 沈線 盛上刺突 | 赤褐色 | 口唇部に連続刻み (腹縁ではないと思われる。) |
| 48-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <5.8> | - | - | 沈線 盛上刺突 | 赤褐色 | 口唇部に連続刻み (腹縁ではないと思われる。) |
| 49-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <8.3> | - | - | 貝殻腹縁 押引沈線 | 橙～ 黒褐色 | |
| 49-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <5.2> | - | - | 貝殻腹縁 押引沈線 | 橙～ 黒褐色 | |
| 49-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <4.4> | - | - | 貝殻腹縁 押引沈線 | 橙～ 黒褐色 | |
| 49-4 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <3.6> | - | - | 貝殻腹縁 押引沈線 | 橙～ 黒褐色 | |
| 49-5 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <4.9> | - | - | 貝殻腹縁 押引沈線 | 橙～ 黒褐色 | |
| 50 | 早期 土器 | Ⅶ | 8K | <15.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 盛上 刺突 | 赤褐色 | |
| 51 | 早期 土器 | Ⅶ | 3S. 3T | <13.3> | - | - | なし | 明赤褐色 | 下半部片 内外面ミガキ |
| 52-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 3S. 3T. 4S. 4S | <4.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 暗赤褐色 | 体部にくびれ不明瞭 107 と同一個体 |

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 | |
|----------|----------|----|--------|------------|----|----|-----------------------------|------------|-----------------------------|-----------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | |
| 52-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 3S | <12.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上り刺突 | 暗赤褐色 | 体部にくびれ不明瞭 | 107 と同一個体 |
| 52-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | <10.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上り刺突 | 暗赤褐色 | 体部にくびれ不明瞭 | 107 と同一個体 |
| 52-4 | 早期 土器 | Ⅶ | 4S | <7.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上り刺突 | 暗赤褐色 | 体部にくびれ不明瞭 | 107 と同一個体 |
| 53-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 7M. 7N | <9.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい黄 褐色 | 沈線部に赤彩 内外面ミガキ口唇部に連続腹縁 | |
| 53-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 7M | <6.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい黄 褐色 | 沈線部に赤彩 内外面ミガキ口唇部に連続腹縁 | |
| 53-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 7M | <8.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい黄 褐色 | 沈線部に赤彩 内外面ミガキ口唇部に連続腹縁 | |
| 53-4 | 早期 土器 | Ⅶ | 7N | <5.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい黄 褐色 | 沈線部に赤彩 内外面ミガキ口唇部に連続腹縁 | |
| 54-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 8L | <5.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 浅黄橙色 | 底部乳頭状 外面下半部ミガキ 口縁部内面連続腹縁 | |
| 54-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 8L | <3.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 浅黄橙色 | 底部乳頭状 外面下半部ミガキ 口縁部内面連続腹縁 | |
| 54-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 8L | <4.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 浅黄橙色 | 底部乳頭状 外面下半部ミガキ 口縁部内面連続腹縁 | |
| 54-4 | 早期 土器 | Ⅶ | 8L | <5.55> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 浅黄橙色 | 底部乳頭状 外面下半部ミガキ 口縁部内面連続腹縁 | |
| 55-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <4.7> | - | - | 沈線 刺突 | にぶい黄 橙色 | 貝殻文施されず | |
| 55-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <5.3> | - | - | 沈線 刺突 | にぶい黄 橙色 | 貝殻文施されず | |
| 56-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2T.3T | <3.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 黒褐色 | 口縁部外面に縦位の盛上口縁部内面に連続腹縁 | |
| 56-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2T | <3.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 黒褐色 | 口縁部外面に縦位の盛上口縁部内面に連続腹縁 | |
| 56-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | <3.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 黒褐色 | 口縁部外面に縦位の盛上口縁部内面に連続腹縁 | |
| 57 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <7.35> | - | - | なし | にぶい黄 橙色 | 下半部片 内外面ミガキ 底部乳頭状突起 | |
| 58-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U. 3T | <11.1> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | くびれの境界部が隆帯状になっている。 内面ミガキ | |
| 58-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <9.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | くびれの境界部が隆帯状になっている。 内面ミガキ | |
| 58-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | <5.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | くびれの境界部が隆帯状になっている。 内面ミガキ | |
| 58-4 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <4.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | くびれの境界部が隆帯状になっている。 内面ミガキ | |
| 59-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2T | <7.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上り刺突 貝殻条痕 | 明赤褐色 | 口縁部内面貝殻条痕と連続腹縁 | |
| 59-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2T | <6.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上り刺突 貝殻条痕 | 明赤褐色 | 口縁部内面貝殻条痕と連続腹縁 | |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|----|-------------------|------------|----|----|-----------------------------|-------------------|-------------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 59-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 2T | <7.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上り刺突 貝殻条痕 | 明赤褐色 | 口縁部内面貝殻条痕と連続腹縁 |
| 59-4 | 早期 土器 | Ⅶ | 2T | <7.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上り刺突 貝殻条痕 | 明赤褐色 | 口縁部内面貝殻条痕と連続腹縁 |
| 60-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | <10.3> | - | - | 沈線 押引沈線 刺突 | 明赤褐色 | 内外面ミガキ |
| 60-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | <6.0> | - | - | 沈線 押引沈線 刺突 | 明赤褐色 | 内外面ミガキ |
| 61-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 7J. 8J. 7N. 4R | <5.55> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 明赤褐色 | 内外面ミガキ |
| 61-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 4R.7N | <9.65> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 明赤褐色 | 内外面ミガキ |
| 62 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | <8.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 明黄褐色 | |
| 63 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T.6O.6P.9K | <11.6> | - | - | 沈線 | 褐色 | 口唇部に連続刻み (腹縁ではないと思われる。) |
| 64 | 早期 土器 | Ⅶ | 11G | <9.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 赤褐～ にぶい赤 褐色 | 内外面ミガキ |
| 65 | 早期 土器 | Ⅶ | 6P | <15.1> | - | - | なし | 明赤褐色 | 下半部片 内外面ミガキ |
| 66 | 早期 土器 | Ⅶ | 7N | <9.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 盛上刺突 | 黒褐色 | 内面ミガキ |
| 67 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V. 3U | <14.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 暗赤褐色 | 内面ミガキなし |
| 68 | 早期 土器 | Ⅶ | 2T. 9H | <6.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 明赤褐色 | 内外面ミガキ |
| 69 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <8.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 褐色 | 内外面ミガキなし |
| 70-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 8I | <6.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 灰黄褐色 | 内面ミガキ |
| 70-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 8I | <3.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 灰黄褐色 | 内面ミガキ |
| 71 | 早期 土器 | Ⅶ | 8J | <20.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明赤褐～ 黒褐色 | 体部にくびれなし 内外面ミガキ |
| 72 | 早期 土器 | Ⅶ | 8K.11F | <9.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 橙色 | 内外面ミガキ |
| 73 | 早期 土器 | Ⅶ | 6M | <6.4> | - | - | 沈線 刺突 盛上刺突 | 明黄褐色 | 貝殻腹縁文施されず 内外面ミガキ |
| 74 | 早期 土器 | Ⅶ | 6P. 9K | <9.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明赤褐色 | 内面ミガキ |
| 75 | 早期 土器 | Ⅶ | 9I | <5.1> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | |
| 76-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U. 2V. 3U | <8.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 (竹管) | 赤色 | 内外面ミガキ |
| 76-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <4.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 (竹管) | 赤色 | 内外面ミガキ |

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|----|--------|------------|----|----|---------------------|------------|---------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 76-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <4.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 (竹管) | 赤色 | 内外面ミガキ |
| 77-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <7.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 押引 沈線 刺突 | におい黄 橙色 | 厚手の破片 |
| 77-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <5.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 押引 沈線 刺突 | におい黄 橙色 | 厚手の破片 |
| 78 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <7.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | におい黄 褐色 | 厚手の破片 |
| 79-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | <7.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 橙色 | 内面ミガキ 体部にくびれあるも、分厚い |
| 79-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | <6.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 橙色 | 内面ミガキ 体部にくびれあるも、分厚い |
| 80-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <7.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 暗褐色 | 沈線内に赤彩 |
| 80-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <3.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 暗褐色 | 沈線内に赤彩 |
| 80-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <2.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 暗褐色 | 沈線内に赤彩 |
| 80-4 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <3.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 暗褐色 | 沈線内に赤彩 |
| 80-5 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <3.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 暗褐色 | 沈線内に赤彩 |
| 80-6 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <2.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 暗褐色 | 沈線内に赤彩 |
| 81-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U. 3U | <5.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明褐色 | 口縁部に連続刺突が施される隆帯が巡る |
| 81-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <4.85> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明褐色 | 口縁部に連続刺突が施される隆帯が巡る |
| 82-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <6.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 貝殻 腹縁押引 | 黒褐色 | |
| 82-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <1.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 貝殻 腹縁押引 | 黒褐色 | |
| 83-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U. 2V | <2.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | 口縁部外面端部にも連続腹縁 |
| 83-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <6.35> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | 口縁部外面端部にも連続腹縁 |
| 84 | 早期 土器 | Ⅶ | トレンチ3 | <5.42> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 黄橙色 | 沈線内に赤彩 |
| 85 | 早期 土器 | Ⅶ | 9G | <5.7> | - | - | 沈線 | 橙色 | 内外面ミガキ 貝殻腹縁施されず |
| 86 | 早期 土器 | Ⅶ | 7L | <7.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 押引 沈線 | 黒褐色 | 口縁部内面に押引沈線 内面ミガキ |
| 87 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <5.7> | - | - | 沈線 刺突 | 黒褐色 | 貝殻施されず |
| 88 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <4.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | におい赤 褐色 | 口縁部外反 |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|---------|-------|------------|----|----|--------------------|------------|--------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 89 | 早期 土器 | Ⅶ | 8I | <3.1> | - | - | 押し沈線 | にぶい黄 褐色 | 底辺部片 |
| 90 | 早期 土器 | Ⅶ | 7K | <7.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | 内面ミガキ |
| 91 | 早期 土器 | Ⅶ | 8I | <6.55> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 黒褐色 | 内面ミガキ |
| 92 | 早期 土器 | Ⅶ | 7L | <5.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 明褐色 | 内面ミガキ |
| 93 | 早期 土器 | Ⅶ | 8L | <8.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 黒褐色 | |
| 94 | 早期 土器 | Ⅶ | 3S | <2.4> | - | - | なし | にぶい赤 褐色 | 底部片 乳頭状突起 |
| 95 | 早期 土器 | Ⅲ～ Ⅳ | 3V | <1.45> | - | - | なし | にぶい褐 色 | 底部片 乳頭状突起 |
| 96 | 早期 土器 | 攪乱 | 5S | <2.4> | - | - | なし | にぶい褐 色 | 底部片 乳頭状突起 |
| 97 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <1.8> | - | - | なし | にぶい赤 褐色 | 底部片 乳頭状突起の剥落痕あり |
| 98 | 早期 土器 | Ⅶ | 8J | <1.1> | - | - | なし | にぶい赤 褐色 | 底部片 乳頭状突起 |
| 99 | 早期 土器 | Ⅶ | 7N | <4.1> | - | - | なし | 橙色 | 底辺部片 |
| 100 | 早期 土器 | Ⅶ | 7K | <1.9> | - | - | 貝殻腹縁 | 黒褐色 | 底部片 乳頭状突起 |
| 101 | 早期 土器 | Ⅶ | トレンチ5 | <3.1> | - | - | なし | 橙色 | 底部片 乳頭状突起 |
| 102 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <4.1> | - | - | なし | にぶい赤 褐色 | 底辺部片 乳頭状突起は無いと思われる |
| 103 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <5.2> | - | - | なし | 黄褐色 | 底辺部片 |
| 104 | 早期 土器 | Ⅶ | 3S | <7.5> | - | - | なし | 明赤褐色 | 体部下半片 内外面ミガキ |
| 105 | 早期 土器 | 不明 | 田面2表採 | <3.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 褐灰色 | 摩耗著しい |
| 106 | 早期 土器 | Ⅳ | 6N | <4.8> | - | - | 沈線 | 赤褐色 | 貝殻施されず |
| 107 | 早期 土器 | Ⅲ | 6N | <3.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明赤褐色 | 補修孔あり |
| 108 | 早期 土器 | Ⅳ | 8H | <6.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 黄橙色 | |
| 109 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <7.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 黒褐色 | |
| 110 | 早期 土器 | Ⅶ | 7J | <7.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 貝殻条痕 | 浅黄橙色 | 口縁部外面上端部に連続腹縁 |
| 111 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <6.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線(竹管) | 橙色 | |

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|-----|-------|------------|----|----|--------------------|------------|-----------------------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 112 | 早期 土器 | IV | 9G | <4.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 褐色 | |
| 113 | 早期 土器 | VII | 4Q | <4.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | にぶい橙 色 | 内面ミガキ |
| 114 | 早期 土器 | IV | 4S | <4.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 押引沈線 | にぶい褐 色 | 46と同一個体 |
| 115 | 早期 土器 | VII | 2U | <6.2> | - | - | 不明(剥落) | 黒褐色 | 口縁部の連続腹縁文なし |
| 116 | 早期 土器 | VII | 6P | <3.85> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 褐色 | 刺突が貫通している部位あり |
| 117 | 早期 土器 | VII | 8J | <6.8> | - | - | 沈線 刺突 | 黒褐色 | 口唇部に連続刻み |
| 118 | 早期 土器 | III | 9G | <5.1> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 褐色 | |
| 119 | 早期 土器 | IV | 4R | <3.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 灰黄褐色 | 口唇～口縁内面に連続腹縁文なし |
| 120-1 | 早期 土器 | VII | 3S | <6.1> | - | - | 貝殻腹縁 刺突 貝殻腹縁押引 | 明赤褐色 | |
| 120-2 | 早期 土器 | VII | 3R | <3.75> | - | - | 貝殻腹縁 刺突 貝殻腹縁押引 | 明赤褐色 | |
| 120-3 | 早期 土器 | VII | 4R | <2.4> | - | - | 貝殻腹縁 刺突 貝殻腹縁押引 | 明赤褐色 | |
| 121 | 早期 土器 | VII | 7L | <2.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい褐 色 | |
| 122 | 早期 土器 | VII | 2T | <8.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 盛上 | 明黄褐色 | 口縁～口唇の連続腹縁文なし |
| 123 | 早期 土器 | VII | 3U | <6.1> | - | - | 貝殻腹縁 | 黒褐色 | 口縁部内外面に連続腹縁 |
| 124 | 早期 土器 | IV | 9H | <5.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 褐灰色 | 内面摩耗著しい |
| 125 | 早期 土器 | VII | 3U | <5.25> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | 内面ミガキ |
| 126 | 早期 土器 | VII | 7M | <6.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 褐色 | 内面ミガキ |
| 127 | 早期 土器 | VII | 3T | <3.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 灰褐色 | 内面ミガキ |
| 128 | 早期 土器 | VII | 3S,4R | <6.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | 内面ミガキ |
| 129 | 早期 土器 | VII | 4R | <6.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 貝殻腹縁押引? | 暗褐色 | 口唇部に連続の刻み(腹縁ではない) 貝殻腹縁押引文?の上に横走沈線 |
| 130-1 | 早期 土器 | VII | 3S | <2.9> | - | - | 押引沈線 連続貝殻腹縁 | 明赤褐色 | 外面ミガキ |
| 130-2 | 早期 土器 | VII | 3S | <3.1> | - | - | 押引沈線 連続貝殻腹縁 | 明赤褐色 | 外面ミガキ |
| 131 | 早期 土器 | IV | 8I | <3.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 暗赤褐色 | 口唇部に口縁と平行に貝殻腹縁、口縁部内面に腹縁 |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|------------|-------|------------|----|----|------------------------|------------|----------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 132 | 早期 土器 | IV | 8G | <3.1> | - | - | 貝殻腹縁 刺突 | 橙色 | |
| 133 | 早期 土器 | VII | 2V | <3.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | |
| 134 | 早期 土器 | VII | 2V | <3.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 灰褐色 | 内面ミガキ |
| 135 | 早期 土器 | VII | 7M | <2.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 押引沈線 | 黒褐色 | |
| 136 | 早期 土器 | VII | 3T | <4.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい黄 橙色 | |
| 137 | 早期 土器 | VII | 3T | <3.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 暗褐色 | |
| 138 | 早期 土器 | III | 6M | <4.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 黄橙色 | 摩耗著しい |
| 139 | 早期 土器 | VII | 3U | <7.1> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 極暗赤色 | |
| 140 | 早期 土器 | VII | 3T | <5.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 黄橙色 | |
| 141 | 早期 土器 | VII | トレンチ3 | <4.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 橙色 | |
| 142 | 早期 土器 | VII | 3T | <3.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 褐色 | |
| 143 | 早期 土器 | VII | 3T | <4.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 褐色 | |
| 144 | 早期 土器 | VII | 11F | <4.8> | - | - | 貝殻腹縁 刺突 | にぶい黄 橙色 | 沈線は施されていないか? |
| 145 | 早期 土器 | VII | 2U | <4.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 橙色 | 内面ミガキ 補修孔あり |
| 146 | 早期 土器 | VII | 2U | <2.4> | - | - | 貝殻腹縁 | 黄橙色 | 横走する貝殻腹縁 |
| 147 | 早期 土器 | III~ IV | 8J | <4.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | |
| 148 | 早期 土器 | VII | 6P | <3.45> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい黄 褐色 | 内面剥離 |
| 149 | 早期 土器 | VII | 7J | <4.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 明黄褐色 | |
| 150 | 早期 土器 | VII | 2U | <3.95> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 褐灰色 | |
| 151 | 早期 土器 | VII | 9I | <4.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 褐色 | |
| 152 | 早期 土器 | VII | 3U | <2.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい黄 橙色 | 口唇~口縁部内面腹縁なし |
| 153 | 早期 土器 | VII | 3T | <3.75> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい黄 褐色 | 外反する口縁部 |
| 154 | 早期 土器 | VI | 6N | <5.2> | - | - | 貝殻腹縁 押引沈線 貝殻条痕 (内面) | 明赤褐色 | 平行する押引沈線の間が隆帯状に盛り上がる |

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|----|-------|------------|----|----|----------------------|------------|---|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 155 | 早期 土器 | Ⅶ | トレンチ1 | <3.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 黄橙色 | 突起部の破片 |
| 156 | 早期 土器 | Ⅳ | 8K | <4.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明赤褐色 | |
| 157 | 早期 土器 | Ⅶ | 8J | <6.1> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | |
| 158-1 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <5.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | にぶい褐色 | 内面ミガキなし |
| 158-2 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <5.35> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | にぶい褐色 | 内面ミガキなし |
| 158-3 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <4.75> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | にぶい褐色 | 内面ミガキなし |
| 158-4 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <2.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | にぶい褐色 | 内面ミガキなし |
| 158-5 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <6.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | にぶい褐色 | 内面ミガキなし |
| 159 | 早期 土器 | Ⅶ | 7M | <5.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 貝殻条痕? | 灰褐色 | 内外面に擦痕あり、貝殻条痕か |
| 160 | 早期 土器 | Ⅶ | 7N | <3.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 褐灰色 | |
| 161 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <2.8> | - | - | 貝殻腹縁 | 褐灰色 | 外面は横位に連続する貝殻腹縁 |
| 162 | 早期 土器 | Ⅶ | 4Q | <3.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 褐灰色 | 口縁部かなり内湾する |
| 163 | 早期 土器 | Ⅶ | 9I | <5.25> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 黄橙色 | 内面ミガキなし |
| 164 | 早期 土器 | Ⅶ | 3S | <3.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | |
| 165 | 早期 土器 | Ⅶ | 9I | <3.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 盛上刺突 押引沈線 | 浅黄橙色 | 沈線に挟まれた部分隆帯状に盛り上がる 沈線内に赤彩 内面ミガキ |
| 166 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <5.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 黒褐色 | 内面ミガキ |
| 167 | 早期 土器 | Ⅶ | 2T | <6.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 盛上刺突 貝殻条痕 | 黒褐色 | 内面貝殻条痕 |
| 168 | 早期 土器 | Ⅶ | 10F | <4.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 浅黄橙色 | 161 と同一個体 腹縁に挟まれた部分隆帯状に盛り上がる 沈線内に赤彩 |
| 169 | 早期 土器 | Ⅶ | 9H | <1.9> | - | - | 貝殻腹縁 押引沈線 | 明赤褐色 | |
| 170 | 早期 土器 | Ⅶ | 6P | <3.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明褐色 | |
| 171 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <3.85> | - | - | 沈線 | にぶい黄 橙色 | 貝殻腹縁施されず |
| 172 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <3.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 灰黄褐色 | 内面ミガキ |
| 173 | 早期 土器 | Ⅶ | 7K | <6.85> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙～ 黒褐色 | 内面ミガキ |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|----|------|------------|----|----|----------------------|------------|------------------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 174 | 早期 土器 | Ⅶ | 8J | <4.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 橙色 | 内面ミガキ |
| 175 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | <4.95> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 灰黄褐色 | 内面ミガキなし |
| 176 | 早期 土器 | Ⅶ | 10F | <6.9> | - | - | 沈線 刺突 | にぶい黄 褐色 | 体部のくびれ不明瞭 下半部ミガキ 貝殻腹縁施されず |
| 177 | 早期 土器 | Ⅳ | 8K | <6.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 黒褐色 | 内面ミガキ |
| 178 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <5.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 暗赤褐色 | 口唇～口縁部内面に貝殻腹縁なし |
| 179 | 早期 土器 | Ⅶ | 3U | <6.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 黒褐色 | 内面ミガキ |
| 180 | 早期 土器 | Ⅶ | 3U | <7.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 暗褐色 | |
| 181 | 早期 土器 | Ⅶ | 4S | <5.1> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | 内面ミガキなし |
| 182 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | <5.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明黄褐色 | 内面ミガキ |
| 183 | 早期 土器 | Ⅶ | 3U | <5.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 暗褐色 | 174 と同一個体か |
| 184 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <3.0> | - | - | なし | 橙色 | 内外面ナデ状の調整 |
| 185 | 早期 土器 | Ⅶ | 9I | <3.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい褐 色 | |
| 186 | 早期 土器 | Ⅶ | 3U | <5.0> | - | - | 爪形の連続文 (口縁部内面) | にぶい橙 色 | 外面大きく剥離 |
| 187 | 早期 土器 | Ⅶ | 4R | <2.2> | - | - | 貝殻腹縁 | 黒褐色 | 口縁部外面にも連続腹縁 |
| 188 | 早期 土器 | Ⅶ | 4R | <2.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 黄橙色 | |
| 189 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <1.35> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明赤褐色 | |
| 190 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <4.5> | - | - | 貝殻腹縁 | 黒褐色 | 外面ほとんど剥離 150 と同一個体か |
| 191 | 早期 土器 | Ⅶ | 4S | <4.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 明赤褐色 | 内面ミガキなし 176 と同一個体か |
| 192 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | <5.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 灰白色 | 内面ミガキなし |
| 193 | 早期 土器 | Ⅶ | 8J | <4.3> | - | - | なし | にぶい黄 褐色 | 文様がみられない |
| 194 | 早期 土器 | Ⅶ | 10F | <4.3> | - | - | なし? (摩耗著しい) | にぶい黄 橙色 | 口唇～口縁部内面に貝殻腹縁なし |
| 195 | 早期 土器 | Ⅶ | 8J | <3.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 褐灰色 | 内面ミガキ |
| 196 | 早期 土器 | Ⅶ | 3U | <3.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 貝殻腹縁押引 | 褐灰色 | |

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|----|------|------------|----|----|--------------------|------------|------------------------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 197 | 早期 土器 | Ⅶ | 11F | <3.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 黄橙色 | 口縁部に貫通孔があるが、焼成前のもの |
| 198 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <4.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい黄 褐色 | 補修孔あり |
| 199 | 早期 土器 | Ⅵ | 3U | <6.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい赤 褐色 | 口縁部外面剥離 50 と同一個体と思われる |
| 200 | 早期 土器 | Ⅶ | 7P | <3.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 明黄褐色 | 沈線と沈線の間隆帯状に盛り上がる |
| 201 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <1.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 赤褐色 | 内面ミガキ |
| 202 | 早期 土器 | Ⅶ | 9I | <2.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 灰黄褐色 | 内面ミガキ 沈線内部に赤彩 |
| 203 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <2.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 黄橙色 | |
| 204 | 早期 土器 | Ⅶ | 9J | <1.8> | - | - | 沈線 | 赤褐色 | 口唇～口縁部内面に貝殻腹縁なし |
| 205 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <2.65> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 黄橙色 | 口縁部外面上端に縦位の連続腹縁 その下に矢羽根状の連続した沈線 |
| 206 | 早期 土器 | Ⅶ | 9I | <4.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 浅黄褐色 | 内面ミガキ |
| 207 | 早期 土器 | Ⅶ | 3U | <3.1> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 貝殻腹縁押引 | にぶい黄 橙色 | |
| 208 | 早期 土器 | Ⅶ | 9J | <4.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 浅黄褐色 | 内面ミガキ |
| 209 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <7.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 橙色 | |
| 210 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <2.9> | - | - | なし | 明黄褐色 | 口縁部小刻みな波状 |
| 211 | 早期 土器 | Ⅶ | 9H | <4.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 明黄褐色 | |
| 212 | 早期 土器 | Ⅶ | 10F | <3.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 橙色 | 内面ミガキ |
| 213 | 早期 土器 | Ⅶ | 4Q | <4.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 褐色 | |
| 214 | 早期 土器 | Ⅲ | 4Q | <3.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明赤褐色 | |
| 215 | 早期 土器 | Ⅳ | 5Q | <3.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上 | 橙色 | |
| 216 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | <2.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 暗褐色 | |
| 217 | 早期 土器 | Ⅳ | 9K | <4.35> | - | - | 沈線 刺突 | にぶい橙 色 | 貝殻文施されず |
| 218 | 早期 土器 | Ⅲ | 4Q | <3.1> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 褐灰色 | 口唇部、口縁部内面に貝殻腹縁なし |
| 219 | 早期 土器 | Ⅶ | 3S | <3.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明黄褐色 | |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|----|---------|------------|----|----|------------------------|------------|--------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 220 | 早期 土器 | Ⅶ | 8I | <4.25> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 橙色 | |
| 221 | 早期 土器 | 不明 | 田面 3 | <4.9> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 灰褐色 | 摩耗著しい |
| 222 | 早期 土器 | Ⅲ | 9C | <5.25> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 浅黄橙色 | 摩耗著しい |
| 223 | 早期 土器 | Ⅲ | 6J | <6.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 灰黄褐色 | 摩耗著しい 口縁部外面上部剥離 |
| 224 | 早期 土器 | Ⅳ | 4Q | <3.85> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 黄橙色 | |
| 225 | 早期 土器 | Ⅶ | 8K | <5.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 暗赤褐色 | |
| 226 | 早期 土器 | Ⅵ | 9I | <4.25> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 橙色 | 内面摩耗著しい |
| 227 | 早期 土器 | Ⅲ | トレンチ 1 | <4.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 橙色 | 内面ミガキ |
| 228 | 早期 土器 | Ⅲ | 9 F | <4.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい黄 橙色 | |
| 229 | 早期 土器 | Ⅵ | 6P | <2.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 橙色 | |
| 230 | 早期 土器 | Ⅲ | 5J | <3.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 赤褐色 | 口唇部～口縁部内面に貝殻腹縁施されず |
| 231 | 早期 土器 | Ⅶ | トレンチ 1 | <2.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明黄褐色 | 口縁部上部に焼成前の穿孔あり |
| 232 | 早期 土器 | Ⅳ | 5O | <2.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 灰褐色 | 口縁部内面にも沈線文 |
| 233 | 早期 土器 | Ⅶ | 8K | <2.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 明赤褐色 | 体部くびれ部片 下半部にも文様 |
| 234 | 早期 土器 | 不明 | 田面 1 | <3.75> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 黒褐色 | 内面ミガキ |
| 235 | 早期 土器 | 一 | SI01 上層 | <3.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 灰黄褐色 | 内面ミガキなし |
| 236 | 早期 土器 | Ⅲ | 7J | <4.8> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 より糸文 (R) | にぶい黄 橙色 | 口縁部外面上端に斜位の連続腹縁文 |
| 237 | 早期 土器 | Ⅳ | 10 C | <3.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 浅黄橙色 | 内面ミガキ |
| 238 | 早期 土器 | Ⅶ | 3U | <4.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 橙色 | 体部くびれ部片 下半部無文 |
| 239 | 早期 土器 | Ⅵ | 3T | <4.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい橙 色 | 体部くびれ部片 下半部無文 |
| 240 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <3.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい橙 色 | 体部くびれ部片 下半部無文 |
| 241 | 早期 土器 | Ⅶ | 5Q | <5.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 黒褐色 | 体部くびれ部片 下半部無文 |
| 242 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T. 3U | <7.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 褐色 | 体部くびれ部片 下半部無文 |

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|---------|---------|------------|----|----|--------------------|----------------|----------------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 243 | 早期 土器 | Ⅶ | 8I | <4.1> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 黒褐色 | 体部くびれ部片 下半部無文内外面ミガキ |
| 244 | 早期 土器 | Ⅶ | 4R | <3.95> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい 橙色 | 下半部片 内面ミガキ |
| 245 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <4.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい 橙色 | 体部くびれ部片 下半部無文 |
| 246 | 早期 土器 | Ⅶ | 9I | <6.4> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | 体部くびれ部片 下半部にも文様 沈線内部に赤彩 |
| 247 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U | <5.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 盛上刺突 | 橙色 | 体部くびれ部片 下半部無文内外面ミガキ |
| 248 | 早期 土器 | Ⅶ | 6P | <5.15> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 盛上刺突 | 橙色 | 体部くびれ部片 下半部無文内外面ミガキ |
| 249 | 早期 土器 | Ⅶ | 8K | <4.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | 体部くびれ部片 下半部無文内外面ミガキ |
| 250 | 早期 土器 | Ⅵ | 6P | <3.95> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい 褐色 | 体部くびれ部片 下半部無文 |
| 251 | 早期 土器 | Ⅶ | 3T | <5.25> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 明赤褐色 | 体部くびれ部片 下半部無文 |
| 252 | 早期 土器 | Ⅶ | 11G | <4.1> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | 体部下半片 内外面ミガキ |
| 253 | 早期 土器 | Ⅲ～ Ⅳ | 7L | <7.65> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 盛上刺突 | 褐灰色 | 体部くびれ部片 下半部にも文様 |
| 254 | 早期 土器 | Ⅶ | 11G | <4.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 盛上刺突 | 橙色 | 体部くびれ部片 下半部にも文様 |
| 255 | 早期 土器 | Ⅶ | 3U | <5.7> | - | - | 押し沈線 | にぶい 赤褐色 | 下半部片 押し沈線で弧状の文様 |
| 256 | 早期 土器 | Ⅶ | 9G | <7.6> | - | - | 沈線 | 灰褐色 | 体部くびれ部片 168 と同一個体か |
| 257 | 早期 土器 | Ⅶ | 2V | <5.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | にぶい 黄 橙色 | 体部くびれ部片 下半部無文 |
| 258 | 早期 土器 | Ⅶ | 7J | <6.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | 体部くびれ部片 下半部無文 |
| 259 | 早期 土器 | Ⅶ | 5Q | <9.3> | - | - | 貝殻条痕? | 明褐色 | 目の細かい条痕、貝殻条痕か |
| 260 | 早期 土器 | Ⅶ | 7J | <8.8> | - | - | なし | にぶい 橙 色 | 下半部片 内外面ミガキ |
| 261 | 早期 土器 | Ⅶ | 3U | <7.0> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 灰黄褐色 | 体部くびれ部片 下半部無文 |
| 262 | 早期 土器 | Ⅶ | 2U. 2V | <6.3> | - | - | 貝殻腹縁押し | 橙色 | 破片部位は体部中央か |
| 263 | 早期 土器 | Ⅶ | 3U | <7.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい 黄 橙色 | 体部にくびれなし |
| 264 | 早期 土器 | 不明 | 田面 4 | <5.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 橙色 | 体部くびれ部 下半部無文 |
| 265 | 早期 土器 | Ⅲ～ Ⅳ | 田面 1 西側 | <5.6> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | 褐灰色 | 体部くびれ部 下半部無文 |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------------|-----|----------------------|------------|----|----|-------------------------|-------------|------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 266 | 早期 土器 | VI | 8K | <3.7> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 盛上刺突 | にぶい橙 色 | 体部くびれ部 下半部無文 |
| 267 | 早期 土器 | VII | 9I | <3.2> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 明赤褐色 | 体部くびれ部 |
| 268 | 早期 土器 | VI | 7M | <4.25> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 盛上刺突 | 橙色 | 体部くびれ部 下半部に沈線、腹縁 |
| 269 | 早期 土器 | III | 田面1 | <6.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 黄橙色 | 体部くびれ部 下半部無文 |
| 270 | 早期 土器 | VII | 3T | <4.5> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 刺突 | にぶい黄 橙色 | 底辺部片 |
| 271 | 早期 土器 | VII | 9H | <6.3> | - | - | 貝殻条痕? 沈線 | 橙色 | 下半部片 目の細かい鋸歯状沈線 |
| 272 | 早期 土器 | III | 田面1 | <6.3> | - | - | 貝殻腹縁 沈線 | 黄橙色 | 体部くびれ部 下半部無文 |
| 273 | 早期 土器 | VII | 2V43.3V4 | <4.9> | - | - | 口縁部肥厚条痕文(内 外面) 絡条体圧痕 | 黒褐色 | 口縁部片 |
| 274 | 早期 土器 | VII | 2V24.25 | <6.3> | - | - | 条痕(内外面) | 黒褐色 | 体部片 |
| 275 | 早期 土器 | VII | 4S11.14.44.69 | <9.9> | - | - | 条痕(内外面) | 橙色 | 体部片 内面炭化物付着 |
| 276 | 早期 土器 | VII | 2V76 | <5.2> | - | - | 条痕(内外面) | 橙色 | 体部片 |
| 277 | 早期 土器 | VII | 2V236 | <4.1> | - | - | 条痕(内外面) | 褐灰色 | 体部片 |
| 278 | 早期 土器 | VI | 3R | <9.6> | - | - | 単節縄文(LR)内外 面、口唇部 | 褐灰色 | 表裏縄文 胎土に繊維混入 |
| 279 | 早期 土器 | VII | 2U3.2V243 | <5.9> | - | - | 条痕文(内外面) | 黒褐色 | 体部片 |
| 280 | 早期 土器 | VII | 3U109 | <9.55> | - | - | 単節縄文(LR)内外 面、口唇部 | 橙~黒色 | 表裏縄文 胎土に繊維混入 |
| 281 | 早期 土器 | VII | 4S75 | <6.3> | - | - | 条痕文(内外面) | 橙色 | 体部片 |
| 282 | 早末 ~前 期初 | VI | 2V | <13.3> | - | - | 羽状縄文結節なし(0 段多条RL、LR) | 黒褐色 | 胎土に繊維混入 |
| 283 | 早期 土器 | VI | 3R | <5.75> | - | - | 単節縄文(LR)内外 面、口唇部 | 明黄褐色 | 表裏縄文 胎土に繊維混入 |
| 284 | 早期 土器 | VI | 3R | <8.3> | - | - | 単節縄文(LR)内外 面、口唇部 | 橙~ 褐灰色 | 表裏縄文 胎土に繊維混入 |
| 285 | 早末 ~前 期初 | VI | 3S | <7.9> | - | - | 横位の絡条体(口縁部) 0段多条RL縄文 | 明黄褐~ 黒褐色 | 胎土に繊維混入 |
| 286 | 早末 ~前 期初 | VI | 6P | <8.4> | - | - | 単節縄文(LR) | 黒褐色 | 胎土繊維混入 |
| 287 | 早期 土器 | VII | 2V64.315.3 38.342 | <6.8> | - | - | 単節縄文(LR)外面 | 橙色 | 尖底部片 胎土に繊維混入 |
| 288-1 | 早期 土器 | VI | 10 F | <3.3> | - | - | 微隆線文 条痕(外面) | 橙~ 黒褐色 | 上半部微隆線文 下半部条痕文 |

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|------------|----|--------|------------|----|----|--------------------------|-------------------|------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 288-2 | 早期 土器 | VI | 10F | <4.0> | - | - | 微隆線文 条痕 (外面) | 橙～ 黒褐色 | 上半部微隆線文 下半部条痕 |
| 288-3 | 早期 土器 | VI | 10F | <10.5> | - | - | 微隆線文 条痕文 (外面) | 橙～ 黒褐色 | 上半部微隆線文 下半部条痕 |
| 288-4 | 早期 土器 | VI | 10F | <6.35> | - | - | 微隆線文 条痕 (外面) | 橙～ 黒褐色 | 上半部微隆線文 下半部条痕 |
| 288-5 | 早期 土器 | VI | 10F | <4.9> | - | - | 微隆線文 条痕 (外面) | 橙～ 黒褐色 | 上半部微隆線文 下半部条痕 |
| 288-6 | 早期 土器 | VI | 10F | <5.25> | - | - | 微隆線文 条痕 (外面) | 橙～ 黒褐色 | 上半部微隆線文 下半部条痕 |
| 288-7 | 早期 土器 | VI | 10F | <6.1> | - | - | 微隆線文 条痕 (外面) | 橙～ 黒褐色 | 上半部微隆線文 下半部条痕 |
| 289-1 | 早期 土器 | VI | 6P | <4.9> | - | - | 微隆線文 | 浅黄橙色 | 口縁部片 |
| 289-2 | 早期 土器 | VI | 6P | <4.3> | - | - | 微隆線文 | 浅黄橙色 | 口縁部片 |
| 290 | 早期 土器 | V | 4T | <3.2> | - | - | 微隆線文 | にぶい橙 色 | 体部上半片 |
| 291 | 早期 土器 | VI | 9K | <6.3> | - | - | 条痕 (外面) | 橙色 | 体部下半片か |
| 292 | 早期 土器 | VI | 4R | <6.3> | - | - | 微隆線文 | にぶい褐 色 | 体部上半片 |
| 293 | 早期 土器 | VI | 4R | <5.8> | - | - | 微隆線文 | にぶい褐 色 | 口縁部片 |
| 294 | 早末 ～前期初 | VI | 8K | <11.5> | - | - | 撚糸文 (L) ? 絡条体圧痕 (口唇) | にぶい黄 褐色 | 胎土繊維混入 |
| 295 | 早末 ～前期初 | VI | 8K | <15.5> | - | - | 撚糸文 (L) | 灰褐色 | 胎土繊維混入 |
| 296 | 早末 ～前期初 | VI | 8J | <20.4> | - | - | 撚糸文 (L) ? | 明黄褐色 | 胎土繊維混入 体部下半片丸底 |
| 297 | 前期 土器 | VI | 8K | <14.1> | - | - | 羽状縄文 (RL) | にぶい褐 色 | 胎土繊維混入 |
| 298 | 前期 土器 | V | 10 F | <15.3> | - | - | 無節縄文 (L) | 褐色～ 明赤褐色 | 口縁部波状 胎土繊維混入 |
| 299 | 前期 土器 | VI | トレンチ 3 | <32.0> | - | - | 羽状縄文 (LR、RL) | 灰黄褐色 ～明黄褐 色 | 口縁部わずかに外反 胎土繊維混入 |
| 300 | 前期 土器 | VI | 2 E | <13.1> | - | - | 横位絡条体 | にぶい黄 褐色 | 胎土繊維混入 |
| 301 | 前期 土器 | V | 6Q | <5.5> | - | - | 刺突 横位の絡条体 | 黒褐色 | 胎土に繊維混入 |
| 302 | 前期 土器 | V | 7M | <10.9> | - | - | 横位の絡条体 | 明黄褐色 | 胎土に繊維混入 |
| 303 | 前期 土器 | V | 8 F | <15.8> | - | - | 横位の絡条体羽状縄文 (LR、RL) 結束 | にぶい黄 橙色 | 胎土に繊維混入 |
| 304 | 前期 土器 | V | 8 F | <12.3> | - | - | 横位の絡条体羽状縄文 (LR、RL) 結束 | にぶい黄 橙～ 黒褐色 | 胎土に繊維混入 |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|-----------|----------------------|------------|---------|----|------------------------------|--------------|---------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 305 | 前期 土器 | VI | S I 01 南西 部分相当 | <11.4> | - | - | 横位の絡条体 | 黄橙色 | 胎土繊維混入 底辺部片 |
| 306 | 前期 土器 | V | 10 F | <11.65> | (12.4) | - | 羽状縄文 (L R、R L) 非結束 | 灰黄～ 黒褐色 | 胎土に繊維混入 上半部原体重複 |
| 307 | 前期 土器 | IV 下部 | 7L | <14.3> | (14.0) | - | 刺突 (口縁部) 横位の絡条体 | 黒褐色 | 胎土に繊維混入 口縁部に突起あり |
| 308 | 前期 土器 | VI | 9H | <26.15> | (23.65) | - | 羽状縄文 (L R、R L) | 褐灰～ 橙色 | 胎土繊維混入 |
| 309 | 前期 土器 | V | 8 F | <7.1> | - | - | 横位の絡条体 | 黒褐色 | 胎土に繊維混入 |
| 310 | 前期 土器 | IV | 10B | <7.8> | - | - | 口縁部に刻み 横位の絡条体 | にぶい黄 橙色 | 胎土の繊維不明瞭 体部付加縄文か |
| 311 | 前期 土器 | IV | 10B | <7.0> | - | - | 横位の絡条体羽状縄文 (L R、R L) 非結束 | にぶい黄 橙色 | 胎土に繊維混入 |
| 312 | 前期 土器 | III 下部 | 7L | <7.2> | - | - | 縦位の沈線 | 褐灰色 | 胎土に繊維混入 |
| 313 | 前期 土器 | VI | 9K | <37.9> | - | - | 横位の絡条体 | 浅黄橙色 | 胎土繊維混入 口縁部僅かに外反 |
| 314-1 | 前期 土器 | V | 8G.8F.10F. トレンチ 4 | <22.7> | - | - | 羽状縄文 (L R、R L) 非結束 | 灰黄褐～ 明黄褐色 | 胎土に繊維混入 体部が膨らむ器形 |
| 314-2 | 前期 土器 | V | 8F.10F. トレンチ 4 | <24.5> | - | - | 羽状縄文 (L R、R L) 非結束 | 灰黄褐～ 明黄褐色 | 胎土に繊維混入 体部が膨らむ器形 |
| 315-1 | 前期 土器 | VI | S I 01 | <8.9> | - | - | 刻みのある隆帯 (口縁 部) 連鎖状沈文 | 黄褐色 | 胎土の繊維混入不明瞭 |
| 315-2 | 前期 土器 | VI | SI01 | <16.2> | - | - | 刻みのある隆帯 (口縁 部) 連鎖状沈文 | 黄褐色 | 胎土の繊維混入不明瞭 |
| 316 | 前期 土器 | VI | 9K | <5.9> | - | - | 連鎖状沈文 | 黄褐色 | 胎土に繊維混入 |
| 317 | 前期 土器 | VI | 9K | <3.7> | - | - | 刺突 刺突のある隆帯 連鎖状沈文 | 黒褐色 | 胎土に繊維混入なし |
| 318 | 前期 土器 | VI | トレンチ 1 | <6.3> | - | - | 刺突 (口唇部) 刺突のある隆帯 連鎖状沈文 | にぶい褐 色 | 胎土に繊維の混入なし |
| 319 | 前期 土器 | VI | 10 G | <6.9> | - | - | 刻みのある隆帯 (口縁 部) 連鎖状沈文 | 明褐色 | 胎土の繊維混入不明瞭 |
| 320 | 前期 土器 | V | 8 F | <10.0> | - | - | 沈線 刺突 連鎖状沈文 | 灰黄褐色 | 口縁部波状 胎土の繊維混入不明瞭 |
| 321 | 前期 土器 | VI | 10 G | <6.4> | - | - | 刻みのある隆帯 (口縁 部) 単節縄文 (R L) | 褐色 | 胎土に繊維の混入なし |
| 322 | 前期 土器 | V | 6N | <6.4> | - | - | 口縁部無文帯 単節縄文 (L R) | 灰黄褐色 | 胎土に繊維の混入なし |
| 323 | 前期 土器 | V | トレンチ 2 | <5.6> | - | - | 地文のみ | 灰黄褐色 | 胎土の繊維混入不明瞭口縁部わずかに外反 |
| 324 | 前期 土器 | V | 9H | <16.0> | - | - | 刺突列 (2列) 連鎖状沈文 | 黒褐～ 明黄褐色 | 胎土に繊維の混入なし |
| 325 | 前期 土器 | V | 9 G | <5.7> | - | - | 刺突列 (2列) 連鎖状沈文 | 褐色 | 胎土の繊維の混入不明瞭 |

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|-----------|---------------|------------|--------|--------|------------------------------------|--------------|-----------------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 326 | 前期 土器 | V | トレンチ 2 | <5.8> | - | - | 刻みのある隆帯 (口縁部) 単節縄文 (R L) 結節あり | 黒褐色 | 胎土に繊維の混入 |
| 327 | 前期 土器 | IV | 6N | <19.6> | - | - | 横走る絡条体 | 橙～ 黒褐色 | 胎土に繊維の混入 体部の膨らむ器形 |
| 328 | 前期 土器 | IV 上部 | 9B | <6.1> | - | - | 沈線 単節縄文 (L R) ? | にぶい黄 褐色 | 胎土の繊維の混入不明瞭 |
| 329 | 前期 土器 | IV 下部 | 8K | <4.8> | - | - | 刻みのある隆帯 (口縁部) 付加縄文 | 黒褐色 | 胎土の繊維の混入不明瞭 |
| 330 | 前期 土器 | V | 8 G トレンチ 4 | <1.35> | - | - | 地文 (底面) 連鎖状沈文 | 黒褐色 | 底部片 底面に連鎖状沈文 胎土の繊維の混入不明瞭 |
| 331 | 前期 土器 | IV | 5P | <7.3> | - | - | 沈線 結束のある単節 縄文? (R L) | 褐色 | 胎土に繊維の混入なし |
| 332 | 前期 土器 | V | 9 G | <10.1> | - | - | 網目状燃糸文 (R) | 黄橙色 | 胎土の繊維の混入不明瞭 |
| 333 | 前期 土器 | V | 5Q | <13.7> | - | (10.6) | 連鎖状沈文 | 明黄褐褐 色 | 胎土繊維混入 底面、底辺部ミガキ状の調整 |
| 334 | 前期 土器 | IV～ V | 8K | <29.75> | (27.9) | - | 横走る沈線 単節縄 文 (R L) 結節あり | にぶい褐 ～黒褐色 | 胎土の繊維の混入不明瞭 |
| 335 | 前期 土器 | IV 下部 | 7J | <19.5> | - | - | 刻みのある隆帯 (口縁部) | 褐色 | 胎土に繊維の混入なし |
| 336 | 前期 土器 | V | 8 F | <17.0> | - | - | 刺突のある隆帯 網目状燃糸文 (R) | 橙色 | 胎土の繊維の混入不明瞭 |
| 337-1 | 前期 土器 | IV 上部 | 9B | <11.0> | - | - | 刻み (口縁端部) 突起 絡条体 | にぶい黄 褐色 | 胎土に繊維の混入なし |
| 337-2 | 前期 土器 | IV 上部 | 9B.3M | <11.0> | - | - | 刻み (口縁端部) 突起 絡条体 | にぶい黄 褐色 | 胎土に繊維の混入なし |
| 338 | 前期 土器 | III 下部 | 7K | <10.4> | - | - | 刻み (口縁端部) 突起 単節縄文 (L R) 結節あり | 褐灰色 | 胎土に繊維の混入なし |
| 339 | 前期 土器 | IV | 9K | <10.5> | - | - | 刻み (口縁端部) 有刻隆帯 | にぶい黄 橙色 | 胎土に繊維の混入なし |
| 340 | 前期 土器 | IV | 9 G | <6.55> | - | - | 刻み (口縁端部) 絡条体 | 灰黄褐色 | 胎土に繊維の混入なし |
| 341 | 前期 土器 | IV | 9 D | <12.4> | - | - | 刻み (口縁端部) 単節縄文 (L R) | にぶい橙 色 | 胎土に繊維の混入なし |
| 342 | 前期 土器 | IV | 6P | <13.0> | - | - | 竹管状の刺突沈線 単節縄文 (L R) | 灰黄褐色 | 口縁部外反、口縁部無文帯 |
| 343-1 | 前期 土器 | IV | 10C | <12.2> | - | - | 竹管状の刺突沈線 単節縄文 (L R) | 灰黄褐～ 黒褐色 | 口縁部外反、口縁部波状 |
| 343-2 | 前期 土器 | IV | 10C | <5.8> | - | - | 竹管状の刺突沈線 単節縄文 (L R) | 灰黄褐～ 黒褐色 | 口縁部外反、口縁部波状 |
| 344-1 | 前期 土器 | IV 下部 | 6N.7N | <6.4> | - | - | 口縁部無文帯 沈線 (鋸歯状) | 黒褐色 | 口縁部外反 |
| 344-2 | 前期 土器 | IV 下部 | 6N | <7.25> | - | - | 鋸歯状沈線 単節縄文 (L R) | 黒褐色 | 口縁部外反 |
| 344-3 | 前期 土器 | IV 下部 | 6N | <5.1> | - | - | 鋸歯状沈線 単節縄文 (R L) | 黒褐色 | 口縁部外反 |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|-----------|---------|------------|--------|----|-------------------------------------|-------------|------------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 345 | 前期 土器 | IV | 9H | <9.5> | - | - | 鋸歯状沈線 単節縄文 (R L) | 黒褐色 | 口縁部外反 |
| 346 | 前期 土器 | IV | 導水管下 | <7.0> | - | - | 刻みのある隆帯 口縁部無文帯 単節縄文 (R L) | にぶい黄 褐色 | 口縁部外反 |
| 347 | 前期 土器 | IV | 5 F | <13.3> | (16.7) | - | 沈線 (横走、入組) 単節縄文 (R L) | 黄褐～ 黒褐色 | 体部が膨らむ器形 |
| 348 | 前期 土器 | IV | 7L | <24.8> | - | - | 刻みのある隆帯 口縁部無文帯 付加縄文? | にぶい黄 褐色 | 口縁部外反 |
| 349-1 | 前期 土器 | IV | 6N | <6.75> | - | - | 沈線 (鋸歯状) | 褐～ 黒褐色 | 口縁部外反 |
| 349-2 | 前期 土器 | IV | 6N | <10.0> | - | - | 沈線 (鋸歯状) | 褐～ 黒褐色 | 口縁部外反 |
| 350-1 | 前期 土器 | IV | 5Q | <6.6> | - | - | 沈線 (波状) 単節縄文 (L R) | 暗褐色 | 口縁部上部無文 |
| 350-2 | 前期 土器 | IV | 6O | <5.6> | - | - | 沈線 (波状) 単節縄文 (L R) | 暗褐色 | 口縁部上部無文 |
| 351 | 前期 土器 | IV | 5 F | <6.8> | - | - | 隆帯 (刻みが施される 部分もある) 単節縄文 (R L) | にぶい橙 色 | 隆帯は細い |
| 352 | 前期 土器 | IV | 7N.9H | <7.5> | - | - | 沈線 単節縄文 (R L) ? | 灰横褐～ 黒色 | 口縁部上部無文 |
| 353 | 前期 土器 | IV 下部 | 13 G | <4.9> | - | - | 沈線 (鋸歯状) 刻みの ある隆帯 単節縄文 (R L) | 褐灰色 | 口縁部は緩やかな波状か |
| 354 | 前期 土器 | III 下部 | 7L | <7.7> | - | - | 刻みのある隆帯 | 褐灰色 | 口縁部外反 |
| 355-1 | 前期 土器 | IV | 8K | <8.9> | - | - | 沈線 半裁竹管文 | 明横褐～ 褐灰色 | 連続する半裁竹管で文様を構成 |
| 355-2 | 前期 土器 | IV | 8K | <5.9> | - | - | 沈線 半裁竹管文 | 明横褐～ 褐灰色 | 連続する半裁竹管で文様を構成 |
| 356 | 前期 土器 | IV | 8J | <6.9> | - | - | 沈線 刻みのある隆帯 | 黒褐色 | 口縁部の沈線は半裁竹管使用か |
| 357 | 前期 土器 | IV 上部 | 9B | <7.5> | - | - | 沈線 | 褐灰色 | 沈線の下に縄文が原体か施されているか否か不明 |
| 358 | 前期 土器 | IV～ V | 7P | <5.8> | - | - | 沈線 | にぶい黄 褐色 | 口縁部無文 |
| 359 | 前期 土器 | III 下部 | 7L | <5.9> | - | - | 刻みのある隆帯 付加縄文? | にぶい横 褐色 | 口縁部外反 |
| 360 | 前期 土器 | IV | 7L | <5.3> | - | - | 沈線 刻みのある隆帯 | 黒褐色 | 口縁部の沈線は半裁竹管使用か |
| 361 | 前期 土器 | IV 下部 | 8K | <5.6> | - | - | 刻みのある隆帯 | 暗褐色 | 口縁部外反か |
| 362 | 前期 土器 | IV | 8 I | <5.5> | - | - | 刻みのある隆帯 付加縄文? | 黒褐色 | 口縁部上部無文 |
| 363 | 前期 土器 | V | 6N | <5.3> | - | - | 沈線 (縦位) | 褐色 | 口縁部外反 口縁部上部無文 |
| 364 | 前期 土器 | IV | 9H.10 D | <8.7> | - | - | 沈線 刻みのある隆帯 | 灰黄褐～ 黒褐色 | 口縁部無文 |

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|----------|------|------------|--------|-------|-----------------------|------------|----------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 365 | 前期 土器 | IV | 5P | <8.9> | - | - | 刻みのある隆帯 付加縄文? | 灰横褐色 | 口縁部上端まで原体施文 |
| 366 | 前期 土器 | III | 6M | <5.7> | - | - | 沈線 刺突 (馬蹄形) | 褐色 | 口縁部外反 |
| 367 | 前期 土器 | III | 7J | <6.8> | - | - | 沈線 竹管状刺突 刻みのある隆帯 | 褐灰色 | 口縁部外反 |
| 368 | 前期 土器 | III | 5K | <9.3> | - | - | 横位の絡条体単節縄文 (RL) | 明褐色 | 口縁部外反 |
| 369 | 前期 土器 | IV | 10C | <13.4> | - | - | 沈線 円錐状の刺突 | 黒褐色 | 頸部に鋸歯状の沈線 |
| 370 | 前期 土器 | III | 6N | <7.3> | - | - | 沈線 竹管状刺突 単節縄文 (LR) | 黄褐色 | 体部上半片 |
| 371 | 前期 土器 | IV | 6N | <6.0> | - | - | 沈線 竹管状刺突 単節縄文 (LR) | 褐灰色 | 体部上半片 |
| 372 | 前期 土器 | IV 上部 | 9B | <10.3> | - | - | 刻みのある隆帯 刺突 | 黒褐色 | 隆帯に沿って刺突が施される |
| 373 | 前期 土器 | IV | 6N | <7.0> | - | - | 沈線 竹管状刺突 | 明褐色 | 体部上半片 |
| 374 | 前期 土器 | III | 5K | <22.1> | - | - | 横位の絡条体単節縄文 (RL) | 褐灰色 | 口縁部外反 |
| 375 | 前期 土器 | III | 6M | <11.15> | - | - | 沈線 竹管状刺突 | 黒色 | 体部上半片 |
| 376 | 前期 土器 | V | 7M | <7.6> | - | - | 沈線 | 黒褐～ 灰褐色 | 沈線は半裁竹管で施される |
| 377 | 前期 土器 | IV | 6N | <7.3> | - | - | 沈線 竹管状刺突 | 黒褐色 | 口縁部片 |
| 378 | 前期 土器 | IV | 水路東側 | <11.5> | - | (7.4) | 隆帯 (口縁部内面) 網目状燃糸文? | 橙～ 黒褐色 | 外面体部下半地文なし |
| 379 | 前期 土器 | IV | 10B | <10.1> | - | - | 無文 | 浅黄橙色 | 口縁部外反 無文の土器 |
| 380 | 前期 土器 | IV | 10 D | <9.3> | - | - | 隆帯 (口唇部) | 褐灰色 | 口縁部無文 |
| 381-1 | 前期 土器 | III | 5K | <12.7> | - | - | 隆帯 | にぶい黄 橙色 | 口唇部に波状の隆帯が施される |
| 381-2 | 前期 土器 | III | 5K | <7.9> | - | - | 隆帯 | にぶい黄 橙色 | 口唇部に波状の隆帯が施される |
| 382 | 前期 土器 | IV | 6N | <5.5> | - | - | 隆帯 | 褐～ 灰黄褐色 | 口唇部に波状の隆帯が施される |
| 383-1 | 前期 土器 | IV | 10 D | <21.7> | (19.8) | - | 隆帯 刺突 (口縁部内面) | にぶい橙 色 | 口縁部内面に2条の連続刺突 |
| 383-2 | 前期 土器 | IV | 10 D | <3.8> | - | (8.6) | 隆帯 刺突 (口縁部内面) | にぶい橙 色 | 口縁部内面に2条の連続刺突 |
| 384 | 前期 土器 | III | 7K | <7.5> | - | - | 隆帯 突起 | 黒褐色 | 突起部に隆帯貼り付け |
| 385 | 前期 土器 | IV | 6N | <5.4> | - | - | 隆帯 | にぶい褐 色 | 口縁部外面に隆帯貼り付け |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|-----------|---------|------------|--------|--------|--------------------------------|-------------------|-----------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 386 | 前期 土器 | IV | 9H | <4.35> | - | - | 隆帯 (口縁部内面) | 黒褐色 | 口縁部無文 |
| 387 | 前期 土器 | IV | 9J | <4.9> | - | - | 隆帯 (口唇部) 沈線 | 橙色 | 口縁部無文 |
| 388 | 前期 土器 | IV | 7K.9 G | <3.9> | - | - | 隆帯 (口唇部~口縁部内面) | 褐灰色 | 口縁部外反 |
| 389 | 前期 土器 | IV | 9H | <20.0> | - | - | 隆帯 (鋸歯状) 撚糸文 (R) | 明赤褐~ 黒褐色 | 口縁部外反 |
| 390 | 前期 土器 | IV | 8 I | <18.9> | - | - | 刺突のある隆帯 突起 網目状撚糸文 (R) | 黄橙~ にぶい黄 褐色 | 突起の単位不明 |
| 391 | 前期 土器 | IV | 9 I | <29.9> | (24.0) | - | 刻み (口唇部) 絡条体 (R) | にぶい黄 褐色 | 口縁部やや外反 |
| 392 | 前期 土器 | III | 田面 1 | <21.8> | - | - | 隆帯 (鋸歯状) 撚糸文 (L) | 褐灰色 | 口縁部外反 |
| 393 | 前期 土器 | IV | 9 I | <18.9> | (19.8) | (10.0) | 撚糸文 (L) | 橙色 | 底面編物? 痕 |
| 394 | 前期 土器 | III | 10F | <5.5> | - | - | 透孔? 無文 | 橙色 | 器台? 突起? |
| 395 | 前期 土器 | IV | 9 D | <6.7> | - | (10.8) | 大葉子文 | 明褐色 | |
| 396 | 前期 土器 | IV | 9H | 22.3 | 20.0 | 10.6 | 沈線 刺突 (突起上面) 単節縄文 (RL) | 橙~褐色 | 突起 1ヶ所 |
| 397 | 前期 土器 | IV | 8 I | <15.6> | - | (7.4) | 撚糸文 (L) | にぶい黄 橙色 | 口縁部やや外反 |
| 398 | 前期 土器 | IV | 8H | <7.3> | - | (11.1) | 撚糸文 (L) | 橙色 | 底面編物圧痕 |
| 399 | 前期 土器 | IV | 8 I | <2.2> | - | (12.6) | 不明 | にぶい橙 色 | 底面編物圧痕 |
| 400 | 前期 土器 | III | 9H | 28.1 | (24.8) | (12.4) | 沈線 刻み (口唇部) 撚糸文 (R) | 橙~ 黒褐色 | 底面編物圧痕 |
| 401 | 前期 土器 | III | 10B.10C | <14.0> | (22.0) | (9.6) | 無節縄文 (L) | 橙色 | 底辺部、底部が丁寧なミガキ |
| 402 | 前期 土器 | III | 10B | <6.9> | - | 8.5 | 単節縄文 (LR) | 橙色 | 底面編物圧痕 |
| 403 | 前期 土器 | III・ V | 7M | <4.7> | - | - | 樹脂?による文様 | 橙色 | 漆?による曲線文様あり |
| 404 | 前期 土器 | IV | 9 G | <9.0> | - | 6.2 | 無節縄文 (R) | 橙色 | 内面炭化物付着 |
| 405 | 前期 土器 | VI | 8 I | 3.75 | (5.0) | (4.7) | 無文 | にぶい黄 橙色 | |
| 406 | 前期 土器 | IV | 9 I | <40.5> | - | 14.6 | 沈線のある隆帯 刺突 (口唇部) 撚糸文 (R) | 橙~にぶ い黄橙色 | 環状突起 |
| 407 | 前期 土器 | IV | 8 I | <18.3> | (15.2) | - | 刻み (突起口唇部) 単節縄文 (RL) | 橙色 | 背の高い突起と低い突起がそれぞれ 2 単位 |
| 408-1 | 前期 土器 | IV | 6P | <16.3> | - | - | 刺突、刻み (口縁部上 端)、突起 | 橙色 | 体部の原体の施文の有無不明 |

| 掲載 № | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|---------|----------|----------|--------------|------------|--------|--------|----------------------------|-------------|-------------------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 408-2 | 前期 土器 | IV | 6P | <3.8> | - | - | 刺突、 刻み(口縁部上端)、 突起 | 橙色 | 体部の原体の施文の有無不明 |
| 409 | 前期 土器 | SI02 | 埋土 | <7.7> | - | - | 木目状撚糸文 (L) | 橙色 | 体部下半片 |
| 410 | 前期 土器 | SI03 | 埋土 (9I) | <6.8> | - | - | 横位の絡条体 | にぶい黄 褐色 | 突起部の破片 胎土に繊維混入 |
| 411 | 前期 土器 | SI03 | 埋土 (9I) | <18.7> | - | - | 単節縄文 (LR) | 黄褐～ 黒褐色 | 胎土に繊維混入 |
| 412 | 前期 土器 | SI03 | 埋土 (9I) | <6.8> | - | - | 横位の絡条体 | 黒褐色 | 突起あり 胎土繊維混入なし |
| 413 | 前期 土器 | SI03 | 埋土 (9H) | <7.3> | - | - | 隆帯 刺突(突起口唇) | 褐灰色 | 口縁部内面の隆帯は剥がれている |
| 414 | 前期 土器 | SI03 | 埋土 (9I) | <3.4> | - | - | 刻みのある隆帯 | 黒褐色 | 口縁部無文 |
| 415 | 前期 土器 | SI03 | 住居内土坑 1埋土 | <3.5> | - | - | 竹管状の刺突 単節縄文 (LR) | 明黄褐色 | |
| 416 | 前期 土器 | SI03 | 埋土 (9I) | <4.1> | - | (12.2) | 単節縄文 (RL) | 明褐色 | 底面編物圧痕 |
| 417 | 前期 土器 | SK 01 | 埋土 | <8.9> | - | - | 隆帯 単節縄文 (RL) | にぶい褐 色 | 体部膨らむ器形 |
| 418 | 前期 土器 | SK 03 | 埋土 | <7.3> | - | - | 隆帯 突起 | 黒褐色 | 口縁部無文 |
| 419 | 前期 土器 | SK 01 | 埋土 | <17.3> | - | - | 撚糸文 (R) | 灰褐色 | 口縁部僅かに外反 |
| 420 | 前期 土器 | SK 02 | 埋土 | <7.5> | - | (14.5) | 撚糸文 (L) | 橙色 | 底面編物圧痕 |
| 421 | 前期 土器 | SK 06 | 埋土 | <3.6> | - | - | 撚糸文 (L) | 暗褐色 | 体部片 |
| 422 | 前期 土器 | SK 03 | 埋土 | <11.7> | - | - | 隆帯 | 灰褐色 | 口縁部無文か |
| 423 | 晩期 土器 | SK 08 | 埋土 | <6.9> | - | - | 単節縄文 (LR) | 明黄褐色 | 大型の深鉢 |
| 424 | 前期 土器 | SK 05 | 埋土 | <12.9> | - | - | 沈線(鋸歯状) 撚糸文 (R) | 暗褐色 | 口縁部横位、体部縦位の鋸歯状沈線が施される |
| 425 | 前期 土器 | SK 03 | 埋土 | <9.0> | (13.0) | - | 地文のみ | 橙色 | 口縁部僅かに外反 |
| 426 | 前期 土器 | SK 07 | 埋土 | <8.6> | - | - | 地文のみ 単節縄文 (RL) | にぶい褐 色 | 体部に炭化物付着 |
| 427 | 前期 土器 | SK 05 | 埋土 | <14.8> | - | (15.0) | 撚糸文 (R) | 明黄褐色 | 体部外反する器形 |
| 428 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8J) | 27.7 | (29.0) | (14.6) | 鋸歯状隆帯 鋸歯状突起 撚糸文 (L) | 褐灰～ 明黄褐色 | 底辺部ケズリ |
| 429 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8J) | <33.5> | 30.2 | - | 鋸歯状隆帯 隆替貼付 環状突起 撚糸文 (L) | 褐灰～ 明黄褐色 | 底辺部ケズリ |
| 430 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | 26.2 | 23.7 | 11.2 | 環状突起 鋸歯状突起 沈線 刺突 | 橙色 | 体部上半全面に縦位の鋸歯状沈線 内面炭化物顕著に付着 |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|------|---------------------------------|------------|--------|--------|--|--------------------|--|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 431 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (ベルト 1南) | 19.2 | (15.0) | (9.8) | 円形突起 鋸歯状突起 刺突 燃糸文 (L) | 橙色 | 円形突起に刺突 内面炭化物付着 口唇部の一部にも燃糸文が施される |
| 432 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (ベルト 2西) | 16.0 | (12.6) | 7.8 | 小突起 (4単位) 単節縄文 (LR) | 橙色 | 突起小さい三角形 縄文は口縁部が斜位、体部中央～下半部横位 |
| 433 | 前期 土器 | SI01 | 住居内土坑 1埋土 | <26.9> | 21.0 | 11.3 | 円形突起 鋸歯状突起 隆帯 羽状縄文 (RL・ LR) 縦位 | 橙～ 暗赤褐色 | 円形突起下に太い垂下する隆帯 隆帯上に連続する指頭状圧痕 底面編物圧痕 |
| 434-1 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) 9J IV層 | <35.8> | (35.8) | - | 鋸歯状突起 隆帯 沈 線 (鋸歯状) 燃糸文 (L) 斜位、横位 | 明黄褐～ 褐灰色 | 口縁部に横走する低くて、太い隆帯あり 隆帯上に横走する沈線 突起は4単位か |
| 434-2 | 前期 土器 | SI01 | 9J | <10.0> | - | - | 鋸歯状突起 隆帯 沈 線 (鋸歯状) 燃糸文 (L) 斜位、横位 | 明黄褐～ 褐灰色 | 口縁部に横走する低くて、太い隆帯あり 隆帯上に横走する沈線 突起は4単位か |
| 435 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <30.0> | (36.5) | - | 鋸歯状突起 波状の隆帯 沈線 刻み 単節縄文 (RL) | 黄橙明～ にぶい黄 褐色 | 突起4単位 口唇部に連続する刻み 突起上に鋸歯状の沈線 |
| 436 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I, ベ ルト2西) | <26.9> | (17.6) | - | 燃糸文 (L) | 黄橙～ にぶい黄 褐色 | 口縁部波状か平縁か残存部が少なく不明 |
| 437 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (ベルト 2中央) | 24.9 | 16.9 | 8.8 | 刻み (口唇部) 燃糸文 (R) | 橙～ 灰黄褐色 | 口唇部に連続する刻み |
| 438 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | 30.8 | 24.0 | 12.4 | 円形突起 二股の突起 隆帯 刺突 単節縄文 (R L) 結節 (RL) 縦位 | 橙～褐色 | 口唇部に刺突 円形突起に刺突 |
| 439 | 前期 土器 | SI01 | 下層 (ベルト 1南) | 25.9 | (20.0) | 11.2 | 沈線 刺突 条間を連ねる燃糸文 (L) | 黄橙～ 黒褐色 | 口縁部に刺突 口縁部上部に横走沈線と鋸歯状沈線 |
| 440 | 前期 土器 | SI01 | 下層 (ベルト 3北) | 28.1 | (24.9) | (10.8) | 円形突起 (4単位) 絡条体? | 明赤褐色 | 突起の高さは同じ 補修孔あり |
| 441 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I, ベ ルト3北) | <24.9> | (20.2) | (12.3) | 沈線 (鋸歯状) 燃糸文 (R) | 明赤褐～ 暗赤褐色 | 口縁部欠損 底面編物痕 |
| 442 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8J) | <25.4> | (24.0) | - | 沈線 (鋸歯状) 刻み 燃糸文 (L) | 橙～ 褐灰色 | 口唇部～口縁部内面に刻み体部上半部に横位、縦 位の鋸歯状沈線 |
| 443 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (ベルト 1南) 8I IV層 | <14.5> | - | 10.7 | 鋸歯状突起 隆帯貼付 沈線 (隆帯上) 燃糸文 (R) | 明黄褐色 | 口縁部と体部接合せず 内面炭化物付着 |
| 444 | 前期 土器 | SI01 | 埋土 (5区) 8L IV層 8J III～IV層 | <17.9> | - | - | 隆帯貼付 刺突 (隆帯上) 単節 (RL) | 明赤褐～ 黒褐色 | 隆帯に刺突施されない部分もある |
| 445 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | 36.5 | (23.5) | 13.6 | 弧状の突起 刻み 燃糸文 (R) | 明赤褐～ 黒褐色 | 口唇部に刻み 顕著に斜めに立つ 突起の単位2か4か不明 |
| 446 | 前期 土器 | SI01 | 住居内土坑 1埋土 | 20.05 | (14.4) | (9.8) | 刺突 (口唇部) 網目状燃糸文 (L) | 浅黄橙色 | 外面大部分剥落 内面炭化物付着 |
| 447 | 前期 土器 | SI01 | 下層 (ベルト 2西) | <16.9> | (25.8) | - | 隆帯 (横走する鋸歯状) 単節縄文 (RL) | 橙～ 明黄褐色 | 鋸歯状の隆帯よりも上の口縁部には施文なし |
| 448 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I, ベルト2西) | <19.65> | 18.0 | - | 鋸歯状突起 刺突 (突起上) 燃糸文 (L) | 橙色 | 補修孔あり 突起は2単位か |
| 449 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8L, ベ ルト2東) | <29.6> | (20.6) | - | 指頭状の圧痕 (口唇部) 木目状燃糸文 (L) | 明赤褐～ 黒褐色 | 口唇部に部分的に連続する指頭状の圧痕 |
| 450 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8J) | 34.2 | 25.4 | (13.3) | 鋸歯状突起 刺突 (突起上) 燃糸文 (R) | 明黄褐～ 褐灰色 | 突起4単位 口唇部に燃糸文底面木葉痕 |
| 451 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (ベルト2西) 下層 (ベルト2西) | 28.15 | (19.3) | 11.8 | 鋸歯状突起 隆帯貼付 刺突 (隆帯上) 燃糸文 (L) | 明赤褐色 ～ 暗赤褐色 | 口唇部に刺突 内面炭化物付着 |
| 452 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <33.2> | 23.2 | 12.8 | 環状突起 鋸歯状突起 鋸歯状沈線 刺突 単節縄文 (RL) | 橙～黒色 | 口唇部と突起に刺突 鋸歯状沈線突起下に縦位 内面炭化物顕著に付着 |

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|------|-------------------|------------|--------|--------|---------------------------------------|-------------------|---------------------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 453 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <29.4> | 25.0 | (14.0) | 環状突起 鋸歯状突起 沈線 撚糸文 (L) | 橙～ 黒褐色 | 底部編物圧痕 下半部地文施されず 内面炭化物付着 |
| 454 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <24.2> | (16.6) | - | 刻み (口唇部) 撚糸文 (L) | 橙～ 明赤褐色 | 口唇部に部分的に連続する刻みか、欠損部が多く 不明瞭 |
| 455 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (9I) | 28.4 | (27.4) | (14.6) | 環状突起 鋸歯状突起 沈線 撚糸文 (L) | 明赤褐～ 黒褐色 | 環状突起片接合せず 鋸歯状沈線体部上半に縦位に |
| 456-1 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (6区) | <27.65> | - | - | 隆帯 刺突 沈線 (鋸歯状、蕨状) 撚糸文 (L) | 浅黄橙～ 褐灰色 | 口唇部、隆帯上に連続刺突底面編物圧痕あり |
| 456-2 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (6区) | <17.75> | - | - | 隆帯 刺突 沈線 (鋸歯状、蕨状) 撚糸文 (L) | 浅黄橙～ 褐灰色 | 口唇部、隆帯上に連続刺突底面編物圧痕あり |
| 456-3 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (6区) | <23.3> | - | - | 隆帯 刺突 沈線 (鋸歯状、蕨状) 撚糸文 (L) | 浅黄橙～ 褐灰色 | 口唇部、隆帯上に連続刺突底面編物圧痕あり |
| 456-4 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (6区) | <15.7> | - | (20.0) | 隆帯 刺突 沈線 (鋸歯状、蕨状) 撚糸文 (L) | 浅黄橙～ 褐灰色 | 口唇部、隆帯上に連続刺突底面編物圧痕あり |
| 457 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <15.5> | (13.3) | - | 撚糸文 (L) | 橙色 | 口縁部内傾き |
| 458 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <11.7> | - | 9.8 | 単節縄文 (RL) | 明黄褐色 | 底面編物圧痕 |
| 459 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (ベルト 2東) | <2.35> | - | 13.8 | 撚糸文 (L) | 橙色 | 底部片 底面編物圧痕 |
| 460 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I、8J) | <41.2> | (39.0) | - | 隆帯 (横走、馬蹄状、 弧状) 刺突 刻み 単節縄文 (RL) | 明黄褐～ 褐灰色 | 口唇部に刻み 隆帯上に刺突 |
| 461 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I、3区) | 25.8 | 19.5 | 9.4 | 刺突 (口唇部) 単節縄文 (RL) | 黄橙色 | 低い突起、おそらく2単位 |
| 462 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (ベルト 1北) | <32.7> | - | - | 刺突 (口唇部) 撚糸文 (L) | 明黄褐～ 褐灰色 | 口唇部に連続する刺突 |
| 463 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I、4区) | <32.8> | (24.8) | - | 隆帯 刺突 (隆帯上、口唇) 撚糸文 (L) | 明黄褐色 | 隆帯は口縁部上部を横走と弧状の配置 |
| 464 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I、8J) | <31.2> | 19.0 | - | 刺突 (口唇部) 網目状撚糸文 (L) | 橙～ 灰黄褐色 | 口唇部に連続する刺突 |
| 465 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <28.8> | (25.0) | - | 木目状撚糸文 (R) | 褐灰色 | 口縁部外反 |
| 466 | 前期 土器 | SI01 | 住居内土坑 2埋土 | <20.5> | 20.8 | - | 撚糸文 (L) | にぶい黄 褐～ 黒褐色 | 撚糸文が重複し格子目状になっている部分あり、 口縁部外反 |
| 467 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (3区、 ベルト1南) | 29.1 | 20.9 | (12.0) | 刺突 (口唇部) 木目状撚糸文 (RとL 組合わせ) | 橙～ 暗赤褐色 | 突起は一对 (2箇所) 口唇部に刻み |
| 468 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | 34.4 | 21.8 | 13.6 | 波状の口縁部地文のみ 木目状撚糸文 (L) | 橙～ 黒褐色 | 底面編物圧痕 口縁部頂部2つの波状口縁か 内面炭化物付着 |
| 469-1 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I.9I.9H) | <36.8> | (23.0) | 12.4 | 単節縄文 (RL) | 橙～ 黒褐色 | 口縁部僅かに外反 接合しないが同一個体の底部あり |
| 469-2 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (9H) | - | - | - | 単節縄文 (RL) | 橙～ 黒褐色 | 口縁部僅かに外反 接合しないが同一個体の底部あり |
| 470 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8J) | 40.4 | (20.0) | (13.4) | 木目状撚糸文 (L) | 橙～ 黒褐色 | 口縁部僅かに外反 内面下部炭化物付着 |
| 471 | 前期 土器 | SI01 | 住居内土坑 2埋土 | 25.6 | 17.5 | 9.2 | 撚糸文 (R) | 橙～ 黒褐色 | 撚糸文交差、重複する箇所が多い 口縁部僅かに外反 |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|------|--------------------|------------|--------|--------|-----------------------------------|-------------------|----------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 472 | 前期 土器 | SI01 | 住居内土坑 1埋土 | <23.4> | (24.6) | - | 撚糸文 (L) | 明黄褐～ 黒褐色 | 撚糸文が重複している部分多い。口縁部外反 |
| 473 | 前期 土器 | SI01 | 下層 (ベルト 3北) | 27.6 | (20.8) | (11.6) | 撚糸文 (R) | 橙～褐色 | 撚糸文交差、重複する箇所が多い |
| 474 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8J、 4区) | <22.5> | (18.2) | - | 撚糸文 (R) | 黄橙色 | 口縁部外反 |
| 475 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (ベルト 1北) | <19.3> | (13.9) | - | 刻み (口唇部) 単節縄文 (RL) | にぶい赤 褐色 | 口唇部に連続する刻み |
| 476 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (3区) | 45.8 | 28.6 | 15.0 | 撚糸文 (L) | 橙～ 黒褐色 | 口縁部僅かに外反 内面炭化物付着 |
| 477-1 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) 下層 (3区) | <12.4> | - | - | 鋸歯状隆帯 単節 (LR) | にぶい赤 褐～ 黒褐色 | 口縁平縁か |
| 477-2 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) 下層 (3区) | <9.6> | - | - | 鋸歯状隆帯 単節 (LR) | にぶい赤 褐～ 黒褐色 | 口縁平縁か |
| 477-3 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) 下層 (3区) | <10.45> | - | - | 鋸歯状隆帯 単節 (LR) | にぶい赤 褐～ 黒褐色 | 口縁平縁か |
| 477-4 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) 下層 (3区) | <16.6> | - | - | 鋸歯状隆帯 単節 (LR) | にぶい赤 褐～ 黒褐色 | 口縁平縁か |
| 477-5 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) 下層 (3区) | <7.6> | - | - | 鋸歯状隆帯 単節 (LR) | にぶい赤 褐～ 黒褐色 | 口縁平縁か |
| 477-6 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) 下層 (3区) | <3.4> | - | - | 鋸歯状隆帯 単節 (LR) | にぶい赤 褐～ 黒褐色 | 口縁平縁か |
| 478 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <24.5> | (26.4) | - | 撚糸文 (R) | 灰黄褐色 | 口縁部内傾ぎみ |
| 479 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <19.6> | - | - | 鋸歯状突起 刺突 (突起上) 隆帯 単節縄文 (RL) | 黄橙～ 灰黄褐色 | 口唇部に刺突 内面炭化物付着 |
| 480 | 前期 土器 | SI01 | 住居内土坑 2埋土 | <22.1> | (18.0) | - | 撚糸文 (L) | 橙～ 黒褐色 | 口縁部内傾ぎみ |
| 481 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <24.2> | - | (11.6) | 単節縄文 (RL) | 明黄褐～ 黒褐色 | 口縁部僅かに外反すると思われる |
| 482 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (ベルト 1南) | <22.1> | (21.0) | - | 刻み (口唇部) 撚糸文 (R) | にぶい黄 褐色 | 口唇部に部分的に連続する指頭状の圧痕 |
| 483 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | 19.7 | 11.7 | 7.0 | 単節縄文 (LR) | 明赤褐～ 灰赤色 | 底面編物圧痕 口縁部僅かに外反 |
| 484 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (4区) | <32.2> | - | (13.7) | 撚糸文 (L) | 赤橙～ 黒褐色 | 口縁部欠損 底面編物痕? |
| 485 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | 24.0 | (17.0) | (10.5) | 撚糸文 (L) | 橙～ 褐灰色 | 口縁部内傾ぎみ 底面編物圧痕 |
| 486 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I、 9I) | <22.8> | - | (12.8) | 単節縄文 (RL) | 明黄褐～ 黒褐色 | 底面圧痕なし |
| 487 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (9I) | 25.8 | (15.8) | (9.0) | 撚糸文 (L) | 橙～ 灰褐色 | 撚糸文斜位に施される |
| 488 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8J) | <31.5> | (28.5) | - | 刻み (口唇部) 単節縄文 (RL) | 橙～ にぶい赤 褐色 | 口唇部に連続する刻み |
| 489 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8J) | <35.7> | (20.4) | - | 撚糸文 (L) | 橙～ 褐灰色 | 上半部器面剥離 |

| 掲載 № | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|---------|----------|------|-------------------|------------|--------|-------|--------------------------------------|-------------|---|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 490 | 前期 土器 | SI01 | 下層 (4区) | <35.8> | (25.4) | - | 撚糸文 (L) | 明黄褐～ 黒褐色 | 口縁部内傾ぎみ |
| 491 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (ベルト ト3北) | <13.1> | - | 16.6 | 撚糸文 (L) | にぶい黄 橙色 | 底面編物圧痕 |
| 492 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8J) | <31.4> | - | 12.0 | 撚糸文 (L) | 明黄褐～ 黒褐色 | 口縁部僅かに外反と思われる |
| 493 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I、 ベルト2西) | <28.4> | - | 12.8 | 撚糸文 (L) 撚糸文 (R) | 橙～ 褐灰色 | 底面編物圧痕 下半部の一部に他とは異なる原体 (撚糸R) 使用 口縁部欠損 |
| 494 | 前期 土器 | SI01 | 住居内土坑 1埋土 | 28.7 | (14.6) | 9.75 | 網目状撚糸文 (L) | 黄橙～ 褐灰色 | 底面木葉痕か |
| 495 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8J) | 33.2 | (30.9) | 12.0 | 撚糸文 (L) | 明黄褐～ 黒褐色 | 体部、口縁部が外反する器形 底面木葉痕 |
| 496 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (3区) | <24.0> | (20.0) | - | 単節縄文 (LR) | 橙～ 褐灰色 | 口縁部僅かに外反 |
| 497 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (ベルト ト1北) | <24.35> | (21.0) | - | 単節縄文 (LR) | 橙～ 黒褐色 | 口縁部僅かに外反 |
| 498 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (4区) | <21.9> | - | (9.8) | 撚糸文 (L) | 明黄褐～ 黒褐色 | 口縁部欠損 底面編物痕? |
| 499 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <4.7> | - | 8.2 | 隆帯貼付 突起 (隆帯上) 単節縄文 (RL) | 明黄褐色 | 隆帯底辺近くにまで及ぶ |
| 500 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <36.0> | 23.2 | - | 単節縄文 (RL) | にぶい褐 色 | 口縁部僅かに外反 |
| 501 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (5区) | <23.2> | (28.0) | - | 凸帯 撚糸文 (R) | 赤色 | 口縁部下に凸帯が巡る 凸帯の断面は三角形 |
| 502 | 前期 土器 | SI01 | 下層 (5区) | <10.0> | - | - | 突起 (口縁部上端) 突起 横位の絡条体 (RL) 結束あり | 灰褐色 | 胎土繊維混入なし |
| 503 | 前期 土器 | SI01 | 住居内土坑 1埋土 | <8.55> | - | - | 口縁部無文 | 褐色 | 口縁部が外反し、体部が膨らむ器形 |
| 504 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <4.0> | - | - | 刻み (口唇部) 横位の絡条体 | 橙色 | 胎土繊維混入なし |
| 505 | 前期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <2.8> | - | - | 刻みのある隆帯 | 灰黄褐色 | 隆帯の下地に地文あり |
| 506 | 前期 土器 | SI01 | 埋土 (6区) | <5.0> | - | - | 刻みのある隆帯 付加縄文 | 褐色 | 口縁部無文 |
| 507 | 前期 土器 | SI01 | 中層 (4区) | <4.1> | - | - | 刻みのある隆帯 | 黒褐色 | 原体の残存が僅かで種類不明 |
| 508 | 早期 土器 | SI01 | 上層 (8I) | <5.0> | - | - | 刻みのある隆帯 | 褐灰色 | 胎土の繊維混入の有無不明 |
| 509 | 前期 土器 | SI01 | 中層 (4区) | <3.9> | - | - | 隆帯 | 橙～ 黒褐色 | 口唇部に隆帯貼り付け |
| 510 | 前期 土器 | SI01 | 下層 (5区) | <24.1> | - | - | 横位の絡条体 | 橙色 | 胎土繊維混入 |
| 511 | 晚期 土器 | Ⅲ | 4Q | 5.9 | (9.1) | (2.2) | 沈線 単節縄文 (RL) | 黄橙～ 黒褐色 | 深鉢 |
| 512 | 晚期 土器 | Ⅲ | トレンチ1 | <8.05> | (13.1) | - | 沈線 単節縄文 (LR) 結束あり | 黒褐色 | 深鉢 |

3 出土遺物

| 掲載 No | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|----------|----------|-----------|--------------|------------|--------|-------|------------------------------|--------------|---------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 513 | 晩期 土器 | I~ II | 5Q | 6.2 | - | (6.3) | 沈線 単節縄文 (L R) | 褐灰色 | 深鉢 |
| 514 | 晩期 土器 | II | 4Q | <5.7> | (9.8) | - | 沈線 単節縄文 (L R) | 橙色 | 深鉢 |
| 515 | 晩期 土器 | III | 6P | <6.3> | - | 7.7 | 沈線 単節縄文 (R L) | 橙色 | 台付深鉢 |
| 516 | 晩期 土器 | II | 5Q | <4.6> | 9.9 | - | 沈線 隆帯 | 赤橙色 | 壺 |
| 517 | 晩期 土器 | I~ II | 5Q | <5.0> | (15.2) | - | 沈線 突起 | 黒褐色 | 注口土器 |
| 518 | 晩期 土器 | II | 4Q | <5.3> | - | (5.0) | 凹み (底面) | 黒褐色 | 注口土器か |
| 519 | 晩期 土器 | III 上部 | 5P | <4.0> | - | (8.7) | 沈線 透かし孔 単節縄文 (L R) | にぶい褐 色 | 香炉型土器の台部か |
| 520 | 晩期 土器 | III | 4Q | <4.5> | (6.5) | - | 沈線 透かし孔 突起 単節縄文 (L R) | 黒褐色 | 香炉型土器 漆塗り |
| 521 | 晩期 土器 | III | トレンチ 1 | <4.1> | - | 6.4 | 磨り消し (底面) 単節縄文 (L R) | 黒褐色 | 深鉢? |
| 522 | 晩期 土器 | III 上部 | 5P | <5.4> | - | - | 沈線 隆帯 突起 単節縄文 (L R) | 暗赤褐色 | 注口土器 |
| 523 | 晩期 土器 | II | 4Q | 7.3 | 19.0 | 3.6 | 沈線 磨り消し縄文 単節縄文 (L R) | 褐灰色 | 浅鉢 |
| 524 | 晩期 土器 | III | 4Q、5Q | 5.6 | 24.5 | 12.0 | 沈線 磨り消し縄文 単節縄文 (L R) | 暗褐色 | 浅鉢 |
| 525 | 晩期 土器 | III | トレンチ 1 | <6.5> | - | - | 磨り消し縄文 単節縄文 (L R) | 暗褐色 | 浅鉢 補修孔あり 漆塗 |
| 526 | 晩期 土器 | II | 5Q | <2.8> | - | - | 沈線 磨り消し縄文 単節縄文 (L R) | 褐色 | 浅鉢 内面にも縄文施文あり |
| 527 | 晩期 土器 | III | 5Q | <6.1> | - | - | 沈線 磨り消し縄文 単節縄文 (R L) | 黒褐色 | 深鉢 |
| 528 | 晩期 土器 | III | 5P | <3.0> | - | - | 沈線 磨り消し縄文 単節縄文 (R L) | 褐灰色 | 浅鉢 |
| 529 | 晩期 土器 | III 上部 | 5P | <4.3> | - | - | 沈線 磨り消し縄文 単節縄文 (L R) | 黒褐色 | 浅鉢 |
| 530 | 晩期 土器 | II | 4Q | <4.0> | - | - | 沈線 磨り消し縄文 単節縄文 (L R) | 黒褐色 | 浅鉢 |
| 531 | 晩期 土器 | 不明 | トレンチ 1 一括 | <3.2> | - | - | 沈線 磨り消し縄文 単節縄文 (L R) | 黒褐色 | 浅鉢 漆塗か |
| 532 | 晩期 土器 | I~ II | 5Q | <6.7> | - | - | 沈線 磨り消し縄文 単節縄文 (L R) | 橙~ 黒褐色 | 深鉢 |
| 533 | 晩期 土器 | III | 5P | <14.8> | - | - | 沈線 単節縄文 (L R) | にぶい褐 ~黒褐色 | 深鉢 |
| 534 | 晩期 土器 | III | 5Q | <16.5> | - | - | 突起 単節縄文 (L R) | 黒褐色 | 深鉢 |
| 535 | 晩期 土器 | III | トレンチ 1 | 38.5 | 34.8 | 9.0 | 口縁部刻み 単節縄文 (L R) 結束 あり | 灰褐色 | 深鉢 |

| 掲載 No. | 種別 | 層位 | 出土位置 | 寸法 (cm・最大) | | | 文様構成 | 色調 | 備考 |
|-----------|----------|-----|--------|------------|--------|-----|--------------------|-------------|---------------------|
| | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | |
| 536 | 晩期 土器 | II | 4Q | <34.3> | (23.0) | - | 口縁部刻み 単節縄文 (RL) | 橙色 | 深鉢 |
| 537 | 晩期 土器 | III | 2V | <10.4> | - | 9.0 | 単節縄文 (LR) | 灰褐色 | 深鉢 |
| 538 | 晩期 土器 | - | SI04 炉 | <21.3> | - | - | 単節縄文 (RL) 結束 あり | にぶい黄 褐色色 | 深鉢体部片 土器片囲炉に転用 |
| 539 | 晩期 土器 | III | 5O | <40.9> | - | - | 単節縄文 (LR) | 明黄褐～ 黒褐色 | 深鉢 口縁部接合しないが同一個体と推測 |

第5表 掲載遺物一覧 (石器・石製品)

| 掲載 No. | 器種 | 遺構・地点名 | 位置・層位 | 寸法 (cm・g) | | | | 石質 | 備考 |
|-----------|----|----------|----------------|-----------|-------|------|------|------------|----|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | | |
| 540 | 石鏃 | SI01 | 南東・床面下Ⅵ層対応 | 1.5 | 1.2 | 0.4 | 0.64 | 頁岩 (北上山地) | |
| 541 | 石鏃 | SI01 | ベルト2東下層 | 1.6 | 1.6 | 0.4 | 1.01 | 頁岩 (北上山地) | |
| 542 | 石鏃 | 2V | Ⅳ～Ⅶ層 | <1.8> | 1.45 | 0.4 | 0.85 | 頁岩 (北上山地) | |
| 543 | 石鏃 | 7M | Ⅶ層 | <1.7> | 0.85 | 0.25 | 0.31 | 頁岩 (北上山地) | |
| 544 | 石鏃 | 4R | Ⅶ層 | <1.85> | 1.9 | 0.3 | 0.43 | 頁岩 (北上山地) | |
| 545 | 石鏃 | 4Q | Ⅶ層 28 | 2.0 | 1.4 | 0.2 | 0.59 | 頁岩 (北上山地) | |
| 546 | 石鏃 | 4Q | Ⅶ層 25 | 2.4 | 1.4 | 0.4 | 1.17 | 頁岩 (北上山地) | |
| 547 | 石鏃 | 6P | Ⅳ層 | 2.3 | 1.6 | 0.5 | 1.58 | 頁岩 (北上山地) | |
| 548 | 石鏃 | SI01 | ベルト2東下層 | 2.35 | 1.6 | 0.4 | 1.12 | 頁岩 (北上山地) | |
| 549 | 石鏃 | 9J | 南東隅遺構?埋土 (黄褐色) | 2.3 | 1.5 | 0.5 | 1.3 | 頁岩 (北上山地) | |
| 550 | 石鏃 | 7N | Ⅴ層 | 2.8 | 1.5 | 0.5 | 1.54 | 凝灰岩 (北上山地) | |
| 551 | 石鏃 | 9B | Ⅳ層上部 | 2.8 | 1.5 | 0.25 | 1.11 | 頁岩 (北上山地) | |
| 552 | 石鏃 | 6P | Ⅶ層 20 | 2.6 | 1.6 | 0.4 | 1.43 | 頁岩 (北上山地) | |
| 553 | 石鏃 | SI02 | 埋土 | 2.8 | 1.5 | 0.3 | 1.38 | 頁岩 (北上山地) | |
| 554 | 石鏃 | 8J | Ⅶ層 19 | 2.4 | 1.0 | 0.3 | 0.86 | 頁岩 (北上山地) | |
| 555 | 石鏃 | 8K | Ⅵ層 | 3.5 | 1.2 | 0.4 | 1.67 | 頁岩 (北上山地) | |
| 556 | 石鏃 | SI02 | 埋土 | 3.7 | 1.0 | 0.3 | 1.08 | 頁岩 (北上山地) | |
| 557 | 石鏃 | 7M | Ⅶ層 | 2.3 | 1.4 | 0.5 | 1.43 | 頁岩 (北上山地) | |
| 558 | 石鏃 | 4R | Ⅳ層 | 2.5 | 1.8 | 0.45 | 1.36 | 頁岩 (北上山地) | |
| 559 | 石鏃 | 2V | Ⅳ～Ⅶ層 | 2.8 | 0.9 | 0.3 | 0.83 | 頁岩 (北上山地) | |
| 560 | 石鏃 | 4Q | Ⅶ層 33 | <3.0> | 1.0 | 0.4 | 1.55 | 頁岩 (北上山地) | |
| 561 | 石鏃 | SI03 | 床面検出中 (最下層) | 3.3 | 1.2 | 0.4 | 1.97 | 頁岩 (北上山地) | |
| 562 | 石鏃 | SI01 | 中東下層 | <2.95> | 1.4 | 0.4 | 1.8 | 頁岩 (北上山地) | |
| 563 | 石鏃 | 2V | Ⅶ層 60 | 3.5 | 2.2 | 0.6 | 4.37 | 頁岩 (北上山地) | |
| 564 | 石鏃 | SI03 | 9J埋土 | <3.3> | 1.7 | 0.5 | 2.58 | 頁岩 (北上山地) | |
| 565 | 石鏃 | 9I | 南西隅Ⅳ層下部 | 3.5 | 1.7 | 0.5 | 2.21 | 頁岩 (北上山地) | |
| 566 | 石鏃 | トレンチ3 9G | Ⅵ層 | 3.6 | 1.9 | 0.6 | 2.92 | 頁岩 (北上山地) | |
| 567 | 石鏃 | SI01 範囲 | 南西・床下Ⅵ層相当 | <2.6> | <1.3> | 0.5 | 1.33 | 頁岩 (北上山地) | |
| 568 | 石鏃 | SI01 範囲 | 南西・床下Ⅵ層相当 | <2.05> | 1.7 | 0.5 | 1.46 | 頁岩 (北上山地) | |
| 569 | 石鏃 | 9J | Ⅳ層上 | 3.0 | 1.7 | 0.5 | 1.99 | 頁岩 (北上山地) | |
| 570 | 石鏃 | SI01 | 埋土上層 (黒色土) | <3.8> | 1.6 | 0.5 | 2.51 | 頁岩 (北上山地) | |
| 571 | 石鏃 | 8I b | Ⅳ層相当 | <4.0> | 1.8 | 0.55 | 3.34 | 頁岩 (北上山地) | |
| 572 | 石鏃 | SI01 | PP2埋土 | 4.4 | 2.0 | 0.5 | 4.12 | 頁岩 (北上山地) | |
| 573 | 石鏃 | SI01 | 南東床面 | 2.9 | 1.7 | 0.3 | 1.29 | 頁岩 (北上山地) | |
| 574 | 石鏃 | SI01 | 南東角埋土中層 | 2.5 | <1.2> | 0.5 | 1.49 | 頁岩 (北上山地) | |
| 575 | 石鏃 | 9K | Ⅶ層 | 2.4 | 1.8 | 0.4 | 1.68 | 頁岩 (北上山地) | |
| 576 | 石鏃 | SI01 | 床下 (Ⅵ層相当) 南西 | 3.5 | 2.2 | 1.0 | 6.24 | 頁岩 (北上山地) | |
| 577 | 石鏃 | SI01 | 南東角上層 | 3.7 | 2.3 | 0.8 | 7.18 | 頁岩 (北上山地) | |

3 出土遺物

| 掲載 № | 器 種 | 遺構・地点名 | 位置・層位 | 寸法 (cm・g) | | | | 石 質 | 備 考 |
|---------|-----|---------|-------------|-----------|-------|------|------|----------|-----|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | | |
| 578 | 石鏃 | SI01 | 床下VI層相当(南西) | 2.9 | 2.2 | 0.8 | 4.16 | 頁岩(北上山地) | |
| 579 | 石鏃 | SI01 | 南東角埋土下層 | 3.7 | 1.8 | 0.4 | 2.4 | 頁岩(北上山地) | |
| 580 | 石鏃 | SI01 | 南東角埋土下層 | 1.9 | 1.4 | 0.2 | 0.64 | 頁岩(北上山地) | |
| 581 | 石鏃 | 9G | Ⅲ層 | 2.1 | 1.4 | 0.4 | 0.92 | 頁岩(北上山地) | |
| 582 | 石鏃 | SI01 | 埋土上層(黒色土) | 2.5 | 1.4 | 0.4 | 0.97 | 頁岩(北上山地) | |
| 583 | 石鏃 | 10F | Ⅵ層 | 2.45 | 1.8 | 0.5 | 1.57 | 頁岩(北上山地) | |
| 584 | 石鏃 | SI01 | 南東角埋土中層 | 2.2 | 1.8 | 0.4 | 0.83 | 頁岩(北上山地) | |
| 585 | 石鏃 | 4Q | Ⅲb層 | 2.25 | 1.6 | 0.45 | 1.38 | 頁岩(北上山地) | |
| 586 | 石鏃 | | 表採 | 2.65 | 1.4 | 0.6 | 1.84 | 頁岩(北上山地) | |
| 587 | 石鏃 | SI01 | 南東角上層 | 2.7 | 2.0 | 0.3 | 1.66 | 頁岩(北上山地) | |
| 588 | 石鏃 | 9G | Ⅵ層以下 | 1.6 | 1.4 | 0.4 | 0.58 | 頁岩(北上山地) | |
| 589 | 石鏃 | SI03 | 床面検出中(最下層) | 1.9 | 1.4 | 0.5 | 1.23 | 頁岩(北上山地) | |
| 590 | 石鏃 | 8Ic | Ⅳ層相当 | 2.2 | 1.6 | 0.3 | 0.95 | 頁岩(北上山地) | |
| 591 | 石鏃 | SI01 | ベルト3北下層 | 2.4 | 1.2 | 0.4 | 1.14 | 頁岩(北上山地) | |
| 592 | 石鏃 | SI01 | 床面精査中 | 2.3 | 1.6 | 0.7 | 1.66 | 頁岩(北上山地) | |
| 593 | 石鏃 | 5Q | Ⅳ層 | <2.3> | 1.3 | 0.4 | 1.18 | 頁岩(北上山地) | |
| 594 | 石鏃 | SI01 範囲 | 南東・床面下Ⅵ層対応 | <2.1> | 1.7 | 0.35 | 1.29 | 頁岩(北上山地) | |
| 595 | 石鏃 | 9G | Ⅲ層 | 2.5 | 1.7 | 0.55 | 1.95 | 頁岩(北上山地) | |
| 596 | 石鏃 | 7L | Ⅲ層下 | 2.5 | 1.8 | 0.6 | 2.28 | 頁岩(北上山地) | |
| 597 | 石鏃 | SI01 | 南東角埋土中層 | 2.5 | 1.7 | 0.7 | 2.54 | 頁岩(北上山地) | |
| 598 | 石鏃 | 9B | Ⅳ層上部 | <2.6> | 1.6 | 0.35 | 1.11 | 頁岩(北上山地) | |
| 599 | 石鏃 | SI 01 | 西側火山灰貼床 | 2.95 | <1.4> | 0.55 | 1.96 | 頁岩(北上山地) | |
| 600 | 石鏃 | 9G | Ⅲ層 | <2.7> | 1.65 | 0.4 | 1.41 | 頁岩(北上山地) | |
| 601 | 石鏃 | SI01 | ベルト2東下層 | <3.0> | 1.5 | 0.5 | 1.59 | 頁岩(北上山地) | |
| 602 | 石鏃 | SI01 | 南東角埋土下層 | <3.1> | 1.65 | 0.5 | 2.23 | 頁岩(北上山地) | |
| 603 | 石鏃 | 8K | Ⅵ層 | 3.0 | 1.9 | 0.4 | 1.76 | 頁岩(北上山地) | |
| 604 | 石鏃 | 9G | (トレンチ3含む)Ⅴ層 | 2.8 | 1.7 | 0.3 | 1.02 | 頁岩(北上山地) | |
| 605 | 石鏃 | SI01 | ベルト2東下層 | 2.2 | 1.6 | 0.4 | 1.13 | 頁岩(北上山地) | |
| 606 | 石鏃 | SI01 | ベルト1南上層 | 2.3 | 1.7 | 0.5 | 1.59 | 頁岩(北上山地) | |
| 607 | 石鏃 | トレンチ4 | 壁面精査中Ⅲ層相当 | 2.7 | 1.7 | 0.5 | 1.71 | 頁岩(北上山地) | |
| 608 | 石鏃 | SI01 | 埋土上層(黒色土) | 2.5 | 1.7 | 0.4 | 1.54 | 頁岩(北上山地) | |
| 609 | 石鏃 | SI01 | 南東角上層 | 2.4 | 1.6 | 0.3 | 0.79 | 頁岩(北上山地) | |
| 610 | 石鏃 | 4T | Ⅴ層 | 2.5 | 1.5 | 0.4 | 1.02 | 頁岩(北上山地) | |
| 611 | 石鏃 | SI03 | 9J埋土 | 3.5 | 1.5 | 0.6 | 2.48 | 頁岩(北上山地) | |
| 612 | 石鏃 | SI03 | 床面検出中最下層 | 3.0 | 1.4 | 0.4 | 1.23 | 頁岩(北上山地) | |
| 613 | 石鏃 | SI01 | 中東下層 | <1.9> | 1.6 | 0.4 | 0.92 | 頁岩(北上山地) | |
| 614 | 石鏃 | 6Q | Ⅳ層残り | <2.1> | 1.65 | 0.35 | 1.15 | 頁岩(北上山地) | |
| 615 | 石鏃 | SI01 | ベルト2東上層 | <2.2> | 1.55 | 0.5 | 1.3 | 頁岩(北上山地) | |
| 616 | 石鏃 | 7L | Ⅳ層上 | <2.1> | 1.4 | 0.55 | 1.22 | 頁岩(北上山地) | |
| 617 | 石鏃 | SI01 | ベルト2東埋土 | 2.7 | 1.7 | 0.4 | 1.91 | 頁岩(北上山地) | |
| 618 | 石鏃 | SI04 | 検出時 | 2.9 | 1.7 | 0.4 | 1.43 | 頁岩(北上山地) | |
| 619 | 石鏃 | SI01 | ベルト1南上層 | <2.6> | 1.7 | 0.5 | 1.79 | 頁岩(北上山地) | |
| 620 | 石鏃 | 8I | Ⅴ層 | 3.1 | 1.5 | 0.5 | 1.87 | 頁岩(北上山地) | |
| 621 | 石鏃 | 6O | Ⅲ層 | 2.6 | 1.6 | 0.5 | 1.56 | 頁岩(北上山地) | |
| 622 | 石鏃 | SI01 | 南東部埋土 | 2.9 | 1.6 | 0.5 | 2.02 | 頁岩(北上山地) | |
| 623 | 石鏃 | SI03 | K1埋土 | 2.6 | 1.6 | 0.6 | 2.02 | 頁岩(北上山地) | |
| 624 | 石鏃 | SI01 | ベルト1南上層 | <2.15> | 1.7 | 0.5 | 1.18 | 頁岩(北上山地) | |
| 625 | 石鏃 | SI01 | 東中埋土中層 | 2.5 | 1.7 | 0.9 | 2.76 | 頁岩(北上山地) | |
| 626 | 石鏃 | 5Q | Ⅲ層上部 | 2.6 | 1.65 | 0.6 | 1.91 | 頁岩(北上山地) | |
| 627 | 石鏃 | SI03 | 9I埋土Ⅳ層 | 3.0 | 1.7 | 0.4 | 1.87 | 頁岩(北上山地) | |
| 628 | 石鏃 | SI01 | 範囲Ⅵ層 | 3.0 | 1.7 | 0.5 | 1.9 | 頁岩(北上山地) | |

| 掲載 No | 器種 | 遺構・地点名 | 位置・層位 | 寸法 (cm・g) | | | | 石質 | 備考 |
|----------|----|--------|------------------|-----------|-------|------|------|------------|----|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | | |
| 629 | 搔器 | 9I | 壁面Ⅵ層 | 3.1 | 1.6 | 0.6 | 2.03 | 頁岩(北上山地) | |
| 630 | 石鏟 | SI01 | 南東・床面下Ⅵ層対応 | 3.0 | 1.6 | 0.5 | 1.63 | 頁岩(北上山地) | |
| 631 | 石鏟 | 5O | Ⅲ層上部 | 3.3 | <1.5> | 0.4 | 1.14 | 頁岩(北上山地) | |
| 632 | 石鏟 | 5P | Ⅲ層 | 3.4 | 1.8 | 0.5 | 1.89 | 頁岩(北上山地) | |
| 633 | 石鏟 | 8I | Ⅵ層以下 | 2.5 | 1.6 | 0.5 | 1.86 | 頁岩(北上山地) | |
| 634 | 石鏟 | SI01 | PP2埋土 | <2.35> | 1.4 | 0.6 | 1.16 | 頁岩(北上山地) | |
| 635 | 石鏟 | 6H | Ⅲ層相当～Ⅳ層上 | 2.5 | <0.9> | 0.7 | 1.14 | 頁岩(北上山地) | |
| 636 | 石鏟 | SK05 | 埋土上層 | 3.0 | 1.2 | 0.3 | 1.07 | 頁岩(北上山地) | |
| 637 | 石鏟 | 8Ib | Ⅳ層相当 | 2.7 | 1.3 | 0.4 | 1.17 | 頁岩(北上山地) | |
| 638 | 石鏟 | SI01 | ベルト2東下層 | <2.7> | 1.6 | 0.4 | 1.29 | 頁岩(北上山地) | |
| 639 | 石鏟 | SI01 | ベルト1南上層 | <2.5> | 0.7 | 0.5 | 1.81 | 頁岩(北上山地) | |
| 640 | 石鏟 | SI01 | 南東角埋土中層 | 2.8 | 1.7 | 0.4 | 1.31 | 頁岩(北上山地) | |
| 641 | 石鏟 | 5J | Ⅲ層 | <3.2> | 1.8 | 0.4 | 1.84 | 頁岩(北上山地) | |
| 642 | 石鏟 | 6P | Ⅲ層上部 | <3.05> | 1.9 | 0.4 | 2.09 | 頁岩(北上山地) | |
| 643 | 石鏟 | SI01 | ベルト4西下層 | <3.2> | 2.1 | 0.6 | 3.09 | 頁岩(北上山地) | |
| 644 | 石鏟 | SI01 | ベルト4東下層 | 3.1 | 1.6 | 0.4 | 1.73 | 頁岩(北上山地) | |
| 645 | 石鏟 | 9G | Ⅲ層 | 3.2 | 1.8 | 0.4 | 1.79 | 頁岩(北上山地) | |
| 646 | 石鏟 | SI01 | 南西角上層(黒色土層) | 3.3 | 1.8 | 0.5 | 2.55 | 頁岩(北上山地) | |
| 647 | 石鏟 | SI01 | K1(住居内土坑1)埋土 | <3.5> | 1.7 | 0.4 | 1.93 | 頁岩(北上山地) | |
| 648 | 石鏟 | 8Ic | Ⅳ層相当 | 3.7 | 1.9 | 0.8 | 3.44 | 頁岩(北上山地) | |
| 649 | 石鏟 | SI01 | 南東角埋土下層 | <3.7> | 1.6 | 0.55 | 2.76 | 頁岩(北上山地) | |
| 650 | 石鏟 | SI01 | 埋土上層(黒色土) | 3.6 | 2.0 | 0.6 | 3.4 | 頁岩(北上山地) | |
| 651 | 石鏟 | 9J | Ⅳ層上面 | 3.9 | 1.4 | 0.7 | 2.39 | 頁岩(北上山地) | |
| 652 | 石鏟 | 9H | Ⅲ層 | 3.8 | 1.7 | 0.4 | 2.16 | 凝灰岩(北上山地) | |
| 653 | 石鏟 | 9G | Ⅳ層上 | 4.2 | 1.8 | 0.75 | 3.89 | 頁岩(北上山地) | |
| 654 | 石鏟 | 9I | 南西隅Ⅲ層相当 | 4.3 | 1.7 | 0.6 | 3.62 | 頁岩(北上山地) | |
| 655 | 石鏟 | SI04 | 検出時 | 3.0 | 1.7 | 0.7 | 2.63 | 頁岩(北上山地) | |
| 656 | 石鏟 | SI01 | 中東下層 | <3.05> | 1.7 | 0.4 | 1.45 | 頁岩(北上山地) | |
| 657 | 石鏟 | SI01 | ベルト2西下層 | <3.55> | 1.6 | 0.4 | 1.59 | 頁岩(北上山地) | |
| 658 | 石鏟 | SI01 | ベルト1南上層 | <3.5> | 1.5 | 0.4 | 1.49 | 頁岩(北上山地) | |
| 659 | 石鏟 | SI01 | 南西角埋土下層 | 4.0 | 2.0 | 0.5 | 3.07 | 頁岩(北上山地) | |
| 660 | 石鏟 | | 導水パイプF機械掘前(I～Ⅳ層) | 4.6 | 2.0 | 0.4 | 2.45 | 頁岩(北上山地) | |
| 661 | 石鏟 | SI01 | 埋土上層(黒褐色土) | 3.8 | 1.6 | 0.4 | 1.85 | 頁岩(北上山地) | |
| 662 | 石鏟 | 6N | Ⅲ層 | 5.3 | 2.4 | 0.7 | 7.22 | 頁岩(北上山地) | |
| 663 | 石鏟 | 8Jc | Ⅲ層相当 | <4.6> | 2.0 | 0.5 | 4.26 | 頁岩(北上山地) | |
| 664 | 石鏟 | SI01 | 埋土上層(黒色土)(9J) | <4.2> | <2.0> | 0.5 | 3.65 | 頁岩(北上山地) | |
| 665 | 石鏟 | 9J | Ⅶ層16 | <2.1> | 1.4 | 0.4 | 1.01 | 赤色頁岩(北上山地) | |
| 666 | 石鏟 | 2V | Ⅳ～Ⅶ層 | 2.4 | 1.5 | 0.4 | 0.88 | 頁岩(北上山地) | |
| 667 | 石鏟 | SI03 | 9I埋土Ⅳ層 | 2.5 | 1.7 | 0.5 | 1.25 | 頁岩(北上山地) | |
| 668 | 石鏟 | 9H | Ⅶ層29 | 2.5 | 1.5 | 0.4 | 1.2 | 頁岩(北上山地) | |
| 669 | 石鏟 | 9I | Ⅶ層92 | 2.2 | 1.5 | 0.3 | 0.79 | 頁岩(北上山地) | |
| 670 | 石鏟 | SI01 | 埋土上層(黒褐色土) | 2.4 | 1.5 | 0.5 | 1.29 | 頁岩(北上山地) | |
| 671 | 石鏟 | 9G | Ⅵ層以下 | 2.5 | 1.6 | 0.3 | 0.96 | 頁岩(北上山地) | |
| 672 | 石鏟 | 8I | Ⅶ層67 | 2.7 | 1.2 | 0.2 | 0.9 | 頁岩(北上山地) | |
| 673 | 石鏟 | 9J | Ⅶ層13 | 2.6 | 1.5 | 0.4 | 1.33 | 頁岩(北上山地) | |
| 674 | 石鏟 | 5J | Ⅲ層 | 2.3 | 1.6 | 0.6 | 1.59 | 頁岩(北上山地) | |
| 675 | 石鏟 | SI01 | ベルト3北下層 | 3.1 | 1.7 | 0.4 | 1.84 | 頁岩(北上山地) | |
| 676 | 石鏟 | 7N | Ⅳ層上部 | 2.9 | 1.8 | 0.5 | 1.96 | 頁岩(北上山地) | |
| 677 | 石鏟 | SI01 | 床面精査中 | <2.4> | 1.3 | 0.3 | 0.76 | 頁岩(北上山地) | |
| 678 | 石鏟 | | 田面1機械掘削(黒色土) | 2.9 | 1.4 | 0.4 | 1.36 | 頁岩(北上山地) | |
| 679 | 石鏟 | SI01 | 南西角埋土下層 | 3.0 | 1.6 | 0.5 | 1.74 | 頁岩(北上山地) | |

3 出土遺物

| 掲載 No | 器 種 | 遺構・地点名 | 位置・層位 | 寸法 (cm・g) | | | | 石 質 | 備 考 |
|----------|-----|---------|--------------|-----------|-------|------|-------|------------|-----|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | | |
| 680 | 石鏃 | SI01 | K2埋土 | <2.4> | 1.3 | 0.5 | 1.37 | 頁岩(北上山地) | |
| 681 | 石鏃 | SI01 | ベルト4東下層 | <2.9> | <1.1> | 0.4 | 1.09 | 頁岩(北上山地) | |
| 682 | 石鏃 | | IV層 | <3.15> | 1.8 | 0.6 | 2.65 | 頁岩(北上山地) | |
| 683 | 石鏃 | 8I | IV層相当 | 3.1 | <1.0> | 0.4 | 0.92 | 頁岩(北上山地) | |
| 684 | 石鏃 | SI01 | 西中埋土上層遺物集中南側 | 3.0 | 1.6 | 0.6 | 1.86 | 頁岩(北上山地) | |
| 685 | 石鏃 | 6N | IV層 | <3.2> | <1.5> | 0.45 | 1.33 | 頁岩(北上山地) | |
| 686 | 石鏃 | 3U | VII層216 | 3.6 | 1.3 | 0.4 | 1.48 | 頁岩(北上山地) | |
| 687 | 石鏃 | SI01 | 東中下層 | 3.5 | 1.6 | 0.5 | 1.87 | 頁岩(北上山地) | |
| 688 | 石鏃 | SI01 | 南東角埋土(中層) | 3.3 | 1.9 | 0.6 | 3.07 | 頁岩(北上山地) | |
| 689 | 石鏃 | 3U | VII層71 | 3.5 | 1.6 | 0.2 | 1.14 | 頁岩(北上山地) | |
| 690 | 石鏃 | 10F | III層 | 3.5 | 1.7 | 0.3 | 1.77 | 頁岩(北上山地) | |
| 691 | 石鏃 | 10C | IV層上部 | <4.0> | 1.8 | 0.5 | 2.14 | 頁岩(北上山地) | |
| 692 | 石鏃 | SI01 | ベルト1南上層 | 3.7 | 1.8 | 0.5 | 2.24 | 頁岩(北上山地) | |
| 693 | 石鏃 | 8J | 試掘トレンチ | 3.4 | 1.7 | 0.4 | 2.12 | 頁岩(北上山地) | |
| 694 | 石鏃 | 9K | III層 | 3.7 | 1.8 | 0.5 | 2.03 | 頁岩(北上山地) | |
| 695 | 石鏃 | 10F | 機械掘前(Ⅰ~Ⅳ層) | 3.7 | 1.7 | 0.35 | 1.32 | 頁岩(北上山地) | |
| 696 | 石鏃 | SI01 | 埋土最上層(8I) | <4.05> | 1.9 | 0.7 | 2.92 | 頁岩(北上山地) | |
| 697 | 石鏃 | 8K | VII層58 | <2.5> | 1.95 | 0.25 | 0.89 | 頁岩(北上山地) | |
| 698 | 石鏃 | SI01 | 壁面精査中上層相当 | <2.5> | 2.15 | 0.35 | 1.25 | 頁岩(北上山地) | |
| 699 | 石鏃 | 9H | IV層残り | 3.1 | 2.4 | 0.6 | 2.45 | 頁岩(北上山地) | |
| 700 | 石鏃 | SK05 | 埋土 | <4.0> | 2.2 | 0.5 | 3.04 | 頁岩(北上山地) | |
| 701 | 石匙 | 7L | III層下 | 3.1 | 1.6 | 0.6 | 2.25 | 赤色頁岩(北上山地) | |
| 702 | 石匙 | SI01 | VI層範囲 | 3.5 | 1.5 | 0.7 | 2.43 | 頁岩(北上山地) | |
| 703 | 石匙 | 田面3 | トレンチ1包含層一括 | 3.2 | 2.0 | 0.6 | 2.78 | 赤色頁岩(北上山地) | |
| 704 | 石匙 | 10F | VII層56 | 5.1 | 1.5 | 0.7 | 3.45 | 頁岩(北上山地) | |
| 705 | 石匙 | 7L | III層下 | 3.1 | 1.6 | 0.7 | 2.92 | 赤色頁岩(北上山地) | |
| 706 | 石匙 | 7N | VII層53 | <3.7> | 1.5 | 0.6 | 3.31 | 頁岩(北上山地) | |
| 707 | 石匙 | 2U | VII層117 | 5.0 | 1.5 | 0.5 | 3.31 | 赤色頁岩(北上山地) | |
| 708 | 石匙 | 9K | VII層22 | 5.5 | 1.8 | 0.7 | 5.79 | 頁岩(北上山地) | |
| 709 | 石匙 | | 表採 | 5.0 | 1.9 | 0.8 | 6.13 | 頁岩(北上山地) | |
| 710 | 石匙 | 7L | III層下 | 3.6 | 2.0 | 0.8 | 4.87 | 赤色頁岩(北上山地) | |
| 711 | 石匙 | SI01 範囲 | 南東側火山灰貼床 | 4.1 | 1.6 | 0.7 | 4.19 | 頁岩(北上山地) | |
| 712 | 石匙 | 田面3 | 試掘トレンチ中 | 3.1 | 1.8 | 0.5 | 2.46 | 赤色頁岩(北上山地) | |
| 713 | 石匙 | 8Jb | IV層 | 3.6 | 2.5 | 0.5 | 2.85 | 頁岩(北上山地) | |
| 714 | 石匙 | 田面1 | 壁面(黒色土) | 4.5 | 2.5 | 1.1 | 9.35 | 赤色頁岩(北上山地) | |
| 715 | 石匙 | 8K | IV層上層 | 5.5 | 2.7 | 0.8 | 6.51 | 頁岩(北上山地) | |
| 716 | 石匙 | 2V | VII層171 | 4.9 | 2.2 | 0.6 | 5.93 | 頁岩(北上山地) | |
| 717 | 石匙 | 9E | III層 | 5.2 | 2.3 | 1.1 | 9.49 | 頁岩(北上山地) | |
| 718 | 石匙 | SI01 | 床下VI層相当(南西) | 5.4 | 2.3 | 1.1 | 6.91 | 頁岩(北上山地) | |
| 719 | 石匙 | 8F | V層 | <6.6> | <2.8> | 1.3 | 9.52 | 頁岩(北上山地) | |
| 720 | 石匙 | 7L | III層 | 5.8 | 1.7 | 0.7 | 5.29 | 頁岩(北上山地) | |
| 721 | 石匙 | SI01 | 東中埋土(中層) | 7.0 | 3.4 | 1.2 | 21.26 | 頁岩(北上山地) | |
| 722 | 石匙 | 9I | 南西隅IV層下部 | 7.1 | 2.5 | 1.0 | 11.92 | 頁岩(北上山地) | |
| 723 | 石匙 | 5F | IV層1 | <7.1> | 2.1 | 1.2 | 12.05 | 頁岩(北上山地) | |
| 724 | 石匙 | SI03 | 床面検出中(最下層) | 6.9 | 2.0 | 0.7 | 7.19 | 頁岩(北上山地) | |
| 725 | 石匙 | 9K | IV層残り | 7.4 | 2.3 | 1.0 | 11.59 | 頁岩(北上山地) | |
| 726 | 石匙 | SI01 | 東中埋土(中層) | 7.7 | 2.8 | 1.0 | 18.36 | 頁岩(北上山地) | |
| 727 | 石匙 | 8L | III層下 | 7.7 | 2.3 | 0.9 | 14.02 | 頁岩(北上山地) | |
| 728 | 石匙 | 10G | IV層 | 8.0 | 3.4 | 1.2 | 29.49 | 頁岩(北上山地) | |
| 729 | 石匙 | 9I | IV層 | 8.3 | 3.5 | 1.1 | 25.79 | 頁岩(北上山地) | |
| 730 | 石匙 | 9~10G | V層(中樞火山灰層) | 8.8 | 2.7 | 1.0 | 18.41 | 頁岩(北上山地) | |

| 掲載 No | 器 種 | 遺構・地点名 | 位置・層位 | 寸法 (cm・g) | | | | 石 質 | 備 考 |
|----------|-----|--------|------------------|-----------|-------|------|-------|-------------|-----|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | | |
| 731 | 石匙 | 9G | Ⅲ層 | 6.4 | 2.9 | 0.9 | 14.56 | 頁岩 (北上山地) | |
| 732 | 石匙 | 6P | Ⅶ層 52 | 6.6 | 1.9 | 0.4 | 5.58 | 頁岩 (北上山地) | |
| 733 | 石匙 | 4R | Ⅳ層 | 7.0 | 1.7 | 0.6 | 5.94 | 頁岩 (北上山地) | |
| 734 | 石匙 | 7M | Ⅴ層 | 6.7 | 2.2 | 0.7 | 9.32 | 頁岩 (北上山地) | |
| 735 | 石匙 | トレンチ 1 | 晩期包含層北側Ⅲ層上部 | 7.0 | 2.3 | 0.9 | 12.05 | 頁岩 (北上山地) | |
| 736 | 石匙 | 6P | Ⅵ層 | <5.8> | 1.8 | 0.8 | 6.36 | 頁岩 (北上山地) | |
| 737 | 石匙 | 9H | Ⅴ層 | 7.5 | 1.9 | 0.9 | 10.08 | 頁岩 (北上山地) | |
| 738 | 石匙 | 田面 1 | Ⅲ層下 | 9.8 | 2.0 | 1.1 | 8.12 | 頁岩 (北上山地) | |
| 739 | 石匙 | 7K | Ⅵ層 | <3.6> | 1.6 | 0.65 | 2.93 | 頁岩 (北上山地) | |
| 740 | 石匙 | 5Q | Ⅲ層下部 | <4.4> | 1.6 | 0.6 | 3.65 | 頁岩 (北上山地) | |
| 741 | 石匙 | 8Ib | Ⅳ層相当 | <5.0> | 1.65 | 0.9 | 4.43 | 頁岩 (北上山地) | |
| 742 | 石匙 | 4Q | Ⅲ層 | 5.0 | 2.0 | 0.8 | 7.39 | 頁岩 (北上山地) | |
| 743 | 石匙 | 3Q | Ⅲ層 | 6.8 | 1.9 | 0.8 | 8.91 | 頁岩 (北上山地) | |
| 744 | 石匙 | 7J | 南半Ⅲ層 | 5.9 | 2.1 | 0.9 | 6.68 | 頁岩 (北上山地) | |
| 745 | 石匙 | SI01 | ベルト 4 東下層 | 6.1 | 2.1 | 0.8 | 9.47 | 頁岩 (北上山地) | |
| 746 | 石匙 | 3R | Ⅲ層 | 5.6 | 1.9 | 0.8 | 90.6 | 頁岩 (北上山地) | |
| 747 | 石匙 | 7N | Ⅶ層 46 | 6.1 | 1.9 | 1.0 | 8.28 | 頁岩 (北上山地) | |
| 748 | 石匙 | 4R | Ⅶ層 13 | 8.8 | 1.9 | 0.6 | 9.61 | 頁岩 (北上山地) | |
| 749 | 石匙 | 3U | Ⅶ層 114 | 7.3 | 1.8 | 0.7 | 8.24 | 頁岩 (北上山地) | |
| 750 | 石匙 | 8Ic | Ⅳ層相当 | 6.6 | 3.3 | 1.0 | 15.29 | 頁岩 (北上山地) | |
| 751 | 石匙 | 4Q | Ⅶ層 5 | 7.7 | 3.2 | 1.0 | 20.3 | 頁岩 (北上山地) | |
| 752 | 石匙 | 5O | Ⅲ層上部 | 6.2 | 3.4 | 1.0 | 16.53 | 頁岩 (北上山地) | |
| 753 | 石匙 | 10D | Ⅳ層 | 6.5 | 2.9 | 0.9 | 15.01 | 頁岩 (北上山地) | |
| 754 | 石匙 | SI01 | 8Icd 埋土上層 (黒褐色土) | 6.4 | 4.1 | 1.5 | 22.56 | 頁岩 (北上山地) | |
| 755 | 石匙 | 4Q | Ⅶ層 17 | 4.3 | 2.5 | 0.7 | 6.63 | 頁岩 (北上山地) | |
| 756 | 石匙 | 6O | Ⅶ層 68 | 4.8 | 3.1 | 0.6 | 8.89 | 頁岩 (北上山地) | |
| 757 | 石匙 | 3U | Ⅶ層 55 | 5.5 | 2.7 | 0.7 | 9.08 | 頁岩 (北上山地) | |
| 758 | 石匙 | 7M | Ⅳ層上 | 6.8 | 1.9 | 0.7 | 8.38 | 頁岩 (北上山地) | |
| 759 | 石匙 | 9J | Ⅶ層 40 | 4.4 | 4.7 | 1.2 | 23.65 | 頁岩 (北上山地) | |
| 760 | 石匙 | 9F | Ⅳ層 | <4.5> | 2.9 | 0.9 | 11.56 | 頁岩 (北上山地) | |
| 761 | 石匙 | 8I | Ⅳ層相当 | 4.5 | 5.3 | 0.8 | 15.61 | 頁岩 (北上山地) | |
| 762 | 石匙 | 6P | Ⅳ層 | <1.5> | 1.65 | 0.5 | 0.93 | 赤色頁岩 (北上山地) | |
| 763 | 石匙 | 9B | Ⅳ層上部 | 7.6 | 3.2 | 1.5 | 24.87 | 頁岩 (北上山地) | |
| 764 | 石匙 | 8I | Ⅶ層 69 | 5.0 | 5.9 | 0.9 | 24.04 | 頁岩 (北上山地) | |
| 765 | 石匙 | 8J | Ⅳ層 | 4.1 | 6.6 | 1.0 | 20.05 | 頁岩 (北上山地) | |
| 766 | 石匙 | 6M | Ⅳ層 | 7.2 | 7.3 | 1.5 | 54.89 | 頁岩 (北上山地) | |
| 767 | 石匙 | SI01 | 8Ic 東中下層 | 8.6 | 4.8 | 1.7 | 38.03 | 頁岩 (北上山地) | |
| 768 | 石匙 | 6O | Ⅴ層 | 8.7 | <5.0> | 0.8 | 20.08 | 頁岩 (北上山地) | |
| 769 | 石匙 | 8L | Ⅵ層 | <7.1> | 2.3 | 1.1 | 11.09 | 頁岩 (北上山地) | |
| 770 | 石匙 | 7N | Ⅲ下層 | <5.4> | 2.1 | 0.7 | 6.67 | 頁岩 (北上山地) | |
| 771 | 石匙 | 4R | Ⅳ層 | <5.2> | 3.1 | 0.6 | 7.96 | 頁岩 (北上山地) | |
| 772 | 尖頭器 | SI01 | K1 埋土 | 4.9 | 1.9 | 0.9 | 7.01 | 頁岩 (北上山地) | |
| 773 | 石匙 | 2U | Ⅵ層 | 7.8 | 1.65 | 0.8 | 8.47 | 頁岩 (北上山地) | |
| 774 | 尖頭器 | SI01 | 床面 | 6.6 | 1.4 | 0.9 | 6.23 | 頁岩 (北上山地) | |
| 775 | 尖頭器 | 8K | Ⅶ層 68 | <6.3> | 1.6 | 0.8 | 7.21 | 頁岩 (北上山地) | |
| 776 | 尖頭器 | 2V | Ⅶ層 110 | 6.9 | 1.4 | 0.5 | 5.03 | 頁岩 (北上山地) | |
| 777 | 尖頭器 | 7L | Ⅲ層下 | 5.4 | 1.05 | 0.7 | 4.53 | 頁岩 (北上山地) | |
| 778 | 尖頭器 | 7L | Ⅳ層上 | 4.5 | 1.1 | 0.7 | 2.69 | 頁岩 (北上山地) | |
| 779 | 尖頭器 | 6P | Ⅵ層 | 5.5 | 1.2 | 0.7 | 4.42 | 頁岩 (北上山地) | |
| 780 | 尖頭器 | 8J | Ⅶ層 71 | 5.8 | 1.2 | 0.4 | 3.51 | 頁岩 (北上山地) | |
| 781 | 尖頭器 | SI01 | 南東角埋土中層 | 5.2 | 2.0 | 0.9 | 7.32 | 頁岩 (北上山地) | |

3 出土遺物

| 掲載 № | 器 種 | 遺構・地点名 | 位置・層位 | 寸法 (cm・g) | | | | 石 質 | 備 考 |
|---------|-----|--------|--------------|-----------|-------|-------|--------|----------------|-----|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | | |
| 782 | 尖頭器 | 2V | Ⅶ層 241 | 6.5 | 1.6 | 0.8 | 5.77 | 頁岩 (北上山地) | |
| 783 | 尖頭器 | 2V | Ⅶ層 365 | 6.3 | 1.4 | 0.4 | 3.93 | 頁岩 (北上山地) | |
| 784 | 尖頭器 | 2V | Ⅶ層 247 | 7.7 | 1.9 | 0.8 | 10.59 | 頁岩 (北上山地) | |
| 785 | 尖頭器 | 9E | Ⅳ層水路際トレンチ | 8.5 | 1.3 | 0.8 | 8.23 | 頁岩 (北上山地) | |
| 786 | 尖頭器 | 8F | V層 | 9.2 | 1.6 | 0.7 | 8.36 | 頁岩 (北上山地) | |
| 787 | 尖頭器 | 2U | Ⅶ層 132 | 9.1 | 1.9 | 0.6 | 11.82 | 頁岩 (北上山地) | |
| 788 | 尖頭器 | 9I | Ⅳ層 | 8.7 | 1.7 | 1.0 | 12.22 | 頁岩 (北上山地) | |
| 789 | 尖頭器 | 5P | Ⅲ層 | <10.2> | 1.4 | 1.1 | 15.18 | 頁岩 (北上山地) | |
| 790 | 尖頭器 | 10G | Ⅳ層 | 9.7 | 1.9 | 1.3 | 21.48 | 頁岩 (北上山地) | |
| 791 | 尖頭器 | 8F | V層 | 9.7 | 2.0 | 1.4 | 20.83 | 頁岩 (北上山地) | |
| 792 | 尖頭器 | 7N | Ⅳ層上部 | 12.5 | 1.9 | 0.9 | 19.23 | 頁岩 (北上山地) | |
| 793 | 尖頭器 | 田面 1 | Ⅲ層下 | <8.1> | 2.0 | 0.75 | 13.7 | 頁岩 (北上山地) | |
| 794 | 尖頭器 | 8I b | Ⅳ層相当 | 10.7 | 2.2 | 1.0 | 23.61 | 頁岩 (北上山地) | |
| 795 | 尖頭器 | 7K | V層 | 14.0 | 2.6 | 1.3 | 40.05 | 頁岩 (北上山地) | |
| 796 | 尖頭器 | 8K | Ⅵ層 | <10.0> | 3.2 | 1.4 | 36.53 | 頁岩 (北上山地) | |
| 797 | 尖頭器 | 10C | Ⅲ層 | <9.75> | 2.5 | 1.3 | 32.57 | 頁岩 (北上山地) | |
| 798 | 尖頭器 | | 埋土中位 | <5.5> | 2.3 | 1.45 | 20.56 | 頁岩 (北上山地) | |
| 799 | 尖頭器 | 8F | V層 | 6.1 | 2.1 | 1.1 | 14.19 | 頁岩 (北上山地) | |
| 800 | 尖頭器 | 9G | Ⅲ層 | <5.9> | 2.6 | 1.15 | 12.25 | 頁岩 (北上山地) | |
| 801 | 尖頭器 | 8F | V層 | <5.5> | 3.5 | 1.5 | 26.97 | 頁岩 (北上山地) | |
| 802 | 尖頭器 | 9H | V層 | <4.75> | 2.6 | 1.0 | 12.59 | 頁岩 (北上山地) | |
| 803 | 尖頭器 | 9G | Ⅳ層 | 6.5 | 1.8 | 1.4 | 17.85 | 頁岩 (北上山地) | |
| 804 | 尖頭器 | 9B | Ⅲ層 | <6.2> | 2.0 | 1.1 | 15.32 | 頁岩 (北上山地) | |
| 805 | 石筥 | 8K | Ⅵ層 | 3.8 | 2.5 | 1.0 | 9.07 | 頁岩 (北上山地) | |
| 806 | 石筥 | 3T | Ⅶ層 248 | <3.3> | <2.9> | 0.8 | 6.28 | 頁岩 (北上山地) | |
| 807 | 石筥 | 9C | Ⅳ層上 | <3.8> | <3.0> | 1.0 | 10.64 | 頁岩 (北上山地) | |
| 808 | 尖頭器 | SI01 | 南西角埋土下層 | 4.5 | 2.2 | 1.0 | 7.59 | 頁岩 (北上山地) | |
| 809 | 尖頭器 | 4R | Ⅶ層 14 | <4.7> | <3.0> | <1.1> | 13.51 | 頁岩 (北上山地) | |
| 810 | 石筥 | 4R | Ⅳ層 | 5.1 | 3.1 | 1.2 | 15.39 | 頁岩 (北上山地) | |
| 811 | 石筥 | 2T | Ⅶ層 4 | 6.0 | 3.5 | 1.8 | 37.55 | 頁岩 (北上山地) | |
| 812 | 石筥 | 6O | V層 | 4.4 | 3.1 | 1.3 | 16.33 | 頁岩 (北上山地) | |
| 813 | 石筥 | 9G | Ⅲ層 | 6.5 | 3.8 | 1.7 | 25.07 | 頁岩 (北上山地) | |
| 814 | 石筥 | 9G | Ⅲ層 | 4.6 | 3.7 | 1.0 | 13.5 | 頁岩 (北上山地) | |
| 815 | 石筥 | 7K | Ⅲ層 | 4.8 | 3.0 | 1.2 | 16.39 | 頁岩 (北上山地) | |
| 816 | 石筥 | 9K | トレンチ 2 Ⅵ層 | 4.4 | 3.1 | 1.3 | 17.38 | 頁岩 (北上山地) | |
| 817 | 石筥 | 10F | Ⅶ層 80 | <8.1> | <4.8> | 2.0 | 71.91 | 頁岩 (北上山地) | |
| 818 | 石筥 | 4S | Ⅶ層 64 | 4.9 | 3.2 | 0.9 | 11.45 | 頁岩 (北上山地) | |
| 819 | 石筥 | 8Jc | Ⅲ層相当 | 5.5 | 2.6 | 1.3 | 19.06 | 頁岩 (北上山地) | |
| 820 | 石筥 | 2V | Ⅵ～Ⅶ層 | 8.6 | 3.6 | 1.8 | 54.16 | 頁岩 (北上山地) | |
| 821 | 石筥 | 2V | Ⅶ層 44 | <6.7> | 4.8 | 2.0 | 73.51 | 頁岩 (北上山地) | |
| 822 | 石剣 | 9K | Ⅶ層 57 | <17.1> | 3.6 | 1.0 | 72.13 | 粘板岩 (北上山地) | |
| 823 | 石剣 | 8I | Ⅳ層 | <17.7> | 2.6 | 1.4 | 88.53 | 粘板岩 (北上山地) | |
| 824 | 石剣 | 5F | Ⅳ層 1 | 20.4 | 3.2 | 2.4 | 209.01 | ホルンフェルス (北上山地) | |
| 825 | 石剣 | 10D | Ⅳ層 | <14.8> | 2.3 | 1.5 | 62.96 | 頁岩 (北上山地) | |
| 826 | 石剣 | 8Ib | Ⅳ層 | 22.7 | 3.3 | 0.7 | 98.19 | 粘板岩 (北上山地) | |
| 827 | 石剣 | 4P | Ⅳ層 | 21.3 | 3.3 | 2.1 | 209.54 | 頁岩 (北上山地) | |
| 828 | 石剣 | 9F | Ⅲ層 | 17.7 | 2.8 | 1.0 | 56.22 | 頁岩 (北上山地) | |
| 829 | 石剣 | 9G | Ⅳ層 | 13.5 | 2.4 | 0.6 | 28.1 | 粘板岩 (北上山地) | |
| 830 | 石剣 | SI01 | 西中埋土上層遺物集中南側 | <19.8> | 3.4 | 1.8 | 202.42 | 頁岩 (北上山地) | |
| 831 | 石剣 | SI01 | ベルト 1 北上層 | <15.7> | 1.5 | 1.15 | 32.77 | 頁岩 (北上山地) | |
| 832 | 石剣 | 10D | Ⅳ層 | <9.2> | 3.4 | 1.4 | 67.83 | 頁岩 (北上山地) | |

| 掲載 No | 器 種 | 遺構・地点名 | 位置・層位 | 寸法 (cm・g) | | | | 石 質 | 備 考 |
|----------|------|-----------|-------------|-----------|--------|------|---------|---------------|-----|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | | |
| 833 | 石剣 | SI01 | トレンチ1 晩期か? | <11.3> | 2.3 | 1.6 | 63.41 | 頁岩(北上山地) | |
| 834 | 石剣 | 7M | IV層上 | 25.6 | 3.6 | 1.2 | 142.15 | 頁岩(北上山地) | |
| 835 | 石剣 | 10A | IV層 | 8.7 | 1.6 | 0.5 | 7.74 | 頁岩(北上山地) | |
| 836 | 石剣 | 8K | IV層 | <10.0> | 3.0 | 0.5 | 22.53 | 頁岩(北上山地) | |
| 837 | 石剣 | SI01 | ベルト1 南上層 | <6.55> | 2.75 | 0.6 | 14.65 | 粘板岩(北上山地) | |
| 838 | 石剣 | 9F | Ⅲ層 | 27.4 | 5.4 | 2.0 | 281.61 | 頁岩(北上山地) | |
| 839 | 石剣 | SI01 | ベルト1 南上層 | <27.1> | 3.5 | 1.3 | 209.74 | 粘板岩(北上山地) | |
| 840 | 石剣 | SI01 | K2埋土 | 27.2 | 3.2 | 1.5 | 204.13 | ホルンフェルス(北上山地) | |
| 841 | 石斧 | 9G | IV層 | <8.4> | 5.8 | 2.5 | 152.73 | 頁岩(北上山地) | |
| 842 | 石斧 | SI01 (8I) | 上層 | <7.0> | 3.0 | 1.9 | 69.35 | 頁岩(北上山地) | |
| 843 | 石斧 | 8I | IV層 | 9.1 | 3.9 | 2.2 | 124.99 | 細粒閃緑岩(北上山地) | |
| 844 | 石斧 | SI01 | 南東角上層 | 5.1 | 2.2 | 0.35 | 5.7 | 頁岩(北上山地) | |
| 845 | 石斧 | SI01 (8I) | 北側土器溜り | <7.6> | 4.8 | 3.5 | 195.12 | 頁岩(北上山地) | |
| 846 | 石斧 | 8K | IV層残 | 7.2 | 4.6 | 1.45 | 55.7 | 安山岩(北上山地) | |
| 847 | 打製石斧 | 田面1 | 西端部Ⅲ層~IV層上面 | 10.15 | 3.7 | 1.0 | 51.98 | 粘板岩(北上山地) | |
| 848 | 石剣 | SI02 | 埋土 | 8.95 | 1.8 | 0.15 | 3.63 | 頁岩(北上山地) | |
| 849 | 磨石 | 3U-66 | Ⅶ層 | 9.5 | 7.3 | 6.0 | 576.09 | 砂岩(北上山地) | |
| 850 | 敲磨器 | 7L | IV層 | 11.0 | 6.6 | 4.0 | 417.83 | 砂岩(北上山地) | |
| 851 | 磨石 | 4P | IV層 | 6.0 | 4.4 | 3.6 | 146.98 | 珩岩(北上山地) | |
| 852 | 磨石 | 4R | IV層 | 8.9 | 7.2 | 3.6 | 350.85 | 細粒閃緑岩(北上山地) | |
| 853 | 敲磨器 | 9J | IV層上 | 16.6 | 8.7 | 4.5 | 942.38 | 細粒閃緑岩(北上山地) | |
| 854 | 磨石 | 4S | IV層 | 9.9 | 7.9 | 4.1 | 525.61 | 細粒閃緑岩(北上山地) | |
| 855 | 磨石 | 4T | V層 | 9.9 | 8.8 | 5.9 | 723.43 | 珩岩(北上山地) | |
| 856 | 磨石 | 田面3 | トレンチ1 包含層北側 | 8.4 | 6.1 | 3.7 | 225.43 | 細粒閃緑岩(北上山地) | |
| 857 | 特殊磨石 | 5L | Ⅲ層 | 21.9 | 6.5 | 4.1 | 970.84 | 砂岩(北上山地) | |
| 858 | 敲石 | 9J | Ⅶ層19 | 5.4 | 3.9 | 3.4 | 81.06 | 砂岩(北上山地) | |
| 859 | 敲石 | SI03 | 埋土(9I) | 7.1 | 5.0 | 4.4 | 229.32 | 珩岩(北上山地) | |
| 860 | 敲石 | 4P | IV層 | 9.9 | 8.6 | 6.0 | 661.88 | 花崗閃緑岩(北上山地) | |
| 861 | 敲石 | 7N | 田面2 Ⅲ層下 | 12.5 | 4.1 | 2.1 | 202.38 | 頁岩(北上山地) | |
| 862 | 敲石 | 7N | 田面2 Ⅲ層下 | 17.5 | 4.7 | 3.3 | 341.79 | ホルンフェルス(北上山地) | |
| 863 | 敲石 | SI01 | ベルト1 南上層 | 13.6 | 6.5 | 4.0 | 514.82 | 砂岩(北上山地) | |
| 864 | 打製石斧 | 8J | 検出面IV層? | 18.8 | 5.6 | 4.0 | 540.97 | 頁岩(北上山地) | |
| 865 | 敲石 | SI01 | 南東角上層 | 12.2 | 5.6 | 2.9 | 259.91 | 砂岩(北上山地) | |
| 866 | 敲石 | 8I | IV層相当 | 15.9 | 3.75 | 3.6 | 603.45 | 粘板岩(北上山地) | |
| 867 | 敲石 | 田面1 | 西端部Ⅲ層~IV層上面 | 20.9 | 7.6 | 4.4 | 994.62 | ホルンフェルス(北上山地) | |
| 868 | 敲石 | 9I | IV層残り | 14.4 | 6.4 | 3.5 | 486.07 | 頁岩(北上山地) | |
| 869 | 敲石 | SI01 | 南東床面下IV層対応 | 15.05 | 4.95 | 4.65 | 827.2 | デイサイト(北上山地) | |
| 870 | 礫器 | SI01 | 東中上層 | <9.1> | 6.6 | 1.8 | 200.25 | 頁岩(北上山地) | |
| 871 | 台石 | | トレンチ1 残土 | 15.2 | 14.8 | 5.7 | 2001.75 | 花崗閃緑岩(北上山地) | |
| 872 | 台石 | 9K | IV層残り | 41.5 | <25.9> | 5.5 | 8000 | 細粒花崗閃緑岩(北上山地) | |
| 873 | 垂飾り | SI02 | 埋土最下層 | 9.5 | 3.2 | 0.7 | 26.58 | 粘板岩(北上山地) | |
| 874 | 軽石製品 | 8H | IV層 | 4.8 | 5.0 | 1.2 | 7.29 | 軽石(十和田湖周辺?) | |
| 875 | 軽石製品 | SI01 | K2埋土 | 4.0 | <4.7> | 1.5 | 6.92 | 軽石(十和田湖周辺?) | |
| 876 | 軽石製品 | 8H | IV層 | 7.2 | 5.6 | 4.5 | 52.12 | 軽石(十和田湖周辺?) | |
| 877 | 塊状耳飾 | SI03 | 床面直上 | <2.2> | 1.2 | 0.5 | 2.03 | 滑石(北上山地) | |
| 878 | 石棒? | SI03 | 埋土(9I) | 11.6 | 2.2 | 1.9 | 80.87 | 頁岩(北上山地) | |
| 879 | 垂飾り | 5P | Ⅲ層 | 6.5 | 5.0 | 1.5 | 70.26 | 砂岩(北上山地) | |
| 889 | 搔器 | 8L | Ⅲ層下 | 6.0 | 1.8 | 1.4 | 5.42 | 頁岩(北上山地) | 石匙? |
| 890 | 搔器 | 9H | Ⅶ層27 | 3.75 | 3.85 | 1.1 | 16.13 | 頁岩(北上山地) | |
| 891 | 搔器 | 2U | Ⅶ層258 | 14.05 | 3.1 | 0.9 | 13.06 | 頁岩(北上山地) | |
| 892 | 搔器 | 3S | Ⅶ層33 | 4.7 | 3.45 | 0.7 | 9.5 | 頁岩(北上山地) | |

3 出土遺物

| 掲載 No | 器 種 | 遺構・地点名 | 位置・層位 | 寸法 (cm・g) | | | | 石 質 | 備 考 |
|----------|-----|---------|-----------|-----------|-------|-------|-------|------------|-----|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | | |
| 893 | 撿器 | 5Q | Ⅶ層 48 | 6.25 | 3.2 | 1.2 | 18.74 | 頁岩 (北上山地) | |
| 894 | 撿器 | 9J | Ⅶ層 44 | 3.35 | 2.7 | 0.6 | 6.57 | 頁岩 (北上山地) | |
| 895 | 撿器 | 9I | Ⅶ層 52 | 3.7 | 2.8 | 0.8 | 9.57 | 頁岩 (北上山地) | |
| 896 | 撿器 | 4Q | Ⅶ層 19 | 2.95 | 3.7 | 0.7 | 8.47 | 頁岩 (北上山地) | |
| 897 | 撿器 | 2T | Ⅶ層 24 | <4.1> | <3.4> | <1.1> | 11.15 | 頁岩 (北上山地) | |
| 898 | 撿器 | 7J | Ⅶ層 25 | 5.3 | 1.4 | 0.6 | 4.37 | 頁岩 (北上山地) | |
| 899 | 撿器 | 7N | Ⅶ層 10 | 2.1 | 3.0 | 0.7 | 4.34 | 頁岩 (北上山地) | |
| 900 | 撿器 | 9I | Ⅶ層 34 | <3.55> | 2.35 | 0.65 | 5.16 | 頁岩 (北上山地) | |
| 901 | 撿器 | 9H | Ⅶ層 31 | <3.55> | 4.0 | 0.9 | 10.31 | 頁岩 (北上山地) | |
| 902 | 撿器 | 5Q | Ⅶ層 28 | 5.85 | 4.6 | 1.0 | 19.73 | 頁岩 (北上山地) | |
| 903 | 撿器 | 2U | Ⅶ層 104 | 3.7 | 2.7 | 0.85 | 7.66 | 頁岩 (北上山地) | |
| 904 | 撿器 | 10G | Ⅶ層 18 | <2.7> | 3.1 | 0.6 | 4.59 | 頁岩 (北上山地) | |
| 905 | 撿器 | 3S | Ⅶ層 19 | 4.4 | 2.5 | 0.7 | 7.19 | 頁岩 (北上山地) | |
| 906 | 撿器 | 7N | Ⅶ層 36 | <2.0> | 2.65 | 0.55 | 3.86 | 頁岩 (北上山地) | |
| 907 | 撿器 | 2U | Ⅶ層 219 | 4.0 | 3.1 | 1.0 | 9.3 | 頁岩 (北上山地) | |
| 908 | 撿器 | 3U | Ⅶ層 177 | 3.3 | 2.6 | 0.7 | 5.1 | 頁岩 (北上山地) | |
| 909 | 撿器 | 4S | Ⅶ層 89 | 6.4 | 2.4 | 0.7 | 9.06 | 頁岩 (北上山地) | |
| 910 | 撿器 | 2T | Ⅶ層 99 | <3.75> | 3.0 | 0.9 | 9.56 | 頁岩 (北上山地) | |
| 911 | 撿器 | 6O | Ⅶ層 16 | 3.0 | 4.05 | 0.8 | 12.22 | 頁岩 (北上山地) | |
| 912 | 撿器 | 6O | Ⅶ層 14 | 2.8 | 1.9 | 0.7 | 2.84 | 頁岩 (北上山地) | |
| 913 | 撿器 | 7N | Ⅶ層 49 | 3.6 | 2.8 | 0.7 | 7.79 | 頁岩 (北上山地) | |
| 914 | 撿器 | 2V | Ⅶ層 274 | 3.25 | 2.7 | 0.8 | 5.69 | 頁岩 (北上山地) | |
| 915 | 撿器 | 3T | Ⅶ層 2 | 5.0 | 3.2 | 1.0 | 10.98 | 凝灰岩 (北上山地) | |
| 916 | 撿器 | 7K | Ⅶ層 | 3.7 | 2.8 | 0.9 | 7.35 | 頁岩 (北上山地) | |
| 917 | 撿器 | 8L | Ⅶ層 20 | 2.95 | 3.2 | 0.8 | 5.68 | 頁岩 (北上山地) | |
| 918 | 撿器 | 4Q | Ⅶ層 2 | 2.8 | 3.7 | 0.9 | 10.48 | 頁岩 (北上山地) | |
| 919 | 撿器 | 3T | Ⅶ層 157 | 3.7 | 4.6 | 1.9 | 18.76 | 頁岩 (北上山地) | |
| 920 | 撿器 | | トレンチ 3 V層 | 4.0 | 4.85 | 1.3 | 22.09 | 頁岩 (北上山地) | |
| 921 | 撿器 | 9K | Ⅵ層 | 3.4 | 1.5 | 0.4 | 2.34 | 頁岩 (北上山地) | |
| 922 | 撿器 | 7K | Ⅶ層 | 3.5 | 2.0 | 0.5 | 2.65 | 頁岩 (北上山地) | |
| 923 | 撿器 | 8K | Ⅵ層 | 3.0 | 2.45 | 0.55 | 3.98 | 頁岩 (北上山地) | |
| 924 | 撿器 | 8I | 西中上層 | 4.2 | 4.7 | 1.0 | 15.45 | 頁岩 (北上山地) | |
| 925 | 撿器 | トレンチ 3 | V～Ⅵ層相当 | 6.4 | 4.2 | 1.0 | 21.46 | 頁岩 (北上山地) | |
| 926 | 撿器 | SI01 範囲 | 南西床下Ⅵ層相当 | 3.35 | 3.5 | 0.9 | 9.81 | 頁岩 (北上山地) | |
| 927 | 撿器 | SI01 範囲 | 南西床下Ⅵ層相当 | 3.5 | 2.9 | 0.8 | 6.92 | 頁岩 (北上山地) | |
| 928 | 撿器 | SI01 範囲 | 南東・床面下Ⅵ層 | 3.9 | 2.3 | 0.5 | 5.02 | 頁岩 (北上山地) | |
| 929 | 撿器 | 4R | Ⅵ層 | 3.0 | 3.6 | 0.7 | 7.63 | 頁岩 (北上山地) | |
| 930 | 撿器 | 6P | Ⅵ層 | 5.6 | 2.1 | 1.1 | 14.49 | 頁岩 (北上山地) | |
| 931 | 撿器 | トレンチ 2 | Ⅵ層 | 2.3 | 3.6 | 0.55 | 3.72 | 頁岩 (北上山地) | |
| 932 | 撿器 | SI01 範囲 | SI01 範囲Ⅵ層 | 2.3 | 2.1 | 0.3 | 1.39 | 頁岩 (北上山地) | |
| 933 | 撿器 | 8K | Ⅶ層 18 | 2.05 | 2.1 | 0.4 | 1.83 | 頁岩 (北上山地) | |
| 934 | 撿器 | SI01 範囲 | 南西床下Ⅵ層相当 | 2.7 | 2.95 | 0.7 | 3.3 | 頁岩 (北上山地) | |
| 935 | 撿器 | SI01 範囲 | 南西床下Ⅵ層相当 | 2.5 | 3.05 | 0.5 | 3.08 | 頁岩 (北上山地) | |
| 936 | 撿器 | 6O | V層 | 6.25 | 5.1 | 1.0 | 29.92 | 頁岩 (北上山地) | |
| 937 | 撿器 | 7P | Ⅵ層以下 | 2.9 | 1.3 | 0.3 | 1.19 | 頁岩 (北上山地) | |
| 938 | 撿器 | SI01 範囲 | 範囲Ⅵ層 | 2.3 | 3.6 | 0.35 | 2.46 | 頁岩 (北上山地) | |
| 939 | 撿器 | 2V | Ⅳ～Ⅶ層 | 3.85 | 4.15 | 1.2 | 14.01 | 頁岩 (北上山地) | |
| 940 | 撿器 | トレンチ 3 | Ⅵ層 | 3.7 | 2.4 | 0.7 | 5.61 | 頁岩 (北上山地) | |
| 941 | 撿器 | 7M | V層 | 3.8 | 2.2 | 0.7 | 3.69 | 頁岩 (北上山地) | |
| 942 | 撿器 | SI01 範囲 | Ⅵ層 | 3.7 | 3.8 | 1.35 | 17.8 | 頁岩 (北上山地) | |
| 943 | 撿器 | 10F | Ⅵ層 | 4.3 | 2.45 | 0.8 | 6.37 | 頁岩 (北上山地) | |

| 掲載 No | 器種 | 遺構・地点名 | 位置・層位 | 寸法 (cm・g) | | | | 石質 | 備考 |
|----------|----|--------|----------|-----------|-------|-------|-------|----------|----|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | | |
| 944 | 搔器 | 9I | VI層 | 4.8 | 3.2 | 1.25 | 19.83 | 頁岩(北上山地) | |
| 945 | 搔器 | 8F | V層 | 4.2 | 2.6 | 0.75 | 8.28 | 頁岩(北上山地) | |
| 946 | 搔器 | 2V | IV～VII層 | 2.2 | 1.6 | 1.22 | 1.22 | 頁岩(北上山地) | |
| 947 | 搔器 | 8I | VI層 | 5.15 | 4.0 | 1.0 | 22.11 | 頁岩(北上山地) | |
| 948 | 搔器 | 8L | IV層上 | 4.0 | 2.7 | 1.2 | 10.87 | 頁岩(北上山地) | |
| 949 | 搔器 | 8H | IV層 | 4.3 | 5.6 | 1.0 | 25.06 | 頁岩(北上山地) | |
| 950 | 搔器 | 8K | IV層下部 | 5.1 | 3.1 | 1.1 | 15.93 | 頁岩(北上山地) | |
| 951 | 搔器 | 10B | IV層 | 4.3 | 6.0 | 1.0 | 16.21 | 頁岩(北上山地) | |
| 952 | 搔器 | 8I | IV上層 | 4.4 | 4.8 | 1.1 | 23.88 | 頁岩(北上山地) | |
| 953 | 搔器 | 9I | 南西隅IV層相当 | 6.7 | 2.8 | 0.9 | 15.46 | 頁岩(北上山地) | |
| 954 | 搔器 | 9C | IV層土 | 2.95 | 3.05 | 0.5 | 5.31 | 頁岩(北上山地) | |
| 955 | 搔器 | 4R | IV層 | 5.5 | 3.2 | 1.0 | 12.23 | 頁岩(北上山地) | |
| 956 | 搔器 | 9G | IV層 | 5.4 | 3.45 | 0.95 | 15.62 | 頁岩(北上山地) | |
| 957 | 搔器 | 6N | IV層 | 4.4 | 4.7 | 0.7 | 11.13 | 頁岩(北上山地) | |
| 958 | 搔器 | 10C | IV層 | 4.7 | 3.1 | 0.8 | 7.06 | 頁岩(北上山地) | |
| 959 | 搔器 | 9J | IV層上 | 2.7 | 3.7 | 0.7 | 6.26 | 頁岩(北上山地) | |
| 960 | 搔器 | 9G | IV層上 | 3.8 | 2.3 | 0.5 | 3.83 | 頁岩(北上山地) | |
| 961 | 搔器 | 8Ib | IV層相当 | 4.2 | 3.2 | 0.9 | 11.12 | 頁岩(北上山地) | |
| 962 | 搔器 | 8I | IV上層 | 3.2 | 3.9 | 0.9 | 9.12 | 頁岩(北上山地) | |
| 963 | 搔器 | 9G | IV層上 | 5.6 | 3.5 | 1.1 | 20.56 | 頁岩(北上山地) | |
| 964 | 搔器 | 10D | IV層 | 4.3 | 3.5 | 1.1 | 14.28 | 頁岩(北上山地) | |
| 965 | 搔器 | 8K | IV層下部 | 4.5 | 2.5 | 1.2 | 10.89 | 頁岩(北上山地) | |
| 966 | 搔器 | 6N | IV層 | 3.0 | 3.0 | 0.8 | 6.23 | 頁岩(北上山地) | |
| 967 | 搔器 | 9M | IV層 | 4.2 | 4.7 | 1.2 | 21.39 | 頁岩(北上山地) | |
| 968 | 搔器 | 8K | IV層上層 | 3.0 | 3.5 | 0.6 | 4.71 | 頁岩(北上山地) | |
| 969 | 搔器 | 9F | IV層 | 5.0 | 5.4 | 1.1 | 26.13 | 頁岩(北上山地) | |
| 970 | 搔器 | 7L | IV層上 | 3.9 | 1.6 | 0.45 | 1.78 | 頁岩(北上山地) | |
| 971 | 搔器 | 4R | IV層 | 4.4 | 5.2 | 1.0 | 26.84 | 頁岩(北上山地) | |
| 972 | 搔器 | 6N | IV層 | 3.35 | 3.2 | 1.0 | 8.52 | 頁岩(北上山地) | |
| 973 | 搔器 | 9K | IV層 | 6.65 | 3.5 | 0.9 | 14.12 | 頁岩(北上山地) | |
| 974 | 搔器 | 9K | IV層 | 3.95 | 2.1 | 0.9 | 6.32 | 頁岩(北上山地) | |
| 975 | 搔器 | 7L | IV層上 | 3.2 | 3.0 | 0.7 | 6.16 | 頁岩(北上山地) | |
| 976 | 搔器 | 10C | IV層 | 5.7 | 3.2 | 1.1 | 18.74 | 頁岩(北上山地) | |
| 977 | 搔器 | 9I | IV層 | 2.9 | 3.4 | 0.8 | 7.94 | 頁岩(北上山地) | |
| 978 | 搔器 | 9H | IV層 | 3.5 | 3.7 | 0.9 | 7.01 | 頁岩(北上山地) | |
| 979 | 搔器 | 9H | IV層 | <3.35> | 3.8 | 1.1 | 13.36 | 頁岩(北上山地) | |
| 980 | 搔器 | 7L | IV層上 | 5.6 | 4.5 | 1.6 | 35.86 | 頁岩(北上山地) | |
| 981 | 搔器 | 8H | IV層 | 5.2 | 4.0 | 1.0 | 15.07 | 頁岩(北上山地) | |
| 982 | 搔器 | 9K | IV層 | 3.2 | 4.2 | 0.8 | 7.08 | 頁岩(北上山地) | |
| 983 | 搔器 | 8Ib | IV層相当 | 6.1 | 2.4 | 0.7 | 8.48 | 頁岩(北上山地) | |
| 984 | 搔器 | 8K | IV層下部 | 4.6 | 4.0 | 0.7 | 10.11 | 頁岩(北上山地) | |
| 985 | 搔器 | 9H | IV層 | 4.0 | 3.7 | 0.9 | 10.73 | 頁岩(北上山地) | |
| 986 | 搔器 | 9G | IV層上 | 2.6 | 3.3 | 0.8 | 6.23 | 頁岩(北上山地) | |
| 987 | 搔器 | 8K | IV上層 | 5.1 | 3.3 | 1.1 | 17.56 | 頁岩(北上山地) | |
| 988 | 搔器 | 8Ib | IV層相当 | 4.1 | 2.5 | 1.1 | 9.62 | 頁岩(北上山地) | |
| 989 | 搔器 | 9K | IV層 | 4.5 | 4.3 | 1.2 | 21.56 | 頁岩(北上山地) | |
| 990 | 搔器 | 10C | IV層 | 4.0 | 2.75 | 0.8 | 6.03 | 頁岩(北上山地) | |
| 991 | 搔器 | 8Ic | IV層相当 | 5.4 | 4.3 | 0.7 | 20.86 | 頁岩(北上山地) | |
| 992 | 搔器 | 9I | IV層残り | 5.1 | 2.8 | 0.5 | 7.51 | 頁岩(北上山地) | |
| 993 | 搔器 | 8Ic | IV層相当 | <3.9> | <1.7> | <0.8> | 3.44 | 頁岩(北上山地) | |
| 994 | 搔器 | 9M | IV層 | 3.6 | 4.0 | 0.85 | 10.88 | 頁岩(北上山地) | |

3 出土遺物

| 掲載 No | 器 種 | 遺構・地点名 | 位置・層位 | 寸法 (cm・g) | | | | 石 質 | 備 考 |
|----------|-----|--------|-----------------|-----------|------|------|-------|-----------|-----|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | | |
| 995 | 搔器 | 8Ib | IV層相当 | 4.0 | 3.0 | 0.65 | 8.63 | 頁岩 (北上山地) | |
| 996 | 搔器 | 8Ib | IV層相当 | 4.1 | 4.2 | 1.0 | 15.98 | 頁岩 (北上山地) | |
| 997 | 搔器 | 9M | IV層 | 4.7 | 5.1 | 1.4 | 38.01 | 頁岩 (北上山地) | |
| 998 | 搔器 | 9I | 検出面IV層相当 | 9.1 | 4.3 | 1.5 | 43.68 | 頁岩 (北上山地) | |
| 999 | 搔器 | 10A | IV層 | 3.6 | 4.3 | 0.8 | 12.42 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1000 | 搔器 | 8Ic | IV層相当 | 3.0 | 4.3 | 1.0 | 13.26 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1001 | 搔器 | 9K | IV層 | 6.6 | 3.5 | 0.6 | 14.93 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1002 | 搔器 | 9K | IV層 | 3.4 | 2.6 | 0.8 | 5.68 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1003 | 搔器 | 8Ib | IV層 | 3.8 | 2.1 | 0.9 | 6.53 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1004 | 搔器 | 9G | IV層 | 6.65 | 3.45 | 1.2 | 28.19 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1005 | 搔器 | 8Ib | IV層相当 | 2.4 | 2.65 | 0.55 | 4.4 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1006 | 搔器 | 7I | IV層 | 3.65 | 2.2 | 0.6 | 4.12 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1007 | 搔器 | 10B | IV層 | 3.95 | 2.0 | 0.7 | 5.38 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1008 | 搔器 | 8Ib | IV層相当 | 7.5 | 3.75 | 1.4 | 30.78 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1009 | 搔器 | 10B | IV層 | 4.35 | 4.45 | 0.9 | 12.72 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1010 | 搔器 | 9G | IV層 | 5.7 | 2.9 | 1.4 | 17.46 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1011 | 搔器 | 8K | IV層 | 3.8 | 3.4 | 0.8 | 6.87 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1012 | 搔器 | 9F | IV層 | 3.5 | 2.8 | 0.6 | 4.52 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1013 | 搔器 | 9B | IV層上部 | 4.4 | 4.2 | 0.8 | 13.49 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1014 | 搔器 | 10D | IV層 | 3.9 | 3.3 | 1.0 | 7.56 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1015 | 搔器 | 4R | IV層 | 3.5 | 3.5 | 0.8 | 11.36 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1016 | 搔器 | 8J | IV層 | 2.9 | 3.9 | 1.3 | 8.53 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1017 | 搔器 | 9K | IV層 | 5.9 | 4.8 | 1.2 | 31.54 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1018 | 搔器 | 6N | IV層残り | 3.7 | 3.5 | 1.0 | 10.53 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1019 | 搔器 | 4R | IV層 | 3.6 | 5.9 | 0.9 | 16.03 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1020 | 搔器 | 5O | IV層 | <2.2> | 2.7 | 0.65 | 4.59 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1021 | 搔器 | 4R | IV層 | 3.5 | 6.3 | 1.35 | 27.66 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1022 | 搔器 | トレンチ1 | 晩期包含層下部III層 | 5.8 | 3.65 | 1.2 | 28.49 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1023 | 搔器 | 9G | III層 | 4.2 | 3.3 | 0.9 | 10.59 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1024 | 搔器 | 田面1 | 西端部III～IV層上面 | 4.1 | 3.1 | 0.65 | 6.7 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1025 | 搔器 | 9F | III層 | 3.6 | 4.4 | 0.9 | 16.52 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1026 | 搔器 | 5P | III層 | 5.4 | 5.3 | 1.4 | 40.48 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1027 | 搔器 | 9G | III層 | 4.85 | 4.35 | 1.5 | 29.8 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1028 | 搔器 | 田面2 | 機械掘削 (III層相当) | 5.1 | 6.5 | 1.1 | 26.44 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1029 | 搔器 | 10C | III層 | 4.95 | 3.4 | 1.1 | 11.93 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1030 | 搔器 | 9F | III層 | 5.6 | 5.3 | 1.2 | 30.37 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1031 | 搔器 | 5P | III層上部 | 2.9 | 2.65 | 0.4 | 2.38 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1032 | 搔器 | 9G | III層 | 5.7 | 3.0 | 1.0 | 17.01 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1033 | 搔器 | 7L | III層下 | 5.4 | 3.2 | 0.8 | 9.65 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1034 | 搔器 | 7L | III層下 | 4.2 | 4.95 | 1.4 | 19.99 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1035 | 搔器 | 8Ja | 上層 (III～IV層相当) | 5.05 | 6.6 | 1.1 | 33.52 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1036 | 搔器 | 9H | III層 | 4.2 | 3.15 | 0.7 | 11.77 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1037 | 搔器 | 9C | III層 | 6.9 | 7.15 | 1.1 | 47.38 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1038 | 搔器 | 7N | III層下 | 4.6 | 3.8 | 0.8 | 13.7 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1039 | 搔器 | 5J | III層 | 6.3 | 3.8 | 0.8 | 14.57 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1040 | 搔器 | | トレンチ壁面精査中III層相当 | 3.6 | 2.4 | 0.6 | 4.22 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1041 | 搔器 | 6P | グリットIII層上部 | 2.5 | 2.4 | 0.6 | 3.84 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1042 | 搔器 | 9G | III層 | 5.3 | 3.5 | 0.9 | 16.42 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1043 | 搔器 | 9G | III層 | 3.8 | 2.55 | 0.8 | 8.56 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1044 | 搔器 | 6N | III層 | 7.2 | 4.8 | 0.9 | 34.41 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1045 | 搔器 | 5P | III層上部 | 4.3 | 3.1 | 0.9 | 16.14 | 頁岩 (北上山地) | |

| 掲載 No | 器 種 | 遺構・地点名 | 位置・層位 | 寸法 (cm・g) | | | | 石 質 | 備 考 |
|----------|-----|--------|------------------|-----------|------|------|-------|------------|-----|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | | |
| 1046 | 搔器 | 5J | Ⅲ層 | 3.3 | 5.6 | 1.0 | 15.87 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1047 | 搔器 | 9D | Ⅲ層 | 5.55 | 3.9 | 1.2 | 21.36 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1048 | 搔器 | 9G | Ⅲ層 | 3.8 | 4.3 | 1.15 | 12.56 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1049 | 搔器 | 5J | Ⅲ層 | 3.35 | 3.3 | 0.9 | 9.07 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1050 | 搔器 | 5J | Ⅲ層 | 6.1 | 3.55 | 1.0 | 17.68 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1051 | 搔器 | 5J | Ⅲ層 | 5.6 | 3.6 | 1.2 | 13.34 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1052 | 搔器 | 7N | Ⅲ層下 | 4.75 | 5.35 | 1.2 | 26.42 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1053 | 搔器 | 9G | Ⅲ層 | 4.0 | 5.55 | 1.0 | 18.72 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1054 | 搔器 | 9H | Ⅲ層 | 5.7 | 5.5 | 1.6 | 32.29 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1055 | 搔器 | 9G | Ⅲ層 | 3.3 | 3.4 | 1.0 | 13.39 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1056 | 搔器 | 7L | Ⅲ層下 | 3.95 | 4.35 | 0.8 | 10.27 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1057 | 搔器 | 5O | Ⅲ層上部 | 4.5 | 2.8 | 1.0 | 10.24 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1058 | 搔器 | 5K | Ⅲ層 | 4.0 | 2.9 | 0.85 | 5.24 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1059 | 搔器 | 8L | Ⅲ層下 | 4.1 | 2.2 | 0.9 | 6.38 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1060 | 搔器 | 5P | Ⅲ層 | 3.3 | 3.4 | 0.85 | 6.45 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1061 | 搔器 | | 田面1西端機械掘削Ⅲ層 | 4.75 | 3.1 | 0.85 | 10.26 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1062 | 搔器 | | 田面1西端部Ⅲ層～4層上面 | 4.6 | 4.0 | 0.8 | 18.87 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1063 | 搔器 | 9B | Ⅲ層 | 5.9 | 3.7 | 0.8 | 18.26 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1064 | 搔器 | 8L | Ⅲ層下 | 5.5 | 3.4 | 1.1 | 15.35 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1065 | 搔器 | 5K | Ⅲ層 | 6.35 | 3.4 | 0.9 | 14.52 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1066 | 搔器 | 5K | Ⅲ層 | 5.2 | 3.0 | 0.8 | 6.93 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1067 | 搔器 | 8L | Ⅲ層下 | 5.9 | 4.4 | 1.05 | 20.16 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1068 | 搔器 | 7L | Ⅲ層下 | 5.3 | 4.1 | 1.4 | 22.39 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1069 | 搔器 | 9G | Ⅲ層 | 4.3 | 2.5 | 0.95 | 11.29 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1070 | 搔器 | 7L | Ⅲ層の残り | 3.4 | 3.9 | 1.0 | 12.41 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1071 | 搔器 | 5O | Ⅲ層上部 | 2.3 | 3.0 | 0.55 | 4.02 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1072 | 搔器 | 9G | Ⅲ層 | 3.6 | 3.9 | 1.2 | 17.27 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1073 | 搔器 | 9C | Ⅲ層 | 3.7 | 3.2 | 0.8 | 8.51 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1074 | 搔器 | SI01 | 住居内土坑1埋土 | 5.4 | 4.5 | 1.0 | 15.41 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1075 | 搔器 | SI01 | 南東角上層 | 3.9 | 4.5 | 1.0 | 12.95 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1076 | 搔器 | SI01 | 東中土層 | 3.1 | 3.4 | 0.5 | 4.29 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1077 | 搔器 | SI01 | ベルト2東 | 5.1 | 3.2 | 0.9 | 12.41 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1078 | 搔器 | SI01 | 南東角埋土中層 | 2.8 | 3.3 | 0.7 | 8.42 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1079 | 搔器 | SI01 | ベルト3北下層 | 6.4 | 3.4 | 1.1 | 20.56 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1080 | 搔器 | SI01 | 南西角上層 (黒色土層) | 3.85 | 3.2 | 0.75 | 5.95 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1081 | 搔器 | SI01 | 東中埋土中層 | 3.0 | 2.9 | 0.55 | 6.54 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1082 | 搔器 | SI01 | 南東角埋土中層 | 4.0 | 3.3 | 0.8 | 11.13 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1083 | 搔器 | SI01 | ベルト4東下層 | 5.0 | 5.2 | 1.2 | 25.57 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1084 | 搔器 | SI01 | 南西角埋土下層 | 4.5 | 6.6 | 1.65 | 49.13 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1085 | 搔器 | SI01 | 南東角埋土中層 | 6.3 | 4.7 | 1.1 | 36.26 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1086 | 搔器 | SI01 | 西中上層 (8I) | 2.7 | 3.7 | 0.5 | 4.27 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1087 | 搔器 | SI01 | 東中土層 | 2.65 | 2.8 | 0.6 | 4.37 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1088 | 搔器 | SI01 | 西中貼床 | 2.5 | 2.1 | 0.5 | 2.36 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1089 | 搔器 | SI01 | 西中上層 (8I) | <2.3> | 2.6 | 0.6 | 3.59 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1090 | 搔器 | SI01 | 中東下層 | 4.75 | 7.8 | 1.0 | 31.87 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1091 | 搔器 | SI01 | 埋土上層 (黒褐色土) (8I) | 5.3 | 7.9 | 1.3 | 38.03 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1092 | 搔器 | SI01 | 埋土上層 (黒褐色土) (8I) | 4.0 | 3.5 | 1.0 | 15.88 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1093 | 搔器 | SI01 | 南東角上層 | 5.5 | 3.9 | 1.0 | 15.75 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1094 | 搔器 | SI01 | 南東側火山灰貼床 | 2.0 | 3.3 | 0.8 | 4.01 | 凝灰岩 (北上山地) | |
| 1095 | 搔器 | SI01 | ベルト2東 | 5.2 | 3.5 | 0.95 | 15.94 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1096 | 搔器 | SI01 | ベルト2東下層 | 1.0 | 1.4 | 0.3 | 0.33 | 黒曜石 (産地不明) | |

3 出土遺物

| 掲載 No | 器 種 | 遺構・地点名 | 位置・層位 | 寸法 (cm・g) | | | | 石 質 | 備 考 |
|----------|-----|--------|------------------|-----------|------|------|-------|-----------|-----|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | | |
| 1097 | 撿器 | SI01 | 東中埋土中層 | 4.8 | 4.0 | 0.9 | 14.49 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1098 | 撿器 | SI01 | 南東角埋土中層 | 5.1 | 3.15 | 1.1 | 18.43 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1099 | 撿器 | SI01 | 南側土器溜り (8I) | 4.2 | 5.4 | 1.3 | 19.58 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1100 | 撿器 | SI01 | 埋土上層 (黒褐色土) (8I) | 3.1 | 2.1 | 0.35 | 2.34 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1101 | 撿器 | SI01 | 南東角上層 | 4.4 | 6.0 | 1.3 | 27.68 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1102 | 撿器 | SI01 | 埋土下層 | 4.1 | 1.9 | 0.85 | 4.67 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1103 | 撿器 | SI01 | 南東角上層 | 5.3 | 2.4 | 0.4 | 4.62 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1104 | 撿器 | SI01 | 南東角埋土下層 | 6.2 | 3.8 | 1.7 | 26.95 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1105 | 撿器 | SI01 | 埋土上層 (黒色土) (9J) | 3.1 | 5.3 | 1.0 | 17.01 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1106 | 撿器 | SI01 | 埋土上層 (黒色土) (9J) | 5.05 | 4.8 | 1.0 | 21.16 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1107 | 撿器 | SI01 | 西中埋土上部遺物集中南側 | 4.7 | 2.9 | 0.75 | 11.03 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1108 | 撿器 | SI01 | 西中上層 (8I) | 4.9 | 2.0 | 0.6 | 5.62 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1109 | 撿器 | SI01 | 南東角埋土下層 | 3.7 | 2.7 | 0.9 | 8.24 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1110 | 撿器 | SI01 | 南東角上層 | 4.8 | 5.9 | 1.1 | 31.47 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1111 | 撿器 | SI01 | 西中上層 (8I) | 3.2 | 1.9 | 0.4 | 1.84 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1112 | 撿器 | SI03 | 床面検出中 (最下層) | 3.8 | 2.3 | 1.1 | 5.71 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1113 | 撿器 | SK05 | 埋土上層 | 2.6 | 1.9 | 0.3 | 1.84 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1114 | 撿器 | SI03 | 埋土 (9I) | 3.2 | 4.3 | 0.9 | 12.11 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1115 | 撿器 | SK01 | 埋土 | 3.0 | 4.1 | 0.8 | 7.52 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1116 | 撿器 | SK01 | 埋土 | 3.4 | 6.7 | 1.2 | 23.95 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1117 | 撿器 | SI03 | 床面検出中 (最下層) 03 | 3.2 | 3.3 | 0.8 | 10.66 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1118 | 撿器 | SI03 | 埋土 (9I) | 2.5 | 3.4 | 0.8 | 3.48 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1119 | 撿器 | SI03 | 埋土 (9I) | 6.15 | 2.4 | 1.1 | 9.82 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1120 | 撿器 | SI03 | 埋土 (9I) | 5.7 | 3.8 | 0.9 | 15.82 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1121 | 撿器 | SI03 | 埋土 (9J) | 4.75 | 1.8 | 0.4 | 3.76 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1122 | 撿器 | SI03 | 埋土 (9H) | 5.2 | 4.4 | 1.1 | 20.53 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1123 | 撿器 | SK01 | 埋土中位 | <2.6> | 2.6 | 0.75 | 4.71 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1124 | 撿器 | 田面 3 | 表採 | 5.5 | 2.2 | 0.55 | 7.18 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1125 | 撿器 | 田面 1 | 試掘トレンチ周辺 | 2.8 | 2.0 | 0.6 | 2.89 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1126 | 撿器 | 田面 4 | 壁面 | 6.2 | 4.5 | 0.95 | 23.24 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1127 | 撿器 | 田面 1 | 機械掘削 (黒色土) | 4.5 | 3.0 | 0.65 | 10.89 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1128 | 撿器 | 8G | 南側張出 1 部検出面 | <5.8> | 3.1 | 1.3 | 19.77 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1129 | 撿器 | 8G | 南側張出 1 部検出面 | 5.1 | 2.0 | 0.75 | 5.52 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1130 | 撿器 | 田面 3 | 表採 | 7.3 | 4.8 | 1.8 | 76.37 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1131 | 撿器 | 8I | 試掘トレンチ中 | 2.0 | 2.5 | 0.75 | 4.01 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1132 | 撿器 | | トレンチ 1 | 7.3 | 4.5 | 1.2 | 25.44 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1133 | 撿器 | 田面 3 | トレンチ 2 | 5.75 | 5.2 | 1.3 | 29.36 | 頁岩 (北上山地) | |
| 1134 | 撿器 | | 試掘トレンチ 1 耕作土層 | 3.4 | 2.8 | 0.85 | 5.94 | 頁岩 (北上山地) | |

第 6 表 掲載遺物一覧 (土製品)

| 掲載 No | 種 別 | 出土位置・層位 | 寸法 (cm・g) | | | | 色 調 | 備 考 |
|----------|-------|----------|-----------|-------|------|-------|--------|-----|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | | |
| 880 | 土器片円盤 | 4Q・Ⅲ層 | 5.5 | 5.8 | 0.6 | 20.35 | 暗褐色 | |
| 881 | 土器片円盤 | 4Q・Ⅲ層 | 3.9 | 4.0 | 0.6 | 13.37 | にぶい黄褐色 | |
| 882 | 土器片円盤 | 5P・Ⅲ層 | 4.05 | 4.2 | 0.6 | 9.82 | 灰黄褐色 | |
| 883 | 土器片円盤 | 5Q・Ⅰ～Ⅱ層 | 3.0 | 3.0 | 0.5 | 4.81 | 黒褐色 | |
| 884 | 土器片円盤 | 10C・Ⅳ層 | 6.4 | <3.2> | 0.9 | 15.62 | 褐色 | |
| 885 | 耳栓 | 調査区北側・Ⅲ層 | 3.0 | 2.0 | 2.0 | 7.29 | 橙色 | |
| 886 | 不明 | 9I・Ⅳ層 | <5.4> | 1.7 | 1.3 | 13.09 | 褐色 | 粘土塊 |
| 887 | 不明 | 9J | 2.75 | 3.4 | 2.5 | 14.2 | 橙色 | 粘土塊 |
| 888 | 不明 | 9C・Ⅲ層 | 1.9 | 2.25 | 2.15 | 8.11 | 明褐色 | 球形 |

V 科学的分析と測定

1 目的と方法

今回の発掘調査で検出した火山灰について、その同定について理化学的分析を依頼した。火山灰は調査区内のより低い位置に堆積しており、今回の調査での基本層序のV層に該当するものである。この上下する層位およびV層中において縄文時代の遺物が一定量認められることから、その降下時期および噴出源を特定することを第一義としておこなった。発掘調査時点においては、出土する土器の年代を考古学的に考えると東北地方で検出される広域火山灰のうち、青森県十和田湖を噴出起源とする十和田中掬火山灰である可能性がきわめて高いと想定した。したがって、これ以外のテフラであると同定された場合は、土器の年代観や堆積年代において大きく見直しを図る必要があると考えた。発掘調査で検出した火山灰は、層をなしており、層中の火山灰が密な箇所は乳白色から黄色を呈し、その上部にあるブロック状に堆積した箇所については明るい黄橙色から灰色の色調であった。調査区内の低い地点に集中して認められ、地形の大きな凹みや遺構の凹みには周囲から流れ集まったような状況が看取された。この上下2重構造となっている火山灰層をそれぞれ調査現場において発掘調査担当者の手により採取し、依頼先の分析機関へと送付した。なお、試料採取には空フィルムケースを採土管の代用とし、火山灰試料は、上部の火山灰層を試料1、下部の火山灰層を試料2とした。以上、2試料についてテフラ検出分析、テフラ組成分析、屈折率測定分析をそれぞれ実施依頼し、その結果については次節の通りである。

次に、今回出土した土器の実年代を調べる必要性から土器付着炭化物の放射性炭素による年代測定(AMS測定)を外部へ依頼した。一般的に、土器はこれまでの精緻な編年研究による考古学的な年代観を与えることはできるが、この手法では土器同士の相対的な先後関係を決めることに限定される。一方、近年放射性炭素の加速器分析による年代測定方法の発展により、非常に精緻な実年代を求めることが可能となった。これにより発掘調査で得られた考古資料の炭化物の年代測定も盛んにおこなわれており、そのデータも徐々に蓄積されている。しかし、これは直ちに考古学的手法による編年研究を否定するものではなく、その重要性は未だ普遍的なものであることは述べるまでもない。しかし、今回出土した土器の中で縄文時代早期中葉の土器群は、岩手県内はもとより全国的に資料数が少なく、そのため編年研究においても土器の持つ実年代の重要性は他時期の土器よりも高いと考えられる。また、良好な炭化物のサンプルに恵まれることも稀であることから、これら土器群に付着した炭化物の実年代を明らかにするとともに、今後の主要な比較資料となりうることを考慮し、実施するに至った。

測定試料は、すべて今回発掘調査でⅦ層より出土した計5点の土器から採取した付着炭化物である。土器は取り上げ時に、出土地点を測量しており、その番号のまま依頼した。試料No.1は8Lグリッド26、No.2は9Gグリッド32、No.3は2Vグリッド283、No.4は9Fグリッド12、No.5は11Gグリッド50であり、前章遺物実測図に試料No.を付記している。いずれも発掘調査後、洗浄および接合等を終えた土器を用いた。これらの採取に当たっては、慎重を期すため発掘調査担当者が測定機関に土器そのものを直接持参し、そこで測定担当者が炭化物の採取をおこなった。測定はそれぞれ加速器によるものとし、暦年較正年代等が国際基準に沿うように結果を求めた。その結果については3節の通りである。

(福島)

2 火山灰分析

(1) はじめに

東北地方岩手県南部とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層や土壌の中には、焼石、栗駒、鳴子、肘折、十和田など東北地方の火山のほか、洞爺、浅間、御岳、三瓶、阿蘇、始良、鬼界など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物^{さいせつぶつ}、いわゆる火山灰）が数多く認められる（Arai et al., 1986, 早田・八木, 1991, 町田・新井, 1992, 2003 など）。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、発掘調査の際にテフラ層が認められた住田町山脈地でも、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、テフラ検出分析、火山ガラス比分析と重鉍物組成分析を合わせたテフラ組成分析、火山ガラスの屈折率測定を実施して、テフラ層と指標テフラとの同定を実施することになった。分析の対象となった試料は、V層の下部から採取された試料2と、V層上部から採取された試料1の2試料である。

(2) テフラ検出分析

分析試料と分析方法

試料2と試料1について、テフラ粒子の量や特徴を相対的に求めるテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 2試料について、それぞれ8gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の相対的な量や特徴を観察。

分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。試料2には、繊維束状やスポンジ状に発泡した軽石型ガラスのほか、平板状のいわゆるバブル型や、分厚い中間型の火山ガラスが多く含まれている。火山ガラスは透明なものが多く、ほかに褐色や白色のものも認められる。ただ透明とはいえ、実際にはごくわずかに淡褐色をおびたものが多く、洗浄乾燥後の試料は全体として淡褐色に見える。

試料1にも火山ガラスが多く含まれている。それらは、スポンジ状や繊維束状に発泡した軽石型や、中間型である。

(3) テフラ組成分析（火山ガラス比分析・重鉍物組成分析）

分析試料と分析方法

試料2と試料1について、火山ガラス比分析と重鉍物組成分析を合わせたテフラ組成分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) テフラ検出分析済みの試料について、分析篩を用いて1/4～1/8mmと1/8～1/16mmの粒子を篩別。
- 2) 偏光顕微鏡下で1/4～1/8mm粒径の250粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別比率を求める（火山ガラス比分析）。

- 1) 偏光顕微鏡下で1/4～1/8mm粒径の重鉍物250粒子を観察し、重鉍物組成を求める（重鉍物組成分析）。

分析結果

テフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして第135図に、火山ガラス比と重鉱物組成の内訳を表2と表3に示す。試料2には、火山ガラスが比較的多く含まれている(15.2%)。それらは、比率が高い順に繊維束状の軽石型(4.8%)、スポンジ状の軽石型(4.4%)、中間型(3.6%)、透明のバブル型(2.4%)である。重鉱物としては、鉄鉱物が多いものの(46.4%)、ほかに斜方輝石(38.8%)、単斜輝石(16.8%)、角閃石(2.8%)、黒雲母(0.4%)が含まれている。

試料1には、多くの火山ガラスが含まれている(36.0%)。それらは、比率が高い順にスポンジ状の軽石型(16.8%)、繊維束状の軽石型(10.0%)、中間型(8.4%)、透明および褐色のバブル型(各0.4%)である。重鉱物としては、やはり鉄鉱物が多いものの(40.4%)、ほかに斜方輝石(32.0%)、単斜輝石(15.2%)、角閃石(2.4%)、黒雲母(2.0%)が含まれている。

(4) 屈折率測定

測定試料と測定方法

テフラ検出分析およびテフラ組成分析の対象となった2試料に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置(古澤地質社製MAIOT)により屈折率(n)の測定を行って、指標テフラとの同定精度の向上を図った。屈折率測定の対象は、1/8-1/16mm粒径の火山ガラスである。

測定結果

屈折率測定の結果を表4に示す。試料1に含まれる火山ガラス(49粒子)の多くの屈折率特性(n)は、1.505-1.509である。ただし、浸液との対応関係が不明瞭で測定精度は低いものの、1.509-1.514の値をもつ火山ガラスも含まれているらしい。一方、試料1に含まれる火山ガラス(51粒子)の多くの屈折率特性(n)は、1.504-1.510である。ただ、浸液との対応関係が不明瞭で測定精度は低いものの、1.510-1.514のrangeをもつ火山ガラスも含まれているらしい。

(5) 考察

送付された写真資料で判断する限り、V層のテフラ層は成層構造をもち、下部(試料2)が黄色、上部(試料1)が紫がかった灰色の火山灰層から構成される。このような特徴的な層相をもつテフラ層は、岩手県域の北上山地から三陸地域において、安家火山灰(菊池ほか, 1981)と呼ばれたテフラ層と層相が一致する。このテフラ層は、遠方の東吾妻山域(福島県)や押出遺跡(山形県)から、給源方面への各種分析を合わせての追跡調査により、十和田火山から約6,000年前に噴出した十和田中掬テフラ(To-Cu, 大池ほか, 1966, 早川, 1983, 福田, 1986, 町田・新井, 1992, 2003)であることが明らかになっている(たとえば早田ほか, 1988)。

今回の分析で明らかにされたV層のテフラ層に含まれる火山ガラスの色調(ごくわずかに淡褐色を帯びた透明なものが多い)、軽石型に富む形態上の特徴、屈折率特性、さらに斜方輝石と単斜輝石に富む重鉱物組成などは、安家火山灰の特徴と一致する。このことから、山脈地遺跡のV層のテフラ層はTo-Cuと考えられる。

(6) まとめ

住田町山脈地遺跡においてV層のテフラ層から採取されたテフラ試料2点を対象に、テフラ検出分析、テフラ組成分析(火山ガラス比分析・重鉱物組成分析)、火山ガラスの屈折率測定を行った。その結果、約6,000年前に十和田火山から噴出した十和田中掬テフラ(To-Cu)に同定されている

安家火山灰と推定された。

(株式会社 火山灰考古学研究所)

引用・参考文献

Arai, F., Machida, H., Okumura, K., Miyauchi, T., Soda, T. and Yamagata, K. 1986 Catalog for late Quaternary marker - tephras in Japan II -tephras occurring in northeast Honshu and Hokkaido-. Geogr. Rept. Tokyo Metropol. Univ., 21, p. 223-250.

福田友之 1986 考古学からみた「中掬軽石」の降下年代. 弘前大学考古学研究, 3, p.4-15.

早川由紀夫 1983 十和田火山中掬テフラ層の分布, 粒度組成, 年代. 火山, 第2集, 28, p.263-273.

Hayakawa, Y. 1985 Pyroclastic geology of Towada volcano. Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo, 60, p.507-592.

菊池強一・檜垣大助・吉永秀一郎 1981 北上山地東部に分布する縄文時代前期火山灰について. 東北地理, 33, p.57-58.

町田 洋・新井房夫 1992 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.

町田 洋・新井房夫 2003 新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.

大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 1966 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰. 第四紀研究, 5, p.29-35.

早田 勉・八木浩司 1991 東北地方の第四紀テフラ研究. 第四紀研究, 30, p.369-378.

早田 勉・八木浩司・西城 潔・新井房夫・高田将志 1988 縄文時代の示標テフラ-吾妻火山灰. 東北地理, 40, p.231.

表 1

| 試料 (層位) | 軽石・スコリア | | | 火山ガラス | | |
|-------------|---------|----|-----|-------|---------------------|------------|
| | 量 | 色調 | 最大径 | 量 | 形態 | 色調 |
| 試料 1 (V層上部) | | | | *** | pm (sp, fb), md | cl, br |
| 試料 2 (V層下部) | | | | *** | pm (fb, sp) >bw, md | cl, br, wh |

***: 多い, **: 多い, *: 少ない. Bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, cl: 透明, wh: 白色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状.

表 2

| 試料 | bw (cl) | bw (pb) | bw (br) | md | pm (sp) | pm (fb) | その他 | 合計 |
|-------------|---------|---------|---------|----|---------|---------|-----|-----|
| 試料 1 (V層上部) | 1 | 0 | 1 | 21 | 42 | 25 | 160 | 250 |
| 試料 2 (V層下部) | 6 | 0 | 0 | 9 | 11 | 12 | 212 | 250 |

数字は粒子数. bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, cl: 透明, pb: 淡褐色, 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状.

表 3

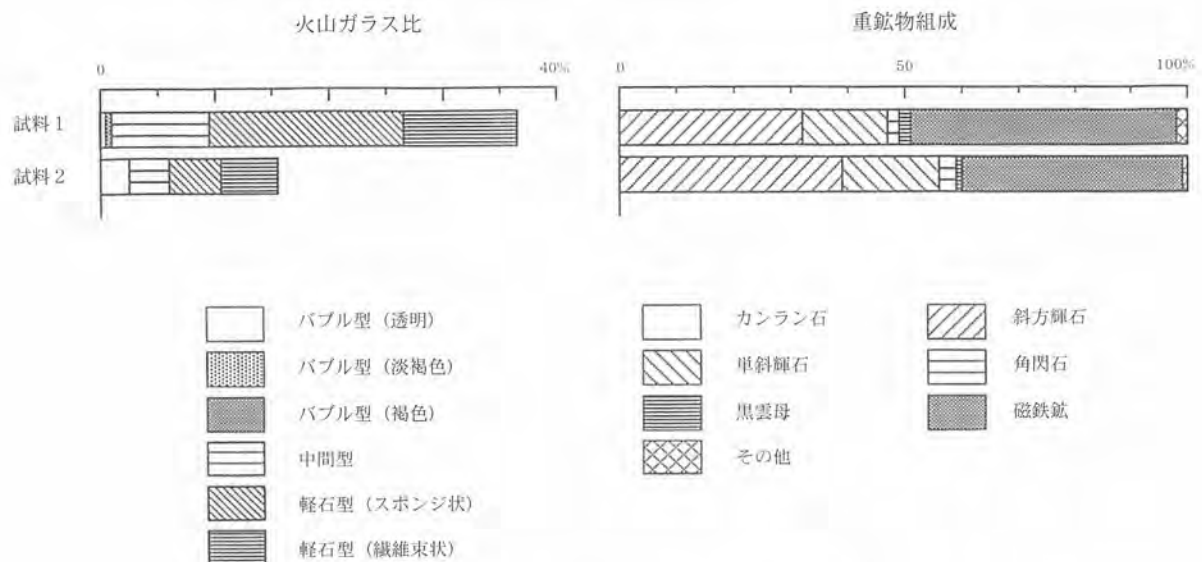
| 試料 | ol | opx | cpx | am | bi | mt | その他 | 合計 |
|-------------|----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|
| 試料 1 (V層上部) | 0 | 80 | 38 | 6 | 5 | 116 | 5 | 250 |
| 試料 2 (V層下部) | 0 | 97 | 42 | 7 | 1 | 101 | 2 | 250 |

数字は粒子数. Ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, mt: 磁鉄鉱.

表 4 屈折率測定結果

| 試料 (地点・層位) | 火山ガラスの屈折率 (n) | 測定粒子数 | 文献 |
|---------------------------|---------------------------|-------|--------------|
| 試料 1 (V層上部) | 1.504-1.514 (1.504-1.510) | 51 | 本報告 |
| 試料 2 (V層下部) | 1.505-1.514 (1.505-1.509) | 49 | 本報告 |
| 十和田 a (To-a, 915AD) | 1.500-1.508 | | 町田・新井 (2003) |
| 十和田中振 (To-Cu, 6ka) | 1.508-1.512 | | 町田・新井 (2003) |
| (安家火山灰, 岩手県岩泉町) | 1.507-1.513 | | 早田ほか (1988) |
| (吾妻火山灰, 福島県東吾妻) | 1.507-1.512 | | 早田ほか (1988) |
| 鬼界アカホヤ (K-Ah, 7.3ka) | 1.508-1.516 | | 町田・新井 (2003) |
| 肘折尾花沢 (Hj-O, 11-12ka*1) | 1.499-1.504 | | 町田・新井 (2003) |
| 十和田八戸 (To-H, 15ka) | 1.505-1.509 | | 町田・新井 (2003) |
| 浅間草津 (As-K, 15-16.5ka) | 1.501-1.503 | | 町田・新井 (2003) |
| 浅間板鼻黄色 (As-YP, 15-16.5ka) | 1.501-1.505 | | 町田・新井 (2003) |
| 鳴子潟沼上原 (Nr-KU) | 1.492-1.500 | | 町田・新井 (2003) |
| 始良 Tn (AT, 28-30ka) | 1.499-1.501 | | 町田・新井 (2003) |
| 十和田大不動 (To-Of, ≥ 32ka) | 1.505-1.511 | | 町田・新井 (2003) |
| 焼石山形 (Yk-Y) | 1.500-1.503 | | 町田・新井 (2003) |
| 鳴子柳沢 (Nr-Y, 41-63ka) | 1.500-1.503 | | 町田・新井 (2003) |
| 阿蘇 4 (Aso-4, 85-90ka) | 1.506-1.510 | | 町田・新井 (2003) |
| 鳴子荷坂 (Nr-N, 90ka) | 1.500-1.502 | | 町田・新井 (2003) |
| 肘折北原 (Hj-Kth, 90-100ka) | 1.499-1.502 | | 町田・新井 (2003) |
| 三瓶木次 (SK, 110-115ka) | 1.496-1.498 | | 町田・新井 (2003) |
| 洞爺 (Toya, 112-115ka) | 1.494-1.498 | | 町田・新井 (2003) |

ka: 1,000 年前, *1: 放射性炭素 (14C) 年代.



第 135 図 山脈地遺跡のテフラ組成ダイヤグラム

3 年代測定

(1) 測定対象試料

山脈地遺跡は、岩手県気仙郡住田町上有住字山脈地 7-7 (北緯 39° 11' 50"、東経 141° 35' 25") に所在する。気仙川と坂本川の合流点近くに当たり、気仙川北岸の砂礫段丘に立地する。測定対象試料は、自然流路の埋土 (基本土層Ⅶ層) から出土した土器に付着する炭化物 5 点 (No. 1:IAAA-102694 ~No. 5:IAAA-102698) である (表 1)。炭化物は、No. 1、No. 5 が口縁部内面、No. 2 が体部上半外面、No. 3、No. 4 が口縁部外面より採取された。

(2) 測定の意義

出土土器の実年代を知り、形態の異なる土器の前後関係を明らかにする。

(3) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- 6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

(4) 測定方法

3MV タンデム加速器 (NEC Pelletron 9SDH-2) をベースとした 14C-AMS 専用装置を使用し、14C の計数、13C 濃度 (13C /12C)、14C 濃度 (14C /12C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

(5) 算出方法

- 1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の 13C 濃度 (13C /12C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- 2) 14C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 14C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。14C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。14C 年代と誤差は、下 1桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、14C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の 14C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。

4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09 データベース (Reimer et al. 2009) を使い、OxCalv4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

(6) 測定結果

基本土層 VII 層から出土した土器付着炭化物の ^{14}C 年代は、No. 1 が $8500 \pm 40\text{yrBP}$ 、No. 2 が $8060 \pm 40\text{yrBP}$ 、No. 3 が $7990 \pm 40\text{yrBP}$ 、No. 4 が $8420 \pm 40\text{yrBP}$ 、No. 5 が $8230 \pm 40\text{yrBP}$ である。No. 2 と No. 3 は誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で重なる近い年代値を示し、No. 1 と No. 4 もかなり近接した値である。暦年較正年代 (1σ) は、No. 1 が $7581 \sim 7542\text{cal BC}$ の範囲、No. 2 が $7078 \sim 6847\text{cal BC}$ の間に 3 つの範囲、No. 3 が $7042 \sim 6830\text{cal BC}$ の間に 4 つの範囲、No. 4 が $7542 \sim 7482\text{cal BC}$ の範囲、No. 5 が $7319 \sim 7183\text{cal BC}$ の範囲で示される。較正年代では、No. 1 と No. 4 が古く、No. 5 が中間で、No. 2 と No. 3 が新しいという関係となっており、3 者は 1σ では値が重ならず、 2σ の範囲でわずかに重なる程度である。いずれもおおよそ縄文時代早期中葉頃に相当する年代値と見られ、相互の関係については土器の特徴と合わせて検討する必要がある。

試料の炭素含有率はすべて 45% を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

(株式会社 加速器分析研究所)

表 1

| 測定番号 | 試料名 | 採取場所 | 試料形態 | 処理方法 | $\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS) | $\delta^{13}\text{C}$ 補正あり | |
|-------------|-------|-----------------------------------|---------|------|---------------------------------|----------------------------|------------------|
| | | | | | | Libby Age (yrBP) | pMC (%) |
| IAAA-102694 | No. 1 | 自然流路内 基本土層 VII 層 (取り上げ番号 8L26 他) | 土器付着炭化物 | AaA | -23.18 ± 0.53 | $8,500 \pm 40$ | 34.69 ± 0.16 |
| IAAA-102695 | No. 2 | 自然流路内 基本土層 VII 層 (取り上げ番号 9G32 他) | 土器付着炭化物 | AaA | -24.16 ± 0.61 | $8,060 \pm 40$ | 36.67 ± 0.17 |
| IAAA-102696 | No. 3 | 自然流路内 基本土層 VII 層 (取り上げ番号 2V283 他) | 土器付着炭化物 | AaA | -28.43 ± 0.46 | $7,990 \pm 40$ | 36.98 ± 0.17 |
| IAAA-102697 | No. 4 | 自然流路内 基本土層 VII 層 (取り上げ番号 9F12 他) | 土器付着炭化物 | AaA | -26.12 ± 0.57 | $8,420 \pm 40$ | 35.04 ± 0.16 |
| IAAA-102698 | No. 5 | 自然流路内 基本土層 VII 層 (取り上げ番号 11G50 他) | 土器付着炭化物 | AaA | -23.41 ± 0.47 | $8,230 \pm 40$ | 35.88 ± 0.16 |

表 2

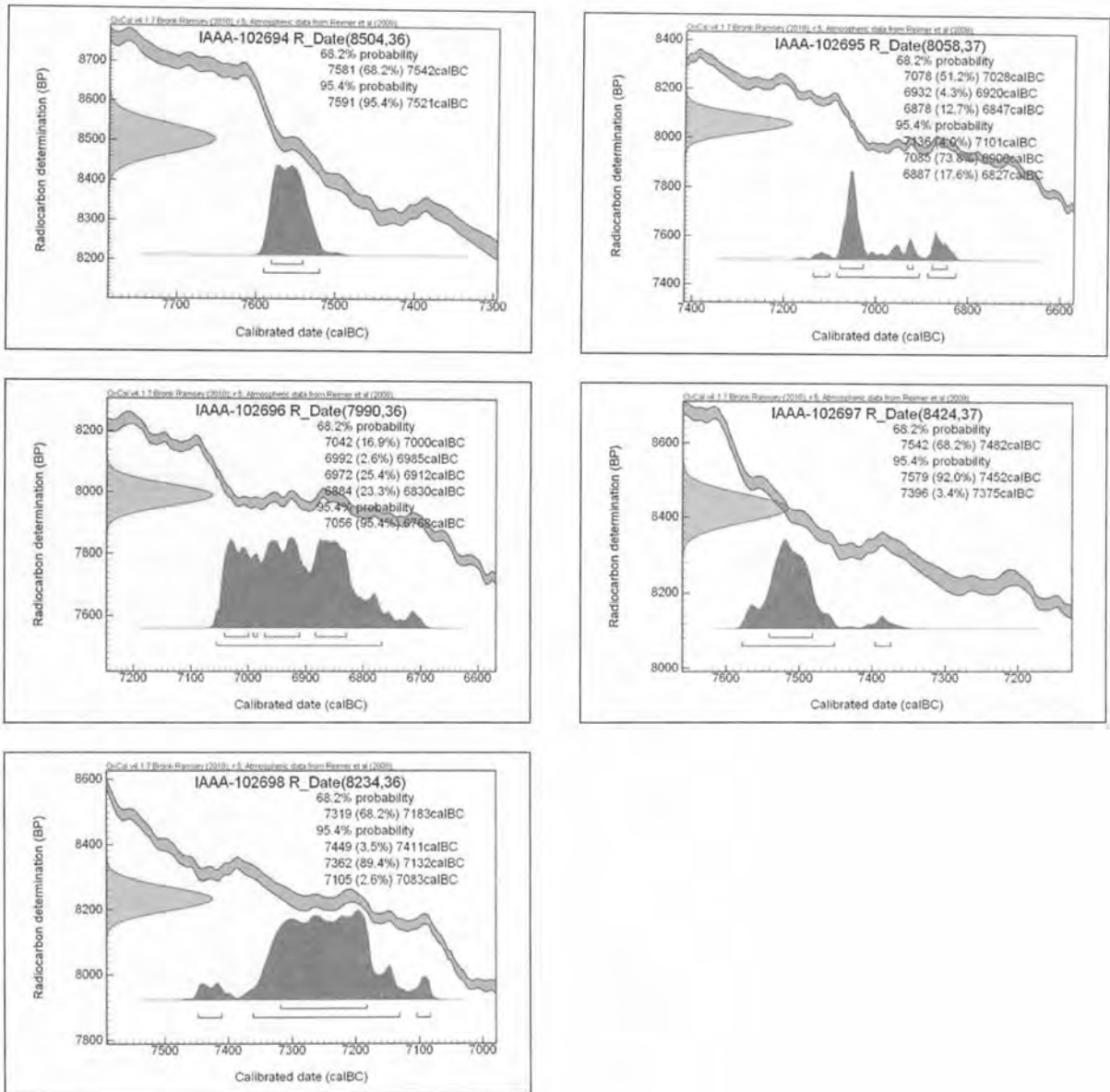
| 測定番号 | $\delta^{13}\text{C}$ 補正なし | | 暦年較正用 (yrBP) | 1 σ 暦年代範囲 | 2 σ 暦年代範囲 |
|-------------|----------------------------|------------------|-----------------|---|---|
| | Age (yrBP) | pMC (%) | | | |
| IAAA-102694 | 8,470 \pm 40 | 34.82 \pm 0.15 | 8,504 \pm 36 | 7581calBC - 7542calBC (68.2%) | 7591calBC - 7521calBC (95.4%) |
| IAAA-102695 | 8,040 \pm 40 | 36.73 \pm 0.17 | 8,058 \pm 37 | 7078calBC - 7028calBC (51.2%) 6932calBC - 6920calBC (4.3%) 6878calBC - 6847calBC (12.7%) | 7136calBC - 7101calBC (4.0%) 7085calBC - 6906calBC (73.8%) 6887calBC - 6827calBC (17.6%) |
| IAAA-102696 | 8,050 \pm 40 | 36.72 \pm 0.16 | 7,990 \pm 36 | 7042calBC - 7000calBC (16.9%) 6992calBC - 6985calBC (2.6%) 6972calBC - 6912calBC (25.4%) 6884calBC - 6830calBC (23.3%) | 7056calBC - 6768calBC (95.4%) |
| IAAA-102697 | 8,440 \pm 40 | 34.96 \pm 0.16 | 8,424 \pm 37 | 7542calBC - 7482calBC (68.2%) | 7579calBC - 7452calBC (92.0%) 7396calBC - 7375calBC (3.4%) |
| IAAA-102698 | 8,210 \pm 40 | 36 \pm 0.16 | 8,234 \pm 36 | 7319calBC - 7183calBC (68.2%) | 7449calBC - 7411calBC (3.5%) 7362calBC - 7132calBC (89.4%) 7105calBC - 7083calBC (2.6%) |

引用・参考文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150



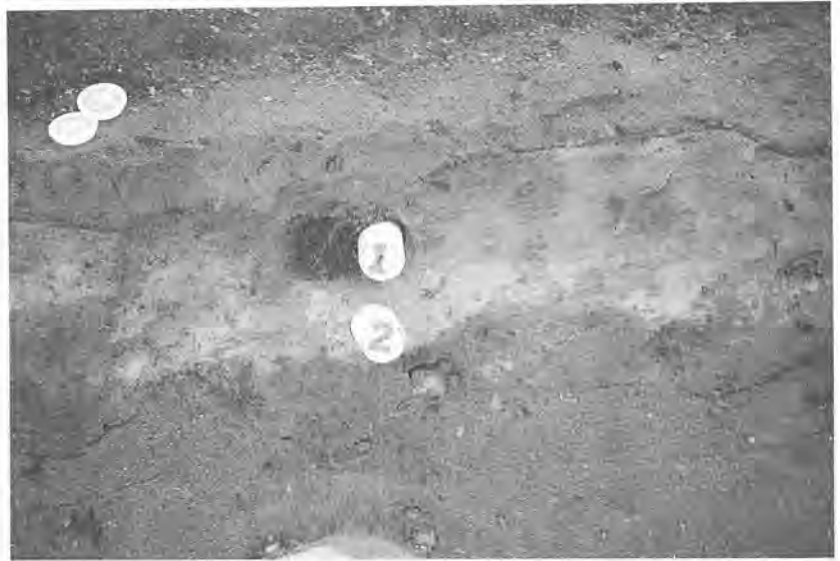
第 136 図 暦年較正年代グラフ

4 意義と課題

(1) 火山灰分析について

今回おこなった山脈地遺跡の火山灰分析および放射性炭素年代測定を受けて、その結果について若干の考察をおこなう。

火山灰分析については、発掘調査中より肉眼観察でも十和田中振火山灰であると想定していた。これは、V層の火山灰より上部に堆積しているIV層出土遺物が前期の土器を中心としていることから想像できた。結果として、いわゆる「安家火山灰」とされるものに相当し、すなわち十和



第137図 火山灰試料採取状況

田中振火山灰であると特定された。今回の分析結果は、その想定範囲内であることを再確認することができた点で有意義である。特に、火山灰や土器を包含する層は自然流路（NR 01）の堆積で顕著であることからその層的位置付けは両者の先後関係にとって良好な事例となった。また、前期に属する大形の竪穴住居（S I 01）は火山灰層を切って構築されていることから火山灰降下以降に構築されたと考えられる。

この分析結果で表出した課題もあり、それは十和田中振火山灰の降下範囲と降下時期についてである。降下範囲については、岩手県内の発掘調査によって各地で検出されているため概略を掴むことは可能である。発掘調査から検出事例を集成した成果（星・須原 2004）によれば、岩手県北部を中心に多くの遺跡で十和田中振火山灰が検出されている。

岩手県内においてその降下範囲は県北部に集中して認められるが、山脈地遺跡のように県南部でも点在する。特に、北上山地に位置する遠野市やその南に隣接する住田町では検出事例が比較的多く、良好な状態で検出されることが多い。一方、岩手県の西側に連なる奥羽山脈や北上川上～中流域での検出例は少なく、降下時の風向きや地形的な要因が考えられるが、単にそれだけの理由なのかという疑問もある。今後分布傾向に大きな変化はないと考えられるが、その分布の偏りや隔たりについては一考の余地がある。なお、山脈地遺跡での火山灰層の堆積は厚く、地域を覆う大災害になっていた可能性が考えられる。

次に降下時期について、発掘調査ではおおむね大木3式の土器がIV層から出土する傾向であり、V層は大木2 a～2 b式、VI層は2 a式が出土土器型式の中心となっている。降下時期を特定するには試料数は少ないが、山脈地遺跡の大まかな傾向として大木2 a～2 b式期に降下した可能性が指摘できる。これら土器の年代観については次章に述べるが、大木2 a～2 b式の型式細分と編年観によってはさらに年代を絞り込むことが可能であると考えられる。

(2) 放射性炭素 (AMS 測定) について

放射線炭素による年代測定については、県内での出土事例の希少な縄文時代早期中葉の土器に付着した炭化物でおこなったが、非常に有益な基礎データを得ることができた。いずれも自然流路 (NR 01) より出土した貝殻・沈線文土器である。測定結果については前項の通りであり、一見すると試料毎に大きな時間差は生じていないようにも受け取ることができるが、縄文時代早期中葉という範疇の中での微妙な時期差が現れている可能性が高い。5点の測定試料は、いずれも土器使用時に付着したものと考えられる炭化物が多く認められるものを優先し、なおかつ器形や文様の特徴的なものに絞っている。当然のことながら考古学的見地から測定結果すべてが正確であると判断できない。特に、すべて自然流路 (NR 01) の埋土中で、層位はⅦ層に相当するもののみである。Ⅶ層の堆積時期はかなり長い年月幅が想定されることから層位的な事実によって、出土土器の序列化は難しい。また、県内ではこれほど豊富な早期中葉の出土資料は存在しないものと考えられるため比較資料が乏しく序列には困難を伴う。しかし、今回の測定により、ある程度の傾向を掴むことは可能であると考えられる。

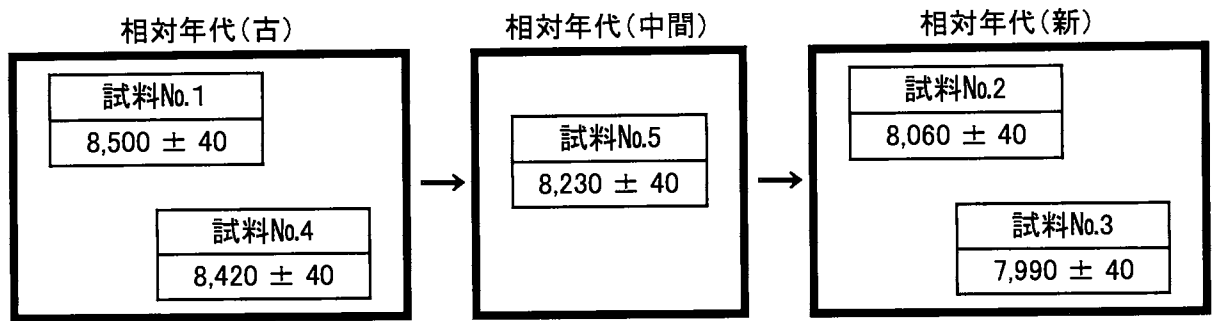
測定結果で得られた較正年代では、もっとも古い年代の No.1 (8500 ± 40yrBP) から、もっとも新しい年代の No.3 (7990 ± 40yrBP) まで最大 450 年の隔たりが存在するようである。また、測定者は3つの年代的なまとまりを示唆している。これは、No.1 と No.4 が古く、No.5 が中間で、No.2 と No.3 が新しいという関係であるとしている。翻って遺物を見ると、古い測定結果が出た No.1・4・5 は体部に括れを有する形態で、新しい測定結果が出た No.2 は括れない砲弾形の形態である。また、唯一の小破片試料である No.3 はその形態や文様から、No.2 と同様に括れない形態である可能性が高い。また、詳細は次章で述べるが、文様構成にも差異が認められ、前者がいわゆる物見台式に比定されるのに対し、後者は鳥木沢式に比定されると考えられる。両者はこれまでの研究でも物見台式から鳥木沢式へと移行するという編年観 (領塚 2005) が提示されており、今回の測定結果に合致するものである。問題は、山脈地遺跡出土早期中葉の土器の大半を占める物見台式が細分できる可能性が出てきたことである。これは、上記測定結果で中間とされた No.5 の位置付けである。No.5 はこれより古いとされた No.4 との間に約 190 年の隔りがあり、より新しいとされた No.2 との間には約 170 年の隔りがあるとされている。この幅が縄文時代早期中葉の土器型式にどれほどの変化を与えうのか想像すらできないが、考古学的手法において一定の秩序や序列、変遷を考えなければならない。

この問題提起に対して考古学的に応える必要がある。この章では結論を急がないが、確かに No.5 の文様構成と器形的特徴は、前後に位置する可能性がある土器とは趣が異なっており、「明神裏Ⅲ式」の特徴が色濃い。次章で詳細は述べることとするが、測定者の示唆した3つの年代的なまとまりは考古学的な編年の一助となる可能性を指摘しておきたい。

(福島)

引用・参考文献

- 星 雅之・須原 拓 2004 「岩手県内の発掘調査事例からみた十和田中振テフラ」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要XXIII』
- 星 雅之・茅野嘉雄 2006 「十和田中振テフラからみた円筒下層 a 式土器成立期の土器様相」『植生史研究』特別第2号
- 星 雅之 2007 「十和田中振テフラの考古学年代について―課題などを中心に―」『岩手考古学第38回研究大会資料』
- 領塚正浩 2005 「東北・北海道における早期中葉の土器編年」『第18回縄文セミナー 早期中葉の再検討』



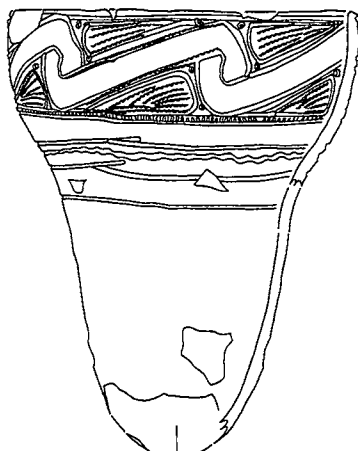
6. (AMS 試料No.1)



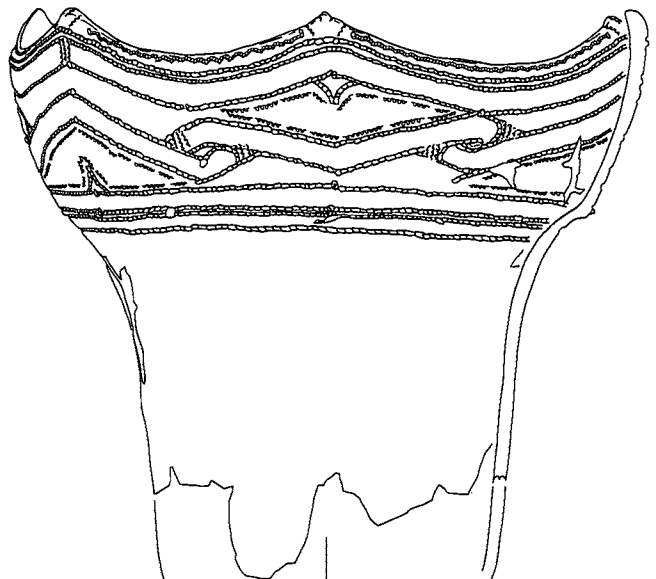
33. (AMS 試料No.2)



43-3. (AMS 試料No.3)



7. (AMS 試料No.4)



24. (AMS 試料No.5)

第 138 図 AMS測定試料 (No.1 ~ 5)

VI 総括

1 縄文時代の遺構

今回の発掘調査では、縄文時代早期の自然流路が調査区を貫くように検出された。流路の埋没過程は先述したが、今一度まとめると縄文時代早期以前に開析され、早期中葉には水流が少なくなり、その後徐々に埋没していったことが、出土遺物から判断される。そして、完全な埋没は縄文時代前期頃であり、その埋没流路の上では縄文時代前期の集落が営まれたようである。

この集落は縄文時代前期に営まれており、今回の調査では長大な竪穴住居1棟などが検出された。しかし、集落の中心域は今回調査区よりも南に展開するものとみられ、その居住域端部を今回調査したものと推測される。また、居住域に近接して同時期の貯蔵穴群が存在するものとみられる。これは北西側土坑群の存在が示す通りである。

さらに、縄文時代中期～後期の遺物は認められないことから、この時期に近隣周辺域で集落は営まれていなかったものと考えられる。

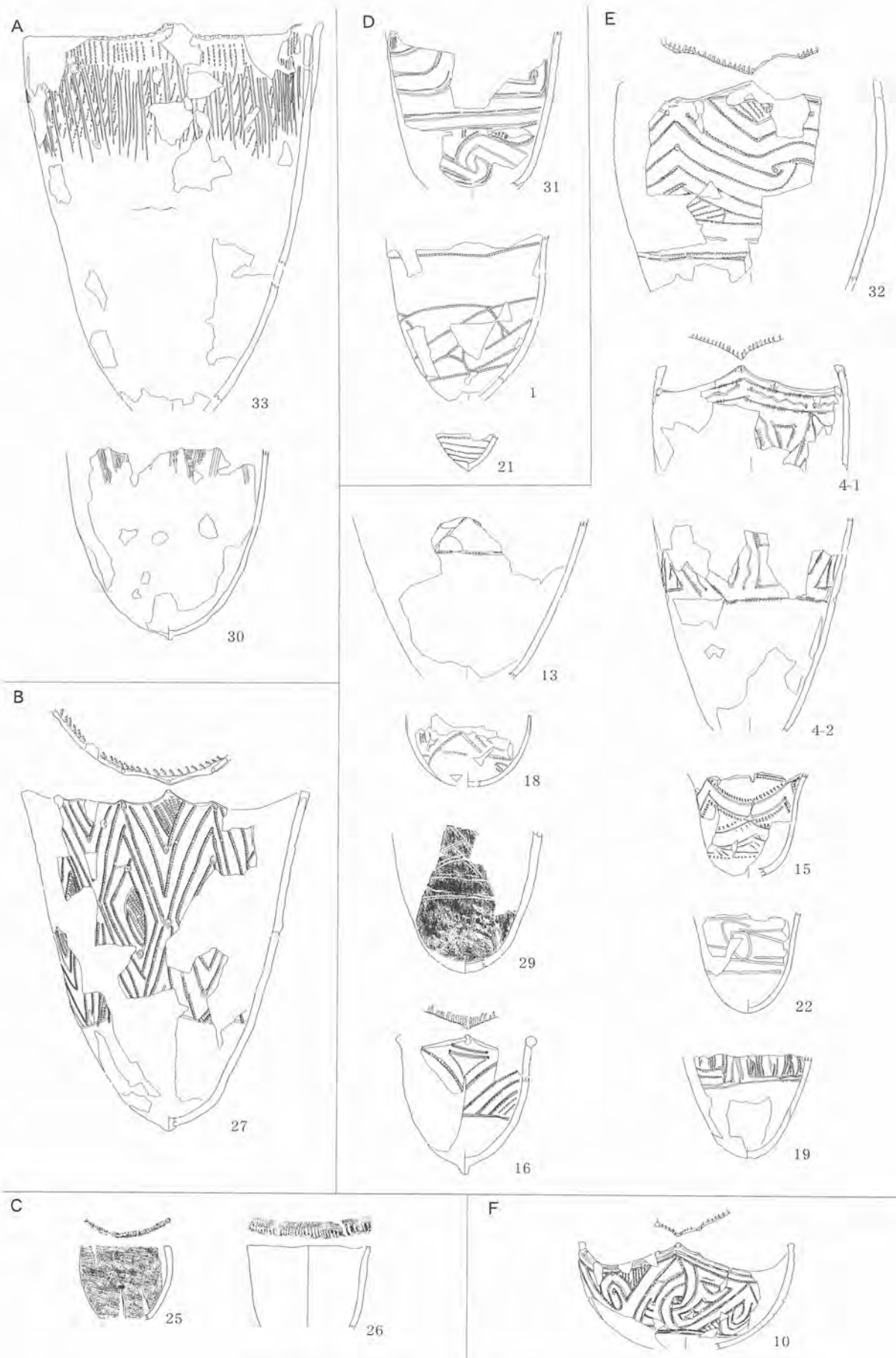
その後、縄文時代晩期には居住域となったと考えられる。これは、今回の調査でこの時期の竪穴住居が1棟検出されたことから想像される。また、居住域に近いエリアで墓域も存在しているようである。これは墓壙と考えられる2基の遺構が検出されたためである。

2 縄文時代の遺物

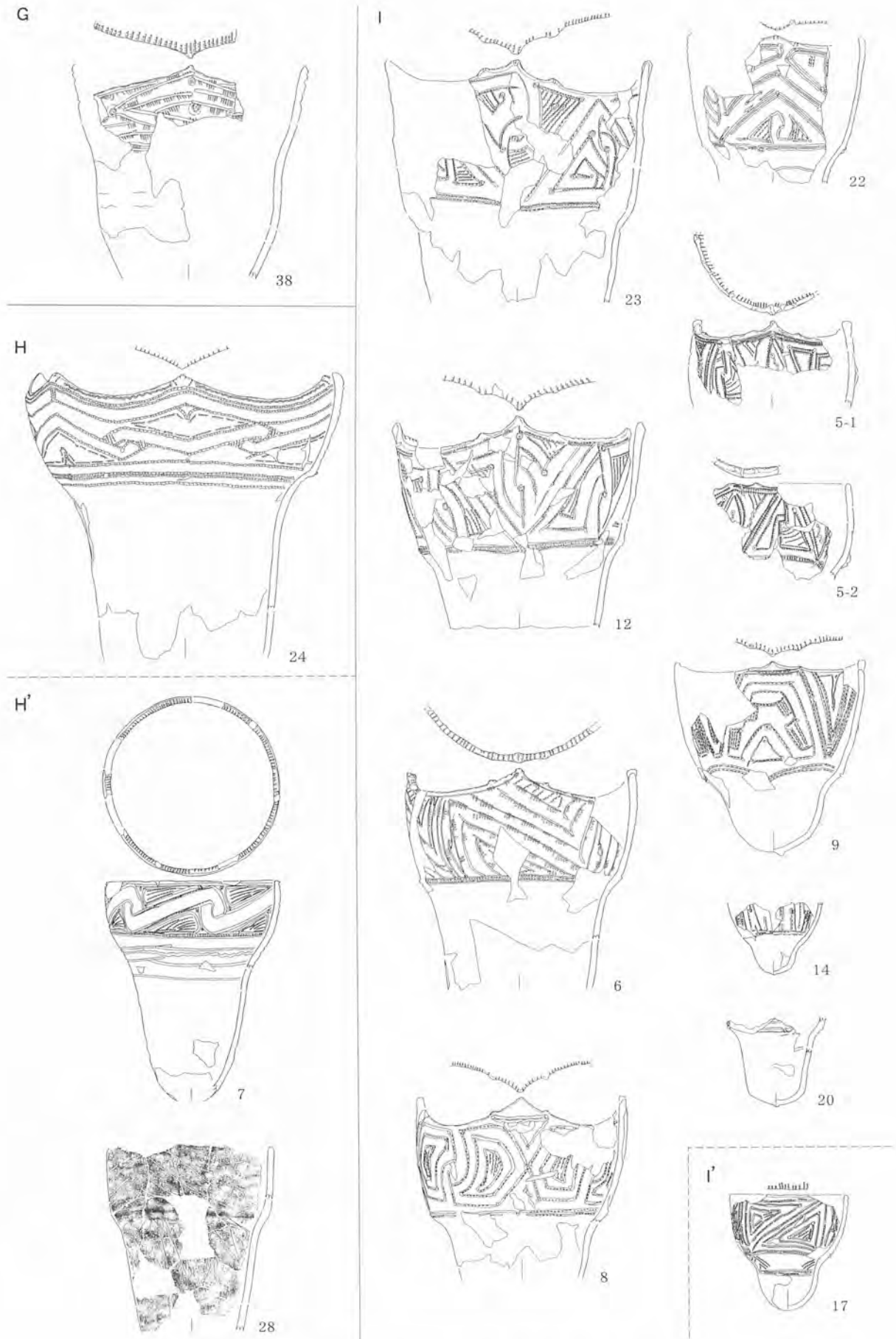
(1) 貝殻・沈線文土器

今回の調査でもっとも特筆すべきは、縄文時代早期の土器が多く出土したことである。特に、早期中葉の物見台式～吹切沢式にかけての資料は、管見に触れる限りで岩手県内最多の出土数を誇るものと考えられる。これらはいずれも自然流路内に遺棄されたものであるが、いずれもほぼ同一の層位から出土したものであり、出土層位による先後関係を決定するには至らなかった。したがって、ここでは、得られた資料を器形等で分類し、従前の型式とAMS測定値を参考に若干の考察を述べたい。

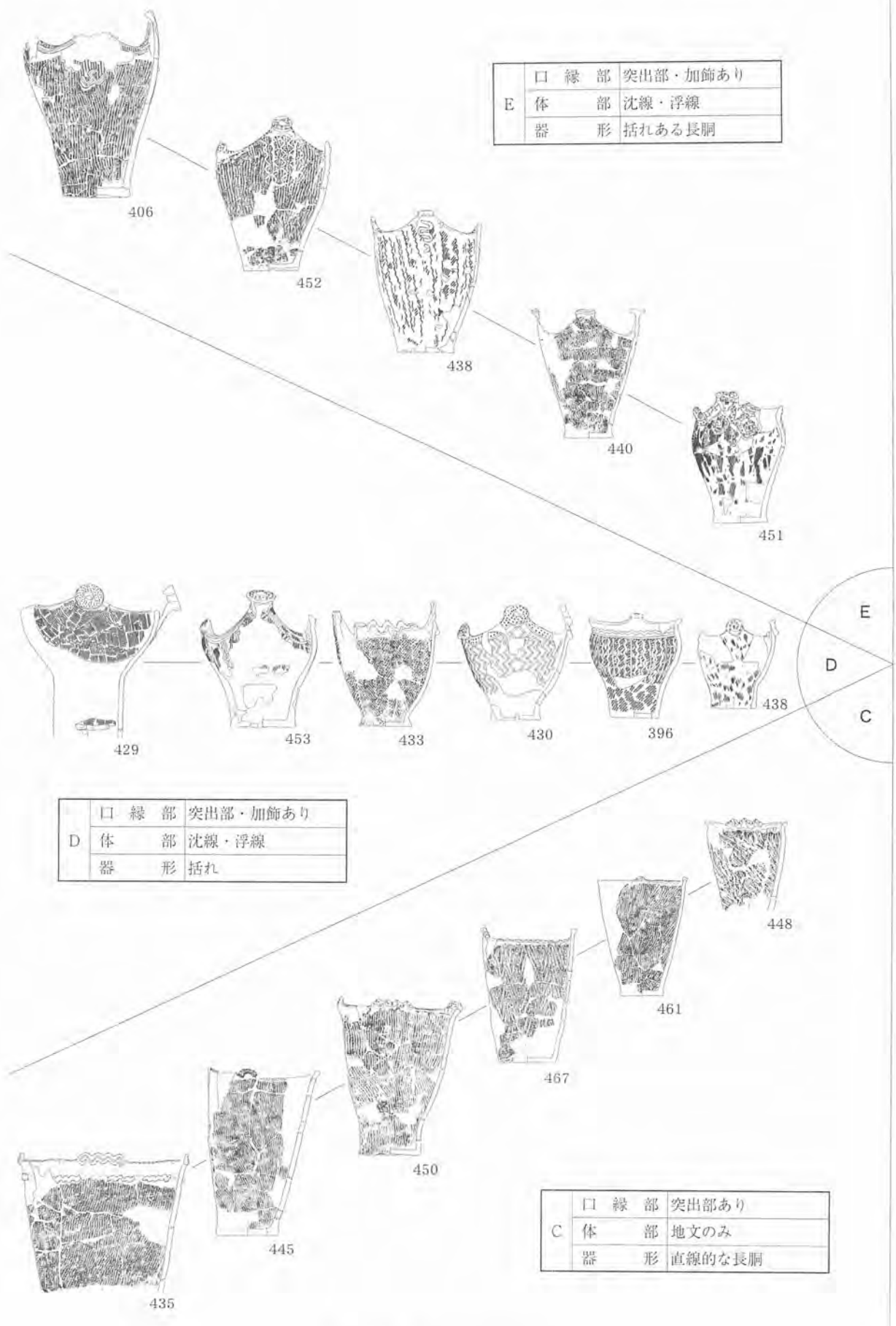
まず、当該資料の特徴を列記すると、尖底あるいは丸底で、器形は砲弾形、文様は貝殻腹縁文と沈線文の複合が多くみられる。器壁は比較的薄く、内外面は磨かれている。このような土器群を器形によって大きく2分した。その器形的特徴は、体部括れの有無である。これは、物見台式と鳥木沢式や吹切沢式等を分ける特徴でもあるが、時間的な先後関係が表出している可能性を指摘しておきたい。これは前章を参照されたい。次頁の図に示した通り、左頁には括れの無い土器、右頁には括れの有る土器を掲げた。左頁の土器をさらに細分し、A～Fと呼称し、右頁の土器をやはり細分し、G～Iと呼称する。典型的な物見台式であるIのグループと鳥木沢式や吹切沢式等の特徴を持つA・Bなどは器形や文様構成・施文方法などで大きく異なる。これまでの研究の通り、Iはより古くAやBはより新しいものと想定される。しかし、問題は、ここでD～Hと分類した土器がそれぞれ時間的な先後関係が存在するかどうかである。この遺跡の土器をみると、これらに分類した土器はそれぞれの特徴がクロスオーバーしている部分が多いことがわかった。しかし、IからEへの型式変化HやH'からDへの型式変化を想定することが可能であると思われる。この遺跡においては、貝殻腹縁文と沈線の複合文様で括れのあるものから、括れが失われ、最終的にはランダムな貝殻腹縁文に半載竹管文を施した



第 139 図 貝殻文・沈線文土器分類図 (括れ無し)

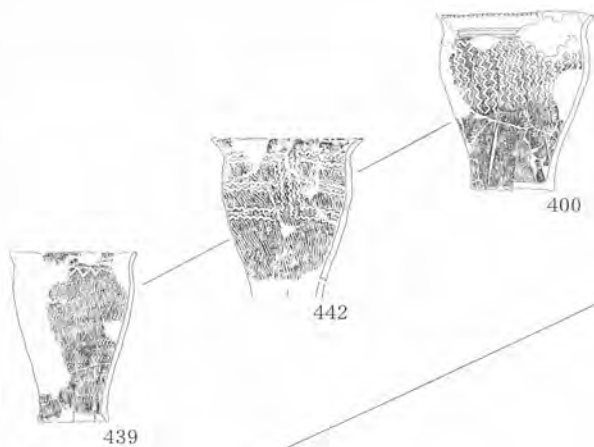


第140図 貝殻文・沈線文土器分類図 (括れ有り)

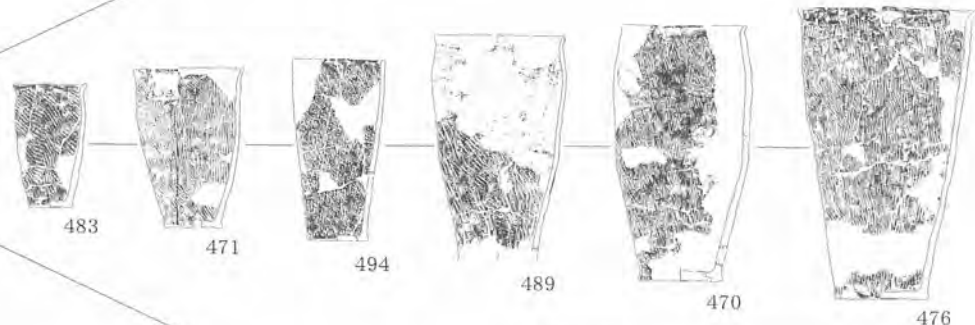


第 141 図 前期土器分類図 (1)

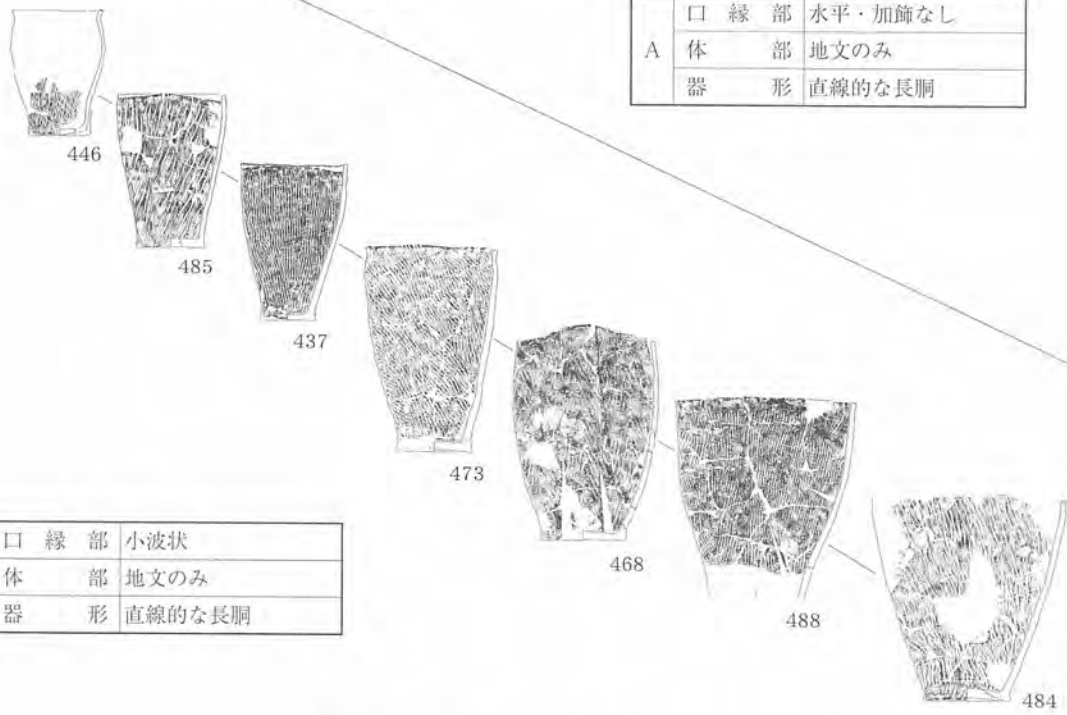
| | | |
|---|-----|--------|
| F | 口縁部 | 水平 |
| | 体部 | 沈線 |
| | 器形 | 括れある長胴 |



F
A
B



| | | |
|---|-----|---------|
| A | 口縁部 | 水平・加飾なし |
| | 体部 | 地文のみ |
| | 器形 | 直線的な長胴 |



| | | |
|---|-----|--------|
| B | 口縁部 | 小波状 |
| | 体部 | 地文のみ |
| | 器形 | 直線的な長胴 |

第 142 図 前期土器分類図 (2)

括れのないものへと大筋は変化し、その変化の過程で、括れを有するものと括れの無いもの、あるいは腹縁文主流のもの押し引き沈線文主流のものなどが入り乱れながら存在している可能性を現段階では考えたい。

(2) 縄文時代前期の土器

前期の土器は主に大木4～5式に相当するで土器を分類し整理した。まず、形態的特徴により、A～Fの6大別した。図の左頁は加飾されるもの、右頁は加飾されないものとなっている。また、それぞれに容量の大小があることから放射状の中心により小さな個体、外側へは大きな個体を置き、中心から外へ向け徐々に容量が大きくなっている。分類図の通り、加飾されるものは、特に口縁部の加飾パターンが器形と大きく関わっていることがわかる。加飾のあるC・D・Eはそれぞれ器形が微妙に異なる。Cは水平な口縁部に数箇所簡素な加飾がされており、体部は直線的に外傾する器形である。次にDは体部に括れが作られ、波状口縁に円と山形の交互加飾パターンである。最後にEの体部は長胴ながらもやや膨らみがあり、D同様波状口縁に円と山形の交互加飾パターンである。一方、加飾の乏しいAやBは大半の器形がCに近いものである。このことから、この時期を代表する深鉢の器形は小さな底部に高く直線的に外傾する器形が基本となっているものと考えられる。この器形はより実用的であると考えられる。また、Dは非常に特殊な土器であり、この時期に新出する器形である可能性が高い。その後の大木6式以降の器種にも大きく影響を与えている可能性が高い。

3 ま と め

今回調査した山脈地遺跡は、縄文時代を通じて人々の活動がみられた。特に、山脈地遺跡の近くに位置する蛇王洞穴とは非常に密接な関係が考えられる。これは、縄文時代早期の人々が、この遺跡周辺をテリトリーにして活発に生活を営んだ結果であると評価できる。特に、岩手県内では縄文時代早期の遺跡そのものが少ない中で、この上有住地区には生き生きとした人々の息吹が感じられる貴重な遺跡を有する重要な領域であることは明らかである。今回調査で判然としなかったことも多いが、今後多くの資料が活用され、多くの目で分析されること願う。

(福島)

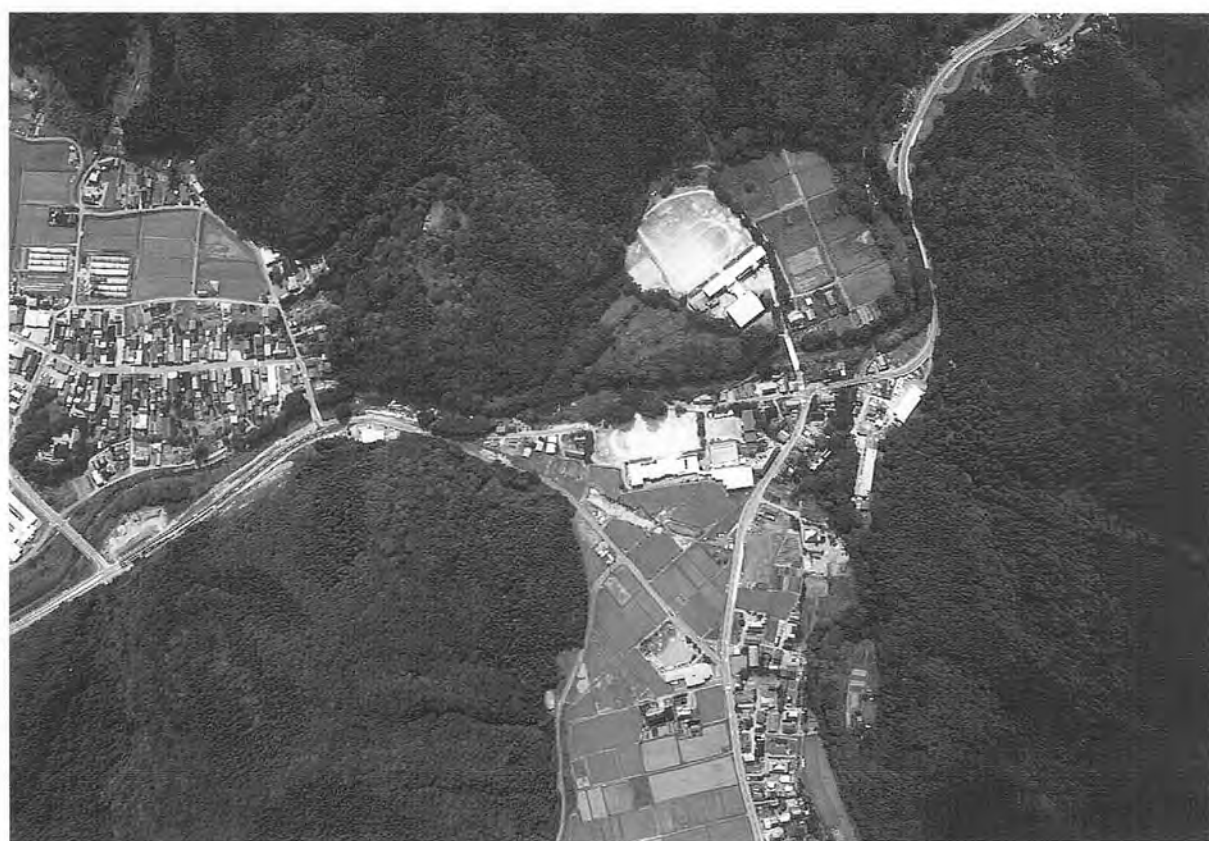
引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1980 『長七谷地貝塚遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第57集
 青森県教育委員会 1985 『売場遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第93集
 青森県教育委員会 1989 『表館(1)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第120集
 八戸市教育委員会 2004 『田向遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第14集
 名久井文明 1989 「東北地方における縄文時代早期貝殻腹縁文土器の系統」『第4回縄文文化検討会シンポジウム 東北・北海道における縄文時代早期中葉から前期初頭にかけての土器編年について』
 領塚正浩 2006 「縄文時代早期中葉土器群の研究史」『第4回縄文時代早期中葉の再検討—資料集—』海峡土器編年研究会—(助)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター調査報告書—
 2002 『小松Ⅱ遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第392集
 2004 『館遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第432集
 2004 『小松Ⅰ遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第433集
 2005 『大清水上遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第475集

写 真 图 版



斜め遠景（北から）



直上（北から）



斜め（北西から）



直上（北西から）

写真図版2 航空写真（近景）



調査前風景（東から）



調査前風景（東から）



全景（北西から）



近景（北西から）

写真図版 4 縄文時代早期自然流路(1)



近景（南東から）



全景（北西から）



断面（南西から）



縄文時代前期遺構検出面（北西から）



トレンチ4壁面（南から）



トレンチ4壁面（南東から）



グリッド7P壁面（南東から）



トレンチ2全体壁面（西から）

写真図版8 調査区中央基本層序断面（1）



トレンチ2北東半壁面（西から）



トレンチ2南西半壁面（西から）



トレンチ6壁面（北から）



トレンチ4から連続するグリッドGライン壁面（北から）

写真図版10 基本層序断面（IV層以下）



グリッド 11 F VII層遺物出土状況



グリッド 11 G VII層遺物出土状況



グリッド 9 F VII層遺物出土状況



グリッド 10～11 F VII層遺物出土状況



グリッド 9 G VII層遺物出土状況



グリッド 10 G VII層遺物出土状況



グリッド 11 G VII層遺物出土状況



トレンチ 3 (グリッド 9 G) VII層遺物出土状況



グリッド 9 H VII層遺物出土状況



グリッド 8 I VII層遺物出土状況



グリッド 9 I VII層遺物出土状況



グリッド 9 I VII層遺物出土状況



グリッド 7 J VII層遺物出土状況



グリッド 8 J VII層遺物出土状況



グリッド 8 J VII層遺物出土状況



グリッド 9 J VII層遺物出土状況

写真図版 12 縄文時代早期遺物出土状況 (I・J)



グリッド 7～9 K VII層遺物出土状況



グリッド 7 K VII層遺物出土状況



グリッド 9 K VII層遺物出土状況



グリッド 8 L VII層遺物出土状況



グリッド 7 M VII層遺物出土状況



グリッド 6・7 M VII層遺物出土状況



グリッド 7 N VII層遺物出土状況



グリッド 6 O VII層遺物出土状況



グリッド 6 P・6 Q VII層遺物出土状況



グリッド 7 P VII層遺物出土状況



グリッド 4 Q VII層遺物出土状況



グリッド 5 Q VII層遺物出土状況



グリッド 4 R VII層遺物出土状況



グリッド 4 R VII層遺物出土状況



グリッド 3 S VII層遺物出土状況



グリッド 4 S VII層遺物出土状況

写真図版 14 縄文時代早期遺物出土状況 (P～S)



グリッド 2 T VII層遺物出土状況



グリッド 3 T VII層遺物出土状況



グリッド 2 U VII層遺物出土状況



グリッド 3 U VII層遺物出土状況



グリッド 2 V VII層遺物出土状況



グリッド 2 V VII層遺物出土状況



グリッド 3 U VII層遺物検出作業



グリッド 3 U VII層遺物検出作業

写真図版 15 縄文時代早期遺物出土状況 (T~V)、遺物検出作業 (3 U)



S I 01 竪穴住居完掘（北東から）



S I 01 竪穴住居全景（北東から）

写真図版 16 縄文時代前期竪穴住居（S I 01）全景



S I 01 竪穴住居断面A-A' (北から)



S I 01 竪穴住居断面B-B' (西から)



S I 01 竪穴住居断面D-D' (北から)



S I 01 竪穴住居断面C-C' (南東から)

写真図版 18 縄文時代前期竪穴住居 (S I 01) 長軸・短軸断面



S I 01-P 1 柱穴断面 (東から)



S I 01-P 2 柱穴断面 (東から)



S I 01-P 3 柱穴断面 (西から)



S I 01-P 4 柱穴断面 (西から)



S I 01-K 1 土坑上層部断面 (北西から)



S I 01-K 1 土坑下層部断面 (北西から)



S I 01-K 2 土坑断面 (西から)



S I 01 南西床面直下検出状況 (北から)



S I 01 東側遺物出土状況（東から）



S I 01 西側遺物出土状況（東から）



S I 01 中央西側遺物出土状況（南西から）



S I 01 中央東側遺物出土状況（南から）



S I 01 遺物出土状況（南西から）



S I 02 全景 (南東から)



S I 02 断面 (北東から)



S I 03 全景 (南西から)



S I 03 断面 (北東から)



S I 04 全景 (南西から)



S I 04 断面 (南東から)



S I 04-F 1 石囲炉 (南東から)



S I 04-F 1 石囲炉断面 (南東から)



S K 01 全景 (南から)



S K 01 断面 (南から)



S K 02 全景 (南から)



S K 02 断面 (南から)



S K 03 全景 (北から)



S K 03 断面 (北から)



S K 05 全景 (南から)



S K 05 断面 (南から)

写真図版 24 縄文時代土坑 (S K 01 ~ 03・05)



S K 06 全景 (南から)



S K 06 断面 (南から)



S K 07 全景 (南から)



S K 07 断面 (南から)



S K 04 全景 (南東から)



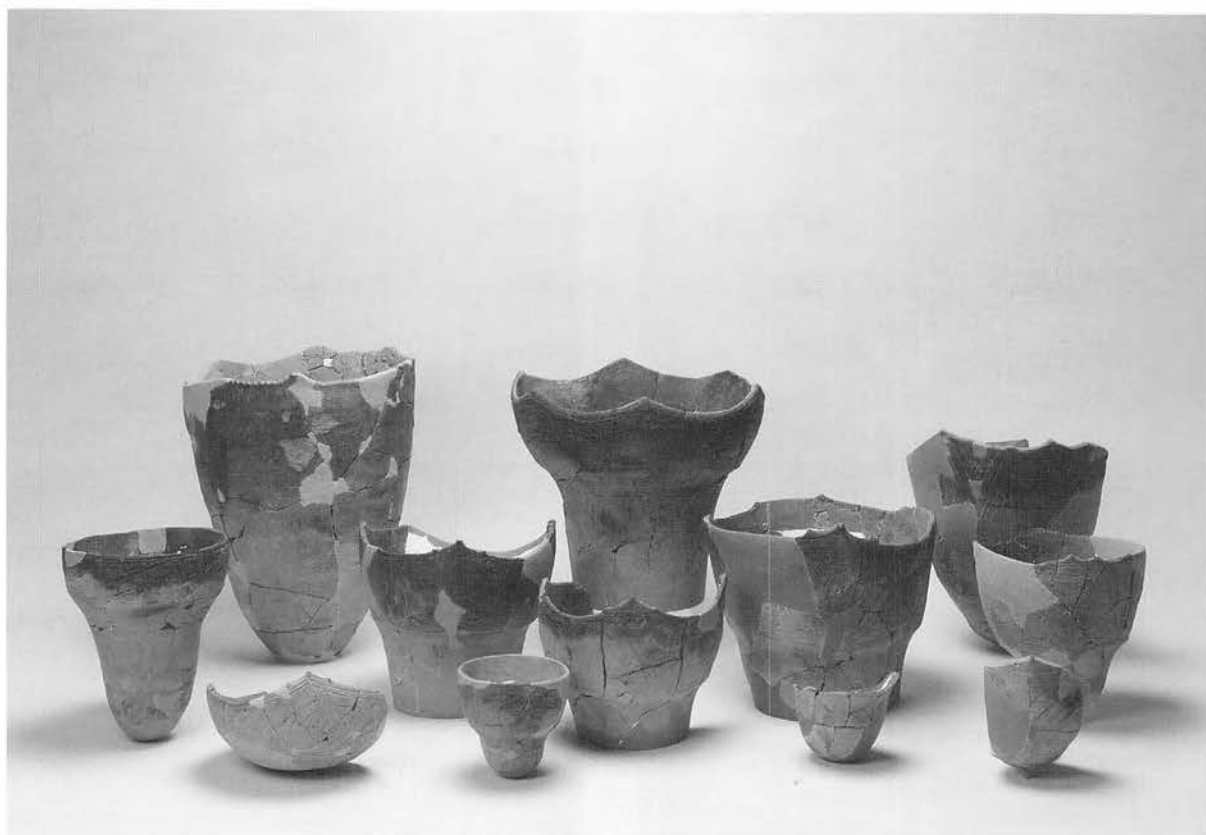
S K 04 断面 (南東から)



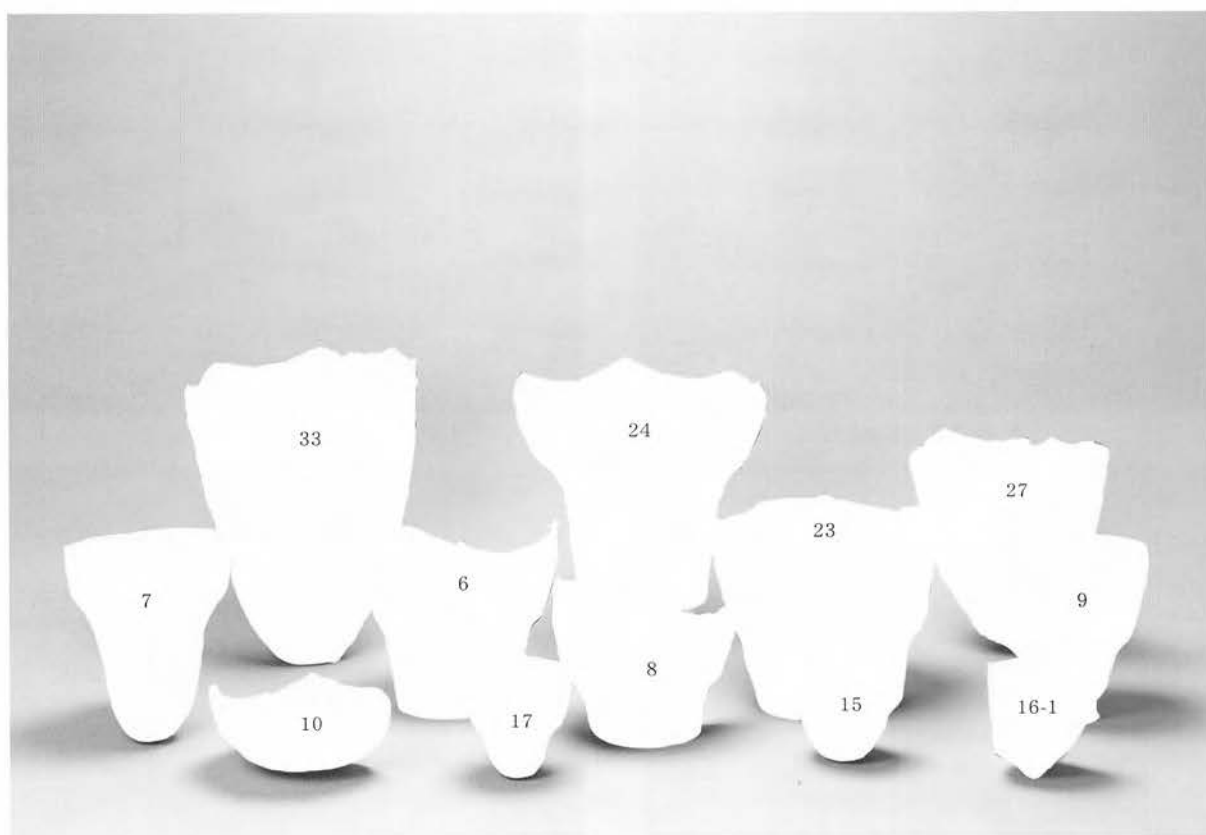
S K 08 全景 (南東から)



S K 08 断面 (北西から)



主要土器（早期・貝殻沈線文土器）

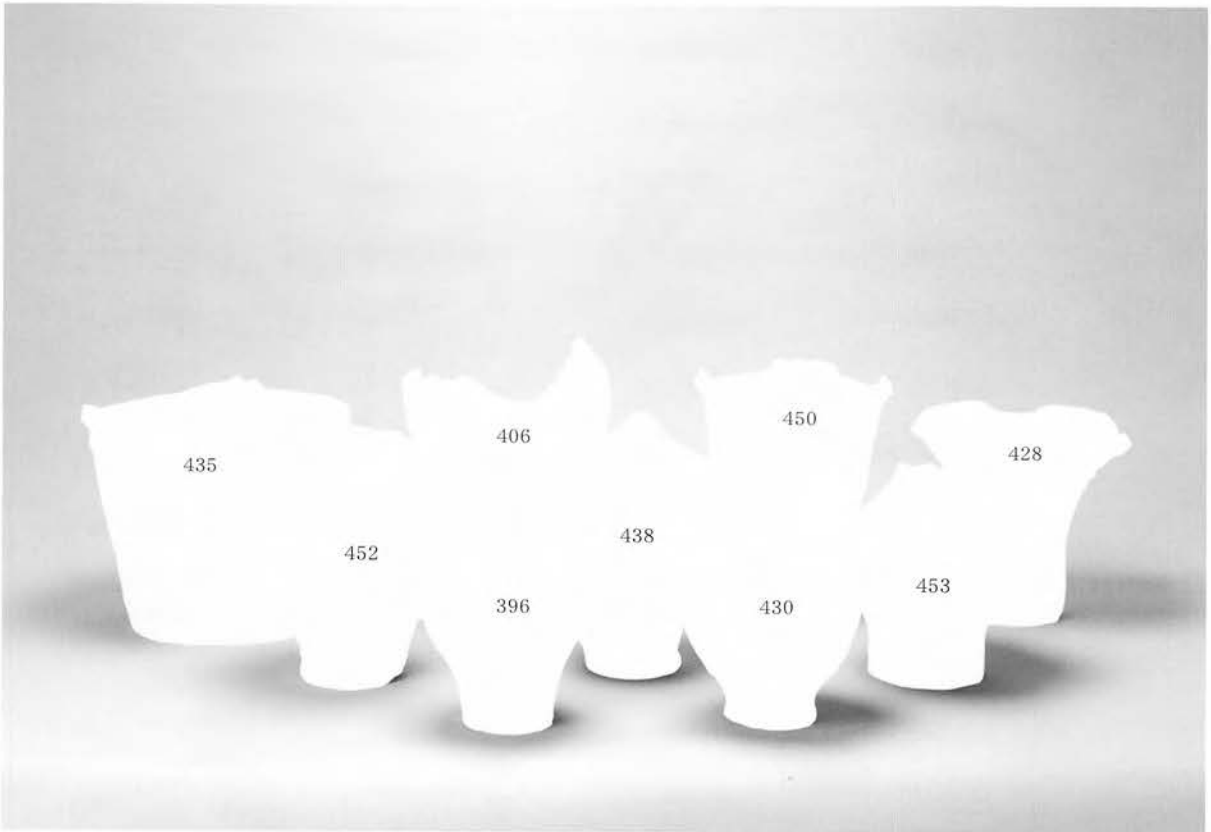


主要土器（早期・貝殻沈線文土器）番号

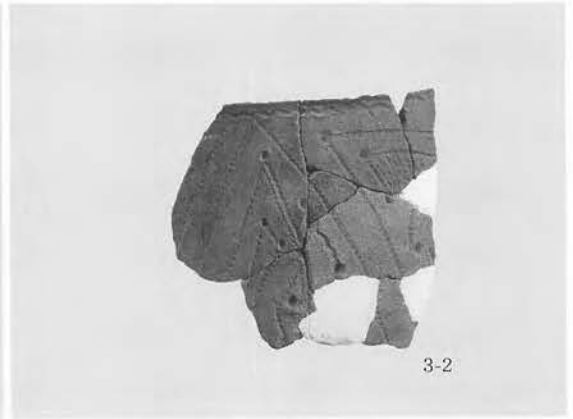
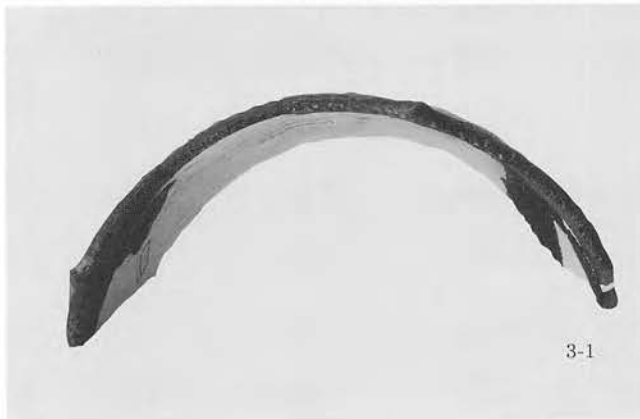
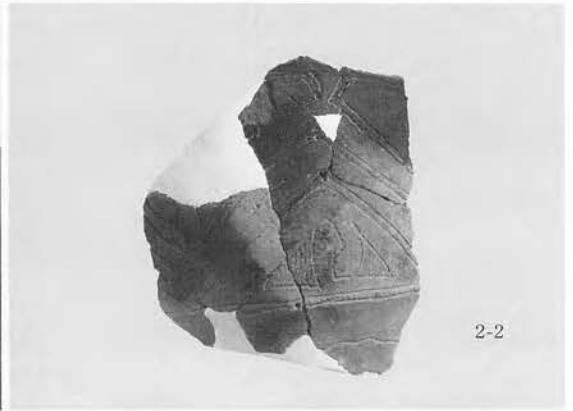
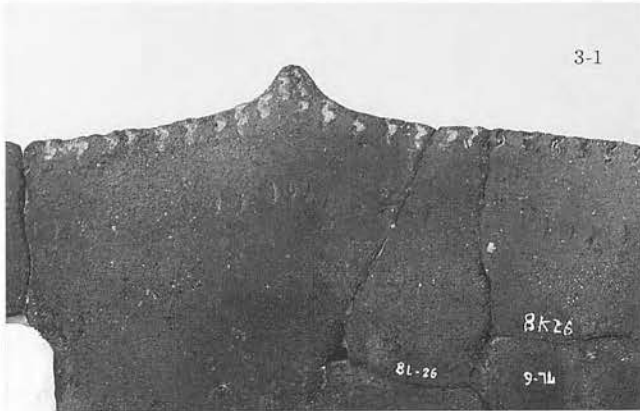
写真図版 26 主要土器（貝殻・沈線文土器）



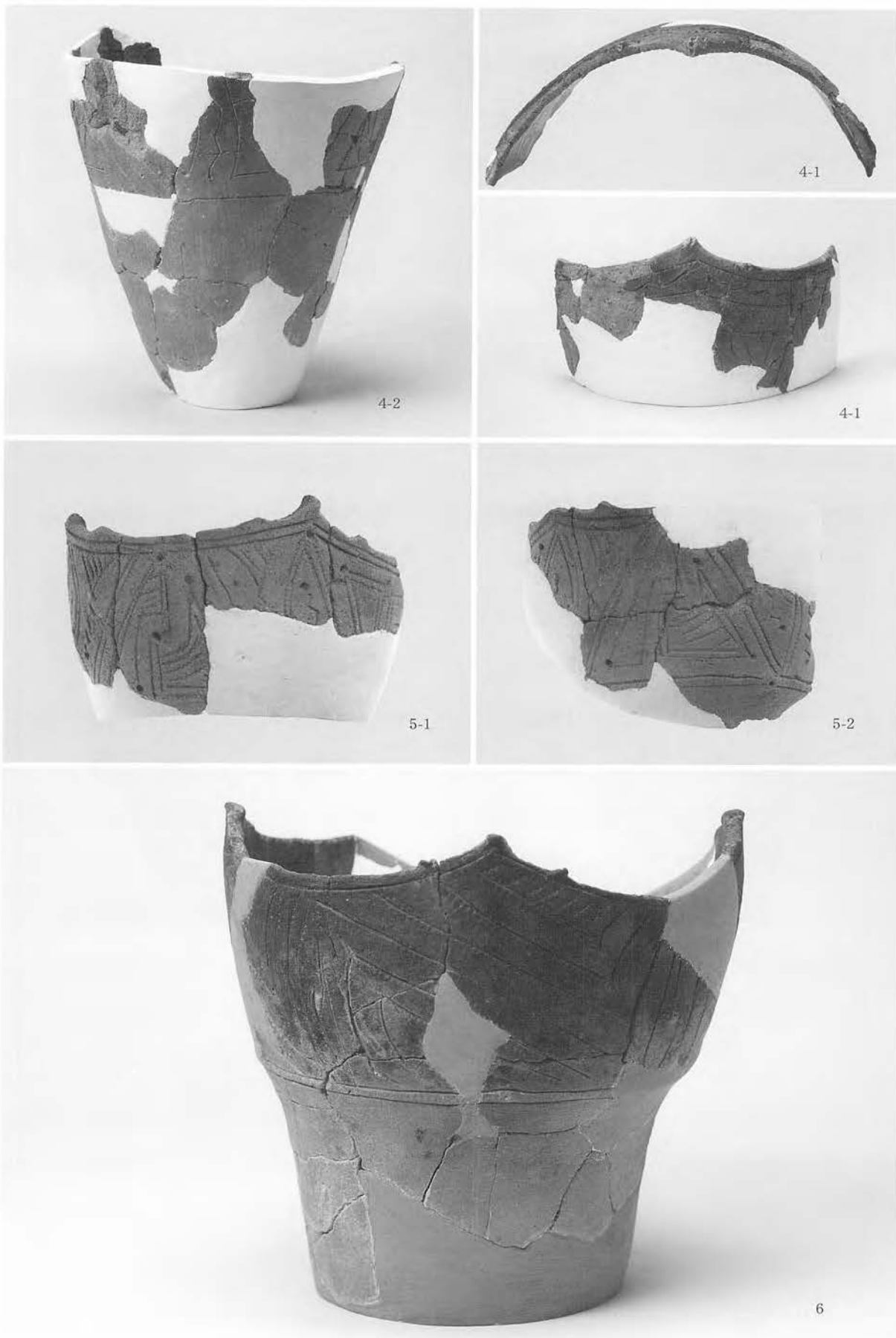
主要土器（前期・縄文土器）



主要土器（前期・縄文土器）番号



写真図版 28 土器 (1~4)



写真図版 29 土器 (4~6)



7



8



7



9



10

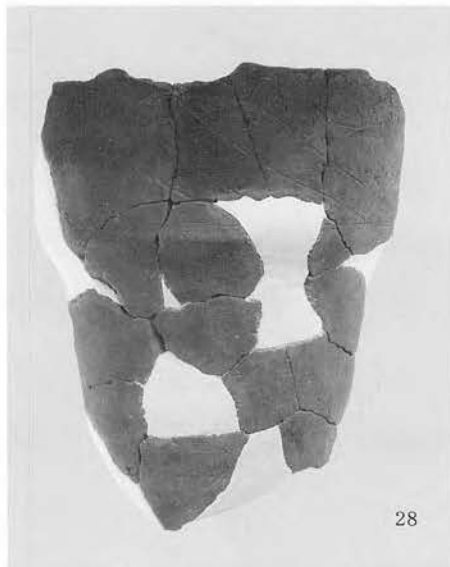
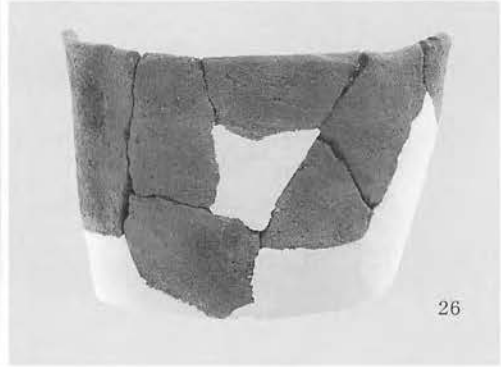
写真図版 30 縄文時代早期土器 (7~10)



写真図版 31 土器 (11 ~ 16)



写真図版 32 土器 (17 ~ 22)



写真図版 33 土器 (23・25～29)



24



24

写真図版 34 土器 (24)



写真図版 35 土器 (30 ~ 32・34)

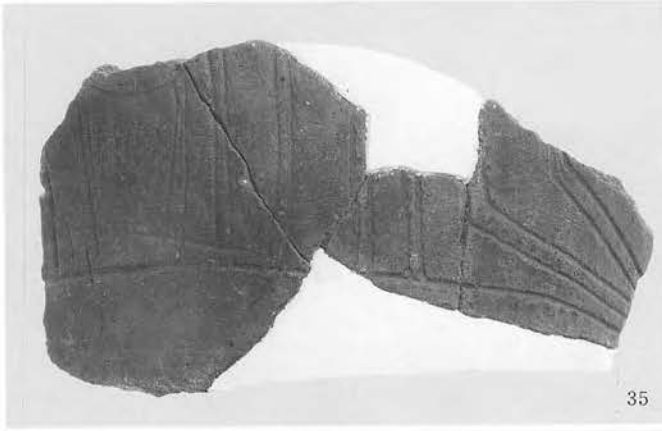


33



36

写真図版 36 土器 (33・36)



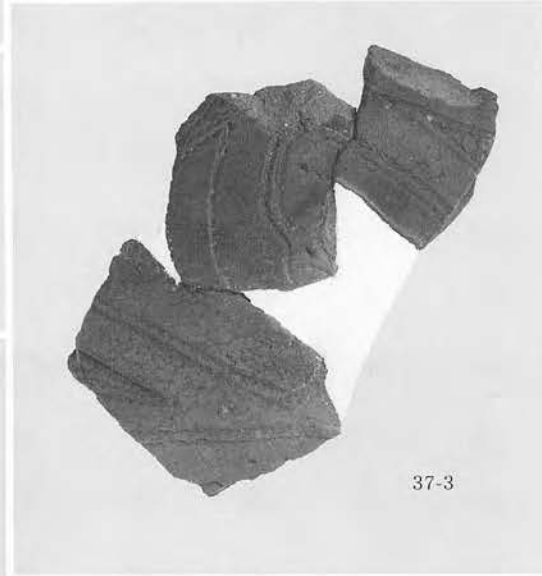
35



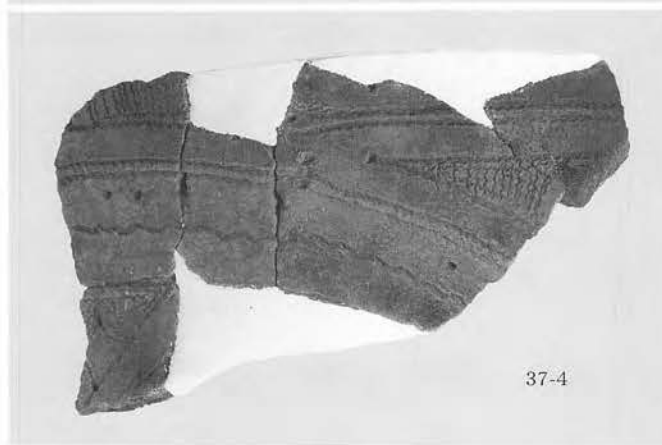
37-2



37-1



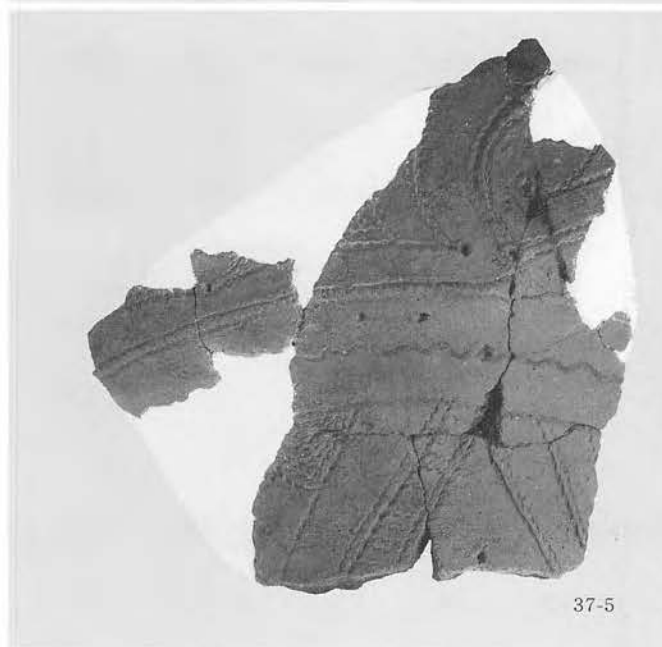
37-3



37-4



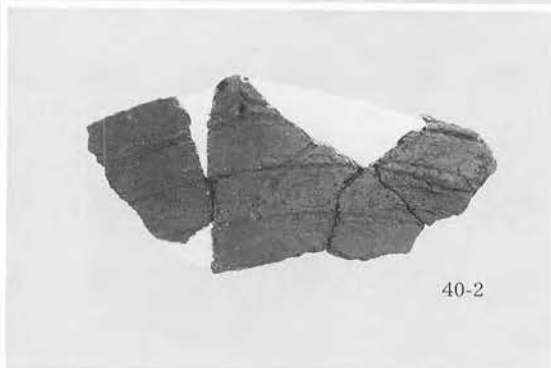
39-2



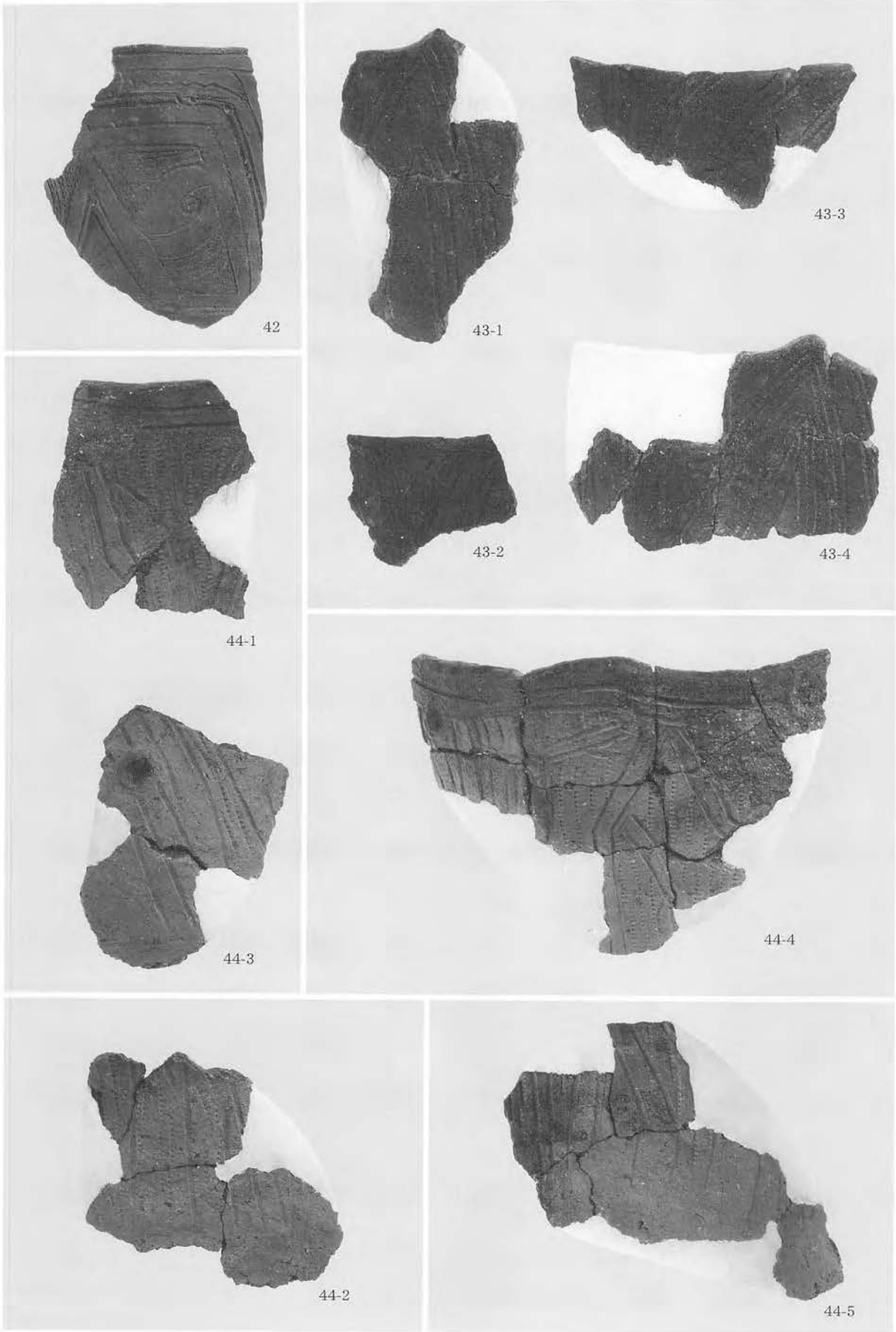
37-5



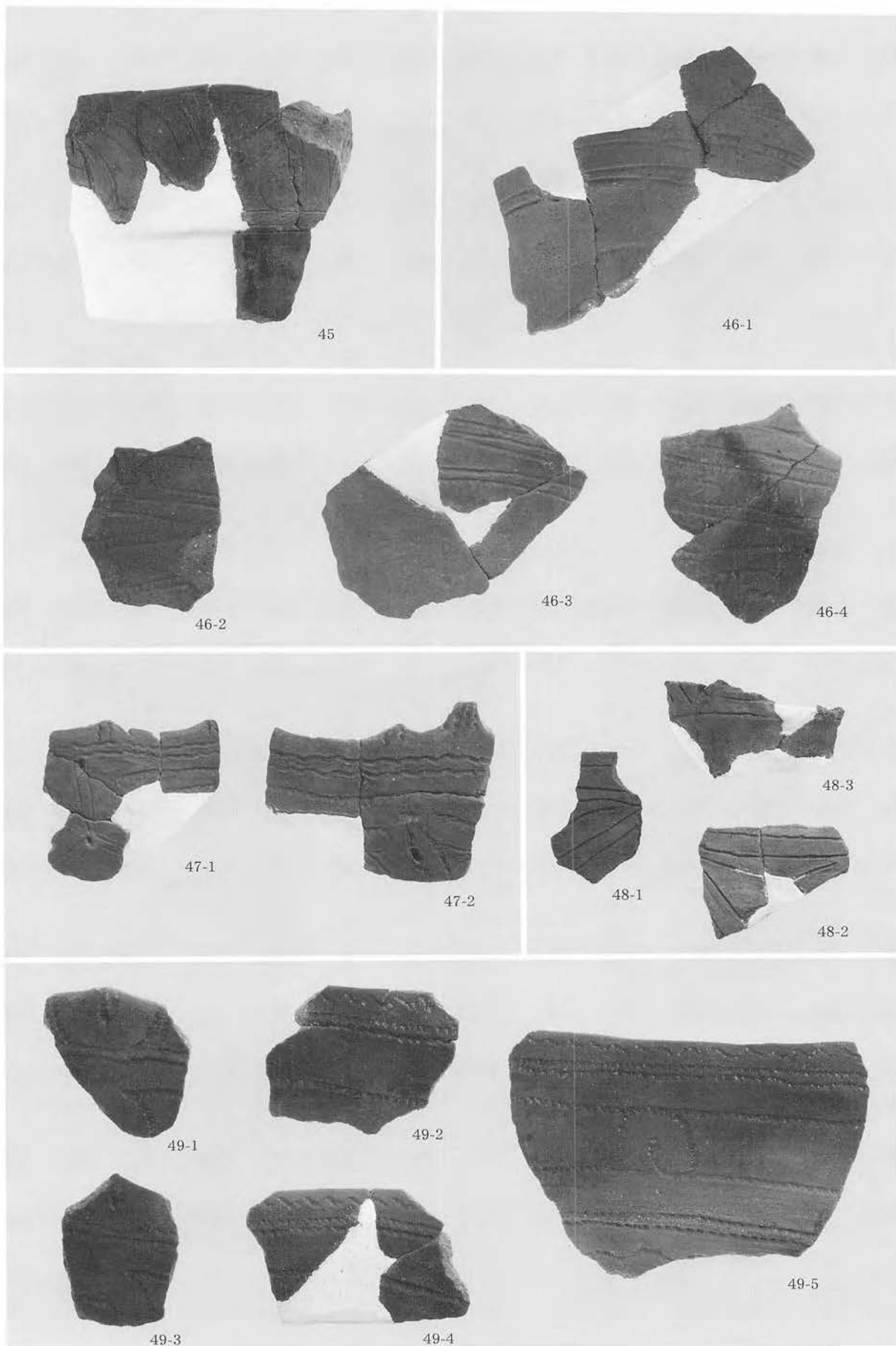
39-1



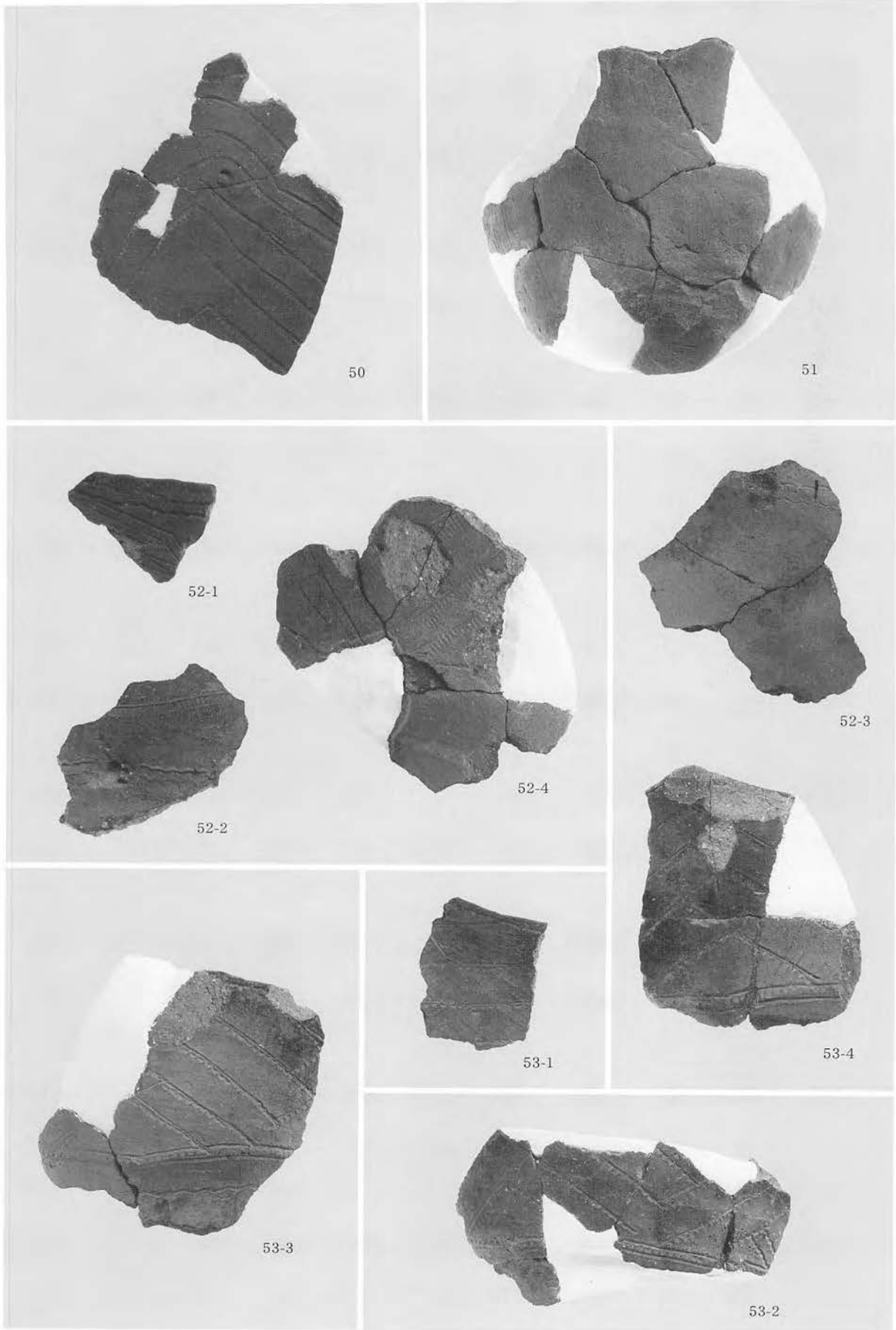
写真図版 38 土器 (38・40・41)



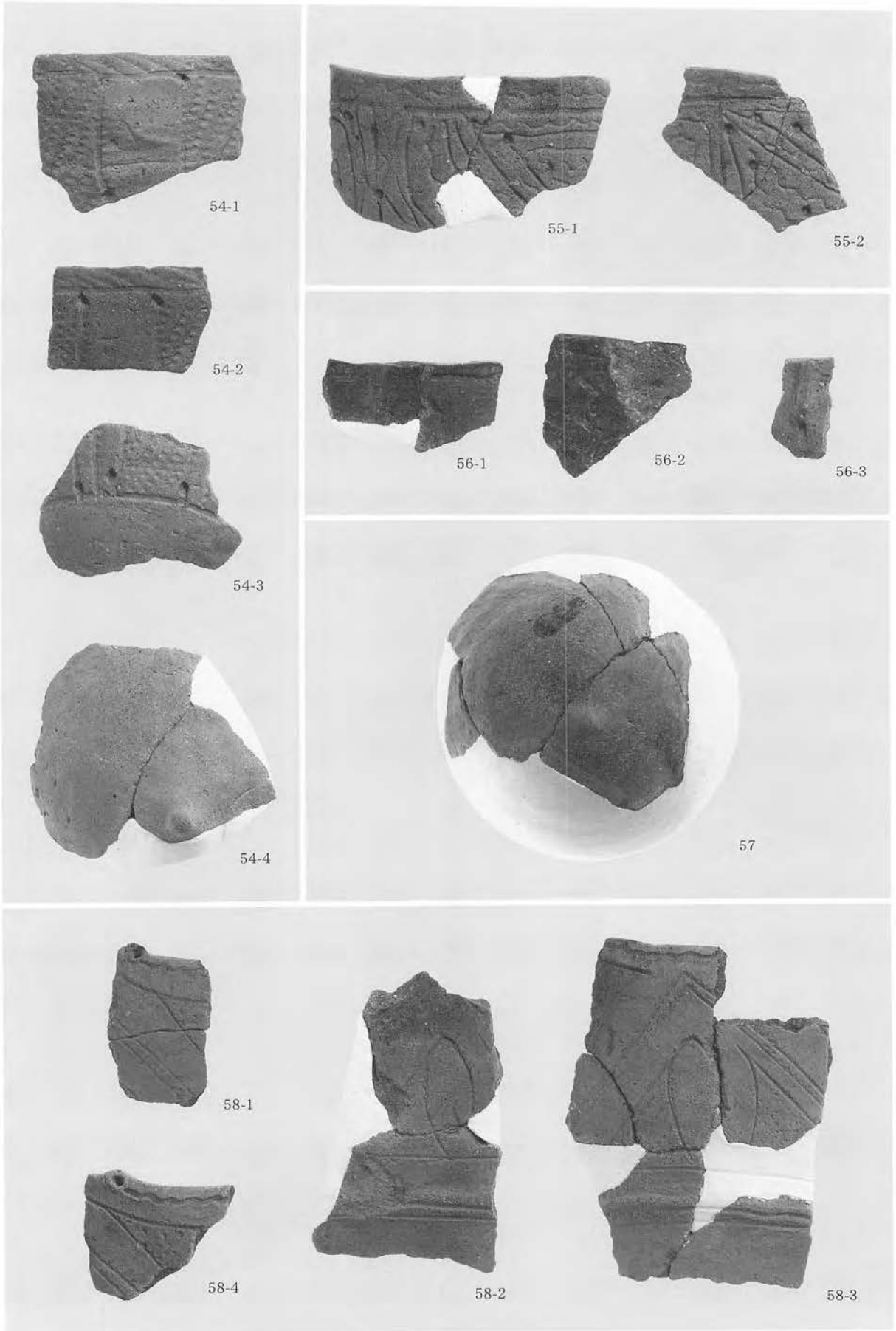
写真図版 39 土器 (42 ~ 44)



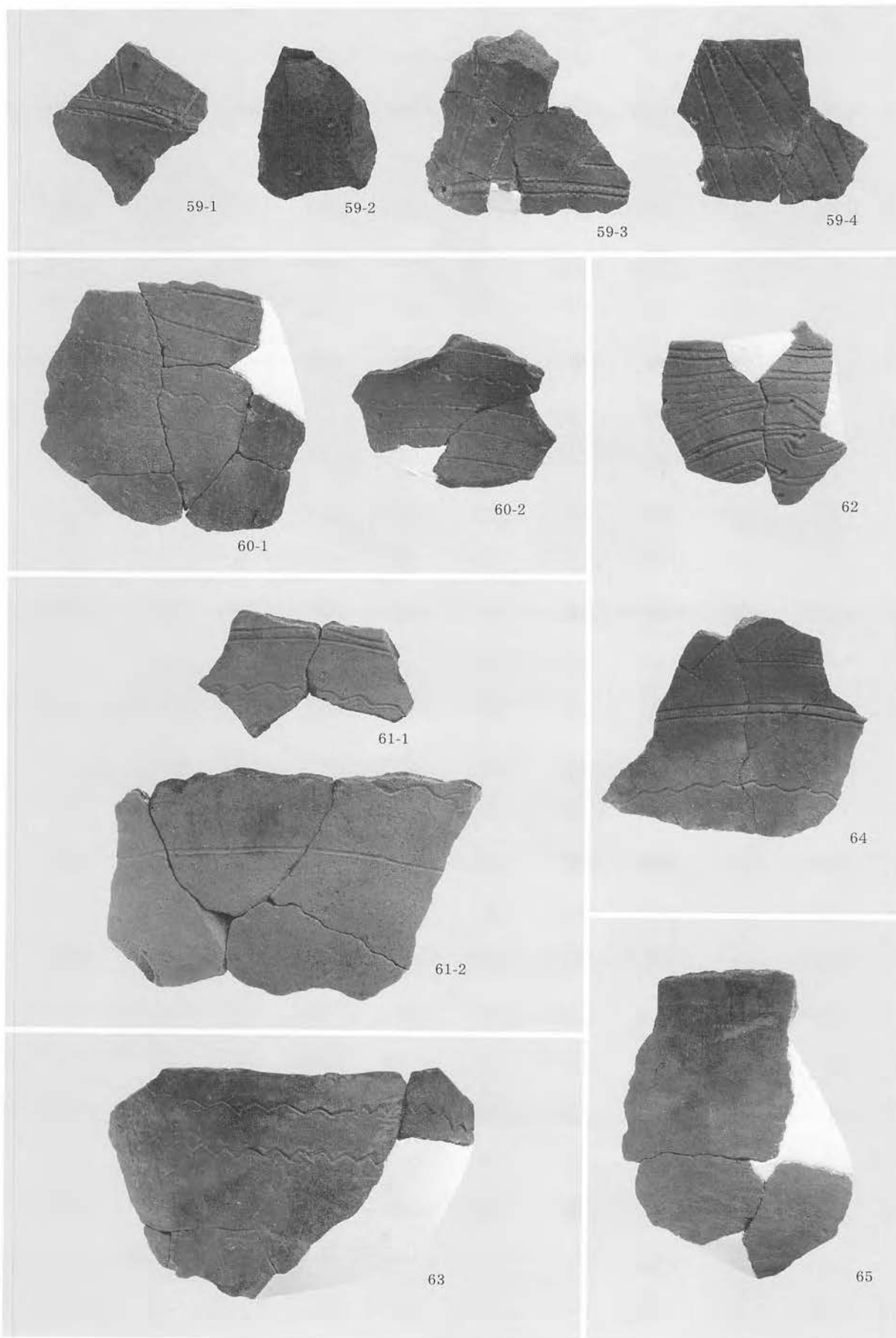
写真図版 40 土器 (45 ~ 49)



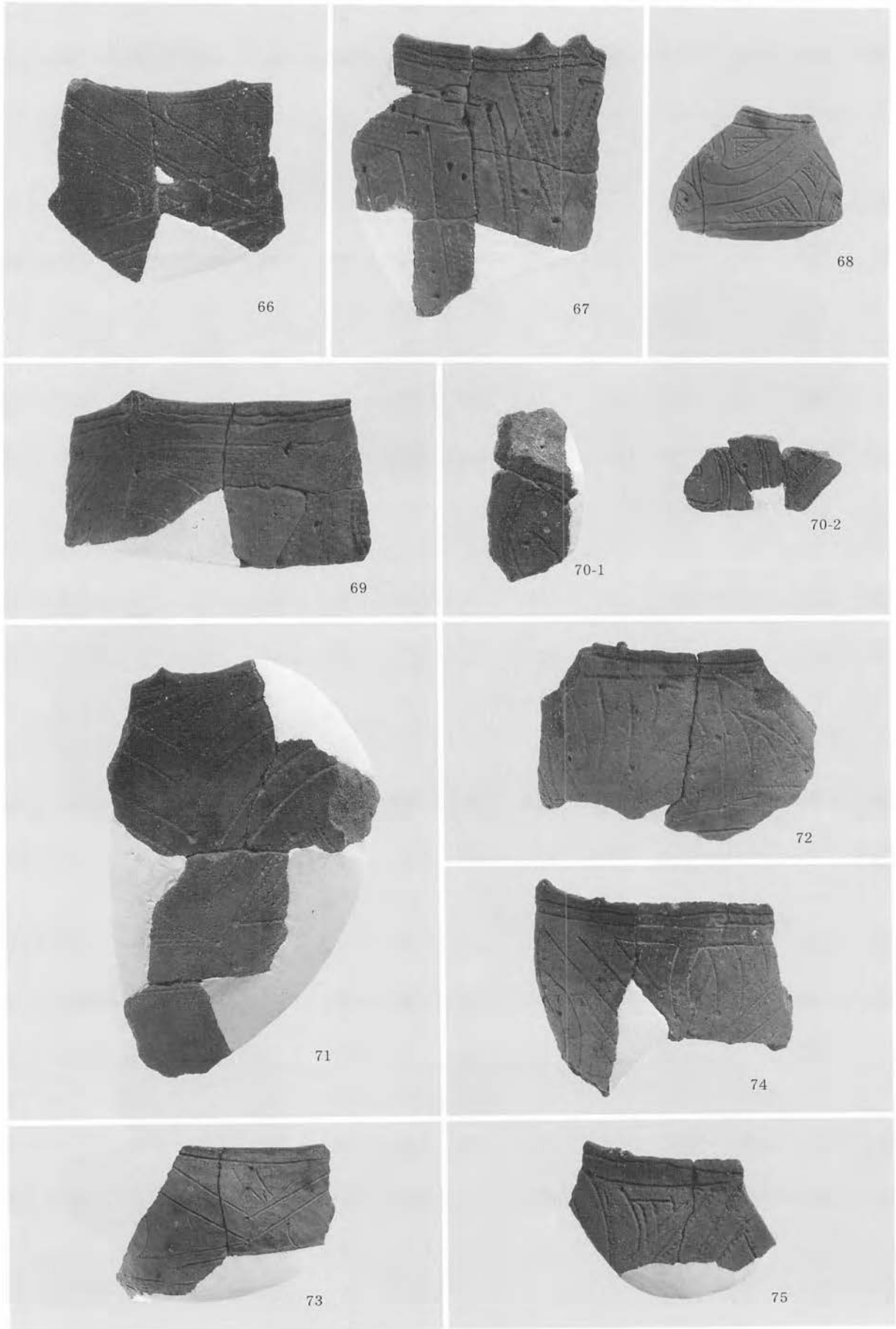
写真図版 41 土器 (50 ~ 53)



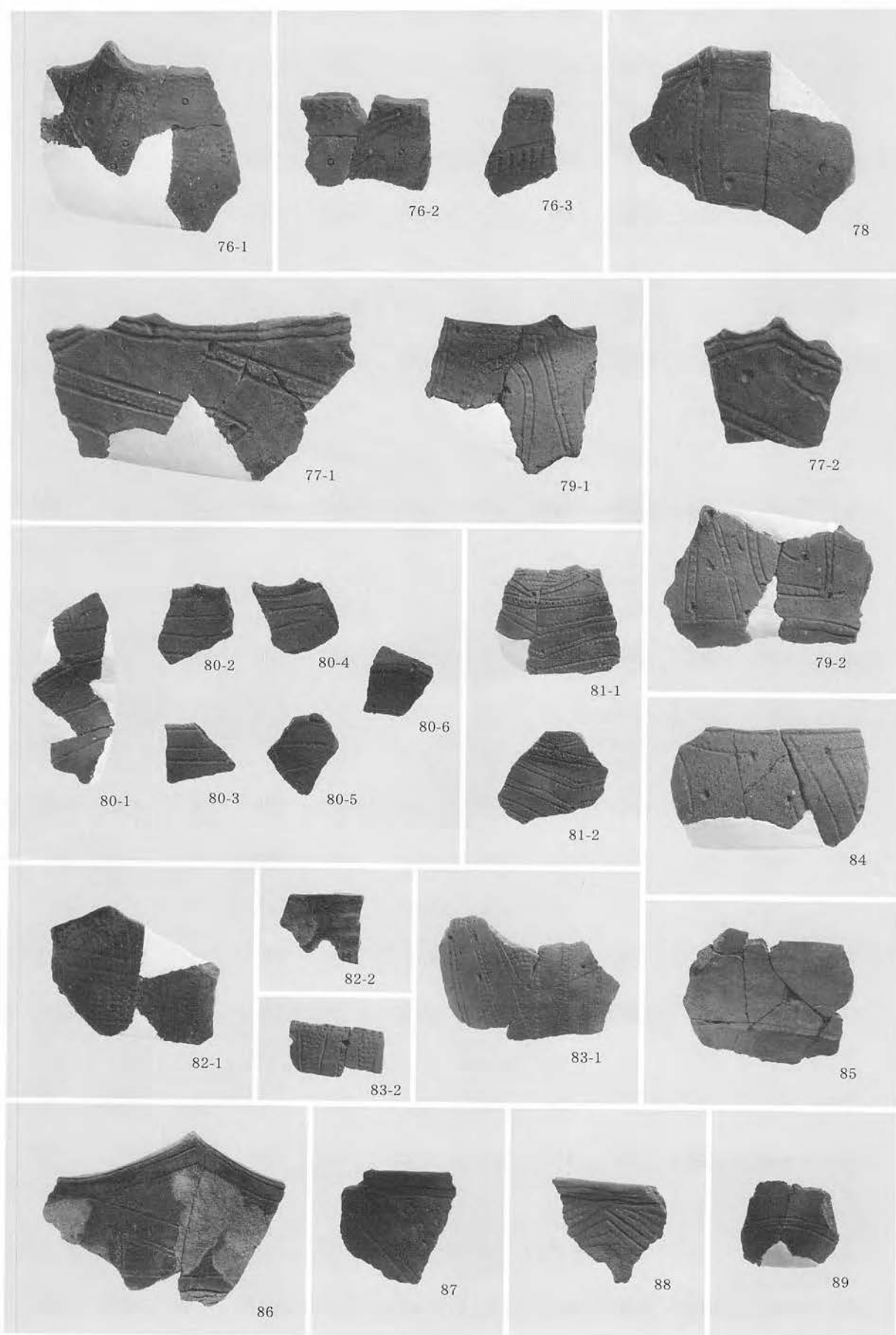
写真図版 42 土器 (54 ~ 58)



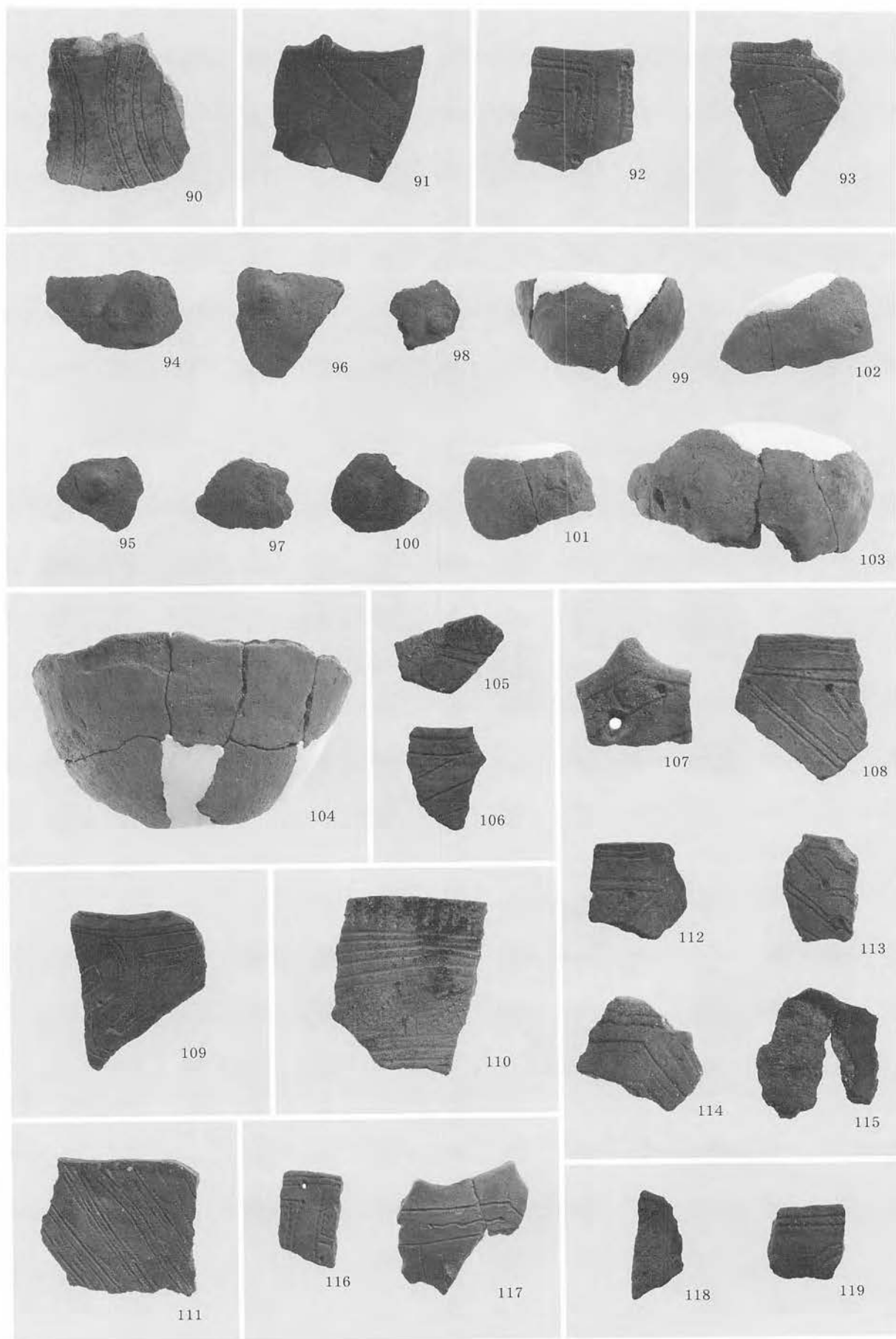
写真図版 43 土器 (59 ~ 65)



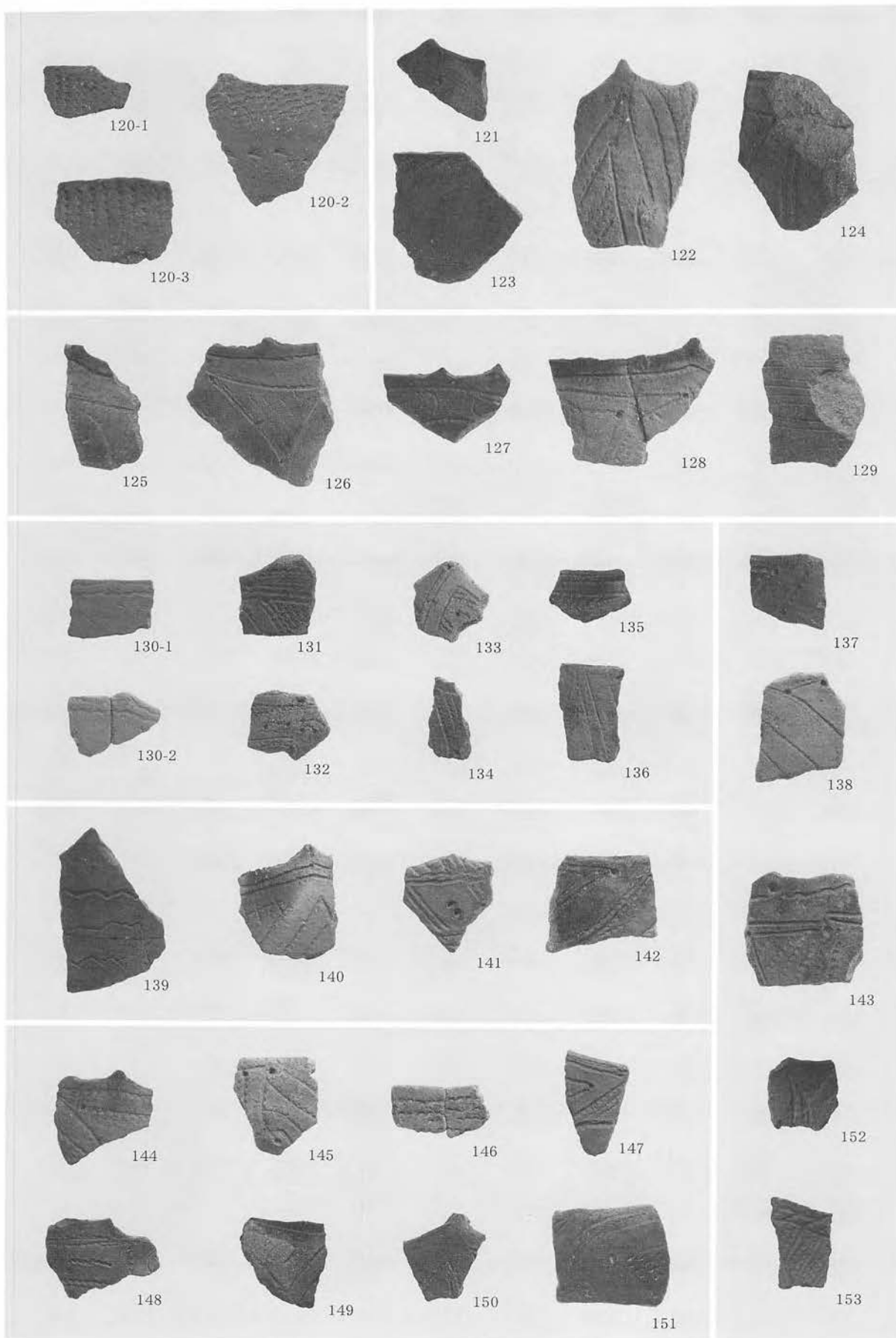
写真図版 44 土器 (66 ~ 75)



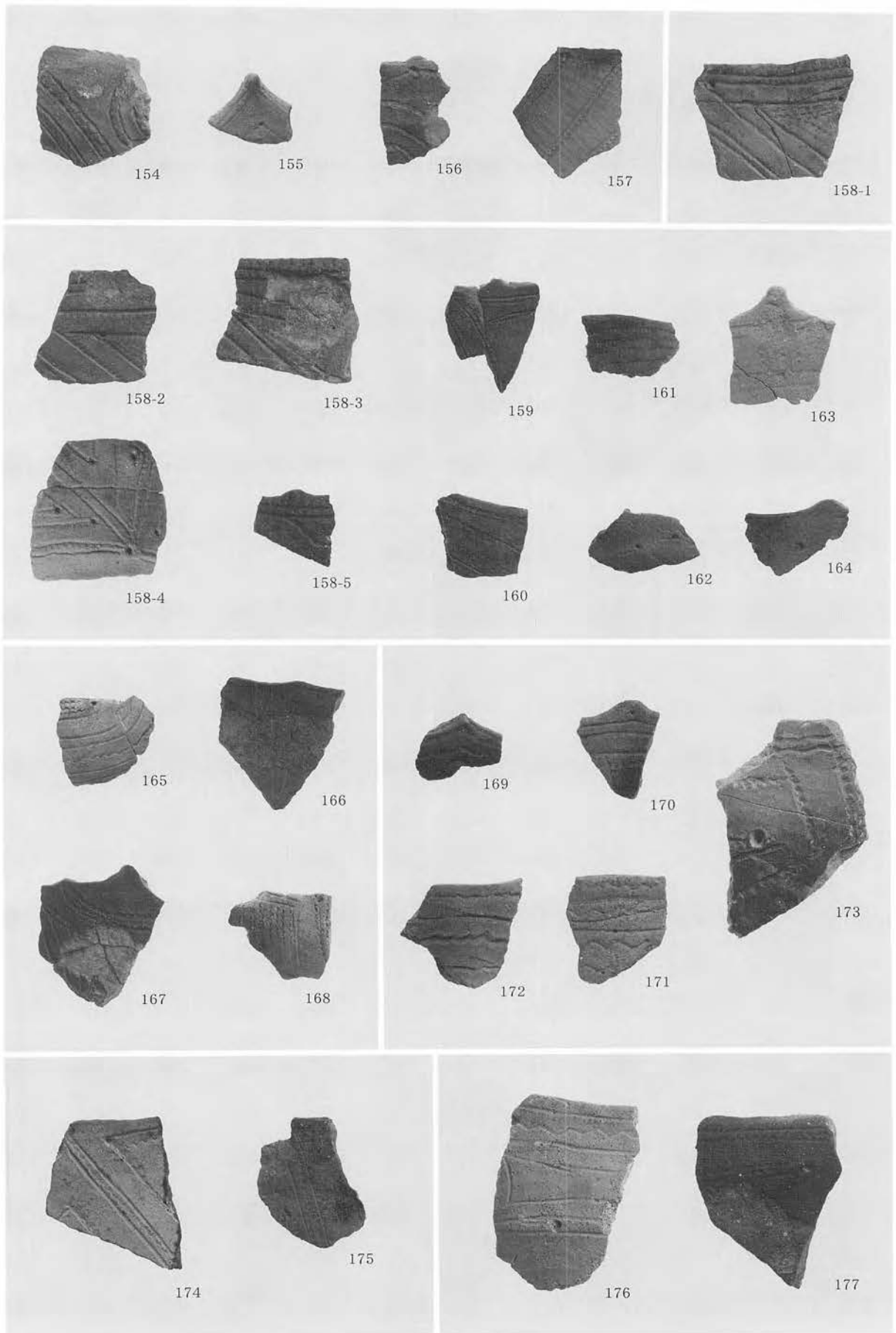
写真図版 45 土器 (76 ~ 89)



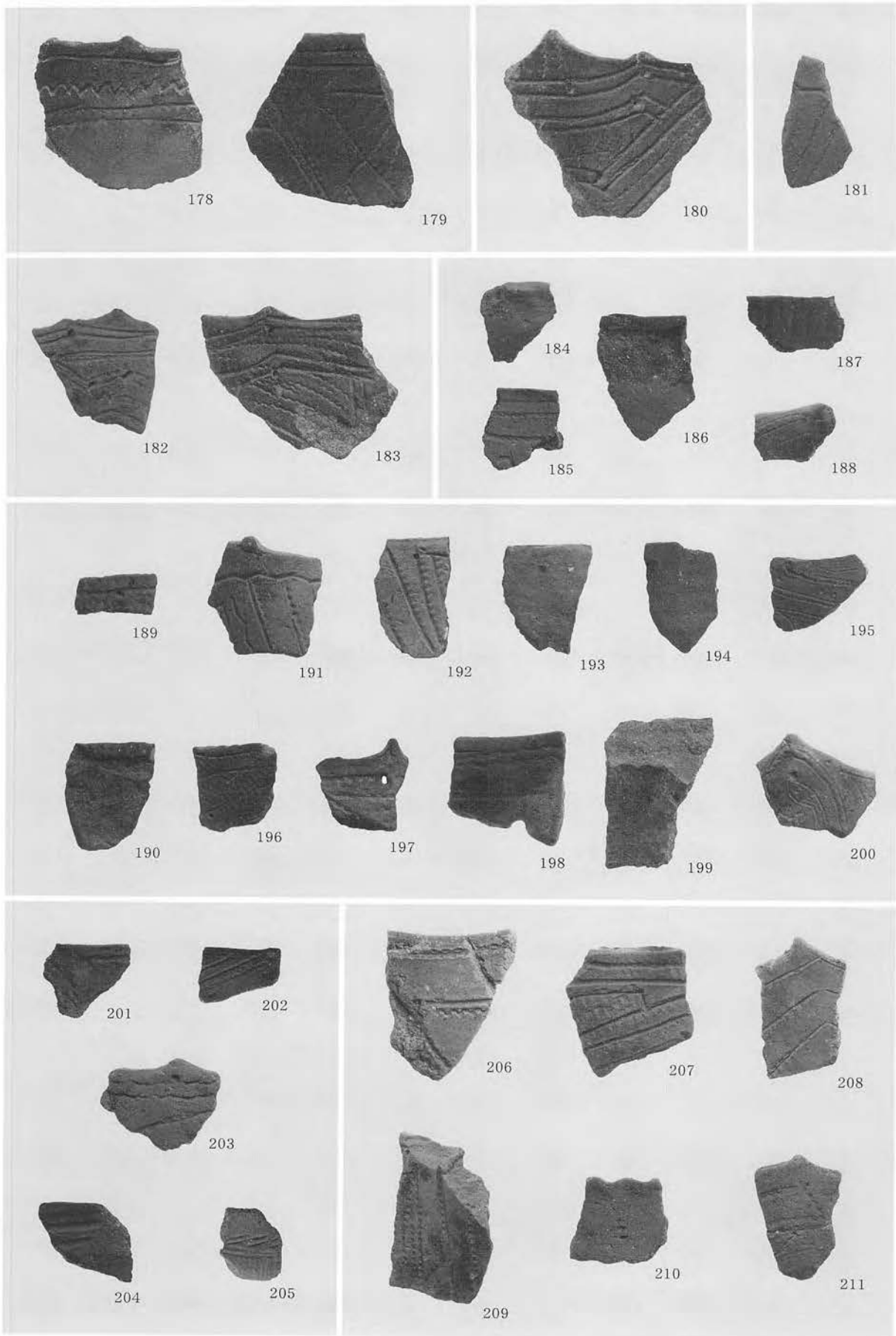
写真図版 46 土器 (90 ~ 119)



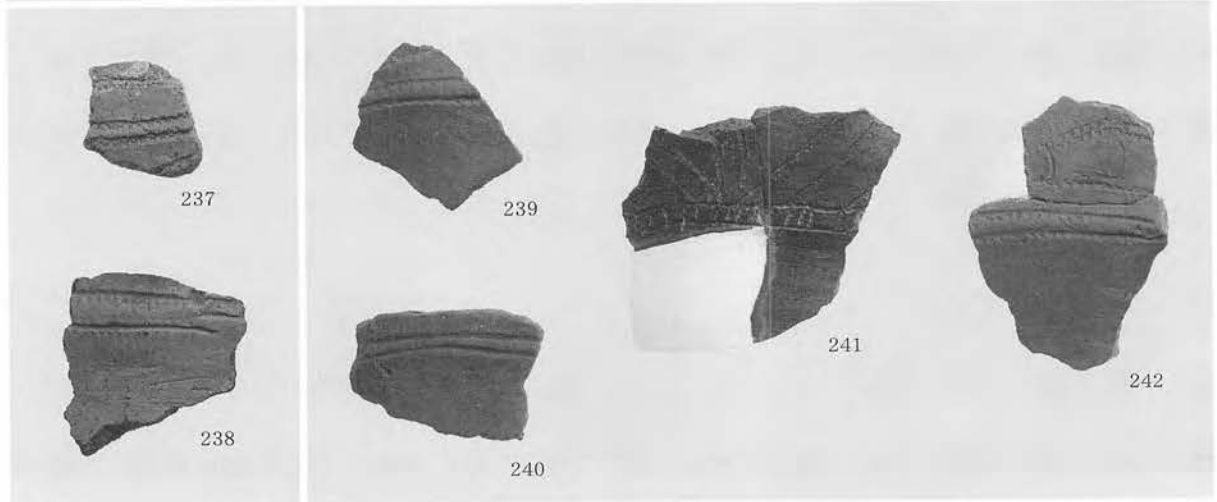
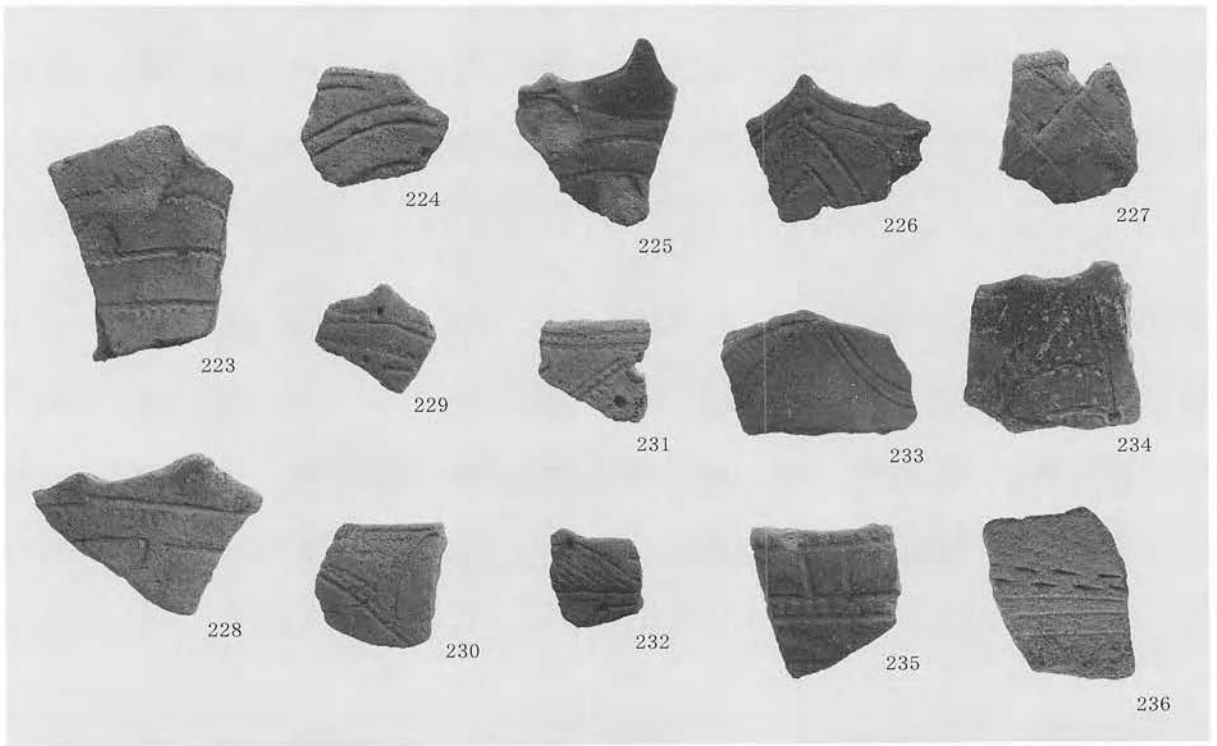
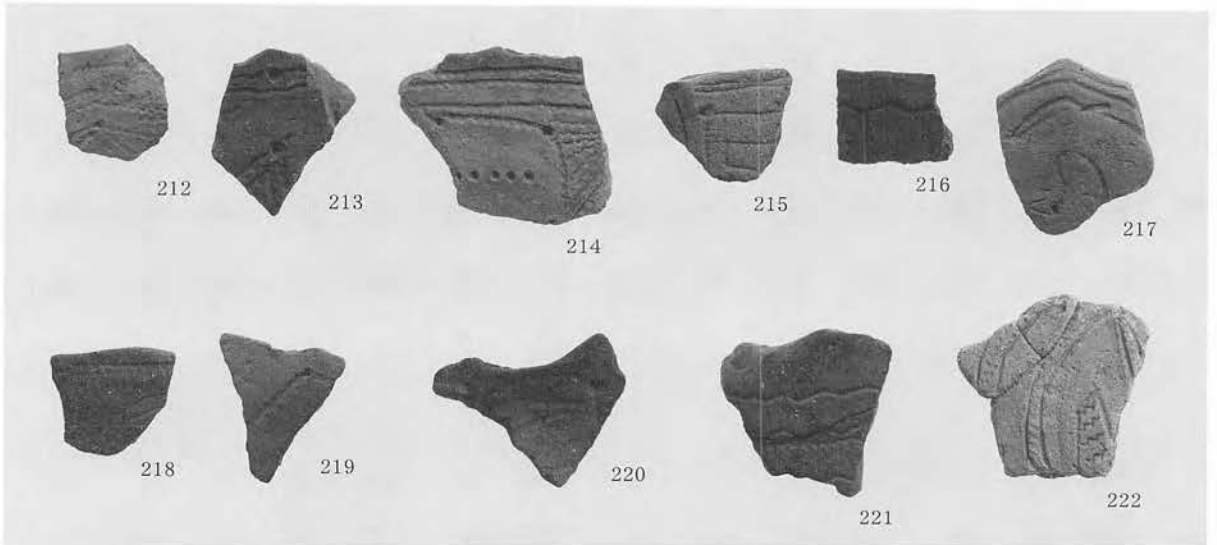
写真図版 47 土器 (120 ~ 153)



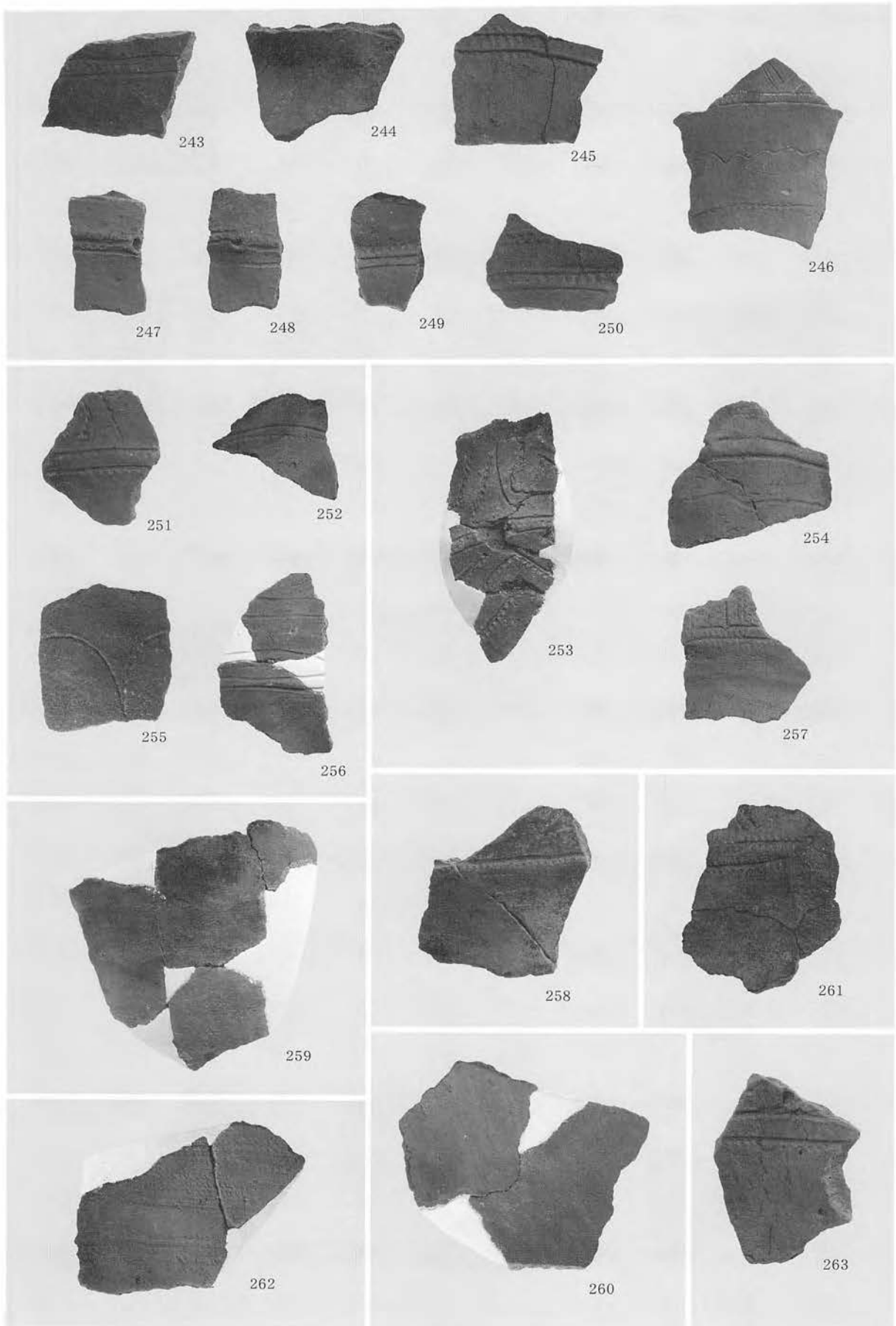
写真図版 48 土器 (154 ~ 177)



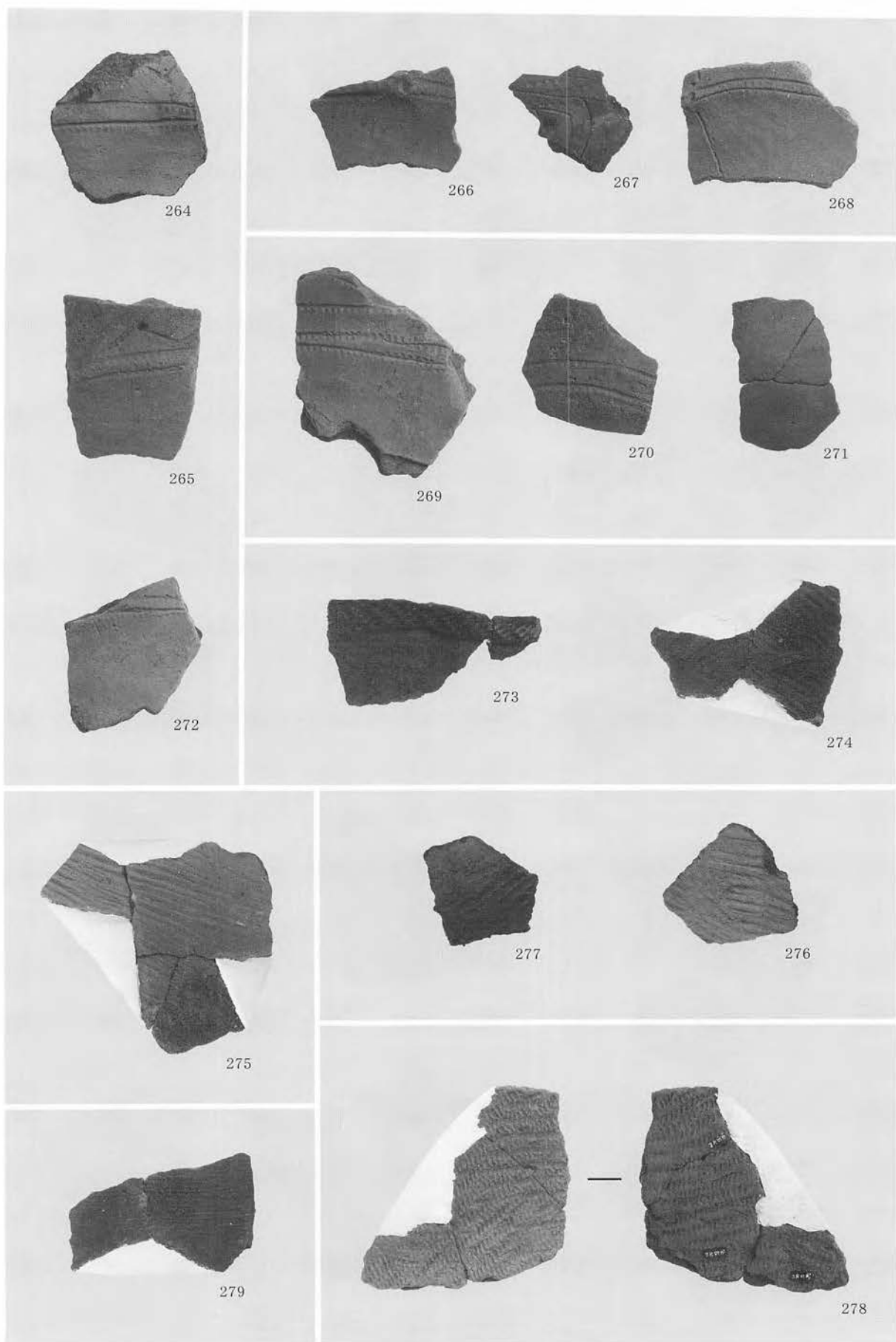
写真図版 49 土器 (178 ~ 211)



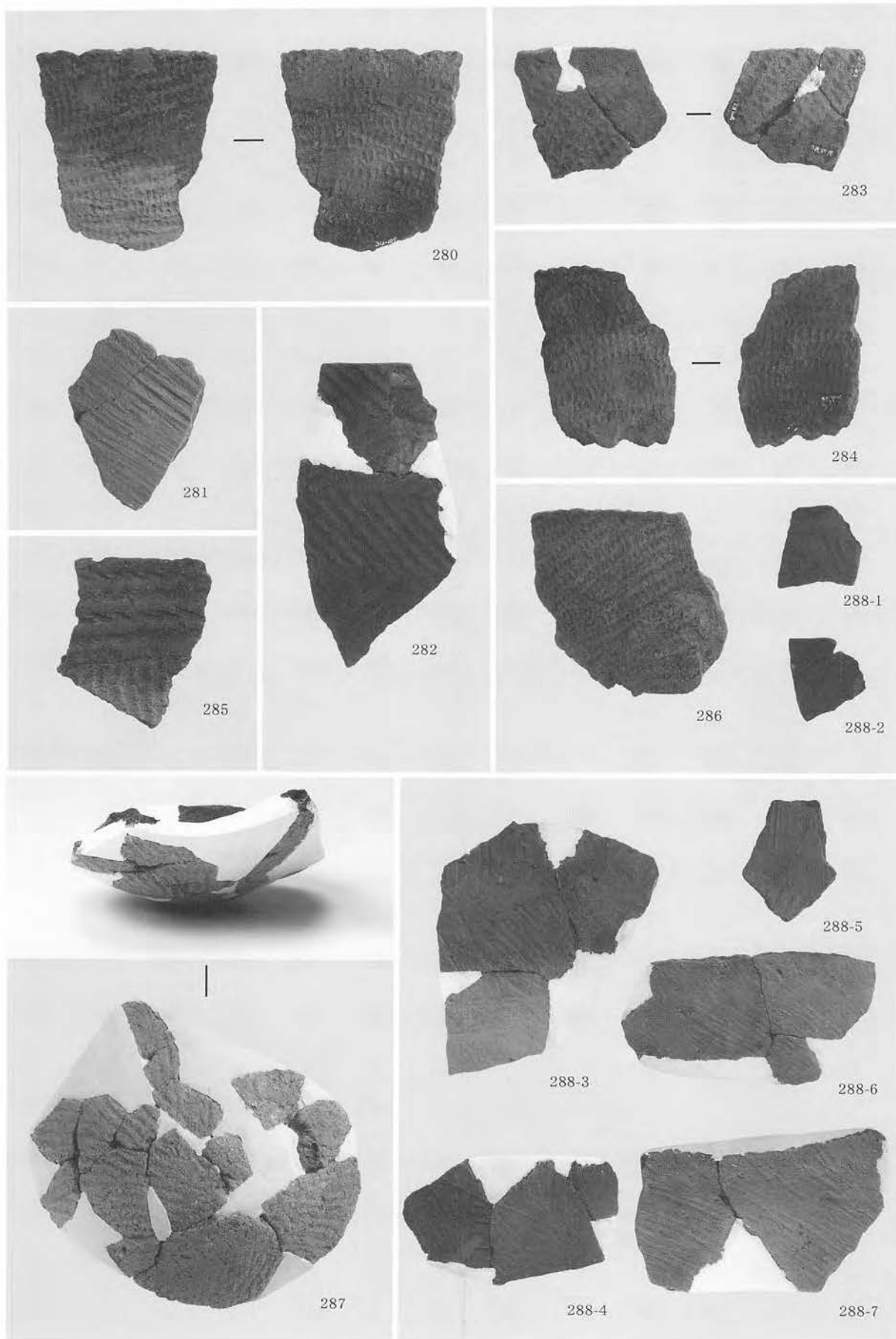
写真図版 50 土器 (212 ~ 242)



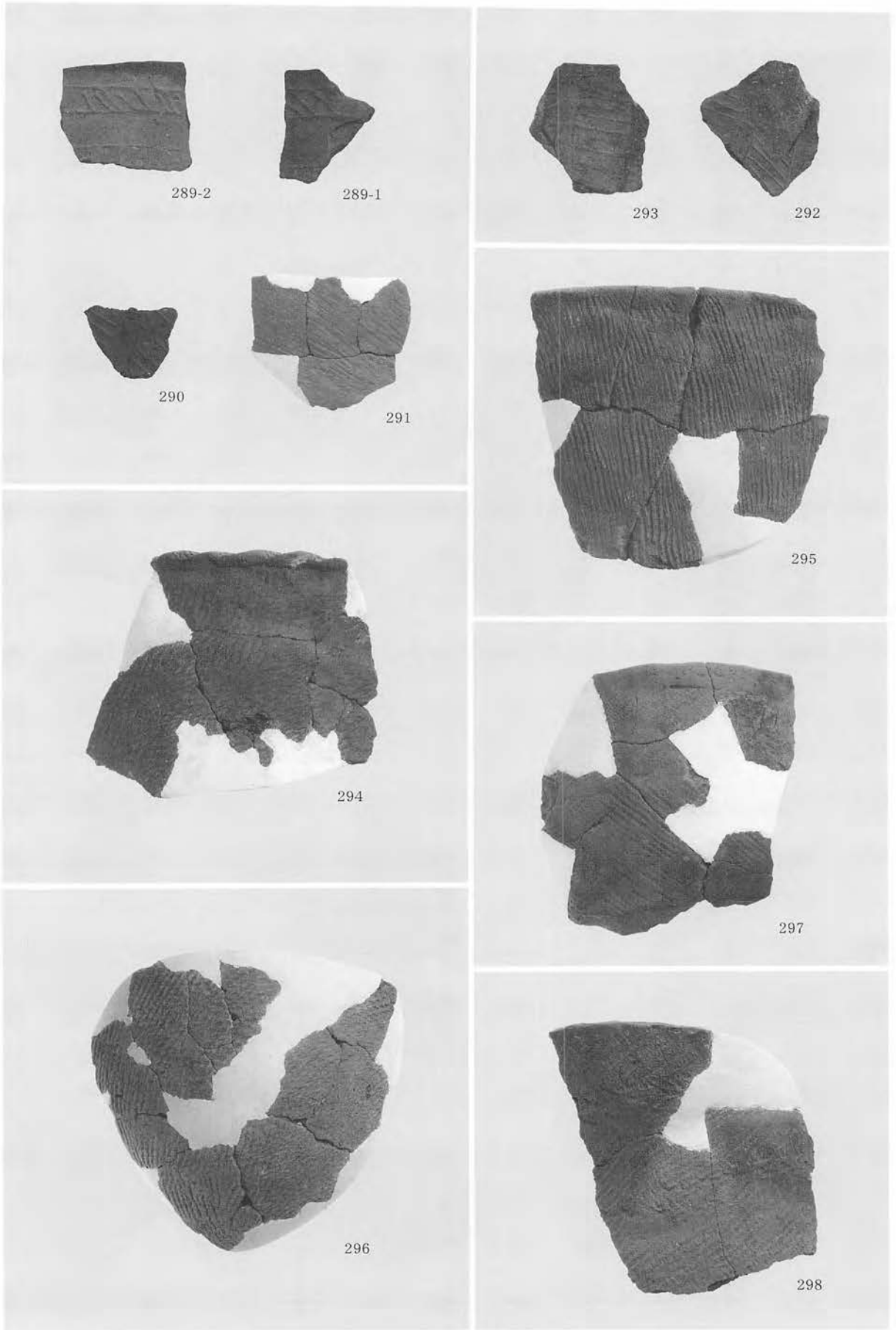
写真図版 51 土器 (243 ~ 263)



写真図版 52 土器 (264 ~ 279)



写真図版 53 土器 (280 ~ 288)



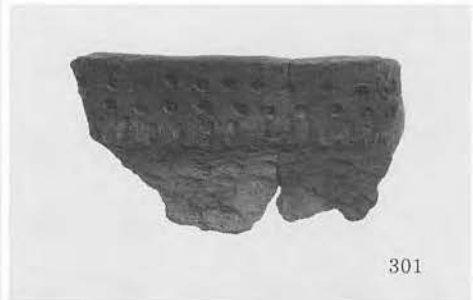
写真図版 54 土器 (289 ~ 298)



299



300



301



304



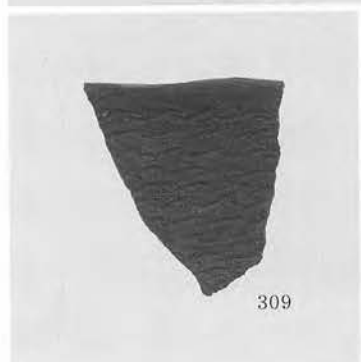
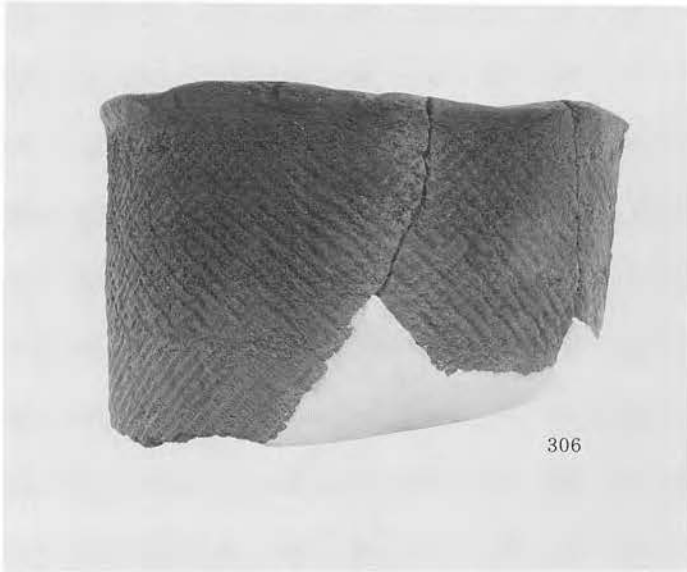
302



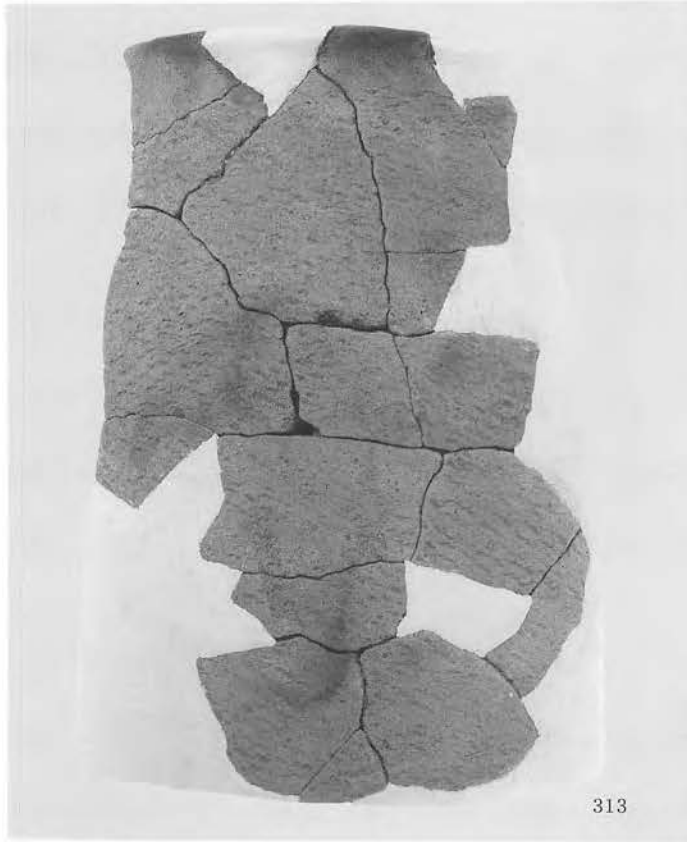
303



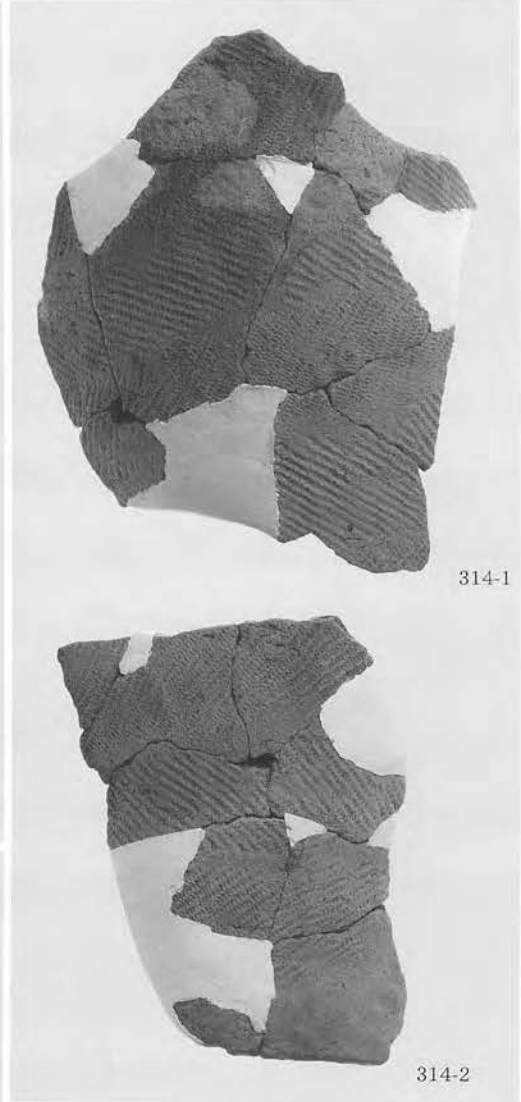
305



写真図版 56 土器 (306 ~ 312 · 316 ~ 318)



313



314-1

314-2



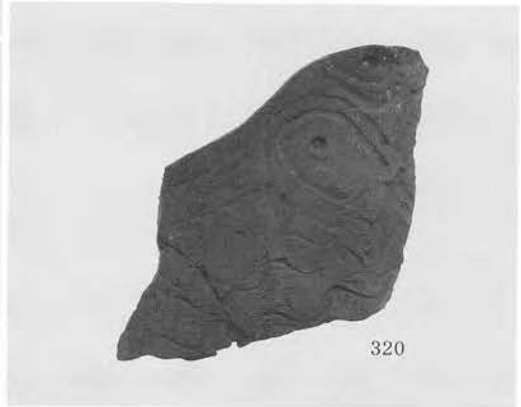
315-1



319



321



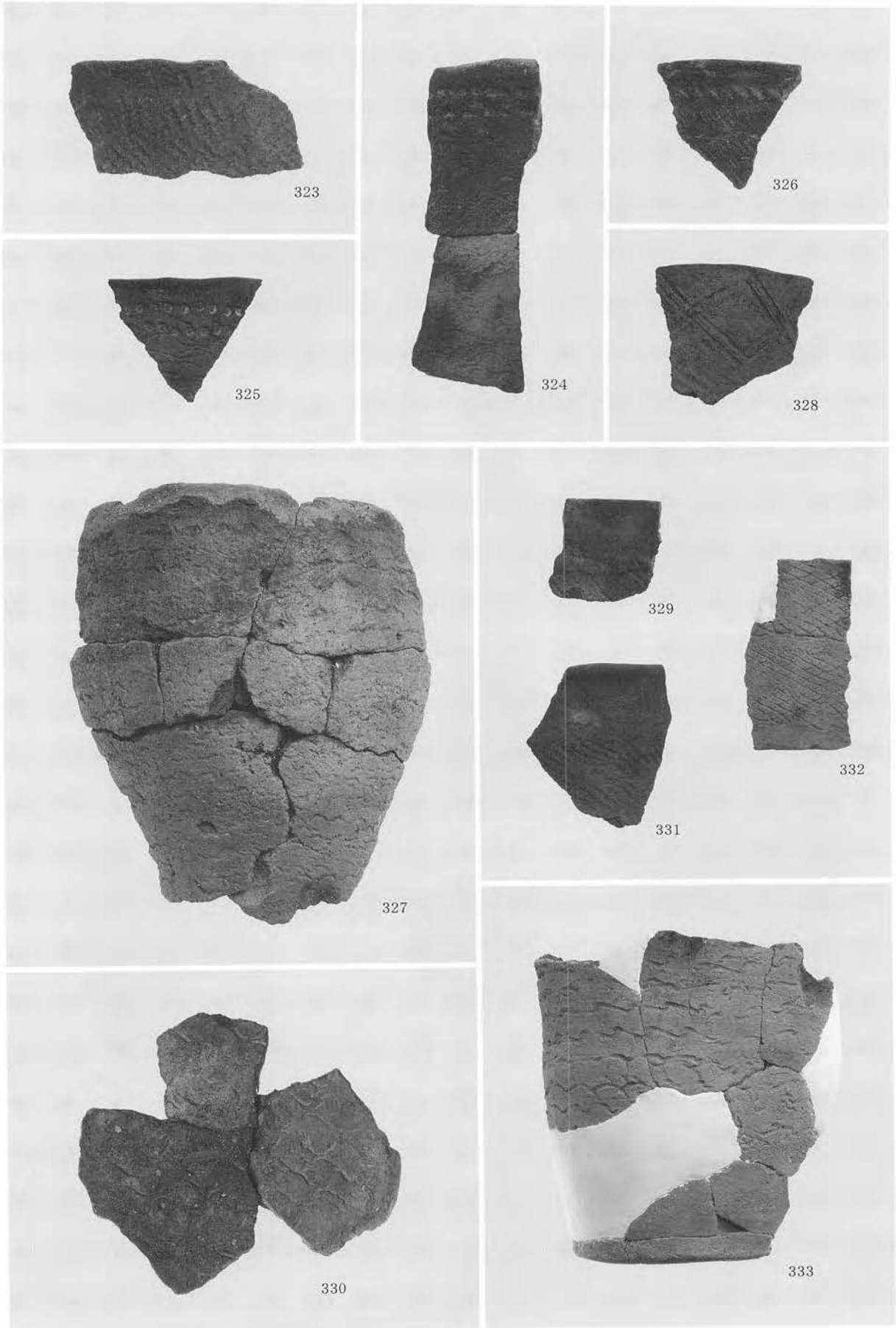
320



315-2



322



写真図版 58 土器 (323 ~ 333)



334

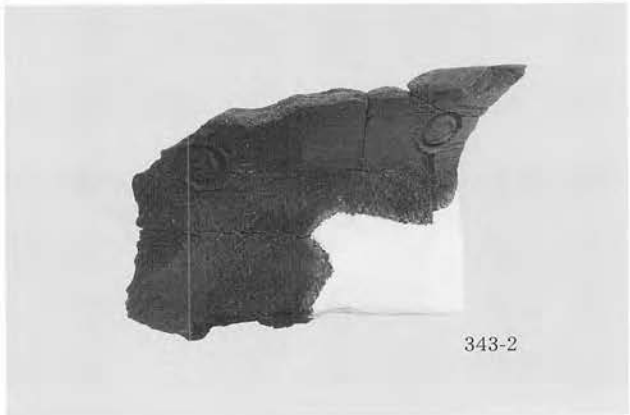
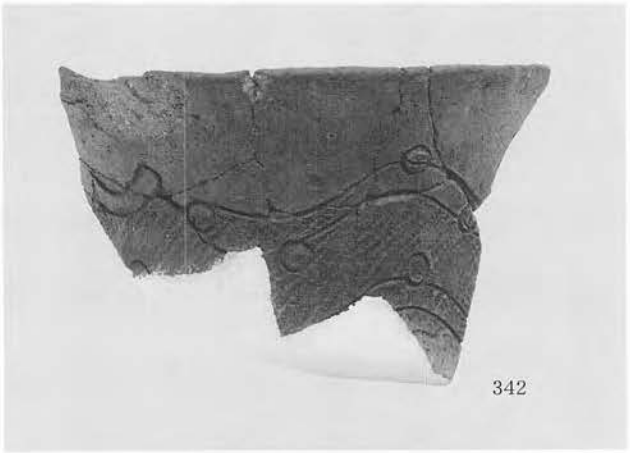
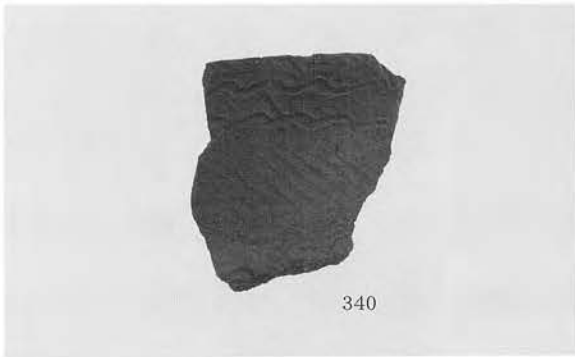
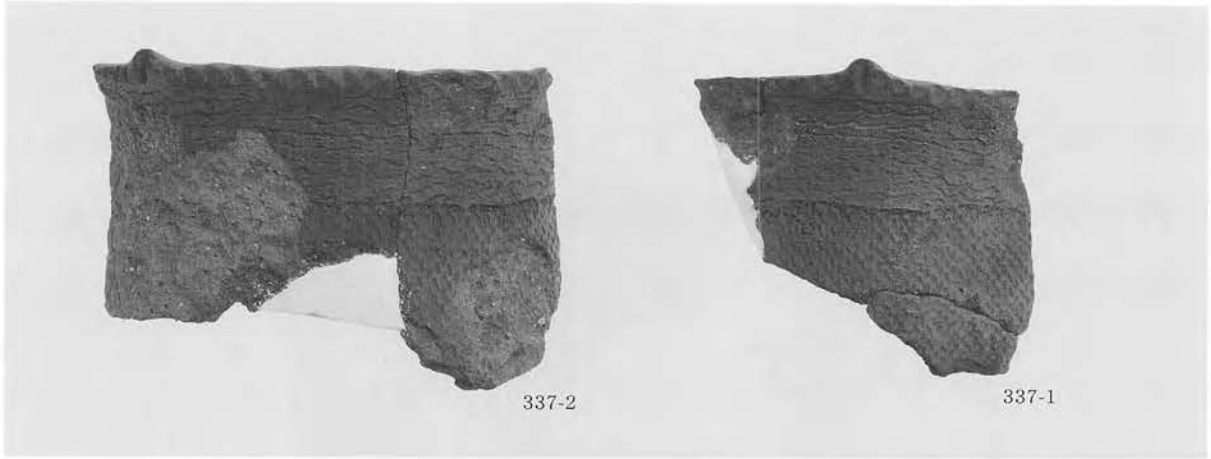


335

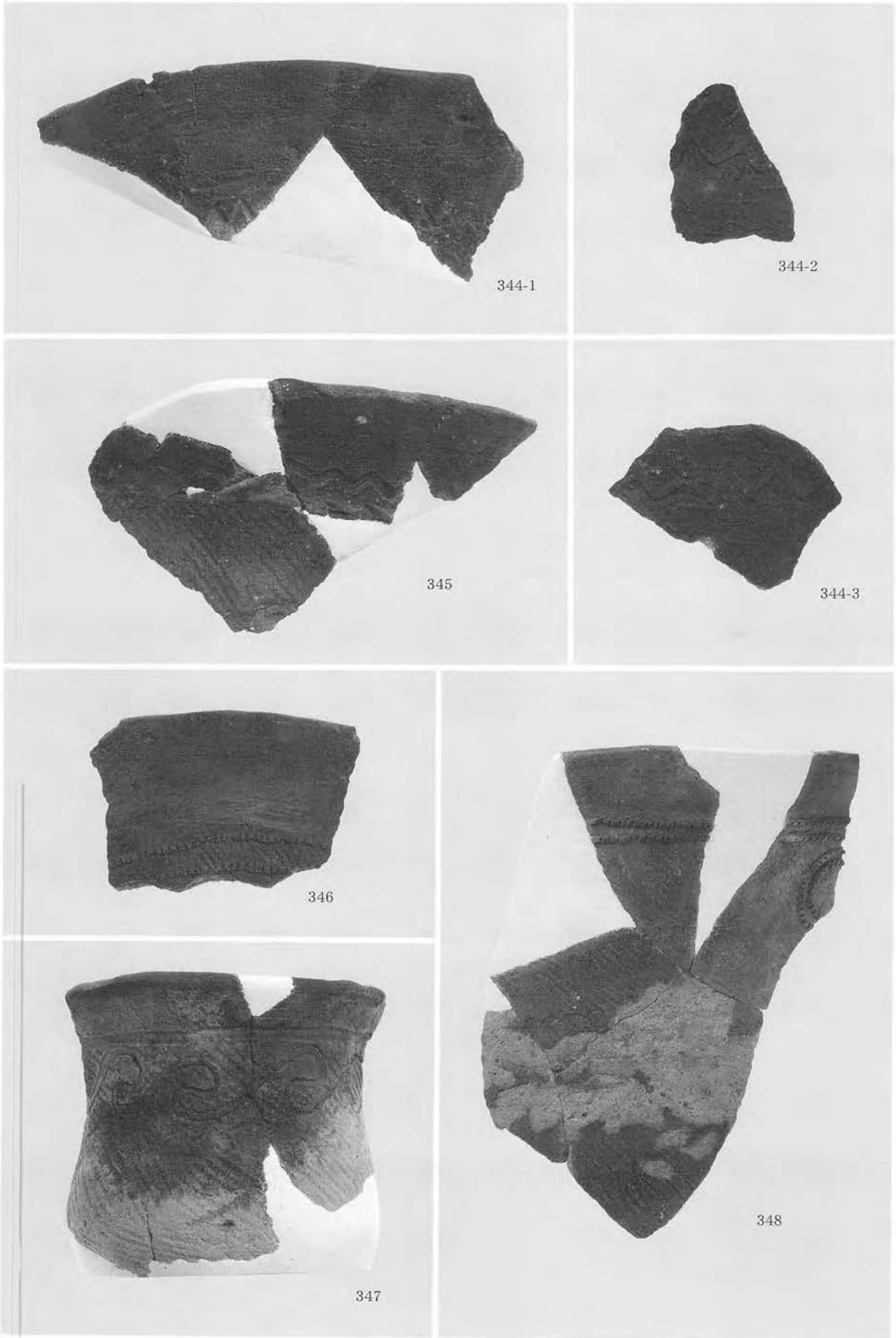


336

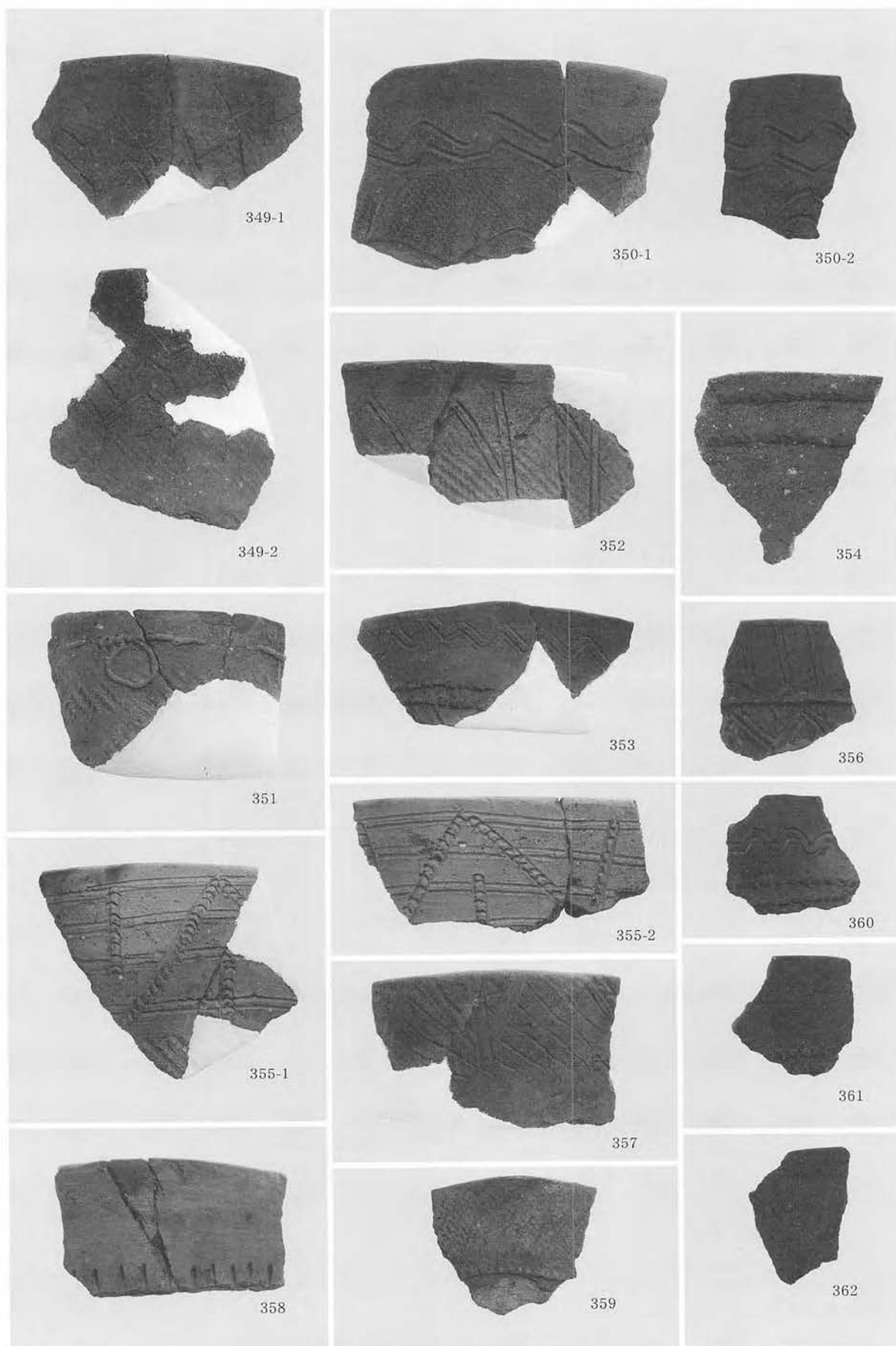
写真図版 59 土器 (334 ~ 336)



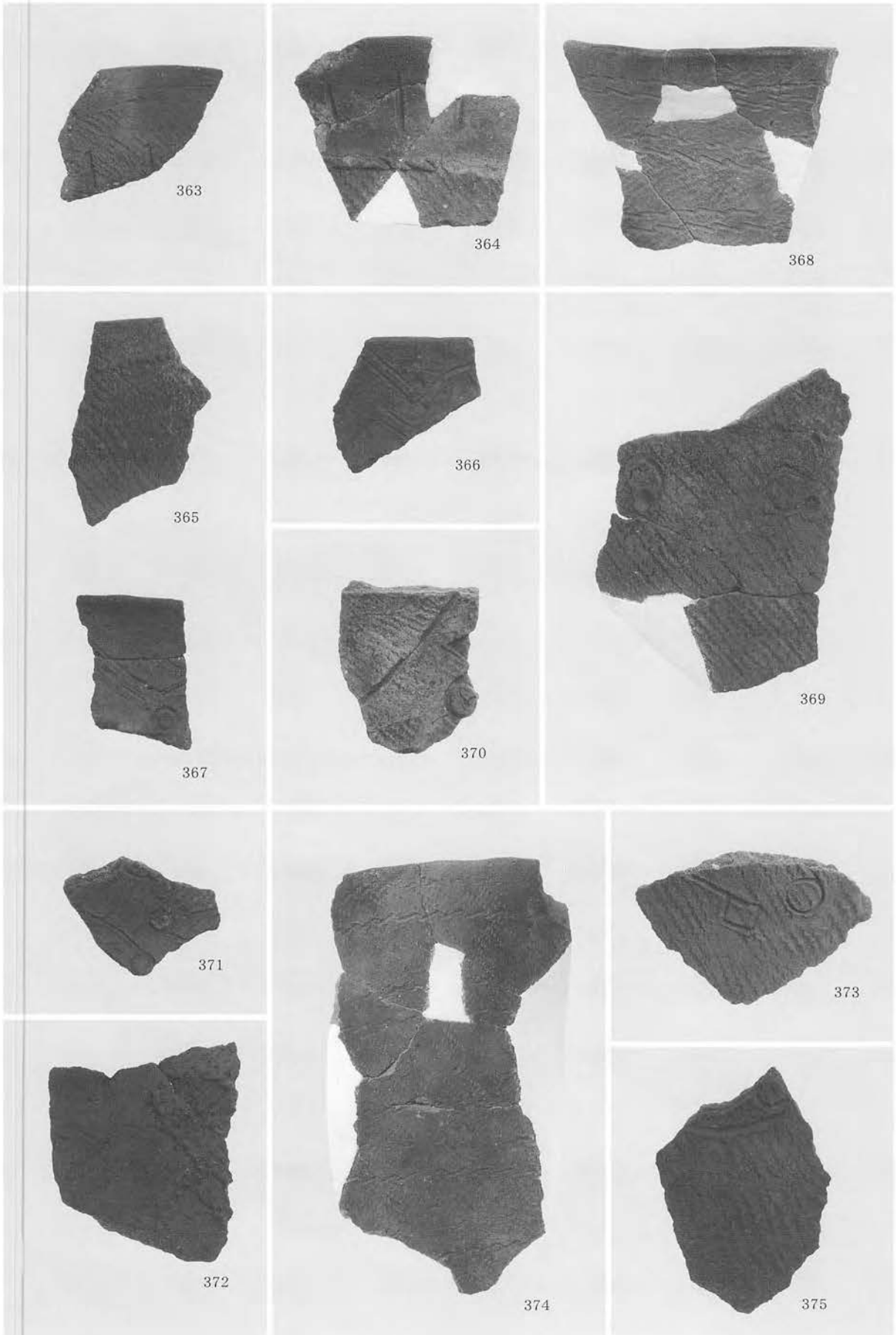
写真図版 60 土器 (337 ~ 343)



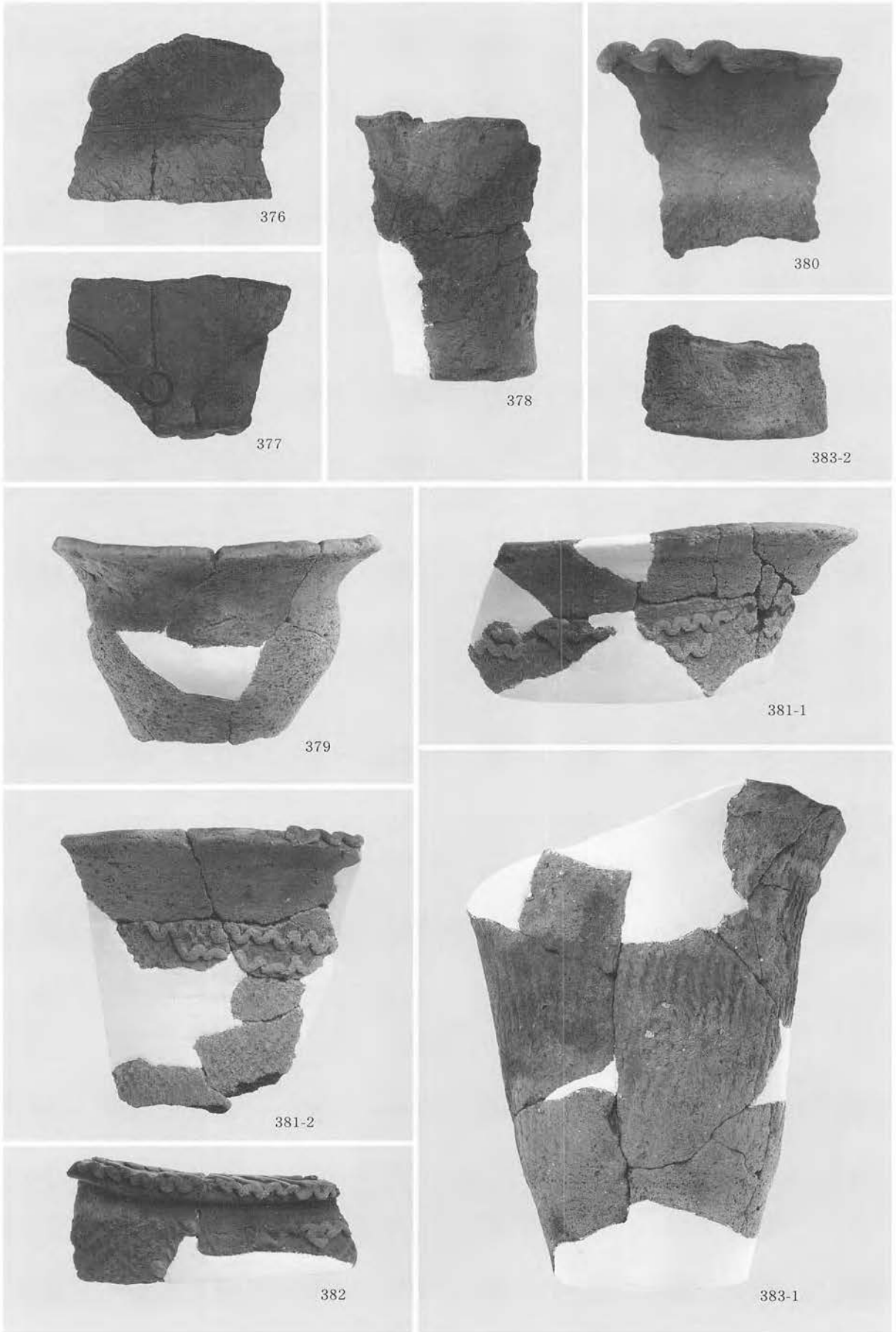
写真図版 61 土器 (344 ~ 348)



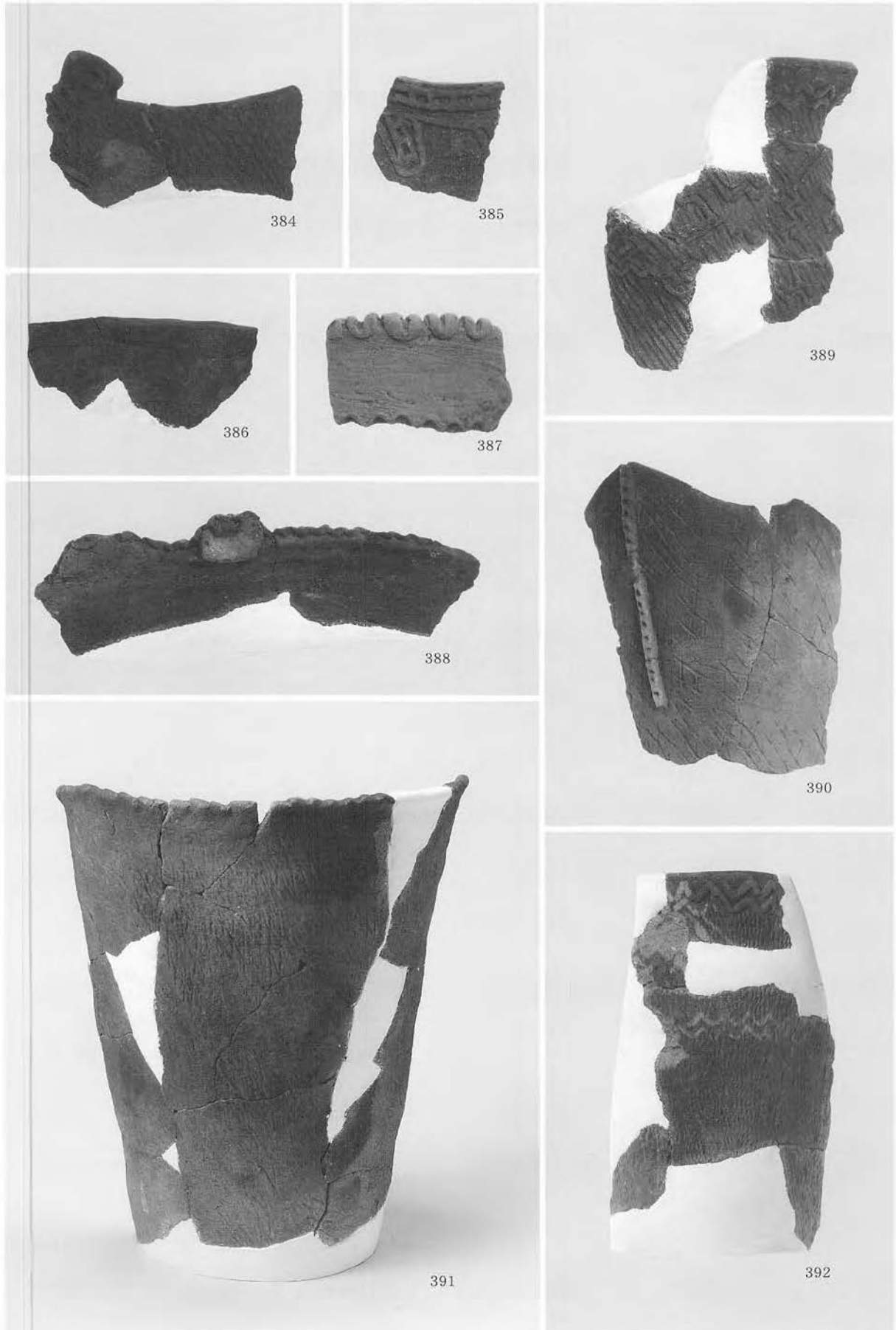
写真図版 62 土器 (349 ~ 362)



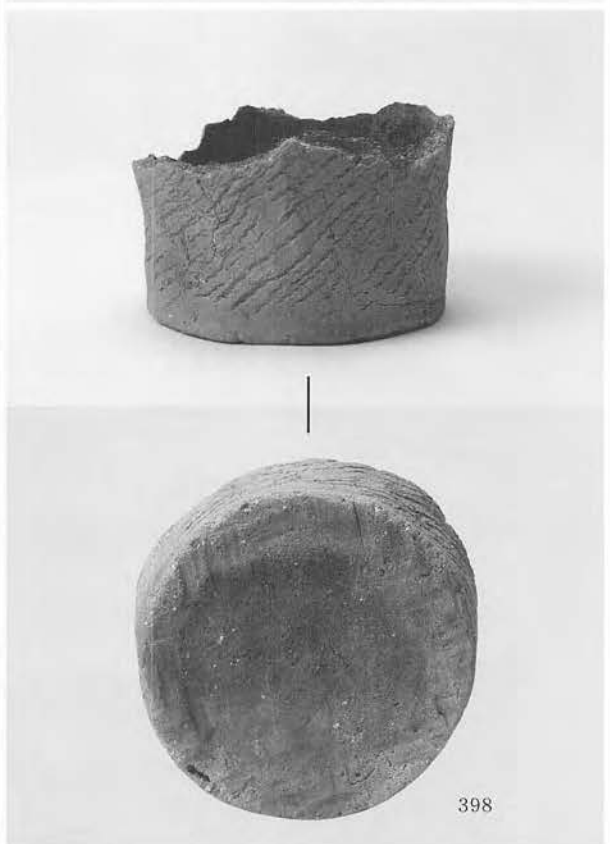
写真図版 63 土器 (363 ~ 375)



写真図版 64 土器 (376 ~ 383)



写真図版 65 土器 (384 ~ 392)



写真図版 66 土器 (393 ~ 399)



|



400



401



|



402



403

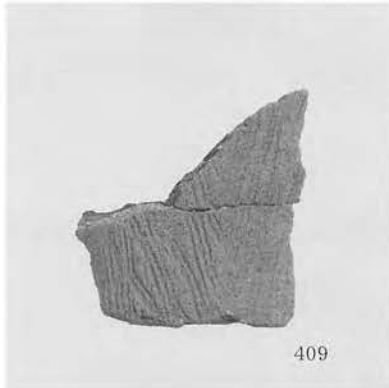


404

写真図版 67 土器 (400 ~ 404)



405



409



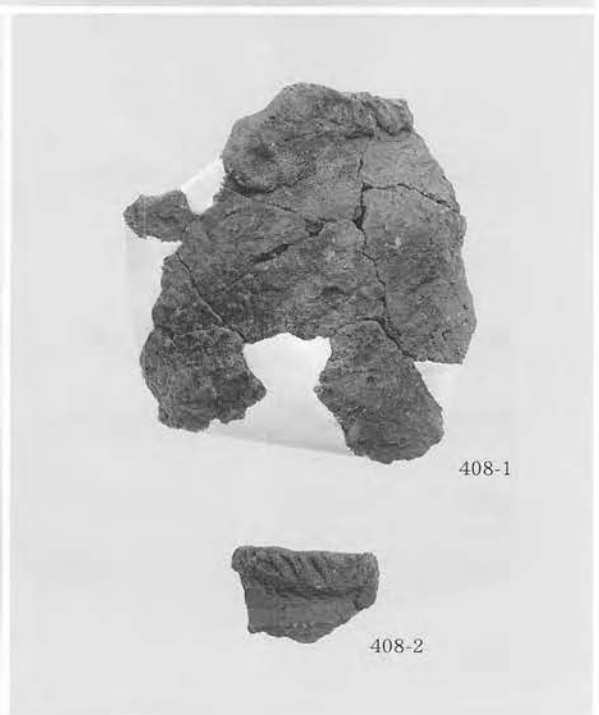
410



406



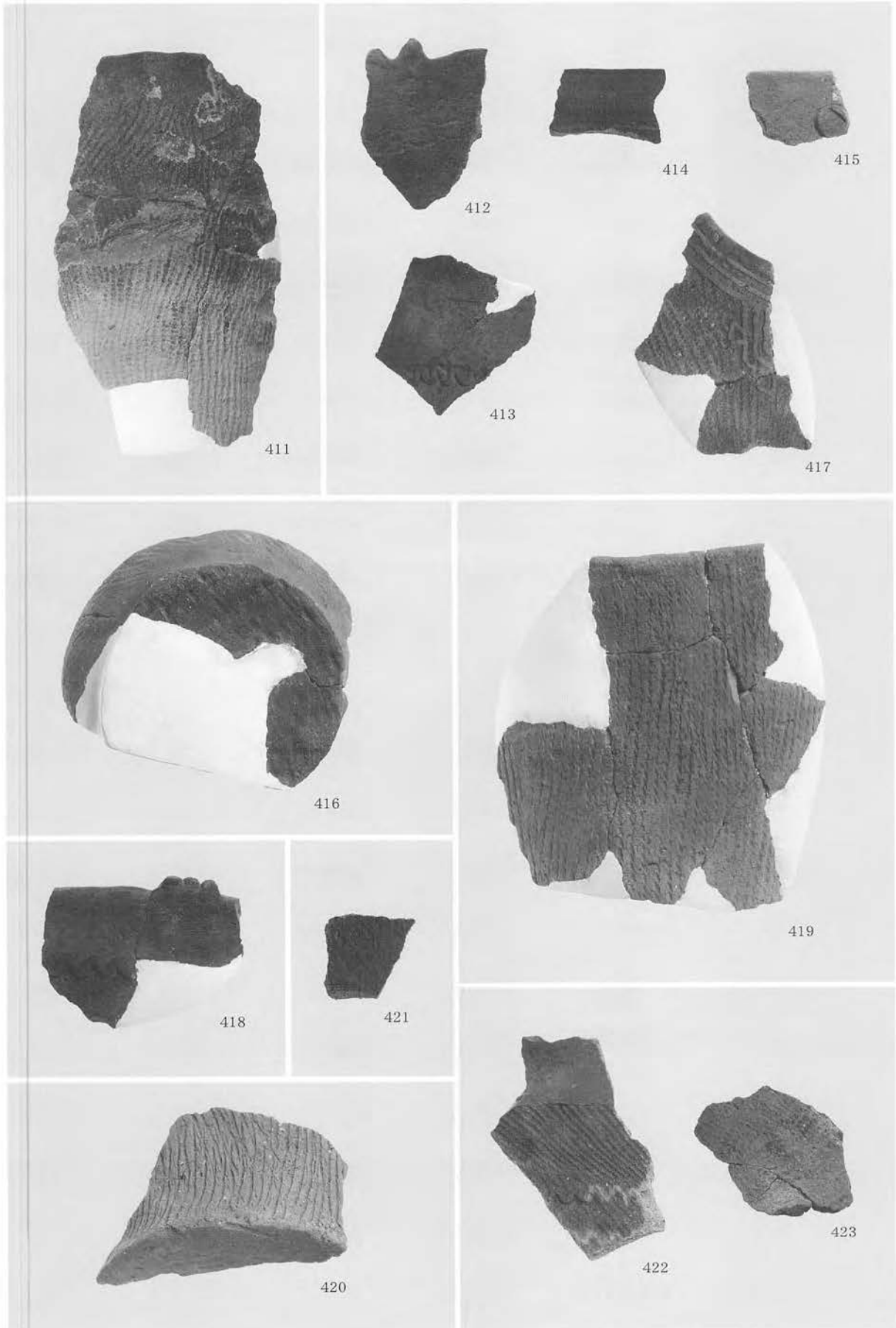
407



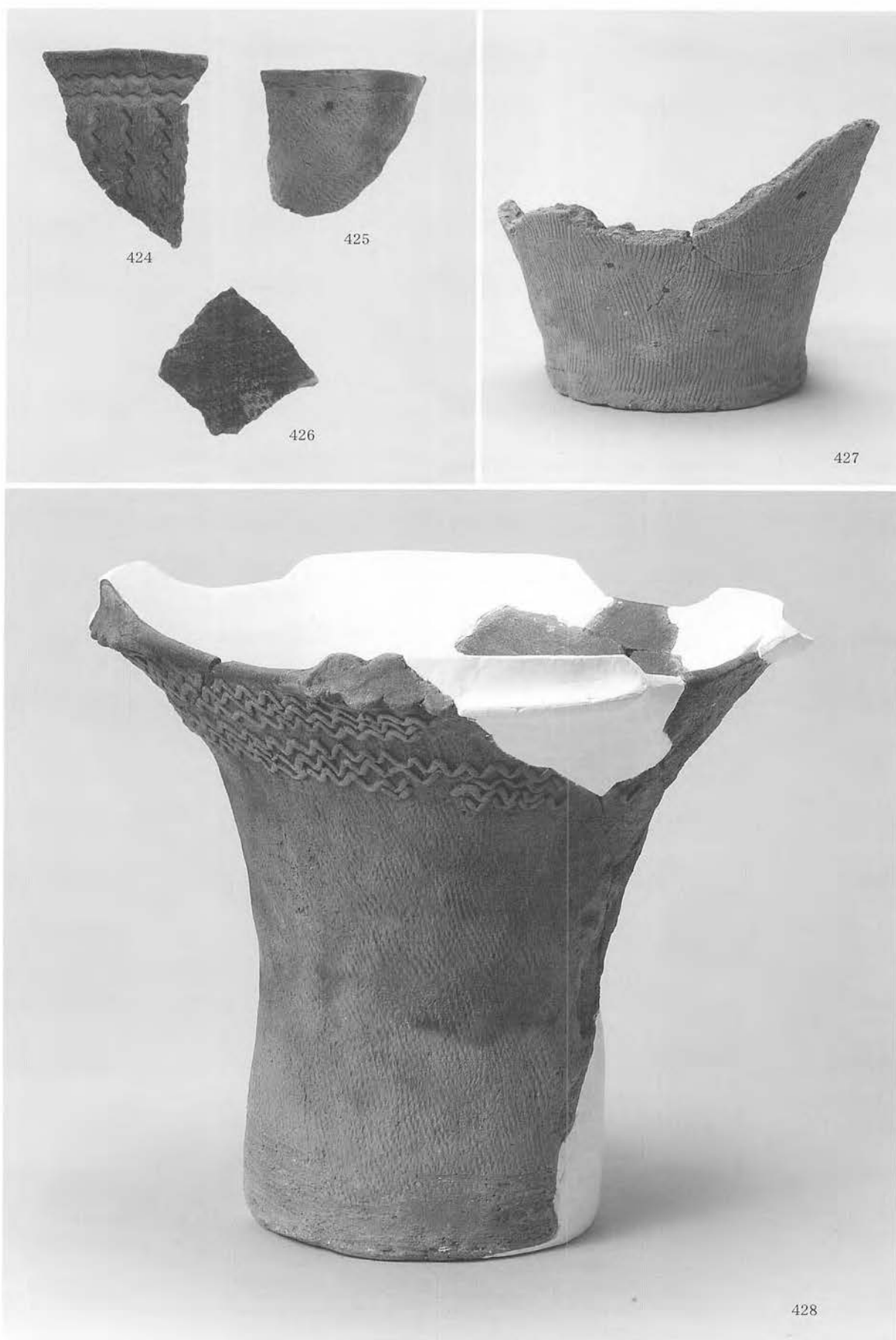
408-1

408-2

写真図版 68 土器 (405 ~ 410)



写真図版 69 土器 (411 ~ 423)



写真図版 70 土器 (424 ~ 428)



写真図版 71 土器 (429 ~ 434)



写真図版 72 土器 (435 ~ 437)



438



439



441



440



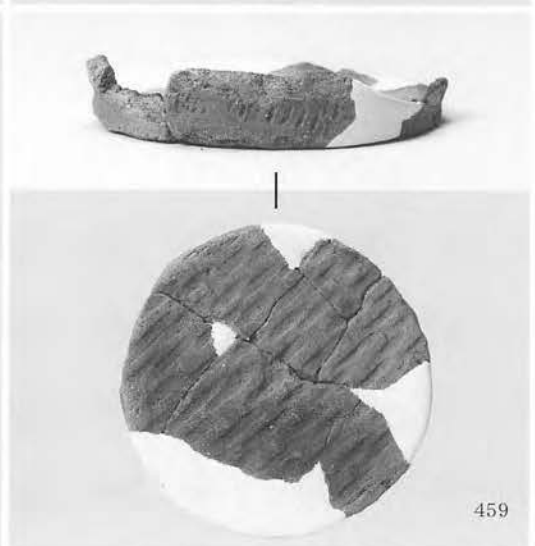
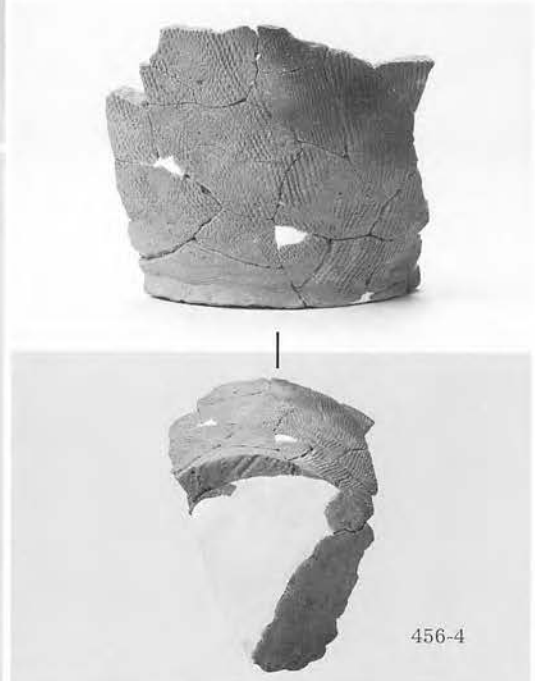
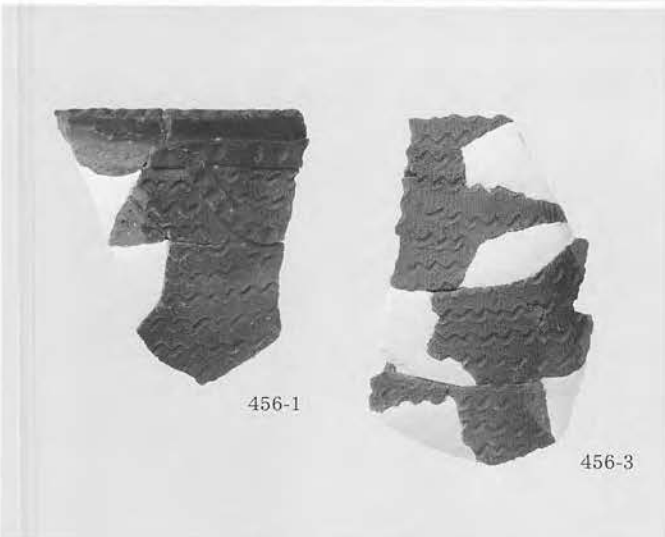
写真図版 74 土器 (442 ~ 445)



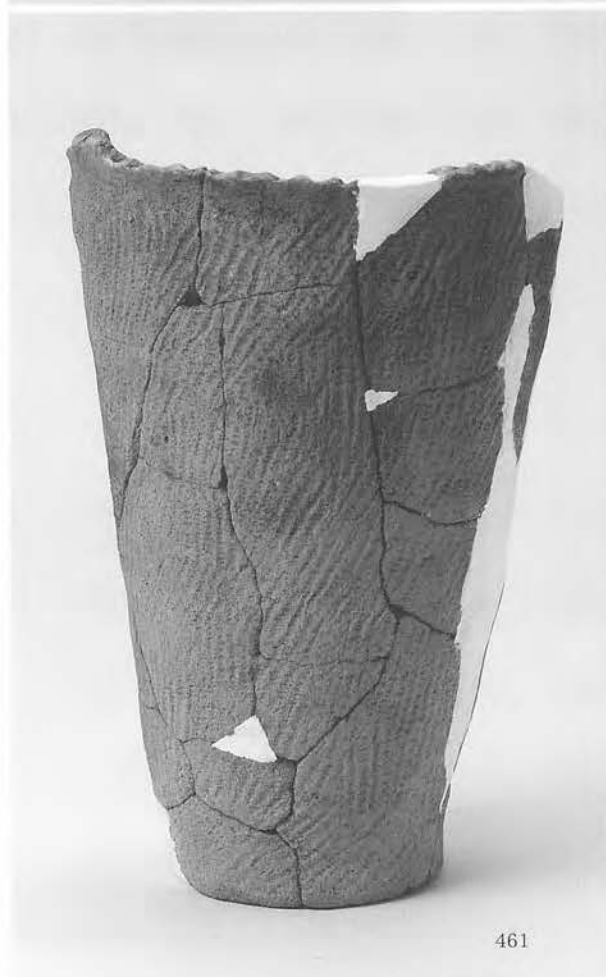
写真図版 75 土器 (446 ~ 450)



写真図版 76 土器 (451 ~ 454・458)



写真図版 77 土器 (455 ~ 457 · 459)



写真図版 78 土器 (460 ~ 463)



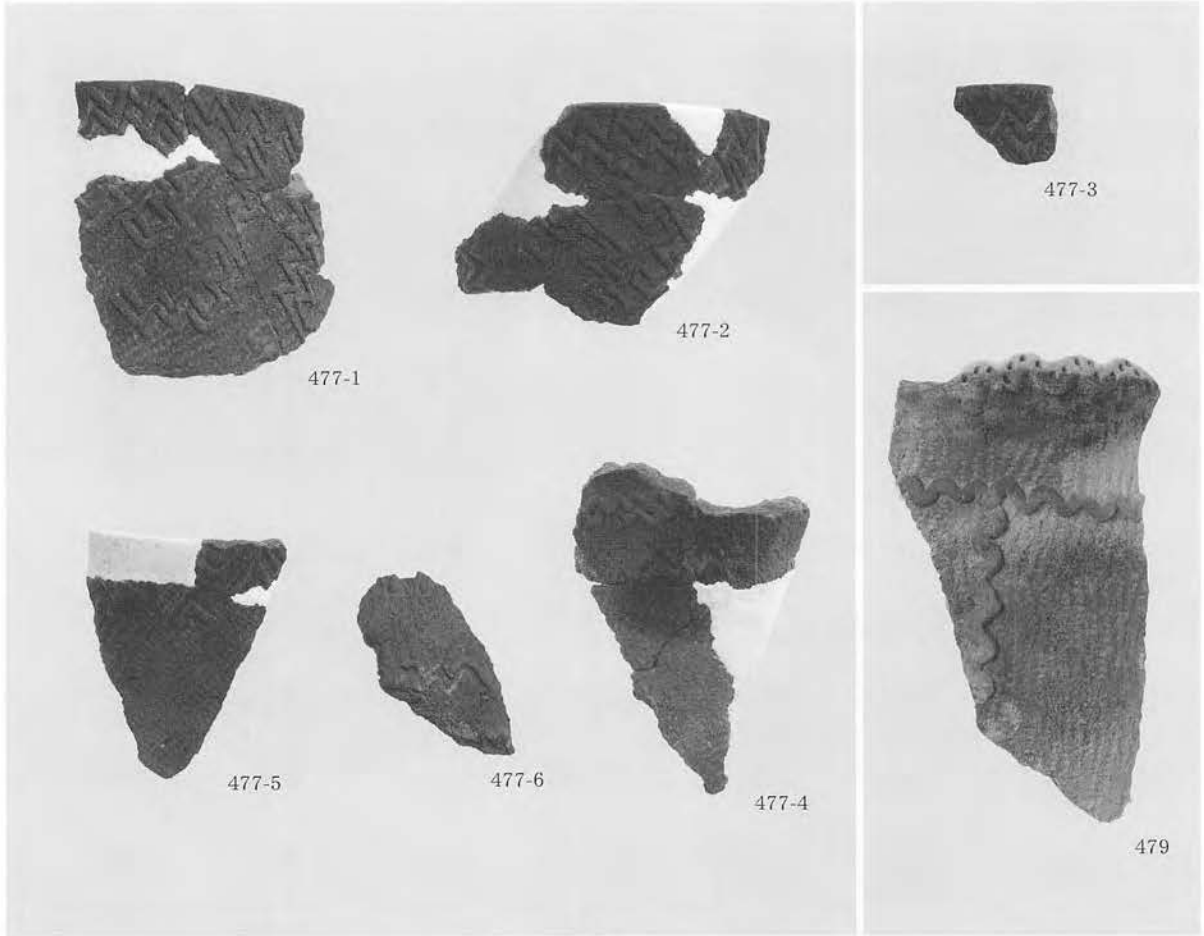
写真図版 79 土器 (464 ~ 467)



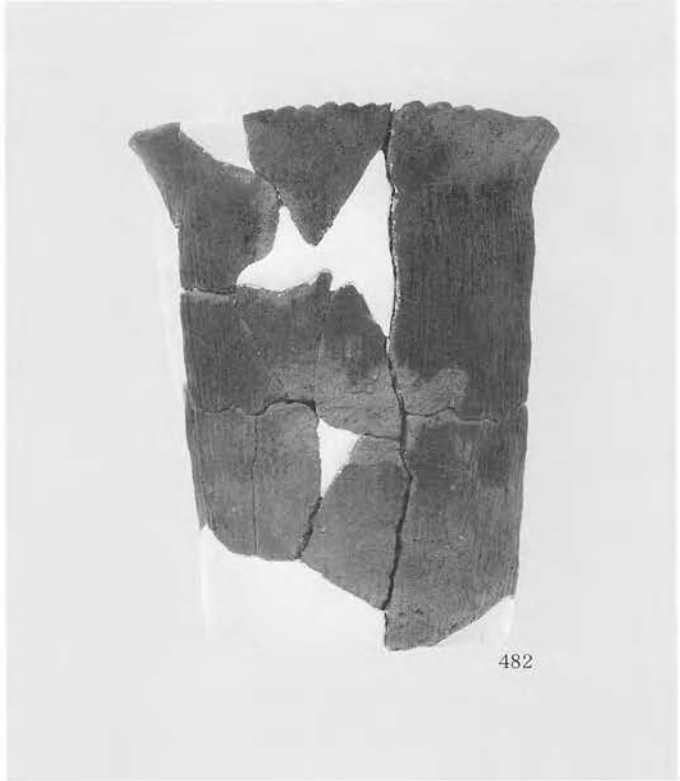
写真図版 80 土器 (468 ~ 471)



写真図版 81 土器 (472 ~ 476)



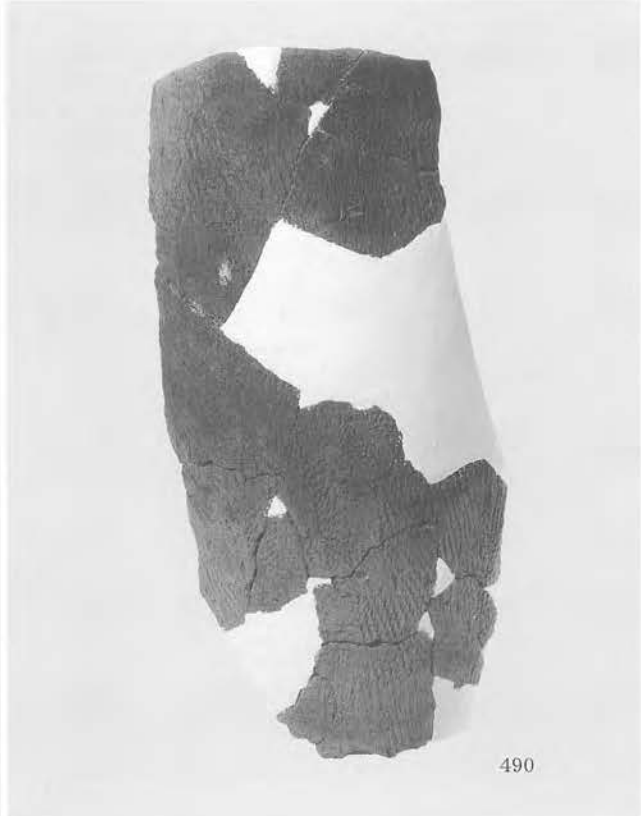
写真図版 82 土器 (477 ~ 480)



写真図版 83 土器 (481 ~ 484)



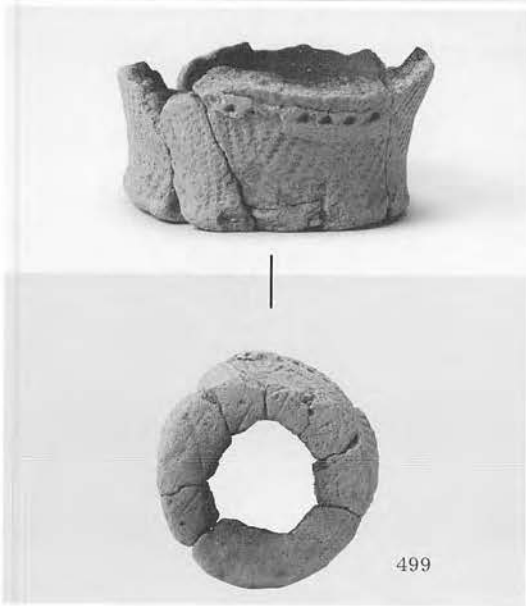
写真図版 84 土器 (485 ~ 488)



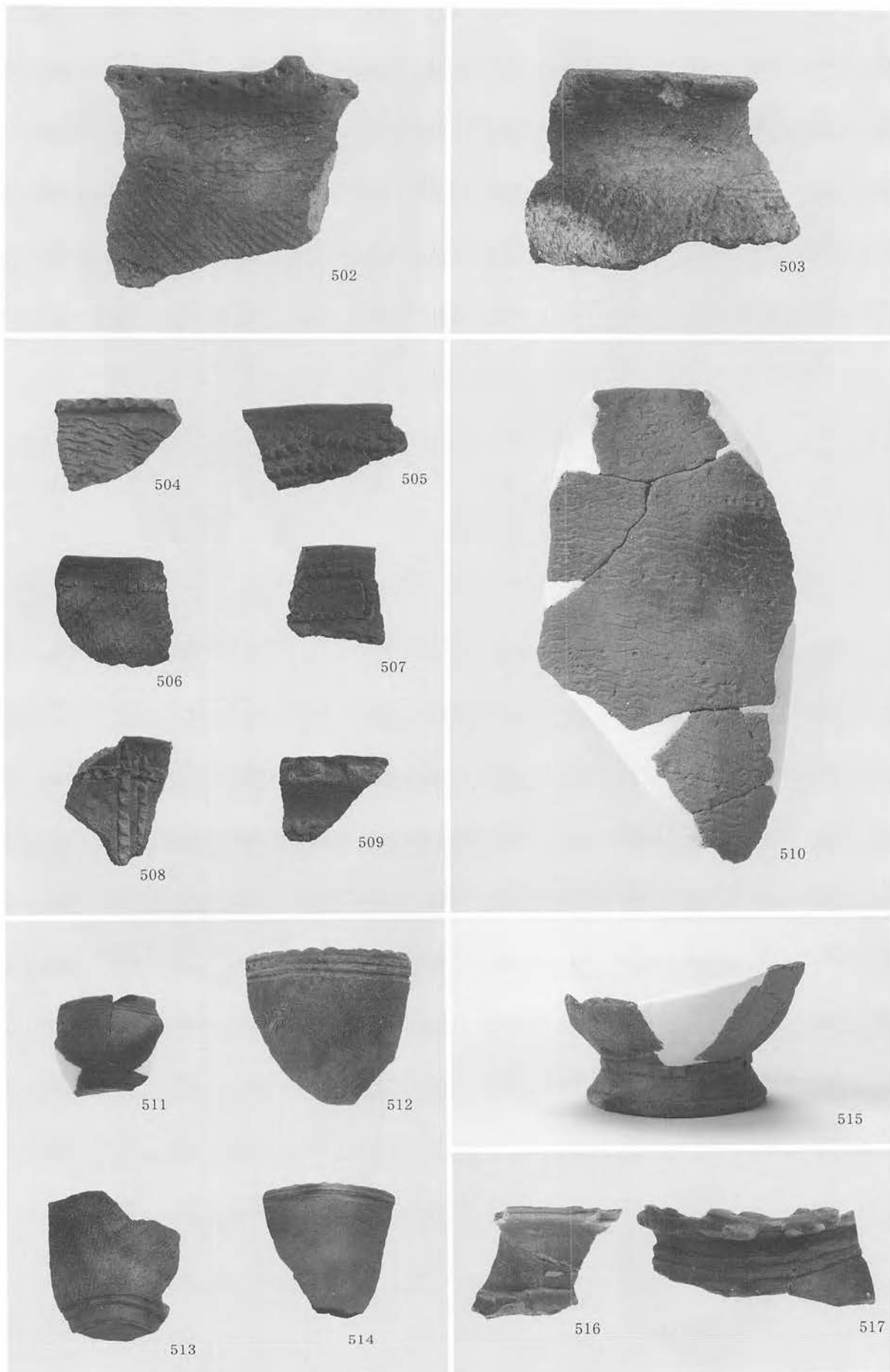
写真図版 85 土器 (489 ~ 492)



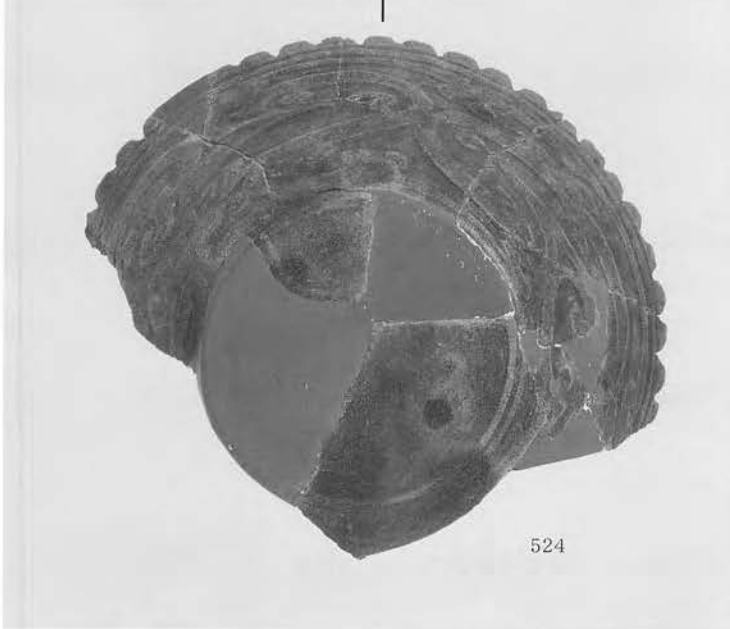
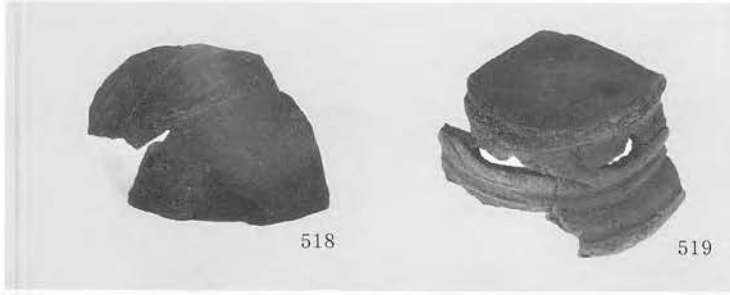
写真図版 86 土器 (493 ~ 496)



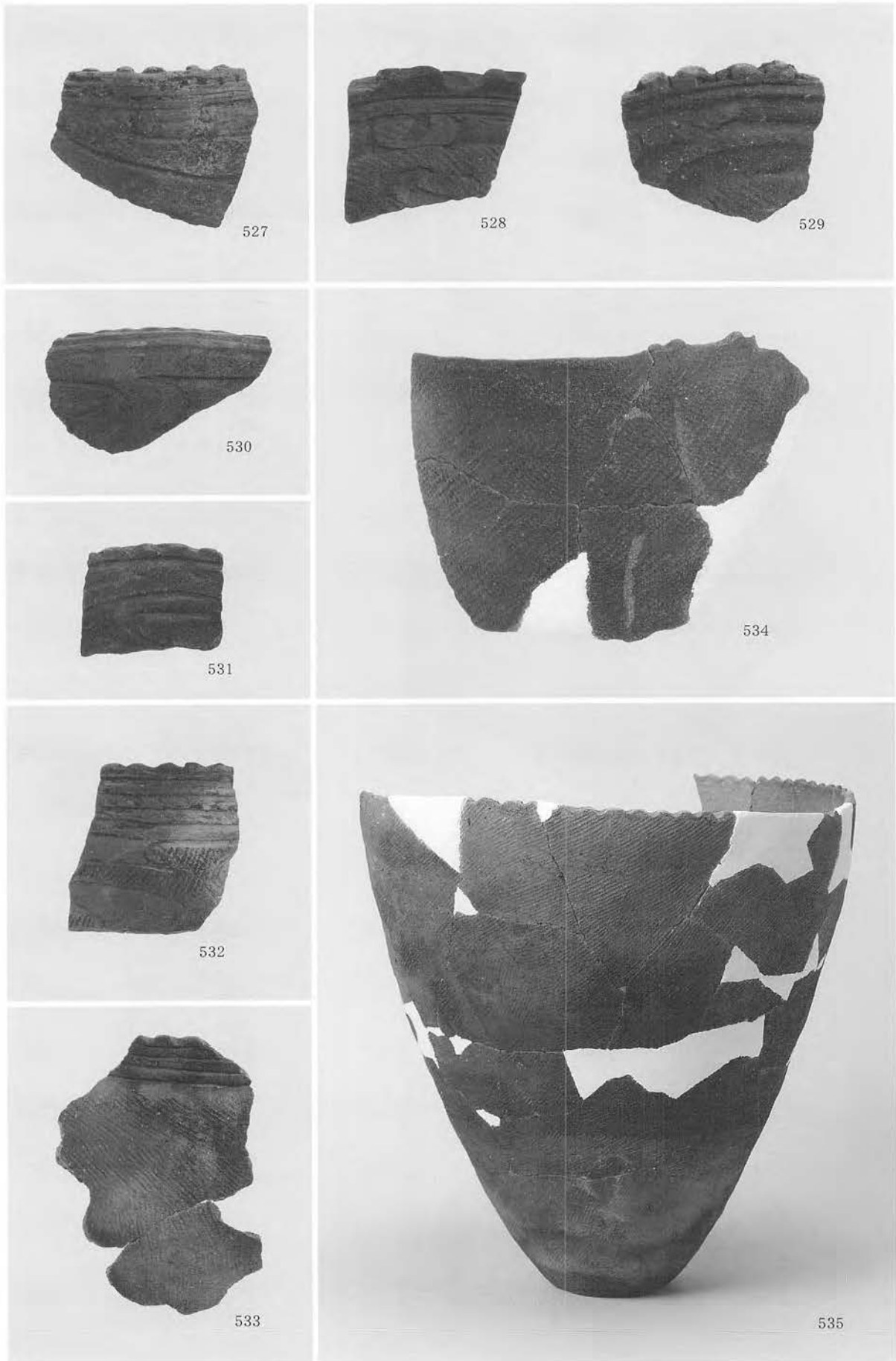
写真図版 87 土器 (497 ~ 501)



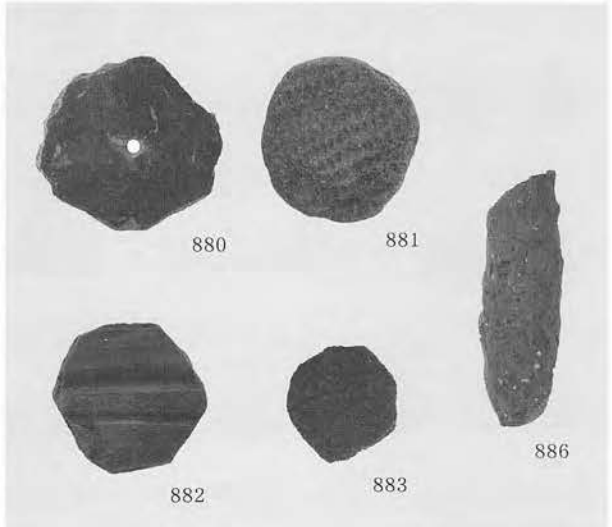
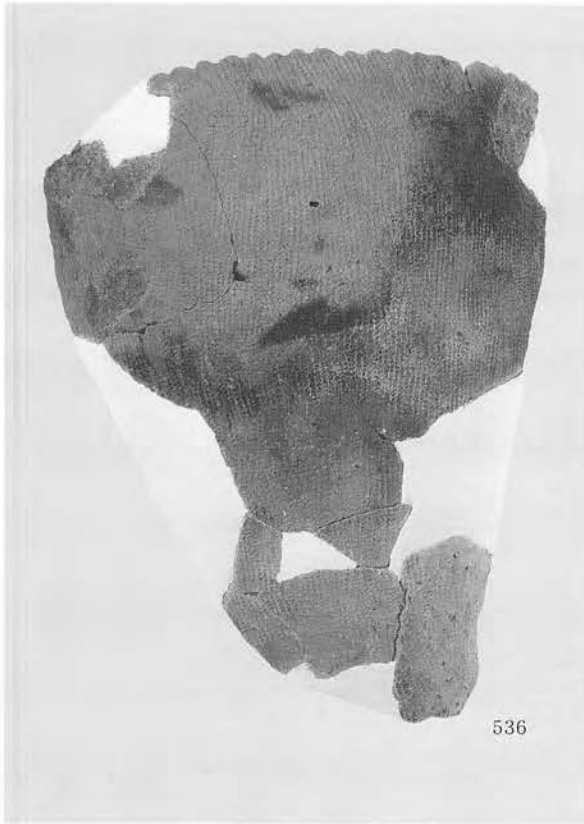
写真図版 88 土器 (502 ~ 517)



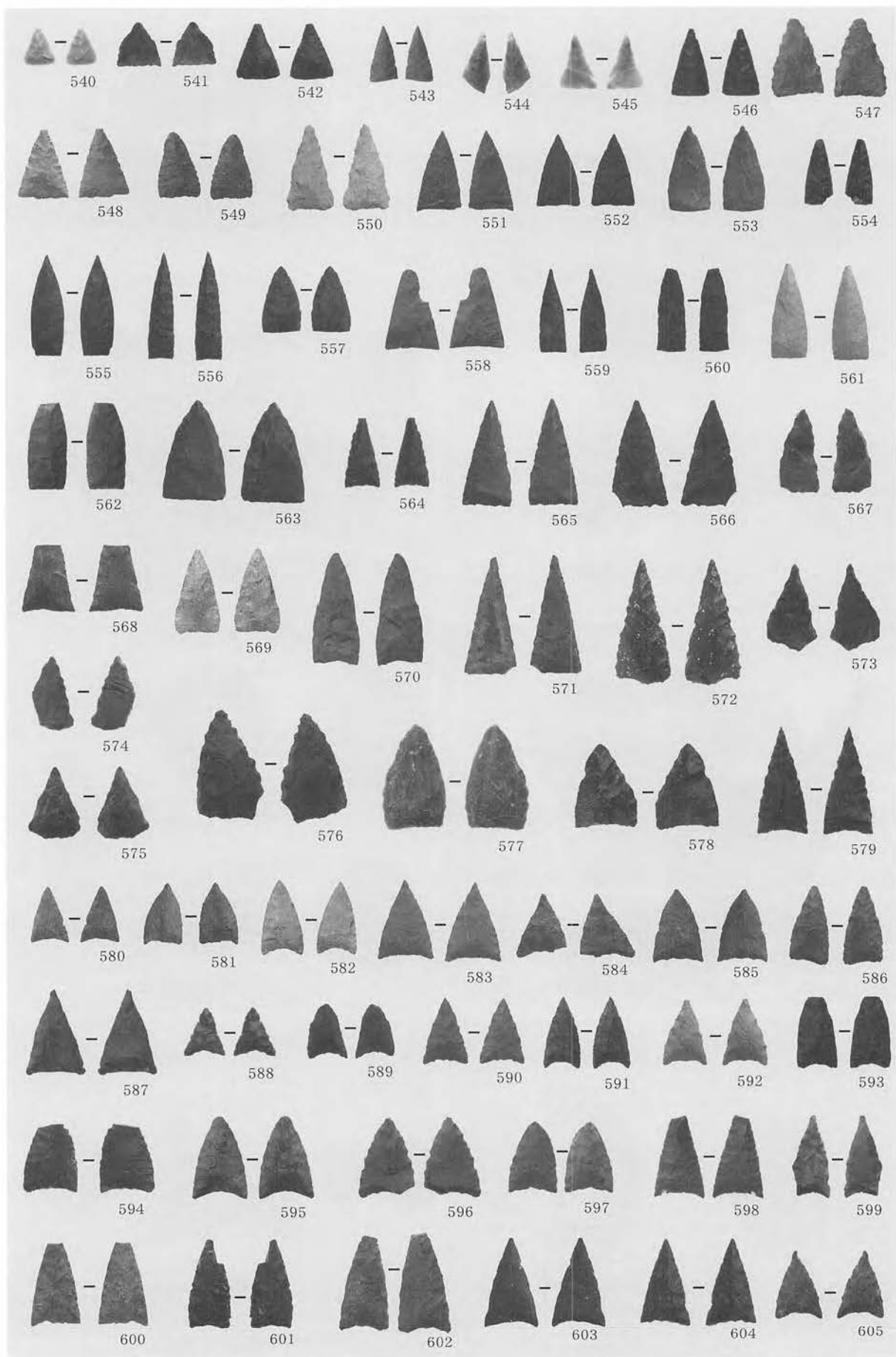
写真図版 89 土器 (518 ~ 526)



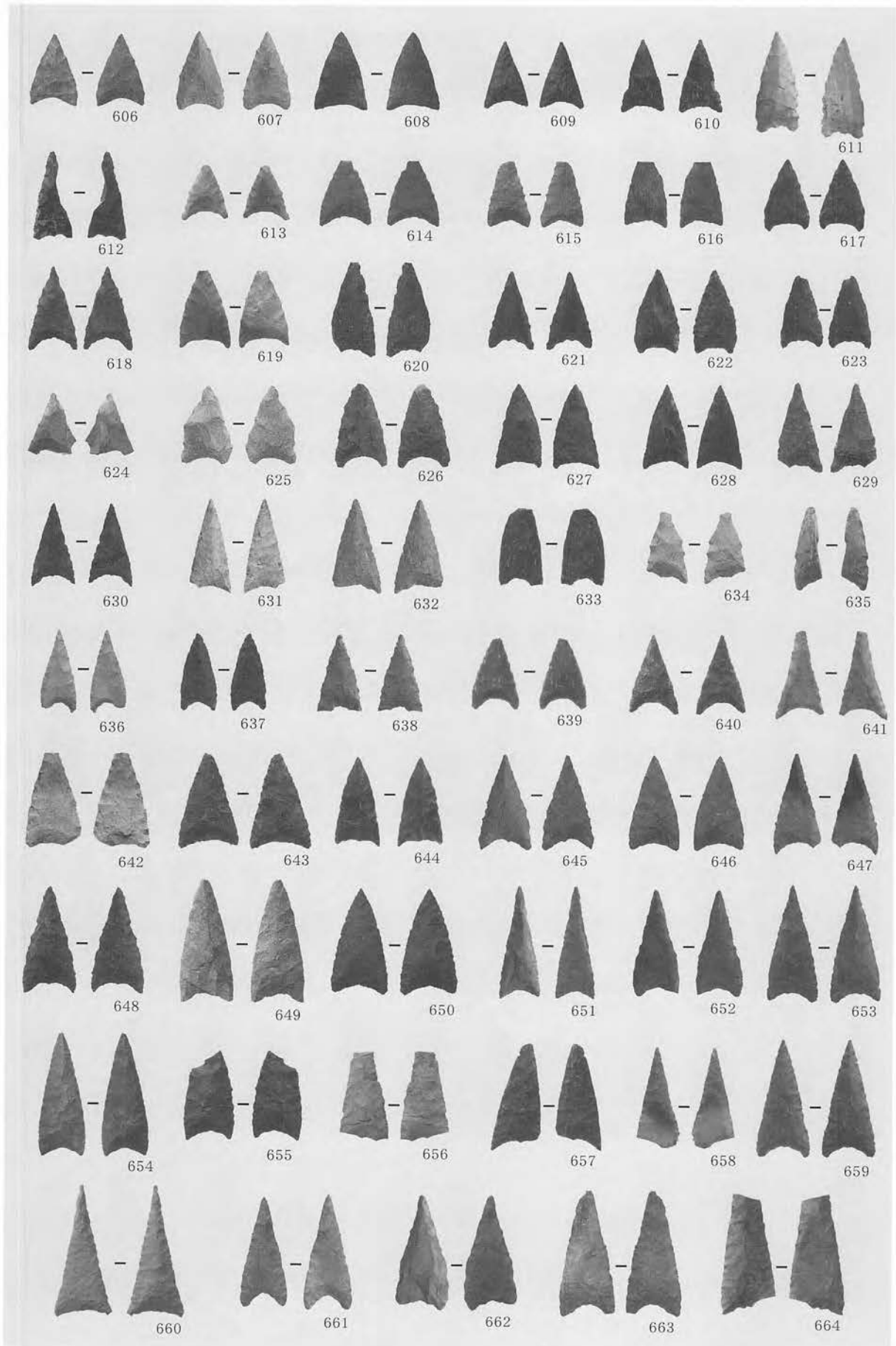
写真図版 90 土器 (527 ~ 535)



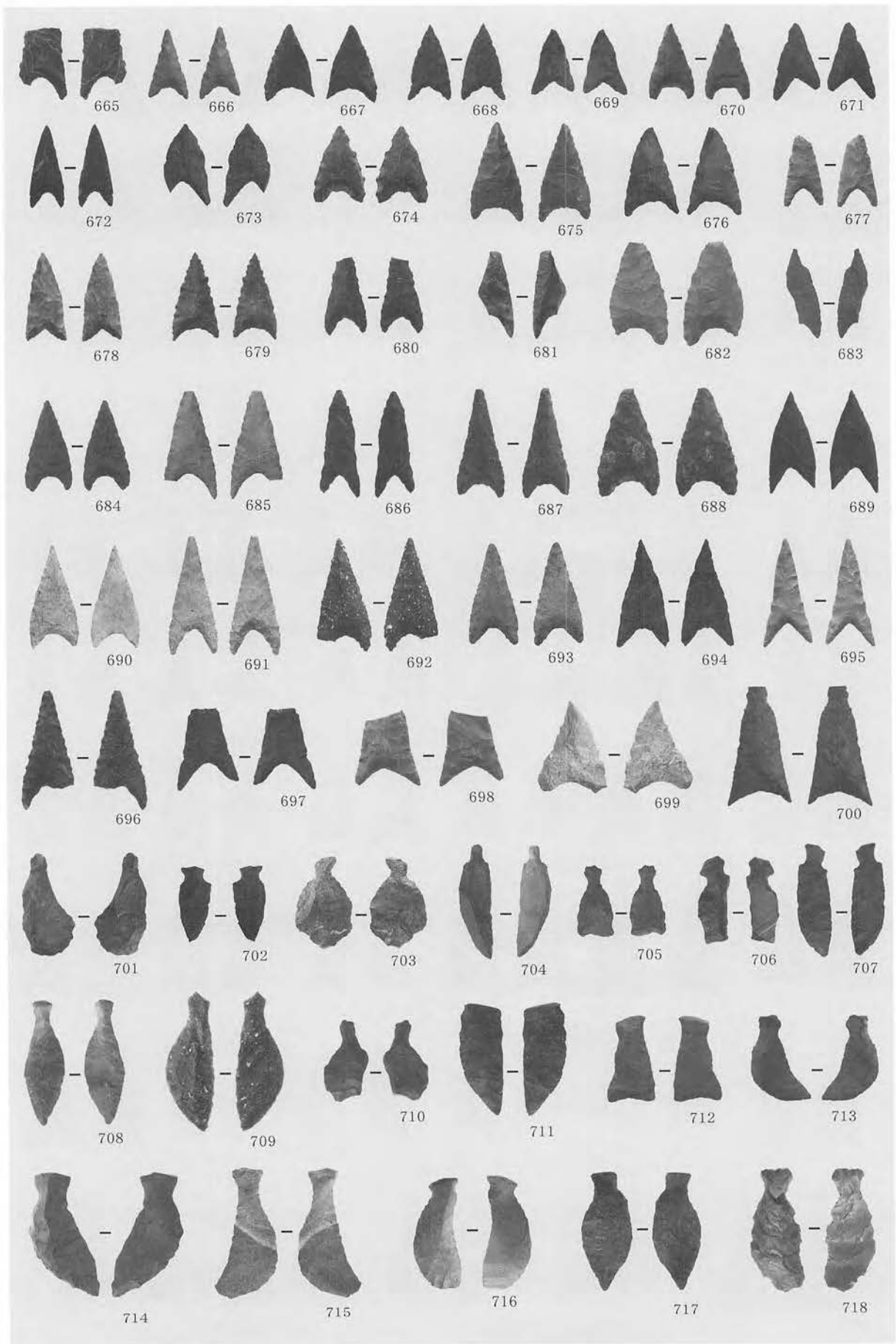
写真図版 91 土器 (536 ~ 539)、土製品 (880 ~ 888)



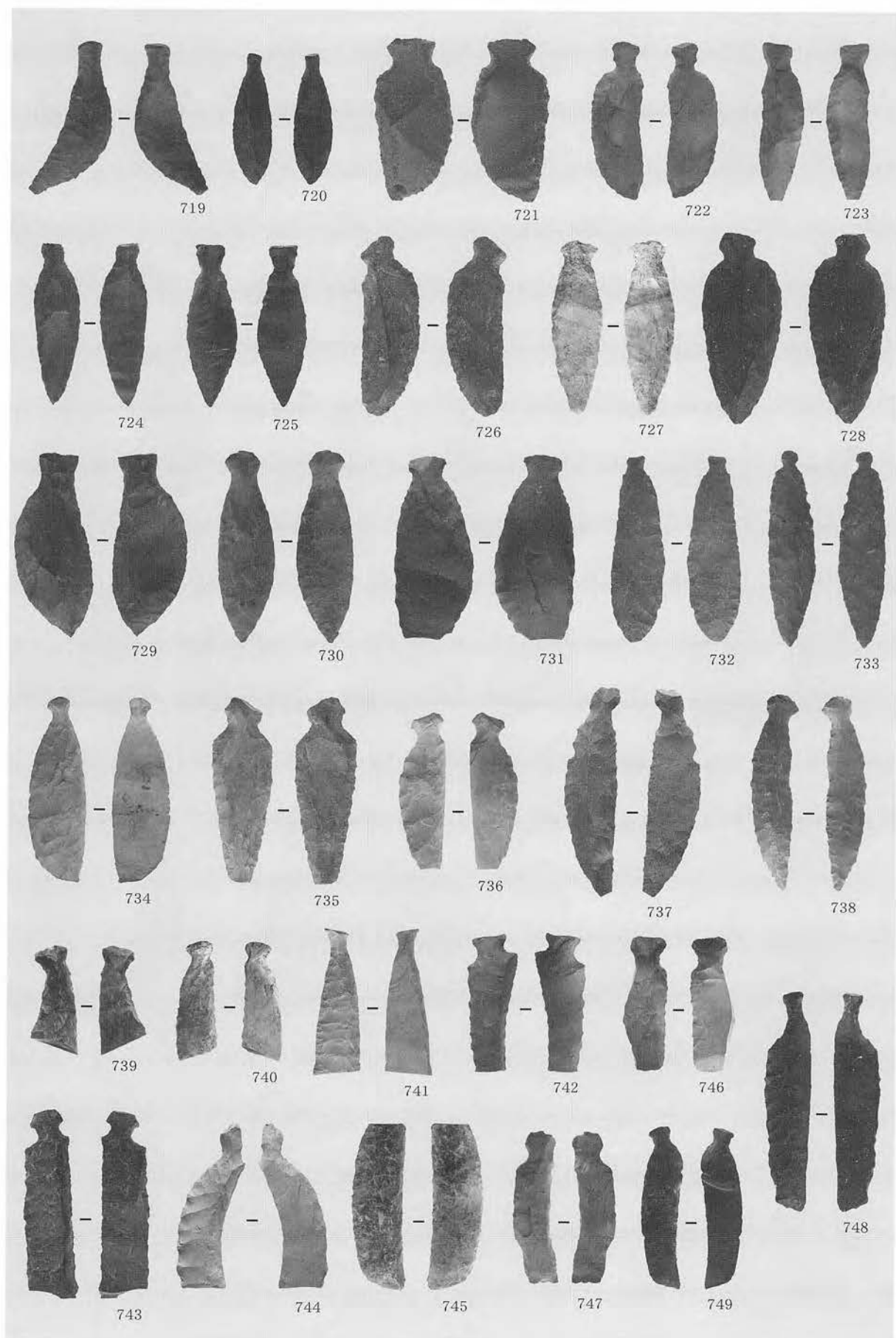
写真図版 92 石器 (540 ~ 605)



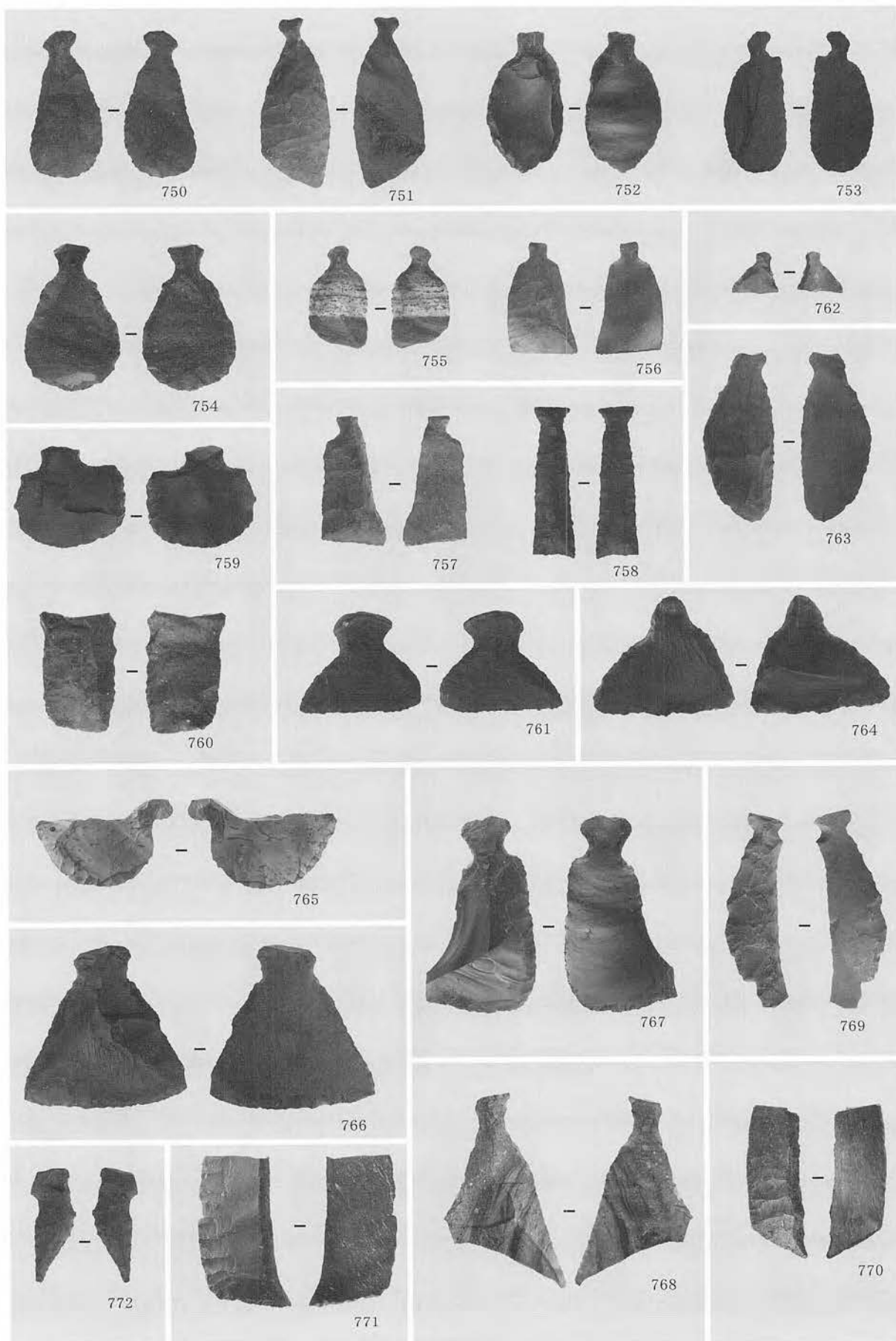
写真図版 93 石器 (606 ~ 664)



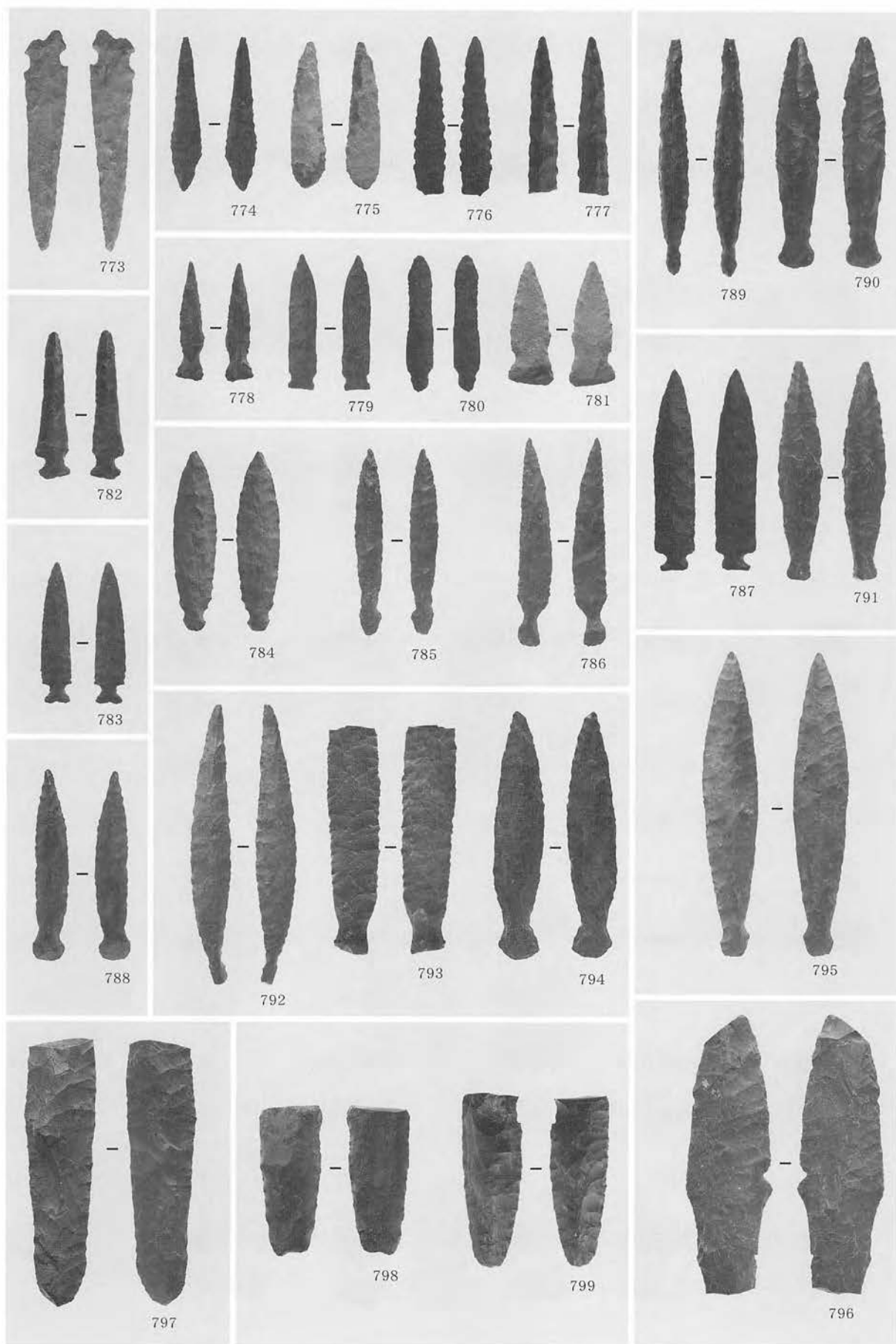
写真図版 94 石器 (665 ~ 718)



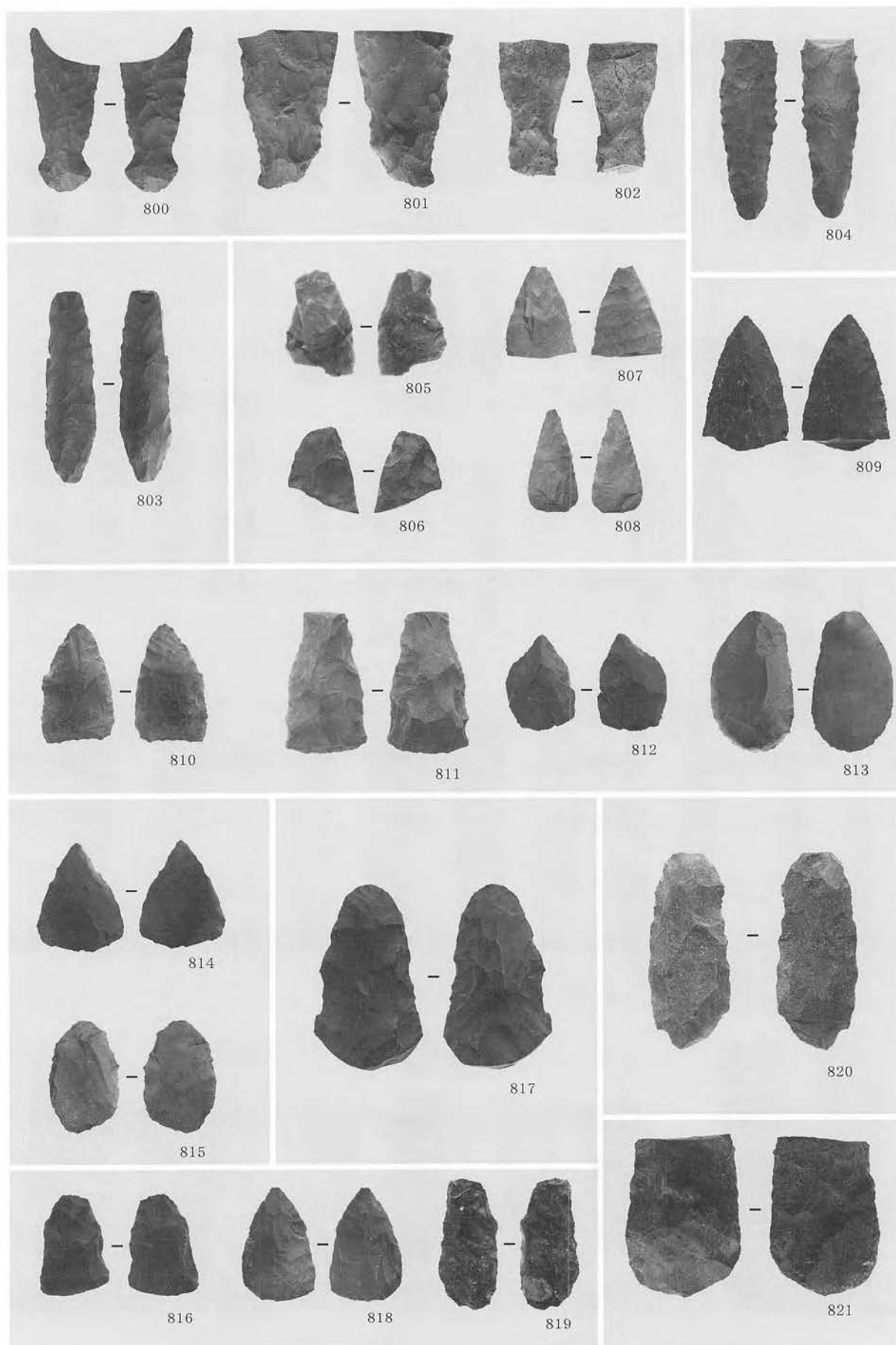
写真図版 95 石器 (719 ~ 749)



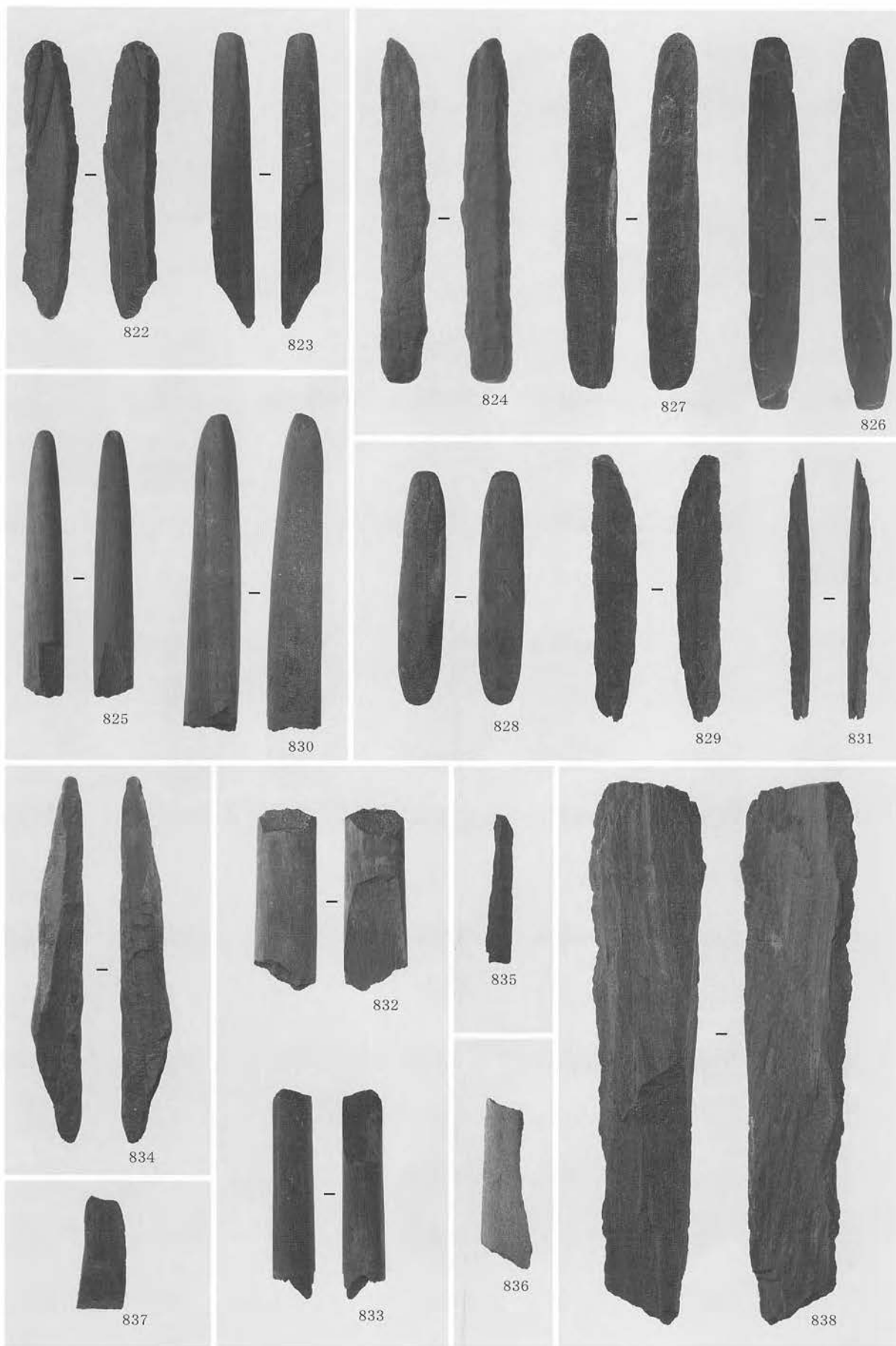
写真図版 96 石器 (750 ~ 772)



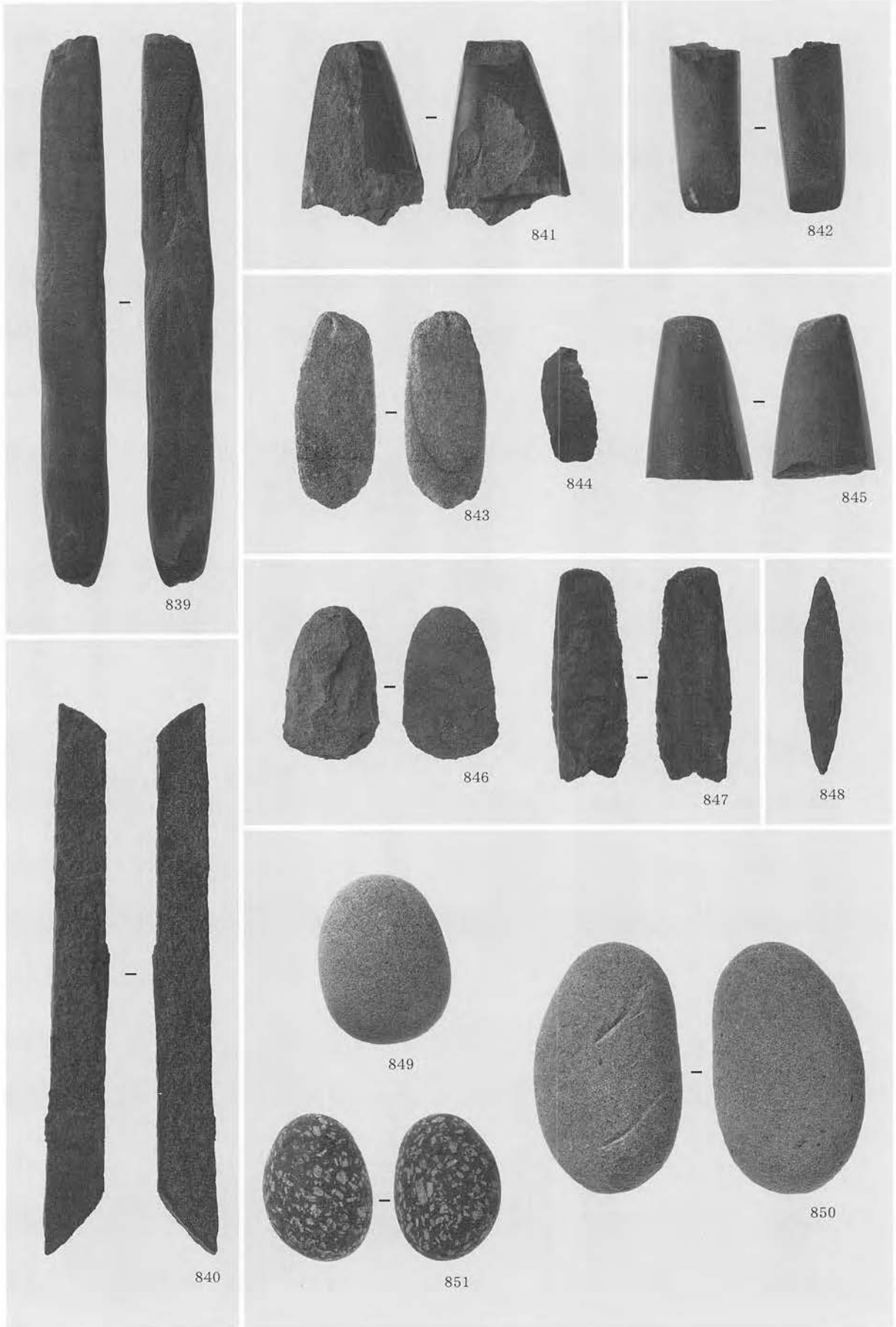
写真図版 97 石器 (773 ~ 799)



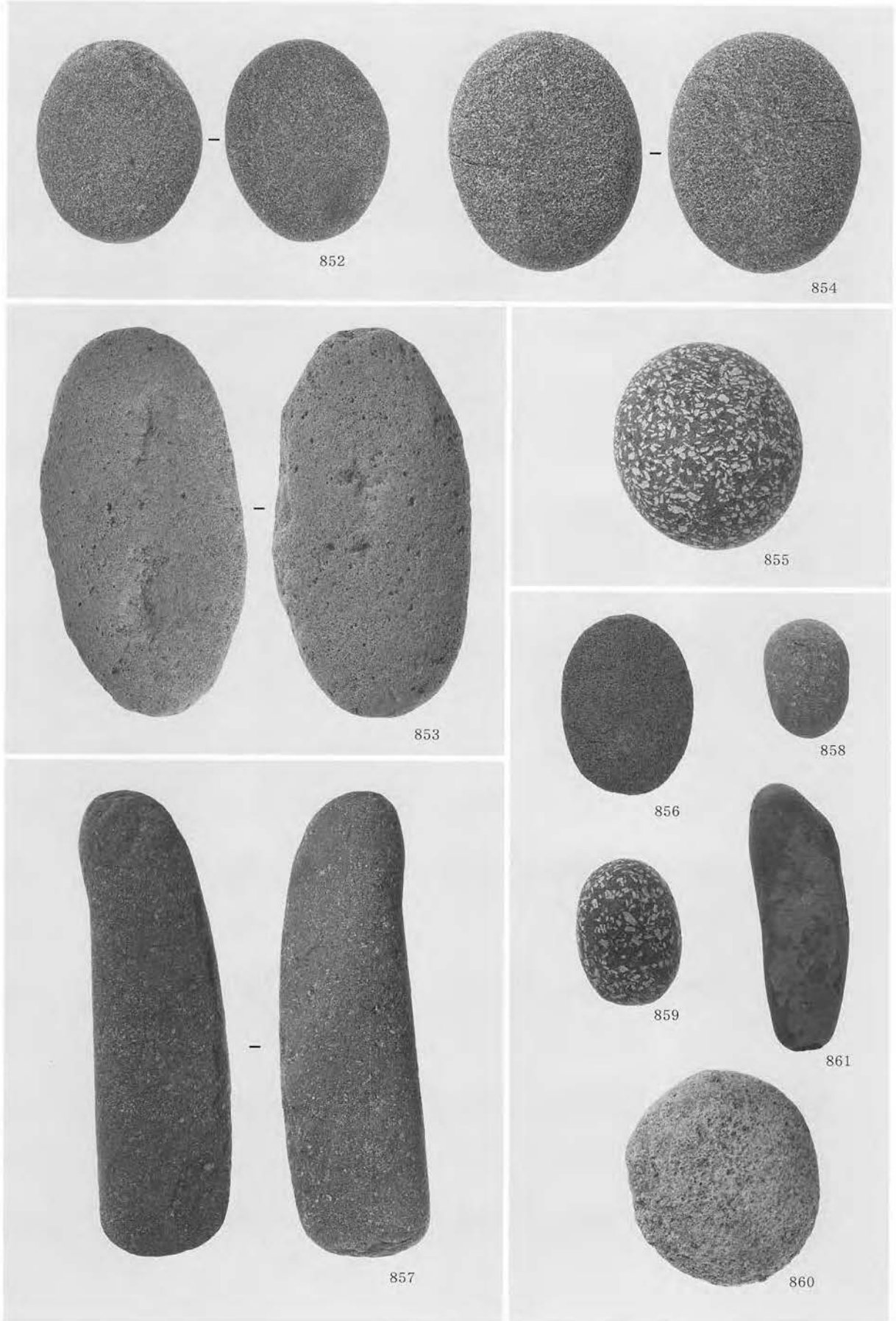
写真図版 98 石器 (800 ~ 821)



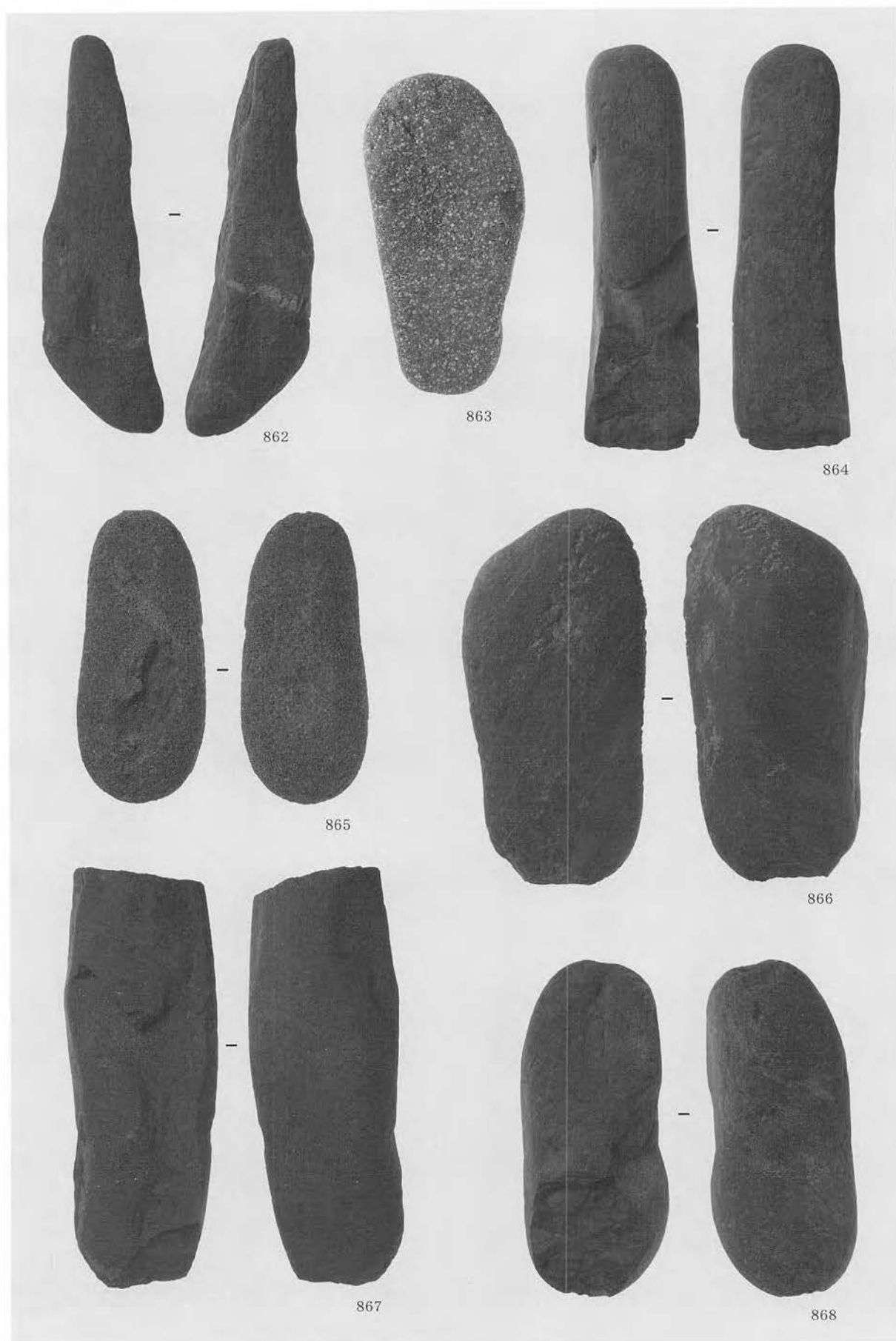
写真図版 99 石器 (822 ~ 838)



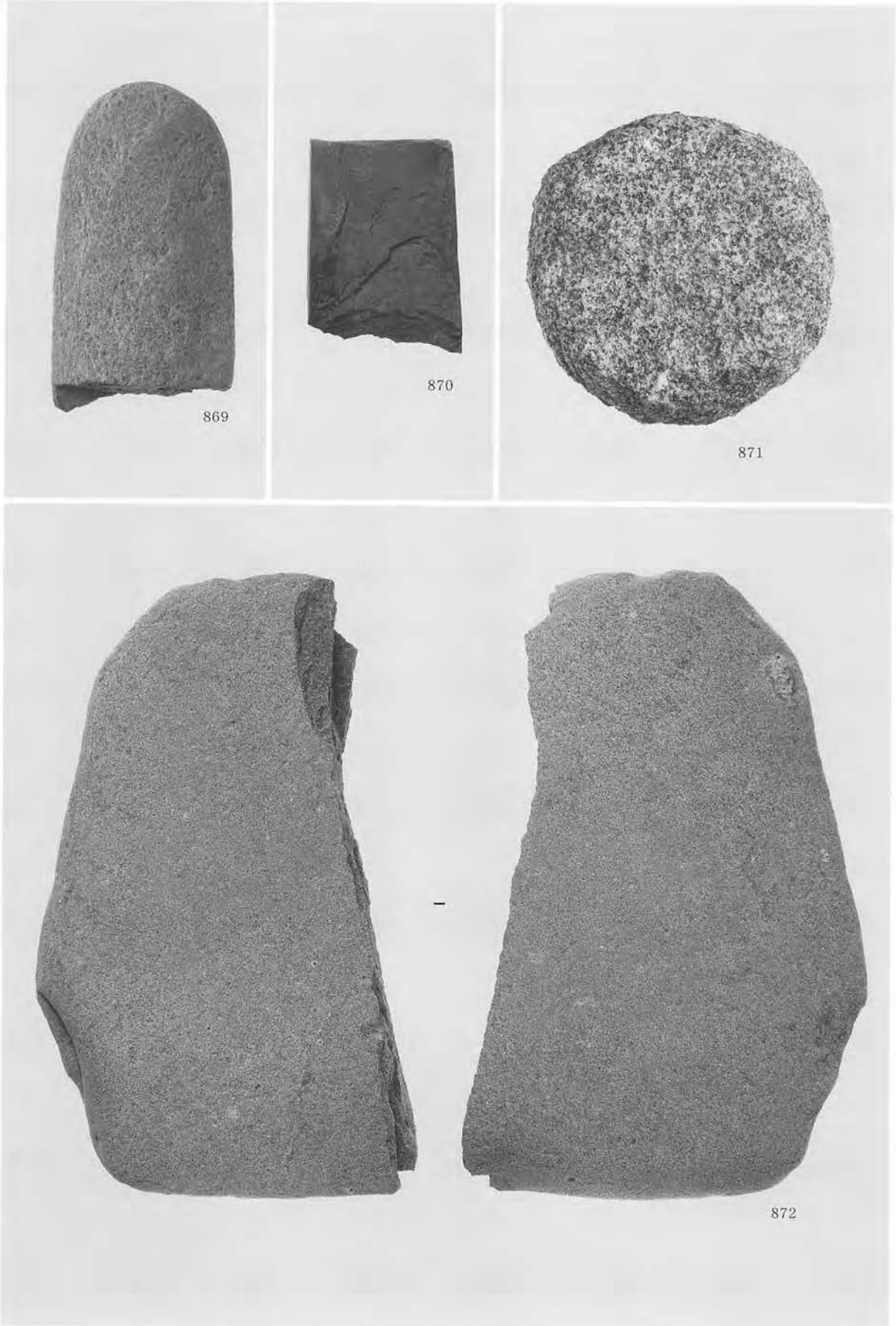
写真図版 100 石器 (839 ~ 851)



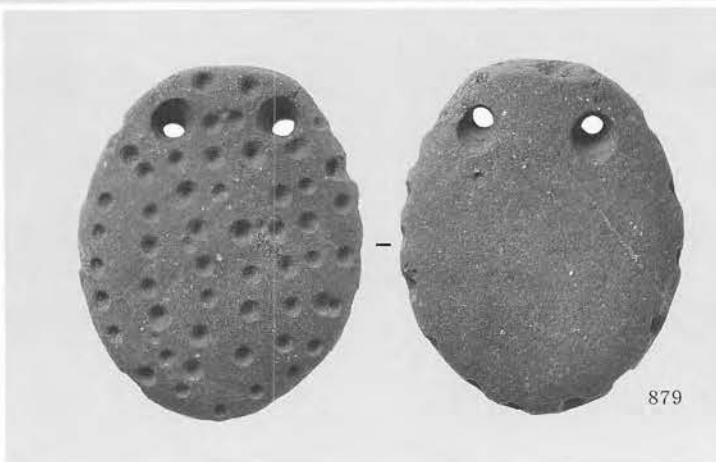
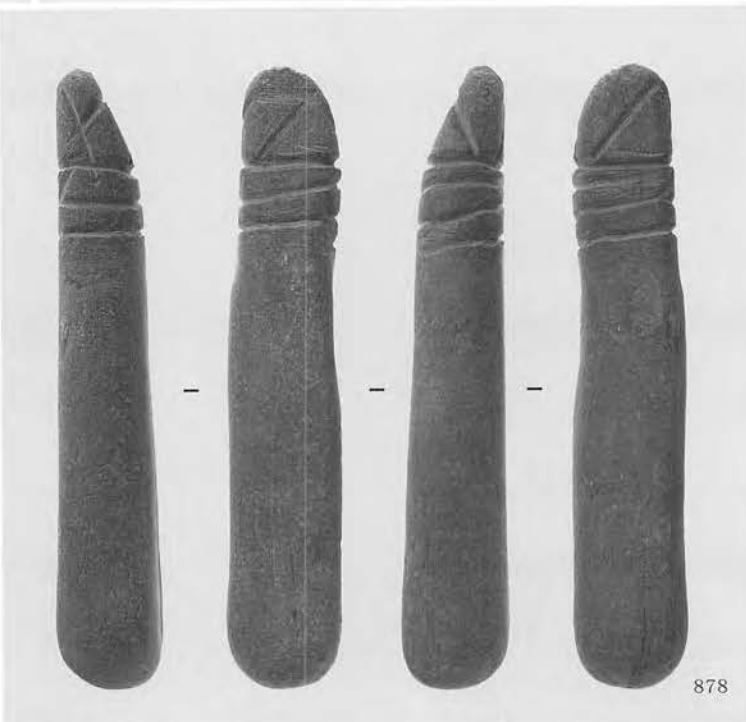
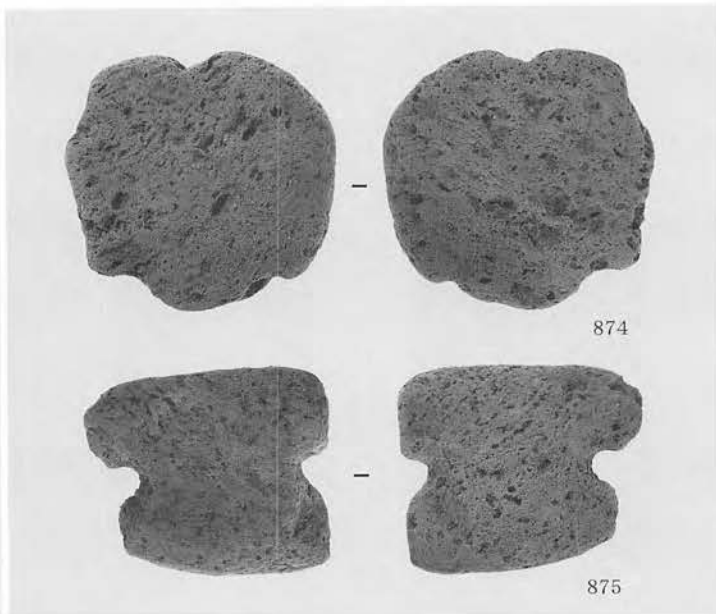
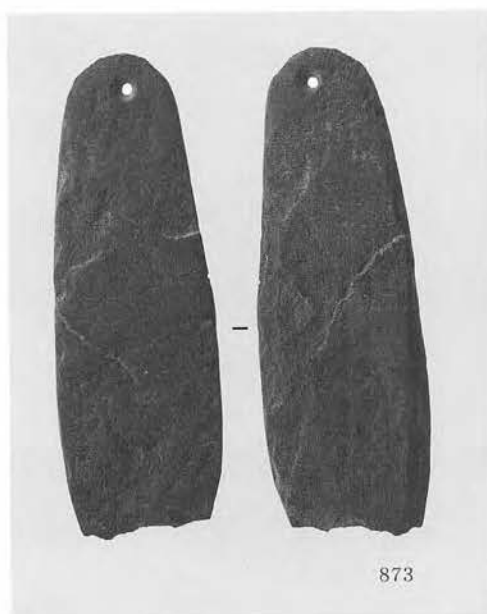
写真図版 101 石器 (852 ~ 861)



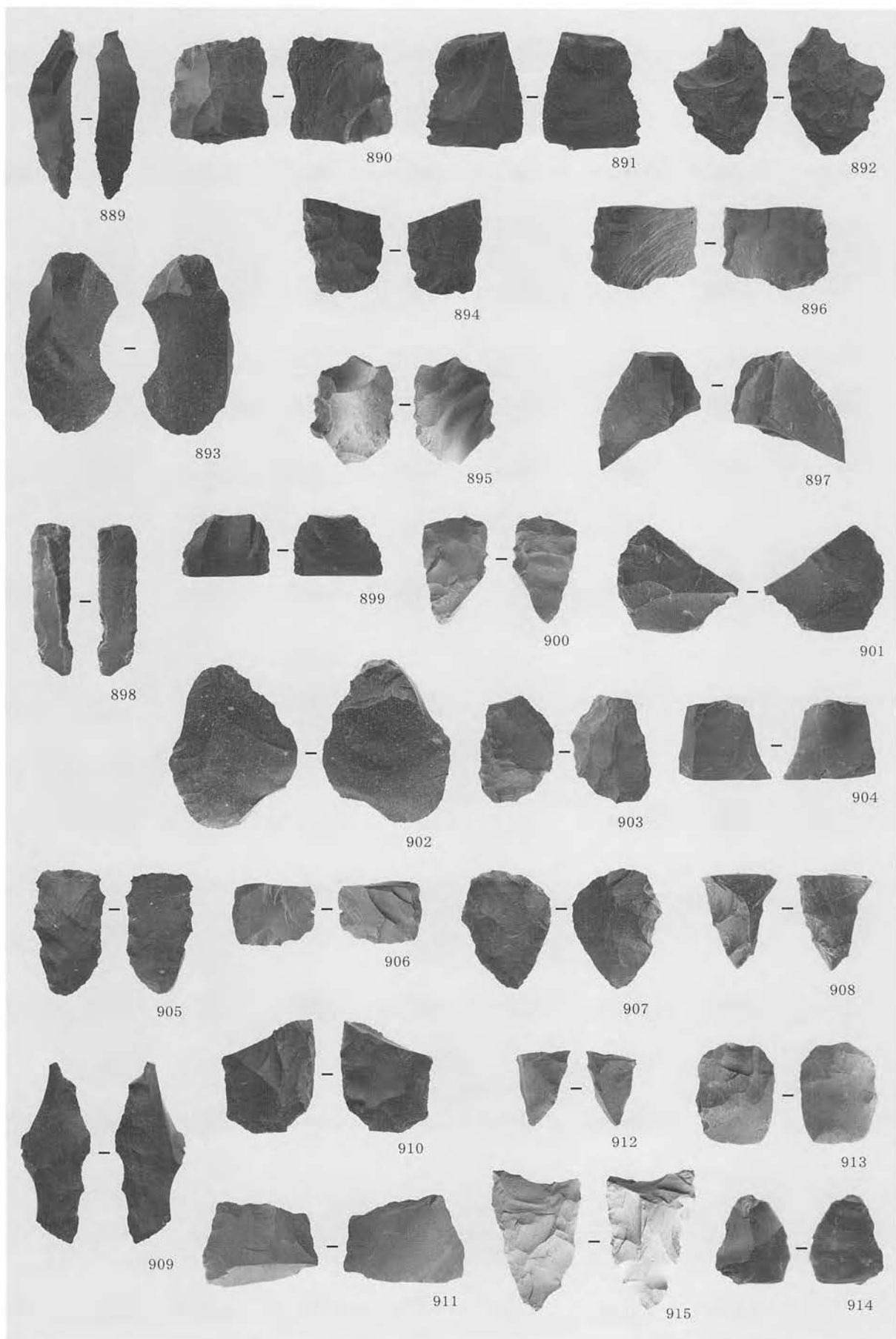
写真図版 102 石器 (862 ~ 868)



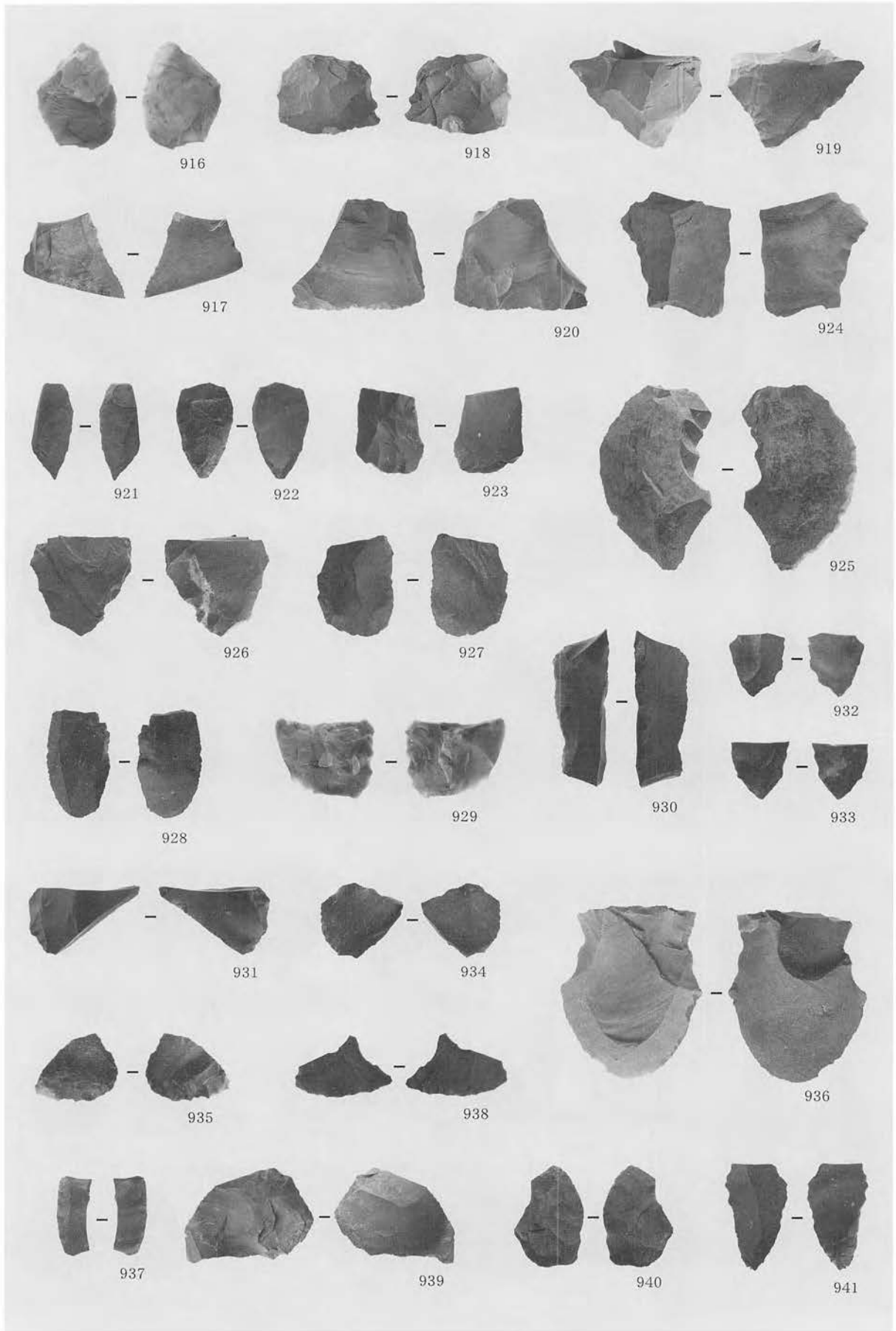
写真図版 103 石器 (869 ~ 872)



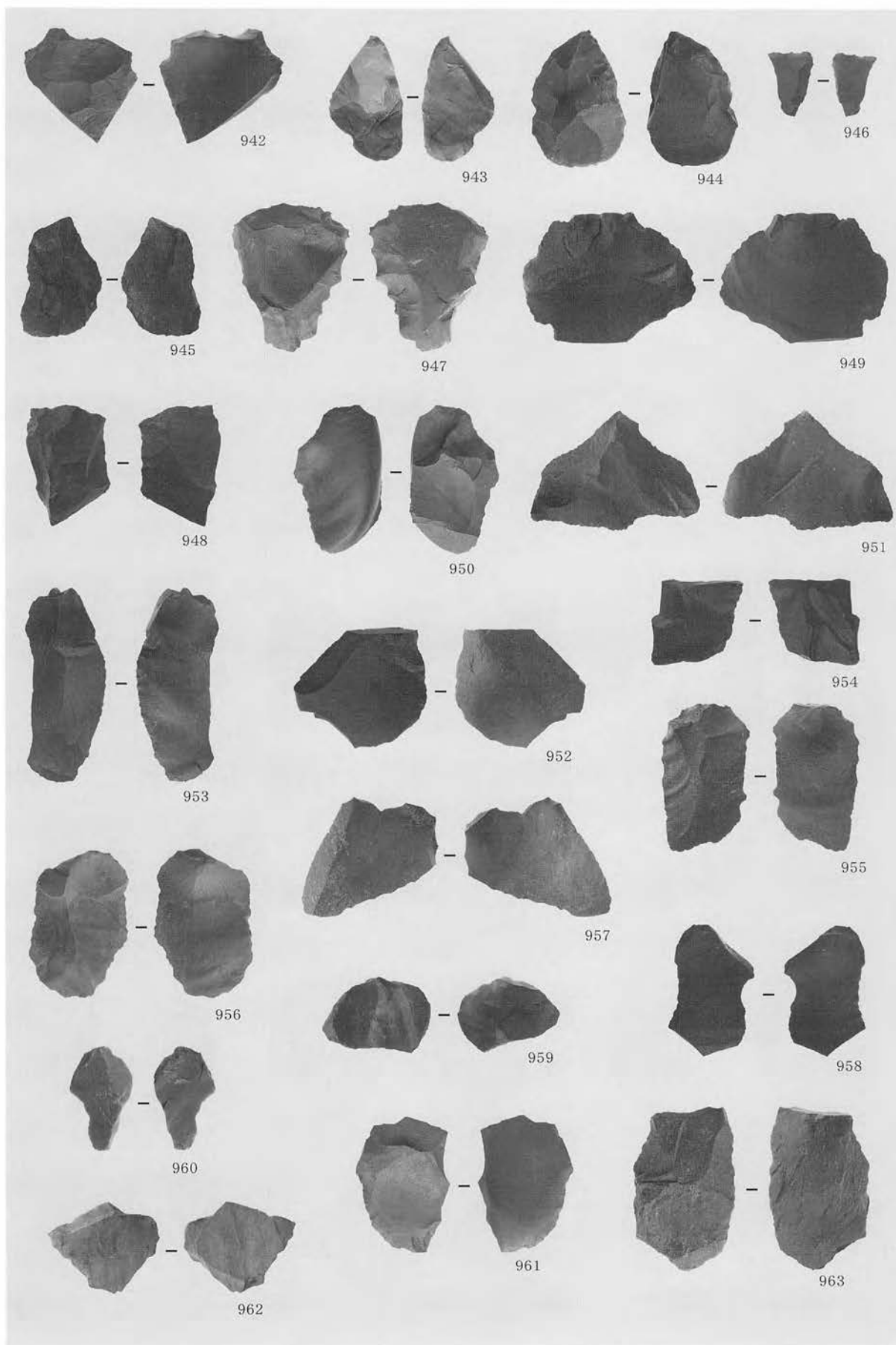
写真図版 104 石器・石製品 (873 ~ 879)



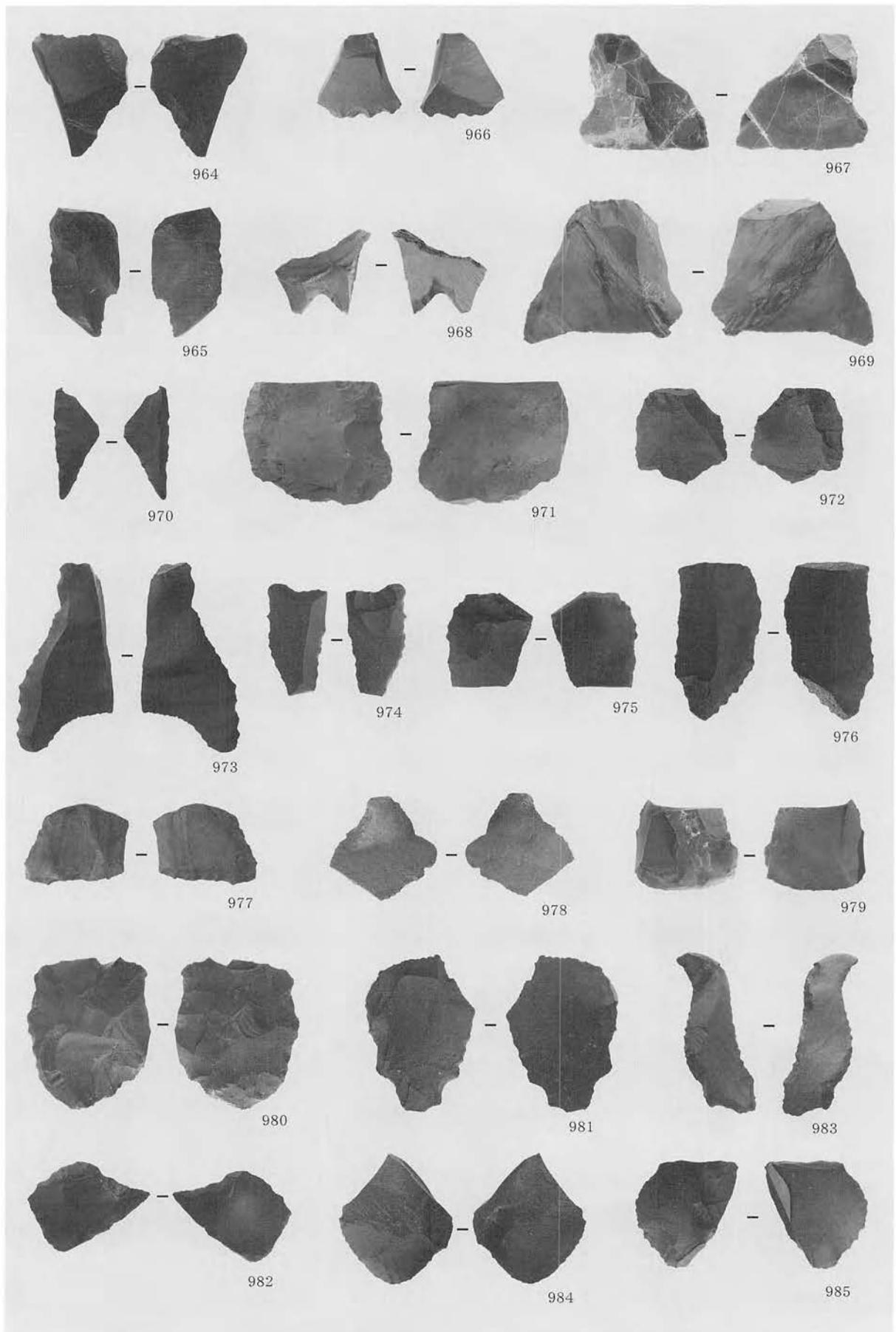
写真図版 105 石器 (889 ~ 915)



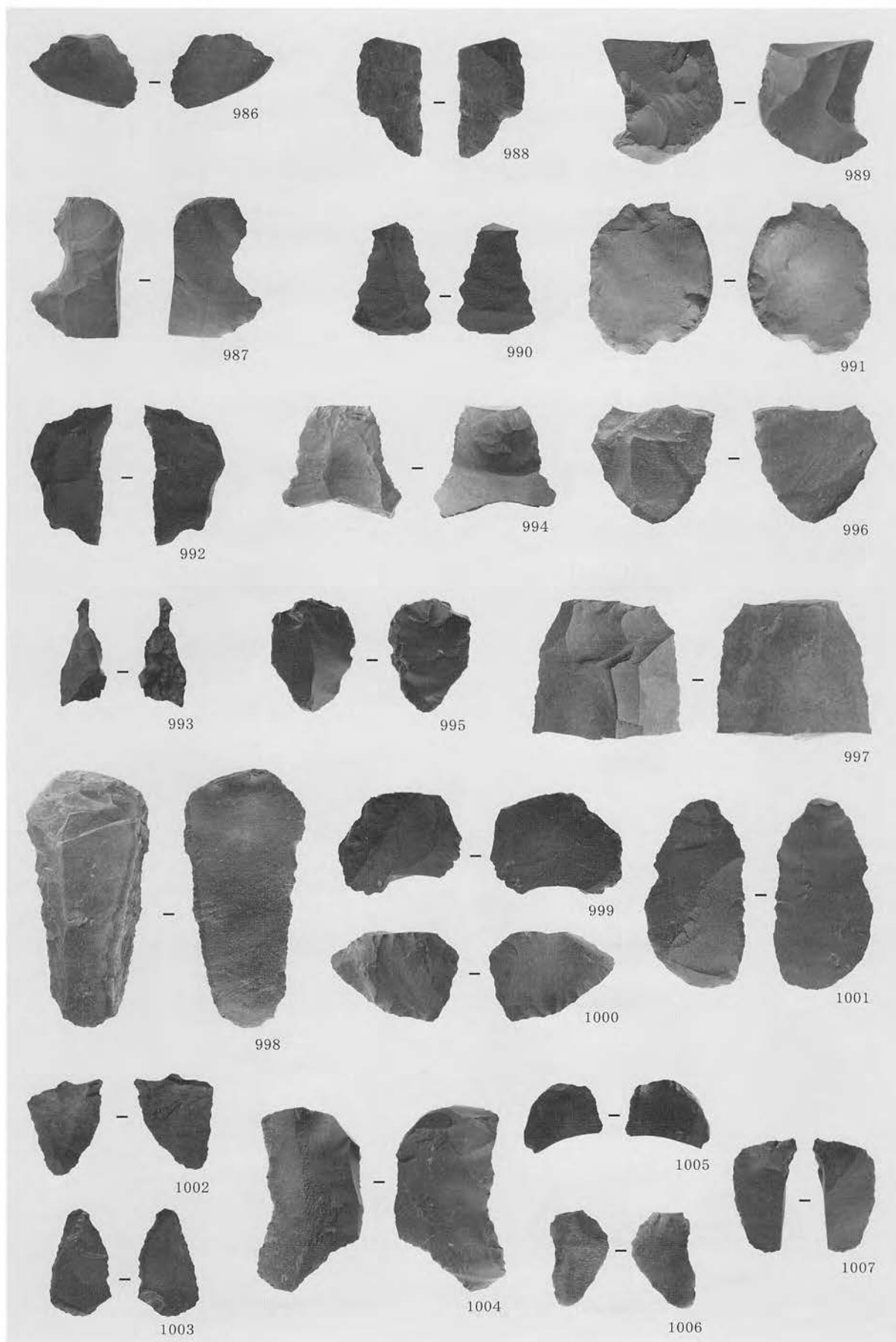
写真図版 106 石器 (916 ~ 941)



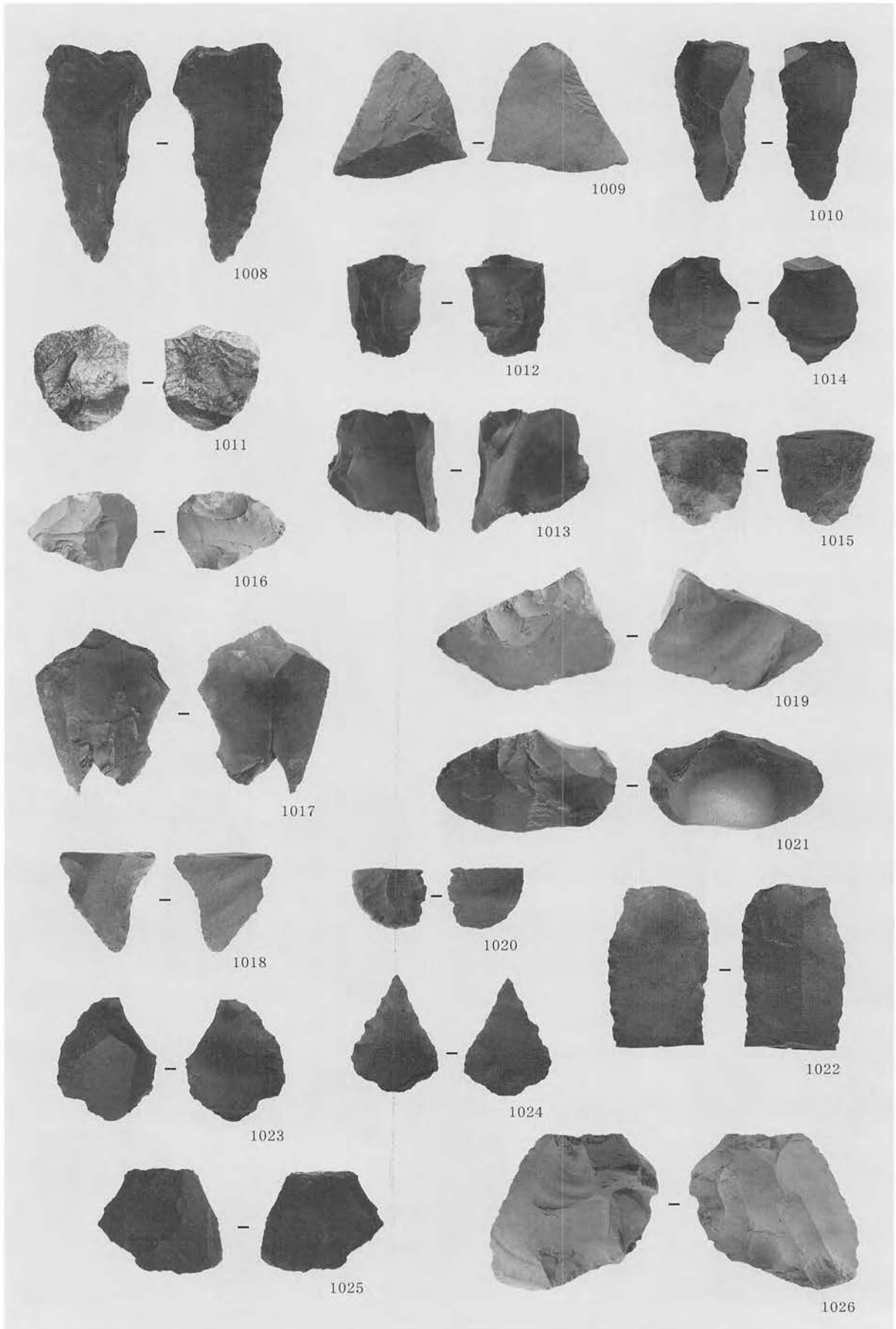
写真図版 107 石器 (942 ~ 963)



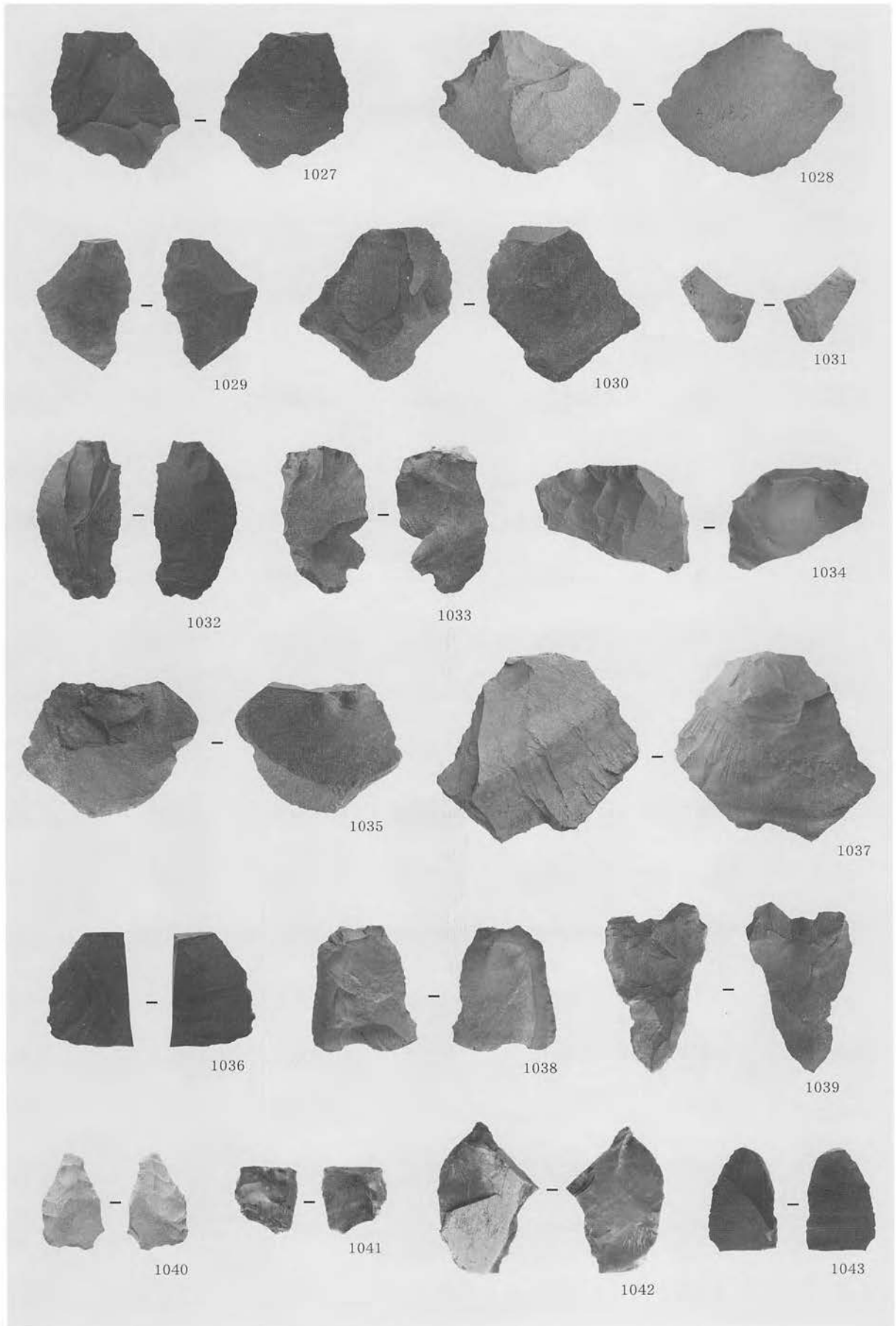
写真図版 108 石器 (964 ~ 985)



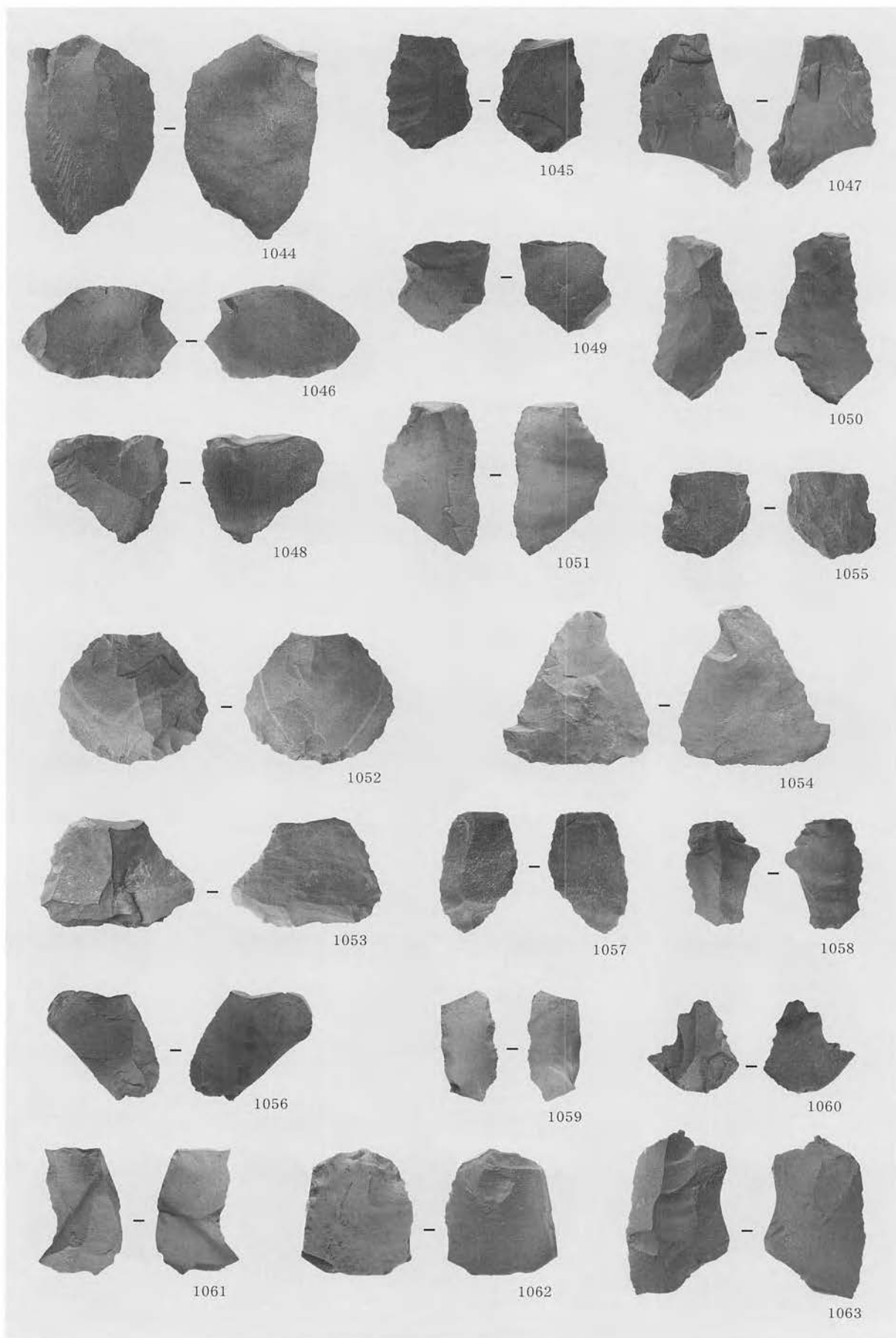
写真図版 109 石器 (986 ~ 1007)



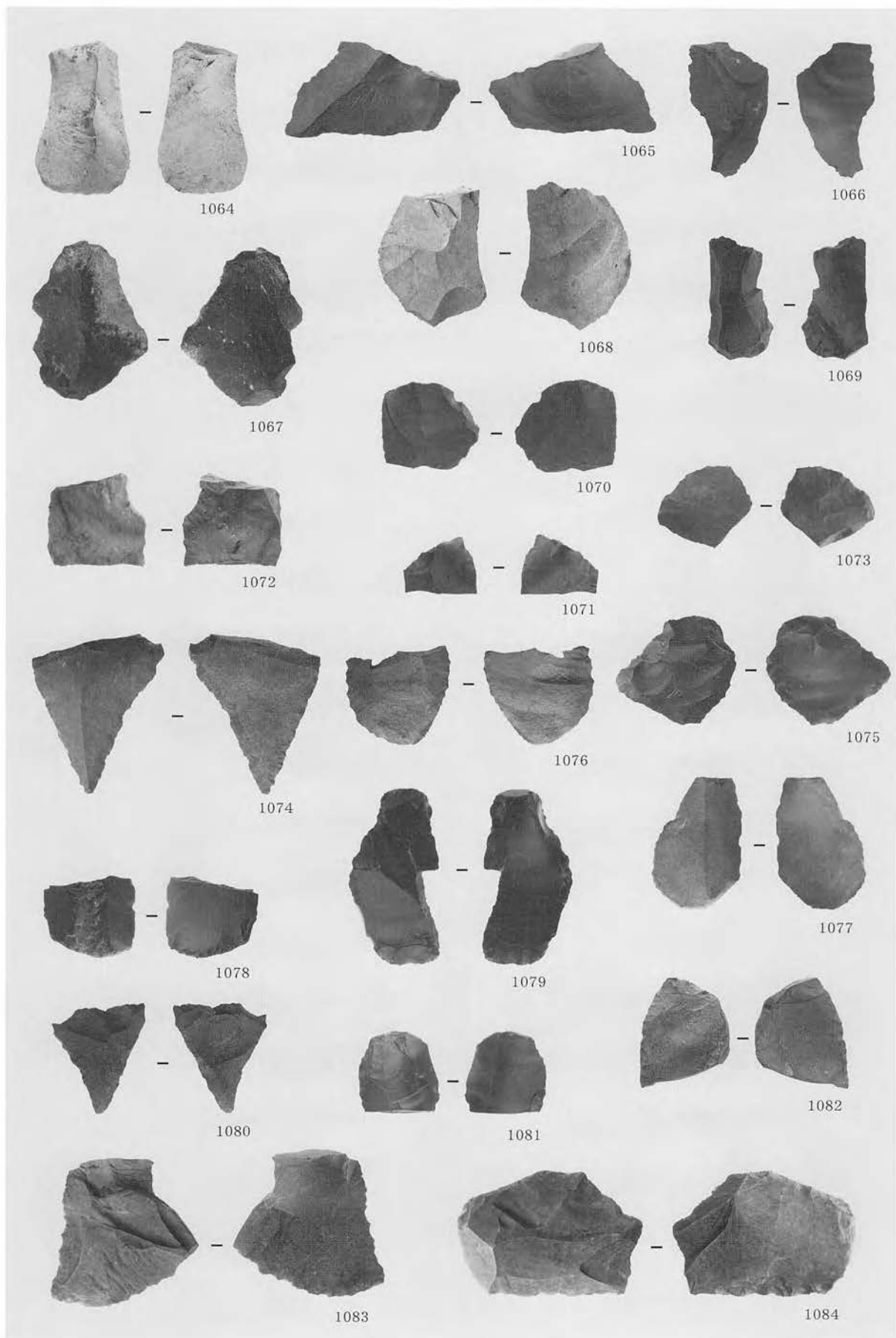
写真図版 110 石器 (1008 ~ 1026)



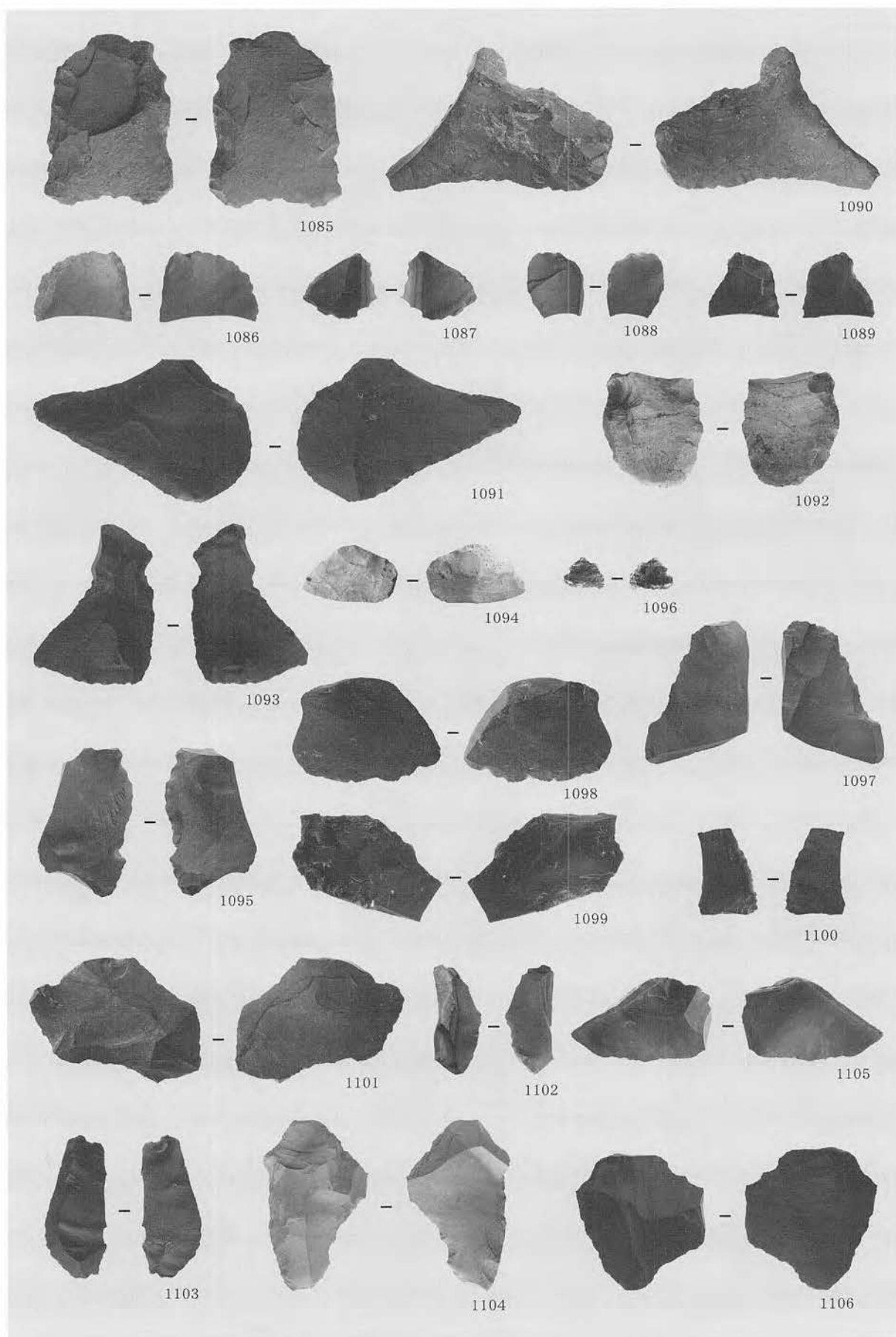
写真図版 111 石器 (1027 ~ 1143)



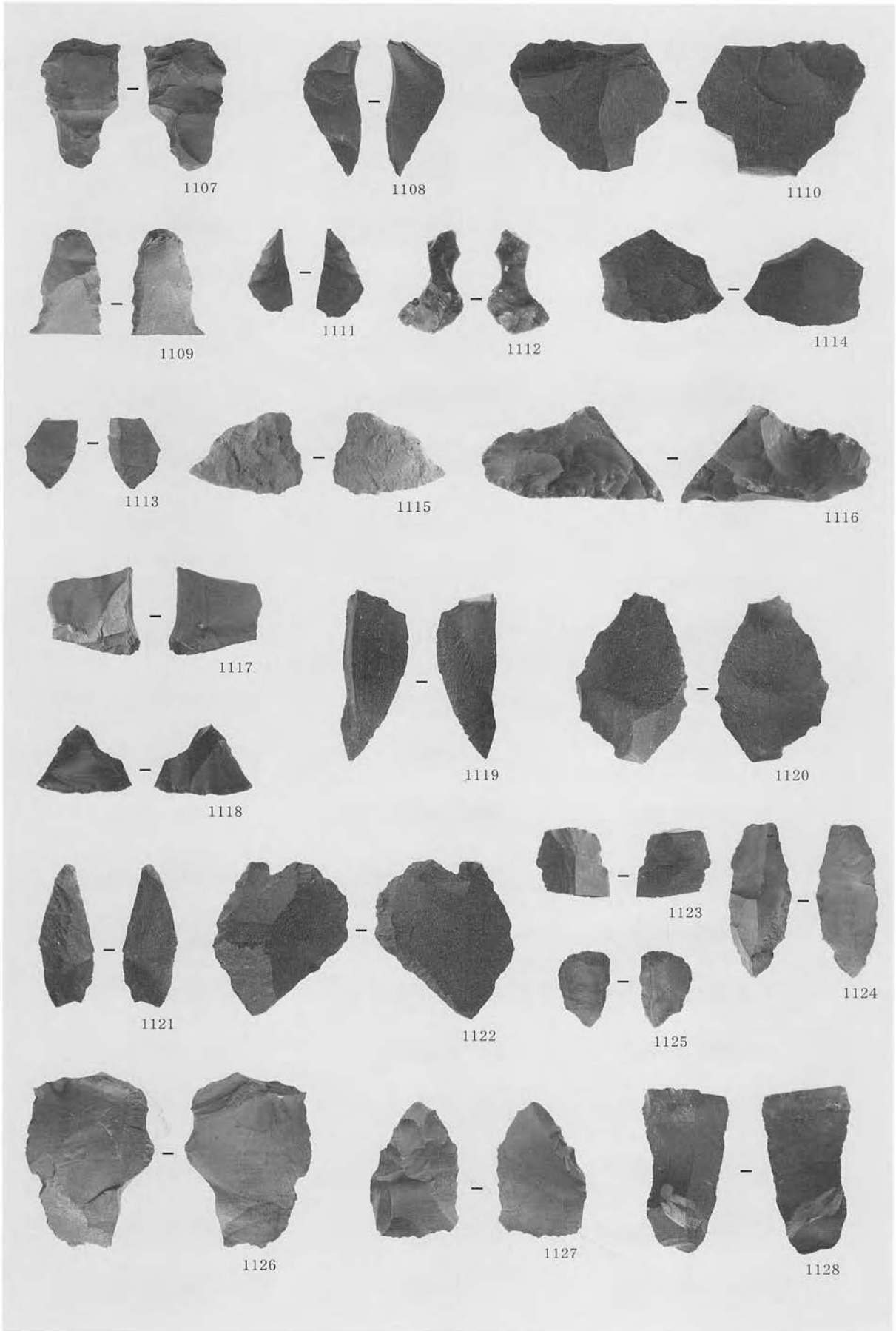
写真図版 112 石器 (1044 ~ 1063)



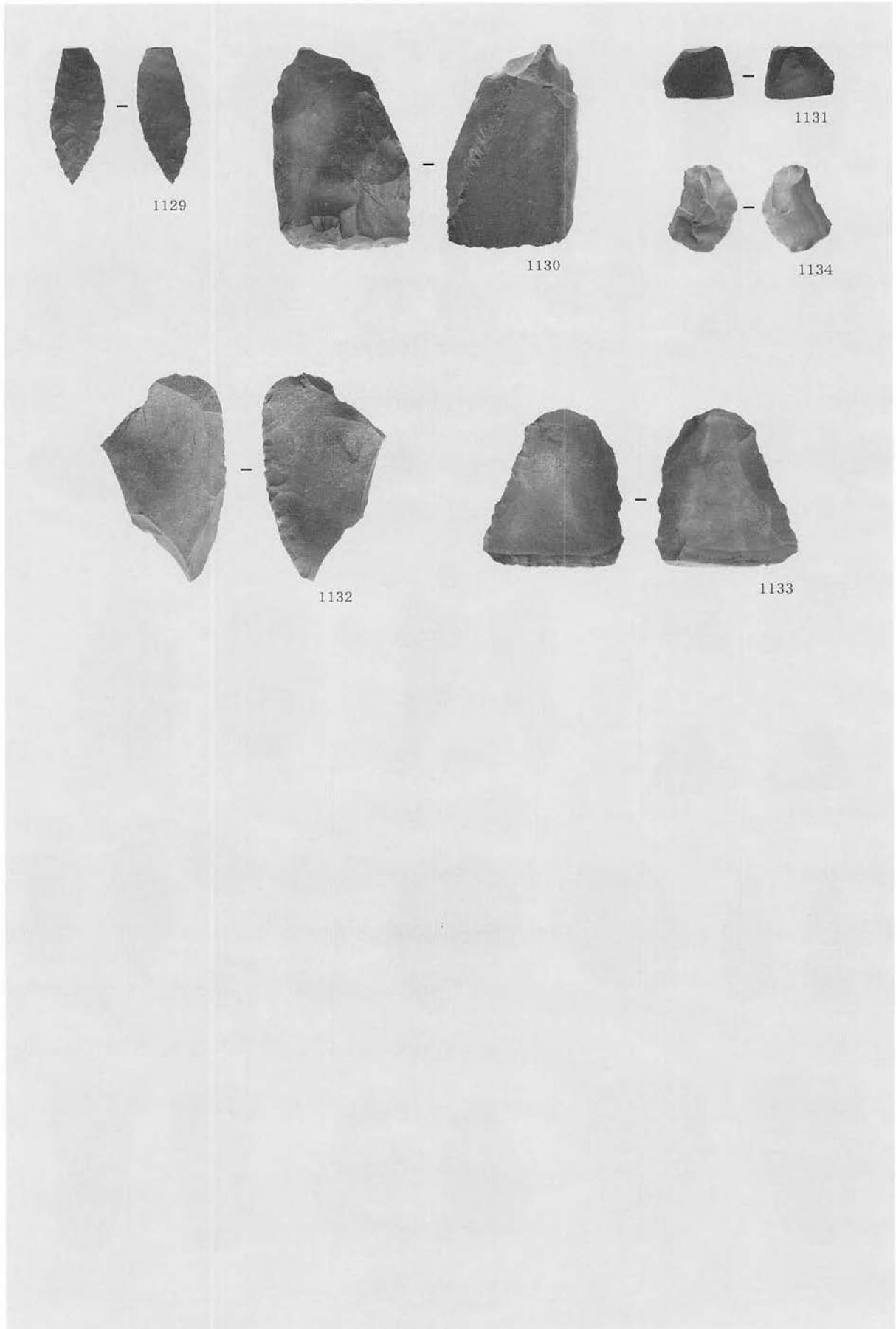
写真图版 113 石器 (1064 ~ 1084)



写真图版 114 石器 (1085 ~ 1106)



写真図版 115 石器 (1107 ~ 1128)



写真図版 116 石器 (1129 ~ 1134)

報告書抄録

| | | | | | | | | |
|--------------------|--|------------|-------------|-------------------|------------------------|---------------------------------------|--------|------------------------------|
| ふりがな | さんみやくちいせきはつくつちようさほうこくしょ | | | | | | | |
| 書名 | 山脈地遺跡発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 副書名 | 一般県道釜石住田線金ノ倉地区道路改良事業関連遺跡発掘調査 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第598集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 福島正和・羽柴直人 | | | | | | | |
| 編集機関 | (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2012年3月23日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 〃〃 | 東経 〃〃 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| さんみやくちいせき 山脈地遺跡 | いわてけんけせんぐん 岩手県気仙郡 すみたちょうかみありす 住田町上有住 あざさんみやくち 字山脈地7- 7ほか | 03441 | MF96-2116 | 39度 11分 50秒 | 141度 35分 25秒 | 2010.07.01 ～ 2010.11.15 | 2,827㎡ | 一般県道釜石住 田線金ノ倉地区 道路改良事業 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 山脈地遺跡 | 集落跡 | 縄文時代 早期 | 自然流路 | 1条 | 土器 石器 土製品 石製品 | 自然流路には縄文時代早期 ～前期初頭の土器、石器が 包含される | | |
| | | 縄文時代 前期 | 竪穴住居跡 土坑 | 3棟 6基 | | 前期住居のうち1棟は長径 14 m以上の大型住居 | | |
| | | 縄文時代 晩期 | 竪穴住居跡 土坑 | 1棟 2基 | | | | |
| 要約 | <p>縄文時代早期中葉の貝殻・沈線文土器が多数出土し、当該地域の早期土器編年の基準資料が得られた。</p> <p>縄文時代前期の資料は大型住居の堆積土に包含される状況で多数の土器が出土し、集落の構造研究と土器編年作成に寄与する点が多い。</p> | | | | | | | |

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 598 集

山脈地遺跡発掘調査報告書

一般県道釜石住田線金ノ倉地区道路改良事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成 24 年 3 月 16 日

発行 平成 24 年 3 月 23 日

編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地
電話 (019) 638-9001

発行 岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター
〒022-8502 岩手県大船渡市猪川町字前田 6 番 1 号
電話 (0192) 27-9919

(公財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号
電話 (019) 654-2235

印刷 永代印刷株式会社
〒020-0811 岩手県盛岡市川目町 23 番 10 号
電話 (019) 623-0111

